工　事　設　計　書　等

工事設計書等のダウンロードにあたって

　知り得た情報は、関東地方整備局以外の者の権利を含む場合があるため、ダウンロードを行った個人又は法人における１次利用に限るものとし、有償無償に関わらず「第三者への提供行為※」を行わないでください。

※「他の第三者への提供行為」・・・PDFデータのまま、あるいは、紙に出力して等の手段に関わらず、ダウンロードを行った個人又は法人以外の他者による２次利用につながる一切の行為を指します。

国土交通省　関東地方整備局
常陸河川国道事務所

鏡

１．工事名

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事
工事地名	茨城県石岡市東田中地先

２．工事内容

１）	発注年月	令和 7年 8月		１２）	設 計 年 月	令和 7年11月
２）	事務所名	常陸河川国道事務所　工務第二課		１３）	機械損料一括補正	0　　労務費一括割増　　0%
３）	工事番号	2025080002		１４）	単価適用年月	2025年11月
４）	契約区分	国債（翌債を含む）の本官		１５）	歩掛適用年月	2025年11月
５）	変更回数	0回		１６）	前請負工事費	0
６）	主 工 種	鋼橋架設工事		１７）	前請負代金額	0
７）	工 事 量			１８）	調 整 区 分	0
８）	工　　期	814日間	自　令和 7年12月18日	１９）	共通仮設費対象額	
		（当初）	至　令和10年 3月10日	２０）	現場管理費対象額	
		（ 0回変更）	至　年 月 日	２１）	一般管理費等対象額	
９）	施 工 県	茨城県		２２）	処 分 費 等	0
１０）	地　　区	土浦地区		２３）	公 告 日	令和 7年 8月22日
１１）	河川・路線	石岡バイパス		２４）	入 札 締 切 日	年 月 日

３．予算科目

1） 予算科目：	2） 目：	3） 目の細分：	4） 事業名：

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
鋼橋上部		式	1		480,520,593			
工場製作工		式	1		480,520,593			
桁製作工		式	1		155,194,984			
製作加工		t	404	384,146	155,194,984			単-1号
桁製作工（指定部分）		式	1		90,861,102			
製作加工		t	218.7	415,460	90,861,102			単-2号
検査路製作工	上部工検査路	式	1		13,700,743			
製作加工		t	31.8	430,841	13,700,743			単-3号
検査路製作工（指定部分）	上部工検査路	式	1		6,220,022			
製作加工		t	14.4	431,946	6,220,022			単-4号
検査路製作工	下部工検査路	式	1		1,892,560			
製作加工		t	3.9	485,272	1,892,560			単-5号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
検査路製作工 (指定部分)	下部工検査路	式	1		2,322,230			
製作加工		t	4.8	483,798	2,322,230			単-6号
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ工		式	1		13,861,239			
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式	1		13,861,239			内-1号
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ工 (指定部分)		式	1		4,620,413			
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式	1		4,620,413			内-2号
鋳造費		式	1		72,887,529			
大型ｺﾞﾑ支承 (1)	橋軸方向：可動 橋軸直角方向：固定 2287KN	個	6	3,260,321	19,561,926			単-7号
大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個	3	17,775,201	53,325,603			単-8号
鋳造費 (指定部分)		式	1		106,651,206			
大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個	6	17,775,201	106,651,206			単-9号
工場塗装工		式	1		8,528,693			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
一般部外面	C-5塗装系	m2	120	8,177	981,240			単-10号
高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	m2	93	4,092	380,556			単-11号
ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2	480	1,086	521,280			単-12号
添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2	630	4,092	2,577,960			単-13号
ﾌﾞﾗｽﾄ		m2	7,140	75.52	539,212			単-14号
無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		m2	95	4,092	388,740			単-15号
ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	t	23.1	84,731	1,957,286			単-16号
ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	t	1.3	89,336	116,136			単-17号
ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	t	7.3	88,415	645,429			単-18号
ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t	4.8	87,678	420,854			単-19号
工場塗装工 (指定部分)		式	1		3,779,872			
高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	m2	37	4,092	151,404			単-20号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2	270	1,086	293,220			単-21号
添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2	270	4,092	1,104,840			単-22号
ﾌﾞﾗｽﾄ		m2	3,550	75.52	268,096			単-23号
無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		m2	72	4,092	294,624			単-24号
ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	t	12.6	84,731	1,067,610			単-25号
ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	t	0.6	89,336	53,601			単-26号
ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	t	3.9	88,415	344,818			単-27号
ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t	2.3	87,678	201,659			単-28号
間接労務費		式	1		42,661,352			
工場純工事費		式	1		523,181,945			
工場管理費		式	1		53,028,975			
（工場製作原価）		式	1		576,210,920			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
鋼橋上部		式	1		417,817,835			
工場製品輸送工		式	1		6,639,173			
輸送工		式	1		6,639,173			
輸送		t	487.1	13,630	6,639,173			単-29号
工場製品輸送工（指定部分）		式	1		3,949,974			
輸送工		式	1		3,949,974			
輸送		t	289.8	13,630	3,949,974			単-30号
鋼橋架設工		式	1		43,939,406			
地組工		式	1		15,871,577			
地組		t	354.3	44,797	15,871,577			単-31号
架設工(ｸﾚｰﾝ架設)		式	1		22,420,965			
ﾍﾞﾝﾄ設備		式	1		6,187,510			内-3号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ﾍﾞﾝﾄ基礎		式	1		341,659			内-4号
桁架設 (1)	連続合成少数鈑桁	t	359.4	35,356	12,706,946			単-32号
桁架設 (2)【夜間】	連続合成少数鈑桁	t	80.3	36,259	2,911,597			単-33号
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ設置		本	326	838.2	273,253			単-34号
支承工		式	1		2,457,666			
大型ｺﾞﾑ支承設置	高面圧ｺﾞﾑ支承	個	9	273,074	2,457,666			単-35号
現場継手工		式	1		3,189,198			
本締めﾎﾞﾙﾄ		本	23,060	138.3	3,189,198			単-36号
床版工		式	1		182,648,501			
合成床版工		式	1		182,648,501			
床版架設 (1)		m2	1,651	75,420	124,518,420			単-37号
床版架設 (2)【夜間】		m2	374	77,851	29,116,274			単-38号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
鉄筋	SD345 D16～25	t	91.16	154,358	14,071,275			単-39号
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3	502	29,766	14,942,532			単-40号
床版工 (指定部分)		式	1		58,385,371			
合成床版工		式	1		58,385,371			
合成床版材料費 【JR工事支給】		m2	859	67,969	58,385,371			単-41号
橋梁付属物工		式	1		48,123,680			
伸縮装置工		式	1		19,364,195			
鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (1)	二重止水装置付き伸縮装置	m	16.6	906,811	15,053,062			単-42号
鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (2)	歩道用伸縮装置	m	6.9	624,802	4,311,133			単-43号
排水装置工		式	1		9,610,459			
排水設備 (1)		式	1		9,610,459			内-5号
壁高欄ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式	1		15,156,619			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3	123	26,239	3,227,397			単-44号
型枠		m2	790	9,384	7,413,360			単-45号
鉄筋 (1)	SD345 D13	t	26.18	165,410	4,330,433			単-46号
鉄筋 (2)	SD345 D13 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗装	t	0.37	247,010	91,393			単-47号
目地板	樹脂発泡体(30倍発泡) t=10	m2	0.3	3,483	1,044			単-48号
目地	Vｶｯﾄ	m	32	2,906	92,992			単-49号
巻立てｺﾝｸﾘｰﾄ工		式	1		2,518,786			
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3	44	26,239	1,154,516			単-50号
型枠		m2	120	9,384	1,126,080			単-51号
鉄筋	SD345 D13	t	1.44	165,410	238,190			単-52号
歩車道境界ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式	1		31,866			
歩車道境界ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=24N/mm2	m3	0.2	159,332	31,866			単-53号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
照明柱受台ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式	1		167,248			
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3	2	26,239	52,478			単-54号
型枠		m2	8	9,384	75,072			単-55号
鉄筋	SD345 D13	t	0.24	165,410	39,698			単-56号
検査路工		式	1		608,592			
検査路階段 (1)		箇所	1	331,926	331,926			単-57号
検査路階段 (2)		箇所	1	276,666	276,666			単-58号
剥落防止工		式	1		458,535			
剥落防止	ｱﾗﾐﾄﾞﾒｯｼｭｼｰﾄ	m2	55	8,337	458,535			単-59号
銘板工		式	1		207,380			
橋名板	600×400×13	枚	1	161,174	161,174			単-60号
橋歴板	300×200×13	枚	1	46,206	46,206			単-61号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
橋梁付属物工 (指定部分)		式	1		21,128,833			
排水装置工		式	1		4,805,229			
排水設備 (2)【JR工事支給】		式	1		4,805,229			内-6号
落下防止工		式	1		16,323,604			
落下防止柵材料費 【JR工事支給】	H=1.890m	m	43	294,718	12,672,874			単-62号
落下防止網材料費 【JR工事支給】	φ3.2×56	m	219	16,670	3,650,730			単-63号
道路照明設備工		式	1		1,916,443			
道路照明設備設置工		式	1		1,172,334			
道路照明灯設置	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	基	3	390,778	1,172,334			単-64号
配管･配線工		式	1		682,387			
地中配管	FEP管 径 30ｍｍ	m	6	367.7	2,206			単-65号
屋内配管	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	m	167	1,522	254,174			単-66号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
屋外配管	金属製可とう電線管 径 30ｍｍ	m	1	2,749	2,749			単-67号
屋外配線	EM-CE3.5sq-3c	m	242	1,749	423,258			単-68号
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置工		式	1		61,722			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	個	6	10,287	61,722			単-69号
道路照明設備工 (指定部分)		式	1		738,353			
道路照明設備設置工		式	1		724,454			
道路照明灯材料費 【JR工事支給】	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	基	2	362,227	724,454			単-70号
配管･配線工		式	1		4,967			
屋内配管材料費 【JR工事支給】	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	m	62	80.12	4,967			単-71号
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置工		式	1		8,932			
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ材料費 【JR工事支給】	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	個	2	4,466	8,932			単-72号
鋼橋足場等設置工		式	1		14,249,325			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
橋梁足場工		式	1		12,544,380			
架設足場 (1)	少数Ｉ桁	m2	1,620	6,015	9,744,300			単-73号
架設足場 (2)【夜間】	少数Ｉ桁	m2	360	7,778	2,800,080			単-74号
橋梁防護工		式	1		700,050			
板張防護		m2	390	1,795	700,050			単-75号
昇降用設備工		式	1		1,004,895			
登り桟橋		箇所	3	334,965	1,004,895			単-76号
仮設工		式	1		36,098,776			
作業ﾔｰﾄﾞ整備工 (1)		式	1		14,159,302			
H鋼杭 (1)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本	32	108,216	3,462,912			単-77号
H鋼杭 (2)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本	16	106,098	1,697,568			単-78号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
H鋼杭 (3)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本	32	165,502	5,296,064			単-79号
H鋼杭 (4)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本	16	161,082	2,577,312			単-80号
覆工板･覆工板受桁 (1)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	16	22,463	359,408			単-81号
覆工板･覆工板受桁 (2)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	8	21,974	175,792			単-82号
覆工板･覆工板受桁 (3)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	16	22,849	365,584			単-83号
覆工板･覆工板受桁 (4)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	8	21,974	175,792			単-84号
現場発生品運搬 (1)	溝形鋼	t	3.96	12,341	48,870			単-85号
作業ﾔｰﾄﾞ整備工 (2)		式	1		20,598,071			
H鋼杭 (5)	H300 H鋼長さ(杭長) 17.5m H鋼平均打込長 0m H型鋼平均引抜長 17.2m	本	16	45,101	721,616			単-86号
H鋼杭 (6)	H400 H鋼長さ(杭長) 11m H鋼平均打込長 0m H型鋼平均引抜長 10.7m	本	445	34,482	15,344,490			単-87号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
覆工板･覆工板受桁 (5)	1000×208×2000 撤去	m2	8	8,712	69,696			単-88号
覆工板･覆工板受桁 (6)	1000×208×2000 撤去	m2	532	7,374	3,922,968			単-89号
現場発生品運搬 (2)	溝形鋼	t	43.7	12,341	539,301			単-90号
交通管理工		式	1		1,341,403			
交通誘導警備員 (1)	誘導員B	人日	41	16,163	662,683			単-91号
交通誘導警備員 (2)【夜間】	誘導員B	人日	28	24,240	678,720			単-92号
直接工事費		式	1		417,817,835			
共通仮設費		式	1		61,318,839			
共通仮設費		式	1		33,499,268			
運搬費		式	1		31,589,886			
重建設機械分解組立費		式	1		5,774,269			内-7号
重建設機械分解組立輸送費		式	1		17,158,134			内-8号

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
仮設材運搬費		式	1		8,657,483			内-9号
技術管理費		式	1		58,183			
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ入力費		式	1		58,183			内-10号
現場環境改善費（率計上）		式	1		1,851,199			
共通仮設費（率計上）		式	1		27,819,571			
純工事費		式	1		479,136,674			
現場管理費		式	1		167,076,759			
（現場原価）		式	1		646,213,433			
工事原価		式	1		1,222,424,353			
一般管理費等		式	1		141,375,647			
工事価格		式	1		1,363,800,000			
消費税相当額		式	1		136,380,000			

設計内訳書

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　（当初合意）　（個別合意）	事業区分	道路新設･改築
		工事区分	鋼橋上部

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
工事費計		式	1		1,500,180,000			

一式当たり内訳書

ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ

第　1号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式	1		15,050,289			WYB00023
合　計					15,050,289			

一式当たり内訳書

ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ

第　2号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式	1		5,016,763			WYB00024
合　計					5,016,763			

一式当たり内訳書

ﾍﾞﾝﾄ設備

第　3号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
移動式クレーン運転費（賃料）	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 25t吊 標準(1.0)	日	11	53,200	585,200			WB470480 単－ 178号
ベント設備　設置・撤去	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ 68.2t 発動発電機	t	68.2	35,300	2,407,460			WB470550 単－ 179号
架設工具損料		供用日	19	10,300	195,700			WB470490 単－ 175号
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	19	1,490	28,310			WB470500 単－ 177号
ベント設備損料	68日 2m以上30m以下(足場有)	t	35.1	59,400	2,084,940			WB470570 単－ 180号
ベント設備損料	49日 2m以上30m以下(足場有)	t	33.1	42,800	1,416,680			WB470570 単－ 181号
合　計					6,718,290			

一式当たり内訳書

ﾍﾞﾝﾄ基礎

第　4号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
移動式クレーン運転費（賃料）	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 25t吊 標準(1.0)	日	1	53,200	53,200			WB470480 単－ 178号
ベント基礎　設置・撤去	67.2m2	ｍ２	67.2	3,713	249,513			WB470560 単－ 182号
ベント基礎損料	35.1t	供用日	70	578	40,460			WB470580 単－ 183号
ベント基礎損料	33.1t	供用日	51	545	27,795			WB470580 単－ 184号
合　計					370,968			

一式当たり内訳書

排水設備

第　5号内訳書　　(1)

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
排水装置		式	1		10,434,867			WYB00022
合　計					10,434,867			

一式当たり内訳書

排水設備

第　6号内訳書　　(2)【JR工事支給】

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【材料】								
排水装置		式	1		5,217,433			WYB00021
合　計					5,217,433			

一式当たり内訳書

重建設機械分解組立費

第　7号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
重建設機械分解組立	分解組立 ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系 35t吊超80t吊以下(ｸﾗﾑ平積0.6m3超2m3下) 標準(1.0)	回	6	274,400	1,646,400			WB010360 単－ 262号
重建設機械分解組立	分解組立 ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系 100t吊以上120t吊以下 標準(1.0)	回	3	555,400	1,666,200			WB010360 単－ 263号
重建設機械分解組立	分解組立 ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系 550t吊以下(ﾘﾌﾀｰ使用) 標準(1.0)	回	1	2,957,000	2,957,000			WB010360 単－ 264号
合　計					6,269,600			

一式当たり内訳書

重建設機械分解組立輸送費

第　8号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
重建設機械分解組立輸送	分解組立+輸送(往復) ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系 35t吊超80t吊以下(ｸﾗﾑ平積0.6m3超2m3下) 標準(1.0)	回	3	1,212,000	3,636,000			WB010350 単－ 265号
重建設機械分解組立輸送	分解組立+輸送(往復) ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系 160t吊超え360t吊以下 標準(1.0)	回	1	4,255,000	4,255,000			WB010350 単－ 266号
重建設機械分解組立輸送	分解組立+輸送(往復) ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系 360t吊を超え550t吊以下 標準(1.0)	回	1	7,601,000	7,601,000			WB010350 単－ 267号
重建設機械分解組立輸送	分解組立+輸送(往復) ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系 100t吊以上120t吊以下 標準(1.0)	回	2	1,569,000	3,138,000			WB010350 単－ 268号
合　計					18,630,000			

一式当たり内訳書

仮設材運搬費

第　9号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
【往路】								
仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運	関東･中部･近畿 33.3km 12m以内 各種(実数入力) 0無 無	t	191.92	5,380	1,032,529			WB010020 単－ 269号
仮設材等の積込み，取卸し費	積込み,取卸し(片道分)	t	191.92	1,500	287,880			WB010030 単－ 270号
【復路】								
仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運	関東･中部･近畿 33.3km 12m以内 各種(実数入力) 0無 無	t	1,174.38	5,380	6,318,164			WB010020 単－ 269号
仮設材等の積込み，取卸し費	積込み,取卸し(片道分)	t	1,174.38	1,500	1,761,570			WB010030 単－ 270号
合　計					9,400,143			

一式当たり内訳書

道路施設基本ﾃﾞｰﾀ入力費

第　10号内訳書

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

名称	規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ入力費		式	1		63,175			WYB00013 単ー 271号
合　計					63,175			

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SMA570W-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 50＜t≦60		t	8.157	309,500	2,524,591.5	
鋼材費（鋼板１　各種） 45＜t≦50		t	6.726	297,800	2,003,002.8	
鋼材費（鋼板１　各種） 40＜t≦45		t	9.952	296,600	2,951,763.2	
【SMA570W】						
鋼材費（鋼板１　各種） 20＜t≦38		t	1.495	284,900	425,925.5	
鋼材費（鋼板１　各種） 6≦t≦20		t	10.489	282,600	2,964,191.4	
【SM570】						
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 20＜t≦38 35＜t≦40	t	3.36	262,700	882,672	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 20＜t≦38 無し	t	3.018	259,200	782,265.6	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 6＜t≦20	t	1.248	256,800	320,486.4	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SMA490CW-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 45＜t≦50		t	3.315	265,600	880,464	
鋼材費（鋼板１　各種） 40＜t≦45		t	10.299	264,400	2,723,055.6	
【SMA490BW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 35＜t≦40		t	10.013	257,400	2,577,346.2	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 35＜t≦40	t	8.171	253,900	2,074,616.9	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 30＜t≦35	t	41.381	252,700	10,456,978.7	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 25＜t≦30	t	57.462	251,500	14,451,693	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 6＜t≦25	t	36.204	246,900	8,938,767.6	
【SMA490AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	116.67	243,400	28,397,478	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	9.978	243,400	2,428,645.2	
【SM490YB】						
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM490YB 6＜t≦25	t	1.856	220,500	409,248	
【SM490YA】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	2.6	217,000	564,200	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.728	217,000	157,976	
【SMA400CW-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 60＜t≦70		t	1.098	268,500	294,813	
鋼材費（鋼板１　各種） 45＜t≦50		t	0.792	262,700	208,058.4	
【SMA400AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	26.75	238,100	6,369,175	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	2.367	238,100	563,582.7	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm W＜100		t	0.026	244,300	6,351.8	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.182	243,100	44,244.2	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 400≦W＜700		t	0.078	242,000	18,876	
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.128	205,900	26,355.2	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm W＜100		t	0.01	212,100	2,121	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.172	211,000	36,292	
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.724	203,300	147,189.2	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm W＜100		t	0.016	209,500	3,352	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	1.125	208,400	234,450	
【SPA-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=4.5mm 100≦W＜400		t	0.072	252,700	18,194.4	
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.018	296,400	5,335.2	
【SS400】						
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×50～75	t	0.009	157,100	1,413.9	
【SMA400AW】						
鋼材費（形鋼１　各種） t≦38		t	27.398	246,700	6,759,086.6	
製作直接労務費（橋桁）	標準 1585.92無 72.45無 143.73無 0無 1.03無 0t 0t 0t 0t 0人/t 0人/t 0人/t 0人/t 0無	式	1		59,520,000	
副資材費（ｔ）		t	404.087	18,200	7,354,383.4	
計					168,528,641.6	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－1号	製作加工		単位	t	数量	404.087	単価	384,146

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
単価					384,146	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	製作加工		単位	t	数量	218.795	単価	415,460

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SMA570W-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 60＜t≦70		t	4.352	310,600	1,351,731.2	
鋼材費（鋼板１　各種） 50＜t≦60		t	11.706	309,500	3,623,007	
鋼材費（鋼板１　各種） 40＜t≦45		t	26.242	296,600	7,783,377.2	
【SMA570W】						
鋼材費（鋼板１　各種） 35＜t≦40		t	2.984	288,400	860,585.6	
鋼材費（鋼板１　各種） 30＜t≦35		t	1.937	287,200	556,306.4	
鋼材費（鋼板１　各種） 25＜t≦30		t	1.622	286,100	464,054.2	
鋼材費（鋼板１　各種） 6≦t≦20		t	21.785	282,600	6,156,441	
【SM570】						
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 20＜t≦38 35＜t≦40	t	6.72	262,700	1,765,344	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	製作加工		単位	t	数量	218.795	単価	415,460

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 20＜t≦38 無し	t	6.036	259,200	1,564,531.2	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SM570(Q) 6＜t≦20	t	2.496	256,800	640,972.8	
【SMA490CW-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 45＜t≦50		t	5.605	265,600	1,488,688	
【SMA490BW】						
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 35＜t≦40	t	3.731	253,900	947,300.9	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 30＜t≦35	t	15.134	252,700	3,824,361.8	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 25＜t≦38 25＜t≦30	t	16.293	251,500	4,097,689.5	
鋼材費（鋼板２　ガーダー形式）	SMA490BW 6＜t≦25	t	15.682	246,900	3,871,885.8	
【SMA490AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	40.591	243,400	9,879,849.4	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	製作加工		単位	t	数量	218.795	単価	415,460

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	3.691	243,400	898,389.4	
【SMA400CW-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） 60＜t≦70		t	2.148	268,500	576,738	
【SMA400AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	13.101	238,100	3,119,348.1	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	1.1	238,100	261,910	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm W＜100		t	0.006	244,300	1,465.8	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.085	243,100	20,663.5	
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm W＜100		t	0.006	212,100	1,272.6	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.069	211,000	14,559	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	製作加工		単位	t	数量	218.795	単価	415,460

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.648	203,300	131,738.4	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.571	208,400	118,996.4	
【SPA-H】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm 100≦W＜400		t	0.017	246,100	4,183.7	
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.008	296,400	2,371.2	
【SS400】						
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×50～75	t	0.009	157,100	1,413.9	
【SMA400AW】						
鋼材費（形鋼１　各種） t≦38		t	14.42	246,700	3,557,414	
製作直接労務費（橋桁）	標準 936.77無 33.63無 77.46無 0無 1.11無 0t 0t 0t 0t 0人/t 0人/t 0人/t 0人/t 0無 斜橋	式	1		37,110,000	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－2号	製作加工		単位	t	数量	218.795	単価	415,460

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
副資材費（ｔ）		t	218.795	18,200	3,982,069	
計					98,678,659	
単価					415,460	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－3号	製作加工		単位	t	数量	31.842	単価	430,841

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SMA400AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	1.786	236,700	422,746.2	
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	2.016	204,500	412,272	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.48	204,500	98,160	
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	1.306	211,300	275,957.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　9×90～100	t	1.106	157,100	173,752.6	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×90～100	t	0.048	157,100	7,540.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×75×75	t	0.396	112,300	44,470.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×65×65	t	3.984	112,300	447,403.2	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－3号	製作加工		単位	t	数量	31.842	単価	430,841

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×50×50	t	0.932	112,300	104,663.6	
鋼材費（形鋼２　規格品）	溝形鋼(SS400) 6.5×150×75	t	11.218	112,300	1,259,781.4	
【STK400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 径42.7×2.3		t	2.15	217,600	467,840	
鋼材費（形鋼１　各種） 径21.7×1.9		t	1.084	223,200	241,948.8	
【SMA400AW】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ16		t	0.076	254,600	19,349.6	
【SS400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ22		t	0.112	165,000	18,480	
鋼材費（形鋼１　各種） 縞鋼板t=3.2		t	5.148	151,500	779,922	
製作直接労務費（検査路）	0無 桁付検査路	t	31.842	299,600	9,539,863.2	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－3号	製作加工		単位	t	数量	31.842	単価	430,841

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
副資材費（ｔ）		t	31.842	18,200	579,524.4	
計					14,893,676.4	
単価					430,841	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－4号	製作加工		単位	t	数量	14.455	単価	431,946

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SMA400AW】						
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.94	236,700	222,498	
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	0.88	204,500	179,960	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.348	204,500	71,166	
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.572	211,300	120,863.6	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　9×90～100	t	0.5	157,100	78,550	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×90～100	t	0.048	157,100	7,540.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×75×75	t	0.198	112,300	22,235.4	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×65×65	t	1.778	112,300	199,669.4	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－4号	製作加工		単位	t	数量	14.455	単価	431,946

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×50×50	t	0.476	112,300	53,454.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	溝形鋼(SS400) 6.5×150×75	t	4.908	112,300	551,168.4	
【STK400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 径42.7×2.3		t	0.939	217,600	204,326.4	
鋼材費（形鋼１　各種） 径21.7×1.9		t	0.47	223,200	104,904	
【SMA400AW】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ16		t	0.04	254,600	10,184	
【SS400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ22		t	0.104	165,000	17,160	
鋼材費（形鋼１　各種） 縞鋼板t=3.2		t	2.254	151,500	341,481	
製作直接労務費（検査路）	0無 桁付検査路	t	14.455	299,600	4,330,718	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－4号	製作加工		単位	t	数量	14.455	単価	431,946

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
副資材費（ｔ）		t	14.455	18,200	263,081	
計					6,778,960.8	
単価					431,946	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－5号	製作加工		単位	t	数量	3.977	単価	485,272

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	0.54	204,500	110,430	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.139	204,500	28,425.5	
鋼材費（鋼板１　各種） t=6mm		t	0.014	204,500	2,863	
鋼材費（鋼板１　各種） t=4.5mm		t	0.002	204,500	409	
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.001	213,900	213.9	
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=4.5mm		t	0.011	201,900	2,220.9	
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.105	211,300	22,186.5	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　9×90～100	t	0.185	157,100	29,063.5	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×90～100	t	0.055	157,100	8,640.5	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－5号	製作加工		単位	t	数量	3.977	単価	485,272

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×50～75	t	0.002	157,100	314.2	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　4.5×50	t	0.018	159,400	2,869.2	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　4.5×25	t	0.001	196,300	196.3	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×75×75	t	0.03	112,300	3,369	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×65×65	t	0.351	112,300	39,417.3	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×50×50	t	0.138	112,300	15,497.4	
鋼材費（形鋼１　各種） t≦38		t	0.434	176,200	76,470.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	溝形鋼(SS400) 6×125×65	t	0.018	112,300	2,021.4	
鋼材費（形鋼２　規格品）	溝形鋼(SS400) 5×100×50	t	0.895	113,400	101,493	
【STK400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 径42.7×2.3		t	0.112	217,600	24,371.2	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－5号	製作加工		単位	t	数量	3.977	単価	485,272

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（形鋼１　各種） 径39.9×2.3		t	0.002	333,000	666	
鋼材費（形鋼１　各種） 径34.0×2.3		t	0.034	221,000	7,514	
鋼材費（形鋼１　各種） 径21.7×1.9		t	0.093	223,200	20,757.6	
【SS400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ22		t	0.026	165,000	4,290	
鋼材費（丸鋼・耐溝状腐食電縫鋼管）	SS400径 16	t	0.001	165,000	165	
鋼材費（丸鋼・耐溝状腐食電縫鋼管）	SS400径 13	t	0.001	167,200	167.2	
鋼材費（形鋼１　各種） 縞鋼板t=3.2		t	0.769	151,500	116,503.5	
製作直接労務費（検査路）	0無 脚廻り検査路	t	3.977	352,600	1,402,290.2	
副資材費（ｔ）		t	3.977	18,200	72,381.4	
計					2,095,207.5	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－5号	製作加工		単位	t	数量	3.977	単価	485,272

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
単価					485,272	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－6号	製作加工		単位	t	数量	4.801	単価	483,798

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【SM400A】						
鋼材費（鋼板１　各種） 12≦t≦25		t	0.705	204,500	144,172.5	
鋼材費（鋼板１　各種） 6＜t≦12		t	0.168	204,500	34,356	
【SS400】						
鋼材費（鋼板１　各種） t=3.2		t	0.138	211,300	29,159.4	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　9×90～100	t	0.232	157,100	36,447.2	
鋼材費（形鋼２　規格品）	平鋼（SS400）　6×90～100	t	0.048	157,100	7,540.8	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×75×75	t	0.04	112,300	4,492	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×65×65	t	0.448	112,300	50,310.4	
鋼材費（形鋼２　規格品）	等辺山形鋼(SS400) 6×50×50	t	0.144	112,300	16,171.2	
鋼材費（形鋼１　各種） t≦38		t	0.403	176,200	71,008.6	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－6号	製作加工		単位	t	数量	4.801	単価	483,798

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鋼材費（形鋼２　規格品）	溝形鋼(SS400) 5×100×50	t	1.188	113,400	134,719.2	
【STK400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 径42.7×2.3		t	0.147	217,600	31,987.2	
鋼材費（形鋼１　各種） 径21.7×1.9		t	0.118	223,200	26,337.6	
【SS400】						
鋼材費（形鋼１　各種） 丸鋼φ22		t	0.016	165,000	2,640	
鋼材費（形鋼１　各種） 縞鋼板t=3.2		t	1.006	151,500	152,409	
製作直接労務費（検査路）	0無 脚廻り検査路	t	4.801	352,600	1,692,832.6	
副資材費（ｔ）		t	4.801	18,200	87,378.2	
計					2,521,961.9	
単価					483,798	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－7号	大型ｺﾞﾑ支承 (1)	橋軸方向：可動 橋軸直角方向：固定 2287KN	単位	個	数量	1	単価	3,260,321

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
支承	橋軸方向：可動 橋軸直角方向：固定 2287KN	個	1	3,540,000	3,540,000	
計					3,540,000	
単価					3,260,321	円／個

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－8号	大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	単位	個	数量	1	単価	17,775,201

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
支承	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個	1	19,300,000	19,300,000	
計					19,300,000	
単価					17,775,201	円／個

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－9号	大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	単位	個	数量	1	単価	17,775,201

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
支承	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個	1	19,300,000	19,300,000	
計					19,300,000	
単価					17,775,201	円／個

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－10号	一般部外面	C-5塗装系	単位	m2	数量	1	単価	8,177

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り 無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ 上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
工場塗装	下塗り ﾐｽﾄｺｰﾄ(ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗料 下塗) 上記以外 1回	ｍ２	1	812.2	812.2	
工場塗装	下塗り ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗料下塗 上記以外 1回	ｍ２	1	1,424	1,424	
工場塗装	中塗り ふっ素系樹脂塗料 中塗 淡彩 上記以外 1回	ｍ２	1	827.9	827.9	
工場塗装	上塗り ふっ素系樹脂塗料 上塗 淡彩 上記以外 1回	ｍ２	1	1,370	1,370	
計					8,878.1	
単価					8,177	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－11号	高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り　無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ　上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－12号	ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	単位	m2	数量	1	単価	1,086

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄのみ	ｍ２	1	82	82	
工場塗装	下塗り　各種　上記以外　1回　30kg/100m2	ｍ２	1	1,098	1,098	
計					1,180	
単価					1,086	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－13号	添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り　無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ　上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－14号	ﾌﾞﾗｽﾄ		単位	m2	数量	1	単価	75.52

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄのみ	ｍ２	1	82	82	
計					82	
単価					75.52	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－15号	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り　無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ　上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－16号	ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	単位	t	数量	1	単価	84,731

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
溶融亜鉛メッキ（検査路用）	Ｈ－８６４１　２種　ＨＤＺＴ７７（旧ＨＤＺ５５）	t	1	92,000	92,000	
計					92,000	
単価					84,731	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－17号	ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	単位	t	数量	1	単価	89,336

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT77	排水装置	t	1	97,000	97,000	
計					97,000	
単価					89,336	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－18号	ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	単位	t	数量	1	単価	88,415

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT63	検査路	t	1	96,000	96,000	
計					96,000	
単価					88,415	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－19号	ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	単位	t	数量	1	単価	87,678

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT49	検査路･排水装置	t	1	95,200	95,200	
計					95,200	
単価					87,678	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－20号	高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り　無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ　上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－21号	ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	単位	m2	数量	1	単価	1,086

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄのみ	ｍ２	1	82	82	
工場塗装	下塗り 各種 上記以外 1回 30kg/100m2	ｍ２	1	1,098	1,098	
計					1,180	
単価					1,086	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－22号	添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り 無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ 上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－23号	ﾌﾞﾗｽﾄ		単位	m2	数量	1	単価	75.52

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄのみ	ｍ２	1	82	82	
計					82	
単価					75.52	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－24号	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		単位	m2	数量	1	単価	4,092

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
塗装前処理（二次素地調整）	原板ﾌﾞﾗｽﾄ･ｼﾞﾝｸﾘｯｼﾞﾌﾟﾗｲﾏｰ 製品ﾌﾞﾗｽﾄ	ｍ２	1	2,736	2,736	
工場塗装	下塗り　無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ　上記以外 1回	ｍ２	1	1,708	1,708	
計					4,444	
単価					4,092	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－25号	ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	単位	t	数量	1	単価	84,731

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
溶融亜鉛メッキ（検査路用）	Ｈ－８６４１　２種　ＨＤＺＴ７７（旧ＨＤＺ５５）	t	1	92,000	92,000	
計					92,000	
単価					84,731	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－26号	ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	単位	t	数量	1	単価	89,336

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT77	排水装置	t	1	97,000	97,000	
計					97,000	
単価					89,336	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－27号	ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	単位	t	数量	1	単価	88,415

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT63	検査路	t	1	96,000	96,000	
計					96,000	
単価					88,415	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－28号	ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	単位	t	数量	1	単価	87,678

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
HDZT49	検査路･排水装置	t	1	95,200	95,200	
計					95,200	
単価					87,678	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－29号	輸送		単位	t	数量	1	単価	13,630

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
橋梁工場製作輸送工	鈑桁(鋼床版鈑桁を除く) 50km	t	1	14,800	14,800	
計					14,800	
単価					13,630	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－30号	輸送		単位	t	数量	1	単価	13,630

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
橋梁工場製作輸送工	鈑桁(鋼床版鈑桁を除く) 50km	t	1	14,800	14,800	
計					14,800	
単価					13,630	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－31号	地組		単位	t	数量	354.323	単価	44,797

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
地組工	少数I桁(鈑桁形式) 354.323t	t	354.323	7,096	2,514,276	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	５５０ｔ吊	日	11	1,010,000	11,110,000	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	３６０ｔ吊	日	5	651,000	3,255,000	
架設工具損料		供用日	20	10,300	206,000	
仮締めボルト及びドリフトピン損料	仮締めﾎﾞﾙﾄφ22mm用 23060本	供用日	20	5,789	115,780	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	20	1,490	29,800	
計					17,230,856	
単価					44,797	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－32号	桁架設 (1)	連続合成少数鈑桁	単位	t	数量	359.414	単価	35,356

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	５５０ｔ吊	日	10	1,010,000	10,100,000	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	３６０ｔ吊	日	2	651,000	1,302,000	
架設工（鈑桁・箱桁・少数I桁・細幅箱桁・ﾗｰﾒﾝ橋）	移動式ｸﾚｰﾝ 少数I桁(鈑桁形式) 39.9t/日 発動発電機	t	359.414	5,878	2,112,635.49	
架設工具損料		供用日	16	10,300	164,800	
仮締めボルト及びドリフトピン損料	仮締めﾎﾞﾙﾄφ22mm用 23060本	供用日	16	5,789	92,624	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	16	1,490	23,840	
計					13,795,899.49	
単価					35,356	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-50

単－33号	桁架設 (2)【夜間】	連続合成少数鈑桁	単位	t	数量	80.394	単価	36,259

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	３６０ｔ吊	日	3	801,000	2,403,000	
架設工（鈑桁・箱桁・少数I桁・細幅箱桁・ﾗｰﾒﾝ橋）	移動式ｸﾚｰﾝ 少数I桁(鈑桁形式) 39.9t/日 発動発電機	t	80.394	8,817	708,833.89	
架設工具損料		供用日	3	10,300	30,900	
仮締めボルト及びドリフトピン損料	仮締めﾎﾞﾙﾄφ22mm用 23060本	供用日	3	5,789	17,367	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	3	1,490	4,470	
計					3,164,570.89	
単価					36,259	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－34号	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ設置		単位	本	数量	1	単価	838.2

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
アンカーボルト設置	有	本	1	910.2	910.2	
計					910.2	
単価					838.2	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－35号	大型ｺﾞﾑ支承設置	高面圧ｺﾞﾑ支承	単位	個	数量	9	単価	273,074

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ゴム支承据付工	一般支承 6.97t 6基 有 0.204m3/基 ２ｍ以上 発動発電機	基	6	141,000	846,000	
ゴム支承据付工	一般支承 21.058t 3基 有 0.813m3/基 ２ｍ以上 発動発電機	基	3	422,200	1,266,600	
移動式クレーン運転費（賃料）	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 50t吊 標準(1.0)	日	2	92,000	184,000	
移動式クレーン運転費（賃料）	ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型 25t吊 標準(1.0)	日	4	53,200	212,800	
架設工具損料		供用日	9	10,300	92,700	
仮締めボルト及びドリフトピン損料	仮締めﾎﾞﾙﾄφ22㎜用 23060本	供用日	9	5,789	52,101	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	9	1,490	13,410	
計					2,667,611	
単価					273,074	円／個

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－36号	本締めﾎﾞﾙﾄ		単位	本	数量	23,060	単価	138.3

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
本締め工	23060本	本	23,060	132.6	3,057,756	
架設工具損料		供用日	23	10,300	236,900	
仮締めボルト及びドリフトピン損料	仮締めﾎﾞﾙﾄφ22mm用 23060本	供用日	23	5,789	133,147	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	23	1,490	34,270	
計					3,462,073	
単価					138.3	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－37号	床版架設 (1)		単位	m2	数量	1,651.074	単価	75,420

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
合成床版架設工	47.431m/100m2 38.496m/100m2 16.084m/100m2	ｍ２	1,371.576	5,020	6,885,311.52	
合成床版架設工	47.421m/100m2 36.226m/100m2 16.064m/100m2	ｍ２	279.498	5,006	1,399,166.98	
合成床版製品費		ｍ２	1,651.074	72,000	118,877,328	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	１２０ｔ吊	日	29	220,000	6,380,000	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	１００ｔ吊	日	6	194,000	1,164,000	
架設工具損料		供用日	42	10,300	432,600	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	42	1,490	62,580	
計					135,200,986.5	
単価					75,420	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-50

単－38号	床版架設 (2)【夜間】		単位	m2	数量	374.9	単価	77,851

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
合成床版架設工	47.438m/100m2 36.01m/100m2 16.091m/100m2	ｍ２	374.9	7,106	2,664,039.4	
合成床版製品費		ｍ２	374.9	72,000	26,992,800	
トラッククレーン［油圧伸縮ジブ型］	１００ｔ吊	日	8	239,000	1,912,000	
架設工具損料		供用日	10	10,300	103,000	
発動発電機賃料	ﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ 25KVA	供用日	10	1,490	14,900	
計					31,686,739.4	
単価					77,851	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－39号	鉄筋	SD345 D16～25	単位	t	数量	1	単価	154,358

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工［市場単価］	SD345 D16～25 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 橋梁用床版	t	1	167,600	167,600	
計					167,600	
単価					154,358	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－40号	ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	単位	m3	数量	502.945	単価	29,766

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート	無筋･鉄筋構造物 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設 30-12-25(20)(普通) 10m3以上100m3未満 養生無し 延長無し	ｍ３	502.945	27,530	13,846,075.85	
養生（鋼橋床版）		ｍ２	2,025.981	406.4	823,358.67	
養生マット（材料費）		ｍ２	2,228.579	83.75	186,643.49	
ｺﾝｸﾘｰﾄ膨張剤		kg	10,059	139	1,398,201	
計					16,254,279.01	
単価					29,766	円／m3

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－41号	合成床版材料費 【JR工事支給】		単位	m2	数量	859.614	単価	67,969

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ｼｰﾙ材	主桁上ﾌﾗﾝｼﾞ	m	428.11	950	406,704.5	
ｼｰﾙ材	合成床版接合部	m	341.775	600	205,065	
ｼｰﾙ材	側鋼板と床版及び側鋼板取合部	m	164.323	600	98,593.8	
合成床版製品費		m２	207.433	76,000	15,764,908	
合成床版製品費		m２	652.181	72,000	46,957,032	
計					63,432,303.3	
単価					67,969	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－42号	鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (1)	二重止水装置付き伸縮装置	単位	m	数量	16.64	単価	906,811

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
伸縮装置	KMA-230N	m	16.64	783,000	13,029,120	
ｱｯﾌﾟｽﾀﾝﾄﾞ	ｱﾙﾐ合金	組	2	162,000	324,000	
車道部地覆ｶﾊﾞｰ	SS400 t=6	組	2	153,000	306,000	
車道部壁高欄ｶﾊﾞｰ	SUS304 ｔ＝2 ｱﾝｶｰ含む	組	2	153,000	306,000	
【労務】						
伸縮装置設置		m	16.64	144,430	2,403,315.2	
鉄筋工［市場単価］	SD345 D16～25 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む)	t	0.078	177,600	13,852.8	
計					16,382,288	
単価					906,811	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－43号	鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (2)	歩道用伸縮装置	単位	m	数量	6.94	単価	624,802

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
伸縮装置	SP-230KMA	m	6.94	351,000	2,435,940	
ｱｯﾌﾟｽﾀﾝﾄﾞ	ｱﾙﾐ合金(薄型)	組	2	178,000	356,000	
歩車道境界ｶﾊﾞｰ	SS400 t=6	組	2	168,000	336,000	
歩道部ｶﾊﾞｰ	SUS304 ｔ＝2 ｱﾝｶｰ含む	組	2	247,000	494,000	
【労務】						
伸縮装置設置		m	6.94	155,540	1,079,447.6	
鉄筋工［市場単価］	SD345 D16～25 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む)	t	0.034	177,600	6,038.4	
計					4,707,426	
単価					624,802	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－44号	ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	単位	m3	数量	1	単価	26,239

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート	無筋・鉄筋構造物 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設 30-12-25(20)(普通) 10m3以上100m3未満 一般養生 延長無し	ｍ３	1	28,490	28,490	
計					28,490	
単価					26,239	円／m3

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－45号	型枠		単位	m2	数量	1	単価	9,384

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
型枠	一般型枠 鉄筋・無筋構造物	ｍ２	1	10,190	10,190	
計					10,190	
単価					9,384	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－46号	鉄筋 (1)	SD345 D13	単位	t	数量	1	単価	165,410

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工［市場単価］	SD345 D13 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 補正無(一般構造物)	t	1	179,600	179,600	
計					179,600	
単価					165,410	円／t

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－47号	鉄筋 (2)	SD345 D13 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗装	単位	t	数量	1	単価	247,010

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工［市場単価］	各種 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 補正無(一般構造物)	t	1	268,200	268,200	
計					268,200	
単価					247,010	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－48号	目地板	樹脂発泡体(30倍発泡)t=10	単位	m2	数量	1	単価	3,483

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
目地板	30m2未満 樹脂発泡体(30倍発泡)t=10	ｍ２	1	3,782	3,782	
計					3,782	
単価					3,483	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－49号	目地	Vｶｯﾄ	単位	m	数量	1	単価	2,906

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
Vｶｯﾄ目地		ｍ	1	3,156	3,156	
計					3,156	
単価					2,906	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－50号	ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	単位	m3	数量	1	単価	26,239

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート	無筋･鉄筋構造物 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設 30-12-25(20)(普通) 10m3以上100m3未満 一般養生 延長無し	ｍ３	1	28,490	28,490	
計					28,490	
単価					26,239	円／m3

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－51号	型枠		単位	m2	数量	1	単価	9,384

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
型枠	一般型枠 鉄筋･無筋構造物	ｍ２	1	10,190	10,190	
計					10,190	
単価					9,384	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－52号	鉄筋	SD345 D13	単位	t	数量	1	単価	165,410

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工［市場単価］	SD345 D13 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 補正無(一般構造物)	t	1	179,600	179,600	
計					179,600	
単価					165,410	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－53号	歩車道境界ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=24N/mm2	単位	m3	数量	0.232	単価	159,332

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート	無筋･鉄筋構造物 人力打設 24-12-25(20)(高炉) 一般養生 無し 全ての費用	ｍ３	0.232	30,890	7,166.48	
型枠	一般型枠 鉄筋･無筋構造物	ｍ２	2.442	10,190	24,883.98	
鉄筋工［市場単価］	SD345 D13 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 補正無(一般構造物)	ｔ	0.045	179,600	8,082	
計					40,132.46	
単価					159,332	円／m3

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－54号	ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	単位	m3	数量	1	単価	26,239

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
コンクリート	無筋･鉄筋構造物 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車打設 30-12-25(20)(普通) 10m3以上100m3未満 一般養生 延長無し	ｍ３	1	28,490	28,490	
計					28,490	
単価					26,239	円／m3

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－55号	型枠		単位	m2	数量	1	単価	9,384

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
型枠	一般型枠 鉄筋･無筋構造物	ｍ２	1	10,190	10,190	
計					10,190	
単価					9,384	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－56号	鉄筋	SD345 D13	単位	t	数量	1	単価	165,410

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
鉄筋工［市場単価］	SD345 D13 一般構造物 10t以上(標準) 無 無 無 無 補正無(鉄筋割合10%未満含む) 補正無(一般構造物)	t	1	179,600	179,600	
計					179,600	
単価					165,410	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－57号	検査路階段 (1)		単位	箇所	数量	1	単価	331,926

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾌﾟﾚｰﾄ	傾斜35度用 600幅	枚	30	4,360	130,800	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾌﾟﾚｰﾄ	傾斜40度用 600幅	枚	2	4,360	8,720	
ｺｰｽｽﾚｯﾄﾞ釘	SUS製 65L	本	104	23	2,392	
ｺｰｽｽﾚｯﾄﾞ釘	SUS製 100L	本	64	43	2,752	
ﾒｯｷ鋼棒	Φ10×500L	本	64	650	41,600	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×2000L	本	10	3,500	35,000	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×751L	本	2	1,950	3,900	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×982L	本	2	1,950	3,900	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×200L	本	4	550	2,200	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	50×50×750L	本	4	700	2,800	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－57号	検査路階段 (1)		単位	箇所	数量	1	単価	331,926

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【労務】						
検査路階段設置	角杭・ﾒｯｷ鋼棒打込み、角材・ﾌﾟﾚｰﾄ設置含む	箇所	1	126,300	126,300	
計					360,364	
単価					331,926	円／箇所

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－58号	検査路階段 (2)		単位	箇所	数量	1	単価	276,666

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾌﾟﾚｰﾄ	傾斜35度用 600幅	枚	23	4,360	100,280	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾌﾟﾚｰﾄ	傾斜40度用 600幅	枚	1	4,360	4,360	
ｺｰｽｽﾚｯﾄﾞ釘	SUS製 65L	本	76	23	1,748	
ｺｰｽｽﾚｯﾄﾞ釘	SUS製 100L	本	48	43	2,064	
ﾒｯｷ鋼棒	Φ10×500L	本	48	650	31,200	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×2000L	本	8	3,500	28,000	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×751L	本	2	1,950	3,900	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	70×70×200L	本	2	550	1,100	
再生ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ角材	50×50×750L	本	2	700	1,400	
【労務】						

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－58号	検査路階段 (2)		単位	箇所	数量	1	単価	276,666

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
検査路階段設置	角杭・ﾒｯｷ鋼棒打込み、角材・ﾌﾟﾚｰﾄ設置含む	箇所	1	126,300	126,300	
計					300,352	
単価					276,666	円／箇所

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－59号	剥落防止	ｱﾗﾐﾄﾞﾒｯｼｭｼｰﾄ	単位	m2	数量	1	単価	8,337

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
SAMMｼｰﾄ	珪砂付き三軸ｱﾗﾐﾄﾞﾒｯｼｭｼｰﾄ	m2	1.1	4,030	4,433	
【労務】						
剥落防止	SAMMｼｰﾄ工法	ｍ２	1	4,620	4,620	
計					9,053	
単価					8,337	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－60号	橋名板	600×400×13	単位	枚	数量	1	単価	161,174

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
橋名板	鋼橋用	枚	1	175,000	175,000	
計					175,000	
単価					161,174	円／枚

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－61号	橋歴板	300×200×13	単位	枚	数量	1	単価	46,206

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
橋名板等取付		枚	1	50,170	50,170	
計					50,170	
単価					46,206	円／枚

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－62号	落下防止柵材料費 【JR工事支給】	H=1.890m	単位	m	数量	1	単価	294,718

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
落下物防止柵	H=1890 ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ･ﾜｯｼｬｰ･定着ﾌﾟﾚｰﾄ含む	m	1	320,000	320,000	
計					320,000	
単価					294,718	円／m

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－63号	落下防止網材料費 【JR工事支給】	φ3.2×56	単位	m	数量	1	単価	16,670

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
落下物防止網	Φ3.2 金網,ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ･ｸﾘｯﾌﾟ,結合ｺｲﾙ,ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ,ﾎﾞﾙﾄ	m	1	18,100	18,100	
計					18,100	
単価					16,670	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－64号	道路照明灯設置	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	単位	基	数量	1	単価	390,778

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
道路照明灯建柱	高さ:GL8～12m 重量:350kg以下 348000円/基 35000円/基 割増なし	基	1	414,000	414,000	
材料費（個）	8090円/個	個	1	8,090	8,090	
材料費（m）	178円/m	m	12	178	2,136	
計					424,226	
単価					390,778	円／基

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－65号	地中配管	FEP管 径 30ｍｍ	単位	m	数量	1	単価	367.7

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ）敷設	道路沿い(地中) 新設 FEP 30mm 1条 0%	m	1	399.3	399.3	
計					399.3	
単価					367.7	円／m

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－66号	屋内配管	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	単位	m	数量	1	単価	1,522

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
合成樹脂可とう電線管（ＰＦ管・ＣＤ管）敷設	36mm以下 新設 埋設	m	1	1,566	1,566	
配線・配管	配管各種 15%	m	1	87	87	
計					1,653	
単価					1,522	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－67号	屋外配管	金属製可とう電線管 径 30ｍｍ	単位	m	数量	1	単価	2,749

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
金属製可とう電線管敷設	38mm以下 新設	m	1	1,824	1,824	
配線・配管	配管各種 15%	m	1	1,161	1,161	
計					2,985	
単価					2,749	円／m

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－68号	屋外配線	EM-CE3.5sq-3c	単位	m	数量	1	単価	1,749

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ケーブル及び電線配線	管内配線 20mm以下 新設	m	1	1,543	1,543	
配線各種		m	1	357	357	
計					1,900	
単価					1,749	円／m

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－69号	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	単位	個	数量	1	単価	10,287

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
プルボックス設置	各種 新設 15cm 15cm 15cm	個	1	6,311	6,311	
材料費（個）	4850円/個	個	1	4,850	4,850	
計					11,161	
単価					10,287	円／個

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－70号	道路照明灯材料費 【JR工事支給】	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	単位	基	数量	1	単価	362,227

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【材料】						
材料費（基） 照明灯ﾎﾟｰﾙ	348000円/基	基	1	348,000	348,000	
材料費（基） ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	35000円/基	基	1	35,000	35,000	
材料費（個） ｼﾞｮｲﾝﾄﾕﾆｯﾄ	8090円/個	個	1	8,090	8,090	
材料費（m） ｹｰﾌﾞﾙ	178円/m	m	12	178	2,136	
計					393,226	
単価					362,227	円／基

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－71号	屋内配管材料費 【JR工事支給】	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	単位	m	数量	1	単価	80.12

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
配線・配管	配管各種 15%	m	1	87	87	
計					87	
単価					80.12	円／m

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－72号	ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ材料費 【JR工事支給】	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	単位	個	数量	1	単価	4,466

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
材料費（個）	4850円/個	個	1	4,850	4,850	
計					4,850	
単価					4,466	円／個

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－73号	架設足場 (1)	少数Ｉ桁	単位	m2	数量	1,624.8	単価	6,015

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【A1～J11】						
主体足場（パイプ吊足場）	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.8月	ｍ２	1,345.2	2,950	3,968,340	
中段足場	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.8月	ｍ２	1,345.2	1,125	1,513,350	
安全通路	少数Ｉ桁 3.1月	ｍ２	1,345.2	730	981,996	
部分作業床	少数Ｉ桁 3.1月	ｍ２	1,345.2	611	821,917.2	
朝顔	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 3.1月 両側朝顔	ｍ２	1,345.2	1,172	1,576,574.4	
【J18～J20】						
主体足場（パイプ吊足場）	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.5月	ｍ２	279.6	2,915	815,034	
中段足場	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.5月	ｍ２	279.6	1,115	311,754	
安全通路	少数Ｉ桁 1.7月	ｍ２	279.6	658	183,976.8	
部分作業床	少数Ｉ桁 1.7月	ｍ２	279.6	510	142,596	

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－73号	架設足場 (1)	少数Ｉ桁	単位	m2	数量	1,624.8	単価	6,015

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
朝顔	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 1.7月 両側朝顔	ｍ２	279.6	1,063	297,214.8	
計					10,612,753.2	
単価					6,015	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-50

単－74号	架設足場 (2)【夜間】	少数Ｉ桁	単位	m2	数量	1	単価	7,778

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
主体足場（パイプ吊足場）	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.5月	ｍ２	1	3,869	3,869	
中段足場	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 7.5月	ｍ２	1	1,531	1,531	
安全通路	少数Ｉ桁 1.7月	ｍ２	1	918	918	
部分作業床	少数Ｉ桁 1.7月	ｍ２	1	666	666	
朝顔	少数Ｉ桁 設置･撤去･賃料 1.7月 両側朝顔	ｍ２	1	1,462	1,462	
計					8,446	
単価					7,778	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－75号	板張防護		単位	m2	数量	390.6	単価	1,795

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【P1～P2】						
板張防護工	設置･撤去･賃料 2.3月 両側朝顔	ｍ２	134.7	2,032	273,710.4	
【P3～A2】						
板張防護工	設置･撤去･賃料 1.4月 両側朝顔	ｍ２	255.9	1,905	487,489.5	
計					761,199.9	
単価					1,795	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－76号	登り桟橋		単位	箇所	数量	3	単価	334,965

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
【A1橋台】						
登り桟橋工（箇所）	設置･撤去･損料 7.9月 4.3m	箇所	1	242,700	242,700	
【P1橋脚】						
登り桟橋工（箇所）	設置･撤去･損料 7.9月 8.3m	箇所	1	468,400	468,400	
【A2橋台】						
登り桟橋工（箇所）	設置･撤去･損料 7.7月 6.8m	箇所	1	379,800	379,800	
計					1,090,900	
単価					334,965	円／箇所

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－77号	H鋼杭 (1)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	単位	本	数量	1	単価	108,216

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
バイブロハンマ施工によるH形鋼打込み	陸上 電動式 90kW 1箇所 H300 19m以下	本	1	77,330	77,330	
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 19m以下	本	1	8,401	8,401	
ガス切断	H鋼杭(H300～H400)	箇所	1	7,473	7,473	
H形鋼杭賃料	H300 15.5m/本 86日 無 有 3650円 無 1回	本	1	24,260	24,260	
計					117,464	
単価					108,216	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－78号	H鋼杭 (2)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	単位	本	数量	1	単価	106,098

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
バイブロハンマ施工によるH形鋼打込み	陸上 電動式 90kW 1箇所 H300 19m以下	本	1	77,330	77,330	
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 19m以下	本	1	8,401	8,401	
ガス切断	H鋼杭(H300～H400)	箇所	1	7,473	7,473	
H形鋼杭賃料	H300 15.5m/本 69日 無 有 3650円 無 1回	本	1	21,930	21,930	
計					115,134	
単価					106,098	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－79号	H鋼杭 (3)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	単位	本	数量	1	単価	165,502

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ＷＪ併用バイブロハンマ施工によるH形鋼打込み	陸上 電動式 90kW 1箇所 H300 19m以下 50≦Nmax＜100	本	1	136,200	136,200	
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 19m以下	本	1	8,401	8,401	
ガス切断	H鋼杭(H300～H400)	箇所	1	7,473	7,473	
H形鋼杭賃料	H300 19m/本 98日 無 有 3650円 有 1回	本	1	27,610	27,610	
計					179,684	
単価					165,502	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－80号	H鋼杭 (4)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	単位	本	数量	1	単価	161,082

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ＷＪ併用バイブロハンマ施工によるH形鋼打込み	陸上 電動式 90kW 1箇所 H300 19m以下 50≦Nmax＜100	本	1	136,200	136,200	
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 19m以下	本	1	8,401	8,401	
ガス切断	H鋼杭(H300～H400)	箇所	1	7,473	7,473	
H形鋼杭賃料	H300 19m/本 69日 無 有 3650円 有 1回	本	1	22,740	22,740	
計					174,814	
単価					161,082	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－81号	覆工板･覆工板受桁 (1)	1000×208×2000 設置･撤去	単位	m2	数量	16	単価	22,463

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	設置･撤去 標準(1.0)	ｍ２	16	9,829	157,264	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 2.3月 無 有 1020円 1回	ｍ２	16	3,682	58,912	
摩擦接合用高力ボルト（六角）	Ｆ１０Ｔ　Ｍ２２×６５	組	192	234.7	45,062.4	
溝形鋼	大形　ＳＳ４００　９×３００×９０	t	1.216	106,000	128,896	
計					390,134.4	
単価					22,463	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－82号	覆工板･覆工板受桁 (2)	1000×208×2000 設置･撤去	単位	m2	数量	8	単価	21,974

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	設置･撤去 標準(1.0)	ｍ２	8	9,829	78,632	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 1.8月 無 有 1020円 1回	ｍ２	8	3,152	25,216	
摩擦接合用高力ボルト（六角）	Ｆ１０Ｔ　Ｍ２２×６５	組	96	234.7	22,531.2	
溝形鋼	大形　ＳＳ４００　９×３００×９０	t	0.608	106,000	64,448	
計					190,827.2	
単価					21,974	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－83号	覆工板･覆工板受桁 (3)	1000×208×2000 設置･撤去	単位	m2	数量	16	単価	22,849

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	設置･撤去 標準(1.0)	ｍ２	16	9,829	157,264	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 2.7月 無 有 1020円 1回	ｍ２	16	4,106	65,696	
摩擦接合用高力ボルト（六角）	Ｆ１０Ｔ　Ｍ２２×６５	組	192	234.7	45,062.4	
溝形鋼	大形　ＳＳ４００　９×３００×９０	t	1.216	106,000	128,896	
計					396,918.4	
単価					22,849	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－84号	覆工板･覆工板受桁 (4)	1000×208×2000 設置･撤去	単位	m2	数量	8	単価	21,974

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	設置･撤去 標準(1.0)	ｍ２	8	9,829	78,632	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 1.8月 無 有 1020円 1回	ｍ２	8	3,152	25,216	
摩擦接合用高力ボルト（六角）	Ｆ１０Ｔ　Ｍ２２×６５	組	96	234.7	22,531.2	
溝形鋼	大形　ＳＳ４００　９×３００×９０	t	0.608	106,000	64,448	
計					190,827.2	
単価					21,974	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－85号	現場発生品運搬 (1)	溝形鋼	単位	t	数量	1	単価	12,341

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
現場発生品及び支給品運搬	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t 有り 7.0km以下	t	1	3,886	3,886	
現場発生品及び支給品積込み・荷卸し	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t	t	1	9,507	9,507	
計					13,393	
単価					12,341	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－86号	H鋼杭 (5)	H300 H鋼長さ(杭長) 17.5m H鋼平均打込長 0m H型鋼平均引抜長 17.2m	単位	本	数量	1	単価	45,101

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 19m以下	本	1	8,401	8,401	
ガス切断	H鋼杭(H300～H400)	箇所	1	7,473	7,473	
H形鋼杭賃料	H300 17.5m/本 161日 有 210日 有 3650円 有 1回	本	1	33,090	33,090	
計					48,964	
単価					45,101	円／本

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－87号	H鋼杭 (6)	H400 H鋼長さ(杭長) 11m H鋼平均打込長 0m H型鋼 平均引抜長 10.7m	単位	本	数量	1	単価	34,482

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
バイブロハンマ施工によるH形鋼引抜き	陸上 電動式60kW 12m以下	本	1	6,388	6,388	
H形鋼杭賃料	H400 11m/本 116日 有 287日 有 3650円 有 1回	本	1	31,050	31,050	
計					37,438	
単価					34,482	円／本

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－88号	覆工板･覆工板受桁 (5)	1000×208×2000 撤去	単位	m2	数量	1	単価	8,712

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	撤去 標準(1.0)	ｍ２	1	3,771	3,771	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 5.2月 有 6.5月 有 1020円 1回	ｍ２	1	5,689	5,689	
計					9,460	
単価					8,712	円／m2

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－89号	覆工板･覆工板受桁 (6)	1000×208×2000 撤去	単位	m2	数量	1	単価	7,374

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
覆工板・覆工板受桁設置・撤去(設置面積700m2以下)	撤去 標準(1.0)	ｍ２	1	3,771	3,771	
覆工板賃料	覆工板(鋼製 補強型) 3.5月 有 8月 有 1020円 1回	ｍ２	1	4,236	4,236	
計					8,007	
単価					7,374	円／m2

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－90号	現場発生品運搬 (2)	溝形鋼	単位	t	数量	1	単価	12,341

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
現場発生品及び支給品運搬	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t 有り 7.0km以下	t	1	3,886	3,886	
現場発生品及び支給品積込み・荷卸し	ﾄﾗｯｸ[ｸﾚｰﾝ装置付]ﾍﾞｰｽﾄﾗｯｸ2t積、吊能力2.9t	t	1	9,507	9,507	
計					13,393	
単価					12,341	円／t

１次単価表

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-0

単－91号	交通誘導警備員 (1)	誘導員B	単位	人日	数量	1	単価	16,163

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員Ｂ		人日	1	17,550	17,550	
計					17,550	
単価					16,163	円／人日

単価使用年月	2025.11
歩掛使用年月	2025.11
労務調整係数	1.000-00-00-2-50

単－92号	交通誘導警備員 (2)【夜間】	誘導員B	単位	人日	数量	1	単価	24,240

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員Ｂ		人日	1	26,320	26,320	
計					26,320	
単価					24,240	円／人日

（土木工事、鋼橋工場製作工事）

Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事

（ 合　意 ） 請負工事費計算書

(1)直接工事費	453,666,554		
(2)共通仮設費	66,578,918		
(3)純工事費 (1)+(2)	520,245,472		
(4)現場管理費	181,409,000		
(5)工期延長等に伴う現場維持等の費用	0	(16)工場製作純工事費	568,064,305
		(17)工場管理費	57,577,927
(6)工事原価 (3)+(4)+(5)+(18)	1,327,296,704	(18)工場製作原価 (16)+(17)	625,642,232
(7')一般管理費等(計上額)	153,493,296	((7)一般管理費等(計算額)	153,499,628)
(8')その他費目計	0		
(9)業務委託料等	0		
(10)工事価格 (6)+(7')+(8')+(9) (万円未満切り捨て)	1,480,790,000		

(11)消費税相当額	148,079,000
(12)請負工事価格 (10)+(11)	1,628,869,000
(13)入札書比較価格 (請負工事費の100/110)	1,480,790,000
(14)調査基準価格	1,498,552,000
(15)調査基準価格の100/110 (万円未満切り捨て)	1,362,320,000

［Ⅰ］一般管理費等

一般管理費等の計算

(7)一般管理費等		一般管理費等対象工事原価		※４）一般管理費等率		前払い金による補正係数			一般管理費等対象工事原価		契約保証に係る補正率	
153,499,628	＝	1,330,152,760	×（	11.5 ※１）	×	1	）×１／100＋		1,330,152,760	×	0.04	×１／100

※１）補正後の一般管理費等率の桁数は小数点以下第３位を四捨五入し、２位止めとする。

※４）一般管理費等率において財団法人に発注する場合は90／100とする。

一般管理費等の計算（随意契約で調整計算を行う場合）

(7)一般管理費等		(19)合算一般管理費等対象工事原価		合算額に対する一般管理費等率 ※１）		※２）前払い金による補正係数		
	＝		×（		×		）× １／100	

追加工事における一般管理費等対象工事原価		追加工事の契約保証に係る補正率			※３）現工事の一般管理費等
＋		×		×１／100	－

※２）現工事と追加工事の前払い金による補正係数が異なる場合は、対象額の加重平均とする。

※３）現工事の一般管理費等（計算額）より契約保証に係る金額を除いた額とする。

(19)合算一般管理費等対象工事原価		当該追加工事の一般管理費等対象工事原価		現工事の一般管理費等対象工事原価
	≦		＋	

［Ⅱ］消費税相当額

消費税相当額の計算

(11)消費税相当額		(10)工事価格		
148,079,000	＝	1,480,790,000	×	10／100

工場管理費

間接労務費		
間接労務費対象額		
管理費区分７	113,531,730	
間接労務費率	40.8 %	
間接労務費計算額	46,320,945	
工場管理費		
工場純工事費	568,064,305	
非対象額計（－）	396,189,896	
管理費区分５	399,045,952	（一般管理費のみ対象額）
管理費区分９	-2,856,056	（間接費非対象額）
工場管理費対象額	171,874,409	
工場管理費率	33.5 %	
工場管理費計上額	57,577,927	

共通仮設費

主たる工種

単独（追加工事）： 鋼橋架設工事　　合算工事： 0

対象工事費	453,666,554	直接工事費	453,666,554	準備費	0	事業損失	0
対象工事費に含まれる全処分費額		単独（追加工事）	0	現工事	0	合算工事	0

非対象額計（－）	208,481,230	
管理費区分１	208,481,230	（橋梁、ＰＣ桁、門扉、ポンプ等購入費）
管理費区分２，７	0	（工場原価）
管理費区分５	0	（一般管理費等のみ対象額）
管理費区分９	0	（間接費非対象額）
管理費区分Ｔ	0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額）
対象額　支　給　品（＋）	0	
無償貸付機械評価額（＋）	0	

共通仮設費対象額

単独（追加工事）	245,185,324	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く共通仮設費対象額	245,185,324		0		0

共通仮設費（率分）

率（補正前）	10.07 %	0 %	
施工地域等補正	1.2	ICT施工補正	1
率（補正後）	12.32 % （12.44% × 週休1.02）		
計上額	30,206,000	0	0

比較結果	当該追加工事	A		
	0	0	調整工事計上額	0

共通仮設費

現場環境改善費対象工事費	245,185,324	直接工事費	453,666,554		
非対象額計（－）	208,481,230				
管理費区分１	208,481,230	（橋梁、ＰＣ桁、門扉、ポンプ等購入費）			
管理費区分２，７	0	（工場原価）			
管理費区分５	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分９	0	（間接費非対象額）			
管理費区分Ｔ	0	（直接工事費に含まれる処分費等）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械評価額（＋）	0				
現場環境改善費対象額（Ｐｉ）					
単独（追加工事）	245,185,324	現工事	0	合算工事	0
現場環境改善費					
率（補正前）	0.82　％		0　％		0　％
施工地域等補正	市街地以外				
率（補正後）	0.82　％				
計上額	2,010,000		0		0
比較結果	当該追加工事	A		調整工事計上額	0
	0	0			

共通仮設費

共通仮設費（積上分）	34,362,918				
運搬費	34,299,743	準備費	0	事業損失防止施設費	0
安全費	0	役務費	0	技術管理費	63,175
営繕費	0	現場環境改善費	0		

共通仮設費計	66,578,918

現場管理費

単独（追加工事）純工事費	520,245,472	単独（追加工事）直接工事費	453,666,554	単独（追加工事）共通仮設費	66,578,918
非対象額計（－）	0				
管理費区分２，７	0	（工場原価）			
管理費区分５	0	（一般管理費等のみ対象額）			
管理費区分９	0	（間接費非対象額）			
管理費区分Ｔ	0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額）			
対象額　支　給　品（＋）	0				
無償貸付機械等評価額（＋）	0				
現場管理費対象純工事費					
単独（追加工事）	520,245,472	現工事	0	合算工事	0
全処分費等を除く	520,245,472		0		0
現場管理費対象純工事費（調整工事入力で使用）					
率（補正前）	30.77 %		0 %		0 %
施工地域等補正	1.1				
施工時期補正	0 %	熱中症補正	0 %	ICT施工補正	1
緊急工事補正	0 %				
砂防・地すべり補正	0 %		0 %		
率（補正後）	34.87 %	（34.16% × 週休1.03）	0 %		
計上額	181,409,000		0		0
			23,773,107	（工事価格に含まれる平均的な法定福利費概算額）	
比較結果　当該追加工事	A				
0	0			調整工事計上額	0

一般管理費等（当初）

事務所名	常陸河川国道事務所　工務第二課				工事番号	2025080002	第 0 回変更
発注年月	令和07年08月	契約区分	国債（翌債を含む）の本官		主工種	鋼橋架設工事	

工事原価	1,327,296,704						
純工事費	520,245,472	現場管理費		181,409,000	工期延長等に伴う現場維持費		0
非対象額計（－）	-2,856,056						
管理費区分９	-2,856,056	（支給品を除く間接費非対象額）					
管理費区分Ｔ	0	（全処分費等のうち３％または３０００万円を超える額）					
一般管理費等対象工事原価							
単独（追加工事）	1,330,152,760		現工事	0		合算工事	0
全処分費等を除く							
一般管理費等対象工事原価	1,330,152,760		現工事	0		合算工事	0
（調整工事入力で使用）							
前払金支出割合による補正係数	1		現工事				
財団法人等による補正係数	1						
契約保証に係る一般管理費対象工事原価	1,330,152,760						
契約保証に係る補正値	0.04 %						
一般管理費率							
単独（追加工事）	11.5 %		現工事	0 %		合算工事	0 %

一般管理費	153,493,296	
業務委託料等	0	
調査基準価格	1,498,552,000	
調査基準価格の100/110	1,362,320,000	（ 92 %）

工　事　数　量　総　括　表

工 事 名　　Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事

国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所　工務第二課

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
鋼橋上部		式		1		
工場製作工		式		1		
桁製作工		式		1		
製作加工		t		404		
桁製作工 （指定部分）		式		1		
製作加工		t		218.7		
検査路製作工	上部工検査路	式		1		
製作加工		t		31.8		
検査路製作工 （指定部分）	上部工検査路	式		1		
製作加工		t		14.4		
検査路製作工	下部工検査路	式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
製作加工		t		3.9		
検査路製作工 (指定部分)	下部工検査路	式		1		
製作加工		t		4.8		
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ工		式		1		
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式		1		
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ工（指定部分）		式		1		
ﾎﾞﾙﾄ･ﾅｯﾄ	高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ、ｽﾀｯﾄﾞｼﾞﾍﾞﾙ等	式		1		
鋳造費		式		1		
大型ｺﾞﾑ支承 (1)	橋軸方向：可動 橋軸直角方向：固定 2287KN	個		6		
大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個		3		
鋳造費 (指定部分)		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
大型ｺﾞﾑ支承 (2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個		6		
工場塗装工		式		1		
一般部外面	C-5塗装系	m2		120		
高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	m2		93		
ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2		480		
添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2		630		
ﾌﾞﾗｽﾄ		m2		7,140		
無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		m2		95		
ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	t		23.1		
ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	t		1.3		
ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	t		7.3		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t		4.8		
工場塗装工 (指定部分)		式		1		
高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11塗装系	m2		37		
ｺﾝｸﾘｰﾄ接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2		270		
添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	m2		270		
ﾌﾞﾗｽﾄ		m2		3,550		
無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ		m2		72		
ﾒｯｷ (1)	HDZT77(検査路)	t		12.6		
ﾒｯｷ (2)	HDZT77(排水装置)	t		0.6		
ﾒｯｷ (3)	HDZT63(検査路)	t		3.9		
ﾒｯｷ (4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t		2.3		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
間接労務費		式		1		
工場純工事費		式		1		
工場管理費		式		1		
（工場製作原価）		式		1		
鋼橋上部		式		1		
工場製品輸送工		式		1		
輸送工		式		1		
輸送		t		487.1		
工場製品輸送工 （指定部分）		式		1		
輸送工		式		1		
輸送		t		289.8		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
鋼橋架設工		式		1		
地組工		式		1		
地組		式		1		
架設工(ｸﾚｰﾝ架設)		式		1		
ﾍﾞﾝﾄ設備		式		1		
ﾍﾞﾝﾄ基礎		式		1		
桁架設 (1)	連続合成少数鈑桁	式		1		
桁架設 (2)【夜間】	連続合成少数鈑桁	式		1		
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ設置		本		326		
支承工		式		1		
大型ｺﾞﾑ支承設置	高面圧ｺﾞﾑ支承	個		9		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
現場継手工		式		1		
本締めﾎﾞﾙﾄ		本		23,060		
床版工		式		1		
合成床版工		式		1		
床版架設 (1)		m2		1,651		
床版架設 (2)【夜間】		m2		374		
鉄筋	SD345 D16～25	式		1		
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	式		1		
床版工 (指定部分)		式		1		
合成床版工		式		1		
合成床版材料費 【JR工事支給】		m2		859		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
橋梁付属物工		式		1		
伸縮装置工		式		1		
鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (1)	二重止水装置付き伸縮装置	m		16.6		
鋼･ｺﾞﾑ製伸縮装置 (2)	歩道用伸縮装置	m		6.9		
排水装置工		式		1		
排水設備 (1)		式		1		
壁高欄ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式		1		
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3		123		
型枠		式		1		
鉄筋 (1)	SD345 D13	t		26.18		
鉄筋 (2)	SD345 D13 ｴﾎﾟｷｼ樹脂塗装	t		0.37		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
目地板	樹脂発泡体(30倍発泡)t=10	m2		0.3		
目地	Vｶｯﾄ	m		32		
巻立てｺﾝｸﾘｰﾄ工		式		1		
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3		44		
型枠		式		1		
鉄筋	SD345 D13	t		1.44		
歩車道境界ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式		1		
歩車道境界ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=24N/mm2	m3		0.2		
照明柱受台ｺﾝｸﾘｰﾄ工		式		1		
ｺﾝｸﾘｰﾄ	σck=30N/mm2	m3		2		
型枠		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
鉄筋	SD345 D13	t		0.24		
検査路工		式		1		
検査路階段(1)		箇所		1		
検査路階段(2)		箇所		1		
剥落防止工		式		1		
剥落防止	ｱﾗﾐﾄﾞﾒｯｼｭｼｰﾄ	m2		55		
銘板工		式		1		
橋名板	600×400×13	枚		1		
橋歴板	300×200×13	枚		1		
橋梁付属物工(指定部分)		式		1		
排水装置工		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
排水設備 (2)【JR工事支給】		式		1		
落下防止工		式		1		
落下防止柵材料費 【JR工事支給】	H=1.890m	m		43		
落下防止網材料費 【JR工事支給】	φ3.2×56	m		219		
道路照明設備工		式		1		
道路照明設備設置工		式		1		
道路照明灯設置	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	基		3		
配管･配線工		式		1		
地中配管	FEP管 径 30ｍｍ	m		6		
屋内配管	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	m		167		
屋外配管	金属製可とう電線管 径 30ｍｍ	m		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
屋外配線	EM-CE3.5sq-3c	m		242		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置工		式		1		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	個		6		
道路照明設備工 (指定部分)		式		1		
道路照明設備設置工		式		1		
道路照明灯材料費 【JR工事支給】	ﾍﾞｰｽﾌﾟﾚｰﾄ式 12m	基		2		
配管･配線工		式		1		
屋内配管材料費 【JR工事支給】	合成樹脂可とう電線管 径 28ｍｍ	m		62		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ設置工		式		1		
ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ材料費 【JR工事支給】	溶融亜鉛ﾒｯｷ 150×150×150	個		2		
鋼橋足場等設置工		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
橋梁足場工		式		1		
架設足場 (1)	少数Ｉ桁	式		1		
架設足場 (2)【夜間】	少数Ｉ桁	式		1		
橋梁防護工		式		1		
板張防護		式		1		
昇降用設備工		式		1		
登り桟橋		式		1		
仮設工		式		1		
作業ﾔｰﾄﾞ整備工 (1)		式		1		
H鋼杭 (1)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本		32		
H鋼杭 (2)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本		16		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
H鋼杭 (3)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本		32		
H鋼杭 (4)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本		16		
覆工板･覆工板受桁 (1)	1000×208×2000 設置･撤去	m2		16		
覆工板･覆工板受桁 (2)	1000×208×2000 設置･撤去	m2		8		
覆工板･覆工板受桁 (3)	1000×208×2000 設置･撤去	m2		16		
覆工板･覆工板受桁 (4)	1000×208×2000 設置･撤去	m2		8		
現場発生品運搬 (1)	溝形鋼	t		3.96		
作業ﾔｰﾄﾞ整備工 (2)		式		1		
H鋼杭 (5)	H300 H鋼長さ(杭長) 17.5m H鋼平均打込長 0m H型鋼平均引抜長 17.2m	本		16		
H鋼杭 (6)	H400 H鋼長さ(杭長) 11m H鋼平均打込長 0m H型鋼平均引抜長 10.7m	本		445		
覆工板･覆工板受桁 (5)	1000×208×2000 撤去	m2		8		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
覆工板･覆工板受桁 (6)	1000×208×2000 撤去	m2		532		
現場発生品運搬 (2)	溝形鋼	t		43.7		
交通管理工		式		1		
交通誘導警備員 (1)	誘導員B	式		1		
交通誘導警備員 (2)【夜間】	誘導員B	式		1		
直接工事費		式		1		
共通仮設費		式		1		
共通仮設費		式		1		
運搬費		式		1		
重建設機械分解組立費		式		1		
重建設機械分解組立輸送費		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
仮設材運搬費		式		1		
技術管理費		式		1		
道路施設基本ﾃﾞｰﾀ入力費		式		1		
現場環境改善費（率計上）		式		1		
共通仮設費（率計上）		式		1		
純工事費		式		1		
現場管理費		式		1		
（現場原価）		式		1		
工事原価		式		1		
一般管理費等		式		1		
工事価格		式		1		

工事数量総括表

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事　　（ 当　　初 ）

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量（前回）	数量（今回）	数量増減	摘要
消費税相当額		式		1		
工事費計		式		1		

Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ
東田中高架橋上部工事

特　記　仕　様　書

令和７年８月

国土交通省関東地方整備局

常陸河川国道事務所

第１章　総則

第１条　適用

１．この特記仕様書は、関東地方整備局 土木工事共通仕様書(令和７年度版)（以下「共通仕様書」という。)でいう特記仕様書で、本工事の施工に適用する。

２．この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。

３．この特記仕様書に添付されていない別紙様式等については以下URLよりダウンロードするものとする。

URL　https://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000015.html

４．本工事における「条件明示」については、別紙－１「明示項目および明示事項」に記載のとおりとする。

第２条　条件明示チェックリスト開示の試行工事

１．本工事は、入札公告時に条件明示チェックリストを開示し、契約後に条件明示チェックリストにより現場条件等を受発注者間で確認する「条件明示チェックリスト開示の試行工事」である。

２．本工事は、工事契約後、現地作業着手前の段階において、設計審査会等により、別紙－４に示す条件明示チェックリストにて、受発注者間において工事に必要な関係機関との調整、住民合意、用地確保、法的手続きなどの状況を確認するものとし、確認結果は議事録等により受発注者間で共有するものとする。

なお、条件の確認にあたっては、書類の簡素化を図るため、既存資料等による開催に努め、過度な資料作成は行わないものとする。

３．上記２．の確認の結果、条件明示内容に変更が生じ、設計変更が必要となる場合は監督職員と協議すること。

４．本試行に関するアンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

第３条　主任(監理)技術者等（契約書第１０条）

本工事の主任技術者又は監理技術者は、受注者が提出した競争参加資格確認申請書に記述した配置予定の技術者でなければならない。

第４条　主任技術者等の専任期間

１．契約締結日の翌日から工事の始期までの期間については、主任技術者又は監理技術者の配置を要しない。

２．契約締結日の翌日から現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。

３．工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続後、後片付け等のみが残っている期間については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限って、主任技術者又は監理技術者の工事現場での専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日（例：「完成通知書」等における日付）とする。

４．主任技術者又は監理技術者が技術研鑽のための研修、講習、試験等で短期間工事現場を離れる場合は、適切な施工ができる体制を確保したうえで、監督職員の承諾を得るものとする。

第５条　専任特例１号の場合の監理技術者又は主任技術者の配置

本工事は、建設業法第26条第３項第一号の規定の適用を受ける監理技術者又は主任技術者の配置は認めない。

第６条　専任特例２号の場合の監理技術者の配置

本工事は、建設業法第26条第３項第二号の規定の適用を受ける監理技術者の配置は認めない。

第７条　総合評価施工計画書

１．受注者は、技術資料に記述したＶＥ提案及び施工計画について、競争参加資格の確認結果通知時に「施工不可」または「不採用」と通知された提案を除き、施工計画書に記載し施工しなければならない。ただし、これにより難い場合は、監督職員への協議を経て、施工計画書を作成するものとする。

２．施工条件等の変更により、技術資料に記述したＶＥ提案及び施工計画の内容に基づく施工が出来ない場合は、監督職員と協議するものとする。

なお、ペナルティの採否については、「総合評価落札方式の適用ガイドライン」による。

３．受注者の責により入札時の「鋼橋架設における施工上配慮すべき具体的な施工計画」が実施されていないと判断された場合は、ペナルティーとして当該工事成績評定を減ずることとする。ＶＥ提案の内容が実施されていないと判断された場合は、実施されなかった評価項目ごとに５点を減ずる。

第８条　コリンズ（CORINS）への登録

１．工事カルテの作成、登録については、土木工事共通仕様書「1-1-1-7コリンズ（CORINS）への登録」によるものとする。

２．受注者は、工事受注後又は施工中において当該工事に係る悪質で不誠実な行為(一括下請負等)が発覚し、指名停止の措置を受けた場合は、登録済みの工事カルテの取り下げを行うものとする。

３．技術者の従事期間は、工期をもって登録するものとする。（余裕期間を含まないことに留意するものとする。）

第９条　コリンズ（CORINS）への位置情報の入力

土木工事共通仕様書1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、位置情報については以下のとおりとし、工事場所および座標（緯度、経度）を記載するものとする。なお、座標は、世界測地系（JGD2024）に準拠する。

起点 茨城県石岡市北根本地先　緯度 36° 10’ 20”　経度 140° 17’ 43”

終点 茨城県石岡市東田中地先　緯度 36° 10’ 22”　経度 140° 17’ 52”

第１０条　コリンズへの工事概要の入力

土木工事共通仕様書1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を受注時に作成するにあたり、工事概要について必須登録とし、記載例を参考にすること。

記載例）

本工事は、一般国道６号千代田石岡バイパスにおいて、東田中高架橋（上り線）上部

エの製作及び架設を行うものである。

主な工種は、工場製作工　約678tのほか、工場製品輸送工、鋼橋架設工、床版工、橋梁付属物工、道路照明設備工、鋼橋足場等設置工、仮設工であり、それぞれ１式を予定している。

第１１条　コリンズへの設計業務名およびテクリス番号の入力

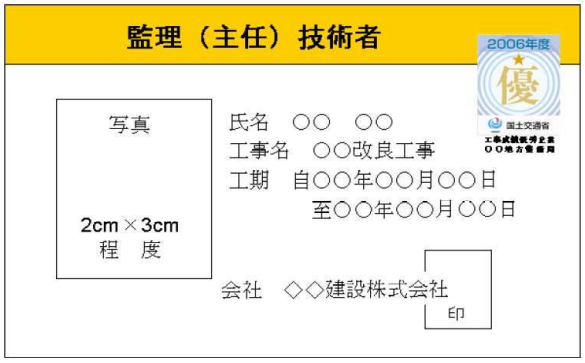
土木工事共通仕様書1-1-1-7 コリンズ（CORINS）への登録に定める「登録のための確認のお願い」を作成するにあたり、設計業務名およびテクリス番号を登録すること。設計業務名およびテクリス番号については以下のとおりとする。

コリンズへ登録する業務名およびテクリス番号

業務名	テクリス番号
Ｒ１年度国道６号千代田石岡バイパス橋梁詳細設計業務	4040332365

第１２条　施工体制台帳

工事成績優秀企業に認定され、認定有効期限内に、工事発注の契約を行った工事の監理技術者、主任技術者（工事成績優秀企業に認定された下請負を含む）は、工事成績優秀企業認定マークの使用や金色帯線（黄色もしくは橙色の帯線でも可）を名札上部に印刷することが出来るものとする。



注意１）用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注意２）所属会社の写真とする。

第１３条　調査・試験に対する協力（低入札価格調査制度調査対象工事について）

１．契約担当官等が工事の中間において技術検査の必要を認めた場合は、速やかに監督職員の指示に従い、検査を受けなければならない。なお、検査は工事請負契約書及び共通仕様書に適用する条項に準じて行うものとする。

２．予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、受注者は下記の調査に協力しなければならない。

１）受注者は、下請負者の協力を得て間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事 においては共通費実態調査票）の作成を行い、工事完了後、速やかに発注者に提出するものとする。

２）受注者は、提出された間接工事費等諸経費動向調査票（営繕工事においては共通費実態調査票）の費用の内訳についてヒアリング調査に応じるものとする。この場合において、受注者は下請負者についてもヒアリングに参加させるものとする。

３）工事コスト調査（調査結果でも可）に係る資料は、下記のとおりとし、関東地方整

備局又は常陸河川国道事務所のホームページにより公表する。

４）低入札価格調査と工事コスト調査の結果に大きな乖離がある場合、又は、工事コスト調査資料の提出が無い場合には、工事成績評点を減点する場合がある。

なお、低入札価格調査対象工事については、工事コスト調査終了後に、工事成績評点を通知する。

公表資料は以下のとおり。

資料名	内　訳
低価格理由とその詳細	当該工事が低価格で施工可能となる理由を示した資料
比較表－１	積算内訳書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－２	積算内訳書に対する明細書の発注者と元請における当初と実績の比較表
比較表－３	元請の手持ち資材の当初と実績の比較表
比較表－４	元請の資材購入先一覧の当初と実績の比較表
比較表－５	手持ち機械の当初と実績の比較表
比較表－６	労務者確保計画の当初と実績の比較表
比較表－７	工種別労務者配置計画の当初と実績の比較表
比較表－８	建設副産物の搬出の当初と実績の比較表
諸経費動向調査（工事費）	元請、下請の工事費内訳

※別紙様式－０参照

第１４条　低入札契約におけるモニターカメラの設置

本工事は、予算決算及び会計令第８５条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、工事の監督補助としてモニターカメラの設置を行う対象工事とする。

なお、モニターカメラの設置費用については、発注者の負担によるものとする。

第１５条　不可視部分の出来形管理について

予算決算及び会計令第８５条の基準に基づく価格を下回る価格で落札した場合においては、ビデオカメラを用いた出来形管理を行うこととし、撮影した映像については監督職員に提出するものとする。

なお、対象とする工種の不可視部分は別途監督員より指示する。

第１６条　不具合等発生時の措置

受注者は、工事施工途中に工事目的物や工事材料等の不具合等が発生した場合、又は公益通報者等から当該工事に関する情報が寄せられた場合には、その内容を監督職員に直ちに通知しなければならない。

第１７条　工事書類の作成について

１．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類作成マニュアル（令和７年３月）」に基づき実施するものとする。

２．工事書類の作成に当たっては、別に定める「土木工事電子書類スリム化ガイド（令和７年３月）」を参考に書類の電子化、受発注者間での作成書類の役割分担の明確化、書類の削減等に留意すること。

３．「工事関係書類一覧表」（別紙様式－１５）により、工事着手前に「作成書類の役割

分担」、「作成書類の位置付け」に関して「協議」するものとする。
また、「協議」の内容を変更する場合は、改めて、受発注者で協議を行うものとする。

４．電子により提出、提示した書類については、検査時その他の場合においても紙での提示、提出は行わないものとする。

第１８条　設計図書の照査

発注者は、設計図書の照査の範囲を超える資料の作成については、監督職員の指示とし、その作成費用は、設計変更の対象とする。なお、設計変更の対象については、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和７年３月」によるものとする。

第１９条　情報共有システムの活用

１．本工事は、監督職員及び受注者の間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの活用対象工事である。なお、活用にあたっては「土木工事・業務の情報共有システム活用ガイドライン」（令和7年3月版）に基づき実施すること。

２．受注者は、本工事で使用する情報共有システムを選定し、使用する情報共有システムは次の要件を満たすものとする。

・工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件（Rev5.7）令和7年3月版
国土交通省（国土技術政策総合研究所）

３．監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行うものとする。また、利用開始日、必要なユーザーＩＤ数、ディスク容量等の仕様やワークフロー機能の対象者等については、監督職員の確認を得た上で決定すること。

４．受注者は、サービス提供者と次の内容を含めた契約を締結するものとする。

①情報共有システムに関する障害を適正に処理、解決できる体制を整える旨

②サービス提供者が善良なる管理者の注意をもってしても防御し得ない不正アクセス等により、情報漏洩、データ破壊、システム停止等があった場合、速やかに受注者に連絡を行い適正な処置を行う旨

③②の場合において、サービス提供者に重大な管理瑕疵があると監督職員若しくは受注者が判断した場合、又は復旧若しくは処理対応が不適切な場合には、受注者はサービス提供者と協議の上情報共有システムの利用を停止することができる旨

５．受注者は、監督職員等から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第２０条　設計・施工技術連絡会議(三者会議)の設置

本工事は、公共工事の品質確保及び円滑な事業執行を目的として、発注者、設計者、施工者（工事受注者）の三者が工事着手前等において一堂に会して、事業目的、設計思想・条件等の情報の共有及び施工上の課題、新たな技術提案に対する意見交換等を行う「設計・施工技術連絡会議（三者会議）」（以下、「三者会議」という。）の設置対象工事であり、工事着手前に１回以上開催するものとする。

「三者会議」の運用にあたっては、「設計・施工技術連絡会議（「三者会議」） 運用方針」（http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html）によるものとする。

第２１条　設計審査会の設置

本工事は、発注者と受注者が一堂に会して、現場着手前（準備期間内）に工事工程クリテ ィカルパスの共有及び工事工程の照合（クロスチェック）を実施し、併せて協議資料作成等の受発注者間の役割分担を明確にする場、また、設計変更手続きの透明性と公正性の向上及び迅速化のため、設計変更の妥当性の審議及び設計変更等に伴う工事中止等の判断等を行う場として開催する「設計審査会」（以下、「審査会」という。）の設置対象工事である。

「審査会」の運用にあたっては、「設計審査会設置運用方針 」（http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.html）によるものとする。

第２２条　工事環境の改善

本工事の実施にあたっては、工事環境の改善に取り組むウィークリースタンスを考慮するものとする。

ウィークリースタンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページhttps://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.htmlに掲載している工事環境改善実施要領に基づき、監督職員と確認・調整した内容について取り組むものとする。

第２３条　ワンデーレスポンスについて

１．この工事はワンデーレスポンス実施対象工事である。

・「ワンデーレスポンス」とは

受注者からの質問、協議等への回答は、基本的に「その日のうち」に指示、通知等行うよう対応する。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」に通知することである。

２．受注者は計画工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議をおこなうこと。

３．受注者は工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。

４．ワンデーレスポンスの実施にあたっては、関東地方整備局ホームページhttps://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/gijyutu00000039.htmlに掲載しているワンデーレスポンス実施の手引き（令和５年１２月）に基づき、取り組むものとする。

５．効果・課題等を把握するためアンケート等のフォローアップ調査を実施する場合があるため、協力すること。

第２４条　契約内容の変更手続きについて

本工事における契約内容の変更は、以下によるものとする。

①本工事における設計変更や契約変更は書面に基づき行うことを徹底し、指示書・協議書があるもののみを契約変更の対象とする。

②受注者は、工事期間中及び工事完成後において、監督職員から契約図書の規定に違反する等の不適切な指示を受けたと思料されるときは、当該監督職員を経由せずに、事務所長へ直接又は契約担当課長経由で書面により、その旨を報告することができる。

第２５条　設計変更等

設計変更等については、契約書第18条から第25条及び共通仕様書共通編1-1-1-16から

1-1-1-18に記載しているところであるが、その具体的な考え方や手続きについては、「土木工事における工事請負契約における設計変更ガイドライン（総合版）：令和７年３月」によることとする。

第２６条　契約変更手続きの透明性を確保するための第三者による適正性チェックの試行

１．本工事は、契約変更手続きの透明性を確保するため、契約変更前に必要に応じて第三者による適正性チェックを実施する試行工事である。

２．第三者による適正性チェックの実施は、発注者が対応するものとし、実施にあたっては、既存資料等による実施に努め、過度な資料作成は行わないものとする。

第２７条　スライド条項

工事請負契約書第２６条（スライド条項）については、物価水準の変動により請負代金が不適当となったと認められた時に、相手方に請負代金の変更を請求することができる条項となっている。

単品スライドについては、鋼材類・燃料油の他、コンクリート類、購入土などの主要工事材料も対象となるので、物価水準の変動により請負代金が不適当となった場合には、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。

第２８条　工事現場発生品

１．架設架台から発生する鋼材の引渡し場所は、恋瀬ロードパーク資材置場(運搬距離L=5.1㎞)とする。

２．現場発生品は下表のとおりとする。

品目	規格	単位	数量	摘要
溝形鋼	[-300×90×9×13×1000	本	644	24.53t
溝形鋼	[-300×90×9×13×2000	本	280	21.33t
HTB	M22×65	組	3342	1.80t

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第２９条　公共建設工事における分別解体等・再資源化等及び再生資源活用工事実施要領（土木）

１．特定建設資材の分別解体等の再資源化等

①本工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律((平成12年法律第104　号 最終改正令和4年6月17日法律68号)。以下「建設リサイクル法」という。）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「８解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。ただし工事発注後に明らかになった事情により予定した条件により難い場合は監督職員と協議するものとする。

１）分別解体等の方法

工	工程	作業内容	分別解体等の方法

程ごとの作業内容及び解体方法	①仮設	仮設工事 ■有　□無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ■有　□無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ■有　□無	□手作業 □手作業・機械作業の併用
	⑥その他	その他の工事 □有　■無	□手作業 □手作業・機械作業の併用

２．その他

工事発注後に明らかになった事情により予定していた条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第３０条　建設リサイクル法第１１条通知の徹底

受注者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成１２年５月３１日法律第１０４号）第１１条に基づく、都道府県知事に対する通知を行った旨の書面を監督職員より受領した後に、工事着手（建設リサイクル法第１０条第１項に規定する工事着手をいう。）するものとする。なお、これによりがたい場合は監督職員と協議の上決定するものとする。

第３１条　コンクリート副産物から再生された資材について

１．コンクリート副産物から再生された資材を利用する場合には、「コンクリート副産物の再生利用に関する用途別品質基準」によるものとする。

２．受注者は、コンクリート副産物から再生された資材の利用を希望する場合は、工事着手時にその適用の有無を監督職員と協議するものとする。

３．受注者は、工場が発行する再生骨材コンクリートの配合計画書及び納入書を整備および管理し、監督職員または検査職員からの請求があった場合は速やかに提示しなければならない。

４．受注者は、再生骨材コンクリートの品質を確かめるための検査をJIS A 5022（再生骨材Ｍを用いたコンクリート）、JIS A 5023（再生骨材Ｌを用いたコンクリート）により実施しなければならない。また、再生骨材Ｍを用いたプレキャストコンクリート製品の検査については、JIS A 5365（プレストキャストコンクリート製品－検査方法通則）により実施しなければならない。なお、生産者等に検査のため試験を代行させる場合は受注者がその試験に臨場しなければならない。

５．再生骨材コンクリートの配合については、「土木工事共通仕様書第１編３－３－３

配合」に従うものとする。

第３２条　工事完成図等の作成について

本工事は、道路工事完成図等作成要領（第２版）（国土技術政策総合研究所資料、平成20年12月）に基づく電子納品の対象工事である。

http://www.nilim-cdrw.jp/dl_std.html

第３３条　完済部分検査

本工事については、工事の完成に先立って、下記のとおり指定部分の部分引渡しを行うものとする。指定部分の部分引渡し場所は現場内を予定しているが、引渡し場所は監督職員の指示によるものとする。

対象工種	対象範囲	完成期間（指定部分）
工場製作工 （桁製作工、検査路製作工、鋳造費、工場塗装工） 工場製品輸送工 床版工 橋梁付属物工 道路照明設備工	J11～J18 （別途図示）	契約の翌日から令和8年10月15日まで

第３４条　施工管理

１．本工事の施工管理は、関東地方整備局土木工事施工管理基準及び規格値(令和７年度版)によるものとする。なお、この管理基準により難い場合及び基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。

２．本工事の写真管理は、関東地方整備局土木工事写真管理基準（令和７年度版）によるものとする。なお、「撮影項目」、「撮影頻度」等が工事内容に合致しない場合は、監督職員の指示により追加、削減するものとする。

３．本工事の施工管理における適用工種毎の基準類は、ＩＣＴ活用工事実施要領(令和７年３月改定)の関連要領等一覧（ＵＲＬ「https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html」）によるものとする。

第３５条　デジタル工事写真の小黒板情報電子化について

デジタル工事写真の小黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

工事では、以下の１．から４．の全てを実施することとする。

１．対象機器の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、関東地方整備局土木工事写真管理基準（令和7年度版）（以下、写真管理基準）「2-2撮影方法」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、「電子政府における調達のために参照すべき暗

号のリスト(CRYPTREC暗号リスト)」（URL「https://www.cryptrec.go.jp/list.html」）に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、本工事での使用機器について提示するものとする。

なお、使用機器の事例を以下に示す。

【使用機器の事例】

デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応ソフトウェア，（一社）施工管理ソフトウェア産業協会，<https://www.jcomsia.org/kokuban>.

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

２．デジタル工事写真における小黒板情報の電子的記入

受注者は、同条１．の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黒板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黒板情報の電子的記入を行う項目は、写真管理基準「2-2撮影方法」による。

ただし、対象工事において、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、対象機器の使用が困難な工種については、使用機器の利用を限定するものではない。

３．小黒板情報の電子的記入の取扱い

本工事の工事写真の取扱いは、写真管理基準及びデジタル写真管理情報基準（以下、デジタル写真管理情報基準）に準ずるが、同条２．に示す小黒板情報の電子的記入については、写真管理基準「2-5 写真編集等」及びデジタル写真管理情報基準「6.写真編集等」で規定されている写真編集には該当しない。

４．小黒板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、同条２．に示す小黒板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黒板情報電子化写真」と称する。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者は改ざん検知機能（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黒板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

また、下記のチェックツールを使用して信憑性確認を行い、結果を出力したものでもよい。

【チェックツールの事例】

信憑性チェックツール（一社）施工管理ソフトウェア産業協会
<https://www.jcomsia.org/kokuban>.

※ここでは使用機器の事例を示したものであり、この使用機器の事例からの選定に限定するものではないなお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を実施しない工事写真がある場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得ること。

第３６条　ＩＣＴ活用工事（構造物工（橋梁上部））について

１．ＩＣＴ活用工事

本工事は、国土交通省が提唱するi-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。

２．定義

（１）i-Constructionとは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最

適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。

（２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ＩＣＴ施工技術を全面的に活用する工事である。また、次の②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。

対象は、橋梁上部工事とする。

① 該当なし
② ３次元設計データ作成
③ 該当なし
④ ３次元出来形管理等の施工管理
⑤ ３次元データの納品

３．受注者は、ＩＣＴ施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下４～８によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。

４．原則、本工事においては上記②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし構造物工（橋梁上部工）等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容及び対象範囲・数量を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。

５．ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。

①該当なし

②３次元設計データ作成

受注者は、発注者が貸与する発注図データを用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。

ＩＣＴ構造物工（橋梁上部工）の施工管理においては、３次元設計データ（TIN）形式での作成は必要としない。

なお、ＩＣＴ構造物工（橋梁上部工）の３次元設計データとは、３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（構造物工（橋梁上部工））で定義する構造工（橋梁上部）設計データのことを言う。

③該当なし

④３次元出来形管理等の施工管理

（１）出来形管理

構造物工（橋梁上部工）等の施工管理において、以下１）～４）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとする。

１）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
４）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理

なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記１）～４）のＩＣＴ施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなど出来形管理を行っても良いものとする。

（２）出来形管理基準および規格値

出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（１）で定める計測技術を用い

以下１）の出来形管理要領によるものとする。

１）３次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）

（３）出来形管理帳票

現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の３次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の３次元設計データあるいは平面図を提出することとする。

⑤３次元データの納品

５．②④により作成した３次元データを工事完成図書として電子納品する。

６．上記５．②④⑤の施工を実施するために使用するＩＣＴ機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。

発注者は、３次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。

７．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。

８．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。

第３７条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について

１．図面

図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。

なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。

第３８条　ＩＣＴ活用工事の費用について

１．受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき以下の（１）により費用を計上することとする。

・ＩＣＴ活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領

（１）３次元設計データの作成費用

３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。

なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

なお、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計

上はしないものとする。

２．施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。

第３９条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査

ＩＣＴ活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。

施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。

調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第４０条　現場環境改善（快適トイレの設置）

１．内 容

受注者は、現場に以下の（１）～（11）の仕様を満たす快適トイレを設置することを原則とする。

（12）～（17）については、満たしていればより快適に使用出来ると思われる項目であり、必須ではない。

【快適トイレに求める機能】

（１）洋式（洋風）便器

（２）水洗及び簡易水洗機能（し尿処理装置付き含む）

（３）臭い逆流防止機能

（４）容易に開かない施錠機能

（５）照明設備

（６）衣類掛け等のフック、又は、荷物の置ける棚等（耐荷重を５kg 以上とする）

【付属品として備えるもの】

（７）現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示

（８）周囲からトイレの入口が直接見えない工夫

（９）サニタリーボックス（女性用トイレに必ず設置）

（10）鏡と手洗器

（11）便座除菌クリーナー等の衛生用品

【推奨する仕様、付属品】

（12）室内寸法900㎜×900㎜ 以上（面積ではない）

（13）擬音装置（機能を含む）

（14）着替え台

（15）臭気対策機能の多重化

（16）室内温度の調整が可能な設備

（17）小物置き場（トイレットペーパー予備置き場等）

２．快適トイレに要する費用

快適トイレに要する費用については、当初は計上していない。

受注者は、上記１の内容を満たす快適トイレであることを示す書類を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとし、精算変更時において、見積書を提出するものとする。

【快適トイレに求める機能】（１）～（６）及び【付属品として備えるもの】（７）～（11）の費用については、従来品相当を差し引いた後、51,000 円/基・月を上限に設

計変更の対象とする。

なお、設計変更数量の上限は、男女別で各１基ずつ２基／工事までとする。

また、運搬・設置費は共通仮設費（率）に含むものとし、２基／工事より多く設置する場合や積算上限額を超える費用については、現場環境改善費(率)を想定しており、別途計上は行わない。

３．快適トイレの「質の向上」に要する費用

快適トイレの「質の向上」として、積算上限額を超える費用について現場環境改善費（率）を充当することができる。現場環境改善費（率）の充当を希望する場合は、上記２．の協議時に見積書を添付し、規格・基数等の詳細について監督職員と協議することとする。

なお、現場環境改善費（率）を充当することにより、特記仕様書に明示されたその他の費目の実施が困難な場合には、実施費目数の変更を合わせて協議することとする。

４．その他

快適トイレの手配が困難の場合は、監督職員と協議の上、本条項の対象外とする。

第４１条　BIM/CIM適用工事について

本工事は、BIM/CIM 適用工事（発注者指定型）である。

少なくとも以下に示す義務項目について、BIM/CIM を適用する。さらに、発注者が示す課題や効率化等を求める内容を踏まえ、BIM/CIM 取扱要領「附属資料１ 推奨項目一覧」や過去の取組事例等を参考にして、受発注者で実施内容や納品方法について協議し決定する。

受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。

BIM/CIM 適用工事に要する費用については、当初は計上していない。３次元モデルを作成または加工する場合は、受発注者間の協議に基づき、設計変更を行うものとする。

活用内容	活用内容の詳細
〔義務項目〕	
施工計画の検討補助	詳細設計等で作成された３次元モデルを閲覧し、施工計画を検討する際の参考にする。
２次元図面の理解補助	詳細設計等で作成された３次元モデルを閲覧し、２次元図面を理解する際の参考にする。
現場作業員等への説明	詳細設計等で作成された３次元モデルを用いて、現場作業員等に工事の完成イメージ等を説明し、現場作業員等の理解促進を図る。
〔推奨項目〕	
現場条件の確認	３次元モデルに建機等を配置し、近接物の干渉等、施工に支障がないか確認する。
施工ステップの確認	一連の施工工程のステップごとの３次元モデルで施工可能かどうかを確認する。
出来形管理への活用	省力化、省人化を図るため、３次元モデルとレーザー測量等を組み合わせて、構造物の出来形計測を行う。。

（参考）３次元モデル作成の目安

詳細度	２００～３００程度※１

	※１　構造形式がわかるモデル～主構造の形状がわかるモデル
属性情報※２ ※２　部材等の名称、規格、仕様等の情報	オブジェクト分類名※３のみ入力し、その他は任意とする。 ※３　道路土構造物、橋梁等の分類の名称

１．BIM/CIM 実施計画書の作成

受発注者において、BIM/CIM の実施内容や、納品方法等を協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、提出する。内容に変更が生じた場合は、受発注者間で協議し、BIM/CIM 実施（変更）計画書を作成する。

また、作成したBIM/CIM 実施計画書（変更含む）に基づき、本工事を実施する。

１）工事概要
２）整理すべき課題
３）BIM/CIM の実施内容（３次元モデルの活用内容、期待する効果等）
４）３次元モデルの作成仕様（作成範囲、詳細度、属性情報、別業務等で作成された３次元モデルの仕様等）
５）３次元モデルの作成に用いるソフトウェア、オリジナルデータの種類
６）３次元モデルの閲覧、データ共有ができるソフトウェアの種類、成果物の納品ファイル形式
７）３次元モデルの作成担当者
８）３次元モデルの作成・活用に要する費用

２．BIM/CIM 実施報告書の作成

BIM/CIM 実施計画書に基づき実施した内容について、BIM/CIM 実施報告書を作成する。以下の内容をBIM/CIM 実施計画書に追記して作成する。

９）後段階への引継事項（データ活用時の留意点、更なる検討が必要な内容、２次元図面との整合等）
10）省人化の効果（前段階から引き継いだデータの活用により省人化した効果、３次元での検討により省人化した効果等）

３．成果物の納品

以下の内容を納品する。様式については別添資料を参照すること。

１）BIM/CIM 実施計画書・見積書（変更含む）
２）BIM/CIM 実施報告書（３次元モデル作成引継書シート、３次元モデル照査時チェックシートを含む）
３）作成した３次元モデル（オリジナルデータ、標準的なデータ形式（J-LandXML 形式、IFC 形式）、統合モデル、動画等）

４．貸与資料

本工事に関連する以下の業務等において作成した３次元モデルのデータを貸与することができる。

・Ｒ１年度国道６号千代田石岡バイパス橋梁詳細設計業務

５．その他

最新の情報はBIM/CIMポータルサイト（https://www.nilim.go.jp/lab/qbg/bimcim/bimcimindex.html）で提供されているので、適宜参照すること。

第４２条　ＤＸデータセンターの使用

本工事はDX データセンターを使用することで、VDI による専用ソフトの利用及び受発注者間のデータ共有の円滑化を図る工事である。

３次元モデルを活用するにあたり、受注者が希望する場合、国土技術政策総合研究所が運用するDX データセンターにインストールされている専用ソフトウェアを使用することができる。

ＤＸデータセンター内の有償ソフトウェアを使用する場合は、受注者が有償ソフトウェアの使用契約手続きを行うものとする。

なお、ＤＸデータセンターの詳細については、ＤＸデータセンターの参考資料（https://dxportal.nilim.go.jp/exonym/reference）及びポータルサイト（https://dxportal.nilim.go.jp/exonym）を参照すること。

第４３条　工事中の安全確保

１．工事の施工にあたっては、関東地方整備局長が定める「重点的安全対策」について留意し、工事事故の防止を図らなければならない。

なお、令和７年度における重点的安全対策項目は以下の７項目である。

Ⅰ．架空線等上空施設の損傷事故防止
Ⅱ．建設機械等の稼働に関連した人身事故防止
Ⅲ．資機材等の下敷きによる人身事故防止
Ⅳ．足場・法面等からの墜落事故防止
Ⅴ．地下埋設物の損傷事故防止
Ⅵ．第三者の負傷・第三者車両等に対する損害
Ⅶ．事故防止

２．受注者は、工事に従事する就業制限業務及び作業主任者を選任する業務における資格者のうち、資格取得後一定期間経過した資格者に対し、次に掲げる再教育の受講が推進されるよう努めるものとする。

①労働安全衛生法第19条の2に基づく足場組立等作業主任者等に対する能力向上教育
②労働安全衛生法第60条の2に基づく車両系建設機械運転従事者、移動式クレーン運転士、玉掛業務従事者等に対する危険有害業務従事者教育
③厚生労働省通達に基づくドラグ・ショベル運転業務従事者等に対する危険再認識教育

３．工事の施工にあたっては、工事等の時期、工事等の方法の概要 及び 工事等を行なう場合における道路交通に対する措置について「道路工事保安施設設置基準（令和元年5月）」に基づき監督職員へ確認を行うものとする。

４．工事中看板、工事情報看板及び工事説明看板の記載内容及び設置箇所については、監督職員の承諾を得るものとする。

５．工事期間中は、夜間における安全確保のため保安要員を巡回させ、道路灯、バリケード等保安施設の保安点検を行うものとする。

６．工事期間中に配置する交通誘導警備員は、以下のとおり計上するものとする。ただし、交通管理者等との協議条件など社会的要件、現地精査に基づき配置人員の変更が必要になった場合は、監督職員と協議するものとする。

工　種	作 業 区 分	交通整理員	備　考
橋梁架設工、床版工、橋梁	夜間作業	２８人（うち有資格誘導員０人）	交代要員含まない 市道5184号線上空

付属物工、橋梁足場等設置工			での作業時
上記以外の作業	昼間作業	４１人（うち有資格誘導員０人）	交代要員含まない
合　計	夜間作業 昼間作業	２８人（うち有資格誘導員０人） ４１人（うち有資格誘導員０人）	

７．UAV 等を使用する際の安全面への配慮について

受注者は、起工測量等においてUAV 等を使用する場合、安全面への配慮として下記URLに基づいてUAV 等を使用すること。

URL https://www.gsi.go.jp/KOUKYOU/sokuryosidou41042.html

第４４条　熱中症対策に資する現場管理費の補正

１．　本工事は、夏季における真夏日などの気候状況を考慮し、工事現場の熱中症対策に掛かる経費に関して「熱中症対策に資する現場管理費の補正」を行う試行工事である。

２．　真夏日の考え方は下記のとおりである。

（１）真夏日の定義

日最高気温が30℃以上の日を指す。

ただし、夜間工事の場合は作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合とする。

（２）試行にあたっての真夏日の計上の考え方

下記①～③のいずれかに該当する場合、真夏日として計上する。

①環境省が公表している暑さ指数（WBGT）が日最高25℃以上の場合。

施工現場から最寄りの環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）が25℃以上となる日を真夏日とみなす。

②気象庁が公表している地上気象観測所の日最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温が30℃以上の日を真夏日とする。

③夜間工事については、作業時間帯の最高気温が30℃以上の場合。

施工現場から最寄りの観測地点における作業時間帯の最高気温が30℃以上、又は暑さ指数（WBGT）が25℃以上の場合を真夏日とする。

なお、休工日においては、上記に該当した場合でも真夏日としない。

上記①～③によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

（３）工期

工事着手から工事完成日までの期間を指す。なお、年末年始休暇６日間、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。

（４）基準日

受発注者協議により、「基準日」を定めるものとする。「基準日」は工事着手日を基本とする。

当該「基準日」より工期末までの期間のうち、真夏日にあたる日数を算出する。

なお、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、現場休工日は含まないものとする。

（５）真夏日率

以下の式により算出された率をいう。

・真夏日率 ＝ 基準日から工期末までの真夏日 ÷ 工期

（６）現場管理費の補正

現場管理費の補正は、工期中の日最高気温の状況に応じて補正値を算出し、現場管理費率に加算する。なお、補正は変更契約において行うものとする。

・補正値（%） ＝ 真夏日率 × 補正係数※

※ 真夏日補正係数：１．２

第４５条　交通誘導警備員の資格

交通誘導警備員については、資格者（警備業法第23条に規定する都・県公安委員会の行う1級又は2級検定に合格した者）又は、経験1年以上の者を配置すること。

なお、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第４６条　仮設工事等の段階点検

受注者は、仮設工の計画、設計及び施工における下記段階及び内容について、監督職員の指示する書式に従い、確認し、提出するものとする。

１）仮設工の設計完了段階(指定仮設については、発注者から提示された設計図書の内容検討完了段階)

現地条件と整合した設計条件で設計され適切な仮設計画書が作成されているかを確認する。(なお、指定仮設については発注者から提示された設計図書が現地条件と整合した設計条件で設計され、安全確保された設計図書になっているかを確認する。)

２）仮設工の施工中間段階

仮設計画書どおりに施工が実施されているか確認する。

３）仮設工の施工完了段階

仮設計画書どおりに施工が実施されているか確認する。

４）仮設工の撤去中間段階

仮設計画書どおりに施工が実施されているか確認する。

第４７条　路上工事の縮減等

受注者は、路上工事による交通への影響の緩和を図るため、施工方法・規制時間帯・施工日数の短縮等の検討を行い、監督職員に提出するとともに工事完了時に実施結果を提出するものとし、路上工事の縮減等に努めるものとする。

第４８条　環境対策(特定調達品目の調達実績の調査について)

受注者は、本工事の資材、建設機械の使用にあたっては、必要とされる強度や耐久性、機能の確保等に留意しつつ、環境物品等の調達の推進に関する基本方針に定められた国土交通省の特定調達品目(以下、「特定調達品目」という)の使用を積極的に推進するものとする。設計図書に定めがあるものについて、特定調達品目への変更が可能である場合は、監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。ただし、東日本大震災の影響により、特定調達品目の使用が困難な場合には、監督職員と協議するものとする。

受注者は、特定調達品目の調達実績の集計を行い、工事完了後（工期が令和８年度以降に及ぶものは、監督職員の指示する日まで）に、電子データにより監督職員に提出するものとする。集計の方法については、監督職員より指示する。

第４９条　環境対策(建設機械の使用)

受注者は、本工事において「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」(昭和62年3月30

日建設省経機第58号)に基づき、低騒音型建設機械の使用原則を図られた場合は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」に基づき指定された低騒音型建設機械を使用するものとする。

第５０条　交通安全管理

受注者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。

１．積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
２．さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
３．過積載車輌、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
４．取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行った場合、さし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
５．建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
６．以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第５１条　特殊車両通行許可関係図書の確認及び提出

共通仕様書１－１－１－３６交通安全管理第１４項における道路法第４７条の２に基づく通行許可の確認は、下記について実施するものとする。また監督職員からの求めがあった場合には確認結果等を提示しなければならない。

①当該車両に関する特殊車両通行許可証
②現場到着地点及び現場出発時における荷姿（荷姿全景、ナンバープレート等通行許可証と照合可能な写真を撮影しておくこと）
③車両通行記録計（タコグラフ）（夜間走行条件の場合のみ）

なお、当該車両の特殊車両通行許可証については、当該経路に関する部分の写しを、共通仕様書１－１－１－３９官公庁等への手続等第３項に基づき、監督職員へ提示するものとする。

第５２条　通行許可等

１．受注者は、建設機械、資材の運搬にあたり、道路法第４７条第１項、車両制限令第３条における一般的制限値を超える車両を通行させようとする場合は、運搬資機材毎に運搬計画（車種区分、車両番号等、車両諸元及び積載重量、資材の積載限度数量、通行経路、許可証等の有効期限等の確認方法と確認頻度）を作成し、施工計画書に記載しなければならない。
２．受注者は、運搬計画どおりに運行していることを確認しなければならない。また、確認を行った資料については、整理保管するとともに、監督職員または検査職員の要求があった場合は速やかに提示しなければならない。

第５３条　工事現場の現場環境改善

１．現場環境改善として実施する内容は、下記のとおりとするが、現場条件等により実施が困難になった場合には、監督職員と協議するものとする。

(1)仮設備関係 環境負荷の低減を実施するものとする。
(2)営繕関係 現場休憩所の快適化を実施するものとする。
(3)安全関係 盗難防止対策(警報器等)を実施するものとする。
(4)地域連携 工事工程表の提示、社会貢献を実施するものとする。

２．現場環境改善については具体的な内容、実施時期について施工計画書に含め提出するものとする。
３．主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策については、工事契約後、監督職員と協議するものとし、現場環境改善費（率）の50%を上限として設計変更の対象とする。

第５４条　工期

１．工期は、雨天、休日等１６２日を見込み、契約の翌日から令和１０年３月１０日までとする。

なお、休日には、日曜日、祝日、年末年始及び夏期休暇の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な日数（実働日数）に加えて以下の日数を見込んでいる。

①準備期間	９０日間
②後片付け期間	２０日間
③雨休率（猛暑日補正有り） （実働工期日数に休日と悪天候による作業不可能日※を見込むための係数）	０．７６

※雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日は以下の通りである。（当該工事の作業不能日ではない。）

イ）１日の降雨・降雪量が１０㎜/日以上の日：２８日間

ロ）８時から１７時までのWBGT値が３１以上の時間を足し合わせた日数：５日間

（少数第１位を四捨五入（整数止め）し、日数換算した日数）

過去５か年（2020年～2024年）の気象庁（水戸観測所）及び環境省（水戸地点）のデータより年間の平均発生日数を算出（雨休率を算出した際の日換算した年間の作業不能日）

２．著しい悪天候や気象状況より工程（官積算）で見込んでいる「天候等による作業不能日」以上に作業を休止せざるを得なかった場合には、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

３．後片付け期間に検査に要する各種電子データの作成を行うことを想定しているが、更なる期間が必要な場合は、受注者は発注者へ工期の延長変更を協議することができる。

４．本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間と実工事期間を合わせた全体工期を設定した工事であり、発注者が示した工事完了期限までの間で、受注者は工事の始期及び終期を任意に設定できる。なお、契約を締結するまでの間に、別紙様式-１６により、工事の始期及び終期を通知すること。

余裕期間内は、現場に搬入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入や仮設物の設置等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

全体工期：契約締結日の翌日から令和１０年３月１０日まで

※　契約締結後において、工期の始期の変更の必要が生じた場合は、監督職員と協議の

上、工期に係る契約を変更することにより、工事に着手することができるものとする。なお、条件の変更がない場合において、契約時に設定した工期の変更は行わない。

第５５条　工事工程クリティカルパスの共有

受注者は、現場着手前（準備期間内）に設計図書等を踏まえた工事工程表（クリティカルパスを含む）を作成し、監督職員と共有すること。工程に影響する事項がある場合は、その事項の処理対応者（「発注者」又は「受注者」）を明確にすること。

施工中に工事工程表のクリティカルパスに変更が生じた場合は、適切に受発注者間で共有することとし、工程の変更理由が以下の①～⑤に示すような受注者の責によらない場合は、工期の延長が可能となる場合があるので協議すること。

①受発注者間で協議した工事工程の条件に変更が生じた場合
②著しい悪天候や気象状況より「天候等による作業不能日」が工程（官積算）で見込んでいる日数から著しく乖離し、かつ、作業を休止せざるを得なかった場合
③工事中止や工事一部中止により全体工程に影響が生じた場合
④資機材や労働需要のひっ迫により、全体工程に影響が生じた場合
⑤その他特別な事情により全体工程に影響が生じた場合

第５６条　工事工程表の開示試行工事

１．本工事は、工期設定の根拠とした工事に必要な関係機関との調整、住民合意、用地確保、法定手続きなどの進捗状況を踏まえた工事工程表を開示するとともに、設計審査会等において工事工程クリティカルパスの共有や発注者が作成する工程と受注者が作成する工事工程の照合（クロスチェック）を行うことにより、適切な工期設定の取組を行う「工事工程表の開示の試行工事」である。
２．工事契約後、設計審査会等において、「前条　工事工程クリティカルパスの共有」により作成した工事工程表を確認し、受注者・発注者間でクリティカルパスの共有を行うものとする。
３．設計審査会等において、発注者が開示した工事工程表（別紙-5）との照合（クロスチェック）を実施し、必要に応じて工期延伸の判断について審査を行うなど、適正な工事工程の確保に努めるものとする。
４．本試行に関するアンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

第５７条　週休２日制適用工事

１．本工事は、監督職員と受注者双方が工程調整を行うことにより、完全週休２日（土日）を達成するよう工事を実施する「現場閉所による週休２日制適用工事（完全週休２日）（受注者希望方式）」の試行工事である。

受注者は、工事契約後、完全週休２日（土日）の取組を希望するか判断の上、発注者に協議するものとし、希望しない場合は月単位の週休２日に取組むものとする。

２．週休２日の考え方は下記のとおりである。

１）週休２日

①完全週休２日（土日）

対象期間内の全ての土日において、現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

受注者の責によらず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に土日に代わる現場閉所日（以下、「代替休日」という。）を設定することによって、土日に現場閉所を行ったとみなす。なお、週の定義は月曜日から日曜日までとする。

②月単位の週休２日

対象期間内の全ての月において、現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」という。）が、28.5%（８日/28 日）以上となる現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。また、天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、１年単位の変形労働時間制を適用し休日を振り替えた場合には、振替後の日を予定どおり閉所した場合に振替前の日を現場閉所を行ったものとみなす。対象期間において、４週８休以上の現場閉所を行ったと認められる状態をいう。

２）対象期間

工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始休暇６日間、夏季休暇３日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間など）は含まない。

また、工事着手後、受注者の責によらず週休２日の実施が困難な期間が生じる場合は、受発注者間で協議して週休２日の対象外とする作業と期間を決定するとともに、変更契約時の設計図書に対象外とする作業と期間を明示する。ただし、対象外とする期間は災害対応等のやむを得ない期間に限定すること。

３）現場閉所

巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて１日を通して現場や現場事務所が閉所された状態をいう。

３．現場閉所を行うときは、監督職員へ事前に連絡すること。ただし、以下に該当する場合は、連絡は不要である。

①施工計画書に記載した法定休日・所定休日の場合

②週間工程会議等により監督職員が事前に把握している場合

③官公庁の休日の場合

完全週休２日（土日）の実施にあたり、受注者の責に寄らず土日に施工を行わざるを得ない場合は、協議により、同一の週に代替休日を設定すること。なお、夜間工事の場合は作業に着手した日を作業日とみなす。

また、天候等による作業環境が厳しい時期を避けることを目的に、１年単位の変形労働時間制を適用し休日を振り替える場合には、振替前後の日にちが把握出来るよう施工計画書に記載しておくこと。

４．監督職員は、受注者の月毎の現場閉所率の状況を適宜確認するものとし、受注者側の週休２日の取組状況が十分でない場合は、受発注者双方において要因を分析し、週休２日が確保できるよう改善に取り組むものとする。

５．工事完了後、週休２日の取得結果が確認できる「取得報告書」を作成し、監督職員に提出するものとする。

６．アンケート調査を実施する場合はこれに協力すること。

７．明らかに受注者側に月単位の週休２日に取り組む姿勢が見られなかった場合については、内容に応じて、工事成績評定から点数を減ずる措置を行うものとする。

８．週休２日に掛かる費用については、当初予定価格から完全週休２日（土日）を達成した場合の補正係数を労務費、市場単価、土木工事標準単価、共通仮設費率、現場管理費率に乗じているが、現場閉所の達成状況を確認後、完全週休２日（土日）が未達成の場合は、月単位の週休２日の補正係数に変更する。月単位の週休２日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

完全週休２日（土日）の取組を希望しない場合は、月単位の週休２日の補正係数に変更する。また、現場閉所の達成状況を確認後、月単位の週休２日が未達成の場合は、補正係数を除して変更する。

第５８条　悪天候等により工期変更が必要となる場合の協議を簡素化する試行

１．受注者は、著しい悪天候により作業不稼働日が多く発生し、工期内に工事を完成することが困難な場合はその理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。

著しい悪天候とは、当該工事の工期月の雨休率が、直近５カ年における工期月の雨休率の平均値を超える場合をいう。

工期月とは、工事着手日から工事完成予定日までの期間のうちの、工期の延長変更請求時までにかかる月（ただし、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は除く）をいう。

なお、本工事の降雨降雪日は、土浦観測所（気象庁のデータ）における1 日の降雨・降雪量雨が10㎜ 以上/日の日を想定している。

２．アンケート調査を行う場合は、これに協力すること。

第５９条　施工時期及び施工時間の変更（作業区分）

１．本工事の作業区分は、下記によるものとする。

作業区分	施工区分	作業時間
昼間作業	下記を除くすべての工事	8：00 ～ 17：00
夜間作業	上部工架設（J20～A2）	20：00 ～ 5：00

※各々の標準作業時間には、日々の作業準備、後片付け、ＫＹ等安全活動なども含まれる。

ただし、上記区分に変更を要する場合は、監督職員と協議するものとする。

２．夜間作業における道路使用許可の時間帯は、21時～５時を見込んでいる。

３．本工事は、近隣に希少猛禽類の生息環境が存在するため、営巣状況等により施工内容に制限が必要となる場合のある工事である。

営巣状況による施工時期等の詳細については、監督職員より指示する。

第６０条　関係機関との協議

本工事は下記に示す内容等について関係機関と協議中である。

１．協議内容

架設による市道の通行止め

（市道5189号線、市道5184号線）

２．協議機関

石岡市役所

３．協議箇所

測点Ｎｏ．598付近、測点Ｎｏ．605付近

４．制約を受ける施工内容

上部工架設（J4～J9、J20～A2）

５．協議成立見込み時期

協議の成立見込み時期等は、下記のとおりである。

令和８年３月

なお、この区間の工事開始の時期は監督職員の指示によるものとする。

第６１条　施工時期及び施工時間の変更

本工事は、下記の工事による影響箇所の工事着手については監督職員の指示によるものとする。

１．影響する他の工事

（１）名称　　：常磐線高浜・石岡間東田中こ線橋増設工事
　　委託　　：東日本旅客鉄道（株）
　　工期　　：令和１０年３月３１日まで

（２）名称　　：Ｒ７常陸河川国道管内バイパス環境整備他工事
　　施工者　：未定
　　工期　　：令和８年９月３０日まで

２．影響箇所

（１）上部工架設　Ａ１～Ｊ１１、Ｊ１８～Ａ２

（２）上部工架設　Ａ１～Ｊ１１

３．他の工事の内容

（１）上部工架設（Ｊ１１～Ｊ１８）

（２）調整池造成工事（Ｐ１橋脚付近）

４．他の工事の開始又は完了の予定時期

（１）開始日　令和８年４月　１日
　　完了日　令和９年２月１０日（作業ヤード引き渡し時期）

（２）開始日　令和８年４月　１日
　　完了日　令和８年９月３０日（作業ヤード引き渡し時期）

５．本工事の現場着手日

令和９年２月１０日

６．他の工事の完了予定時期の変更により、本工事の着手が早まる場合は監督職員と協議するものとする。

第６２条　他工事との調整

１．下記工事の受注業者とは、現場が連続し施工が輻輳することから、施工手順・工程については十分な打ち合わせを行い、工事の円滑な進捗に努めるものとする。

２．本工事との調整工事は以下のとおりとする。

工事名	施工範囲	工期（予定）
常磐線高浜・石岡間東田中こ線橋増設工事 委託　：東日本旅客鉄道（株）	上部工架設 （Ｊ１１～Ｊ１８） 床版工、橋梁付属物工、道路照明設備工 （施工範囲は図示）	令和８年４月１日～ 令和１０年３月３１日
Ｒ７常陸河川国道管内バイパス環境整備他工事	調整池造成工事（Ｐ１橋脚付近）	令和８年４月１日～令和８年９月３０日

第６３条　工事支障物件

本工事区間においては、工事支障物件を見込んでいない。なお、施工条件に変更を要

する場合には、監督職員と協議するものとする。

第６４条　新技術の活用「新技術の定義」

１．本工事は、新技術活用の促進を図ることを目的とした、新技術活用工事である。

２．新技術の定義

新技術活用の原則化における新技術の定義は以下による。

①技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術

②公共工事等において実用段階に達している技術

③当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術

④実用段階に達していない技術又は要素技術など研究開発段階にある技術であって国により導入促進を図る技術

３．対象とする新技術

新技術活用の原則義務化の対象とする新技術は以下のとおりとする。

1)新技術情報提供システム（NETIS）登録技術URL　http://www.netis.mlit.go.jp

2)NETISのテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術

3)新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術

4)新技術のニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

対象とする技術は、NETIS「マッチング」に掲載された技術のうち、「標準化推進技術」「普及促進技術」のいずれかに該当するものとする。

なお、NETIS掲載期間終了技術は対象外とする。

第６５条　新技術の活用（施工者選定型）

１．本工事は、施工者が原則１技術以上の新技術を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。

２．本工事において、第６４条　新技術の活用「新技術の定義」３．対象とする新技術に示す1)～4)の技術が選定されていない場合、受注者は施工に先立ち、当該工事内容について十分把握の上、新技術を原則一つ以上選定し、監督職員の承諾を得た上で活用するものとし、活用する新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載するものとする。活用する新技術がNETIS 登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとする。

３．受注者は、選定した新技術が第６４条　新技術の活用「新技術の定義」３．対象とする新技術に示す1)～4)のいずれの新技術であるか確認できるよう、施工計画書に記載する。

４．当該技術については、設計図書等で定められた事項に係る部分でない場合は、設計変更の対象としない。

５．受注者は、試行現場照会中の技術を活用する場合において当該技術の施工にあたりNETIS申請者が実施する「試行調査」に協力するものとする。なお、試行調査に係る費用はNETIS申請者が負担する。

６．試行現場照会中の技術を活用する場合、当該工事の実施箇所において標準的に使用される技術の施工費相当額を超える費用については、試行調査に係る費用とみなし、NETIS申請者の負担とする。

７．受注者は、活用する新技術が情報種別記号「－ＶＥ」以外のNETIS登録技術の場合は、当該技術の施工にあたり「活用効果調査」を行うものとする。「活用効果調査」は、

「新技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。

８．受注者は、本工事によって知り得た当該技術に係わる情報は、監督職員の許可なく公表してはならない。

第６６条　新技術導入促進(Ⅰ)型工事

１．新技術導入促進(Ⅰ)型工事

本工事は、新技術（NETIS登録技術）の現場での活用のため、発注時に新技術活用方針の提出を求める「新技術導入促進(Ⅰ)型」の試行対象工事である。

２．定義

新技術導入促進(Ⅰ)型とは、建設現場におけるイノベーションの推進、生産性向上のため、仕様書等にない新技術を求める工事である。本工事では、発注者が指定したテーマについて、施工者からの提案により、新技術を活用し、工事を実施するものである。

３．新技術の活用に係る費用は応札価格に含むものとし、設計変更の対象外とする。

４．契約書第１８条及び第１９条の規定による変更等が生じた場合は、提案内容の履行の有無等について、発注者と受注者とが協議して定めるものとする。

第６７条　建設現場の遠隔臨場の実施

１．建設現場における遠隔臨場の実施

「建設現場における遠隔臨場の実施」は、受注者における「段階確認に伴う手待ち時間の削減や確認書類の簡素化」や発注者（監督員）における「現場臨場の削減による効率的な時間の活用」を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）とWeb会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」の遠隔臨場を行うものとする。

なお、遠隔臨場の実施にあたっては「建設現場における遠隔臨場に関する実施要領（案）R5.3」を参考に実施するものとする。

URL　https://www.mlit.go.jp/tec/content/001594449.pdf

２．遠隔臨場を適用する工種、確認項目

現場での適用・不適用については、受発注者間にて協議の上、適用する工種・確認項目を選定することとする。

３．実施内容

（１）段階確認・材料確認、立会での確認

①受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により取得した映像及び音声をWeb 会議システム等を介して「段階確認」、「材料確認」と「立会」を行うものとする。

②確認実施者が現場技術員の場合、現場技術員は使用するPCにて遠隔臨場の映像（実施状況）を画面キャプチャ等で記録し、情報共有システム（ASP）等に登録して保管する。（従来の立会資料の管理と同様とする。）

（２）動画撮影

動画撮影は、撮影者の安全を確保するため、撮影者が移動の際に横転等が考えられるいわゆる「歩きスマホ」（カメラを手に持って歩きながら撮影）での撮影はしないこと。

動画撮影は、静止して撮影又は撮影者のヘルメットや胸ポケットに付ける等の安全に配慮するものとする。

（３）機器の準備

遠隔臨場に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）やWeb会議シス

テム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員等と協議し決定するものとする。

なお、配信に利用するシステムは、「パッケージ化したシステム」、「情報共有システム（ASP）」、「Web会議システム（teams､zoom等）」等、何れのシステムを利用してよい。

（４）遠隔臨場を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で協議を行うものとする。対応方法に関しては、確認箇所を画像・映像で記録したものをメール等の代替手段で共有し、監督職員等は机上確認することも可能とする。

なお、本項目は受発注者間で協議し、別日の現場臨場に変更することを妨げるものではない。

（５）フォローアップ調査

工事完了時に別紙様式-１９を監督職員へ提出するものとする。

また、遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示によるものとする。

（６）費用

遠隔臨場にかかる費用については、工事実施に必要な施工管理費として、全必要額を技術管理費に積み上げ計上し、設計変更するものとする。

なお、機器の手配は基本的にリースとし、その賃料を計上するものとするが、やむを得ず購入せざるを得ない機器がある場合は、その購入費に、機器の耐用年数に対する使用期間（日単位）割合を乗じた分を計上するものとする。また、受注者が所持する機器を使用する場合も、基本的には同様の考え方とするものとする。

（７）不正行為

遠隔臨場において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、「建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準　令和5年3月3日（国不建第578号）」等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第６８条　建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

１．建設現場における遠隔臨場を活用した工事検査の実施

「遠隔臨場を活用した工事検査」は、受注者における「工事検査に伴う移動時間の削減や工事関係書類の簡素化」や発注者（監督職員・検査職員）における「現場実地（現場臨場）の削減による効率的な時間の活用」等を目指し、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）と Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査項目を遠隔で行うものである。なお、遠隔臨場による工事検査は、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』の内容に従い実施する。

２．遠隔臨場を活用した工事検査の対象

遠隔臨場を活用した工事検査は、完成検査、中間技術検査、既済部分検査、完済部分検査における、工事実施状況、出来形、品質、出来ばえの各検査項目を対象とし、以下の表に示す。また、全ての検査を対象とするが、現場条件や、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ、従来方法（対面書類検査、現場実地検査）を選択することも可能である。

凡例　〇：遠隔臨場による工事検査の対象

	工事実施	出来形	品質	出来ばえ

	状況						
	書類	書類	実地	書類	実地	書類	実地
完成検査	○	○	○	○	○	○	○
中間技術検査	○	○	○	○	○	○	○
既済部分検査	○	○	○	○	○	○	○
完済部分検査	○	○	○	○	○	○	○

３．遠隔臨場を活用した工事検査を適用する検査項目

現場条件により遠隔臨場による工事検査の適応性が一致しない場合も想定されることから、検査項目での適用・不適用については、監督職員が検査職員と調整・決定し、受注者に遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目を連絡する。遠隔臨場による工事検査を適用する検査項目については、『遠隔臨場による工事検査に関する実施要領（案）』「7.3 検査項目の適応性」を踏まえ判断する。

４．実施内容

（１）技術検査、工事検査での実施

受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）により取得した映像及び音声を Web 会議システム等を介して工事実施状況、出来形、品質と出来ばえの各検査を実施するものである。

（２）機器の準備

遠隔臨場による工事検査に要する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ、360 度カメラ等）や Web 会議システム等は受注者が手配、設置するものとする。これによらない場合は監督職員と協議し決定するものとする。

（３）遠隔臨場による工事検査を中断した場合の対応

電波状況等により遠隔臨場による工事検査が中断された場合の対応について、事前に受発注者間で予備日を取り決めて検査日を連絡する。

（４）効果の検証

遠隔臨場による工事検査を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

（５）費用

遠隔臨場による工事検査にかかる費用については、受発注者間の協議を踏まえ、技術管理費に積上げ計上する。なお、監督業務で遠隔臨場を実施する工事については、遠隔検査を行うために追加で要する費用が生じた場合に監督職員と協議するものとする。

（６）不正行為

遠隔臨場による工事検査において故意に不良箇所を撮影しない等の不正行為等を行った場合は、『建設業者の不正行為等に対する監督処分の基準 令和 3 年 9 月 30 日（国不建第 273 号）』等に従い、監督処分を実施する場合がある。

第６９条　契約後ＶＥ方式

１．定義について

「ＶＥ提案」とは、契約書第19条の２の規定に基づき、設計図書に定める工事の目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金額を低減することを可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、受注者が発注者に行う提案である。

２．ＶＥ提案の意義及び範囲について

１）受注者がＶＥ提案を行う範囲は、設計図書に定められている内容のものとする。

２）以下の提案は、ＶＥ提案の範囲に含まないものとする。

１）施工方法等を除く工期の延長等の施工条件の変更を伴う提案。
２）契約書第１８条に規定された条件変更等に該当する事実との関係が認められる提案。
３）提案の実施に当たり、関係機関協議等、第三者との調整等を要する提案。

３．ＶＥ提案書の提出について

１）受注者は、前項のＶＥ提案を行う場合は、次に掲げる事項をＶＥ提案書（別紙様式－１～４）に記載し、発注者に提出しなければならない。
１）設計図書に定める内容とＶＥ提案の内容の対比及び提案理由
２）ＶＥ提案の実施方法に関する事項（当該提案に係る施工上の条件等を含む）
３）ＶＥ提案が採用された場合の工事代金額の概算低減額及び算出根拠
４）発注者が別途発注する関連工事との関係
５）工業所有権等の排他的権利を含むＶＥ提案である場合、その取扱いに関する事項
６）その他ＶＥ提案が採用された場合に留意すべき事項

２）発注者は、提出されたＶＥ提案書に関する追加的資料、図書その他の書類の提出を受注者に求めることができる。

３）受注者は、前項のＶＥ提案を契約の締結日より、当該ＶＥ提案に係る部分の施工に着手する３５日前までに、発注者に提出できるものとする。

４）ＶＥ提案の提出費用は、受注者の負担とする。

４．ＶＥ提案の審査について

提出されたＶＥ提案は、施工の確実性、安全性が確保され、かつ設計図書に定める工事の目的物と比較し、機能、性能等が同等以上で経済性が優位であると判断されるものについては、ＶＥ提案として採用することを原則として審査を行い、当該提案の採否を決定するものとする。

５．ＶＥ提案の採否について

ＶＥ提案の採否について、原則として、ＶＥ提案の受領後14日以内に書面（別紙様式－５）により通知するものとする。ただし、受注者の同意を得た上でこの期間を延長することができるものとする。また、ＶＥ提案を採用しなかった場合には、その理由を付して通知するものとする。

６．ＶＥ提案を採用した場合の設計変更等について

１）ＶＥ提案を採用した場合において、必要があるときは、発注者は設計図書の変更を行わなければならない。

２）前項の規定により設計図書の変更が行われた場合において、発注者は、必要があるときは請負代金額を変更しなければならない。

３）前項の変更を行う場合においては、ＶＥ提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の１０分の５に相当する金額（以下「ＶＥ管理費」という。）を削減しないものとする。

４）ＶＥ提案を採用した後、契約書第18条の条件変更が生じた場合、発注者がＶＥ提案に対する変更案を求めた場合、受注者はこれに応じるものとする。なお、ＶＥ管理費については、原則として変更しないものとする。

７．ＶＥ提案の保護について

評定の結果、当該ＶＥ提案内容の活用が効果的であると認められた場合は、他の工事においても積極的に活用を図るものとする。その場合、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、当該権利の保護に留意するものとする。

８．責任の所在について

発注者がＶＥ提案等を採用し、設計図書の変更を行った場合においても、ＶＥ提案を

行った受注者の責任が否定されるものではない。

第７０条　生産性向上チャレンジ工事

１．試行の実施

本工事は、受注者の発案による施工手順の工夫等の創意工夫による生産性向上の取組みを推進する「生産性向上チャレンジ」の試行対象工事である。

２．試行の内容

工事契約後、受注者は、当該工事において、省人化等の生産性向上に資する取組みを実施することができる。

本取組みを実施する場合は、施工計画書に「生産性向上チャレンジ工事」の項目を設け、①取組内容、②期待される効果等を明記するものとし、完成検査までに実施内容及び効果を報告するものとする。また、期待される効果等について、人員削減や作業時間削減等の定量的な効果を記載できる場合は記載することとする。

なお、「技術提案で提案済みの内容」及び「特記仕様書第６４条 新技術活用「新技術の定義」」において採用した取組については本試行の対象外とする。

３．工事成績評定

施工計画書で位置づけられた「生産性向上チャレンジ工事」の取組の履行が確認できた場合は加点を行うこととする。

４．本試行に係る費用については、原則、受注者負担によるものとする。

第７１条　出来高部分払方式

本工事の部分払は、短い間隔で出来高に応じた部分払や設計変更協議を実施し、円滑かつ速やかな工事代金の流通を確保することによって、より双務性及び質の高い施工体制の確保を目指すため、「出来高部分払方式実施要領」［国土交通省HP　https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html　参照］に基づき行うものとする。

第７２条　総価契約単価合意方式

１．本工事は、請負代金額の変更があった場合における変更金額や部分払金額の算定を行う際に用いる単価等をあらかじめ協議し、合意しておくことにより、設計変更や部分払に伴う協議の円滑化に資することを目的として実施する総価契約単価合意方式の対象工事である。

２．（共通仕様書第３編３－１－１－１の適用）

共通仕様書第３編３－１－１－１第２項、第６項及び第７項に係る規定は適用しないものとする。

受注者は、契約書第３条第１項の規定に基づき請負代金内訳書（以下「内訳書」という。）を発注者に提出した後に、当該工事の工事費構成書の提示を求めることができるものとする。

３．（合意単価の公表）

発注者・受注者間で作成の上合意した単価合意書は、公表するものとする。

第７３条　ＩＳＯ９００１認証取得の活用

本工事は、ＩＳＯ９００１認証取得を活用した監督業務等の取扱いの対象工事（以下、「ＩＳＯ活用工事」という）である。ただし、低入札価格調査制度調査対象工事及び過去２年以内に粗雑工事による指名停止等措置をうけた受注者を除くものとする。

１．受注者は、ＪＩＳＱ９００１（ＩＳＯ９００１）の認証を取得している場合において、

契約締結後に申請し、発注者の承認を受けた場合、本条の規定に従って、ＩＳＯ活用工事として実施することができる。

２．受注者は、ＩＳＯ９００１認証取得を活用した監督業務等の取扱いを希望する場合、工事請負契約締結の日から１４日以内に以下の書類により申請し、承認を得ることとする。

①申請書（別紙様式－６）

②ＩＳＯ９００１の認証の取得に係る登録証の写し

③ＩＳＯ９００１の審査に係る書類（受注者が送付を受けた最新の審査報告書、その審査の合否判定結果の写し）

④申請に係る工事を担当する内部組織が、ＩＳＯ９００１の認証を取得していることを示す書類

⑤ＩＳＯ９００１の認証の範囲が工事の内容に一致していることを示す書類

⑥申請者が申請日の前年度及び前々年度（申請日の属する月が４月から７月までの場合にあっては前々年度及びその前年度）に完成した官庁営繕部又は地方整備局の所掌する工事（港湾空港関係を除き、申請工事が土木工事の場合には土木工事、営繕工事の場合には営繕工事のものに限る）のすべての工事成績評定通知書の写し

⑦⑥がない場合、ＩＳＯ９００１の認証取得以降に官庁営繕部又は地方整備局の所掌する工事の成績評定を受けているときは、直近の工事成績評定通知書の写し
但し、②でその内容が確認できる場合、④、⑤は提出を要しない。

３．次に掲げる場合においては、本取扱いを中止し、通常の監督業務を実施する。

①受注者のＩＳＯ９００１認証が取り消された場合、又はその維持が困難と見込まれる場合。（別紙様式－７により監督職員に速やかに申出）

②受注者の検査記録及び品質マネジメントシステムの運用状況に関して不適合が多いと認められた場合。

４．受注者は、別途発注者から委託を受けた機関が行う品質システム運用による効果等の調査に関し、協力するものとする。

５．品質計画書の提出

受注者は、工事に係る品質計画書を作成し、工事の着手前に監督職員に提出するものとする。この場合、当該工事の施工計画書及び品質計画書は統合して作成することができる。また、両者をそれぞれ作成する場合において、その記載内容に重複が生じる場合は、その一方の記載において他方の記載を参照すべき旨を記載して作成することができる。

６．品質マネジメントシステムを活用した監督業務

本工事は、以下の項目について、受注者が作成した検査記録を監督職員の確認（以下「検査記録の確認」という）を受けることにより、代えることができる。

①「指定材料の確認」

指定材料の確認については、指定された材料の品質・規格等の試験、立会い又は確認を、受注者が作成した検査記録を確認することをもって代えることができる。

②「工事施工の立会い」

工事施工の立会いについては、受注者が作成した検査記録を確認することをもって代えることができる。

③「段階確認」

段階確認については、ＩＳＯ９００１活用工事の場合、原則として、下表の方法に代えることができる。但し、重点監督の対象工種については、通常の段階確認を実施するものとする。受注者が当該工事の一部の工事種別についてこの取扱いを希望しな

い場合についても、監督職員の承諾を得た上で通常の立会い及び段階確認を選択することができる。

	監督項目	段階確認
①	掘削長さ、支持地盤等設計変更に関わる項目	通常の段階確認を実施する。
②	事前に試験矢板又は試験杭の施工を伴う項目	通常の段階確認を実施する。ただし、試験矢板又は試験杭の施工以降の矢板及び杭の施工については適当な時期に受注者の検査記録の一部を抽出して確認する。
③	鉄筋組立てに関する項目	通常の半分の頻度で段階確認を実施する。
④	土木工事共通仕様書第１編第１章1-1-22の６項、表１－１段階確認一覧表のうち上記①、②、③以外の項目	適当な時期に受注者の検査記録を確認する。
⑤	その他の項目	適当な時期に受注者の検査記録の一部を抽出して確認する。

④「重点監督」

本工事のうち重点監督の対象工種は次のとおりとする。

区　分	対　象　工　種
重点監督	鋼橋架設工、床版工
一般監督	上記以外の全ての工種

7．内部監査の実施

内部監査は、６ヶ月に１回程度（工期が６ヶ月以内の場合にあっては工期内において１回以上）実施するものとする。なお、受注者は、本工事の品質計画書又は施工計画書に、本工事で実際に内部監査を行う監査チームリーダーの氏名、経歴、経験及び具体的な監査実施時期を記述するものとする。

内部監査における監査チームのリーダーは、以下の①～④のすべての要件を満足し、かつ当該工事に直接携わる者以外の独立した者とする。

①１０年以上の現場経験を有する。

②以下の資格の少なくとも１つ以上を有する。

イ　技術士

ロ　１級土木施工管理技士

ハ　１級造園施工管理技士

ニ　１級建築士

ホ　１級建築施工管理技士

ヘ　建築設備士

ト　１級電気主任技術者

チ　１級管工事施工管理技士

リ　１級電気工事施工管理技士
ヌ　１級建設機械施工技士
③以下のいずれかの内部監査研修を修了している。
イ　一般財団法人 日本規格協会（ＪＲＣＡ）の承認を受けている審査員研修機関が実施する内部監査員養成セミナー（研修）
ロ　以下の要件のいずれかを満たすことでイと同等と認められる受注者等の講師による社内研修
ⅰ　当該研修の講師が一般財団法人 日本規格協会（ＪＲＣＡ）の承認を受けている審査員研修機関が実施する審査員研修を修了している。
ⅱ　当該研修の講師がイの研修を受け、その後内部監査チームのリーダー経験がある
④③の研修修了後、現場の作業所を対象に内部監査チームのリーダーを経験している。

８．トレーサビリティの確保

受注者は、以下に示す材料について、工事完了後に使用場所、時期、品質が確認できるように管理を行うものとし、本工事の品質計画書または施工計画書に記述するものとする。

品　　名	規　　格	摘　　要
レディーミクストコンクリート	早強セメント 呼び強度３６Ｎ／mm2 スランプ１２cm	
	普通セメント 呼び強度３０Ｎ／mm2 スランプ１２cm	
	高炉セメント 呼び強度２４Ｎ／mm2 スランプ１２cm	
	普通セメント 呼び強度２４Ｎ／mm2 スランプ１２cm	

９．品質記録

受注者は、当該工事において作成した品質記録に関し、監督職員が提示又は写しの提出を求めた場合は、これに従わなければならない。

１０．検査時の提出書類

受注者の検査記録の確認に置き換えたものに関して、検査時に提出する品質管理及び出来形管理に関する書類については、必要項目が網羅され、監督職員の承諾が得られた場合には、指定様式によらず受注者の検査記録の様式により提出することができる。

１１．その他

品質計画書、品質マネジメントシステム運用状況の把握、検査時の対応その他の取扱いについては、平成１６年９月１５日付け国関整契第４３５号、国関整技調第３４号、国関整技評第３３号「工事におけるＩＳＯ９００１認証取得を活用した監督業務等の取扱いについて」によるものとし、本取扱いの承認を得た受注者に、別途、監督職員から

通知する。

第７４条　現場技術員

本工事は、現場技術員の配置対象工事であり、現場技術業務を関東建設マネジメント株式会社に委託している。

第７５条　施工体制調査員

本工事は、現場における施工体制の点検補助を関東建設マネジメント株式会社に委託している。

また、本工事の施工体制の点検を担当する施工体制調査員の氏名は、別途監督職員より通知する。

なお、施工体制調査員は、工事の情報共有システム（ＡＳＰ）により電子書類を閲覧し、点検を行うため、施工体制調査員を情報共有システム（ＡＳＰ）のユーザーに登録するものとする。（「閲覧のみ可能」で登録）

第７６条　施工体制の点検

１．受注者は「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」(平成12年法律第127号　最終改正令和6年12月13日)第15条3により発注者から施工体制について点検を求められたときは、これを受けることを拒んではならない。

２．施工体制の点検員は当該工事の監督職員、施工体制調査員及び発注担当事務所の職員である。

３．施工体制調査員は、業務証明書を携帯し、胸に委託業務名、委託先、業務職（施工体制調査員）、氏名、顔写真の入った名札を着用している。

４．当該工事の監督職員及び発注担当事務所の職員は、所属、氏名、顔写真の入った名札を着用している。

５．施工体制調査員は、施工体制の点検を行う者で、指示等の権限は有しない。

６．施工体制調査員は、電子書類の点検を工事の情報共有システム（ＡＳＰ）により「閲覧」し、点検する。

７．施工体制調査員は、第１回目の現地点検は現地で点検するが、以降の点検は、映像により点検が可能な項目は、必要に応じ、工事の受注者が導入しているＷＥＢ会議や遠隔臨場システムを活用し、点検することを可能とする。

ただし、立会や打合せ等においてＷＥＢ会議や遠隔臨場システムを導入していない工事や現地での点検を希望する工事は、従来通り、現地で点検する。

第７７条　品質証明

本工事は、品質証明対象工事とする。なお、提出様式は別紙様式－１２によるものとする。

第７８条　工事完成図書の納品

１．本工事は電子納品対象工事とする。電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品すること」をいう。ここでいう電子成果品とは、「工事完成図書の電子納品等要領(令和5年3月)：(以下「要領」という。)」に基づいて作成した電子データを指す。

「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定

する。

なお、電子納品の運用にあたっては、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】（令和6年3月）」を参考とするものとする。

２．本工事は「オンライン電子納品実施要領」に基づき、オンライン電子納品を行うものとする。

オンライン電子納品は、発注者が用意した電子納品保管管理サーバへのオンラインによる納品を原則とする。

なお、オンラインによる納品が実施できない場合は、監督職員と協議の上、電子媒体に格納して納品するものとする。

３．成果品の提出の際には、電子納品チェックシステムによるチェックを行い、エラーがないことを確認した後、ウィルス対策を実施したうえで提出すること。

第７９条　技術検査

１．本工事は、中間技術検査対象工事とし、実施回数は２回以上を原則とする。なお、工事成績優秀企業の適用工事にあたっては、減免することが出来るものとする。但し、低入札価格調査制度対象工事となった工事及び監督強化価格対象工事については、減免の適用の対象外とする。

２．中間技術検査の実施時期は、完成、既済部分(完済を含む)の検査時期及び当該工事の主要工種を考慮し、施工上の重要な変化点で行うことを原則とする。実施時期は、監督職員が選定するものとし、監督職員は、受注者に対して書面をもって検査日及び検査職員名を通知するものとする。

３．中間技術検査は、上記を標準として実施することとするが、中間技術検査の主旨を踏まえ、現場条件、工事規模、内容、工期等を考慮して、実施時期、実施回数を変更することが出来る。

第８０条　書類限定検査

１．本工事は、検査に必要な書類を限定し、監督職員と技術検査官の重複確認廃止の徹底及び受注者における説明用資料等の書類削減により効率化を図る「書類限定検査」の対象である。

２．書類限定検査とは、検査時に下記の１０書類に限定して資料検査を行うものとする。

①施工計画書	⑥出来形管理図表
②施工体制台帳(下請引取検査書類を含む)	⑦品質管理図表
③工事打合せ簿（協議）	⑧品質規格証明資料
④工事打合せ簿（提出）	⑨品質証明書
⑤工事打合せ簿（承諾）	⑩工事写真

なお、以下の工事については対象外とする。

・「低入札価格対象工事」又は「監督体制強化工事」は対象外

・施工中、監督職員より文書等により改善指示が発出された工事は対象外

３．実施状況や改善点等を把握するためのアンケートに協力する。

第８１条　ウイルス対策

受注者は、電子納品時のみならず、監督職員に工事に関する事項について電子データを提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出しなければならない。

また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）しなければならない。

第２章　個人情報の取り扱いについて

第８２条　基本的事項

受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務を処理するための個人情報の取扱いに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第２項第１号の規定に基づき、個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。

第８３条　秘密の保持

受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

第８４条　取得の制限

受注者は、この契約による事務を処理するために個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示しなければならない。また、当該利用目的の達成に必要な範囲内で、適正かつ公正な手段で個人情報を取得しなければならない。

第８５条　利用及び提供の制限

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

第８６条　複写等の禁止

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するために発注者から提供を受けた個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

第８７条　再委託の禁止

受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、この契約による事務を処理するための個人情報については自ら取り扱うものとし、第三者にその取り扱いを伴う事務を再委託してはならない。なお、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）には、受注者は当該第三者に対して、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）第66条第２項第４号に基づく個人情報の漏えい、滅失、改ざん又はき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じさせなければならない。

第８８条　事案発生時における報告

受注者は、個人情報の漏えい等の事案が発生し、又は発生するおそれがあることを知

ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

第８９条　資料等の返却等

１．受注者は、この契約による事務を処理するために発注者から貸与され、又は受注者が収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等を、この契約の終了後又は解除後速やかに発注者に返却し、又は引き渡さなければならない。ただし、発注者が、廃棄又は消去など別の方法を指示したときは、当該指示に従うものとする。なお、発注者の指示又は承諾により個人情報が記録された資料等を複写等した場合には、確実にそれらを廃棄又は消去するとともに、証明書（別紙－２）を発注者に提出しなければならない。

２．前項の規定は、発注者の指示又は承諾により第三者に個人情報の取り扱いを伴う事務を再委託する場合（二以上の段階にわたる委託を含む。）において準用する。

第９０条　管理の確認等

発注者は、受注者における個人情報の管理の状況について適時確認することがで　きる。また、発注者は必要と認めるときは、受注者に対し個人情報の取り扱い状況について報告を求め、又は検査することができる。

第９１条　管理体制の整備

受注者は、この契約による事務に係る個人情報の管理に関する責任者を特定するなど管理体制を定めなければならない。

第９２条　従事者への周知

受注者は、従事者に対し、在職中及び退職後においてもこの契約による事務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならないことなど、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。

第３章　無筋・鉄筋コンクリート

第９３条　レディーミクストコンクリート

１．コンクリートはレディーミクストコンクリートを原則とし、下記の仕様によるものとする。

用　途	粗骨材の最大寸法	ｽﾗﾝﾌﾟ	水ｾﾒﾝﾄ比	呼び強度	ｾﾒﾝﾄの種類	備考
合成床版	２５mm	１２cm	５５%以下	σck=３０N/mm2	普通	（膨張剤20kg/m3）
壁高欄、巻き立てコンクリート、照明柱受台	２５mm	１２cm	５５%以下	σck=３０N/mm2	普通	
歩車道境界コンクリート	２５mm	１２cm	５５%以下	σck=２４N/mm2	高炉ｾﾒﾝﾄＢ種	
伸縮装置	２５mm	１２cm	５５%以下	σck=３６N/mm2	早強	車道部

	２５mm	１２cm	５５%以下	σck=２４N/mm2	普通	歩道部

ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

２．コンクリートの耐久性向上の対策は「コンクリートの耐久性向上」仕様書（土木編）（平成１４年８月一部改正）により行うものとする。

第９４条　配合

水セメント比については、示方配合表により監督職員の確認を得なければならない。

なお、水セメント比を減じることにより施工性が著しく低下する場合は、必要に応じて、高性能減水剤の使用等を検討しなければならない。また、下記構造物については適用除外とする。

・仮設構造物（建設後数年の内に撤去するもの。）
・最大高さ１ｍ未満の擁壁・水路・側溝及び街渠等の構造物。
・管（函）渠等（φ600未満、600mm×600mm未満）の構造物。
・道路照明、標識、防護柵等の構造物。
・耐久性を期待しない構造物。
・河川における護岸構造物（特殊堤及び船着場等は除く。）

第９５条　テストハンマーによる強度推定調査

強度確認調査の対象工事については、高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25m2以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工、トンネル及び高さが3m以上の堰・水門・樋門とする。

但し、いずれの工種についても、プレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは測定の対象としない。

１．調査頻度は、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類については目地間、トンネルについては１打設部分、その他の構造物については強度が同じブロックを１構造物の単位として、各単位につき３ヶ所の調査を実施しなければならない。

２．調査結果、所定の強度が得られない場合については、その箇所の周辺において再調査を５ヶ所実施しなければならない。

３．測定方法は、「硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法(JSCE-G504)」により実施しなければならない。

４．測定は、足場が存置されている間に実施しなければならない。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

監督職員等及び受注者が立ち会いのうえテストハンマー強度推定調査を実施しなければならない。

構造物毎に別紙様式－９により調査票を作成し、完成検査時に提出しなければならない。

第９６条　圧縮強度試験

所定の強度を得られない箇所の付近において、原位置のコアを採取するものとし採取位置については監督職員と協議を行い実施しなければならない。また、コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討を行なわなければならない。

「コンクリートからのコア及びはりの切取り方法並びに強度試験法(JIS A 1107)」に

より実施しなければならない。
監督職員等及び受注者が立ち会いのうえ圧縮強度試験を実施しなければならない。
構造物毎に別紙様式－１０により調査票を作成し、提出しなければならない。

第９７条　ひび割れ発生状況の調査

１．適用範囲
ひび割れ発生状況の調査の対象工種については、高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25m2以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工、及び高さが３ｍ以上の堰・水門・樋門とする。
但し、いずれの工種についても、プレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは測定の対象としない。

２．調査方法
１．0.2mm以上のひび割れ幅について、展開図を作成するものとし、展開図に対応する写真についても提出しなければならない。
２．ひび割れ等変状の認められた部分のマーキングを実施しなければならない。

３．調査時期
調査は、足場が存置されている間に実施しなければならない。これにより難い場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

４．調査の報告
構造物毎に別紙様式－１１により調査票を作成し提出しなければならない。

５．調査結果の評価
調査結果の評価に当たっては、「ひび割れ調査結果の評価に関する留意事項」を参考にした評価を行ない評価書(様式自由)を提出しなければならない。

第９８条　コンクリート構造物非破壊試験（配筋状態及びかぶり測定）について

１．コンクリート構造物非破壊試験(配筋状態及びかぶり測定)は、「非破壊試験等によるコンクリートの品質管理について」（平成３０年１０月２４日付け国官技第４４号）（http://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.htmlを参照）により行うものとする。

２．本工事での試験箇所数は以下のとおりとする。
なお、以下により難い場合は監督職員と協議の上、対象構造物、箇所数等を決定するものとする。
１）対象構造物　・上部工　４径間
２）試験方法及び箇所数等

試験方法	箇所数	備　考
電磁誘導法	１２箇所	上部工（床版工）

第９９条　レディーミクストコンクリート単位水量測定

本工事においては、1日当たりレディーミクストコンクリートの使用量が100m3以上施工するコンクリート工において、「レディーミクストコンクリートの品質確保について(平成15年10月2日、国官技第185号)」、「「レディーミクストコンクリートの品質確保について」の運用について(平成15年10月2日、国コ企第3号)」及び「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領(案)」(以下、測定要領という)(これらについて、受注者が所持しない場合は工事契約後に受注者から監督職員に通知を求めるものとする。)

に基づき、施工管理を行い、その記録及び関係書類を直ちに作成、保管し、完成検査時に提出しなければならない。ただし、それ以外で監督職員から請求があった場合は直ちに提示しなければならない。測定機器は測定要領の「２．測定機器」によるものとするが、現場条件により発注者から測定機器を指示する場合がある。又、使用する機器を施工計画書に記載するものとする。

単位水量の測定は、測定要領の「６．測定頻度」及び「７．管理基準値・測定結果と対応」により実施することとする。なお、これらに定められてない場合は監督職員と協議するものとする。

第１００条　銘板の設置

１．本工事は、銘板を設置するものとする。

２．材質・規格、記載事項については以下を標準とし、詳細について受注者は監督職員と協議し指示を受けるものとする。

１）材質・規格

①材質：ＪＩＳ　Ｈ　２２０２（鋳物用銅合金地金）

②寸法：６００mm×４００mm

③文字サイズ：１５mm程度

なお、銘板の設置に要する費用は銘板作成例に示す寸法の材料費を計上しているが、銘板の寸法について変更となる場合は、設計変更の対象とする。施工費用については、監督職員と協議するものとする。

２）記載事項

①構造物名称

②工事名称

③工期又は完成年月

④発注機関名

⑤諸元

⑥適用基準

⑦設計基準強度

⑧水セメント比

⑨コンクリート工場名

⑩設計会社名、設計責任者名

⑪施工会社名、監理技術者名

⑫施工会社名、現場代理人名

⑬⑫当該工事に携わった技術者名及び所属する会社名

⑭監督職員名、検査職員名

なお、⑬について、元請け会社の担当技術者及び下請施工会社の専任の主任技術者とし、本人の了解を得た上で記載することができる。⑭について監督職員、検査職員を記載することができるものとする。

３．取付位置については、通常の点検で目視できる位置とし、監督職員の承諾を得るものとする。

※銘板作成例

６００mm	
構　造　物　名　称	○○高架橋
工　　事　　名　　称	○○高架橋○部その○工事
工　　　　期	自）令和○年○月○日　至）令和○年○月○日

（又は完成年月）	（又は令和〇年〇月）	
発注機関名	国土交通省関東地方整備局〇〇事務所	
諸元	高さ〇m、幅〇m	4
適用基準	道示（H〇年）	0
	杭基礎設計便覧（H〇年）	0
	ｺﾝｸﾘｰﾄ標準示方書（H〇年）	m
設計基準強度	〇〇N／㎟	m
水セメント比	〇〇%	
コンクリート工場名	〇〇コンクリート(株)	
設計会社名、設計責任者氏名	〇〇コンサルタント(株)　〇〇　〇〇	
施工会社名、監理(主任)技術者氏名	〇〇建設(株)　〇〇　〇〇	
現場代理人氏名	〇〇　〇〇	
技術者指名(施工会社名)	〇〇　〇〇（〇〇建設(株)）	
	〇〇　〇〇（〇〇土木(株)）	
	〇〇　〇〇（(株)〇〇組）	
監督職員氏名	〇〇　〇〇　〇〇　〇〇	
検査職員氏名	〇〇　〇〇	

※上記作成例の諸元及び適用基準、設計基準強度、水セメント比、コンクリート工場名については、対象構造物により必要な項目を適宜記載するものとする。

第１０１条　組立て

配筋・組立において、鉄筋組立固定架台、鉄筋固定金具を使用する場合は監督職員と協議しなければならない。

第１０２条　機械式鉄筋定着工法について

機械式鉄筋定着工法を採用する場合は、「機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（平成２８年７月）」に基づき実施するものとする。

なお、上記については、設計変更の対象とし別途監督職員と協議するものとする。

受注者は、施工する工法について、求める性能に関する公的認証機関による建設技術審査証明の写しを監督職員へ提出し、承諾を得なければならない。

また、現場施工における取付箇所の品質確認方法について、監督職員と協議するものとする。

第１０３条　型枠穴孔の補修

型枠セパレータで除去タイプのコーンを用いる場合は、セパレータ端部が鉄筋かぶり内に残らないようにすること。

また、モルタル等による型枠穴孔の補修を行う場合は、専用コテ等で入念に仕上げること。

型枠穴孔の補修材の落下による第三者被害が想定される箇所については、落下の懸念が少ない方法によることとし、その方法を施工計画書に記載しなければならない。

第４章　材料

第１０４条　目地材料

伸縮目地材は、樹脂発泡体（発泡倍率３０倍）とし厚さは10㎜とする。

第１０５条　はく落防止

コンクリート片のはく落防止には、砂付アラミド三軸メッシュシートを使用するものとする。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第５章　一般施工

第１０６条　工事用道路

１．本工事の工事用搬入路は、県道１１８号を経由し、既設の工事用道路を使用するものとする。なお、変更が生じる場合は、監督職員と協議するものとする。

２．工事用道路の維持及び補修の必要がある場合は監督職員と協議するものとする。

３．運搬路に使用した既設道路の舗装等に破損が生じた場合は、速やかに監督職員と協議し、補修しなければならない。なお、補修は設計変更の対象とする。

４．工事用道路は、工事終了後も引き続き他の工事で使用するため存置するものとする。

第１０７条　仮設工

１．ＪＲ委託工事で設置した架設架台に関しては、本工事で引き継ぐものとする。引き継ぐ仮設物の詳細に関しては下記のとおりである。なお、下記条件に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

また、Ｈ鋼杭の引き抜きにあたって、ＪＲの軌道影響の管理が必要となるが、当初費用を計上していないため、監督職員と協議の上、設計変更の対象とする。

（１）仮設内容

Ｈ鋼杭(5)（300×300×10×25×17,500）　16本
供用日数　161日
総供用日数　210日

Ｈ鋼杭(6)（400×400×13×21×11,000）　445本
供用日数　116日
総供用日数　287日

覆工板・覆工板受桁(5)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　8m2
供用日数　5.2月
総供用日数　6.5月

覆工板・覆工板受桁(6)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　532m2
供用日数　3.5月
総供用日数　8月

２．本工事で設置する架設架台に関しては、下記のとおり見込んでいる。なお、下記条件に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

（１）仮設内容

Ｈ鋼杭(1)（300×300×10×25×15,500）　32本
供用日数　86日

Ｈ鋼杭(2)（300×300×10×25×15,500）　16本
供用日数　69日

Ｈ鋼杭(3)（300×300×10×25×19,000）　32本
供用日数　98日

Ｈ鋼杭(4)（300×300×10×25×19,000）　16本
供用日数　69日

覆工板・覆工板受桁(1)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　16m2

供用日数　2.3月
覆工板・覆工板受桁(2)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　8m2
供用日数　1.8月
覆工板・覆工板受桁(3)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　16m2
供用日数　2.7月
覆工板・覆工板受桁(4)(1,000×208×2,000、鋼製　補強型)　8m2
供用日数　1.8月

３．図面等で指定している仮設工は、その標準を示したものであり、現地の状況を十分把握し安全性、細部構造等の検討を行い、工事の施工については、受注者の責任において実施しなければならない。なお、現地の状況に変更が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

第６章　鋼橋上部

第１０８条　桁製作工

１．仮組立方法

共通仕様書3-2-12-3桁製作工　1．製作加工（14）仮組立てに基づき、仮組立てをおこなうものとする。

第１０９条　工場塗装工及び現場塗装工

１．塗装の品質管理等については共通仕様書によるものとする。なお、疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。

２．本工事における塗装については次表のとおりとする。

塗装箇所	塗　装　系	適　　要
一般部外面	C-5	工場塗装
高力ﾎﾞﾙﾄ連結部外面	F-11	工場塗装
コンクリート接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ	工場塗装
添接部接触面	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ	工場塗装
無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁ	無機ｼﾞﾝｸﾘｯﾁﾍﾟｲﾝﾄ	工場塗装

なお、上表により難い場合は、監督職員と協議するものとする。

第１１０条　完全溶込み溶接

１．溶接種別の確認等

受注者は、設計図書における溶接記号に疑義が生じた場合には、土木工事共通仕様書に準ずるものとする。

なお、受注者は設計図書の照査にあたっては、別添の（一社）建設コンサルタンツ協会あて文書「落橋防止装置等の溶接不良の再発防止に関して（要請書）」（平成27年12月25 日付）を踏まえて実施するものとする。また、受注者は外部の製作会社に製作を

外注する場合には、製作会社が作成する製作要領書等により、製作会社が契約図書の内容を正確に認識していることを確認するものとする。

２．工場製作工

工場製作については、以下によるものとする。

１）土木工事共通仕様書「3-2-12-3 桁製作工」に準じて行うものとする。

２）溶接検査について

１）受注者は、外部の製作会社に製作を外注する場合には、内部きずの非破壊試験検査を受注者自身或いは第三者の検査会社で行うことを施工計画書に明記するものとする。

２）受注者は、検査を外注する場合には、当該工事の製作会社に所属せず、かつ、当該工事の品質管理の試験（社内検査）を行っていない第三者の検査会社と直接契約を行うものとする。

３）内部きずの検査について、非破壊検査を行う者は、試験の種類に応じたJISZ2305（非破壊試験－技術者の資格及び認証）の資格を有した者であること。なお、資格証明書（写）を施工計画書に添付するものとする。

４）完全溶込み溶接継手における超音波探傷試験の非破壊試験検査は、全数を対象に溶接継手全長の検査を行うものとする。

３．溶接施工について

１）受注者は、溶接工程において、開先加工、裏はつりの作業状況を自ら記録し、記録書の写しを監督職員に提出するものとする。なお、当該分野についてISO9001 を取得している製作会社（登録範囲に鋼構造物の製作や製造等を含むもの）及び検査会社（登録範囲に超音波探傷試験検査を含むもの）を利用する場合は当該記録を同製作会社に行わせることができる。ただし、不正行為を行った会社を落橋防止装置等の製作会社及び検査会社とする場合、当該分野についてISO9001 を取得している製作会社（登録範囲に鋼構造物の製作や製造等を含むもの）及び検査会社（登録範囲に超音波探傷試験検査を含むもの）を利用する場合でも、開先加工、裏はつりの作業状況を自ら記録し、記録書の写しを監督職員に提出するものとする。

なお、不正行為を行った会社とは、以下URL に「国土交通省発注工事において、品質確保の措置を実施する会社」として記載のある者である。

http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/rakkyou/index.html

２）受注者は、溶接管理技術者及び溶接技能者の資格証明書（写）を施工計画書に添付するものとする。

４．抜き打ち非破壊試験検査について

本工事は発注者による抜き打ち非破壊試験検査を実施することがある。よって、受注者は、受注者自身或いは第三者の検査会社による非破壊試験検査実施後、結果について速やかに監督職員に報告するものとし、塗装等の実施については監督職員の承諾を得るものとする。

また、上記の抜き打ち非破壊試験検査で不合格となった場合、受注者は完全溶込み溶接継手全てにおいて、改めて、受注者自身或いは第三者の検査会社による非破壊試験検査を実施し、その結果を監督職員に報告するものとする。

５．溶接施工、非破壊試験検査を外注する場合は、施工体制台帳に溶接施工者、非破壊試験検査者を記載するものとする。

第１１１条　工場製品輸送工

運搬距離は、架設位置から取手市役所までの最短経路を用いて計算しているが、契約

締結後に、架設位置から当該工事の入札参加者（※）の最寄りの橋梁製作工場までの経路を計算し、仮に当初計算した距離と異なっている場合は、設計変更の対象とする。

※入札参加者については、予定価格超過者や入札無効となった者は除く。

第１１２条　架設工

本橋の架設は、トラッククレーンベント工法とする。なお、施工にあたり現地状況を十分把握し、安全性等の検討を行い、施工方法に変更が生じた場合は、監督職員と協議しなければならない。

東田中高架橋上部構造架設計画図のラッフィングジブの賃料は当初計上しない。

ベント基礎の補強については特に見込んでいないが、必要な地耐力は４４．１kN/m2を考えている。現地確認の上、地耐力が４４．１kN/m2に満たない場合には監督職員と協議するものとする。

第１１３条　鋼橋架設工事の施工方法等について

本工事の架設にあたっては、「国道１号清水立体事業の鋼橋架設工事における事故を踏まえた再発防止策」（令和５年９月２２日 中部地方整備局）を参考に受注者にて施工方法等を検討し施工すること。

第１１４条　支承工

支承モルタルは、無収縮性モルタル(セメント系プレミックスタイプ)とし、配合については、次表のとおりとする。

（１m3当り）

名　称	規　格	単　位	数 量
無収縮剤	ｾﾒﾝﾄ系ﾌﾟﾚﾐｯｸｽﾀｲﾌﾟ	kg	1,875
水		L	338

第１１５条　鋼・コンクリート合成床版

鋼・コンクリート合成床版（以下「合成床版」という。）の使用材料については次のとおりとする。

１．コンクリート設計基準強度は、「第３章無筋・鉄筋コンクリート第９３条レディーミクストコンクリート１項」によるものとする。

第１１６条　合成床版

１．本橋梁の合成床版選定においては、受注者の責任により選定し、道路橋示方書の要求性能を満足することを示す資料を監督職員に提出し、承諾を得るものとする。（この期間として、３ヶ月を見込んでいる）なお、資料の作成にあたっては別途通知する「鋼・コンクリート合成床版の設計ガイドライン（案）」「鋼・コンクリート合成床版の施工手引き（案）」「鋼・コンクリート合成床版の施工要領（案）」を参考にできる。

２．パネルの工場製作時の品質保証・床版機能を満足する性能を保証するための施工要領

書を作成し、監督職員に提出し、承諾を得るものとする。なお、性能を保証するため試験施工を行う必要がある場合、受注者の責任において実施するものとする。

3．合成床版を施工するにあたっての施工体制及び合成床版に対しての品質確保体制を十分検討の上、体制表を作成し、監督職員に提出するものとする。

4．合成床版の施工にあたっては、膨張コンクリートを使用するものとし、横断勾配の低い側の床版端部にモニタリング孔を１箇所／パネルを設置するもとする。

5．合成床版を施工するにあたっての防水対策方法については十分検討し、監督職員の承諾を得るものとする。

第１１７条　合成床版の性能表示

1．採用した合成床版には、次の内容に基づき合成床版の性能表示を行うものとする。

①鋼板パネルには床版上面に製品番号を記載すること。

②合成床版本体については次の内容を記載するものとする。

工　　事　　名	：〇〇橋上部工事
製　造　年　月　日	：令和〇〇年〇〇月〇〇日
発　　注　　者	：国土交通省関東地方整備局〇〇国道事務所
施　工　業　者	：株式会社〇〇組
主　要　材　料	：（種類・規格等を記載）
ｺﾝｸﾘｰﾄ設計基準強度	：普通セメント（膨張材入り）３０Ｎ／㎜2
床　版　タ　イ　プ	：〇〇〇〇床版

2．「１．」の表示箇所については監督職員の承諾を得るものとする。

第１１８条　鋼橋架設

1．橋梁架設に係る仮設構造物（基礎部分を含む。以下単に「仮設構造物」という。）については、設計及び施工の各段階で、工事の条件を踏まえ適切な荷重を設定したうえで、支持、転倒、滑動等に対して安全であることを十分に確認すること。

2．仮設構造物については、その変位など安全管理上必要な項目について常時計測を行うとともに、計測結果を十分に確認すること。なお、変状が認められた場合には、直ちに架設作業を中止するとともに、その影響範囲について、道路の通行規制を行うこと。

3．一層の安全確保を図るため、橋桁が橋台又は橋脚への据え付けを完了していない状態で供用中の道路の上空に架かっている場合には、当該橋桁の移動を行わない期間においても、関係機関と協議し、その影響範囲について、道路の通行規制を行うこと。ただし、落下防止のために当該橋桁を固定（仮設構造物への固定は効果的な方法がとりまとめられるまで対象としない。）している場合は、この限りでない。

第１１９条　溶接

本工事は、契約の適正な履行と品質確保及び受注者との円滑な意思疎通を目的として、「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領(案)」に基づく遠隔臨場の取り組みの一環として、必要に応じて臨時の遠隔臨場を実施する対象工事である。

受注者は、工事着手にあたり、臨時の遠隔臨場の実施に関する機器、体制等について、発注者に確認のうえ施工計画書に記載することとし、監督職員より臨時の遠隔臨場の実施が連絡された場合はこれに応じなければならない。

必要に応じて臨時の遠隔臨場を行う作業は以下のとおりとする。

・鋼橋上部工における溶接（工場内）

本取り組みにかかる費用については、「建設現場の遠隔臨場に関する試行要領(案)」

に基づく遠隔臨場に含まれることとする。
本取り組みに関し、効果検証のためのアンケート調査等を実施する場合があり、受注者はこれに応じなければならない。

第１２０条　橋梁工事における足場工の新技術の活用促進について

本工事は、工事契約後に、受注者が現場状況を踏まえたうえで、従来型のパイプ足場にシステム足場等の新技術を加えて、コストのみでなく施工性、工期、安全対策の確実性などを総合的に比較検討したうえで、足場工法の選定を発注者に協議する。なお、比較検討の対象は必ずしも全ての箇所ではなく、現場条件を踏まえ効果的な箇所とすること。また、現場条件を踏まえ新技術の活用の効果が明らかに見込めない場合は、比較検討資料の作成等は不要とする。
足場工法は受発注者協議により決定するが、当初設計と異なる足場工法を選定する場合は設計変更の対象とする。
比較対象とする技術は、ＮＥＴＩＳ掲載技術を基本とするが、ＮＥＴＩＳ掲載終了技術やその他技術についても対象とすることを妨げない。

第１２１条　排水装置工

本工事は、鋼橋上部工事における排水装置工の契約数量の一部分を工場製作工に対する率計上で積算することにより見積り価格の算出に係る当初契約時の効率化を目指す試行工事である。
なお、契約後において、協議を行い、変更対応を行うものである。

第１２２条　ボルト・ナットエ

本工事は、鋼橋上部工事におけるボルト・ナット等の契約数量の一部分を工場製作工に対する率計上で積算することにより見積り価格の算出に係る当初契約時の効率化を目指す試行工事である。
なお、契約後において、協議を行い、変更対応を行うものである。

第７章　その他

第１２３条　震災対策

１．地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。
２．地震注意情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保全措置等を講ずるものとする。
３．工事箇所において震度４以上の地震が発生した場合は、土・日曜日、祭日及び天候等による休工日に係わらず、ただちに現場及び工事関連施設の状況確認を行い、概ね１時間以内に異常の有無を監督職員に報告するものとする。

第１２４条　道路施設基本データの作成

本工事完成時には、以下に示す『道路施設基本データ』を作成し、監督職員に提出するものとする。ただし、本工事に該当しない施設の基本データは作成しないものとする。
なお、完成後でも、発注者は受注者に対して、『道路施設基本データ』の内容について、説明を求めることがある。

１．道路施設基本データの種類

区分	施設番号	施　設　名	区分	施設番号	施　設　名
道路構造	C020	縦断勾配	付属物および付属施設	E060	道路情報板
	C030	平面線形		E070	交通遮断機
	C050	舗装		E080	Ｉ．Ｔ．Ｖ
	C060	道路交差点		E090	車両感知器
	C070	鉄道交差点		E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行車道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用自歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自転車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構造物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路ＢＯＸ等		E220	ＣＡＢ電線共同溝
	D090	横断ＢＯＸ等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D120	擁壁		E250	遮光フェンス
	D130	スノーシェルター		E270	流雪溝
	E010	防護柵		E310	防雪林
	E020	道路照明		E320	路側放送
	E030	視線誘導標（反射式）		E330	光ケーブル施設
	E040	視線誘導標（自光式）		E340	道路反射鏡
	E050	道路標識		E350	ビーコン

２．道路施設基本データの作成は、別に定める『道路管理データベースデータ作成マニュアル（案）』によるものとする。

３．道路施設基本データ類は、『道路施設基本データ作成システム』で作成する。
４．道路施設基本データ作成にあたって工事番号は、ＣＯＲＩＮＳ登録時の「工事契約コード番号」とする。
５．道路施設基本データに係わる以下のものを電子データにて提出すること。
①道路施設台長作成総括表
②道路施設基本データ総括表
③道路施設基本データー覧表
④道路施設台帳チェックシート
⑤「道路工事完成図等チェックプログラム」によるチェック結果
⑥「電子納品チェックプログラム」によるチェック結果
⑦工事数量総括表

第１２５条　道路橋維持管理資料の作成

１．本工事において施工した橋梁について、施工に関する記録などを保存するため「道路橋関連資料の保存要領（案）」に基づき電子媒体を作成し、監督職員に提出すること。
２．本工事において作成する資料の対象は、「道路橋関連資料の保存要領（案）」に基づき監督職員の指示によるものとする。なお、作成に要する費用については、当初は計上していないため、設計変更の対象とする。

第１２６条　電気需給契約に関する資料等の作成

道路照明施設を設置、撤去、移設、又はランプや安定器の交換等を行う場合は、以下の資料の作成を行うこと。

１）電気需給契約に関する資料の作成
電力会社が定める電気供給約款に基づく申請資料を作成し、監督職員の確認を受けた上で電力会社に提出（申請）を行うこと。
また、申請後には、申請書の控えを監督職員に提出すること。

２）照明調書の作成
監督職員の指示に基づき、照明調書の作成又は修正を行うこと。
なお、提出部数は監督職員の指示によるものとする。

第１２７条　全国道路施設点検データベース（道路橋）への登録について

受注者は、必要に応じ管理運営団体の定める方法によりユーザー登録を行った上で、施工結果等のデータを、全国道路施設点検データベース（道路橋）（以下「点検DB（道路橋）」）に登録する。

登録するデータは以下の通りとし、事前に監督職員と協議しなければならない。登録するデータに係る権利は、次条に定めるとおりとする。なお、点検DB（道路橋）の管理運営団体に支払う登録料については設計変更の対象とする。

【全国道路施設点検データベース（道路橋）への登録データ】

「補修･補強工事調書の記入要領（案）」に示される補修･補強工事調書データ、および「道路管理データベース データ作成マニュアル（案）」の塗装歴（D019）、補修歴（D01A）データ

第１２８条　登録するデータに係る権利について

１．本工事の成果として点検DB（道路橋）へ登録されるデータ及びこれに係る特許、実

用新案登録、意匠登録等を受ける権利及び当該権利に基づき取得する産業財産権並びに著作権（著作権法第27条及び第28 条に定める権利を含む。）その他の知的財産権（ノウハウ等に関する権利を含む。）は、すべて登録・確定と同時に発注者に帰属する。

２．点検DB（道路橋）へ登録されるデータに係る知的財産権のうち、受注者又は第三者が従前から保有していた知的財産権が含まれる場合、受注者は、発注者、発注者が指定する者及び点検DB（道路橋）を利用する者（以下「発注者等」という。）に対し、当該知的財産権の利用を許諾し、又は許諾させるものとする。

３．受注者は、自ら（受注者に所属する者を含む。）又は第三者をして、発注者等に対し、点検DB（道路橋）へ登録されるデータを構成する著作物に係る著作者人格権を行使せず又は行使させない。

４．前三項の場合において、受注者は、発注者に知的財産権を帰属させ若しくは発注者が適法に知的財産権を行使するため、又は発注者等による点検DB（道路橋）の運用及び利用のために必要となる一切の手続（第三者からの許諾取得を含む。）を履践するものとする。

５．発注者及び受注者は、前四項に定める権利の帰属及び不行使並びに手続履践の対価が委託料に含まれることを相互に確認する。

６．受注者は、点検DB（道路橋）へ登録されるデータが知的財産権を含む第三者の権利を侵害しないことを表明及び保証し、受注者がかかる表明保証に違反したことにより発注者が第三者から訴訟を提起され又は権利を主張される等の紛争が生じた場合には当該紛争の解決に協力するとともに、発注者に生じた損害、損失及び費用（合理的な範囲の弁護士費用を含む。）について、発注者に対してこれを補償するものとする。

第１２９条　工事現場における説明性の向上

受注者は、事業名、事業の目的・内容・効果、工事名、工事内容、連絡先を記した工事説明書を作成し、近隣住民等から事業内容等の説明を求められた場合は、工事の安全確保に支障のない範囲において、当該工事説明書を配布する等、工事現場の説明性の向上を図るものとする。

また、受注者は、工事現場作業員に対し、工事内容及び事業目的・効果を周知するものとする。（別紙様式－２０）

別紙－１

明示項目及び明示事項

明示項目	明示事項	記載条項
工程関係	■ 他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工事等に影響がある場合は、影響箇所及び他の工事の内容、開始又は完了の時期。	第６１条
	■ 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容、成立見込み時期。	第６０条
	■ 設計工程上見込んでいる休日日数等作業不能日数。	第５４条
工事用道路関係	■ 工事用資機材等の搬入経路、使用期間、使用時間帯等に制限がある場合は、その経路、期間、時間帯等。	第１０６条
	■ 搬入路の使用中及び使用後の処置が必要である場合は、その処置内容。	第１０６条
	■ 仮道路の維持補修が必要である場合は、その内容。	第１０６条
仮設備関係	■ 仮土留、仮橋、足場等の仮設物を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合は、その内容、期間、条件等。	第１０７条
	■ 仮設備の設計条件を指定する場合は、その内容。	第１１２条
その他	■ 工事現場発生品がある場合は、その品名、数量、現場内での再使用の有無、引き渡し場所等。	第２８条
	■ 架設工法を指定する場合は、その施工方法及び施工条件。	第１１２条

別紙－４

条件明示チェックリスト

工事名　：　Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ東田中高架橋上部工事

1．工事全般関係

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1　各種積算の取り組みの有無			
①見積活用方式	□	☑	
②間接工事費実績変更方式	□	☑	
③地域外からの労働者確保に要する設計変更	□	☑	
2　補正の有無			
①日当たり作業量補正	□	☑	
②現場閉所による週休2日制適用工事（完全週休2日）（受注者希望方式）	☑	□	第57条
③週休2日交替制モデル工事（○○方式）	□	☑	
④ICT活用工事（3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、	☑	□	第36条
外注経費等の費用）			
⑤その他補正　　該当補正→（　　）	□	☑	
3　各種調査対象工事			
①諸経費動向調査の対象工事	□	☑	
②施工状況モニタリング調査の対象工事	□	☑	
③施工合理化調査の対象工事	□	☑	
④新技術歩掛調査の対象工事	□	☑	
⑤施工形態動向調査	□	☑	
4　施工時期及び施工時間帯の制約			
①制約内容の有無	☑	□	第61条
a.時期の制約	☑	□	
b.時間の制約	□	☑	
c.その他	□	☑	
5　余裕工期を設定した工事			
①余裕工期が設定されている工事である。	☑	□	第54条

2. 工程関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1 **影響を受ける他の工事**			
①先に発注された工事で、当該工事の工程が影響される工事の有無	☐	☑	
a.工事名	☐	☑	
b.上記工事の発注者	☐	☑	
c.影響内容	☐	☑	
d.具体的な制約	☐	☑	
e.その他事項	☐	☑	
②後から発注する工事で、当該工事の工程が影響される工事の有無	☐	☑	
a.工事名	☐	☑	
b.上記工事の発注者	☐	☑	
c.影響内容	☐	☑	
d.具体的な制約	☐	☑	
e.その他事項	☐	☑	
③その他工事で、当該工事の工程が影響される工事の有無	☑	☐	第62条
a.工事名	☑	☐	
b.上記工事の発注者	☑	☐	
c.影響内容	☑	☐	
d.具体的な制約	☑	☐	
e.その他事項	☐	☐	

2. 工程関係(2)

条件明示事項	対象 有	対象 無	特記 該当項目
2 自然的・社会的条件で制約を受ける施工の内容、時期、時間及び工法等			
①交通規制や工事内容により、工事の施工期間又は時間帯に制約が生じるか。	☑	☐	第59条
a.要因	☑	☐	
b.施工内容	☑	☐	
c.施工箇所	☑	☐	
d.施工時期	☐	☑	
e.施工時間	☑	☐	
f.具体的制約内容 ：	☐	☑	
②出水期や積雪・融雪期において、施工を中止あるいは休止する必要があるか。	☐	☑	
a.要因	☐	☑	
b.施工内容	☐	☑	
c.施工箇所	☐	☑	
d.施工時期	☐	☑	
e.施工時間	☐	☑	
f.具体的制約内容	☐	☑	
③漁期や農業・用排水の使用時期、また地場産業の影響により、施工期間又は時間帯に制約が生ずるか。	☐	☑	
a.要因	☐	☑	
b.施工内容	☐	☑	
c.施工箇所	☐	☑	
d.施工時期	☐	☑	
e.施工時間	☐	☑	
f.具体的制約内容	☐	☑	
④自然環境の保全に関する制約の有無 （猛禽類等の保護動植物の生息する可能性のある地域での施工制約）	☑	☐	第59条
a.要因	☑	☐	
b.施工内容	☐	☑	
c.施工箇所	☐	☑	
d.施工時期	☐	☑	
e.施工時間	☐	☑	
f.具体的制約内容	☐	☑	

2. 工程関係(3)

条件明示事項	対象 有	対象 無	特記 該当項目
3 関連機関等との協議に未成立なものがある場合の制約等			
①協議の成立時期が具体的に見込める場合はその内容を明示。	☑	☐	第60条
a.関連機関	☑	☐	
b.制約内容	☑	☐	
c.協議内容	☑	☐	
d.成立見込時期	☑	☐	
②協議の結果、工程等に制約を受けることが予想される場合は、あらかじめその協議内容及び制約される内容等を明示。	☐	☑	
a.関連機関	☐	☑	
b.制約内容	☐	☑	
c.協議内容	☐	☑	
d.成立見込時期	☐	☑	
③協議の必要性はあるが、未実施である場合はその内容を明示。	☐	☑	
a.関連機関	☐	☑	
b.制約内容	☐	☑	
c.協議内容	☐	☑	
d.成立見込時期	☐	☑	
4 関係機関との協議の結果、工程に影響を受ける条件等			
①施工時期等について付された条件を具体的に明示。	☐	☑	
a.関連機関	☐	☑	
b.影響内容	☐	☑	
c.規制期間・時間	☐	☑	
②当初予想し得ない事態等が発生し工事期間等の変更が生じる場合は、監督職員に報告し、協議を行うことを明示。	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

2. 工程関係(4)

条件明示事項	対象 有	対象 無	特記 該当項目
5 占用物件(地下物件、架空線など)・埋蔵文化財等の事前調査・移設の制約			
①必要な事前調査の期間等を明示し、その管理者の都合により変更がある場合には別途協議することを合わせて明示。	☐	☑	
a.物件内容(場所含む)	☐	☑	
b.物件管理者	☐	☑	
c.事前調査・移設の期間	☐	☑	
②移設や撤去・保存等が必要になり影響を受ける場合は、施工方法や工程等について協議状況を明示。	☐	☑	
a.物件内容(場所含む)	☐	☑	
b.物件管理者	☐	☑	
c.事前調査・移設の期間	☐	☑	
③埋蔵文化財の発掘調査が必要な場合の状況を明示。	☐	☑	
a.物件内容(場所含む)	☐	☑	
b.物件管理者	☐	☑	
c.事前調査・移設の期間	☐	☑	
6 設計工程上の作業不能日数			
①工程に影響を与える特殊な工法がある場合は明示。	☐	☑	
a.対象工種	☐	☑	
b.場所	☐	☑	
c.日数	☐	☑	
d.内容	☐	☑	
7 概数発注・概略設計による発注工事の場合			
①概数発注、概略設計、修正設計中の工事の場合、詳細設計の完成時期について明示。	☐	☑	
a.対象工種	☐	☑	
b.区間	☐	☑	
c.詳細設計完成時期	☐	☑	

3. 用地関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1　工事用地等に未処理部分がある場合			
①用地・立木の取得が終了していない場所の有無	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.取得見込み時期	□	☑	
②期日までに用地取得できない場合の対応を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
③保安林解除や用地の規制等の有無	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.解決見込み時期	□	☑	
d.当面の対応			
④官民境界が未確定部分がある場合の内容明示	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.協議状況、確定見込み	□	☑	
2　使用後の復旧条件がある場合			
①工事用地使用後の条件の有無	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.復旧完了期日	□	☑	
d.復旧条件	□	☑	
3　工事用仮設道路、資機材置き場等の用地を借地させる場合			
①工事用仮設道路、資機材置き場等の借地の有無	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.借地期間	□	☑	
d.復旧条件	□	☑	
②借地上の支障物件等があった場合には監督職員へ報告し対応を協議する旨の明示	□	☑	

3. 用地関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
4　官有地等を使用させる場合			
①使用する官有地の有無	□	☑	
a.場所・範囲	□	☑	
b.面積	□	☑	
c.使用期間	□	☑	
d.使用条件	□	☑	
②現場状況から施工時に官有地を使用する必要が生じる場合は、監督職員へ報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	

4. 環境対策関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1 公害防止の為の制限がある場合			
①施工方法等において、公害防止の為の制限がある場合の明示	□	☑	
a.対象工種	□	☑	
b.対象箇所	□	☑	
c.制限内容	□	☑	
②騒音・振動等の測定を指定する箇所がある場合の明示	□	☑	
a.対象工種	□	☑	
b.対象箇所	□	☑	
c.制限内容	□	☑	
③公害に関する特定地域指定がある場合はその地域を明示	□	☑	
a.対象工種	□	☑	
b.対象箇所	□	☑	
c.制限内容	□	☑	
④地元対策上や法改正等により規制処置が必要となった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
2 水替、流入防止施設が必要な場合			
①水替、流入防止施設が必要がある場合の明示	□	☑	
a.対象工種	□	☑	
b.対象箇所	□	☑	
c.制限内容	□	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
3 濁水、湧水等の処理で特別な対策を必要とする場合			
①濁水、湧水等の処理で特別な対策が必要な場合は明示	□	☑	
a.対象工種	□	☑	
b.対象箇所	□	☑	
c.時期	□	☑	
d.処理施設	□	☑	
e.排水の水質目標値	□	☑	
f.排水場所	□	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容 ：	□	☑	

4. 環境対策関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
4 事業損失等、第三者に被害を及ぼすことが懸念される場合			
①騒音、振動、地盤沈下、地下水の枯渇、電波障害等の事業損失が懸念される場合の事前・事後調査を行うことを明示	☐	☑	
a.懸念事項	☐	☑	
b.事前・事後調査の有無	☐	☑	
c.調査箇所	☐	☑	
d.調査時期	☐	☑	
e.調査方法	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
②当初と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
5 油漏れ等に対策を必要とする場合			
①油漏れ、重金属等の対策が必要な場合の内容の明示	☐	☑	
a.対象工種	☐	☑	
b.対象機械	☐	☑	
c.時期	☐	☑	
d.実施方法・必要な資材等	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

5. 安全対策関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1　交通安全施設等の指定			
①車線減少等の規制を伴う場合の明示	☑	☐	第60条
a.規制内容	☑	☐	
b.規制箇所	☑	☐	
c.規制期間	☐	☑	
②歩道通行帯を確保する場合の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
b.対象箇所	☐	☑	
c.期間	☐	☑	
③夜間作業を伴う場合の明示	☑	☐	第59条
a.内容	☑	☐	
b.対象箇所	☑	☐	
c.期間	☐	☑	
④現場特有の交通規制を行う場合の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
b.対象箇所	☐	☑	
c.期間	☐	☑	
⑤当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
2　対策をとる必要がある他施設との近接工事がある場合			
①対策をとる必要がある他施設と近接する工事がある場合の明示	☐	☑	
a.対象施設・管理者	☐	☑	
(例:鉄道、ガス、電気、電話、上下水道、光ファイバ、その他施設)			
b.対象箇所	☐	☑	
c.施行条件	☐	☑	
d.その他(協議状況他)	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

5. 安全対策関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
3 施工上、防護施設等必要な場合			
①防護施設等が必要な場合の明示	☐	☑	
a.必要な防護施設	☐	☑	
(例:落石、雪崩、土砂崩壊、土石流、その他補強が必要な施設等)			
b.危険要因	☐	☑	
c.対策内容	☐	☑	
d.対象工種	☐	☑	
e.対象期間	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
4 保全設備・保安要員の配置等が必要な場合			
①交通誘導警備員・保安要員等の配置が必要な場合の明示	☑	☐	第43条
a.対象工種	☑	☐	
b.対象箇所	☑	☐	
c.対象期間	☐	☑	
d.対象要員	☑	☐	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☑	☐	第43条
a.内容	☑	☐	
5 発破作業等の制限			
①発破作業等に制限がある場合の明示	☐	☑	
a.対象工種	☐	☑	
b.対象箇所	☐	☑	
c.対象期間	☐	☑	
d.制限内容	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

5. 安全対策関係(3)

条件明示事項	対象		特記該当項目
	有	無	
6 有害ガス及び酸素欠乏等の対策			
①換気設備等が必要な場合の明示	☐	☑	
a.危険要因	☐	☑	
b.対象工種	☐	☑	
c.対策内容	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
7 高所作業における対策が必要な場合			
①高所作業を行う必要がある場合の明示	☐	☑	
a.対象工種	☐	☑	
b.対象箇所	☐	☑	
c.対策内容	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
8 砂防工事の安全確保のために必要な対策を行う場合			
①安全確保に必要な情報の明示	☐	☑	
a.施工箇所の地形・地質特性	☐	☑	
b.危険要因	☐	☑	
c.対策内容	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

6. 工事用道路関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1 一般道路を搬入路として使用する場合			
①運搬経路に制限がある場合または経路を指定する場合の明示	☑	☐	第106条
a.経路	☑	☐	
b.制限内容	☐	☑	
c.制限期間・時間	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②搬入路の使用中及び使用後に配慮すべき事項がある場合の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
b.対象区間	☐	☑	
c.期間	☐	☑	
③地元対応等の特筆すべき事項の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
b.対象区間	☐	☑	
c.期間	☐	☑	
④当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

6. 工事用道路関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
2 **仮道路を設置する場合**			
①仮道路の構造等を指定する場合の明示	☐	☑	
a.区間	☐	☑	
b.指定する内容	☐	☑	
c.その他	☐	☑	
②借地により仮道路を設ける場合の明示	☐	☑	
a.区間	☐	☑	
b.借地料等	☐	☑	
c.維持補修内容	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
③維持修繕の必要がある場合の明示	☑	☐	第106条
a.区間	☐	☑	
b.維持補修内容	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
④仮道路に安全施設が必要な場合の明示	☐	☑	
a.必要な施設内容	☐	☑	
b.対象区間	☐	☑	
c.対象期間	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
（存置、撤去等わかるように明示）			
⑤地元対応等の特筆すべき事項の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
b.対象区間	☐	☑	
c.期間	☐	☑	
⑥当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

6. 工事用道路関係(3)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
3 一般道路を交通規制等により占用する場合			
①交通規制を行う場合の関係機関協議の有無の明示	☑	☐	第60条
a.協議機関	☑	☐	
b.対象区間	☑	☐	
c.対象期間・時間	☐	☑	
d.規制内容	☑	☐	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
4 他工事と工事用道路を共有する場合			
①他工事と工事用道路を共有する場合の明示	☐	☑	
a.共有する他工事	☐	☑	
b.工事用道路の管理者	☐	☑	
c.共有する区間	☐	☑	
d.期間	☐	☑	
e.配慮事項	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
5 工事用道路の使用に制限がある場合			
①工事用道路に制限がある場合の明示	☐	☑	
a.対象区間	☐	☑	
b.対象期間・時間	☐	☑	
c.制限内容	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

7. 仮設備関係(1)

条件明示事項	対象		特記該当項目
	有	無	
1 **他の工事に引き継ぐ場合**			
①引き渡し条件の明示	☐	☑	
a.仮設備の名称	☐	☑	
b.引き継ぎ先の受注者	☐	☑	
c.撤去・損料などの条件	☐	☑	
d.維持管理条件	☐	☑	
e.引き渡し等の時期	☐	☑	
f.構造等安全性確認や検査の実施日時	☐	☑	
g.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
2 **引き継いで使用する場合**			
①引き継ぎ条件の明示	☑	☐	第107条
a.内容	☑	☐	
b.時期	☐	☑	
c.条件	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
3 **構造及び施工方法を指定する場合**			
①構造及び施工方法の条件を明示	☐	☑	
a.対象物	☐	☑	
b.存置期間	☐	☑	
c.規模・規格・数量等	☐	☑	
d.施工方法	☐	☑	
e.その他			
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

7. 仮設備関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
4 設計条件を指定する場合			
①仮設備の設計条件を指定する場合の条件明示	☐	☑	
a.対象物	☐	☑	
b.設計条件	☐	☑	
c.その他	☐	☑	
②指定仮設がある場合の条件明示	☑	☐	第107条
a.対象物	☑	☐	
b.指定条件	☑	☐	
c.その他	☐	☑	
③当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
5 除雪が必要となる場合			
①除雪が必要な場合の条件明示	☐	☑	
a.対象箇所	☐	☑	
b.対象期間	☐	☑	
c.制限内容	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

8. 建設副産物関係(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1 **建設副産物を搬出する、特定建設資材・再生材を使用する工事の場合**			
①建設副産物情報交換システムの活用の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
②建設副産物実態調査の対象工事の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
③建設発生土情報交換システム登録対象の明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
④再生資材の活用の明示	☐	☑	
a.資材名	☐	☑	
b.規格	☐	☑	
c.使用箇所	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
⑤特定副産物の搬出の明示 (特定建設資材の分別解体等・再資源化等の条項で記載していれば不要)	☐	☑	
a.対象	☐	☑	
b.受入場所	☐	☑	
c.受入時間帯	☐	☑	
d.仮置き場	☐	☑	
e.搬出調書等	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
⑥建設リサイクル法対象工事の明示	☑	☐	第29条
a.種類	☐	☑	
b.分別解体等の方法	☑	☐	
c.その他	☐	☑	
⑦指定副産物の指定再資源化施設へ搬出明示	☐	☑	
a.種類	☐	☑	
b.再資源化施設	☐	☑	
c.中間処理場	☐	☑	
d.最終処理場	☐	☑	
e.受入時間	☐	☑	
⑧当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

8. 建設副産物関係(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
2 建設発生土及び建設汚泥処理土			
①他工事の箇所へ搬出する場合の明示	☐	☑	
a.搬出箇所・距離	☐	☑	
b.搬出先工事名	☐	☑	
c.搬出先の受入条件	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
3 建設廃棄物の種類と発生量			
①取扱及び処理方法の違う種別毎の廃棄物を明示	☐	☑	
a.種別	☐	☑	
b.種類	☐	☑	
c.工種	☐	☑	
d.発生量	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
4 処理施設等への運搬経路・方法等の規制・制限			
①処理施設等の条件明示(1)	☐	☑	
a.種類	☐	☑	
b.運搬経路	☐	☑	
c.運搬方法	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
①処理施設等の条件明示(2)	☐	☑	
a.種類	☐	☑	
b.運搬経路	☐	☑	
c.運搬方法	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②仮置きが必要な場合の内容明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

8. 建設副産物関係(3)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
5 中間・最終処理場			
①指定副産物の指定再資源化施設へ搬出明示	☐	☑	
a.種類	☐	☑	
b.再資源化施設	☐	☑	
c.中間処理場	☐	☑	
d.最終処理場	☐	☑	
e.受入時間	☐	☑	
6 他工事からの建設発生土を利用する場合			
①他工事から発生する土を利用する場合の条件明示	☐	☑	
a.他工事情報	☐	☑	
b.受入条件	☐	☑	
c.受入時期	☐	☑	
d.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
7 土壌汚染対策法の届出について			
①土壌汚染対策法で規定する一定規模(3,000m2)以上の土地の形質変更を伴う対象工事である場合の県知事等への届出等の明示。	☐	☑	
a.対象の有無	☐	☑	
b.場所・範囲・面積	☐	☑	
c.該当工種	☐	☑	
d.発生量	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

8. 建設副産物関係(4)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
8 **ストックヤード(又は土取り場)の建設発生土を利用する場合**			
①ストックヤード(又は土取り場)の建設発生土に関する利用の明示。	☐	☑	
a.ストックヤード(又は土取り場)箇所・距離	☐	☑	
b.ストックヤード(又は土取り場)からの建設発生土の土質条件(改良の必要性の有無) 等	☐	☑	
c.ストックヤード(又は土取り場)の管理者(工事名等)	☐	☑	
d.利用時期(土日祝の利用の可否含む)	☐	☑	
e.利用時間	☐	☑	
f.他工事利用件数	☐	☑	
g.利用台数の制限がある場合の制限内容	☐	☑	
h.その他(交通誘導警備員配置、工事用道路(敷鉄板)設置 等)	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

9. 工事支障物件関係

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1　占用物件等の工事支障物件がある場合			
①工事支障物件の明示(1)	□	☑	
a.物件名	□	☑	
b.物件管理者(連絡先等)	□	☑	
c.物件位置	□	☑	
d.物件管理者との協議状況	□	☑	
e.移設時期	□	☑	
f.その他	□	☑	
①工事支障物件の明示(2)	□	☑	
a.物件名	□	☑	
b.物件管理者(連絡先等)	□	☑	
c.物件位置	□	☑	
d.物件管理者との協議状況	□	☑	
e.移設時期	□	☑	
f.その他	□	☑	
①工事支障物件の明示(3)	□	☑	
a.物件名	□	☑	
b.物件管理者(連絡先等)	□	☑	
c.物件位置	□	☑	
d.物件管理者との協議状況	□	☑	
e.移設時期	□	☑	
f.その他	□	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	

10. 薬液注入関係

条件明示事項	対象 有	対象 無	特記 該当項目
1 **薬液注入を行う場合**			
①薬液注入の条件明示	□	☑	
a.設計条件	□	☑	
b.工法区分	□	☑	
c.材料種類	□	☑	
d.施工範囲	□	☑	
e.削孔数量・延長	□	☑	
f.注入量・注入圧	□	☑	
g.その他	□	☑	
②注入の管理の明示	□	☑	
a.注入圧・速度	□	☑	
b.注入順序	□	☑	
c.ステップ長	□	☑	
d.材料(購入・流通経路等)	□	☑	
e.ゲルタイム	□	☑	
f.配合	□	☑	
③産業廃棄物が発生した場合の処分方法の明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
④地下埋設物がある場合の防護方法の明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
⑤当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	
2 **周辺環境影響調査を行う場合**			
①周辺環境影響調査の明示	□	☑	
a.調査内容	□	☑	
b.調査箇所	□	☑	
c.調査回数	□	☑	
d.その他	□	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	□	☑	
a.内容	□	☑	

11. その他(1)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
1 工事用資機材の保管及び仮置きが必要な場合			
①仮置きが必要な資機材の内容を明示	☐	☑	
a.資機材の種類	☐	☑	
b.数量	☐	☑	
c.保管・仮置き場所	☐	☑	
d.期間	☐	☑	
e.保管方法	☐	☑	
f.積込・運搬方法	☐	☑	
g.機械の分解・組立等ある場合の回数	☐	☑	
h.その他			
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
2 工事現場発生品がある場合			
①現場発生品の明示	☑	☐	第28条
a.品名・数量	☑	☐	
b.再使用の有無	☐	☑	
c.引き渡し時期・場所	☑	☐	
d.品質検査	☐	☑	
e.運搬方法・費用	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
3 支給品・貸与品がある場合			
①該当品の明示	☐	☑	
a.品名・数量	☐	☑	
b.規格等	☐	☑	
c.使用場所	☐	☑	
d.引き渡し場所	☐	☑	
e.返納方法等	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

11. その他(2)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
4 新技術・新工法・特許工法を指定する場合			
①新技術・新工法の内容の明示	☐	☑	
a.工法名称	☐	☑	
b.施工場所	☐	☑	
c.施工条件	☐	☑	
d.NETIS番号	☐	☑	
e.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
5 指定部分の引渡しを行う場合			
①指定部分の内容の明示	☑	☐	第33条
a.指定部分	☑	☐	
b.引渡日	☑	☐	
c.その他	☐	☑	
6 部分使用を行う場合			
①部分使用の内容の明示	☐	☑	
a.使用箇所	☐	☑	
b.使用条件	☐	☑	
c.使用期間	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	
7 給水の必要がある場合			
①給水内容の明示	☐	☑	
a.関係機関名	☐	☑	
b.協議時期	☐	☑	
c.取水箇所	☐	☑	
d.取水時期	☐	☑	
e.取水方法	☐	☑	
f.その他	☐	☑	
②当初計画と現場条件が異なった場合は、監督職員に報告し協議する旨を明示	☐	☑	
a.内容	☐	☑	

11. その他(3)

条件明示事項	対象		特記 該当項目
	有	無	
8 **コンクリート二次製品の活用**			
①コンクリート構造物において、全体最適化の考えに基づき、コンクリート二次製品(プレキャスト)を活用する場合は、特記仕様書あるいは参考資料等にその内容を明示	□	☑	

概略工事工程表　　別紙－5

工事名 ： R7国道6号千代田石岡BP東田中高架橋上部工事

工　種		単位	数 量	令和7年度 11月	12月	1月	2月	3月	令和8年度 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和9年度 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
準備		式	1																													・90日間
工場製作工		式	1																													
鋼橋架設工		式	1																													1pt A1～J11間、J18～A2間
床版工		式	1																													1pt A1～J11間、J18～A2間
橋梁付属物工		式	1																													1pt
道路照明設備工		式	1																													1pt
鋼橋足場等設置工		式	1																													1pt
仮設工		式	1																													1pt
後片付け		式	1																													・20日間
制約条件	JR施工	―																														・JR委託工事 J11～J18間
	関連工事(前工事)																															R7常陸河川国道管内バイパス環境整備他工事
	関係機関協議	―																														・石岡市
	年末年始、お盆	―																														・12月下旬～1月上旬 ・8月中旬
雨休率の適用		準備・後片付けを除く、雨休率(猛暑日補正有り)を適用																														

余裕期間（（※任意で設定可能））

(余裕期間制度(フレックス方式)の活用について)
本工事は、受注者の円滑な工事施工体制の確保のため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者があらかじめ設定した全体工期(余裕期間と工期を合わせた期間)の内で、受注者は工事の始期と終期を任意に設定することができます。
なお、工事の始期までの余裕期間は監理技術者等の配置が不要となります。
(関係機関協議)
工事着手にあたっての関係機関協議について、施工計画書を基とした協議資料作成は受注者が行い、協議は発注者が主体となって実施します。

別紙様式－２０

○○○○工事説明書

工 事 名	○○○○工事
発注者名	国土交通省　関東地方整備局　常陸河川国道事務所
受注者名	株式会社　△△建設
工　　期	令和○年○月○日～ 令和○年○月○日
事 業 名	○○整備事業

事業の概要及び整備効果

当該事業は、・・・を目的に、・・・・・

工事内容

当該工事は、上記○○整備事業（延長○○ｋｍ）の内、○○ｋｍを整備する工事であり、主な工事内容としては、・・・・・

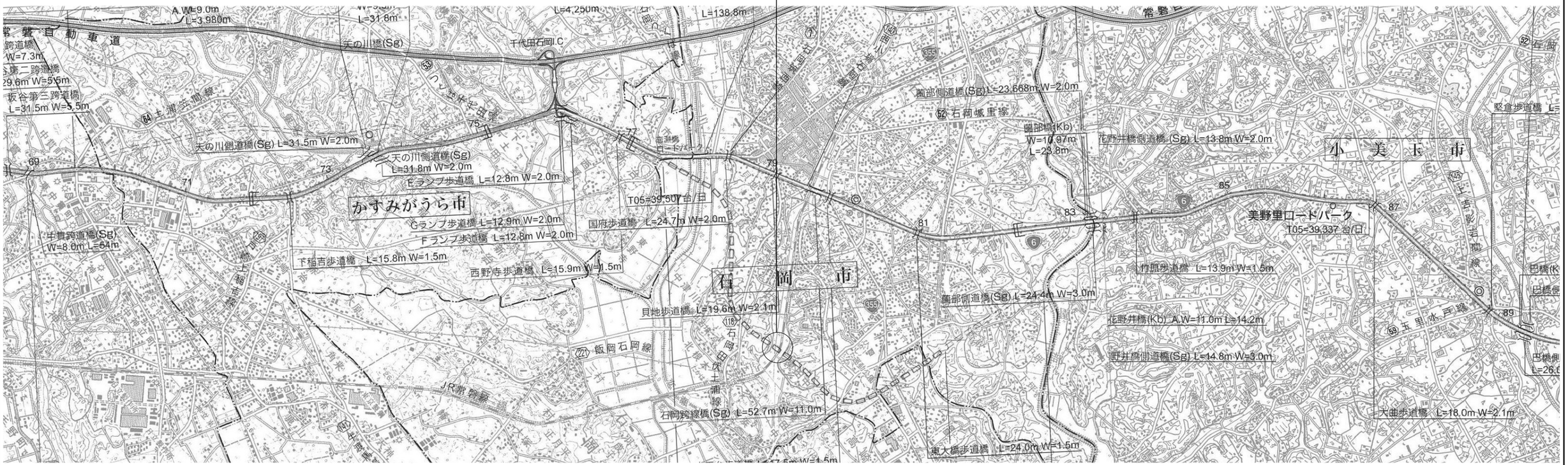
なお、○○工の施工においては、○時～○時まで片側１車線規制により・・・

連絡先

発　注　者	受　注　者
関東地方整備局　常陸河川国道事務所 工務第二課 ＴＥＬ：０２９－２４０－４０６６	株式会社　△△建設 ○○現場事務所 ＴＥＬ：○○○－○○○－○○○○

位 置 図

S=1:50,000



S=1/50,000

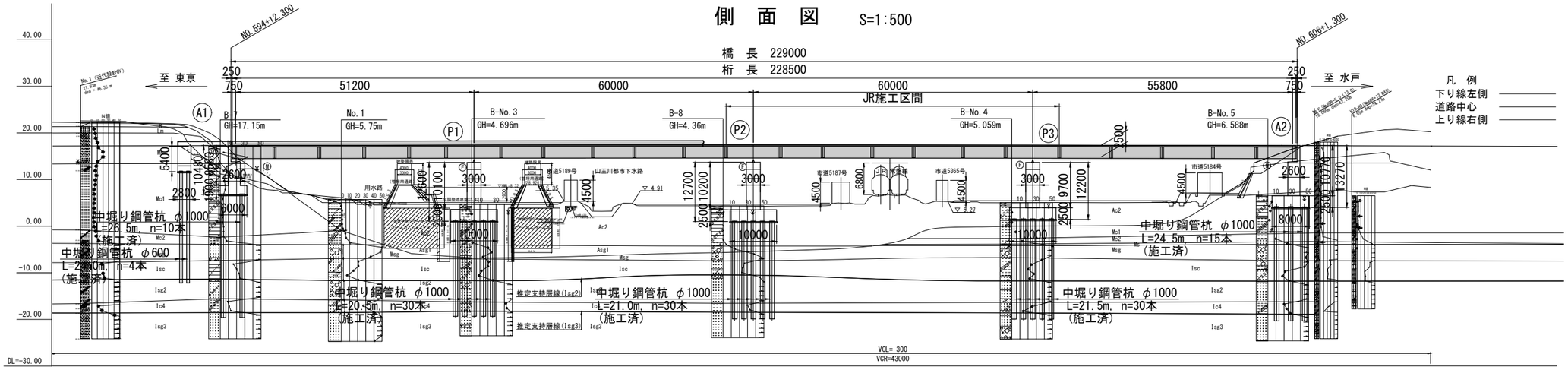
1,000m 500m 0m 1,000m 2,000m 3,000m 4,000m

本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)及びボルト・ナットエ（工場製作材料）における図示並びに数量は参考とする。
なお、数量については、一式計上としている事から、見積参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事								
図面名	位 置 図								
縮 尺	1:50,000	図面番号	178 の 1						
年月日	令和 7 年 8 月 日								
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社								
所長		副所長		課長		係長		担当	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所								

橋梁全体一般図(1)

側　面　図　S=1:500

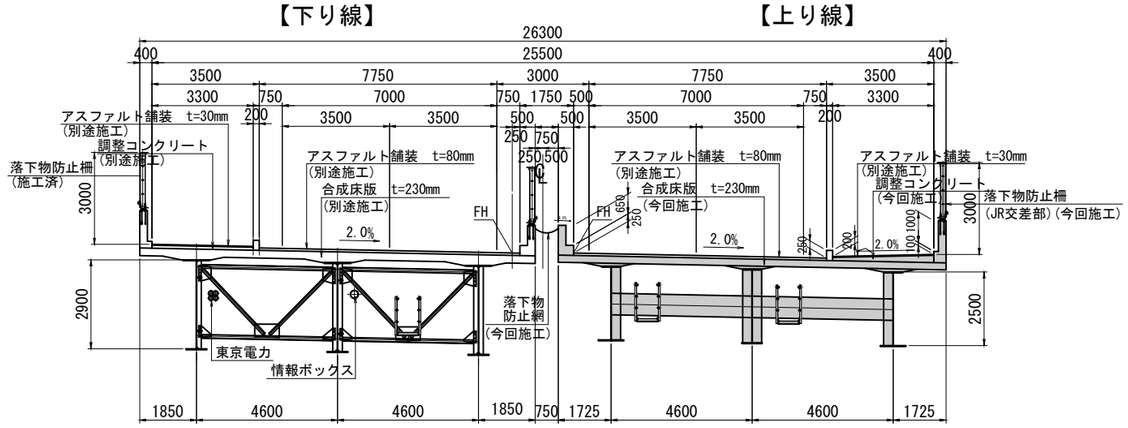


地層名			記号
盛土・表土			B
沖積層	第2粘性土層		Ac2
	第1砂礫層		Asg1
洪積層	ローム層		Lm
	見和層	砂質土層	Ms
		粘性土層	Mc1
		粘性土層	Mc2
		砂礫層	Msg
	石崎層	砂・粘性土層	Isc
		砂礫層	Isg2
		粘性土層	Ic4
		砂礫層	Isg3

| | | |

橋梁全体一般図(2)

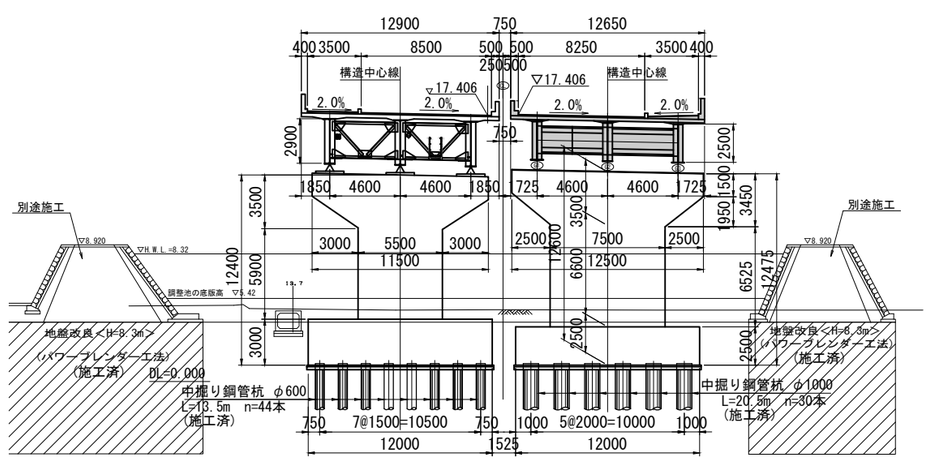
上部構造断面図 S=1:200



下部構造断面図 S=1:200

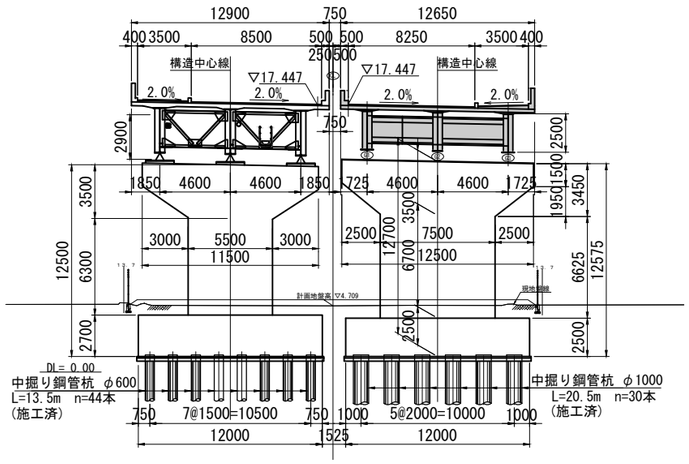
A1橋台

P1橋脚

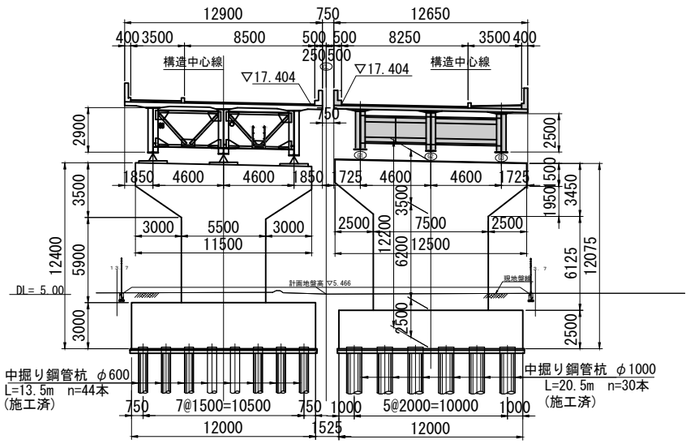


下部構造断面図 S=1:200

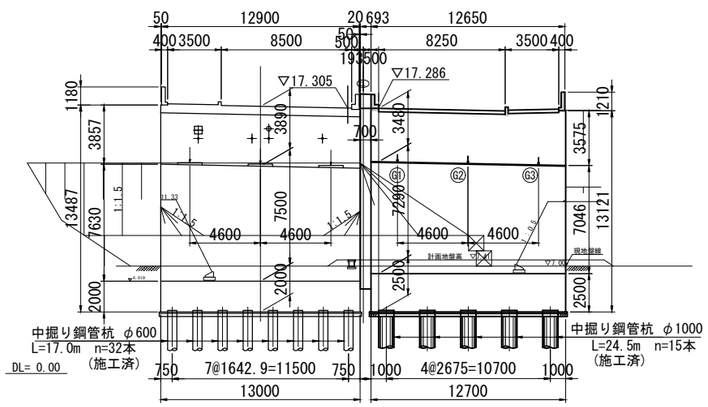
P2橋脚



P3橋脚



A2橋台



:今回施工

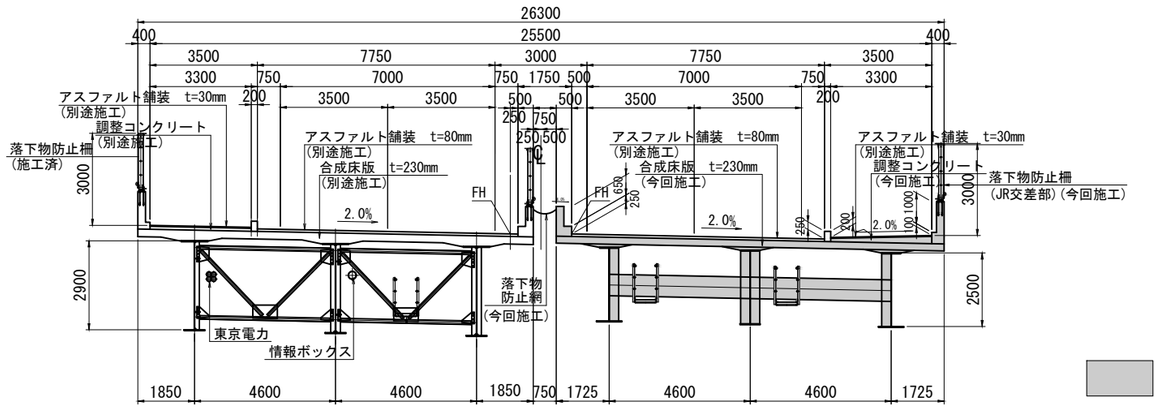
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	橋梁全体一般図(2)
縮尺	S=1:200
図面番号	178 の 3
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

橋梁全体一般図(3)

標準断面図　S=1:100

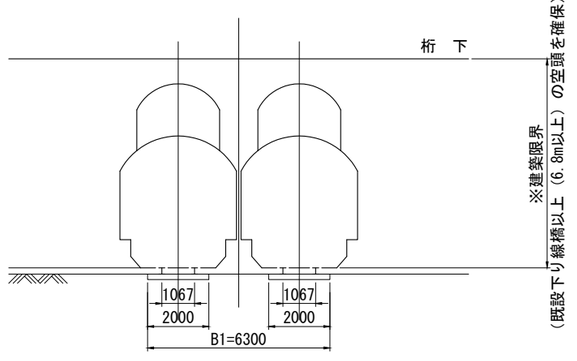
（下り線）　　（上り線）



：今回施工

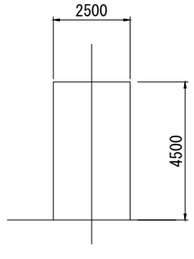
交差条件 S=1:100

[JR建築限界]

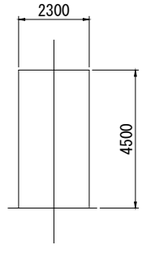


※レール標高の計測を踏まえ，既設下り線橋以上（6.8m以上）の空頭を確保

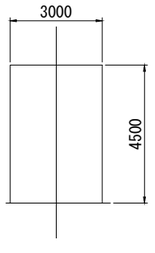
市道5189号線



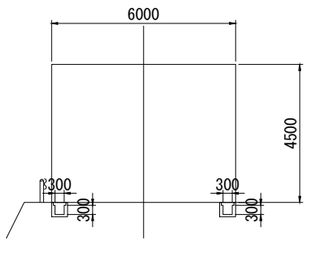
市道5187号線



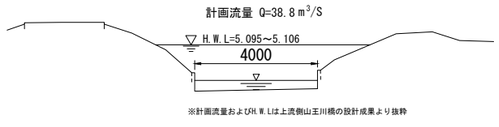
市道5365号線



市道5184号線



山王川都市下水路



※計画流量およびH.W.Lは上流側山王川橋の設計成果より抜粋

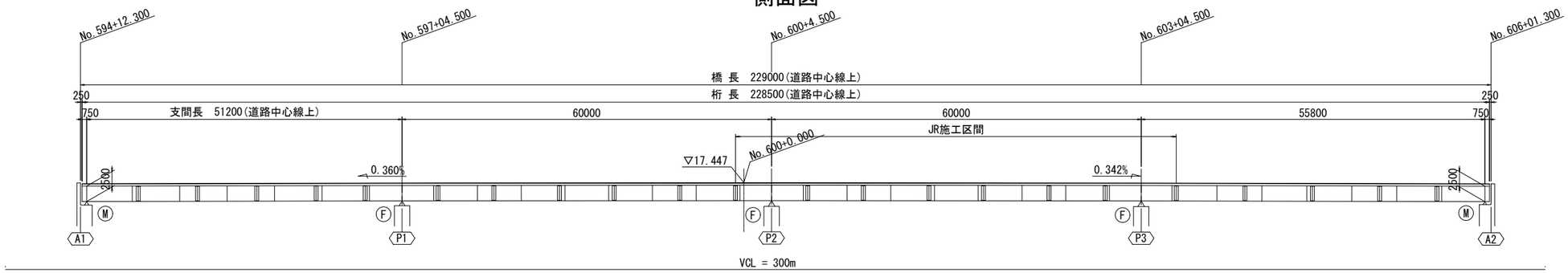
設計条件表			
路線名			国道６号千代田石岡バイパス
橋名			東田中高架橋
道路規格			第3種第1級
設計速度			80km/h
橋長			229.000 m（道路中心線上）
桁長			228.500m（道路中心線上）
支間長			51.200 m + 60.000 m + 60.000 m+ 55.800 m（道路中心線上）
計画交通量			国道6号～村上・六軒線 8400台/日～18300台/日
大型車計画交通量			2340台/（日・方向）
幅員構成	総幅員		12.650m
	有効幅員		車道部：8.250 m，歩道部L側：3.300 m
線形条件	平面線形		R＝∞ ～R＝2000
	縦断線形		i= ↙ 0.360 %～ ↘ 0.342 %
	横断勾配		車道部： ↘ i=2.0%　（片勾配），歩道部： ↙ i=2.0%
	斜角		90°
交差条件			市道5189号線，市道5187号線，市道5365号線，市道5184号線，JR常磐線 山王川都市下水路
添架物件			
舗装			アスファルト舗装 t＝80mm（車道），t＝30mm（歩道）
耐荷性能条件	橋の重要度の区分		B種の橋
	設計供用期間		100年
	橋の耐荷性能		耐荷性能2
	設計活荷重		B活荷重
	雪荷重		積雪寒冷地域ではないので，考慮しない
	衝突荷重		F＝72kN（直壁型；SB種）
	風荷重		設計基準風速V＝40m/s
	温度変化		構造物；-10℃～+50℃（普通の地方）基準温度+20℃ 支承，伸縮装置の伸縮量；-10℃～+40℃（普通の地方）
	温度差		+10℃
	地域別補正係数		c_z＝1.0，c_{Iz}＝1.0，$c_{Ⅱz}$＝1.0（A２地域）
	地盤種別		Ⅱ種地盤，Ⅲ種地盤
	地盤の液状化		Asg1層（0≦x≦10）；DE＝2/3（レベル1），DE＝1/3（タイプⅠ），DE＝2/3（タイプⅡ） Asg1層（10＜x≦10）；DE＝2/3（タイプⅠ），DE＝2/3（タイプⅡ）
	設計水平震度		・レベル1地震動；kh＝0.25 ・レベル2地震動；タイプⅠk_{1h}=1.30，タイプⅡ橋軸$k_{Ⅱh}$=1.75
耐久性能条件	架橋環境条件		塩害の地域区分C，平地部(飛来塩分；無)，凍結防止剤散布；無し
	塩害対策区分		塩害対策区分なし
	部材の設計耐久期間		［更新を前提としない部材］主桁，床版，橋台，橋脚，基礎；100年
			［更新を前提とする部材］支承，舗装，伸縮装置，検査路，排水装置等；適宜
上部構造条件	形式		鋼4径間連続合成少数鈑桁橋
	床版形式		鋼・コンクリート合成床版（t＝230mm）
	使用材料	コンクリート	σ_{ck}＝30N/mm^2（床版・巻き立てコンクリート），σ_{ck}＝24N/mm^2（地覆・縁石）
		鋼材	SMA400W,SMA490W,SMA570W（耐候性鋼材）
		鉄筋	SD345，SD490
	架設方法		クレーン架設
下部構造条件	形式		逆T式橋台，張出式橋脚
	使用材料	コンクリート	σck＝24N/mm^2
		鉄筋	SD345，SD490
基礎構造条件	形式		中堀り鋼管杭Φ1000（セメントミルク噴出撹拌方式）
	使用材料	コンクリート	－
		鉄筋	SD345
	支持地盤		Isg2層（砂礫層），Isg3層（砂礫層）
支承形式			端始点；可動支承，中間支点；固定支承
落橋防止システム	落橋防止構造		－
	構変位拘束構造		－
維持管理条件	想定点検方法		梯子，リフト車
	検査路		上部構造検査路；有，下部構造検査路；有
	補修時特記事項		・被害予想箇所；支承（レベル2地震動起） ・舗装，床版補修時の交通規制等
適用基準等			道路橋示方書・同解説 Ⅰ～Ⅴ（平成29年11月）
			コンクリート道路橋設計便覧（平成6年2月）
			コンクリート道路橋施工便覧（平成10年1月）
			道路橋支承便覧（平成30年12月）
			杭基礎設計便覧（令和2年9月）
			杭基礎施工便覧（令和2年9月）
			鋼道路橋設計便覧（令和2年9月）
			鋼道路橋施工便覧（令和2年9月）
			コンクリート道路橋設計便覧（令和2年9月）
			コンクリート道路橋施工便覧（令和2年9月）
			土木構造物設計マニュアル（案）（平成11年11月）
			設計要領第二集（平成28年8月）

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

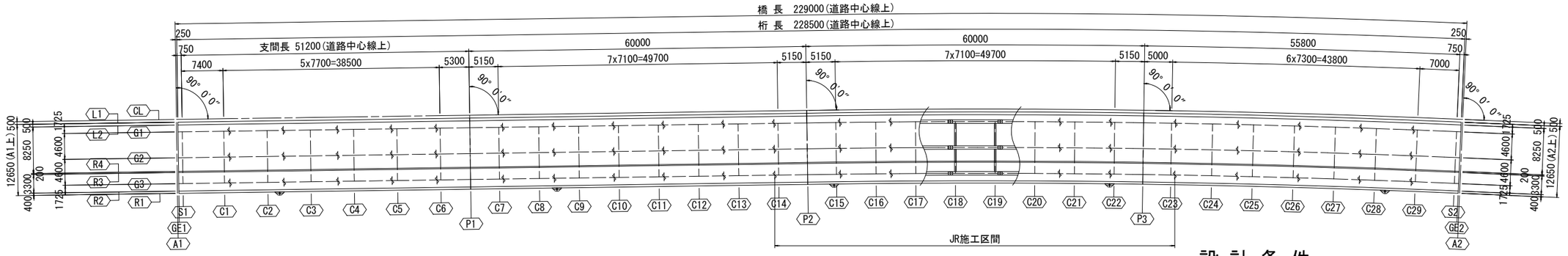
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	橋梁全体一般図(3)		
縮尺	S=1:100	図面番号	178 の 4
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部工構造一般図 S=1:400

側面図

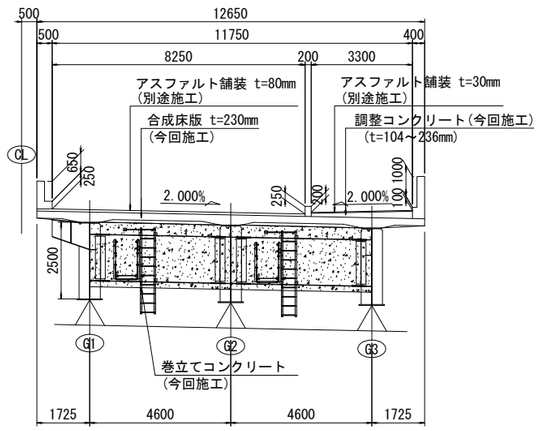


平面図

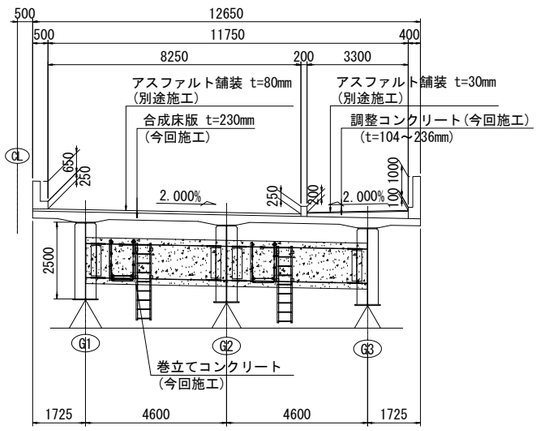


断面図 S=1:100

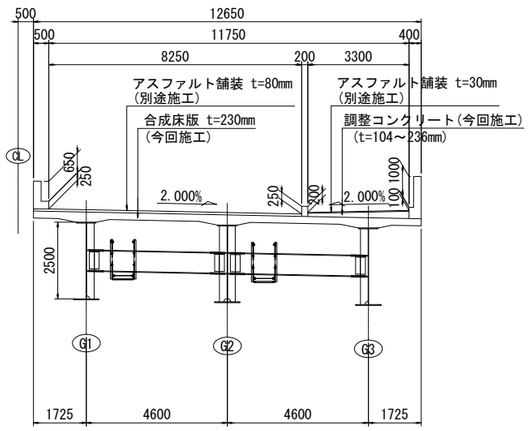
端支点部
S1, S2



中間支点部
P1



中間部
C1～C14, C24～C29



設 計 条 件

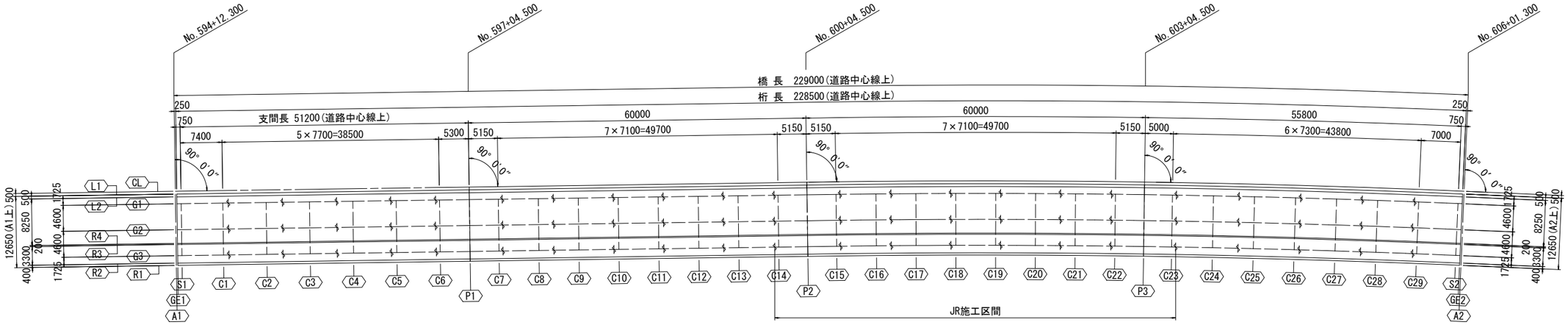
路線名		国道6号千代田石岡バイパス
道路規格		第3種 第1級
設計速度		V = 80 km/h
橋梁形式		鋼4径間連続合成少数鈑桁橋
活荷重		B活荷重
橋長		229.000 m (道路中心線上)
桁長		228.500 m (道路中心線上)
支間長		51.200m + 60.000m + 60.000m + 55.800m (道路中心線上)
幅員構成	総幅員	12.650 m
	有効幅員	車道部: 8.250 m, 歩道部: 3.300m
舗装		アスファルト舗装 t = 80 mm (車道), t= 30 mm (歩道)
床版		鋼・コンクリート合成床版 t = 230 mm
大型車計画交通量		2500台/(日・方向)
線形条件	平面線形	R = ∞ ～ R = 2000
	斜角	90° 00′ 00″
	縦断線形	i = 0.360% ～ (VCL=300m) ～ 0.342%
	横断勾配	車道部: i = 2.000% (片勾配), 歩道部: 2.000%
設計水平震度		レベル1地震動: Kh = 0.30 レベル2地震動: タイプⅠKⅠh = 1.30, タイプⅡKⅡh =1.75
使用材料		コンクリート : σck = 30 N/mm2 (床版・巻き立てコンクリート・壁高欄)
		〃 : σck = 24 N/mm2 (縁石)
		鉄筋 : SD345
		鋼材 : SMA400W, SMA490W, SMA570W (耐候性鋼材)
		(41mm以上の場合は、降伏点一定鋼(-H)を使用する。)
現場継手		S10TW
適用基準等		道路橋示方書・同解説Ⅰ～Ⅴ (平成29年11月)
		設計要領第二集 (平成28年 8月)

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部工構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	178 の 5
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

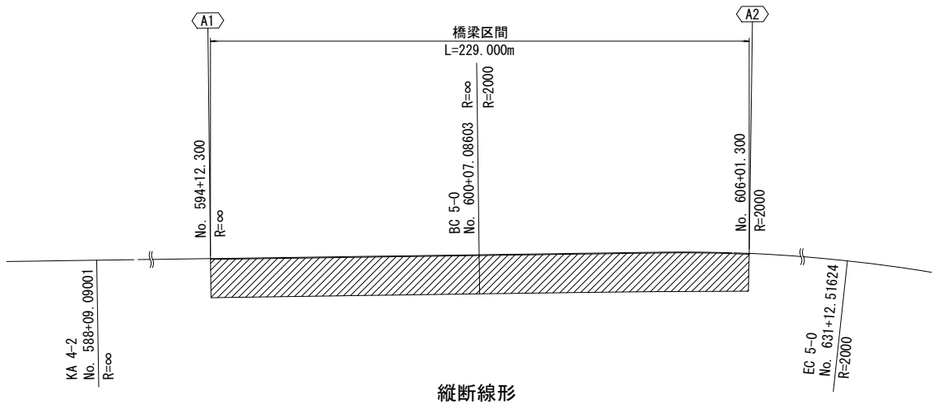
東田中高架橋線形図(1)　S=1:400

平面図

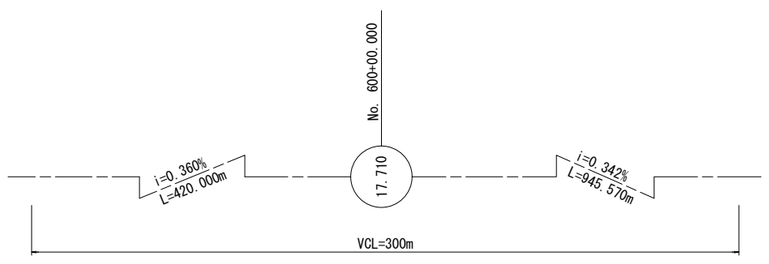


線形要素

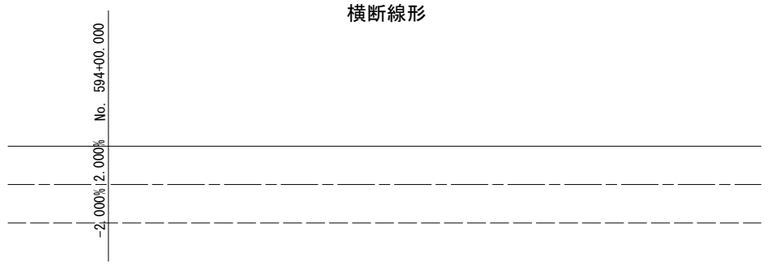
平面線形



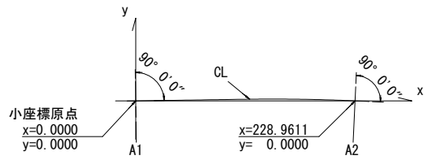
縦断線形



横断線形



小座標の設定

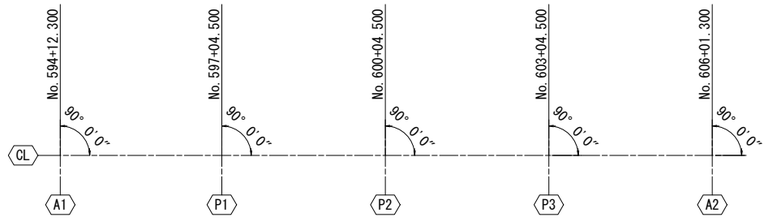


道路中心線(CL)と(A1)横断線との交点を小座標の原点(0,0)とし、原点から
道路中心線(CL)と(A2)横断線との交点を結ぶ線をx軸とする。
原点を通るx軸に直行する軸をy軸とする。

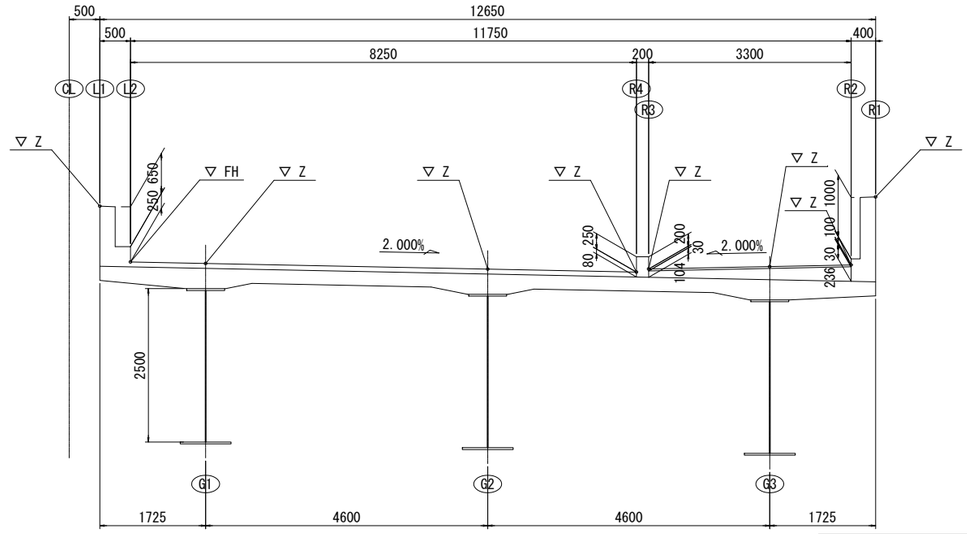
大座標値

	測 点	X座標	Y座標
A1	No.594+12.300	18873.7198	41861.5146
A2	No.606+01.300	18951.6240	42076.8147

ピア設定方法



ライン名称図　S=1:50



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋線形図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 6
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

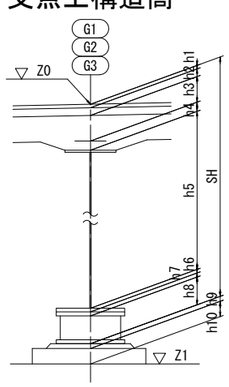
東田中高架橋線形図(2)

小座標値

		A1	GE1	S1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	P1	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14	P2
CL	X	0.0000	0.2500	0.9999	8.3991	16.0984	23.7976	31.4968	39.1960	46.8952	52.1947	57.3442	64.4435	71.5427	78.6420	85.7413	92.8406	99.9399	107.0391	112.1886
	Y	0.0000	0.0036	0.0142	0.1196	0.2293	0.3389	0.4485	0.5582	0.6678	0.7433	0.8166	0.9177	1.0188	1.1199	1.2210	1.3222	1.4233	1.5244	1.5977
	Z	17.3013	17.3020	17.3039	17.3224	17.3403	17.3568	17.3720	17.3857	17.3980	17.4057	17.4126	17.4210	17.4282	17.4343	17.4391	17.4428	17.4453	17.4467	17.4469
L1	X	0.0071	0.2571	1.0070	8.4063	16.1055	23.8047	31.5039	39.2031	46.9024	52.2018	57.3513	64.4506	71.5499	78.6491	85.7484	92.8477	99.9470	107.0463	112.1957
	Y	-0.4999	-0.4964	-0.4857	-0.3803	-0.2707	-0.1610	-0.0514	0.0582	0.1679	0.2434	0.3167	0.4178	0.5189	0.6200	0.7211	0.8222	0.9233	1.0244	1.0977
	Z	18.2113	18.2120	18.2139	18.2324	18.2503	18.2668	18.2820	18.2957	18.3080	18.3157	18.3226	18.3310	18.3382	18.3443	18.3491	18.3528	18.3553	18.3567	18.3569
L2	X	0.0142	0.2642	1.0141	8.4134	16.1126	23.8118	31.5110	39.2103	46.9095	52.2089	57.3584	64.4577	71.5570	78.6563	85.7555	92.8548	99.9541	107.0534	112.2029
	Y	-0.9999	-0.9963	-0.9857	-0.8803	-0.7706	-0.6610	-0.5514	-0.4417	-0.3321	-0.2566	-0.1833	-0.0822	0.0189	0.1200	0.2212	0.3223	0.4234	0.5245	0.5978
	Z	17.3013	17.3020	17.3039	17.3224	17.3403	17.3568	17.3720	17.3857	17.3980	17.4057	17.4126	17.4210	17.4282	17.4343	17.4391	17.4428	17.4453	17.4467	17.4469
G1	X	0.0317	0.2817	1.0316	8.4308	16.1301	23.8293	31.5285	39.2277	46.9269	52.2264	57.3759	64.4751	71.5744	78.6737	85.7730	92.8723	99.9715	107.0708	112.2203
	Y	-2.2248	-2.2212	-2.2105	-2.1052	-1.9955	-1.8859	-1.7762	-1.6666	-1.5569	-1.4815	-1.4081	-1.3070	-1.2059	-1.1048	-1.0037	-0.9026	-0.8015	-0.7004	-0.6271
	Z	17.2768	17.2775	17.2794	17.2979	17.3158	17.3323	17.3475	17.3612	17.3735	17.3812	17.3881	17.3965	17.4037	17.4098	17.4146	17.4183	17.4208	17.4222	17.4224
G2	X	0.0972	0.3472	1.0971	8.4963	16.1956	23.8948	31.5940	39.2932	46.9924	52.2919	57.4414	64.5407	71.6399	78.7392	85.8385	92.9378	100.0371	107.1363	112.2858
	Y	-6.8243	-6.8207	-6.8101	-6.7047	-6.5950	-6.4854	-6.3758	-6.2661	-6.1565	-6.0810	-6.0077	-5.9066	-5.8055	-5.7044	-5.6033	-5.5022	-5.4011	-5.3000	-5.2266
	Z	17.1848	17.1855	17.1874	17.2059	17.2238	17.2403	17.2555	17.2692	17.2815	17.2892	17.2961	17.3045	17.3117	17.3178	17.3226	17.3263	17.3288	17.3302	17.3304
R4	X	0.1317	0.3817	1.1316	8.5309	16.2301	23.9293	31.6285	39.3277	47.0270	52.3264	57.4759	64.5752	71.6745	78.7737	85.8730	92.9723	100.0716	107.1709	112.3203
	Y	-9.2491	-9.2455	-9.2348	-9.1294	-9.0198	-8.9102	-8.8005	-8.6909	-8.5812	-8.5058	-8.4324	-8.3313	-8.2302	-8.1291	-8.0280	-7.9269	-7.8258	-7.7247	-7.6514
	Z	17.1363	17.1370	17.1389	17.1574	17.1753	17.1918	17.2070	17.2207	17.2330	17.2407	17.2476	17.2560	17.2632	17.2693	17.2741	17.2778	17.2803	17.2817	17.2819
R3	X	0.1346	0.3845	1.1345	8.5337	16.2329	23.9322	31.6314	39.3306	47.0298	52.3293	57.4787	64.5780	71.6773	78.7766	85.8759	92.9752	100.0744	107.1737	112.3232
	Y	-9.4490	-9.4455	-9.4348	-9.3294	-9.2198	-9.1101	-9.0005	-8.8908	-8.7812	-8.7057	-8.6324	-8.5313	-8.4302	-8.3291	-8.2280	-8.1269	-8.0258	-7.9247	-7.8514
	Z	17.1863	17.1870	17.1889	17.2074	17.2253	17.2418	17.2570	17.2707	17.2830	17.2907	17.2976	17.3060	17.3132	17.3193	17.3241	17.3278	17.3303	17.3317	17.3319
G3	X	0.1627	0.4127	1.1626	8.5618	16.2611	23.9603	31.6595	39.3587	47.0579	52.3574	57.5069	64.6062	71.7054	78.8047	85.9040	93.0033	100.1026	107.2018	112.3513
	Y	-11.4238	-11.4203	-11.4096	-11.3042	-11.1946	-11.0849	-10.9753	-10.8656	-10.7560	-10.6805	-10.6072	-10.5061	-10.4050	-10.3039	-10.2028	-10.1017	-10.0006	-9.8995	-9.8262
	Z	17.2258	17.2265	17.2284	17.2469	17.2648	17.2813	17.2965	17.3102	17.3225	17.3302	17.3371	17.3455	17.3527	17.3588	17.3636	17.3673	17.3698	17.3712	17.3714
R2	X	0.1816	0.4315	1.1815	8.5807	16.2799	23.9791	31.6784	39.3776	47.0768	52.3763	57.5257	64.6250	71.7243	78.8236	85.9229	93.0221	100.1214	107.2207	112.3702
	Y	-12.7487	-12.7451	-12.7345	-12.6291	-12.5194	-12.4098	-12.3002	-12.1905	-12.0809	-12.0054	-11.9321	-11.8310	-11.7299	-11.6288	-11.5277	-11.4266	-11.3255	-11.2244	-11.1510
	Z	17.2523	17.2530	17.2549	17.2734	17.2913	17.3078	17.3230	17.3367	17.3490	17.3567	17.3636	17.3720	17.3792	17.3853	17.3901	17.3938	17.3963	17.3977	17.3979
R1	X	0.1873	0.4372	1.1871	8.5864	16.2856	23.9848	31.6841	39.3833	47.0825	52.3820	57.5314	64.6307	71.7300	78.8293	85.9286	93.0278	100.1271	107.2264	112.3759
	Y	-13.1487	-13.1451	-13.1344	-13.0291	-12.9194	-12.8098	-12.7001	-12.5905	-12.4808	-12.4054	-12.3320	-12.2309	-12.1298	-12.0287	-11.9276	-11.8265	-11.7254	-11.6243	-11.5510
	Z	18.3623	18.3630	18.3649	18.3834	18.4013	18.4178	18.4330	18.4467	18.4590	18.4667	18.4736	18.4820	18.4892	18.4953	18.5001	18.5038	18.5063	18.5077	18.5079

		C15	C16	C17	C18	C19	C20	C21	C22	P3	C23	C24	C25	C26	C27	C28	C29	S2	GE2	A2
CL	X	117.3381	124.4377	131.5375	138.6374	145.7374	152.8374	159.9372	167.0368	172.1864	177.1858	184.4845	191.7826	199.0801	206.3769	213.6728	220.9678	227.9621	228.7114	228.9611
	Y	1.6694	1.7488	1.8030	1.8320	1.8357	1.8143	1.7677	1.6959	1.6280	1.5494	1.4122	1.2484	1.0580	0.8409	0.5972	0.3268	0.0426	0.0107	0.0000
	Z	17.4465	17.4450	17.4422	17.4383	17.4332	17.4270	17.4195	17.4109	17.4039	17.3965	17.3847	17.3716	17.3572	17.3417	17.3248	17.3068	17.2883	17.2862	17.2855
L1	X	117.3446	124.4424	131.5404	138.6386	145.7368	152.8350	159.9330	167.0309	172.1792	177.1773	184.4742	191.7705	199.0662	206.3611	213.6552	220.9484	227.9406	228.6899	228.9397
	Y	1.1694	1.2488	1.3030	1.3320	1.3357	1.3143	1.2677	1.1959	1.1281	1.0495	0.9124	0.7486	0.5582	0.3412	0.0975	-0.1728	-0.4569	-0.4888	-0.4995
	Z	18.3565	18.3550	18.3522	18.3483	18.3432	18.3370	18.3295	18.3209	18.3139	18.3065	18.2947	18.2816	18.2672	18.2517	18.2348	18.2168	18.1983	18.1962	18.1955
L2	X	117.3511	124.4471	131.5433	138.6397	145.7362	152.8326	159.9289	167.0249	172.1719	177.1688	184.4639	191.7584	199.0522	206.3454	213.6376	220.9290	227.9192	228.6685	228.9183
	Y	0.6695	0.7488	0.8030	0.8320	0.8357	0.8143	0.7677	0.6959	0.6281	0.5496	0.4125	0.2487	0.0584	-0.1586	-0.4022	-0.6724	-0.9565	-0.9884	-0.9991
	Z	17.4465	17.4450	17.4422	17.4383	17.4332	17.4270	17.4195	17.4109	17.4039	17.3965	17.3847	17.3716	17.3572	17.3417	17.3248	17.3068	17.2883	17.2862	17.2855
G1	X	117.3670	124.4586	131.5505	138.6425	145.7346	152.8267	159.9186	167.0104	172.1542	177.1480	184.4386	191.7286	199.0180	206.3067	213.5945	220.8814	227.8667	228.6160	228.8658
	Y	-0.5554	-0.4761	-0.4220	-0.3930	-0.3893	-0.4106	-0.4572	-0.5290	-0.5968	-0.6753	-0.8123	-0.9759	-1.1661	-1.3830	-1.6264	-1.8965	-2.1804	-2.2123	-2.2230
	Z	17.4220	17.4205	17.4177	17.4138	17.4087	17.4025	17.3950	17.3864	17.3794	17.3720	17.3602	17.3471	17.3327	17.3172	17.3003	17.2823	17.2638	17.2617	17.2610
G2	X	117.4266	124.5019	131.5774	138.6532	145.7289	152.8047	159.8803	166.9557	172.0877	177.0700	184.3438	191.6170	198.8896	206.1615	213.4325	220.7026	227.6696	228.4189	228.6687
	Y	-5.1550	-5.0759	-5.0219	-4.9930	-4.9892	-5.0106	-5.0571	-5.1286	-5.1963	-5.2746	-5.4113	-5.5746	-5.7644	-5.9807	-6.2236	-6.4930	-6.7761	-6.8080	-6.8187
	Z	17.3300	17.3285	17.3257	17.3218	17.3167	17.3105	17.3030	17.2944	17.2874	17.2800	17.2682	17.2551	17.2407	17.2252	17.2083	17.1903	17.1718	17.1697	17.1690
R4	X	117.4580	124.5247	131.5917	138.6588	145.7259	152.7930	159.8600	166.9268	172.0526	177.0288	184.2938	191.5582	198.8219	206.0850	213.3472	220.6084	227.5657	228.3150	228.5647
	Y	-7.5798	-7.5008	-7.4469	-7.4180	-7.4142	-7.4356	-7.4820	-7.5535	-7.6210	-7.6992	-7.8358	-7.9988	-8.1884	-8.4045	-8.6471	-8.9162	-9.1989	-9.2308	-9.2415
	Z	17.2815	17.2800	17.2772	17.2733	17.2682	17.2620	17.2545	17.2459	17.2389	17.2315	17.2197	17.2066	17.1922	17.1767	17.1598	17.1418	17.1233	17.1212	17.1205
R3	X	117.4606	124.5266	131.5928	138.6592	145.7257	152.7921	159.8584	166.9245	172.0497	177.0254	184.2897	191.5533	198.8164	206.0787	213.3401	220.6006	227.5571	228.3064	228.5562
	Y	-7.7798	-7.7008	-7.6469	-7.6180	-7.6142	-7.6356	-7.6820	-7.7535	-7.8210	-7.8992	-8.0357	-8.1988	-8.3883	-8.6044	-8.8470	-9.1160	-9.3987	-9.4306	-9.4413
	Z	17.3315	17.3300	17.3272	17.3233	17.3182	17.3120	17.3045	17.2959	17.2889	17.2815	17.2697	17.2566	17.2422	17.2267	17.2098	17.1918	17.1733	17.1712	17.1705
G3	X	117.4862	124.5452	131.6044	138.6638	145.7232	152.7826	159.8419	166.9010	172.0211	176.9919	184.2489	191.5054	198.7612	206.0163	213.2706	220.5239	227.4724	228.2218	228.4715
	Y	-9.7547	-9.6757	-9.6218	-9.5930	-9.5892	-9.6105	-9.6569	-9.7283	-9.7958	-9.8739	-10.0103	-10.1732	-10.3626	-10.5784	-10.8207	-11.0895	-11.3719	-11.4038	-11.4145
	Z	17.3710	17.3695	17.3667	17.3628	17.3577	17.3515	17.3440	17.3354	17.3284	17.3210	17.3092	17.2961	17.2817	17.2662	17.2493	17.2313	17.2128	17.2107	17.2100
R2	X	117.5033	124.5576	131.6122	138.6668	145.7216	152.7763	159.8308	166.8852	172.0019	176.9695	184.2216	191.4733	198.7243	205.9745	213.2239	220.4724	227.4157	228.1650	228.4148
	Y	-11.0796	-11.0007	-10.9468	-10.9180	-10.9142	-10.9355	-10.9819	-11.0532	-11.1207	-11.1987	-11.3350	-11.4978	-11.6870	-11.9027	-12.1449	-12.4135	-12.6957	-12.7276	-12.7383
	Z	17.3975	17.3960	17.3932	17.3893	17.3842	17.3780	17.3705	17.3619	17.3549	17.3475	17.3357	17.3226	17.3082	17.2927	17.2758	17.2578	17.2393	17.2372	17.2365
R1	X	117.5085	124.5614	131.6145	138.6678	145.7211	152.7743	159.8275	166.8805	171.9962	176.9627	184.2134	191.4636	198.7131	205.9619	213.2098	220.4569	227.3985	228.1478	228.3976
	Y	-11.4795	-11.4006	-11.3468	-11.3180	-11.3142	-11.3355	-11.3818	-11.4532	-11.5206	-11.5987	-11.7350	-11.8977	-12.0869	-12.3025	-12.5447	-12.8132	-13.0953	-13.1272	-13.1379
	Z	18.5075	18.5060	18.5032	18.4993	18.4942	18.4880	18.4805	18.4719	18.4649	18.4575	18.4457	18.4326	18.4182	18.4027	18.3858	18.3678	18.3493	18.3472	18.3465

支点上構造高



支点上構造高表

(単位:m)

		A1(S1)			P1			P2			P3			A2(S2)		
		G1	G2	G3	G1	G2	G3	G1	G2	G3	G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計画高	Z0	17.279	17.187	17.228	17.381	17.289	17.330	17.422	17.330	17.371	17.379	17.287	17.328	17.264	17.172	17.213
舗装厚	h1	0.080	0.080	0.030	0.080	0.080	0.030	0.080	0.080	0.030	0.080	0.080	0.030	0.080	0.080	0.030
間詰めコンクリート厚	h2	—	—	0.183	—	—	0.183	—	—	0.183	—	—	0.183	—	—	0.183
床版厚	h3	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230	0.230
ハンチ高	h4	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
桁高	h5	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500	2.500
下フランジ厚	h6	0.026	0.026	0.027	0.050	0.041	0.054	0.043	0.038	0.043	0.055	0.042	0.059	0.026	0.026	0.026
ソールプレート厚	h7	0.042	0.042	0.042	0.067	0.067	0.067	0.067	0.067	0.067	0.067	0.067	0.067	0.042	0.042	0.042
支承高	h8	0.282	0.282	0.282	0.390	0.390	0.390	0.390	0.390	0.390	0.390	0.390	0.390	0.282	0.282	0.282
小計	SH	3.260	3.260	3.394	3.417	3.408	3.554	3.410	3.405	3.543	3.422	3.409	3.559	3.260	3.260	3.393
モルタル厚	h9	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030	0.030
台座高	h10	0.213	0.213	0.213	0.142	0.151	0.138	0.151	0.156	0.151	0.139	0.152	0.135	0.212	0.212	0.212
下部工天端高	Z1	13.776	13.684	13.591	13.792	13.700	13.608	13.831	13.739	13.647	13.788	13.696	13.604	13.760	13.670	13.577

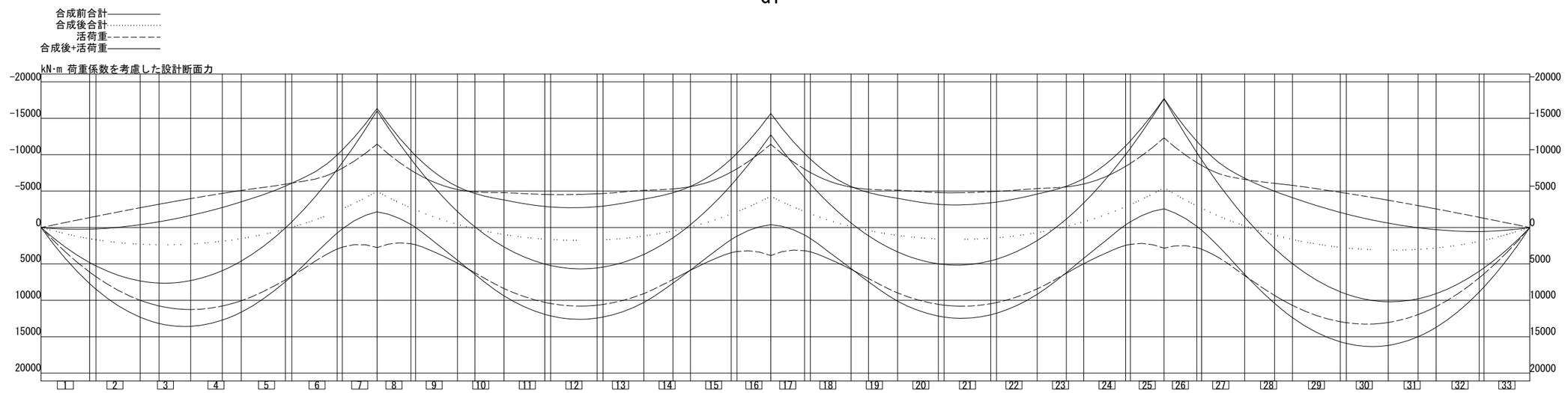
※桁高は、上フランジ厚を含む。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋線形図(2)		
縮尺	—	図面番号	178 の 7
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋断面構成図(1)

S=1:350

G1



格間長
径間長

断面変化位置



単位：mm N/mm2

第1主桁		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
断面名		Sec-1	Sec-2	Sec-3	Sec-4	Sec-5	Sec-6	Sec-7	Sec-8	Sec-9	Sec-10	Sec-11	Sec-12	Sec-13	Sec-14	Sec-15	Sec-16	Sec-17	Sec-18	Sec-19	Sec-20	Sec-21	Sec-22	Sec-23
上フランジ	幅	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620
	厚	20(3)	20(3)	20(3)	20(3)	25(3)	49(8)	27(3)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	33(4)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	35(3)	55(8)	31(3)	26(3)	31(3)	31(3)	19(3)
腹板	高さ	2480	2480	2480	2480	2475	2451	2473	2481	2481	2481	2481	2467	2481	2481	2481	2481	2465	2445	2469	2474	2469	2469	2481
	厚	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)
下フランジ	幅	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830
	厚	26(3)	30(3)	30(3)	26(3)	38(3)	50(8)	41(7)	26(3)	26(3)	26(3)	34(3)	43(8)	35(3)	26(3)	26(3)	26(3)	47(7)	55(8)	44(7)	39(3)	39(3)	39(3)	26(3)
上フランジ	σd	-213	-262	-262	-217	230	293	237	-188	-124	-201	215	313	223	-192	-197	-174	240	298	239	-262	-265	-260	-242
	σud	272	272	272	272	272	344	272	272	162	272	272	344	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272
	σud-σd	59	9	9	55	42	51	35	83	38	71	56	31	49	79	75	98	32	47	32	9	6	12	29
	応力ケース	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	6:鋼	16:鋼	16:鋼	2:鋼	1:鋼桁	2:鋼	17:鋼	17:鋼	17:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	16:鋼	16:鋼	7:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼
下フランジ	σd	187	252	254	243	-229	-307	-228	-134	238	231	-207	-297	-209	226	233	-144	-232	-309	-232	253	266	251	211
	σud	272	272	272	272	238	319	243	165	272	272	228	319	236	272	272	165	243	320	241	272	272	272	272
	σud-σd	85	20	18	28	9	12	15	31	33	41	21	22	27	45	39	21	11	11	9	19	5	20	61
	応力ケース	4:合成	5:合成	5:合成	5:合成	6:鋼	26:鋼	26:鋼	26:鋼	5:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	5:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	6:鋼	5:合成	5:合成	5:合成	4:合成
腹板	τd	68	44	-36	-62	-79	-89	78	58	29	-53	-72	-83	72	53	-31	-60	-80	95	87	62	31	-53	-75
	τud	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157
	合成	0.61	0.91	0.91	0.83	0.94	0.93	0.98	0.66	0.75	0.72	0.82	0.94	0.84	0.66	0.69	0.59	0.97	0.95	1.02	0.87	0.88	0.85	0.77
孔引き後σ	上フランジ				84	250		258	79		45	263		253	56		80	261		260				
	下フランジ	268	268		259				268	262	159				257	257	109				271	269		257
決定要因	上フランジ	E	B	B	E	E	F	E	D	D	D	D	F	D	D	D	D	C	F	C	E	B	B	D
	下フランジ	D	C	C	D	B	B	B	C	C	E	B	B	B	D	D	B	B	B	B	C	C	C	D

材質　(1):SMA400W，(5):SMA400W-H
　　(2):--------，(6):----------
　　(3):SMA490W，(7):SMA490W-H
　　(4):SMA570W，(8):SMA570W-H
　　(9):SBHS400W
　　(10):SBHS500W

応力ケース　1:D1
　　2:D+TF+CR+SH　12:2+TH　22:2-TH
　　3:D-TF+CR+SH　13:3+TH　23:3-TH
　　4:D+Lmax+TF+CR+SH　14:4+TH　24:4-TH
　　5:D+Lmax-TF+CR+SH　15:5+TH　25:5-TH
　　6:D+Lmin+TF+CR+SH　16:6+TH　26:6-TH
　　7:D+Lmin-TF+CR+SH　17:7+TH　27:7-TH

鋼桁：鋼桁のみ（合成前）
鋼　：鋼桁+鉄筋（合成後）
合成：鋼桁+ｺﾝｸﾘｰﾄ床版（合成後）

決定要因　A:引張応力度
　　B:圧縮応力度
　　C:孔引応力度
　　D:フランジ自由突出
　　E:フランジ板厚差
　　F:鉄筋応力度

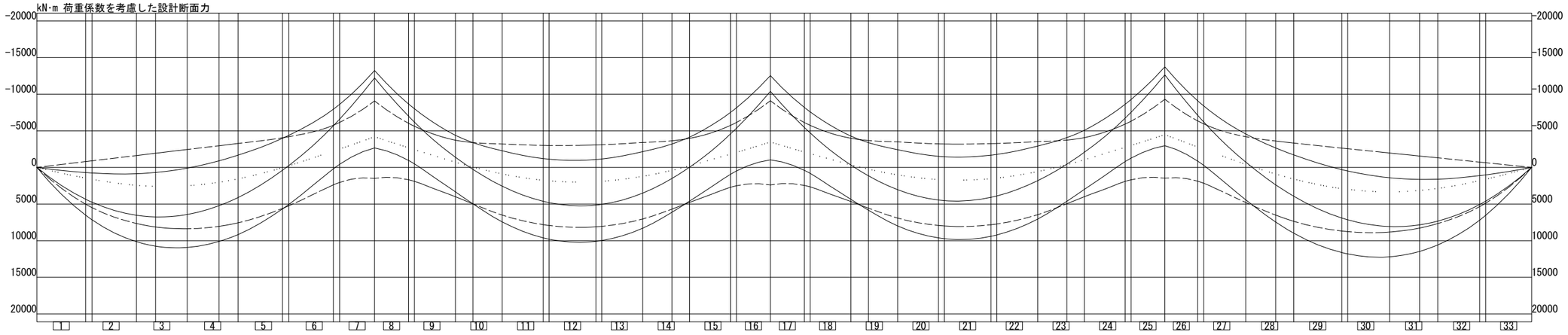
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋断面構成図(1)		
縮尺	S=1:350	図面番号	178 の 8
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋断面構成図(2)　S=1:350

G2

合成前合計————
合成後合計……
活荷重- - - - - -
合成後+活荷重————



格間長
径間長

断面変化位置



上側鉄筋
下側鉄筋

単位：mm N/mm2

第2主桁		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
断面名		Sec-1	Sec-2	Sec-3	Sec-4	Sec-5	Sec-6	Sec-7	Sec-8	Sec-9	Sec-10	Sec-11	Sec-12	Sec-13	Sec-14	Sec-15	Sec-16	Sec-17	Sec-18	Sec-19	Sec-20	Sec-21	Sec-22	Sec-23
上フランジ	幅	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620
	厚	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	25(4)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	19(4)	19(3)	19(3)	19(3)	19(3)	22(3)	28(4)	19(3)	22(3)	27(3)	27(3)	19(3)
腹板	高さ	2481	2481	2481	2481	2481	2475	2481	2481	2481	2481	2481	2481	2481	2481	2481	2481	2478	2472	2481	2478	2473	2473	2481
	厚	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)
下フランジ	幅	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830
	厚	26(3)	26(3)	26(3)	26(3)	35(3)	41(8)	35(3)	26(3)	26(3)	26(3)	32(3)	38(4)	32(3)	26(3)	26(3)	26(3)	37(3)	42(8)	37(3)	29(3)	29(3)	29(3)	26(3)
上フランジ	σd	-207	-258	-258	-211	188	326	208	-186	-204	-199	163	326	170	-186	-190	-169	215	322	208	-255	-259	-254	-222
	σud	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272
	σud-σd	64	13	13	60	83	19	64	85	68	73	109	18	101	86	82	103	56	22	63	16	13	17	50
	応力ケース	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	6:鋼	17:鋼	16:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	16:鋼	17:鋼	16:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	16:鋼	17:鋼	6:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼
下フランジ	σd	164	236	237	202	-194	-299	-209	184	202	196	-179	-278	-186	187	191	-111	-217	-304	-203	240	256	245	175
	σud	272	272	272	272	236	314	236	272	272	272	212	287	212	272	272	165	243	320	241	272	272	272	272
	σud-σd	108	35	34	70	42	15	27	88	70	75	33	9	26	85	80	54	26	16	38	32	15	26	97
	応力ケース	4:合成	5:合成	5:合成	5:合成	6:鋼	26:鋼	26:鋼	5:合成	5:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	5:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	6:鋼	5:合成	5:合成	5:合成	4:合成
腹板	τd	60	38	-33	-54	-65	-74	64	50	27	-47	-62	-70	61	46	-28	-50	-63	76	68	50	28	-43	-63
	τud	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157
	合成	0.58	0.88	0.88	0.60	0.65	0.99	0.74	0.47	0.55	0.53	0.57	0.97	0.58	0.45	0.47	0.40	0.75	0.95	0.73	0.83	0.85	0.82	0.64
孔引き後σ	上フランジ				10	248		254	16		17	215		225	32		33	263		254				
	下フランジ	234	269	271	98				263	264	135				267	245	85			138	255	261		250
決定要因	上フランジ	D	D	D	D	D	F	D	D	D	D	D	A	D	D	D	D	E	F	D	B	B	B	D
	下フランジ	D	C	C	D	E	B	B	C	C	D	B	B	B	C	D	D	B	B	B	E	C	C	D

材質　(1):SMA400W ,(5):SMA400W-H
　　(2):-------- ,(6):----------
　　(3):SMA490W ,(7):SMA490W-H
　　(4):SMA570W ,(8):SMA570W-H
　　(9):SBHS400W
　　(10):SBHS500W

応力ケース　1:D1
　　2:D+TF+CR+SH　12:2+TH　22:2-TH
　　3:D-TF+CR+SH　13:3+TH　23:3-TH
　　4:D+Lmax+TF+CR+SH　14:4+TH　24:4-TH
　　5:D+Lmax-TF+CR+SH　15:5+TH　25:5-TH
　　6:D+Lmin+TF+CR+SH　16:6+TH　26:6-TH
　　7:D+Lmin-TF+CR+SH　17:7+TH　27:7-TH

鋼桁：鋼桁のみ（合成前）
鋼　：鋼桁+鉄筋（合成後）
合成：鋼桁+ｺﾝｸﾘｰﾄ床版（合成後）

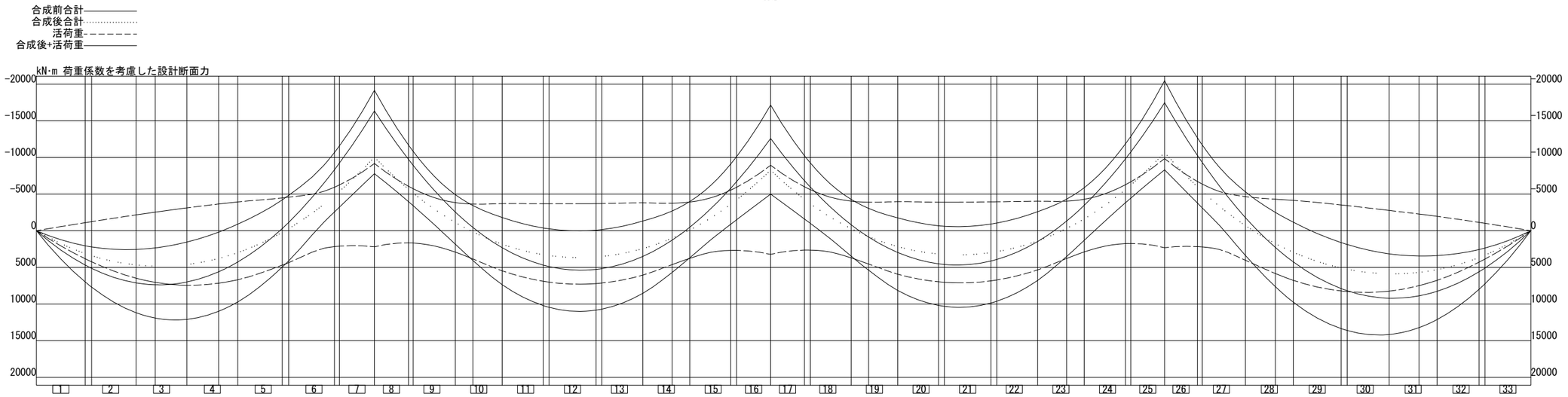
決定要因　A:引張応力度
　　B:圧縮応力度
　　C:孔引応力度
　　D:フランジ自由突出
　　E:フランジ板厚差
　　F:鉄筋応力度

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋断面構成図(2)		
縮尺	S=1:350	図面番号	178 の 9
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

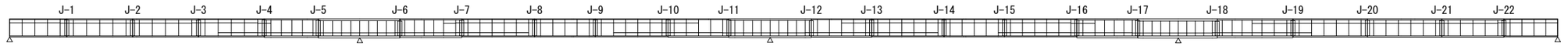
東田中高架橋断面構成図(3)　S=1:350

G3



格間長
径間長

断面変化位置



上側鉄筋
下側鉄筋

単位：mm N/mm2

第3主桁		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
断面名		Sec-1	Sec-2	Sec-3	Sec-4	Sec-5	Sec-6	Sec-7	Sec-8	Sec-9	Sec-10	Sec-11	Sec-12	Sec-13	Sec-14	Sec-15	Sec-16	Sec-17	Sec-18	Sec-19	Sec-20	Sec-21	Sec-22	Sec-23
上フランジ	幅	620	620	620	620	620	770	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	620	770	620	620	620	620	620
	厚	19(3)	27(3)	27(3)	19(3)	30(3)	55(8)	30(3)	19(3)	19(3)	19(3)	23(3)	45(8)	23(3)	19(3)	19(3)	22(3)	37(3)	62(8)	39(3)	31(3)	37(3)	37(3)	19(3)
腹板	高さ	2481	2473	2473	2481	2470	2445	2470	2481	2481	2481	2477	2455	2477	2481	2481	2478	2463	2438	2461	2469	2463	2463	2481
	厚	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	15(4)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	13(3)
下フランジ	幅	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830
	厚	27(3)	27(3)	27(3)	27(3)	41(7)	54(8)	44(7)	26(3)	26(3)	26(3)	35(3)	43(8)	35(3)	26(3)	26(3)	26(3)	49(7)	59(8)	46(7)	32(3)	35(3)	35(3)	26(3)
上フランジ	σd	-238	-261	-261	-240	222	256	239	-203	-226	-220	199	276	207	-205	-210	-175	237	254	219	-260	-263	-258	-259
	σud	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272	344	272	272	272	272	272
	σud-σd	34	11	11	32	49	89	33	69	46	52	73	68	64	66	62	97	34	91	53	12	8	14	13
	応力ケース	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	7:鋼	16:鋼	16:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	17:鋼	17:鋼	17:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	16:鋼	16:鋼	6:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼	2:鋼
下フランジ	σd	173	249	250	212	-227	-310	-231	-119	213	206	-202	-307	-209	194	199	-132	-233	-311	-232	252	254	242	195
	σud	272	272	272	272	238	319	243	165	272	272	236	320	236	272	272	165	243	320	241	272	272	272	272
	σud-σd	99	23	22	60	11	9	12	46	59	66	34	13	27	78	72	33	10	9	9	19	17	30	77
	応力ケース	4:合成	5:合成	5:合成	5:合成	6:鋼	26:鋼	26:鋼	26:鋼	5:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	15:合成	5:合成	26:鋼	26:鋼	26:鋼	6:鋼	5:合成	5:合成	5:合成	4:合成
腹板	τd	61	37	-31	-58	-77	-88	76	54	24	-48	-68	-80	67	46	-25	-55	-77	94	84	57	25	-44	-66
	τud	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157	199	157	157	157	157	157
	合成	0.77	0.89	0.89	0.78	0.90	0.94	0.97	0.55	0.68	0.64	0.71	0.89	0.72	0.54	0.56	0.40	0.93	0.95	0.94	0.86	0.87	0.84	0.88
孔引き後σ	上フランジ				74	256		260	81		18	262		253	39		71	258		267					
	下フランジ	247	264		259				257	261	122				260	251	36				269	257		262
決定要因	上フランジ	D	B	B	D	C	F	C	D	D	D	E	F	E	D	D	D	C	F	C	B	B	B	D
	下フランジ	D	C	C	E	B	B	B	C	C	E	B	B	B	C	D	B	B	B	B	C	C	E	D

材質　(1):SMA400W，(5):SMA400W-H
　　(2):--------，(6):---------
　　(3):SMA490W，(7):SMA490W-H
　　(4):SMA570W，(8):SMA570W-H
　　(9):SBHS400W
　　(10):SBHS500W

応力ケース　1:D1
　　2:D+TF+CR+SH　12:2+TH　22:2-TH
　　3:D-TF+CR+SH　13:3+TH　23:3-TH
　　4:D+Lmax+TF+CR+SH　14:4+TH　24:4-TH
　　5:D+Lmax-TF+CR+SH　15:5+TH　25:5-TH
　　6:D+Lmin+TF+CR+SH　16:6+TH　26:6-TH
　　7:D+Lmin-TF+CR+SH　17:7+TH　27:7-TH

鋼桁：鋼桁のみ（合成前）
鋼　：鋼桁+鉄筋（合成後）
合成：鋼桁+ｺﾝｸﾘｰﾄ床版（合成後）

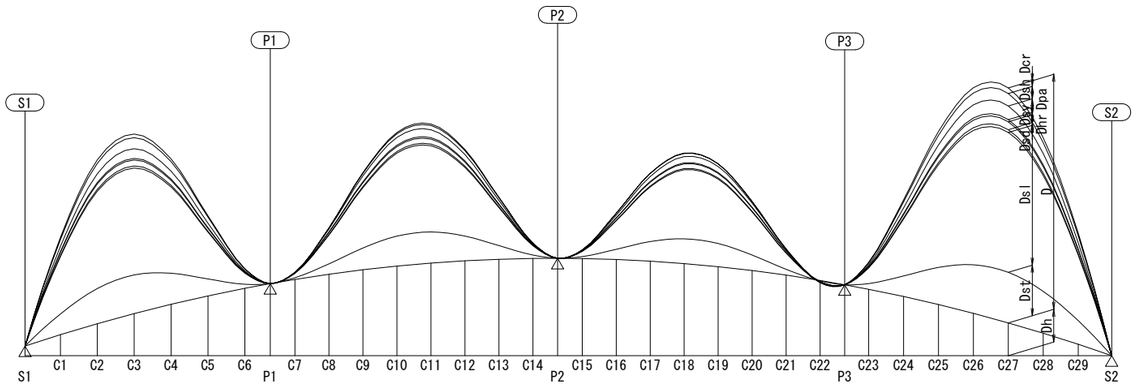
決定要因　A:引張応力度
　　B:圧縮応力度
　　C:孔引応力度
　　D:フランジ自由突出
　　E:フランジ板厚差
　　F:鉄筋応力度

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋断面構成図(3)
縮尺	S=1:350　図面番号　178 の 10
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋キャンバー図

S=1:350



単位 mm

		S1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	P1	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13	C14	P2	C15	C16	C17	C18	C19	C20	C21	C22	P3	C23	C24	C25	C26	C27	C28	C29	S2
G1	Dh	16	34	52	69	84	97	110	118	124	133	140	146	151	155	157	158	159	158	157	154	150	145	139	131	123	116	108	96	83	69	53	37	19	0
	Dst	0	13	23	25	20	11	3	0	1	7	14	20	20	16	9	2	0	1	7	13	16	15	10	4	0	0	4	13	24	32	33	27	15	0
	Dsl	0	38	65	71	57	31	7	0	3	19	40	55	57	46	25	6	0	4	19	36	46	43	29	11	−1	0	10	38	68	89	93	77	44	0
	Dsd	0	−1	−1	−1	−1	−1	0	0	0	0	−1	−1	−1	−1	0	0	0	0	0	−1	−1	−1	0	0	0	0	0	−1	−1	−2	−2	−2	−1	0
	Dhr	0	3	5	5	4	2	1	0	0	2	3	4	4	3	2	0	0	0	2	3	4	4	3	1	0	0	1	3	5	7	7	6	3	0
	Dsy	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0
	Dpa	0	3	6	6	5	3	1	0	0	2	4	5	5	4	2	1	0	0	2	3	4	4	3	1	0	0	1	4	7	9	9	7	4	0
	Dsh	0	4	7	7	6	4	1	0	0	1	2	2	3	3	2	0	0	0	1	2	2	2	1	0	0	0	1	4	6	8	8	7	4	0
	Dcr	0	1	2	2	2	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	4	3	2	0
	D	0	63	107	117	95	52	13	0	4	30	63	87	91	73	40	10	0	6	30	57	72	67	45	17	−2	0	18	63	113	147	153	127	72	0
G2	Dh	16	34	52	69	84	97	110	118	124	133	140	146	151	155	157	158	159	158	157	154	150	145	139	131	123	116	108	96	83	69	53	37	19	0
	Dst	0	13	22	24	20	11	3	0	1	7	14	19	20	16	9	2	0	1	6	12	15	14	10	4	0	0	4	13	23	30	31	26	14	0
	Dsl	0	36	62	68	55	31	8	0	3	20	39	53	55	45	25	7	0	3	18	34	43	40	28	11	0	0	10	37	65	85	88	73	41	0
	Dsd	0	2	3	3	3	2	0	0	0	1	2	3	3	2	1	0	0	0	1	1	2	2	1	0	0	0	1	2	4	5	5	4	2	0
	Dhr	0	1	3	3	2	1	0	0	0	1	1	2	2	2	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	2	4	5	5	4	2	0
	Dsy	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0
	Dpa	0	3	5	5	4	2	1	0	0	2	3	4	4	3	2	1	0	0	1	3	3	3	2	1	0	0	1	3	5	7	7	6	3	0
	Dsh	0	4	7	7	6	4	1	0	0	1	2	2	3	2	2	0	0	0	2	2	2	2	2	1	0	0	1	4	6	8	8	7	5	0
	Dcr	0	2	3	3	3	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	−1	0	0	1	2	4	5	5	4	2	0
	D	0	62	105	115	94	53	13	0	5	30	62	85	88	71	41	11	0	5	29	54	68	63	43	17	−1	0	18	63	112	145	150	125	70	0
G3	Dh	16	34	52	69	84	97	110	117	124	133	140	146	151	155	157	158	159	158	157	154	150	145	139	131	123	116	108	96	83	69	53	37	19	0
	Dst	0	12	20	22	17	9	2	0	1	6	12	17	18	14	8	2	0	1	5	10	13	12	8	3	0	0	3	11	20	27	28	23	13	0
	Dsl	0	35	59	64	52	28	6	0	2	17	37	51	54	43	24	6	0	3	16	31	40	37	24	8	−1	0	9	33	59	78	82	68	39	0
	Dsd	0	6	10	11	9	5	1	0	1	3	6	8	9	7	4	1	0	1	3	5	7	6	4	2	0	0	2	6	10	13	14	12	7	0
	Dhr	0	4	7	8	6	4	1	0	0	2	5	6	7	5	3	1	0	0	2	4	5	5	3	1	0	0	1	4	7	10	10	8	5	0
	Dsy	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0
	Dpa	0	2	3	3	3	2	0	0	0	1	2	3	3	2	1	0	0	0	1	2	2	2	1	0	0	0	1	2	3	4	5	4	2	0
	Dsh	0	4	7	7	6	4	1	0	0	1	1	2	2	2	1	0	0	0	2	2	3	2	2	1	0	0	1	4	6	7	8	7	4	0
	Dcr	0	3	5	5	4	2	1	0	0	0	1	2	2	2	1	0	0	0	0	1	1	1	0	−1	−1	0	1	2	5	6	7	6	3	0
	D	0	66	111	121	97	53	13	0	4	30	65	90	95	76	42	11	0	5	29	56	71	66	43	15	−2	0	17	62	112	148	154	129	73	0

記号の説明
- Ｄｈ　：縦断勾配
- Ｄｓｔ　：鋼重によるたわみ
- Ｄｓｌ　：床版によるたわみ
- Ｄｓｄ　：歩道中詰材・縁石によるたわみ
- Ｄｈｒ　：高欄によるたわみ
- Ｄｓｙ　：遮音壁によるたわみ
- Ｄｐａ　：舗装によるたわみ
- Ｄｓｈ　：乾燥収縮によるたわみ
- Ｄｃｒ　：クリープによるたわみ
- Ｄ　：合　計

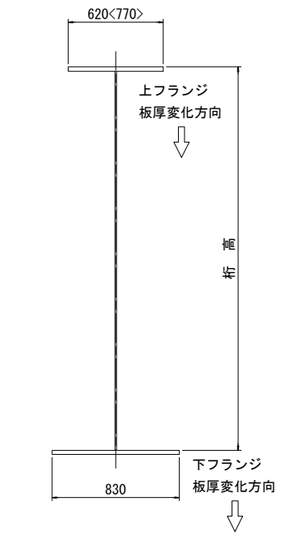
※たわみは荷重係数を乗じていない特性値。後死荷重によるたわみ値は、床版を考慮した合成断面による剛性で算出。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋キャンバー図		
縮尺	S=1:350	図面番号	178 の 11
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋共通詳細図(1) S=1:20

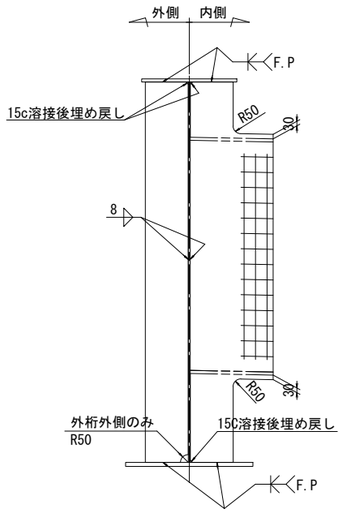
主桁基本寸法図



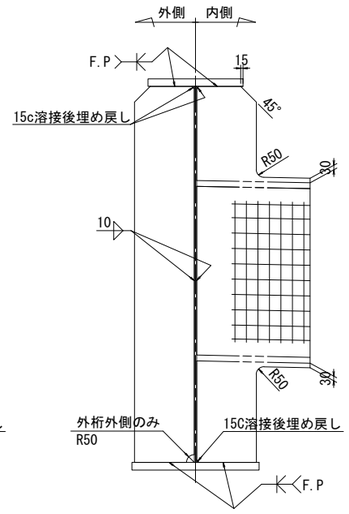
※< >内数値は、G3桁のP1,P3上断面のみ

垂直補剛材詳細図

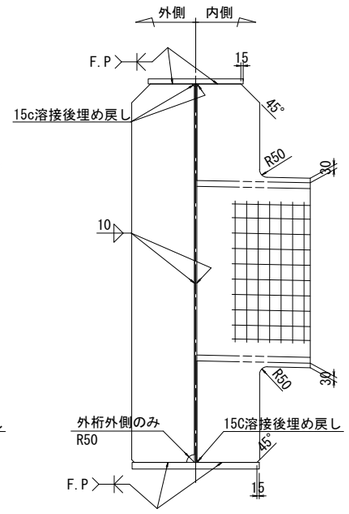
端支点部
S1,S2



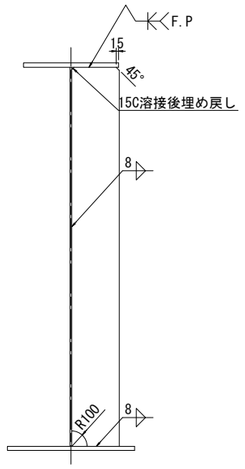
中間支点部
P1,P3



中間支点部
P2

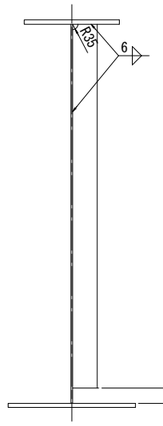


中間横桁部
C1～C29

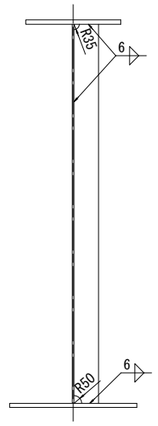


中間補剛材部

正曲げ部

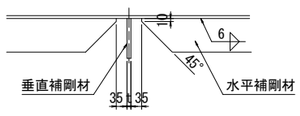


負曲げ部・交番部

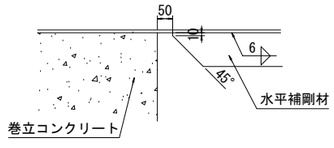


水平補剛材詳細図 S=1:10

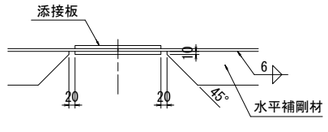
垂直補剛材部



巻立コンクリート部

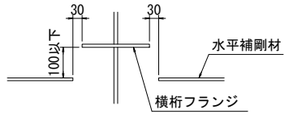


添接部

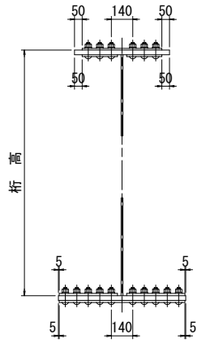


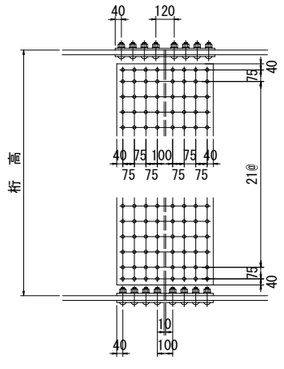
横桁部

水平補剛材と横桁フランジとの
間隔が100以下の時



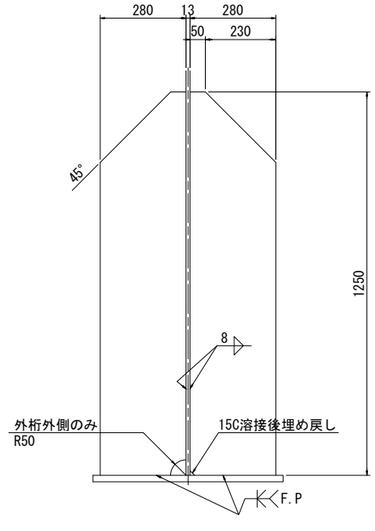
添接部基準寸法詳細





支点上補強リブ詳細 S=1:10

S1,S2

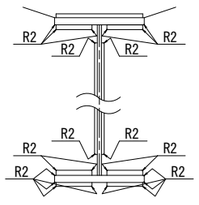


2-PL 280x32x1250(SMA490BW)

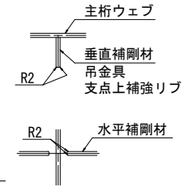
部材自由縁の角部の処理例

S=1:10

主桁部



補剛材部等



・部材組立後に自由端となる切断面の角は鋭く、
発錆しやすいので角の面取りを行う。

・添接板等の接合部については、接合面以外の角の面取りを行う。

注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 「F.P」の表示のある箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

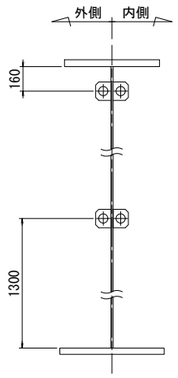
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋共通詳細図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 12
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋共通詳細図(2)

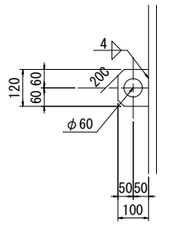
S=1:20

足場用吊金具取付位置 S=1:20



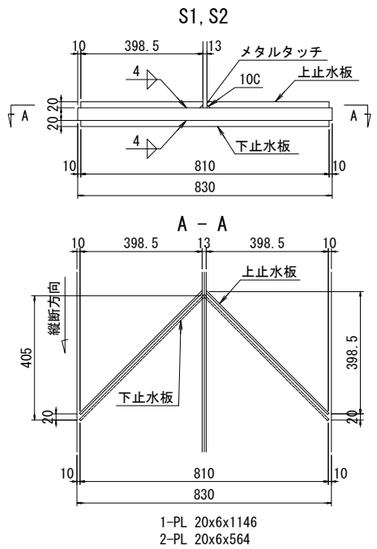
※ 設置位置は(水平方向)は1.8m以内とする。
垂直補剛材に近接する場合は、200mm程度離して設置する。

吊り金具詳細



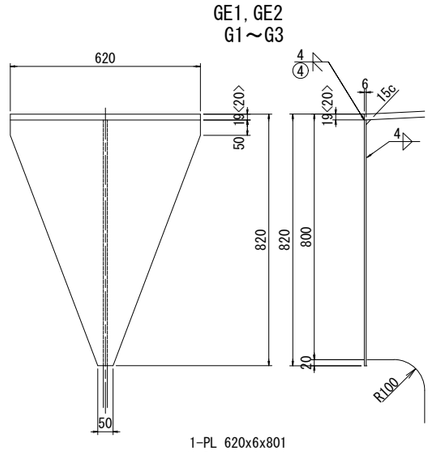
1-PL 100x9x120

下フランジ止水板詳細



1-PL 20x6x1146
2-PL 20x6x564

水切り板詳細

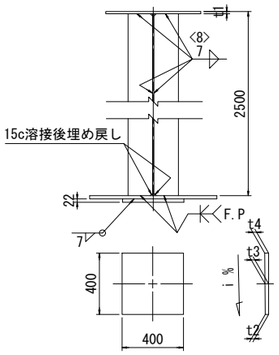


1-PL 620x6x801
<1-PL 620x6x800>

※ ◇内はGE1側G1桁を示す。

ジャッキアップ補剛材詳細 S=1:20

S1, P1, P2, <P3>, S2

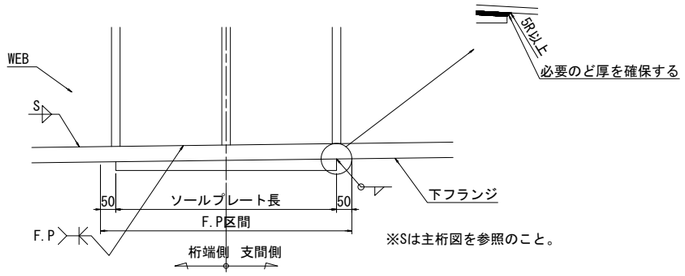


2-PL LL1x22xLL2(SMA490BW)
1-BASE PL 400xt5x400(SMA490BW)

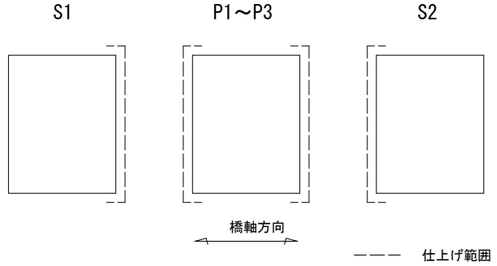
ジャッキアップ補剛材詳細寸法表

		i%	t1	t2	t3	t4	t5	LL1	LL2
S1	G1	0.250	20	22.0	22.5	23.0	25	160	2480
	G2	0.250	19	22.0	22.5	23.0	25	160	2481
	G3	0.250	19	22.0	22.5	23.0	25	160	2481
P1 (S1側)	G1	0.145	49	22.0	22.3	22.6	25	200	2451
	G2	0.145	25	22.0	22.3	22.6	25	200	2475
	G3	0.145	55	22.0	22.3	22.6	25	200	2445
P1 (S2側)	G1	0.133	49	22.0	22.3	22.5	25	200	2451
	G2	0.133	25	22.0	22.3	22.5	25	200	2475
	G3	0.133	55	22.0	22.3	22.5	25	200	2445
P2 (S1側)	G1	0.004	33	22.0	22.0	22.0	22	200	2467
	G2	0.004	19	22.0	22.0	22.0	22	200	2481
	G3	0.004	45	22.0	22.0	22.0	22	200	2455
P2 (S2側)	G1	-0.008	33	22.0	22.0	22.0	22	200	2467
	G2	-0.008	19	22.0	22.0	22.0	22	200	2481
	G3	-0.008	45	22.0	22.0	22.0	22	200	2455
P3 (S1側)	G1	-0.136	55	22.5	22.3	22.0	25	200	2445
	G2	-0.136	28	22.5	22.3	22.0	25	200	2472
	G3	-0.137	62	22.5	22.3	22.0	25	200	2438
P3 (S2側)	G1	-0.148	55	22.6	22.3	22.0	25	200	2445
	G2	-0.148	28	22.6	22.3	22.0	25	200	2472
	G3	-0.149	62	22.6	22.3	22.0	25	200	2438
S2	G1	-0.265	19	23.1	22.5	22.0	26	180	2481
	G2	-0.265	19	23.1	22.5	22.0	26	180	2481
	G3	-0.266	19	23.1	22.5	22.0	26	180	2481

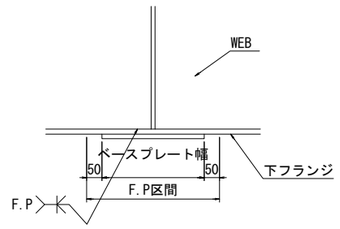
主桁ソールプレート部溶接要領



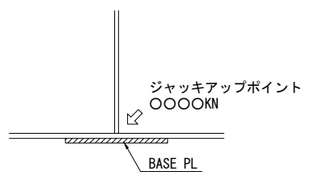
※Sは主桁図を参照のこと。



ジャッキ用ベースプレート部溶接要領



ジャッキアップポイントの表示(別途施工)



工事の際は、主桁にジャッキアップポイント位置
及び反力について確認しやすい位置に表示すること。

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 「F.P」の表示のある箇所は、完全溶け込み溶接を用いる。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

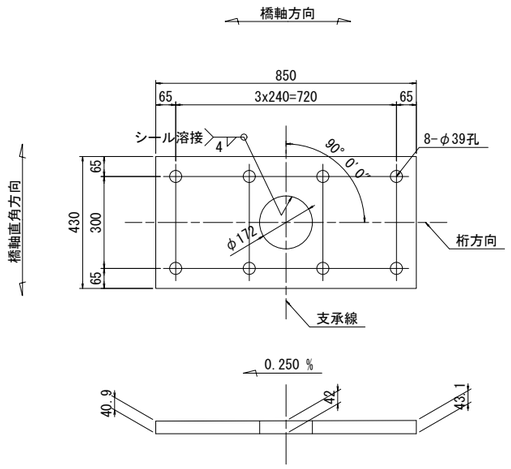
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋共通詳細図(2)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 13
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋共通詳細図(3)

S=1:20

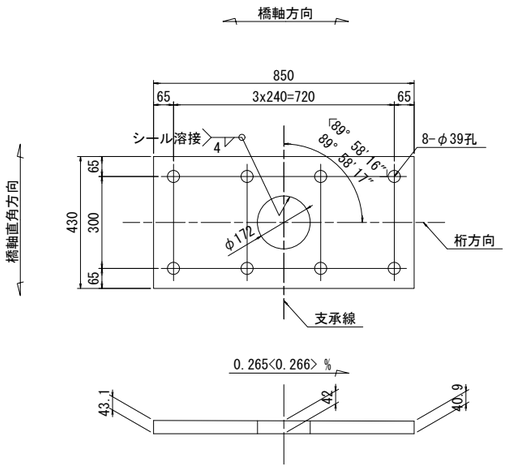
ソールプレート詳細図

S1



1-SOLE PL 430x46x850(SMA400CW-H)

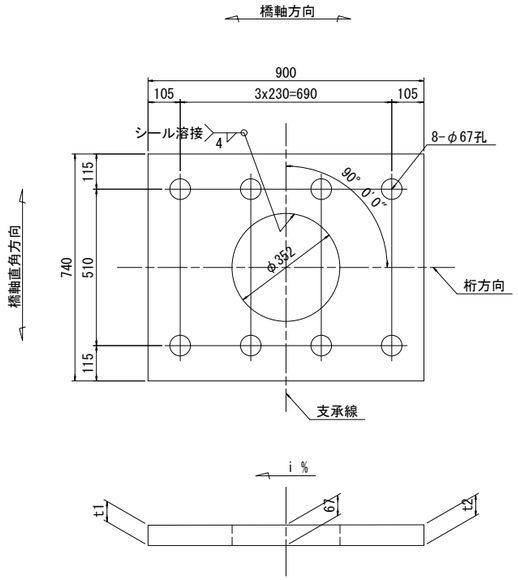
S2



1-SOLE PL 430x46x850(SMA400CW-H)

※< >内は,G3桁を示す。

P1～P3



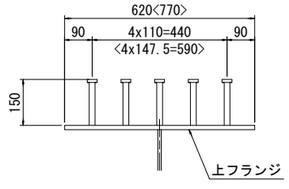
1-SOLE PL 740xTx900(SMA400CW-H)

		t1	t2	T	i%
P1	G1	66.4	67.6	70	0.139
	G2	66.4	67.6	70	0.139
	G3	66.4	67.6	70	0.139
P2	G1	67.0	67.0	67	-0.002
	G2	67.0	67.0	67	-0.002
	G3	67.0	67.0	67	-0.002
P3	G1	67.6	66.4	70	-0.142
	G2	67.6	66.4	70	-0.142
	G3	67.6	66.4	70	-0.143

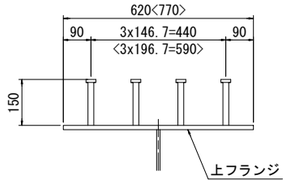
スタッド配置図

G1,G2,G3

端部、中間支点部

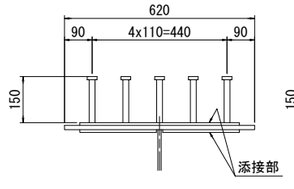


一般部

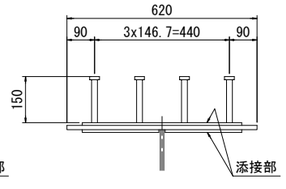


添接部

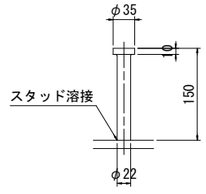
5本タイプ



4本タイプ



スタッド詳細 S=1:5



1-STUD φ22x150(SS400)

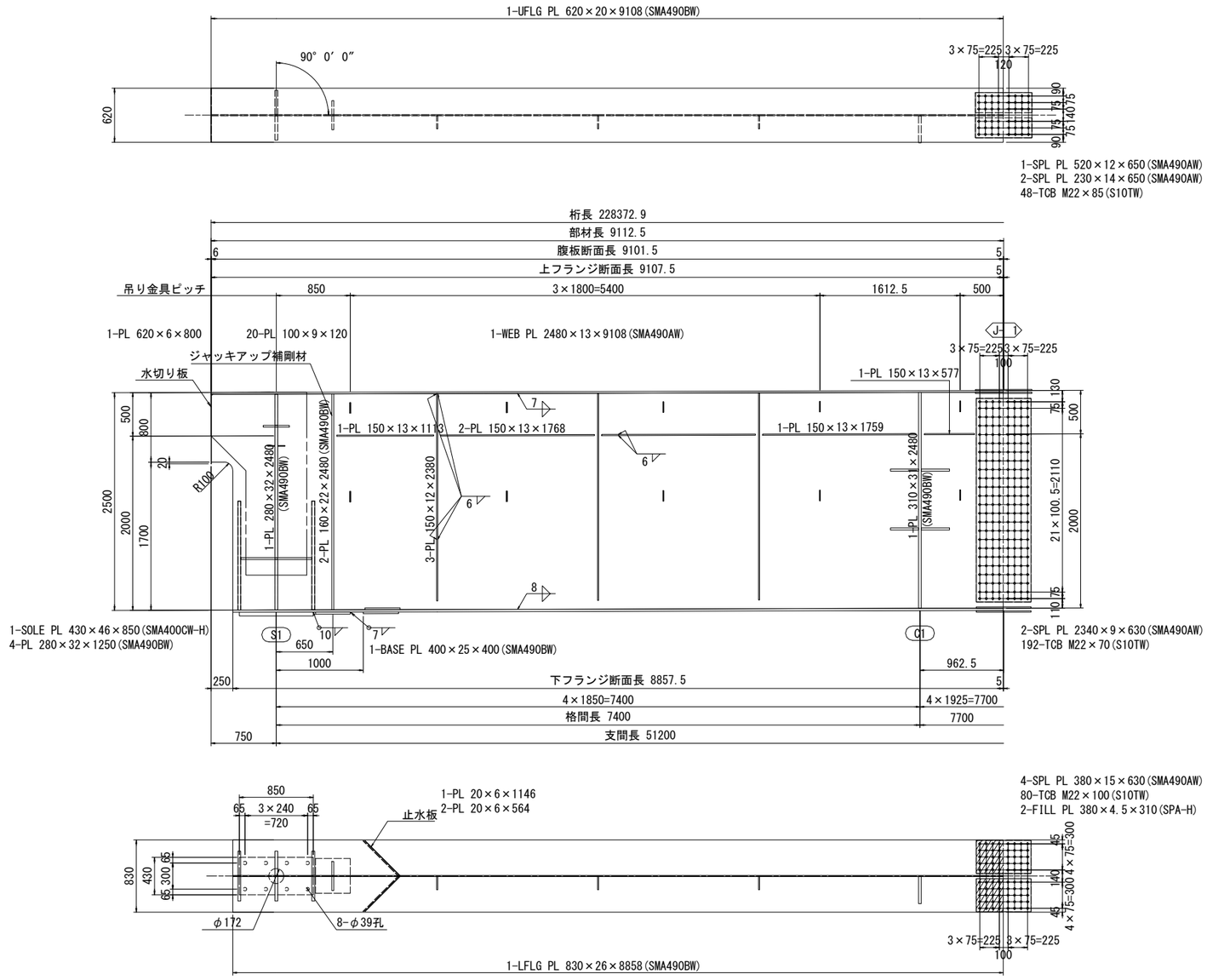
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。

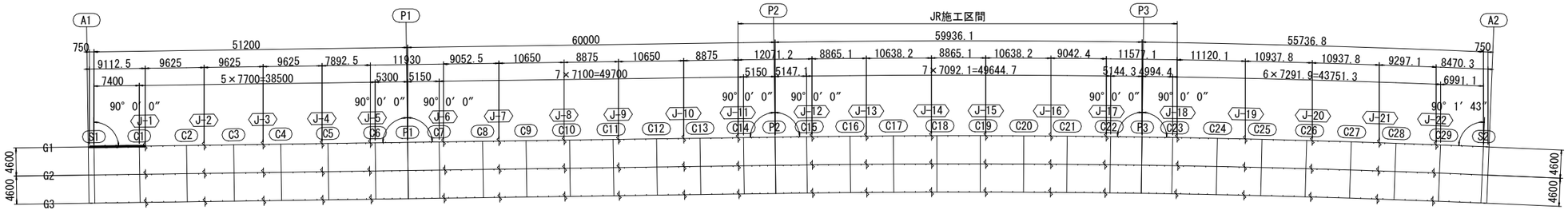
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋共通詳細図(3)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 14
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(1)　S=1:30



配　置　図

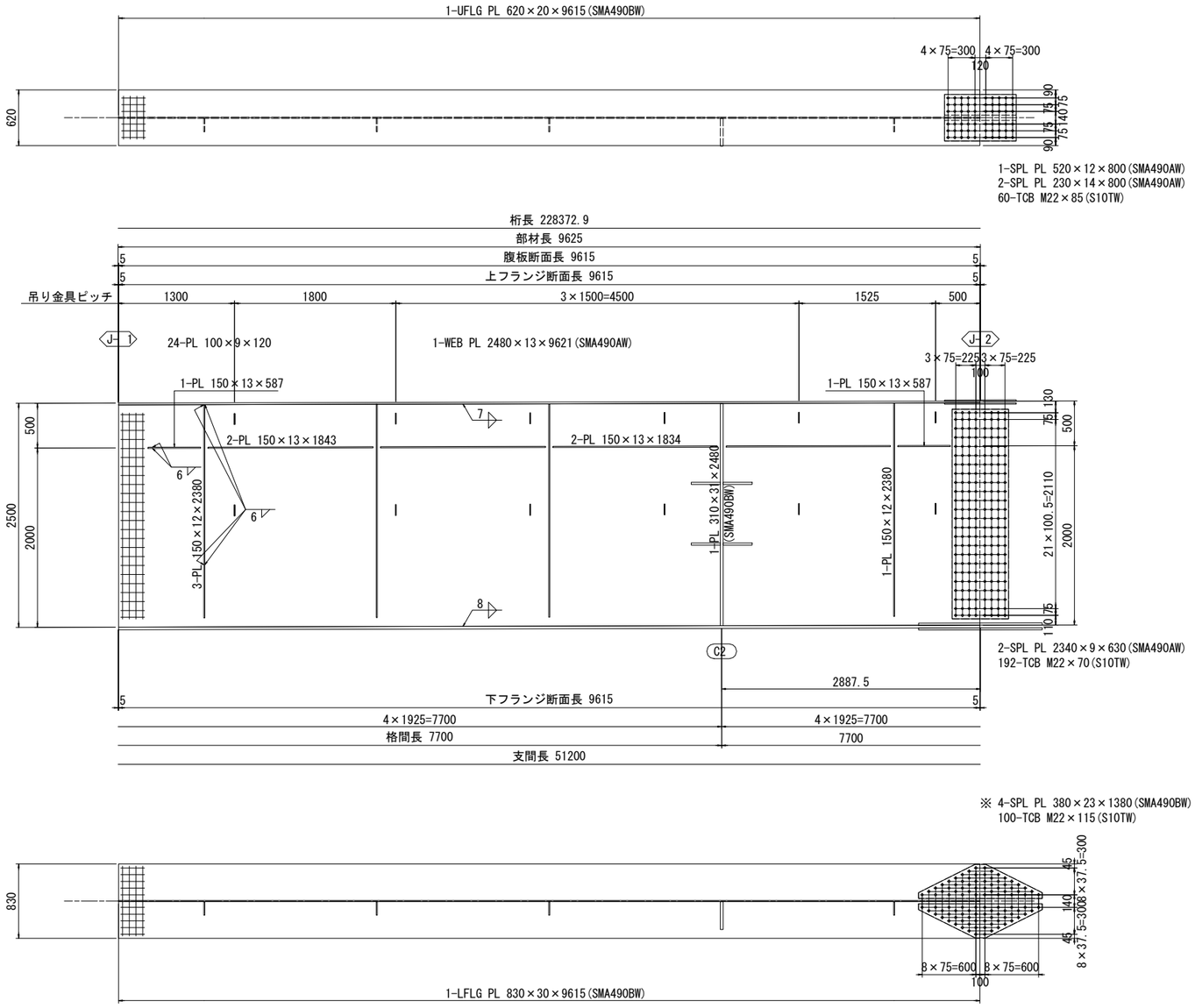


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

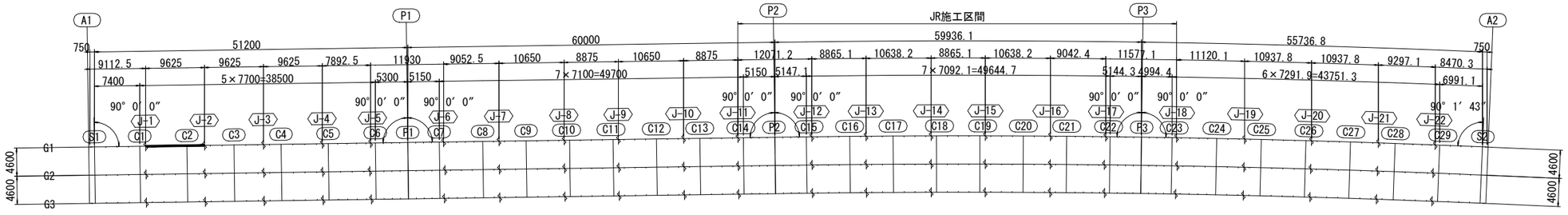
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(1)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 15
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(2)　S=1:30



配　置　図

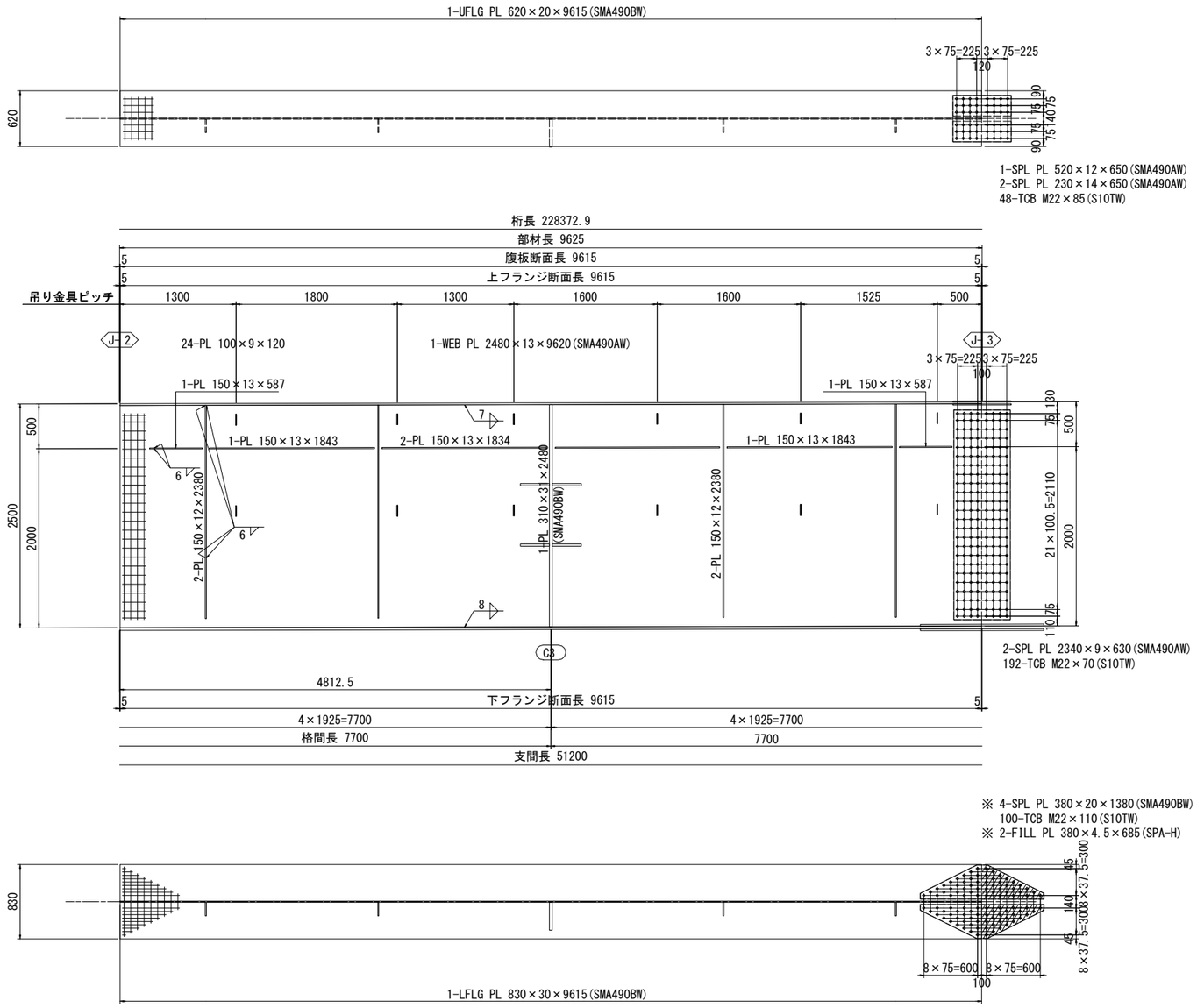


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

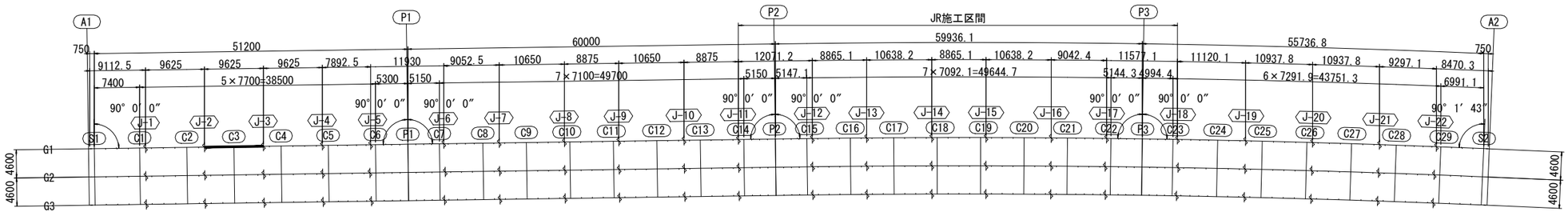
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 16
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(3)　S=1:30



配　置　図

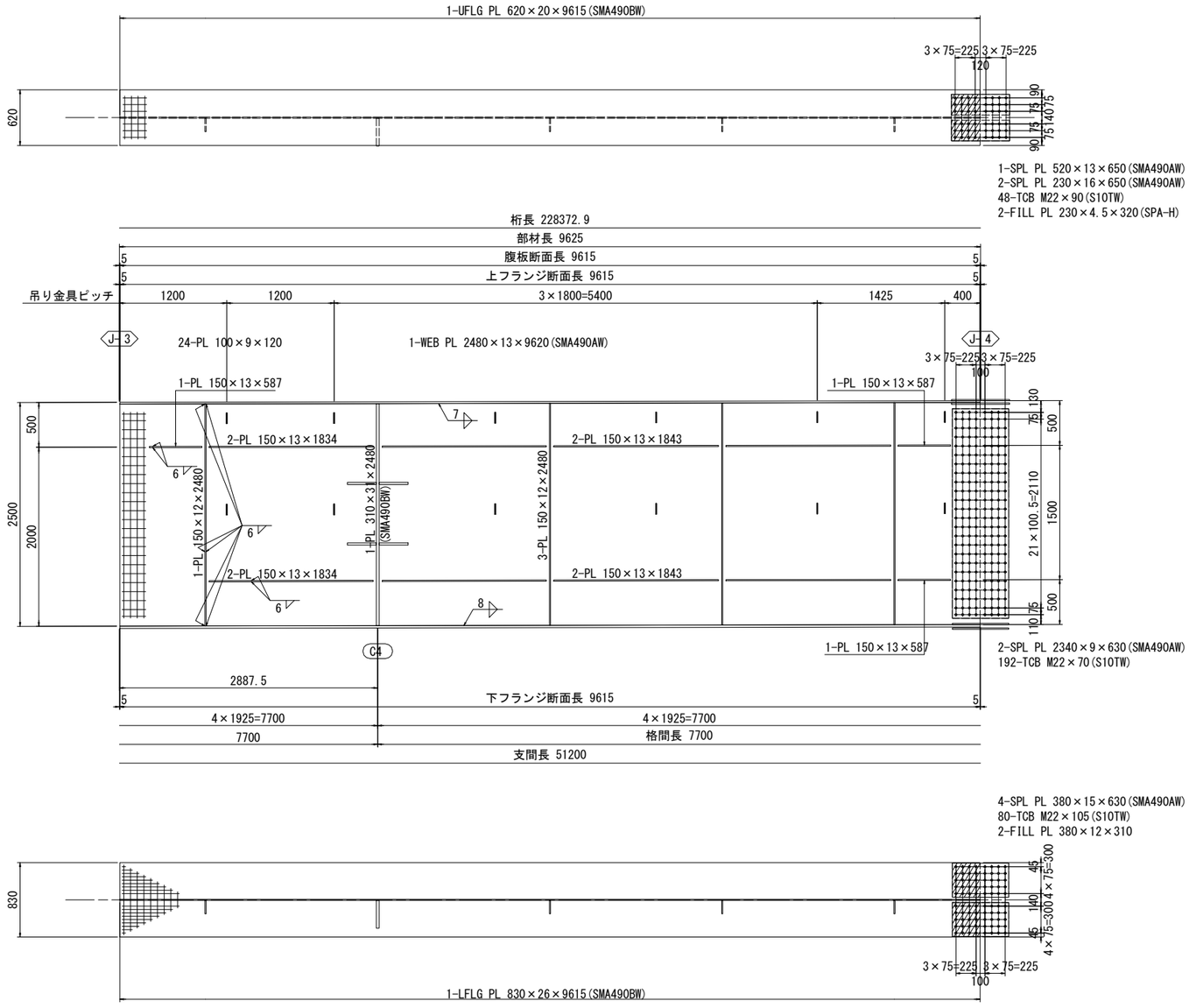


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

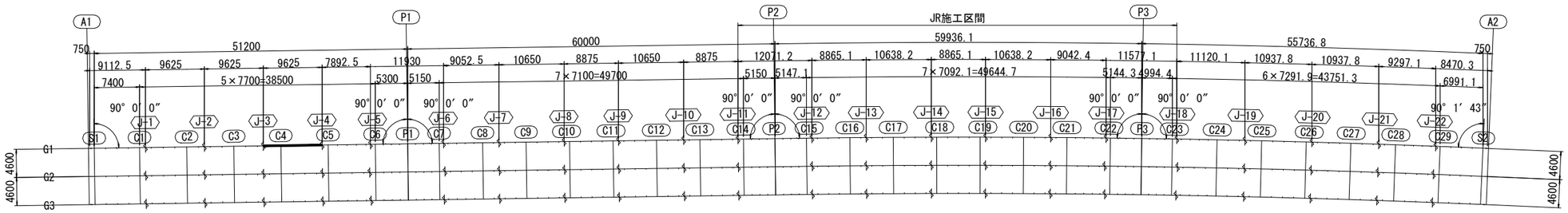
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 17
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(4)　S=1:30



配　置　図

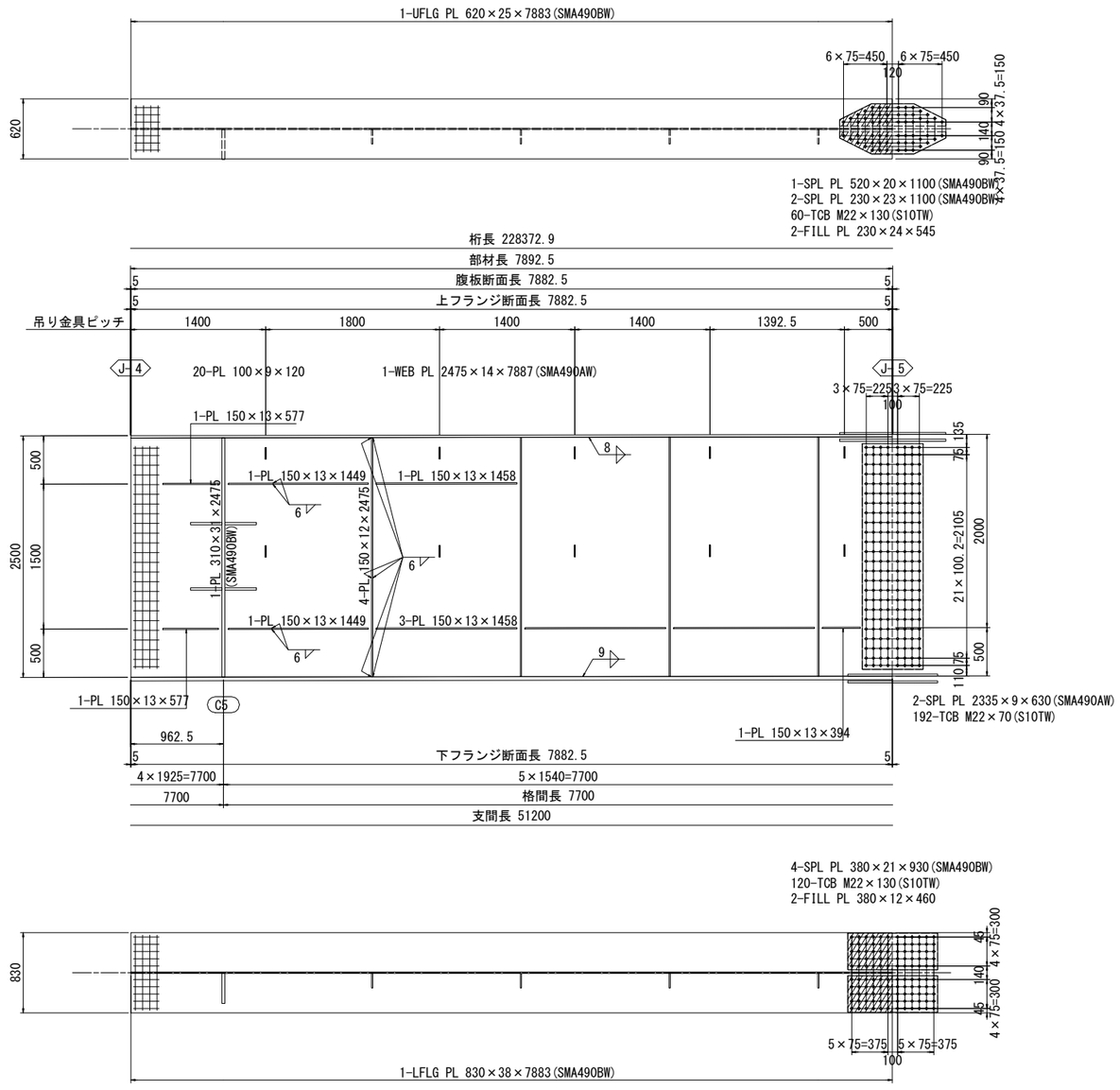


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

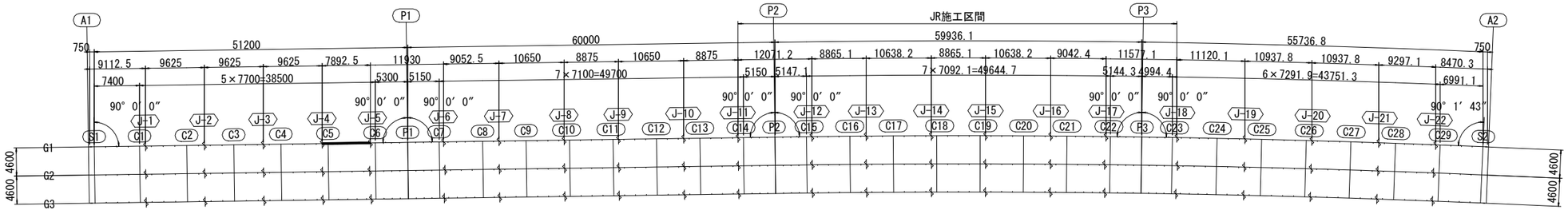
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(4)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 18
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(5)　S=1:30



配　置　図

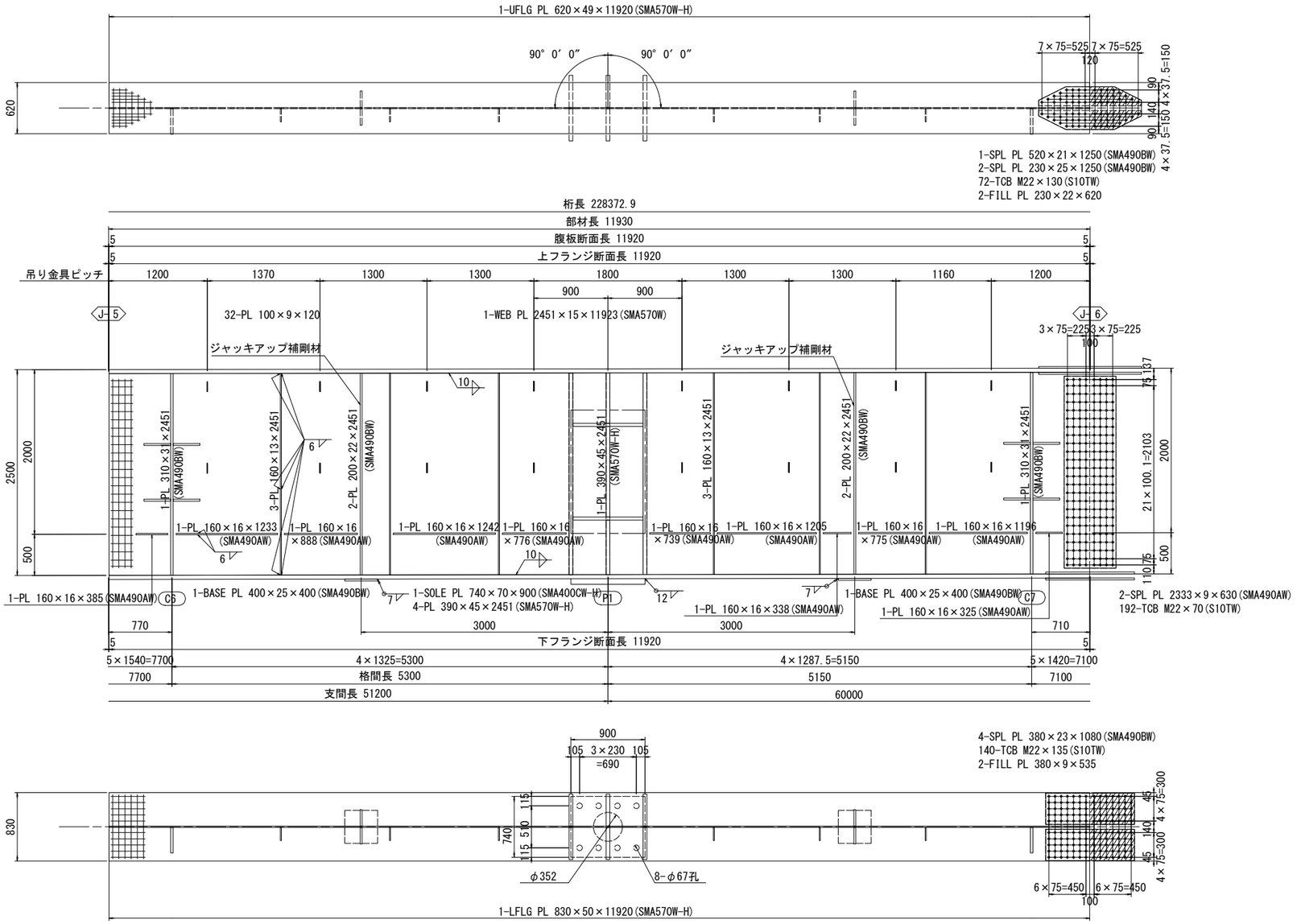


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

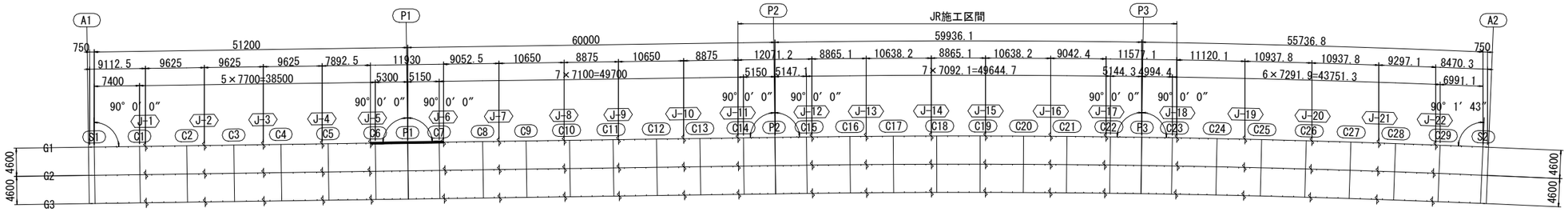
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(5)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 19
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(6)　S=1:30



配　置　図

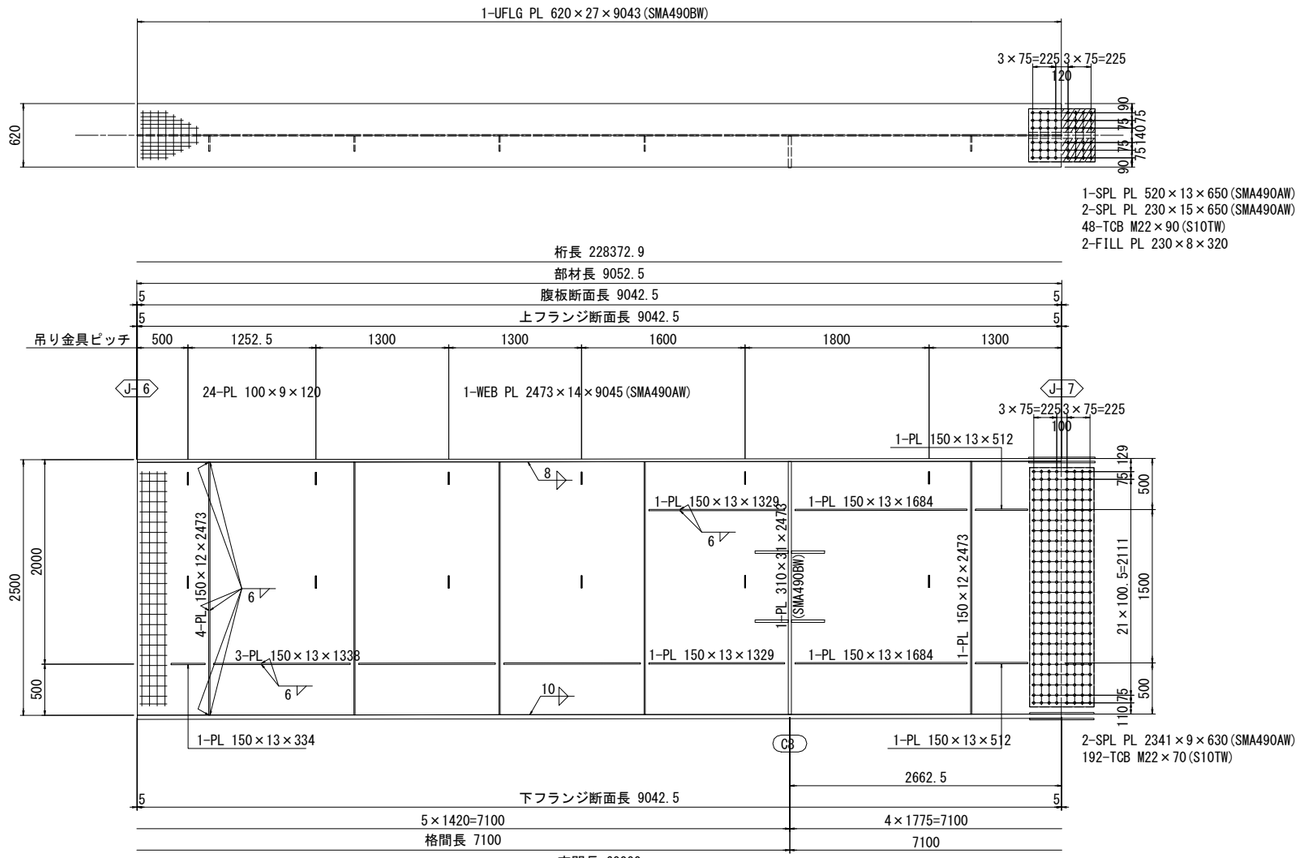


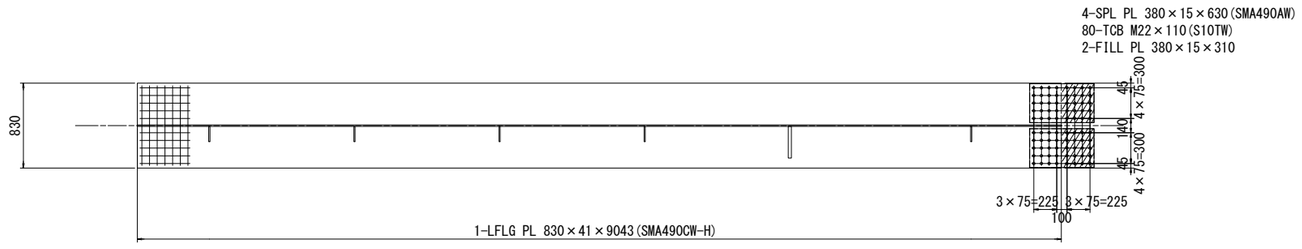
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

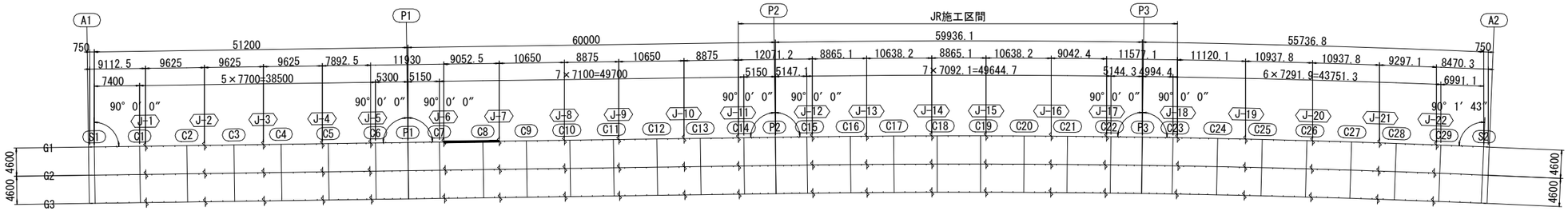
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(6)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 20
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(7)　S=1:30





配　置　図

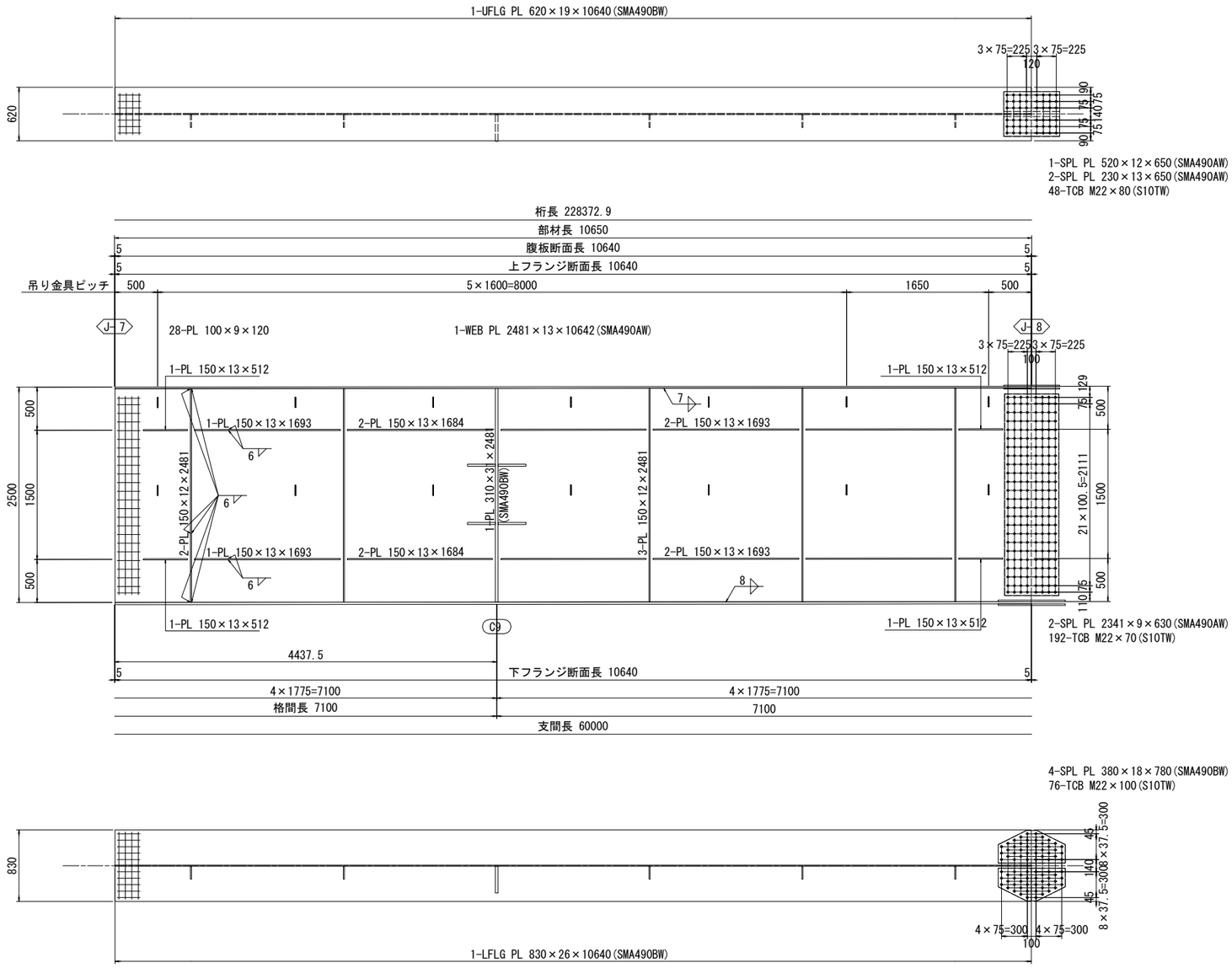


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

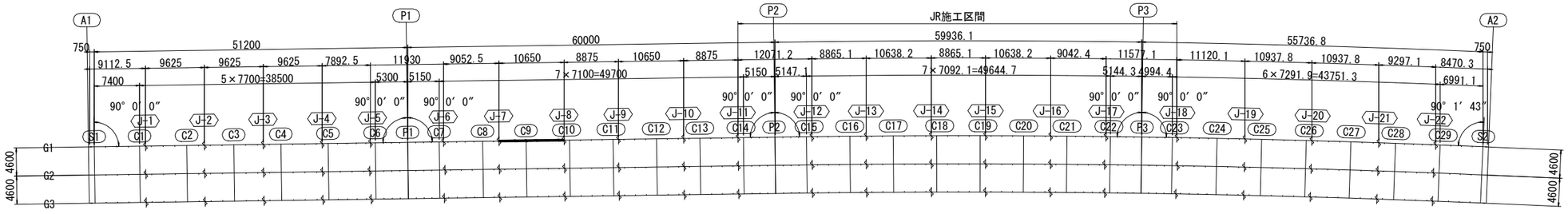
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(7)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 21
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(8)　S=1:30



配　置　図

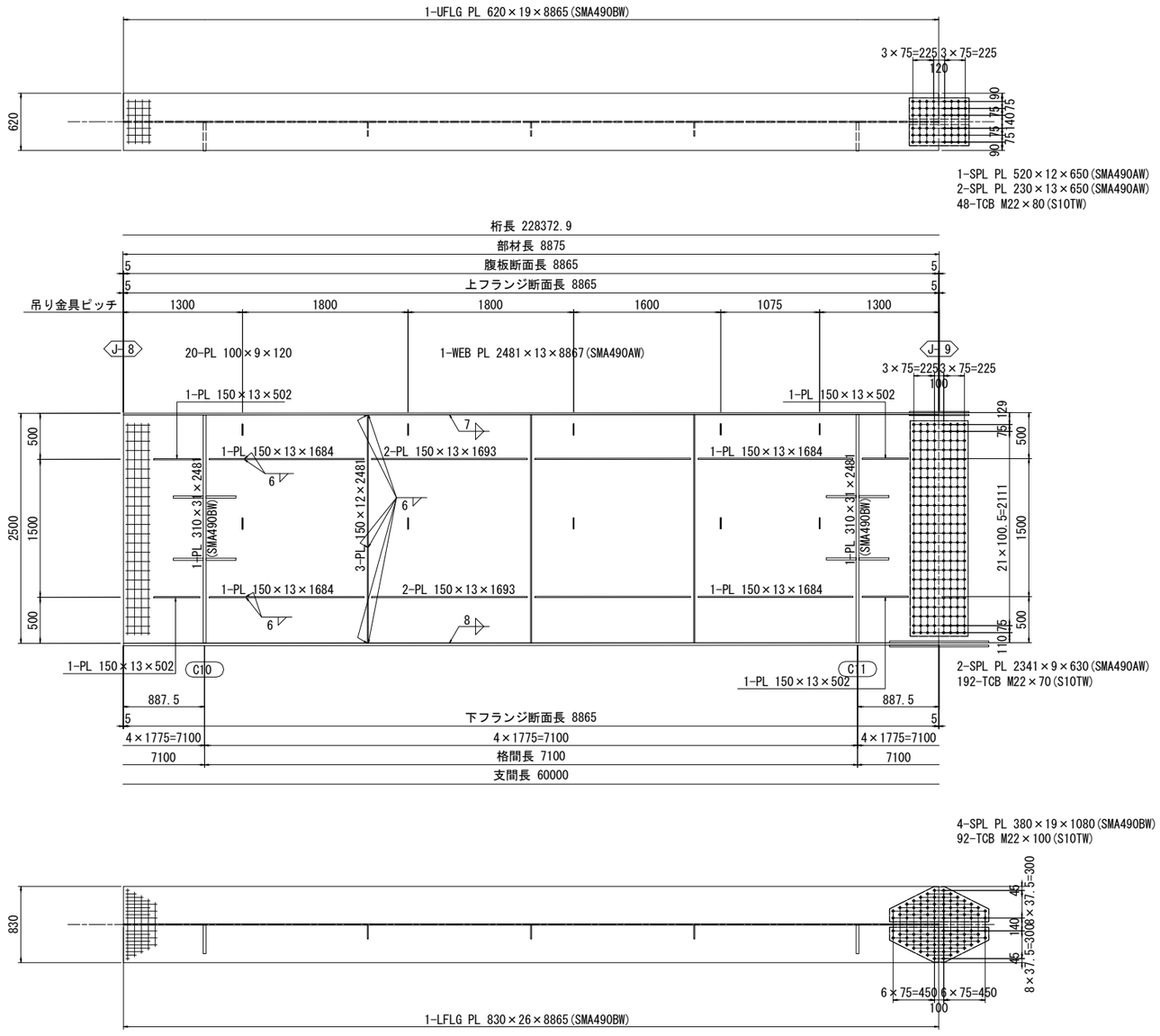


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

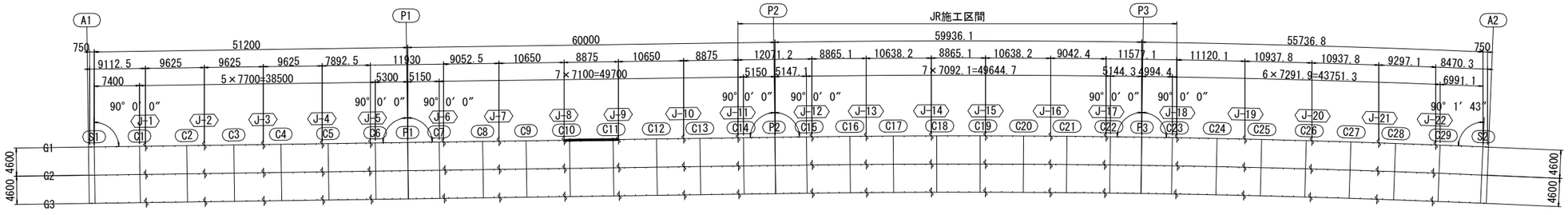
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(8)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 22
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(9)　S=1:30



配　置　図

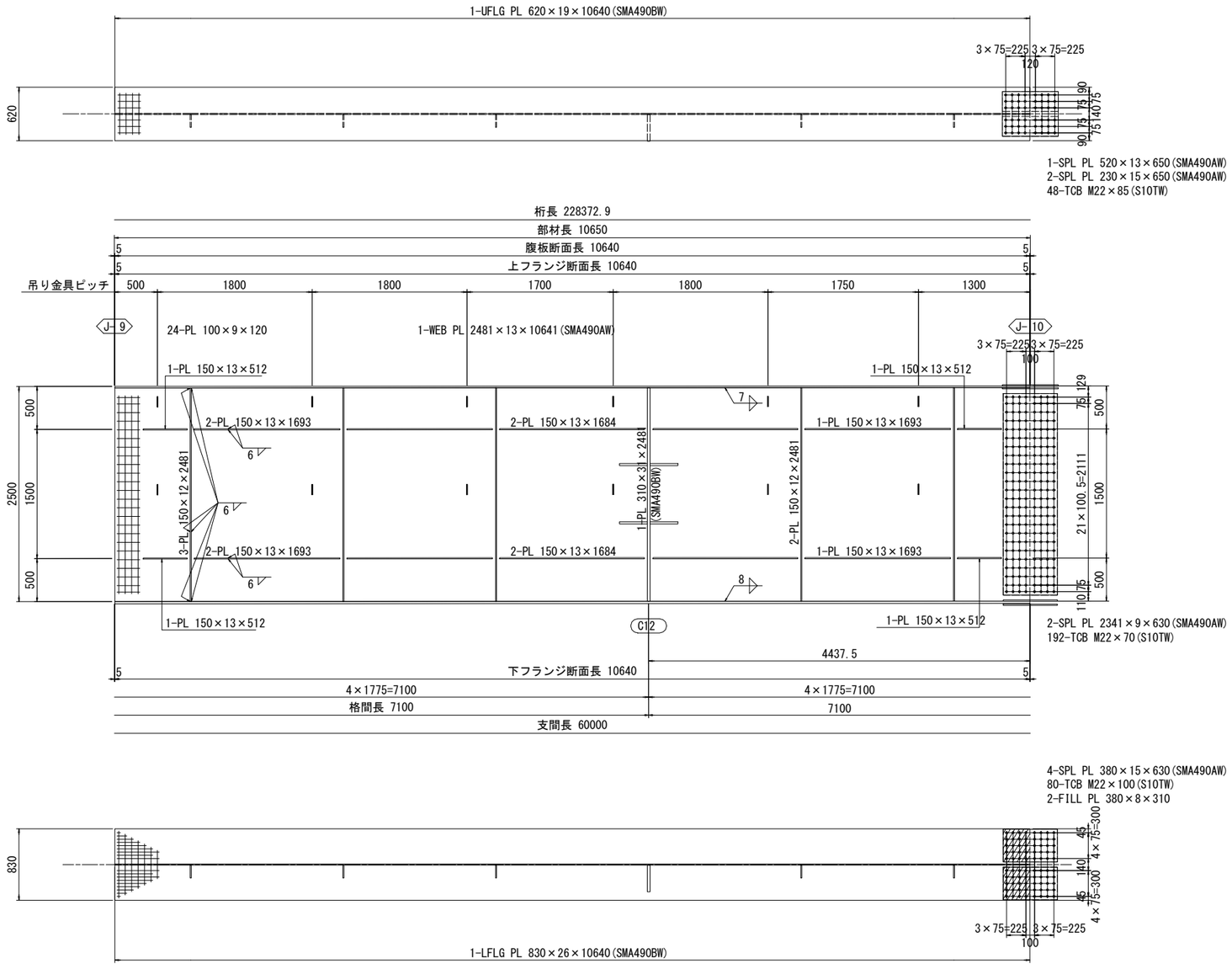


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

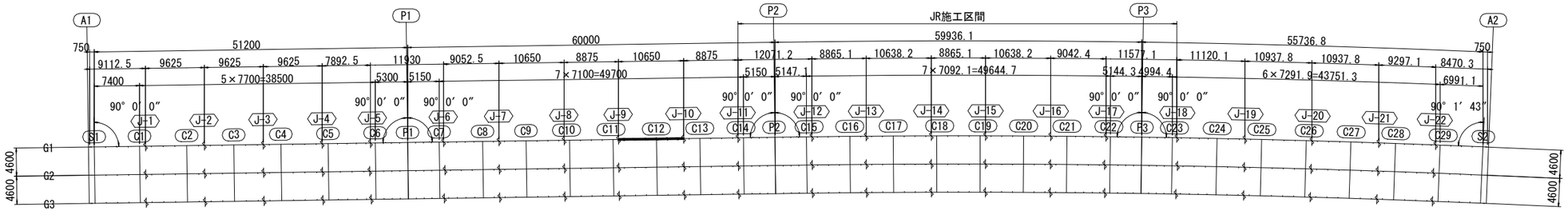
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ⊸印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(9)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 23
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(10)　S=1:30



配　置　図

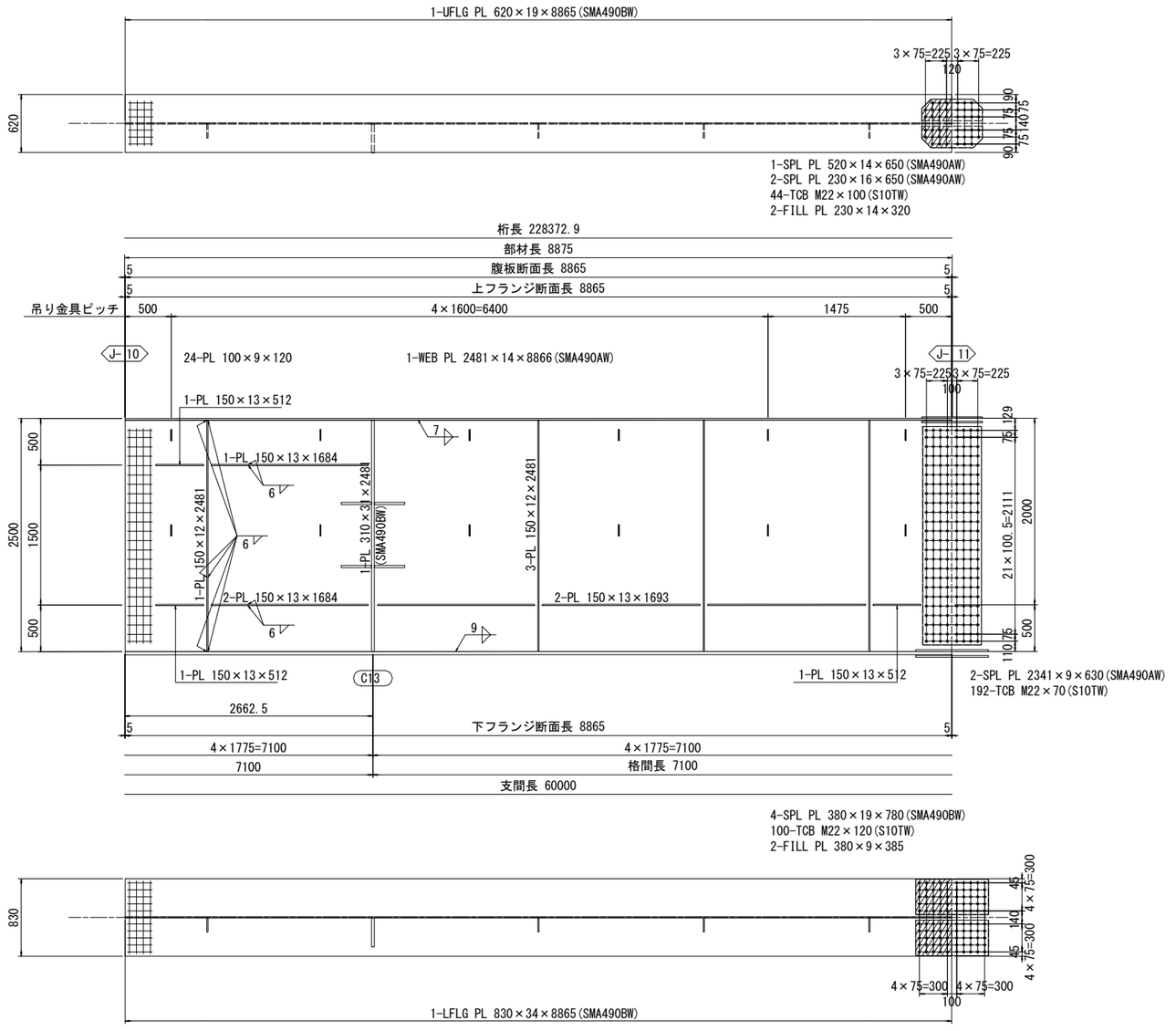


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

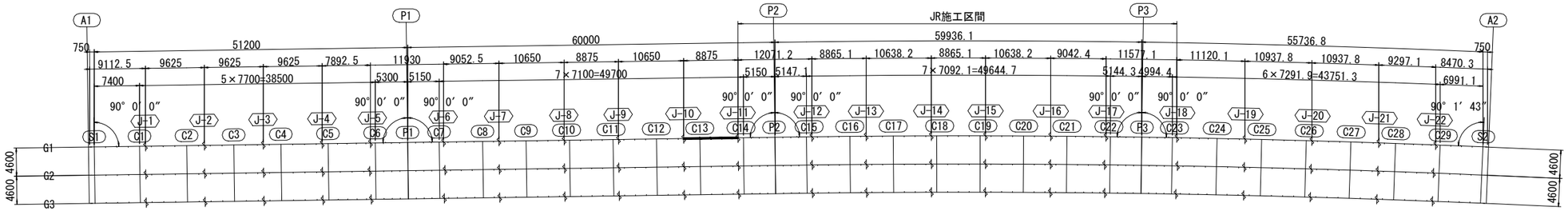
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(10)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 24
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(11)　S=1:30



配　置　図

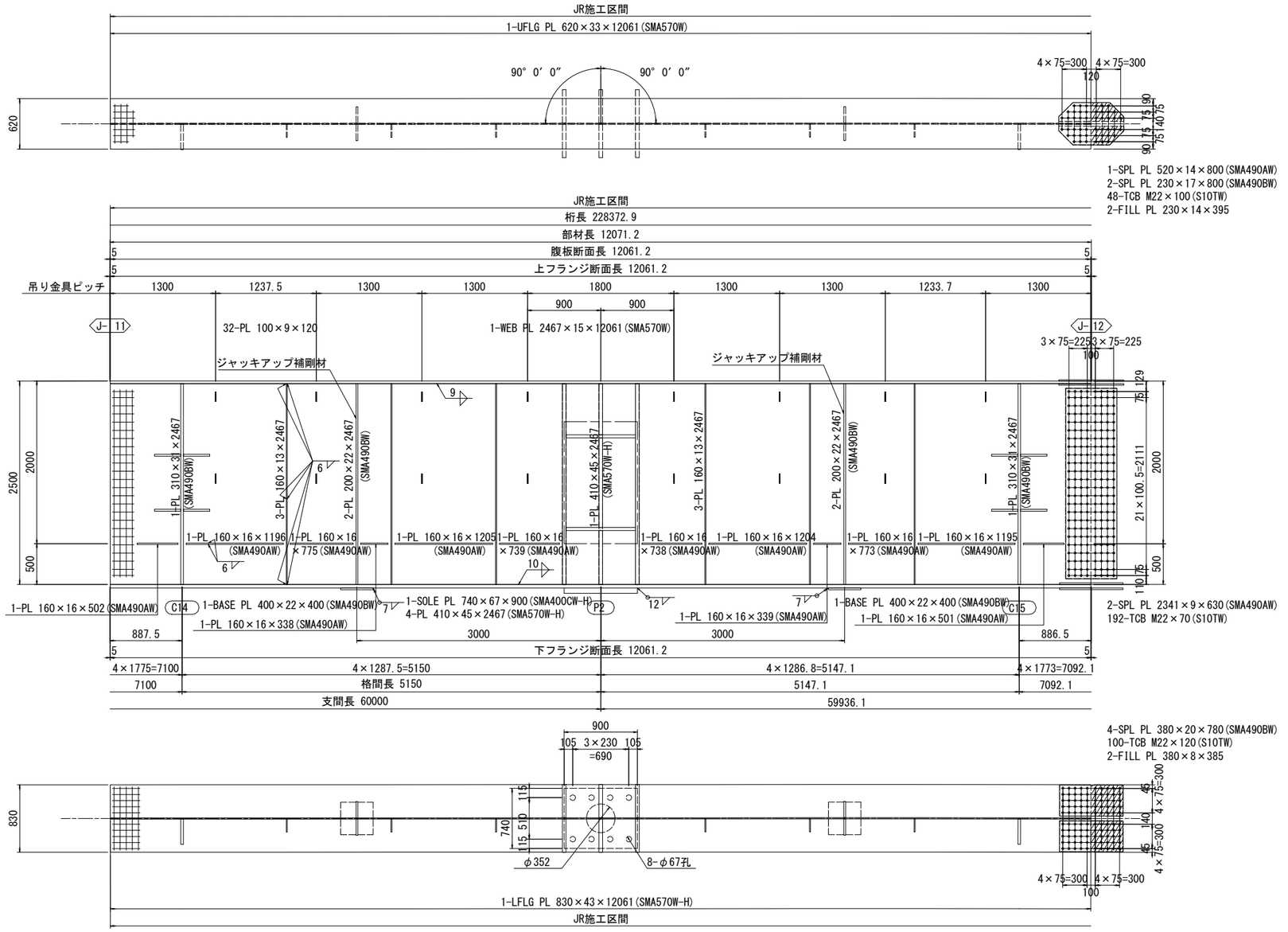


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

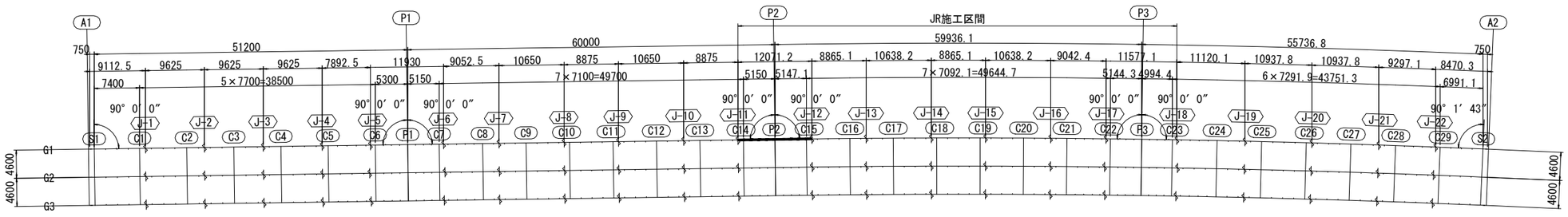
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(11)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 25
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(12)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

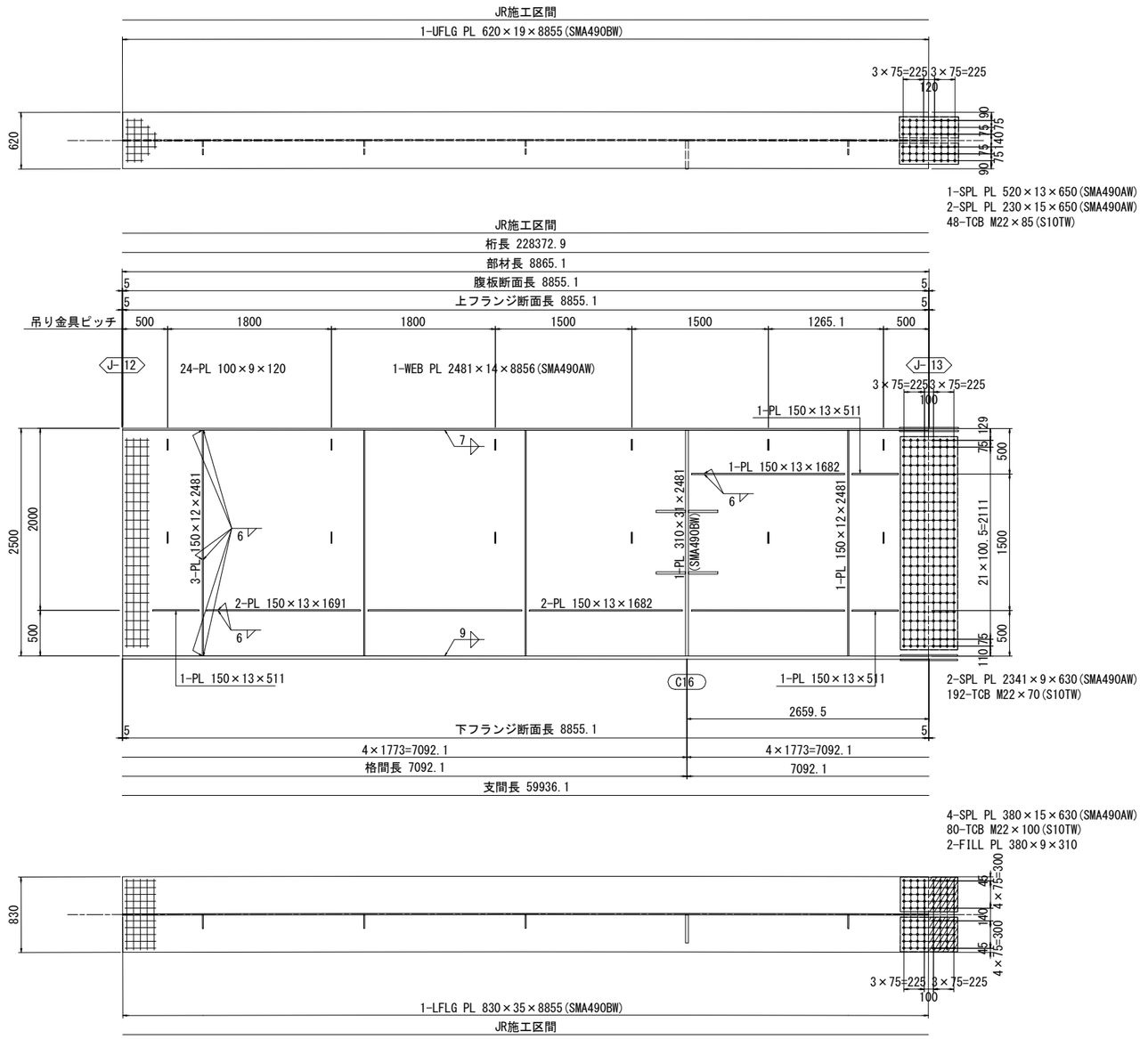
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. **特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。**
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

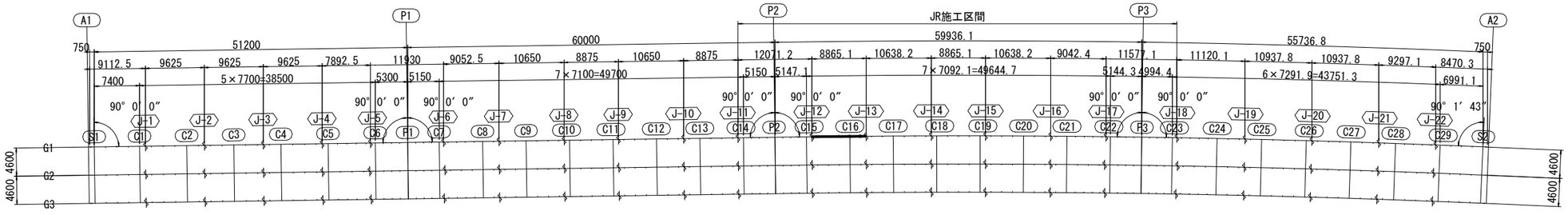
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(12)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 26
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(13)　S=1:30



配　置　図



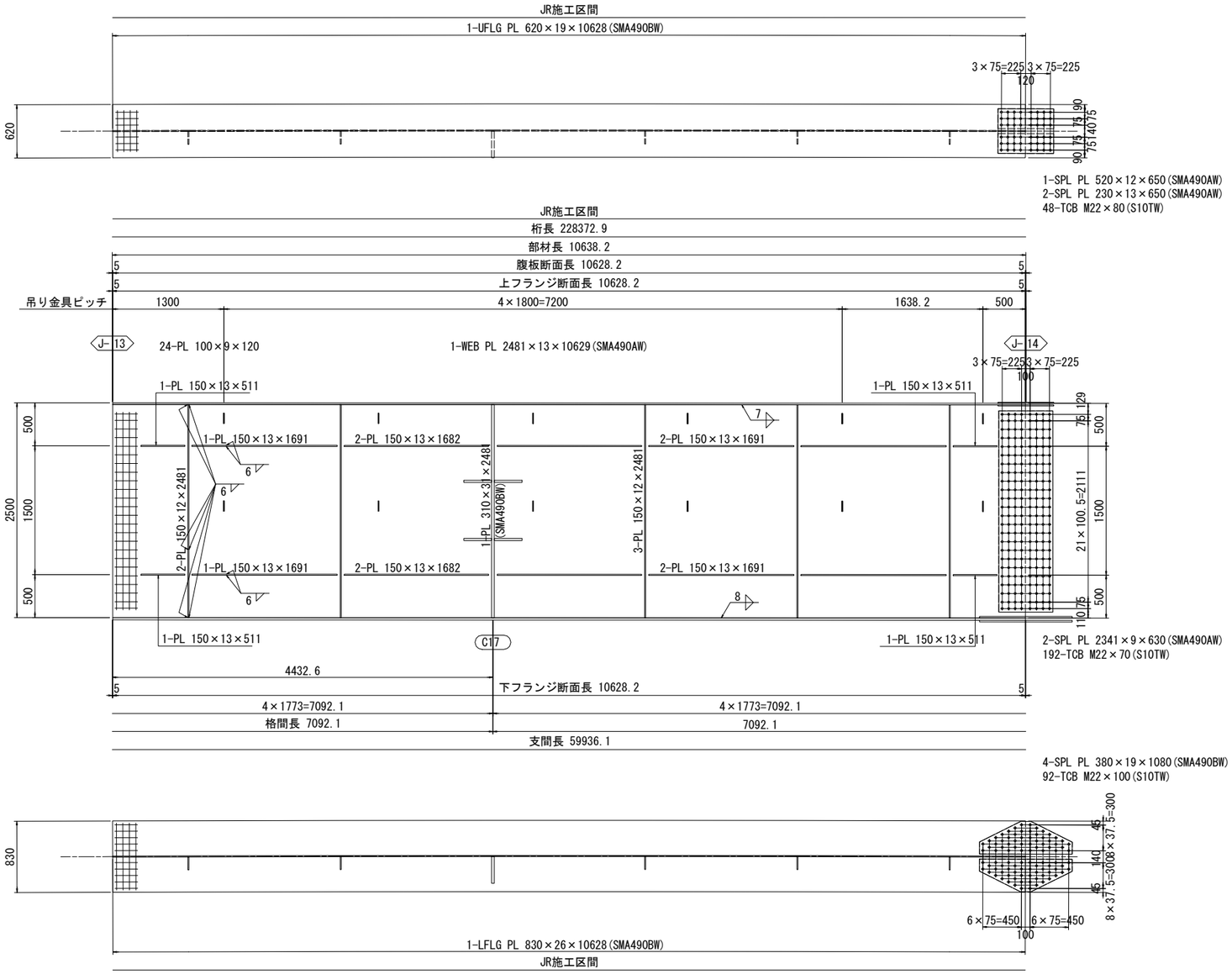
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

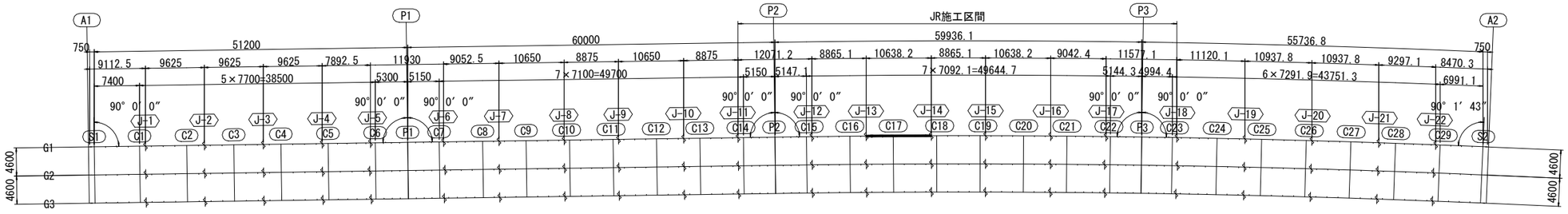
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(13)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 27
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(14)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

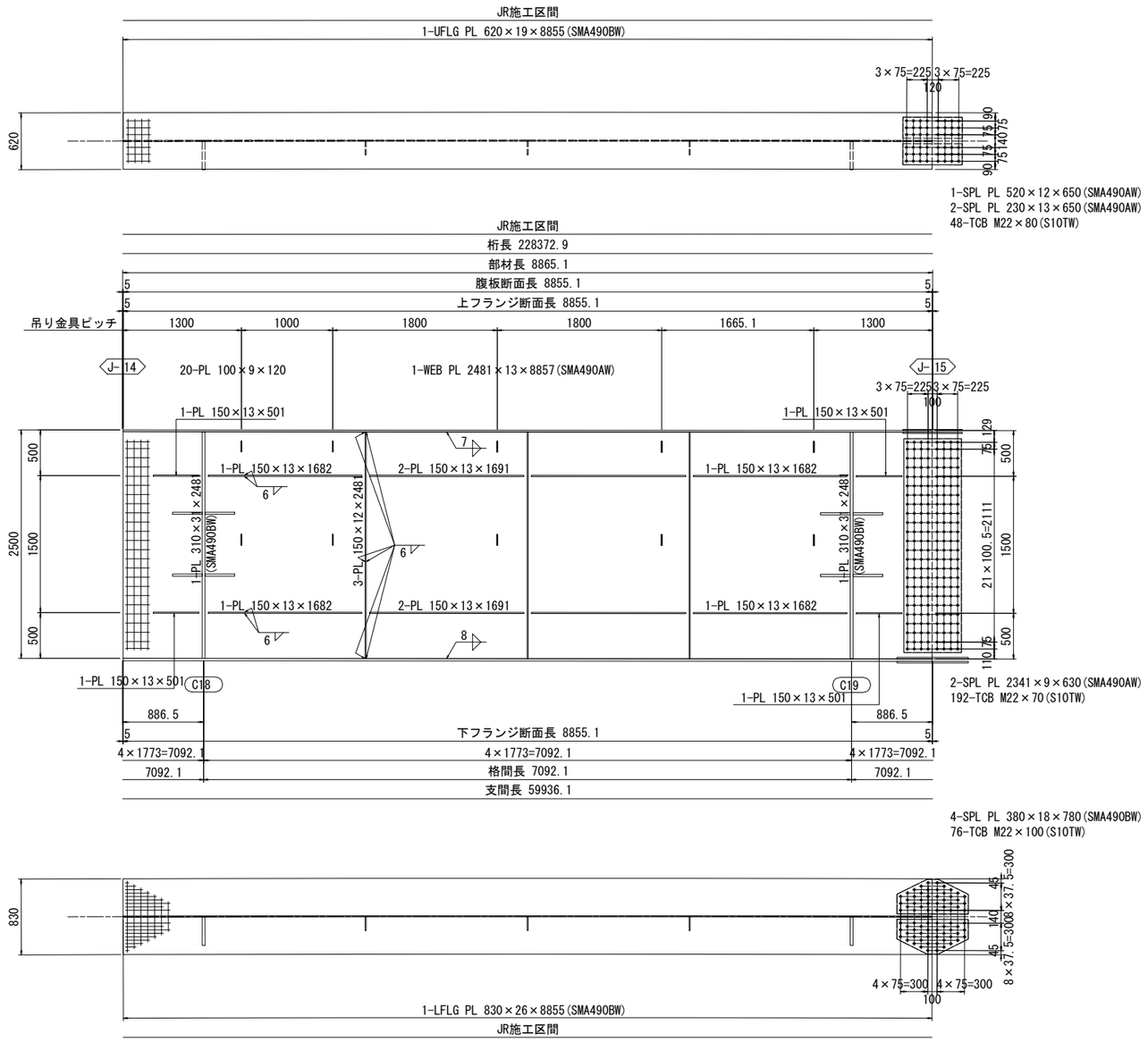
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

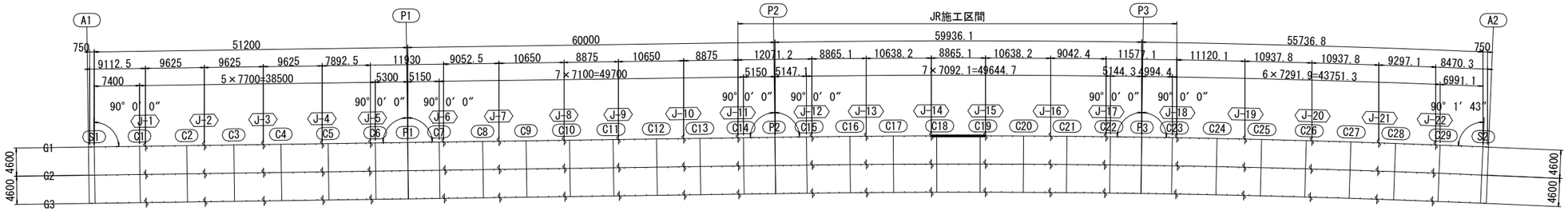
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(14)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 28
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(15)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

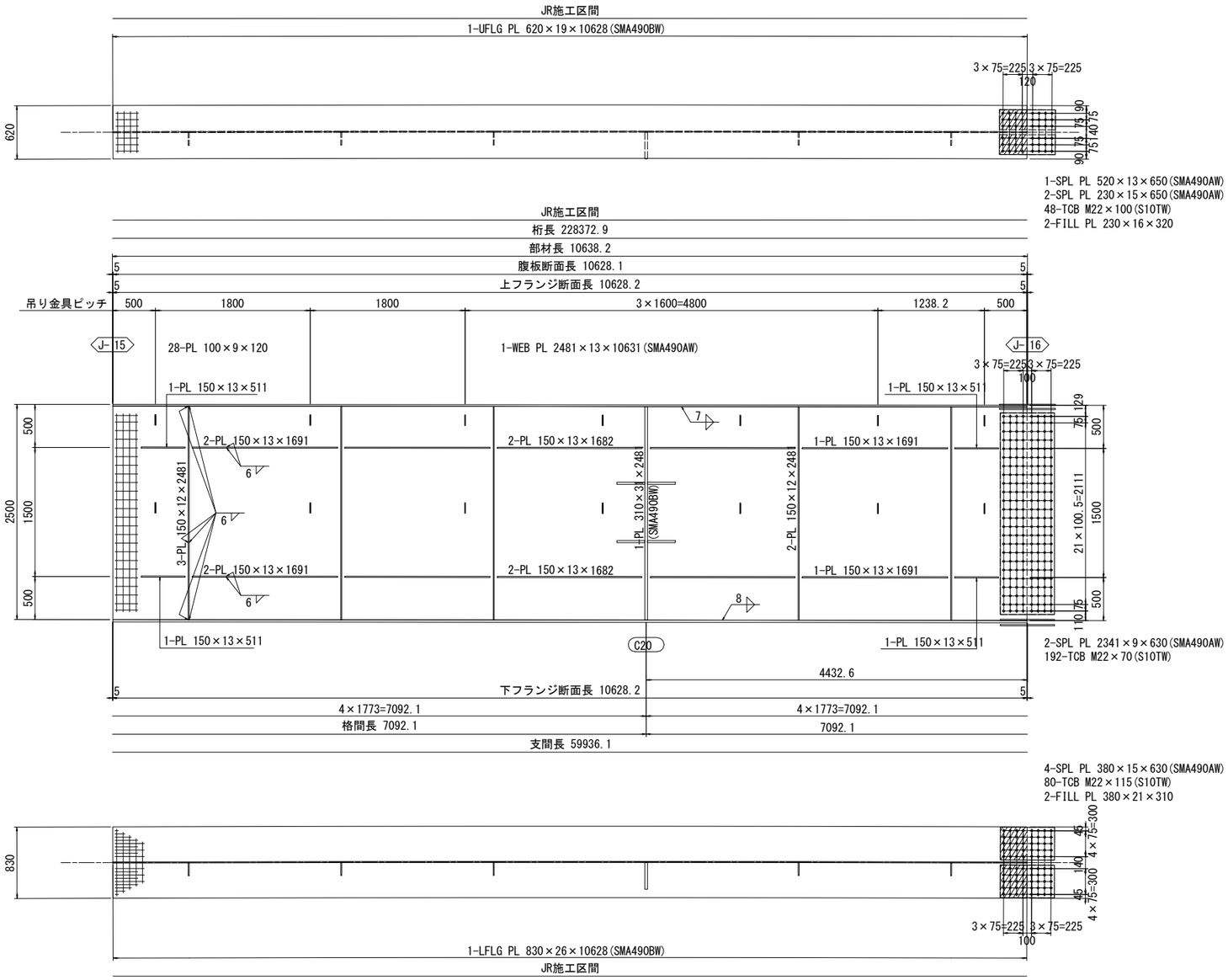
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ⌀印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

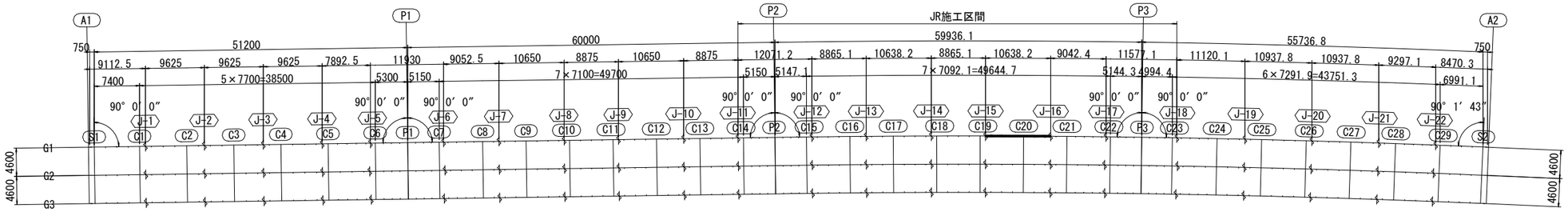
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(15)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 29
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(16)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

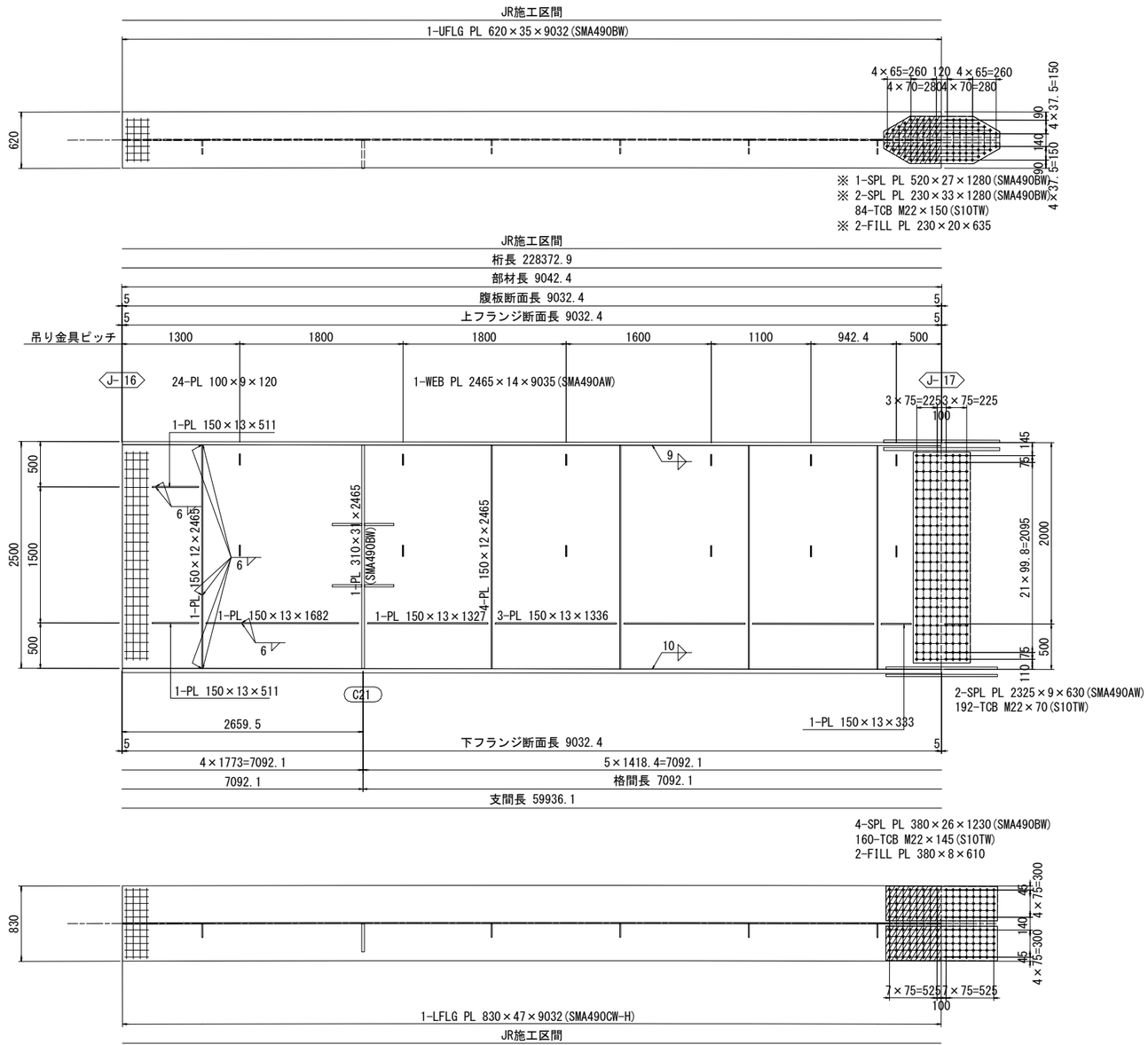
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

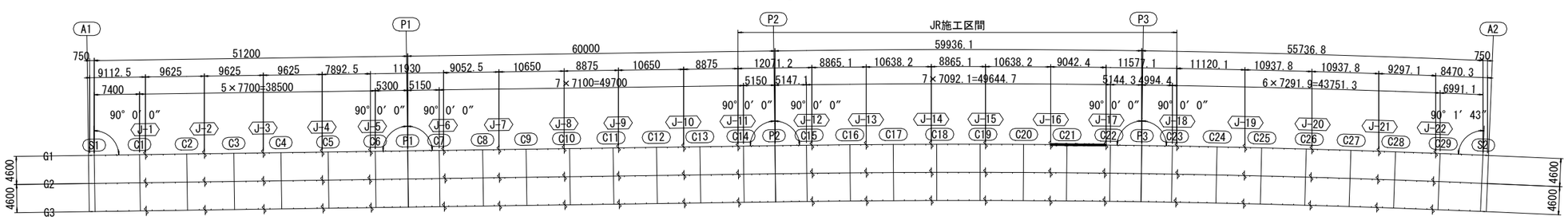
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(16)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 30
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(17)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

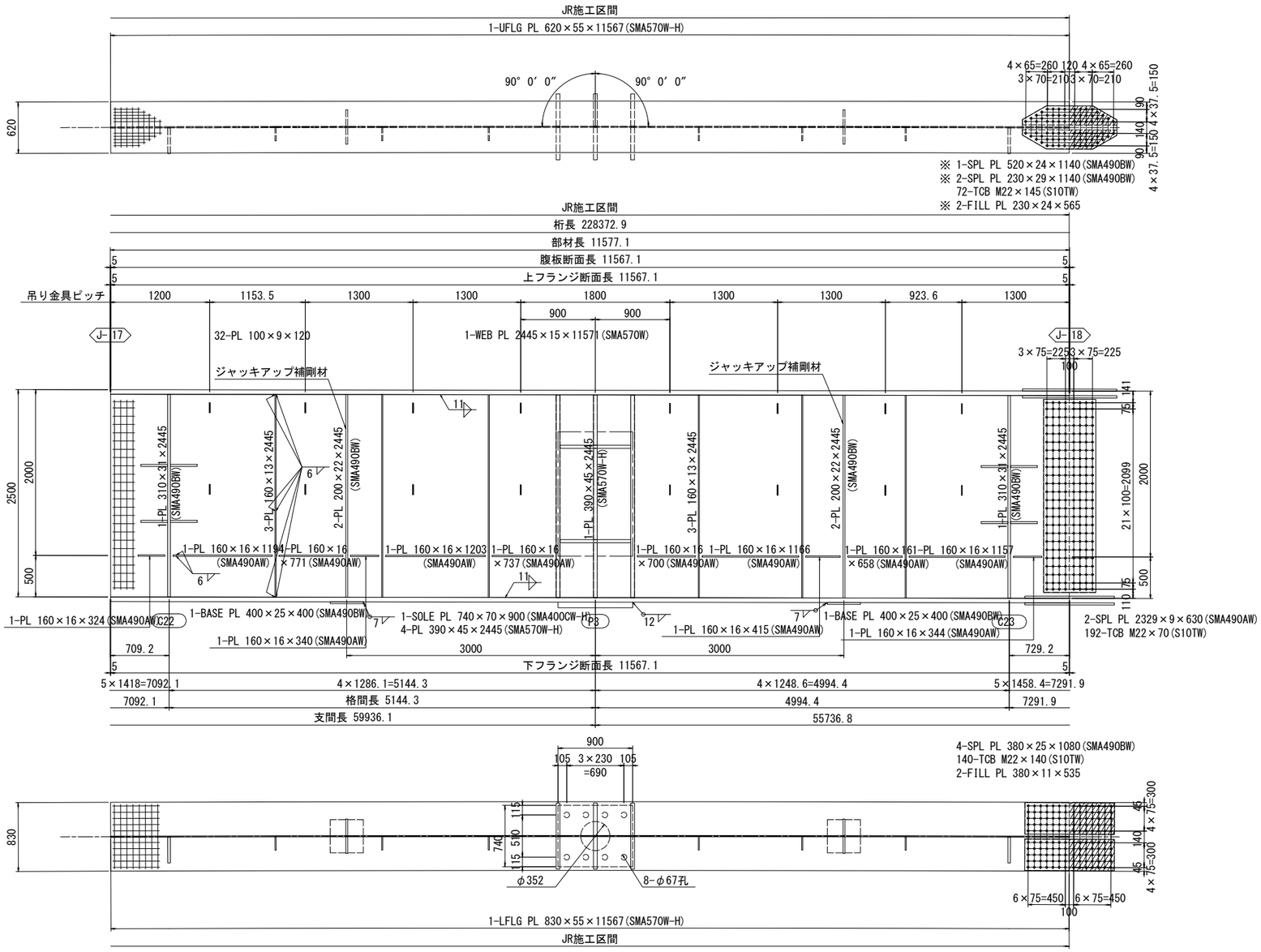
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

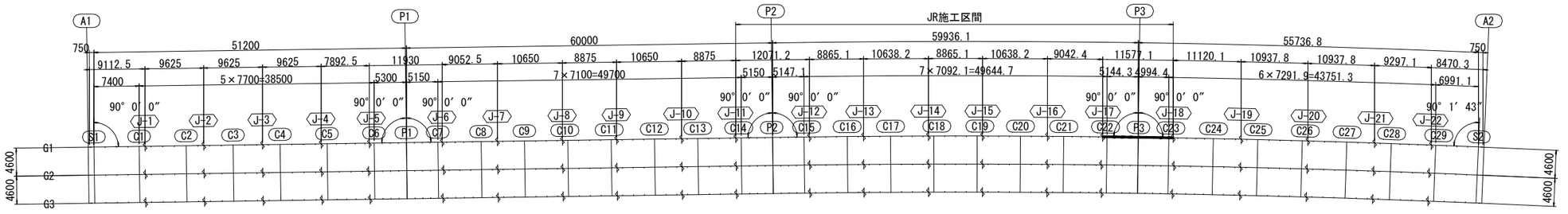
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(17)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 31
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(18)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

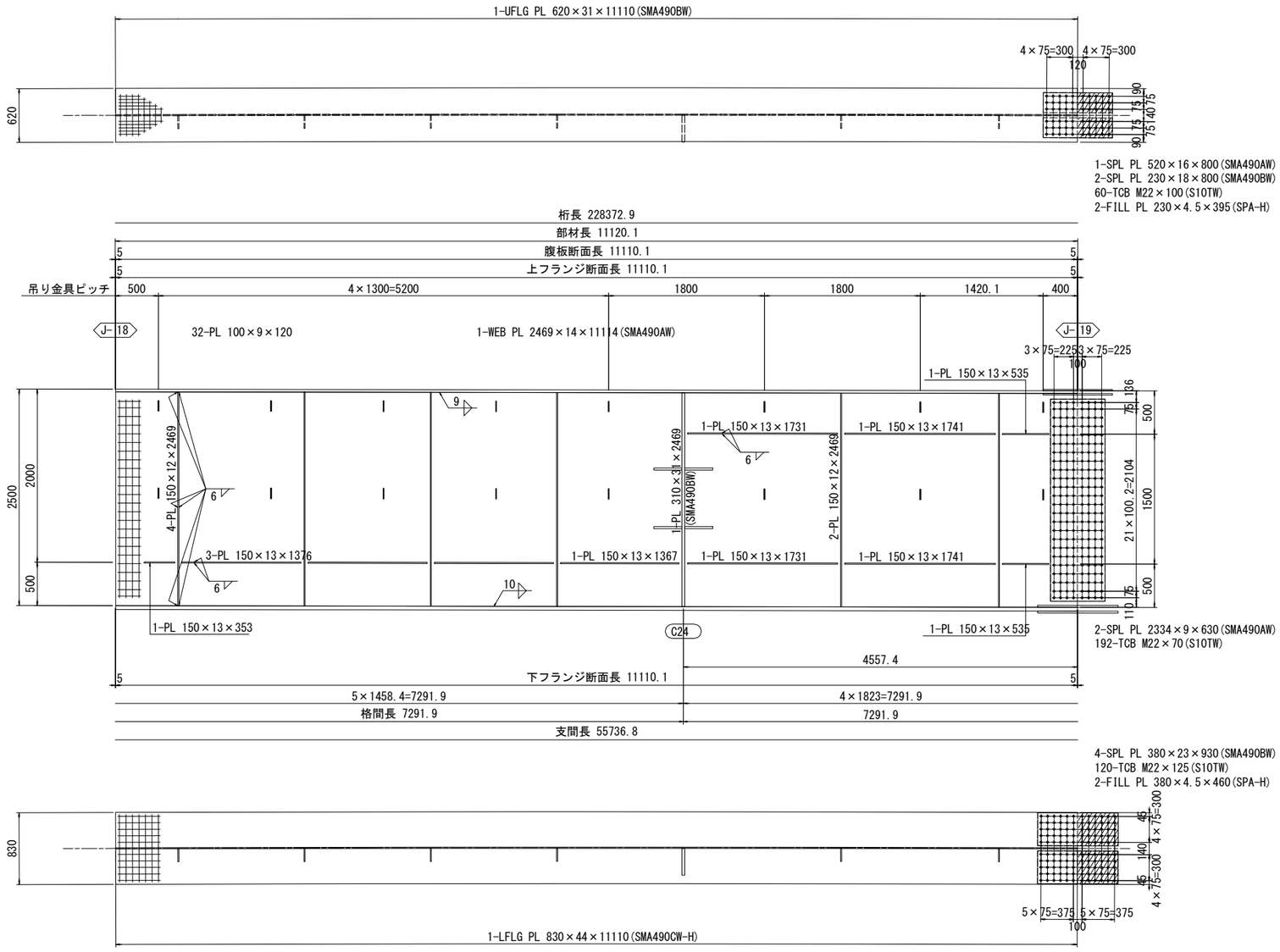
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

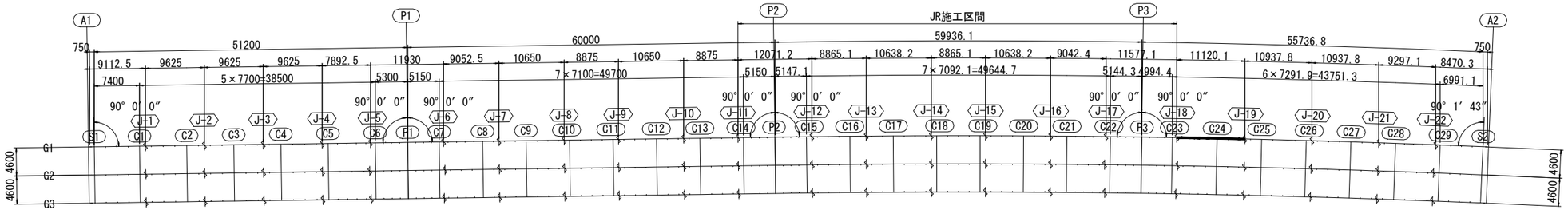
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(18)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 32
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(19)　S=1:30



配　置　図

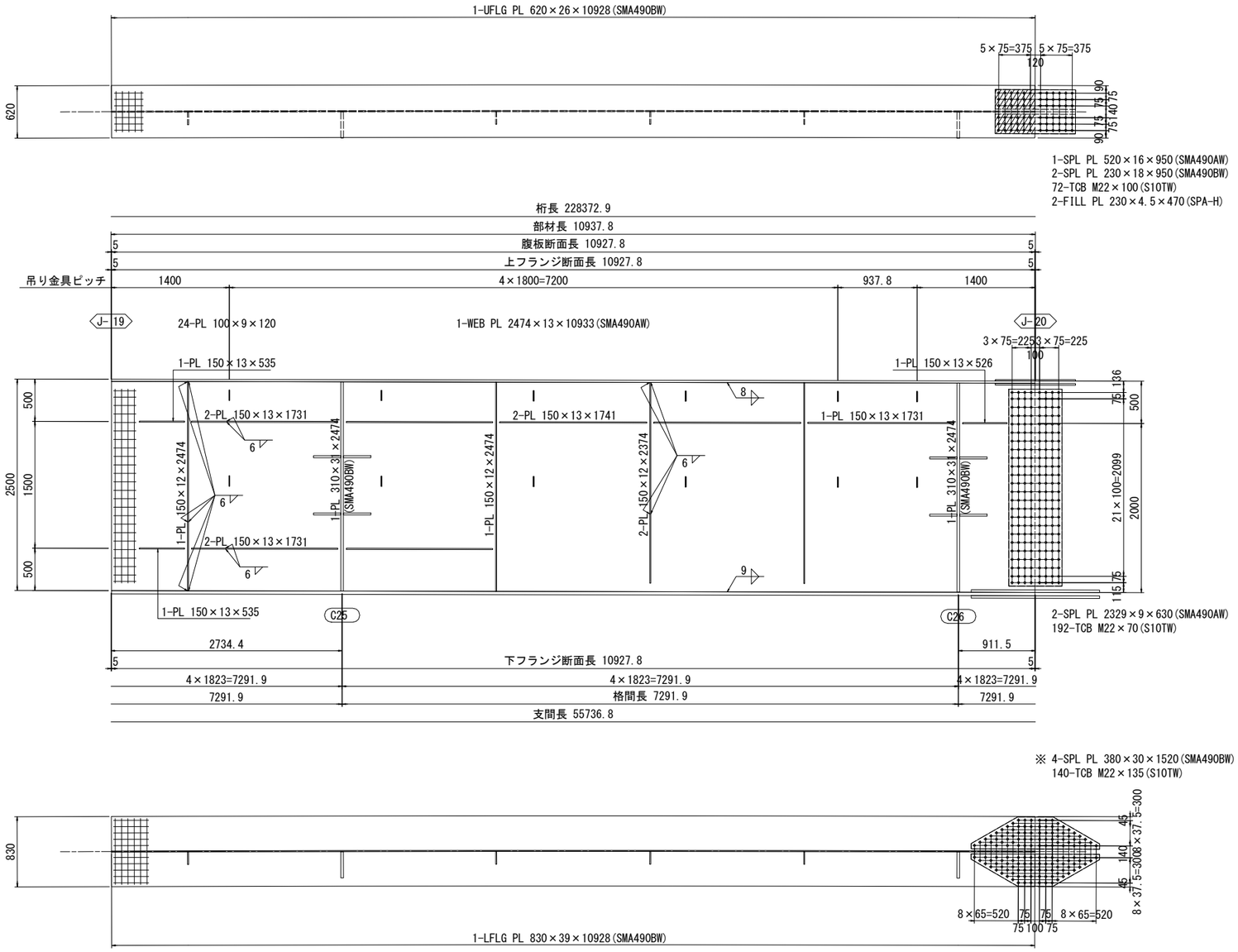


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

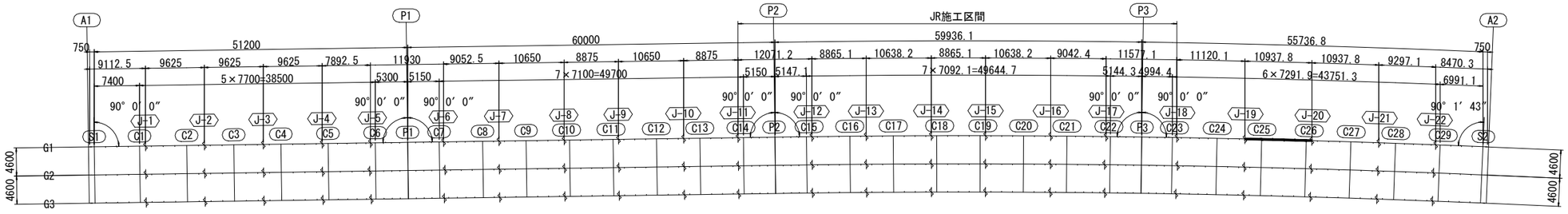
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(19)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 33
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(20)　S=1:30



配　置　図

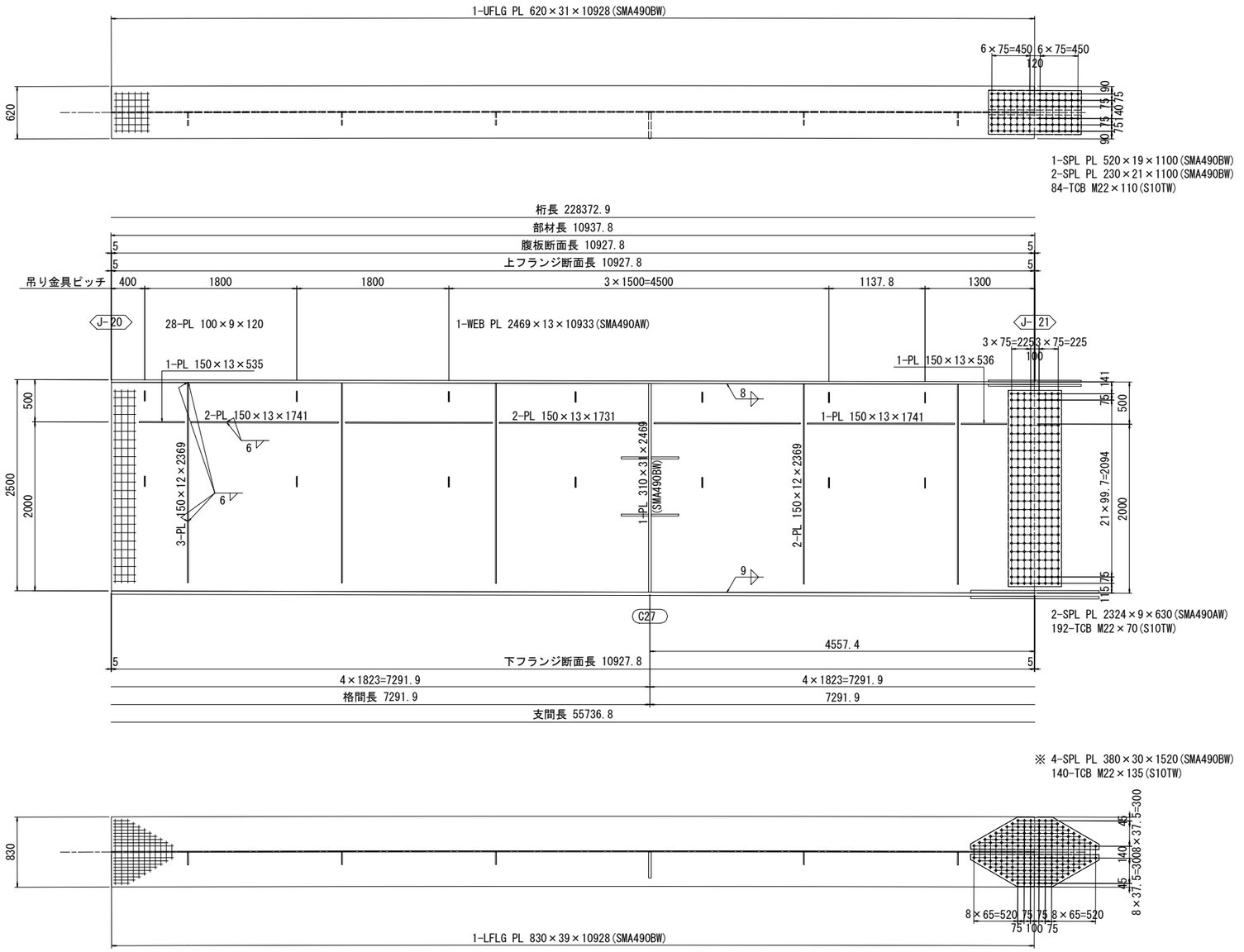


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

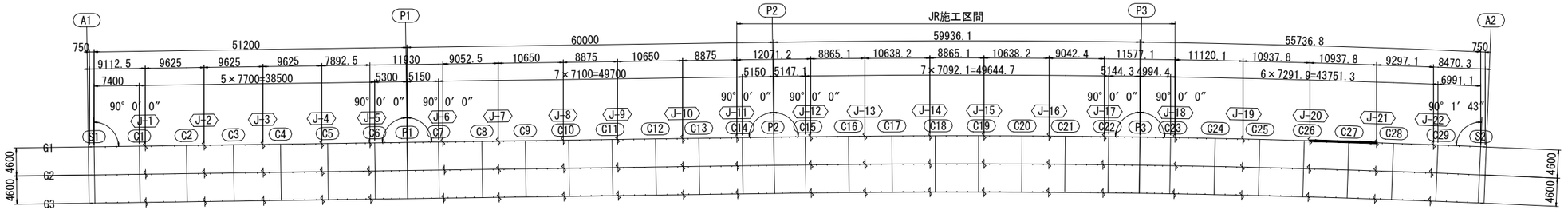
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(20)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 34
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(21)　S=1:30



配　置　図

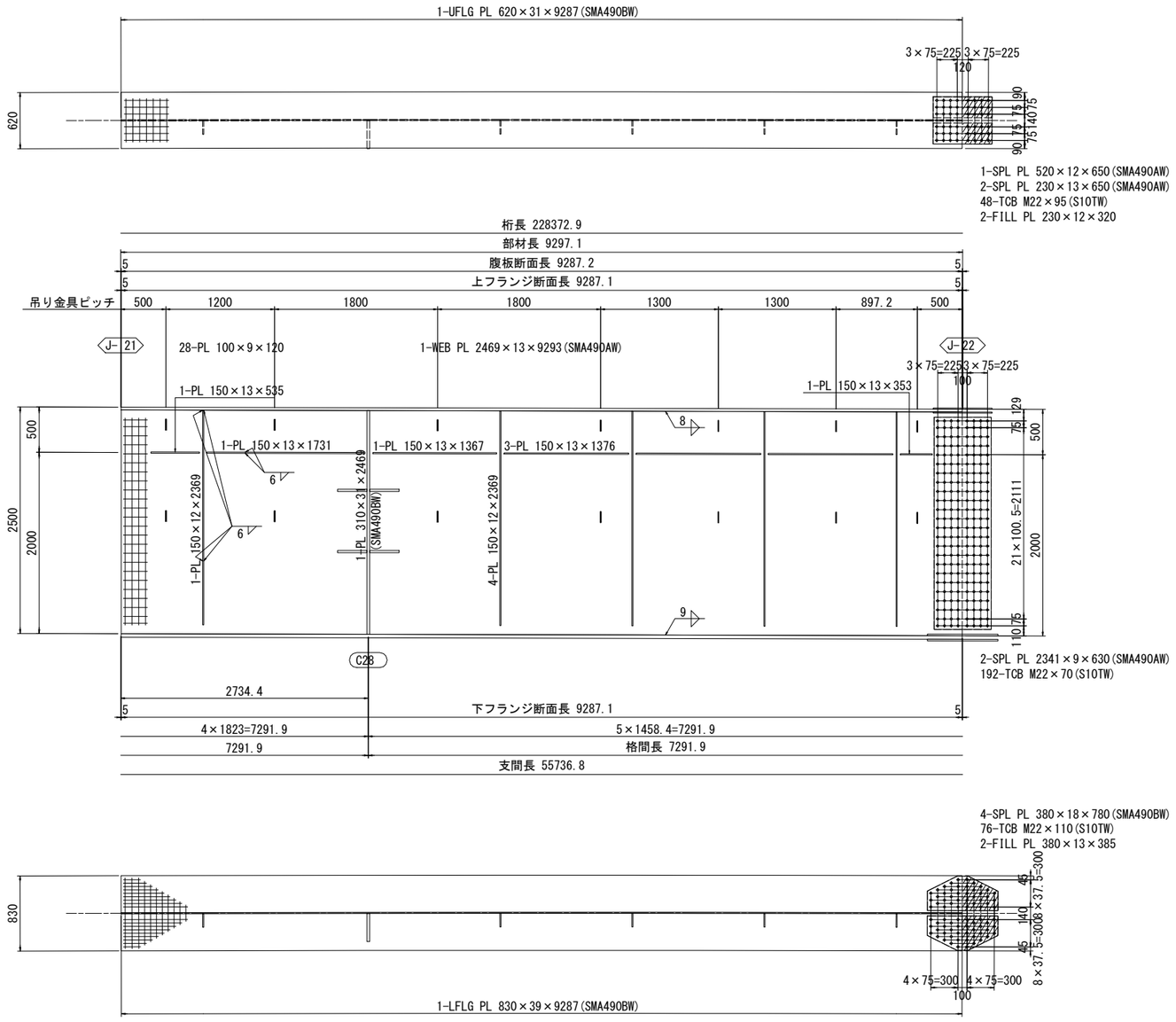


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

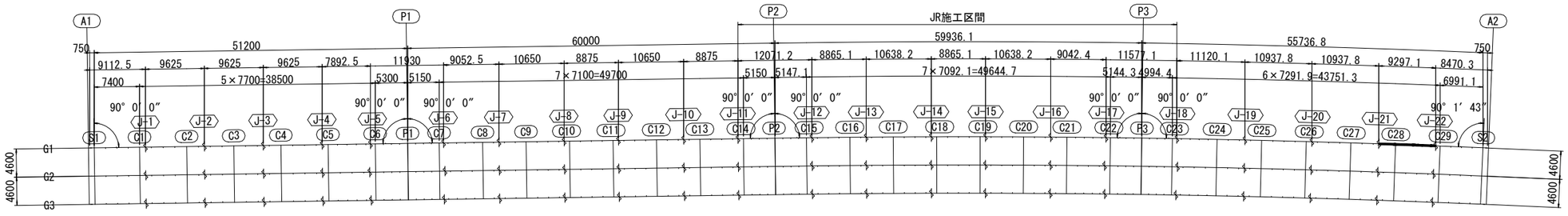
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(21)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 35
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(22)　S=1:30



配　置　図

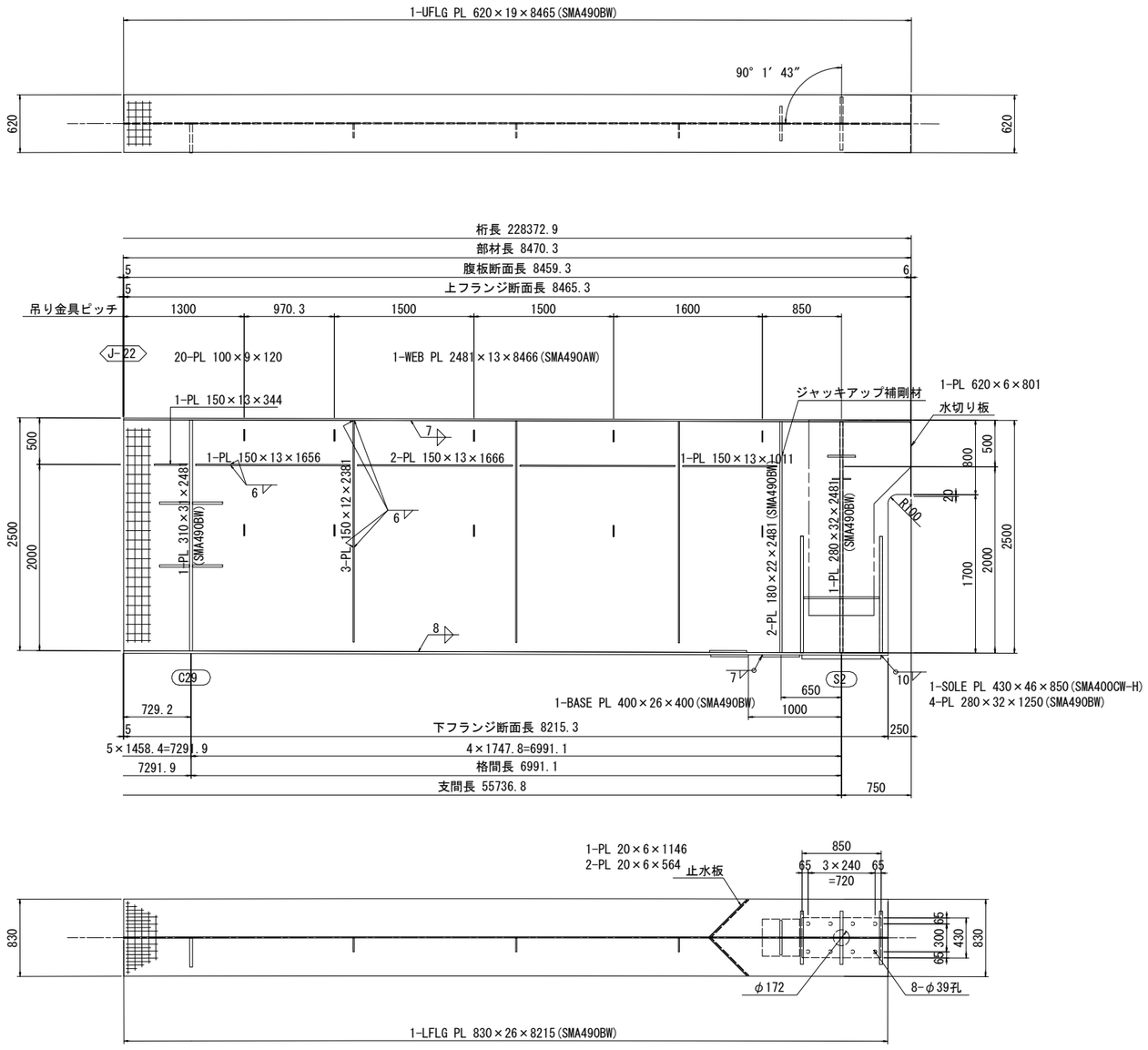


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

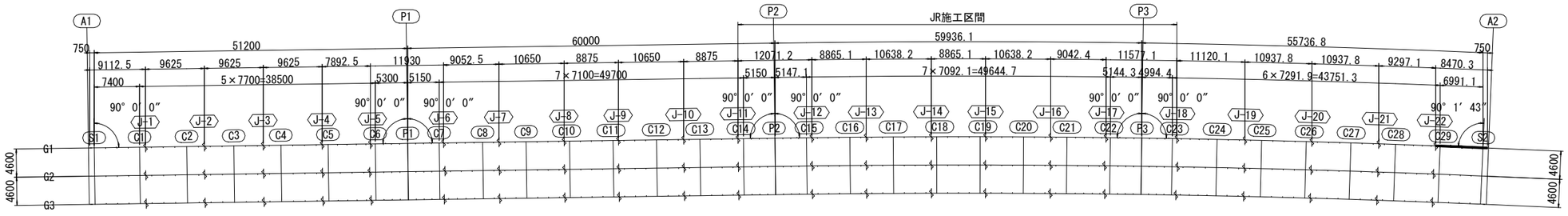
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(22)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 36
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G1(23)　S=1:30



配　置　図

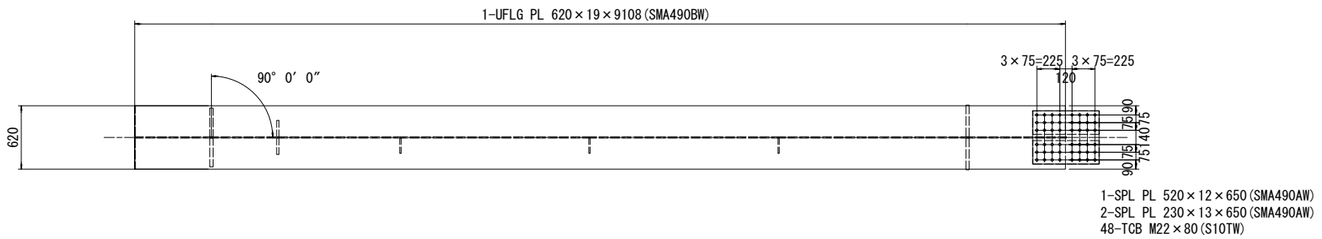


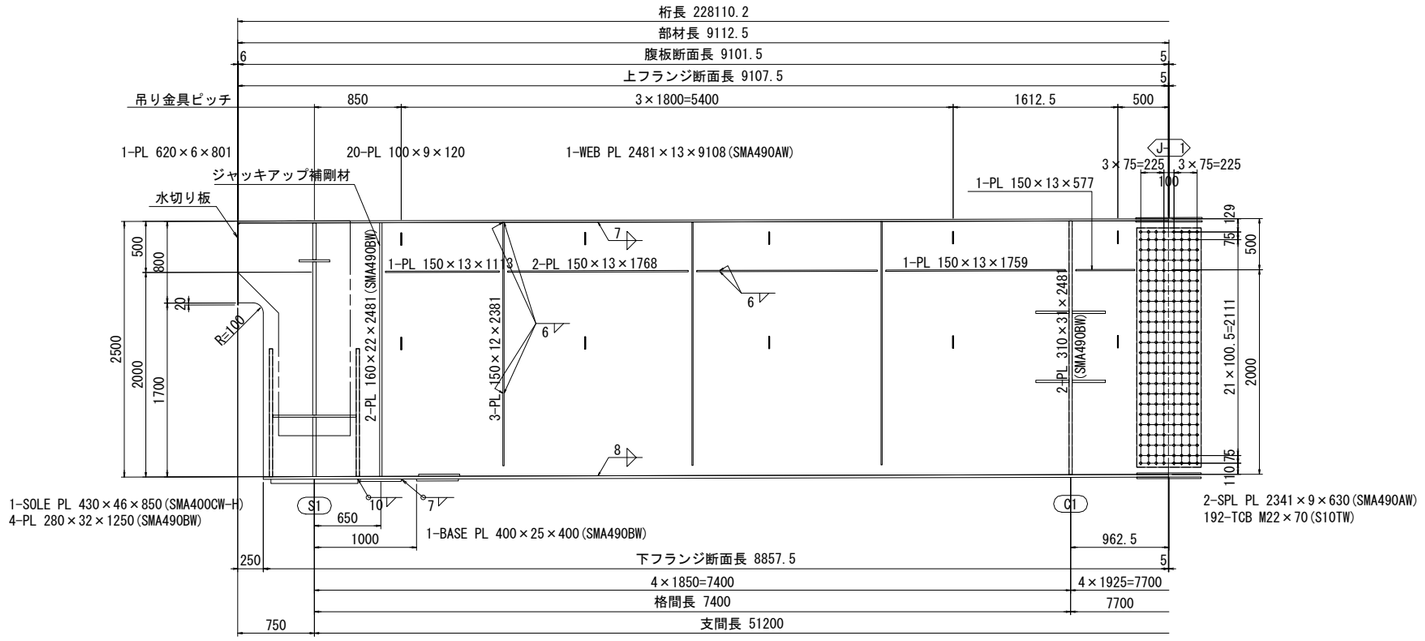
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

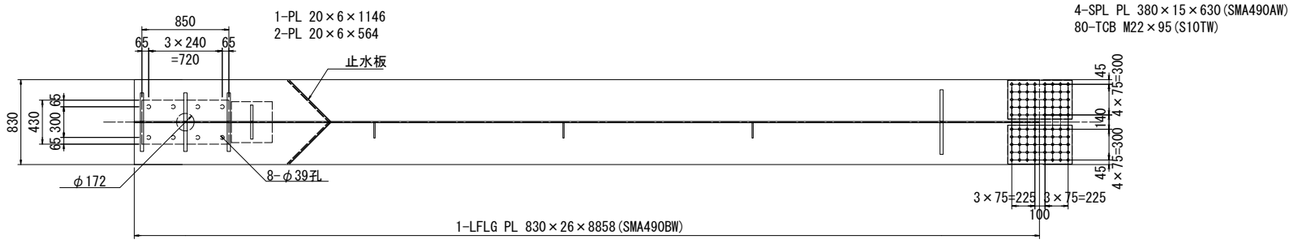
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G1(23)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 37
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

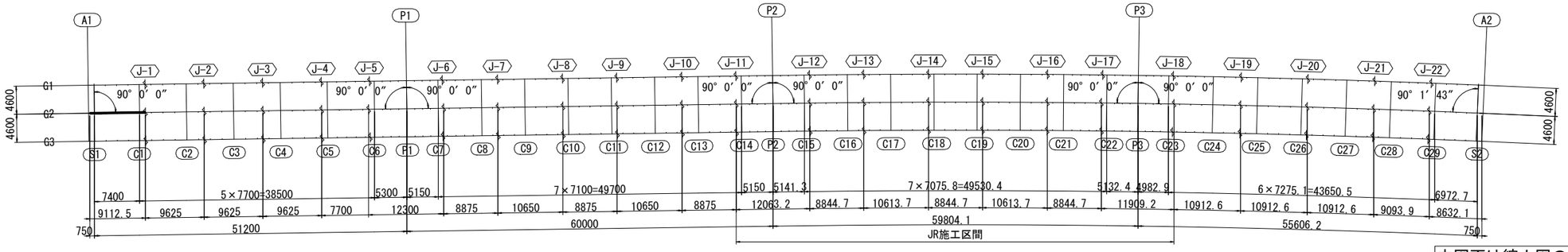
東田中高架橋主桁G2(1)　S=1:30







配　置　図

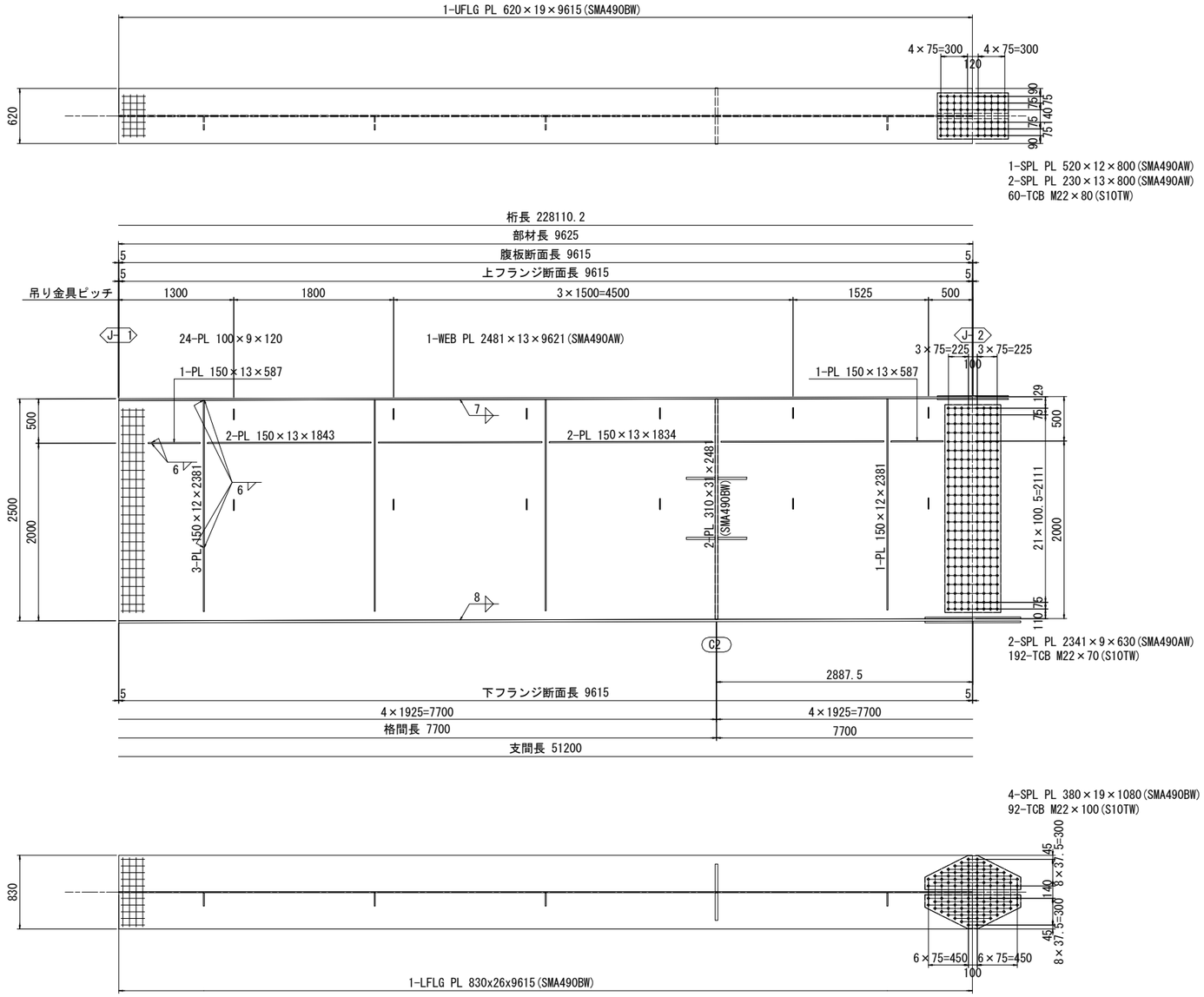


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

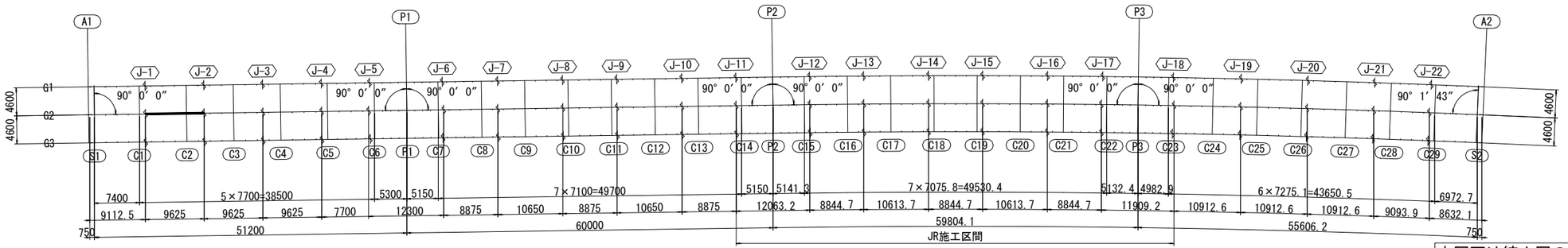
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(1)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 38
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(2)　S=1:30



配　置　図

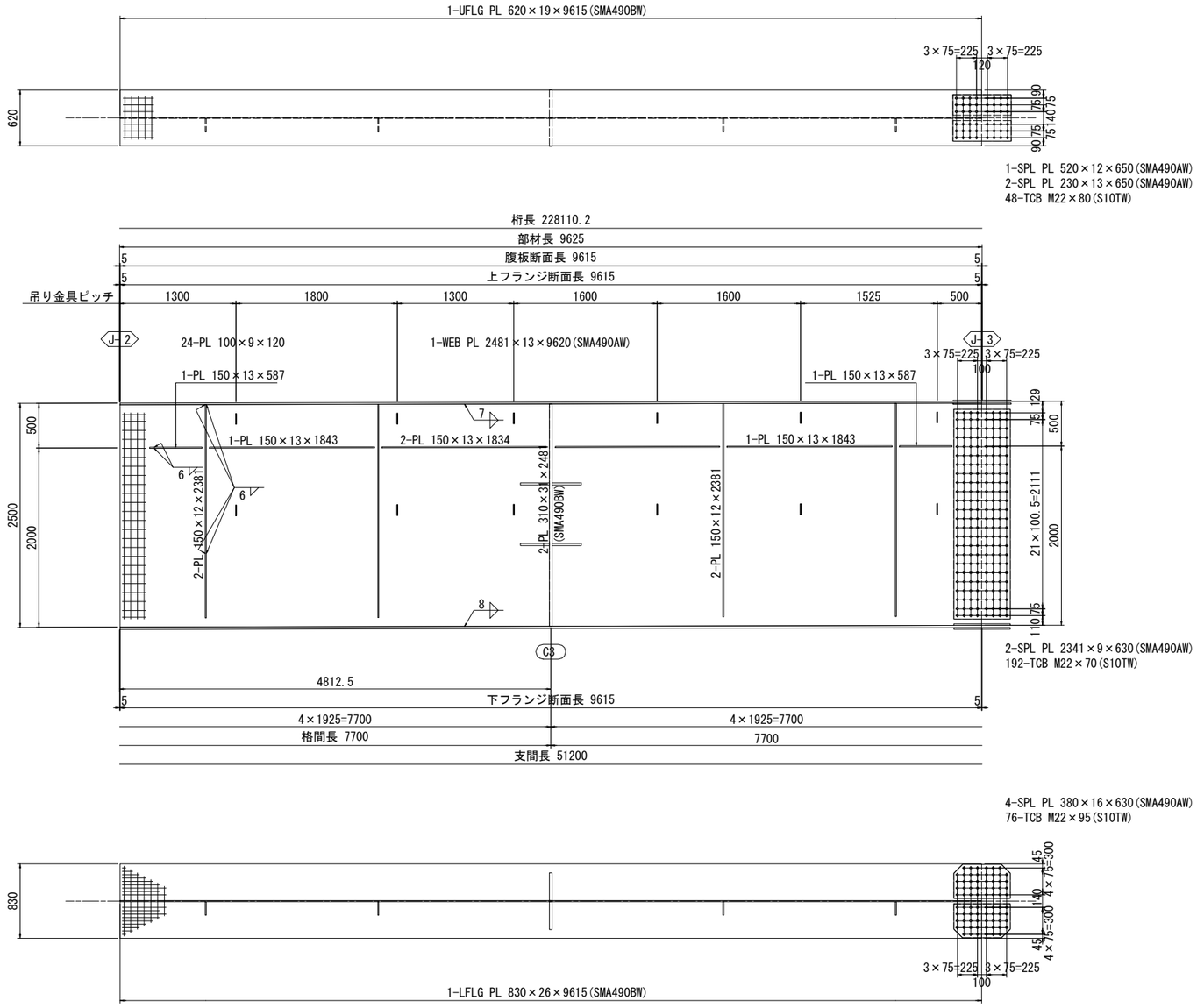


注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

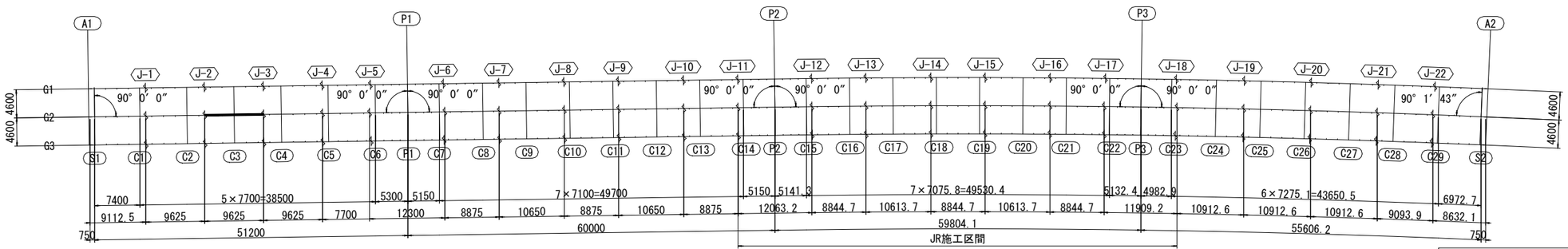
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 39
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(3)　S=1:30



配　置　図

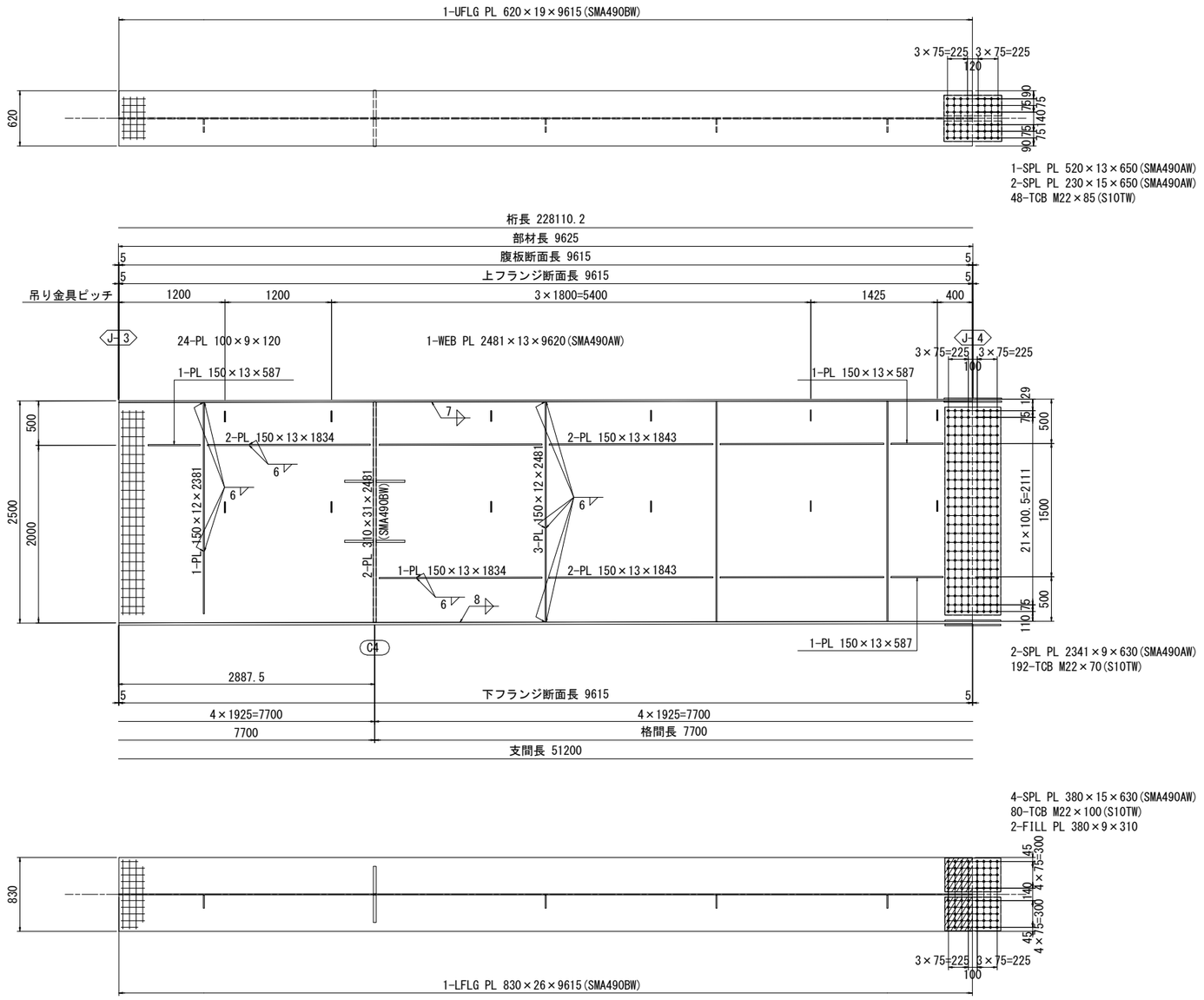


注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

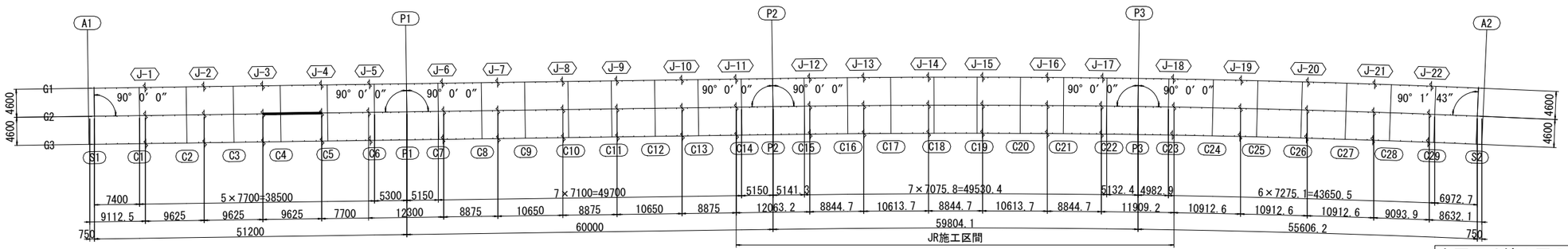
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 40
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(4)　S=1:30



配　置　図

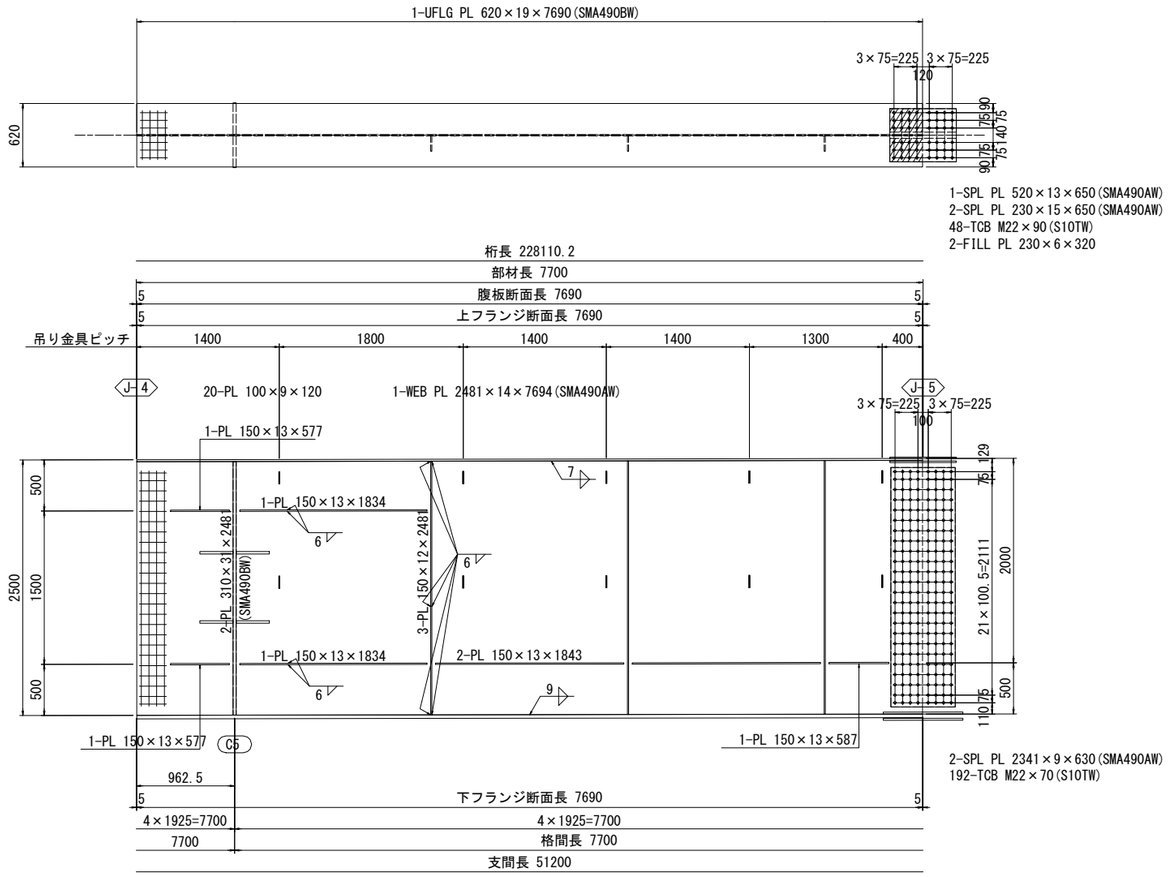


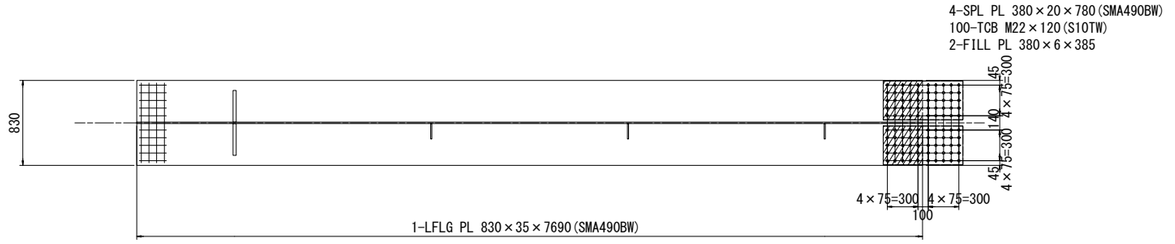
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

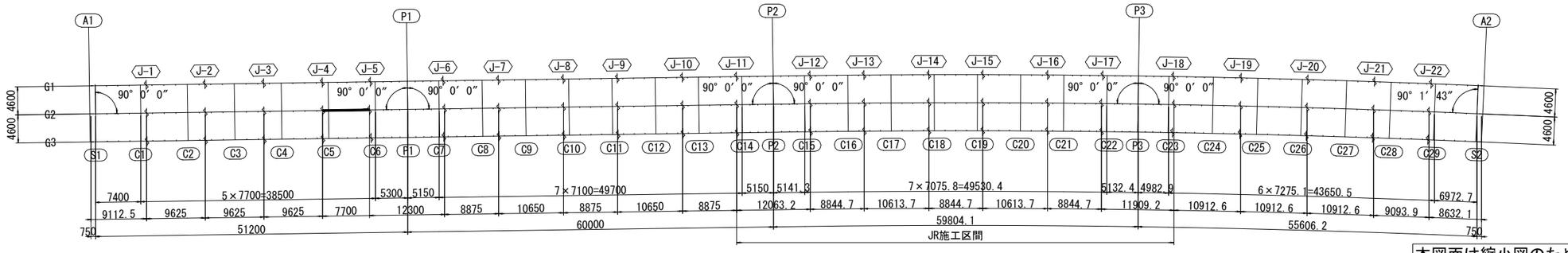
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(4)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 41
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(5)　S=1:30





配　置　図

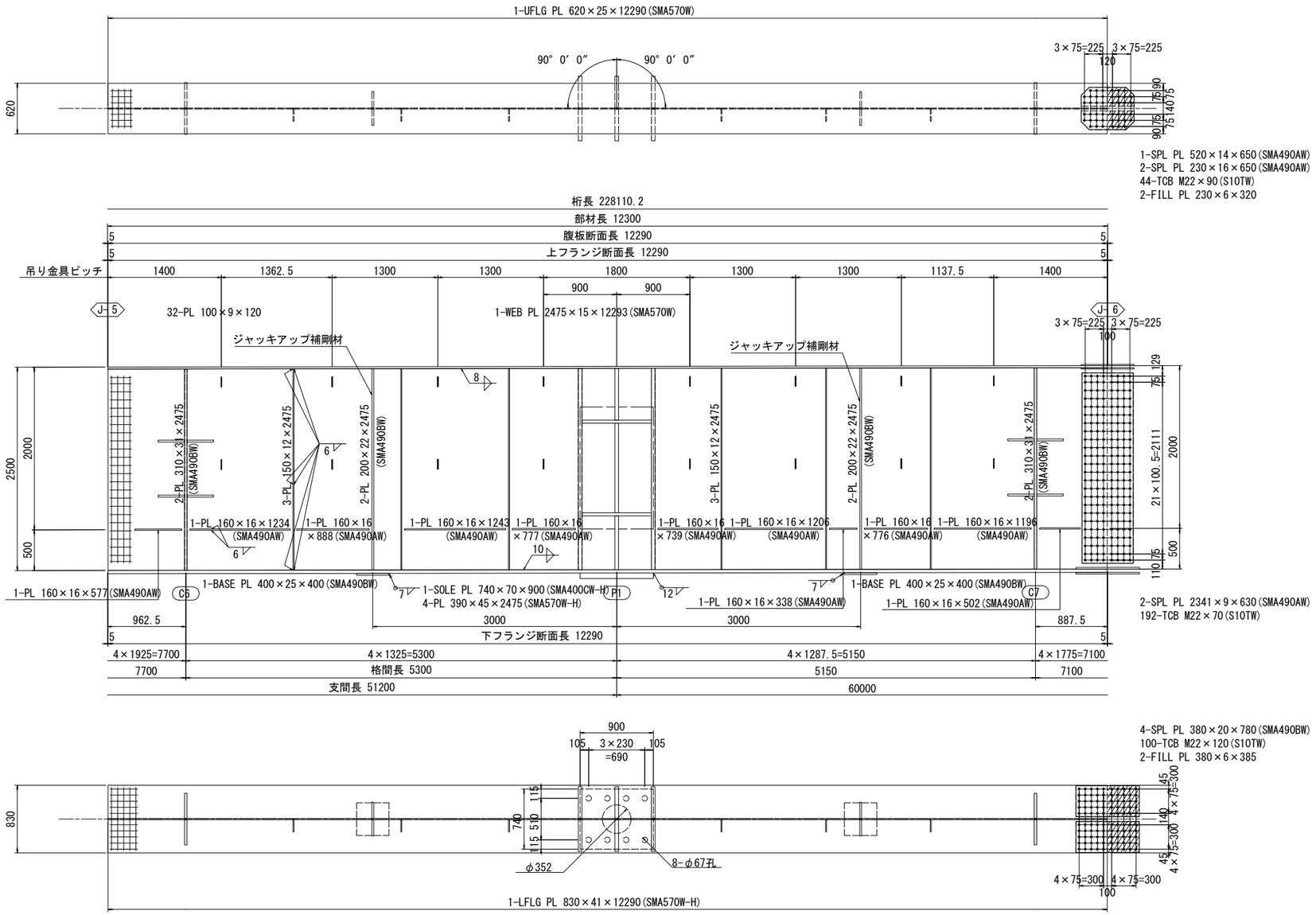


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

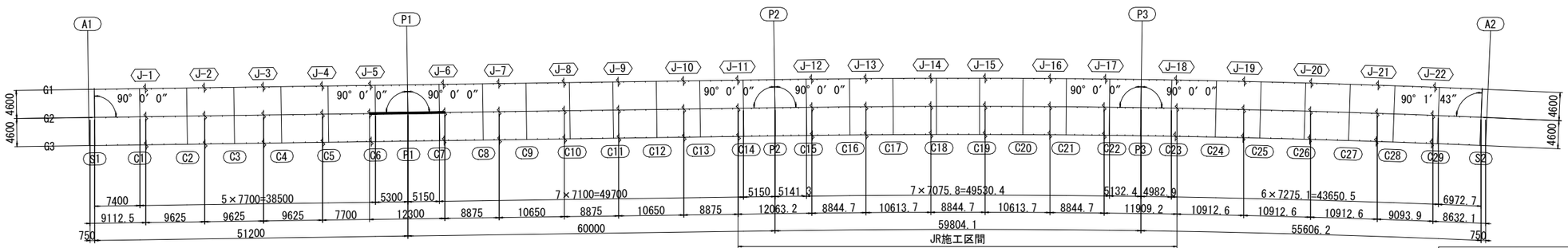
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G2(5)
縮尺	S=1:30
図面番号	178 の 42
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋主桁G2(6)　S=1:30



配　置　図

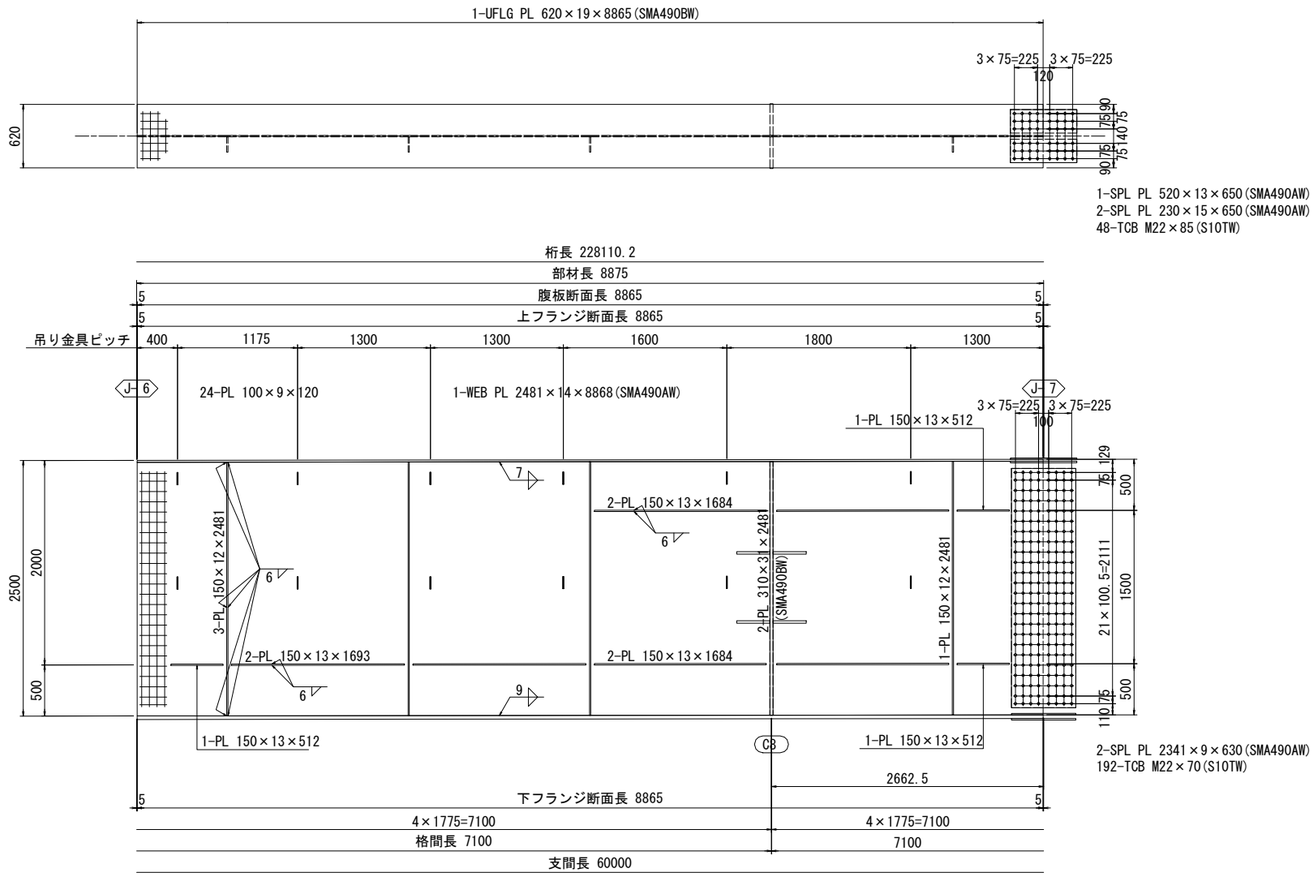


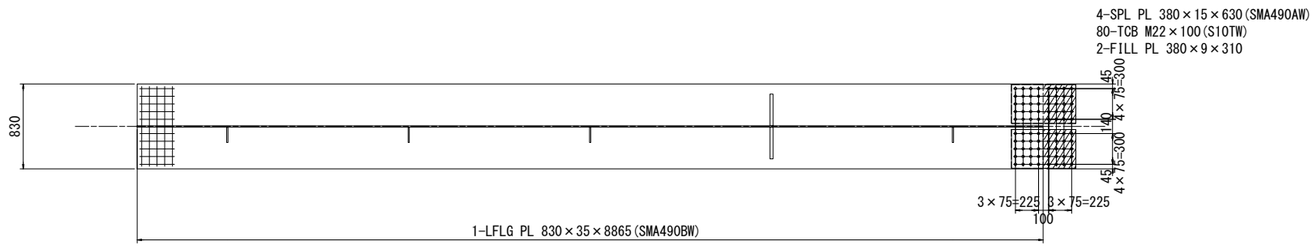
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

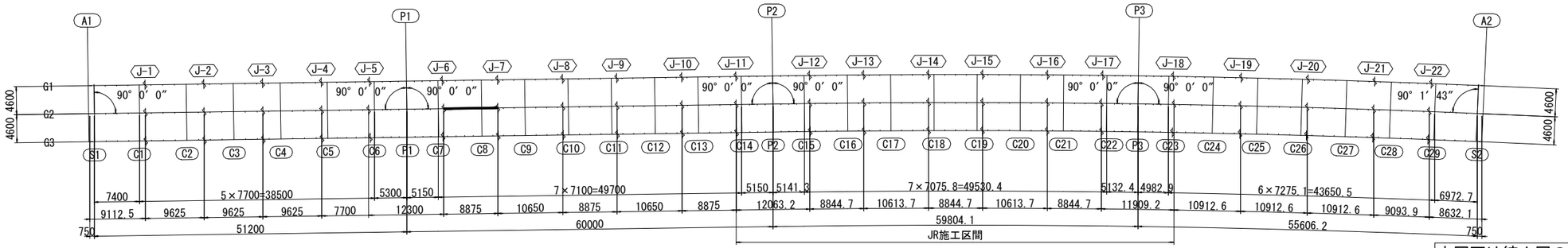
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(6)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 43
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(7)　S=1:30





配　置　図

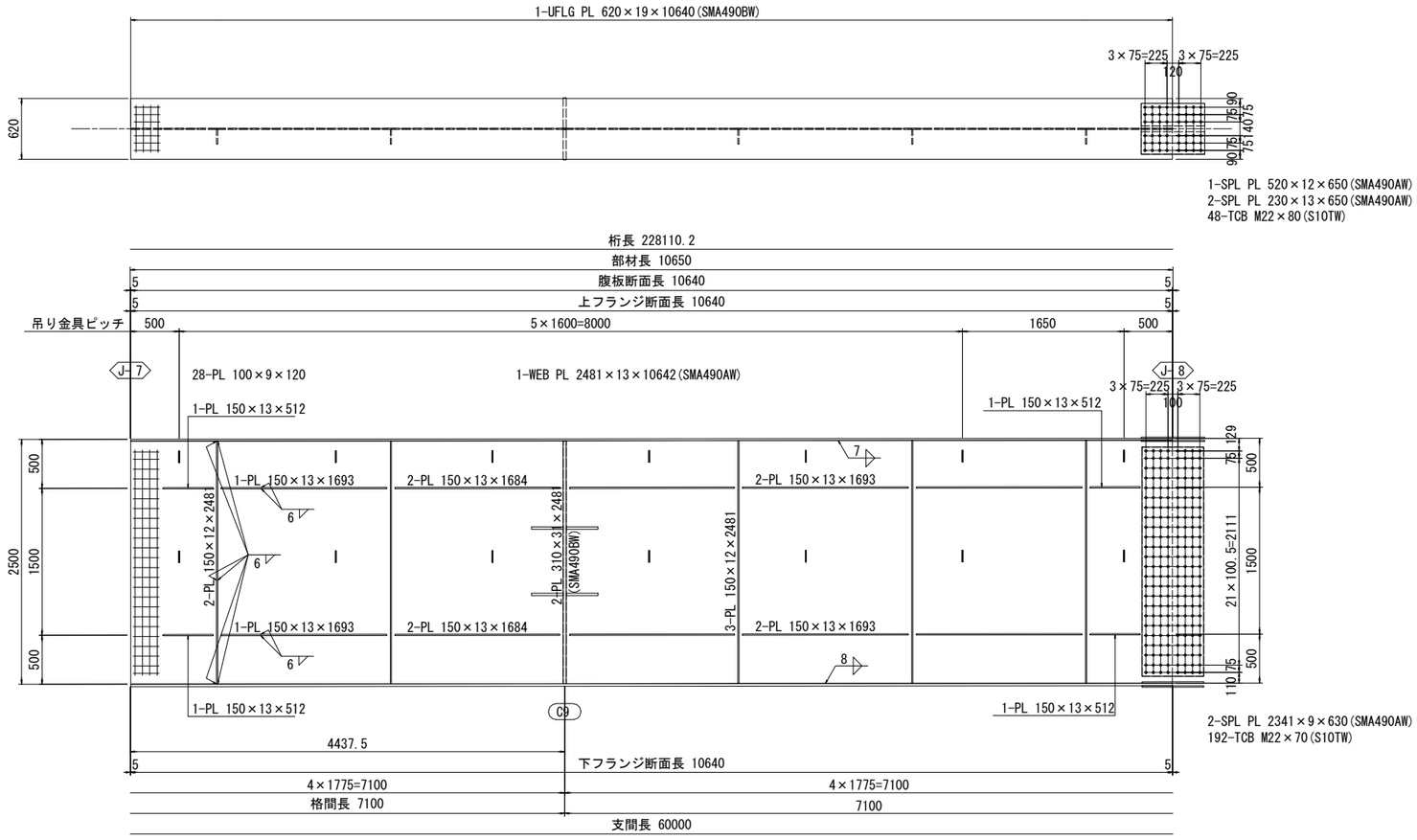


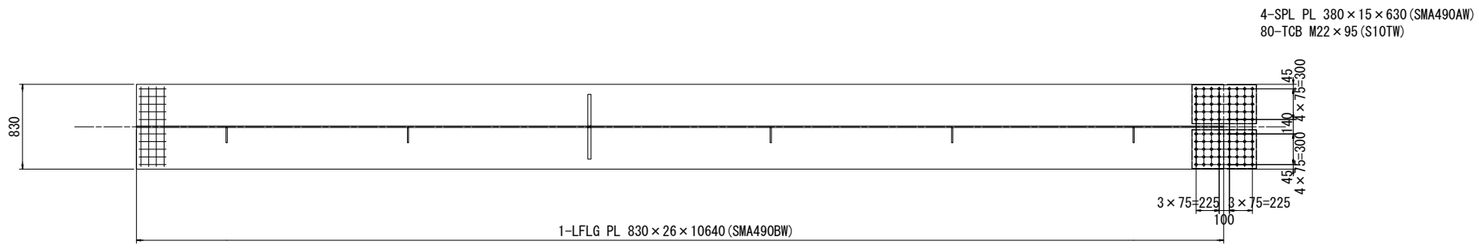
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

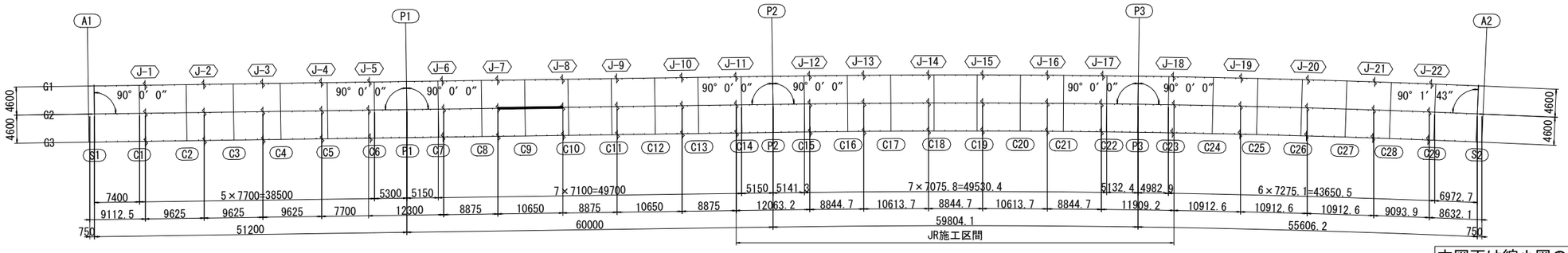
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(7)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 44
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(8)　S=1:30





配　置　図

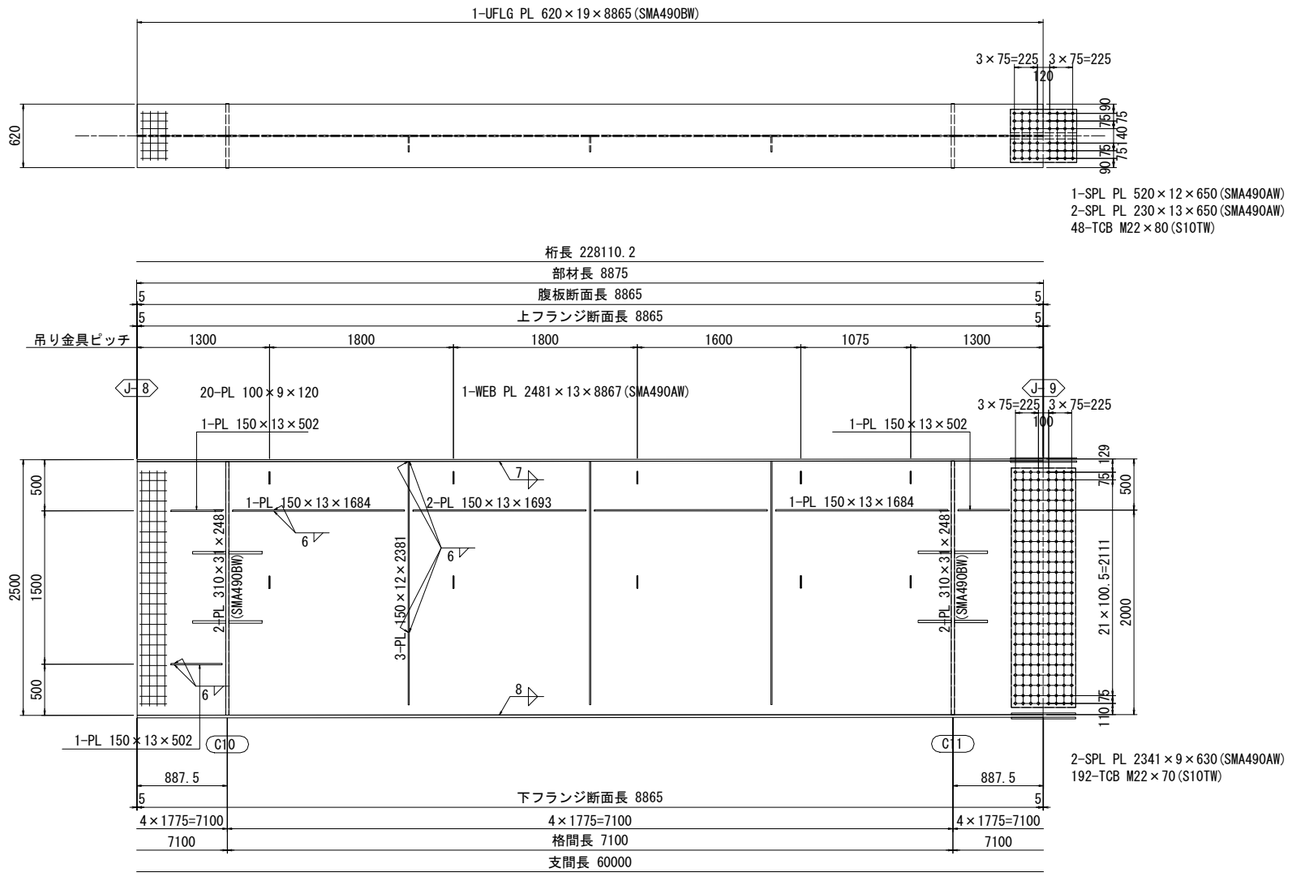


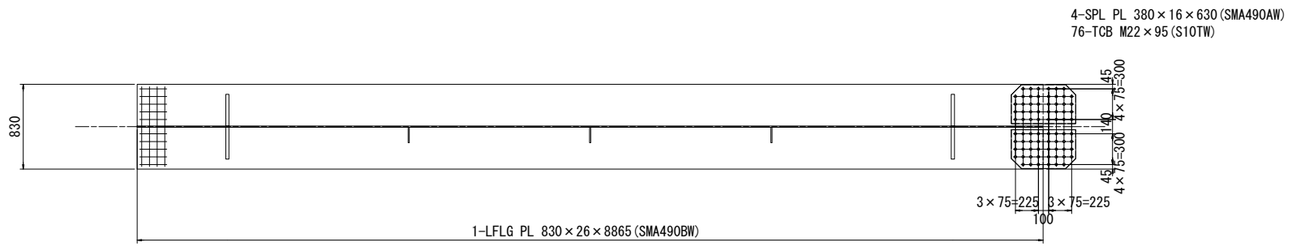
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

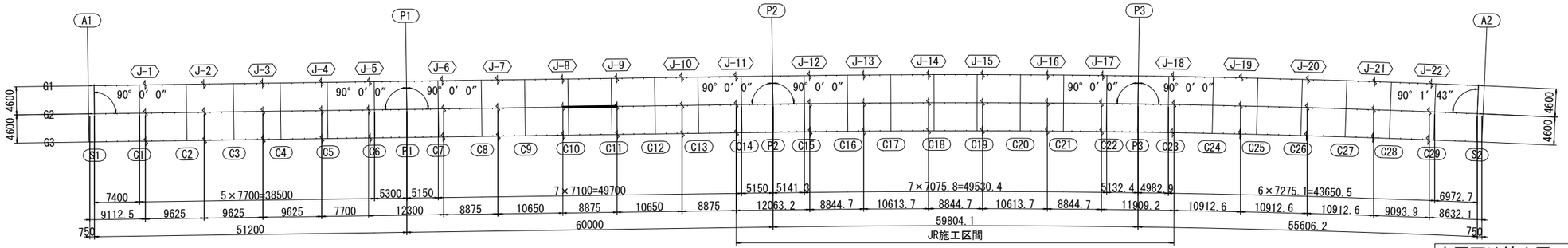
工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(8)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 45
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(9)　S=1:30





配　置　図

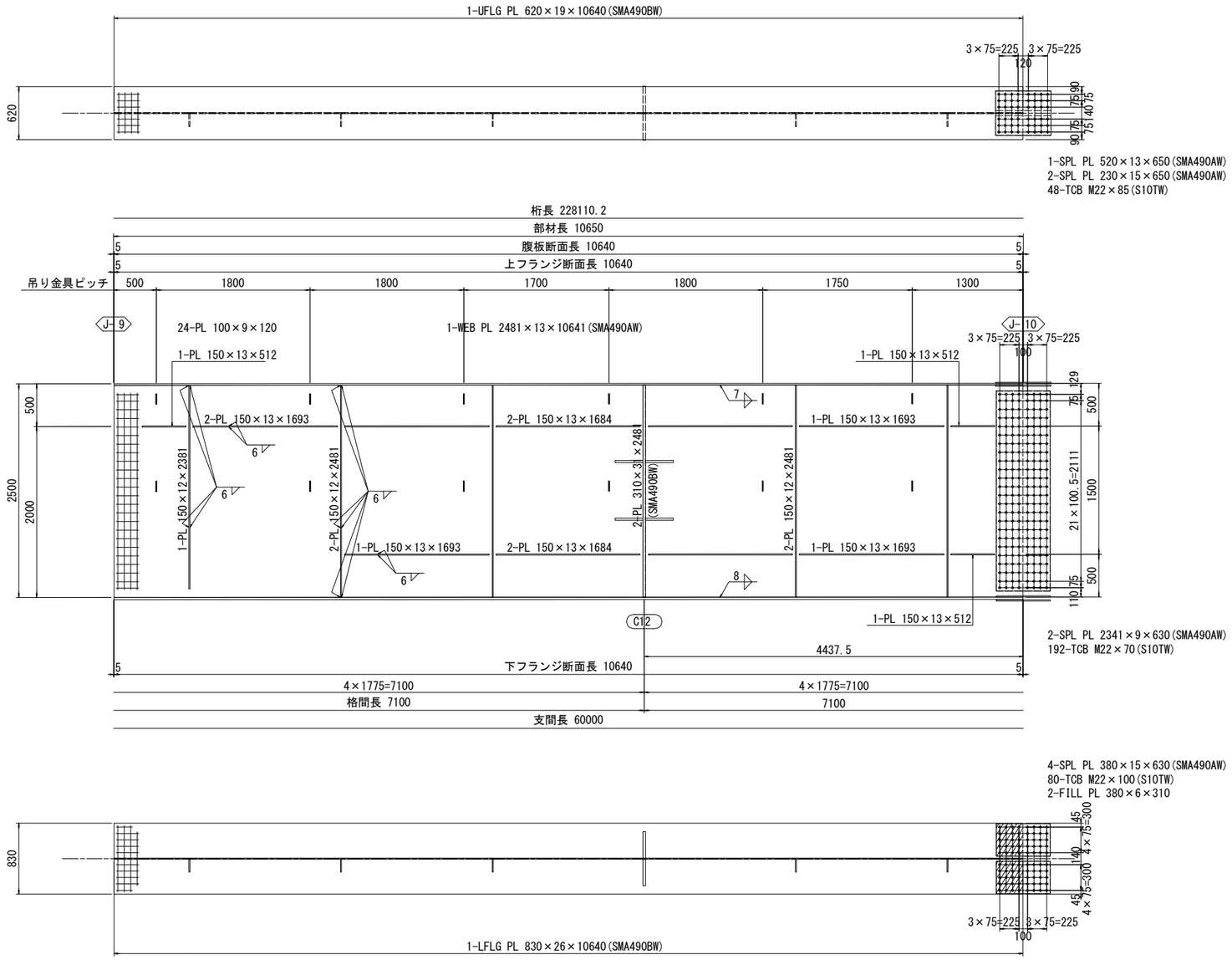


注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

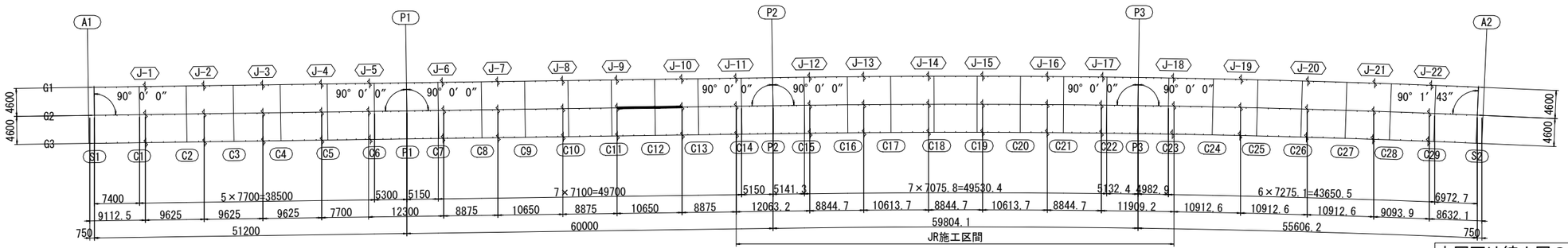
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(9)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 46
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(10)　S=1:30



配　置　図

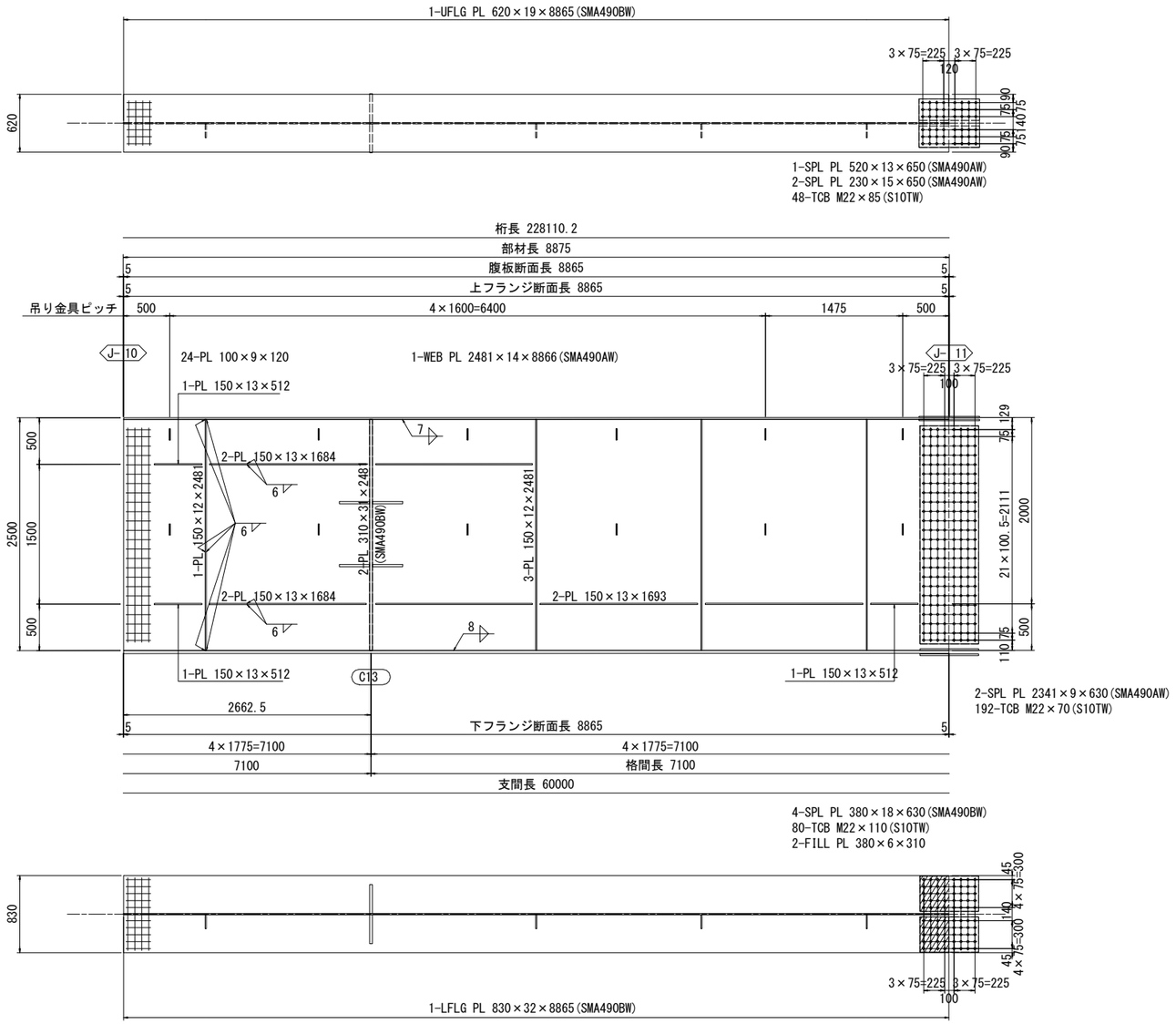


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

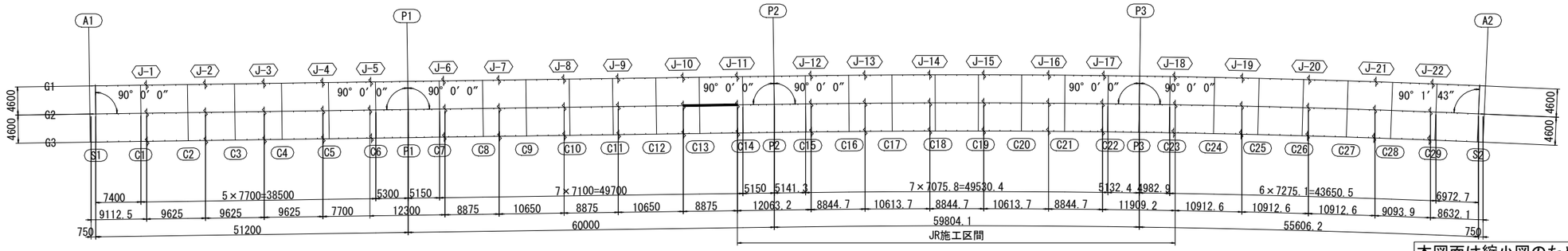
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(10)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 47
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(11)　S=1:30



配　置　図

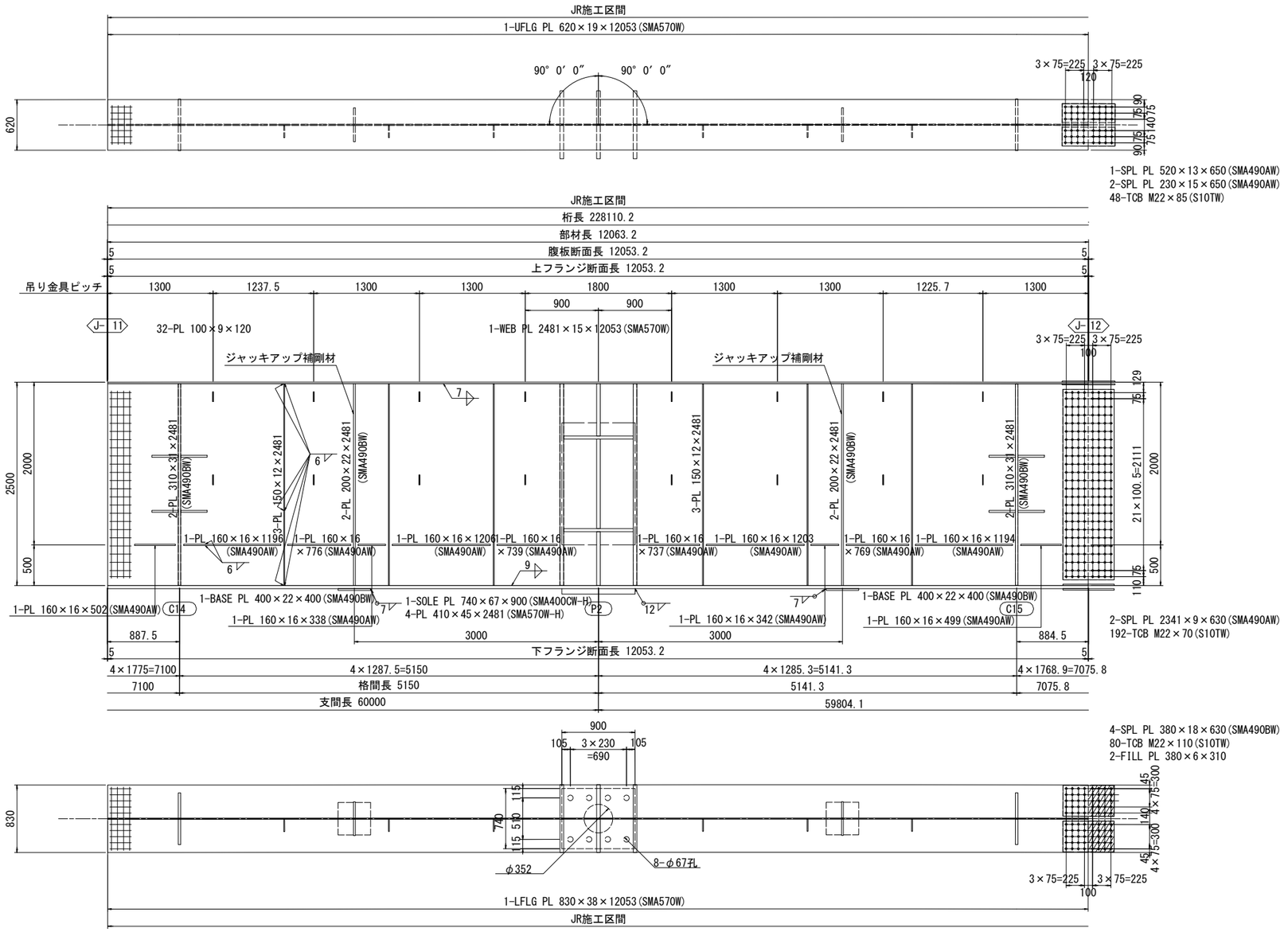


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

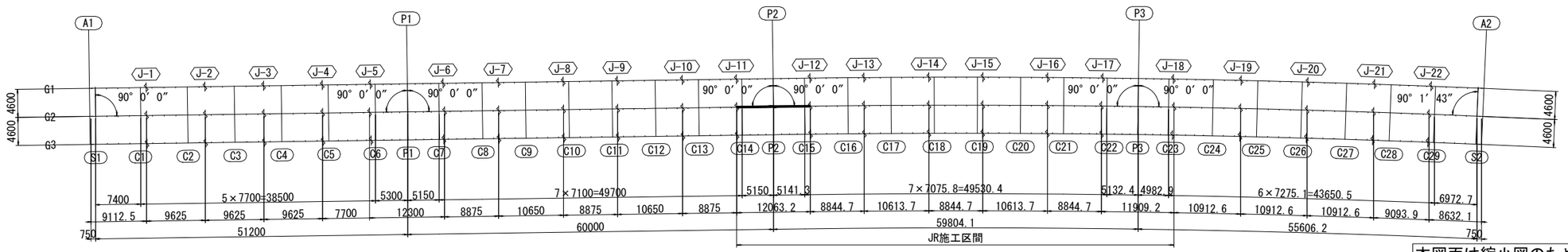
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(11)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 48
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(12)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

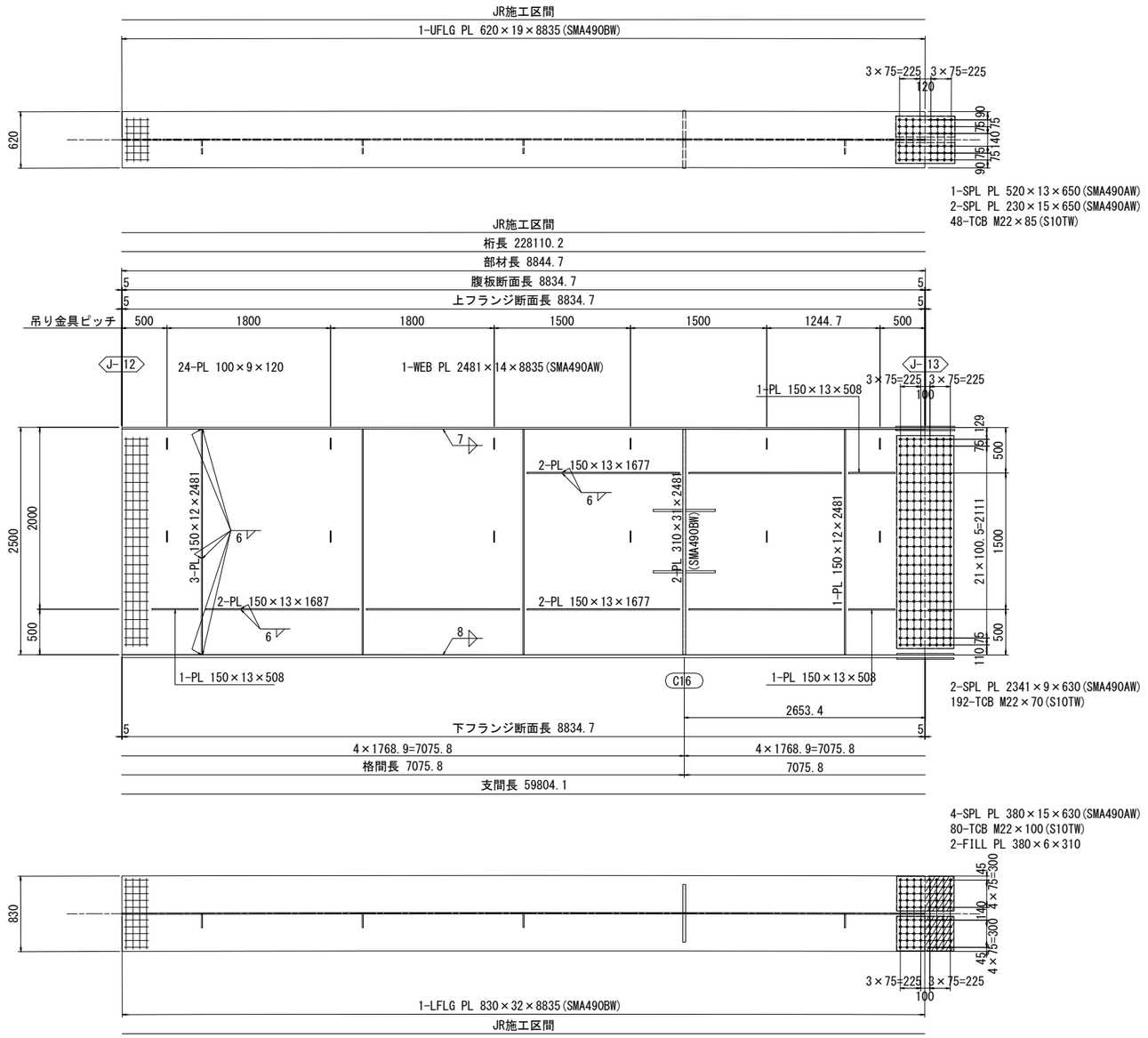
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

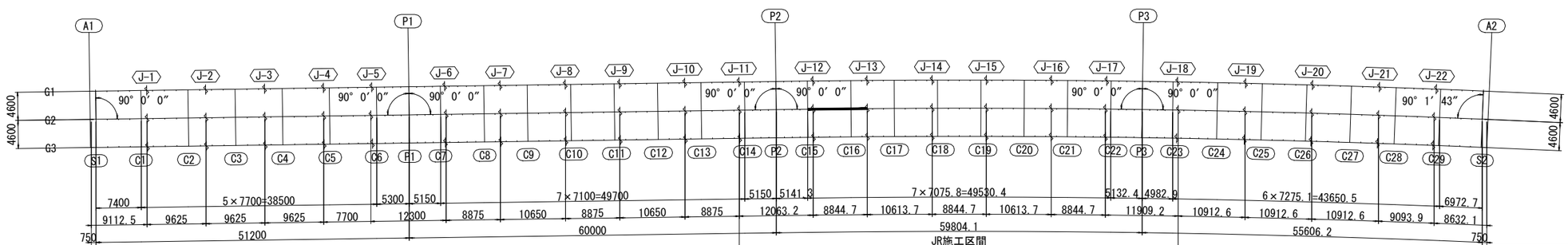
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(12)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 49
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(13)　S=1:30



配　置　図



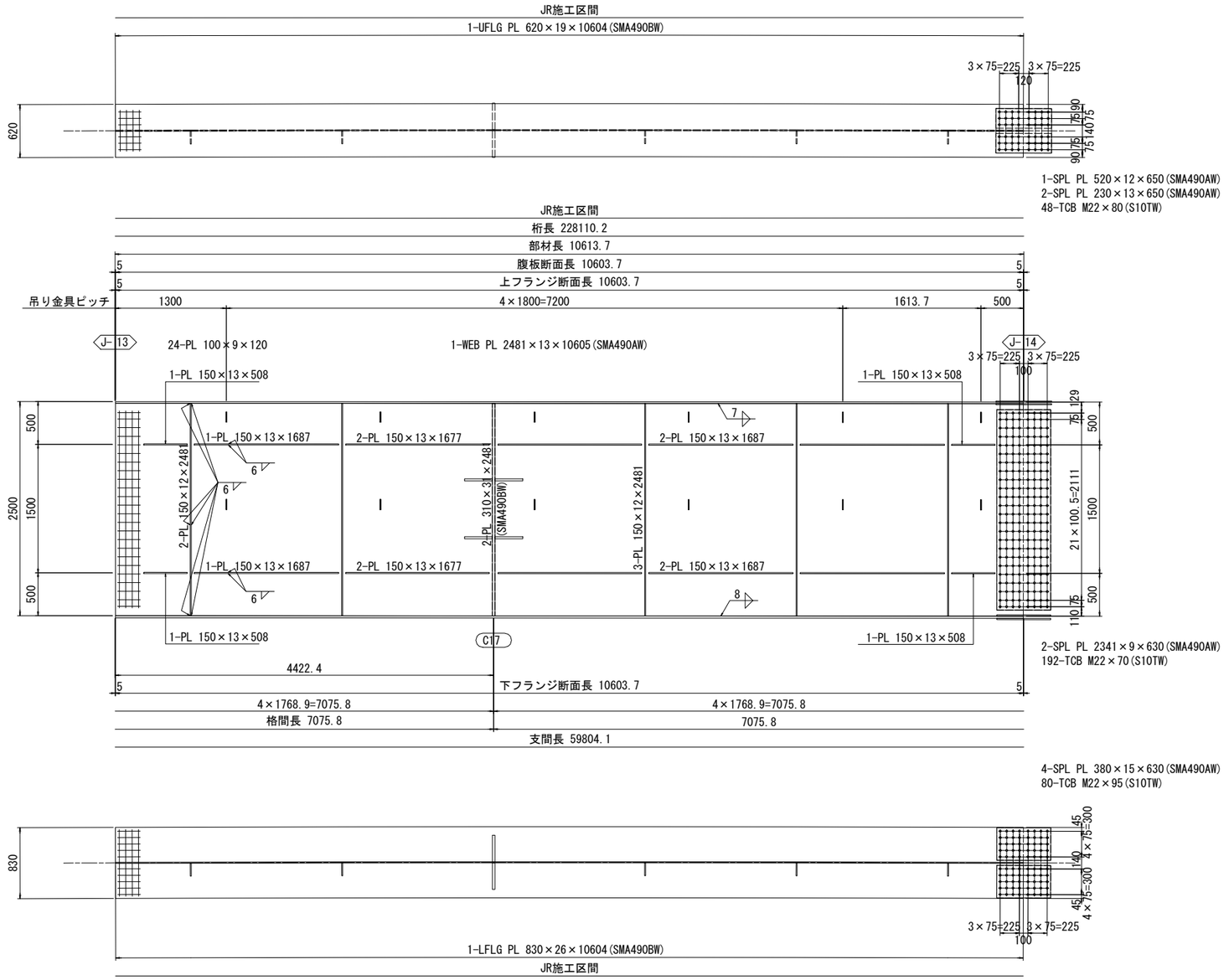
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

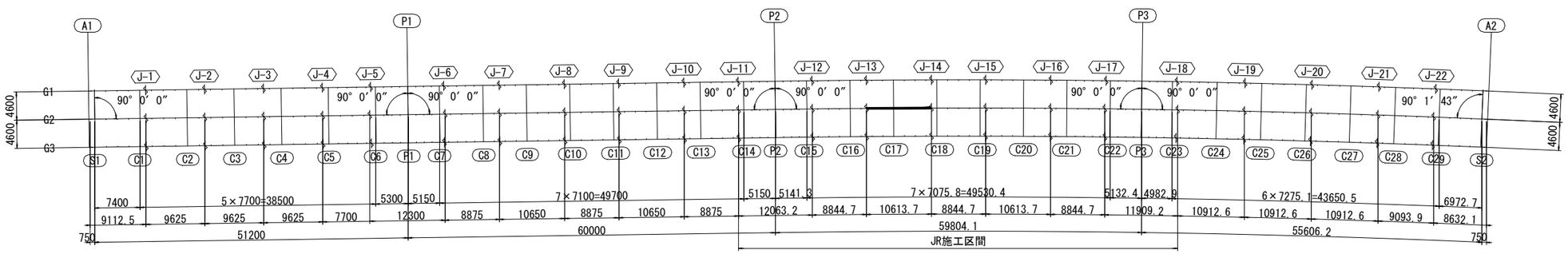
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(13)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 50
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(14)　S=1:30



配　置　図



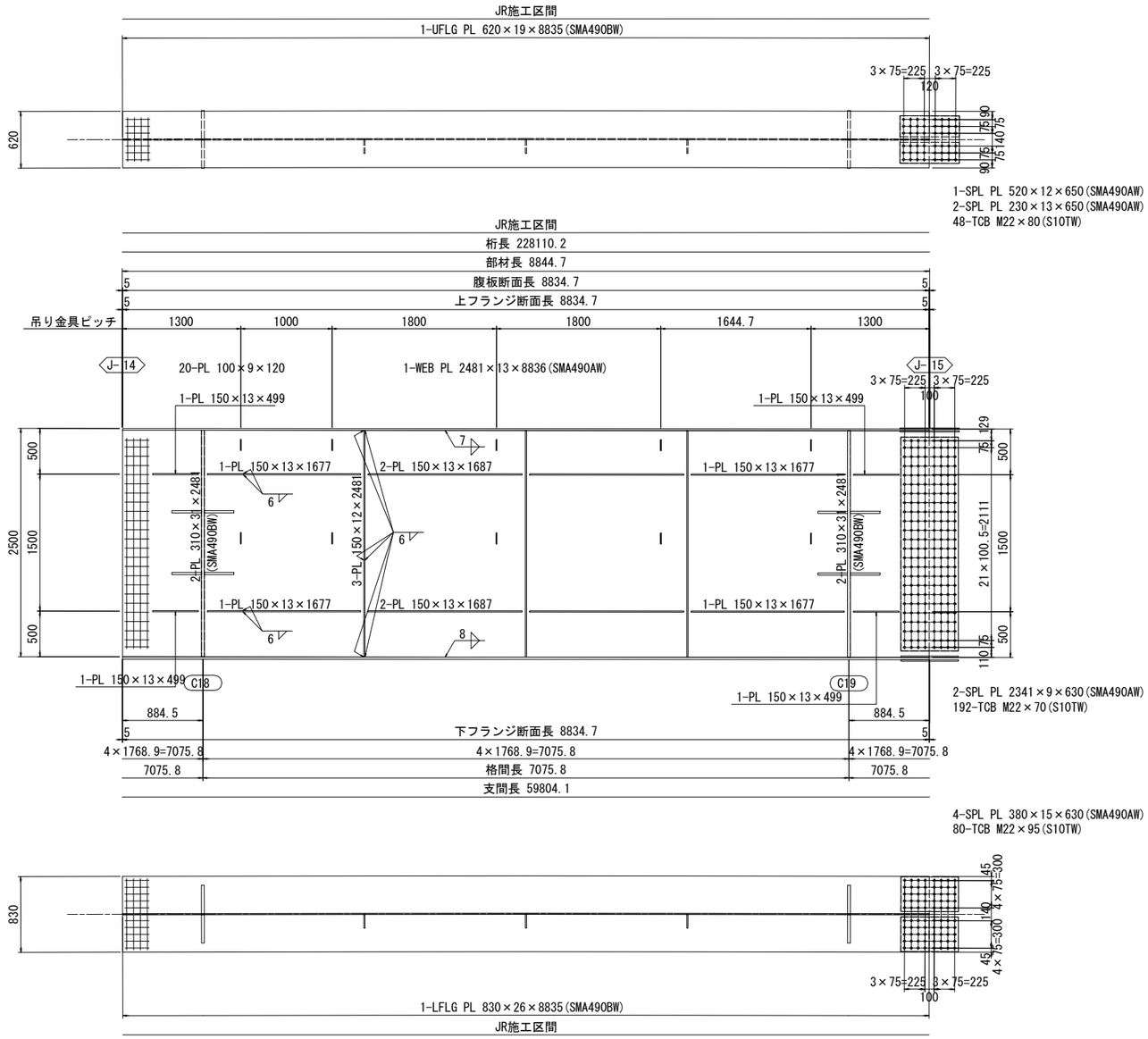
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

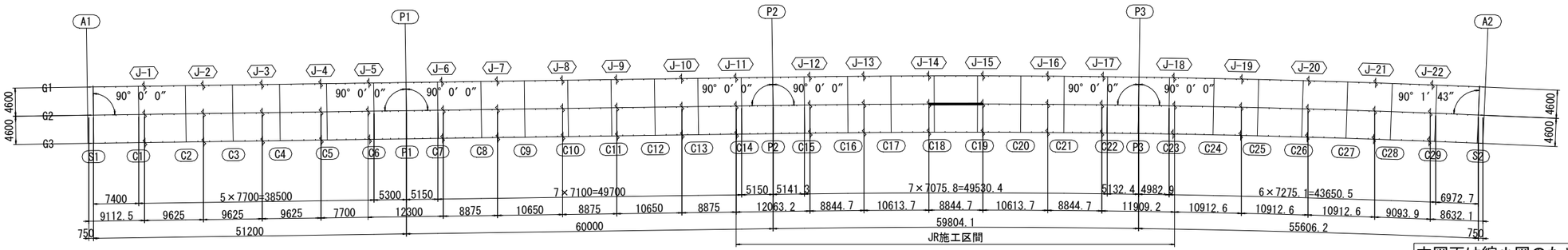
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(14)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 51
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(15)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

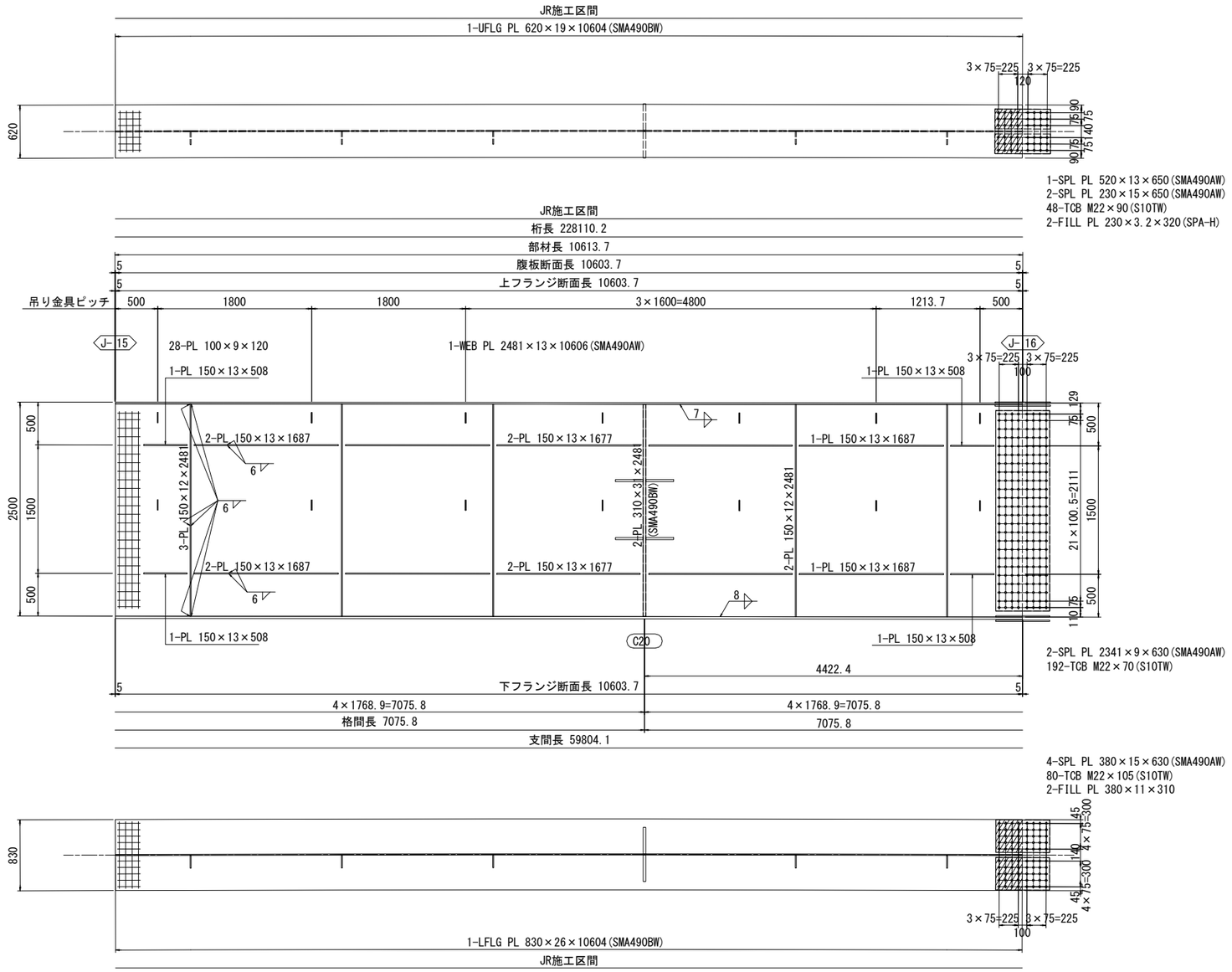
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

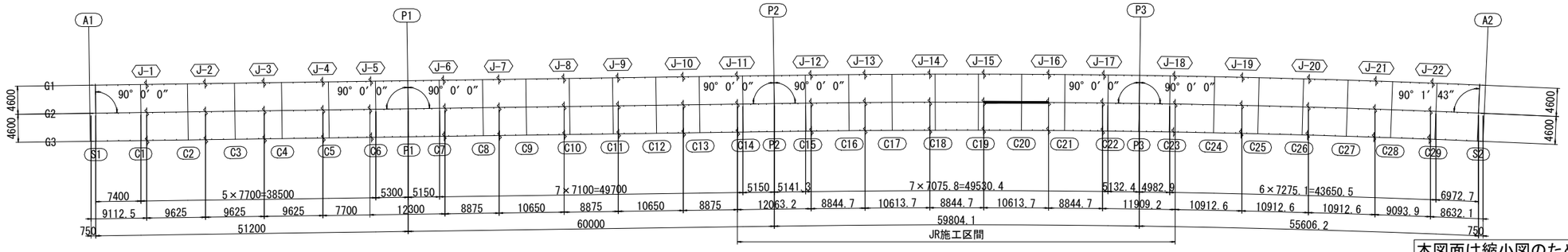
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(15)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 52
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(16)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

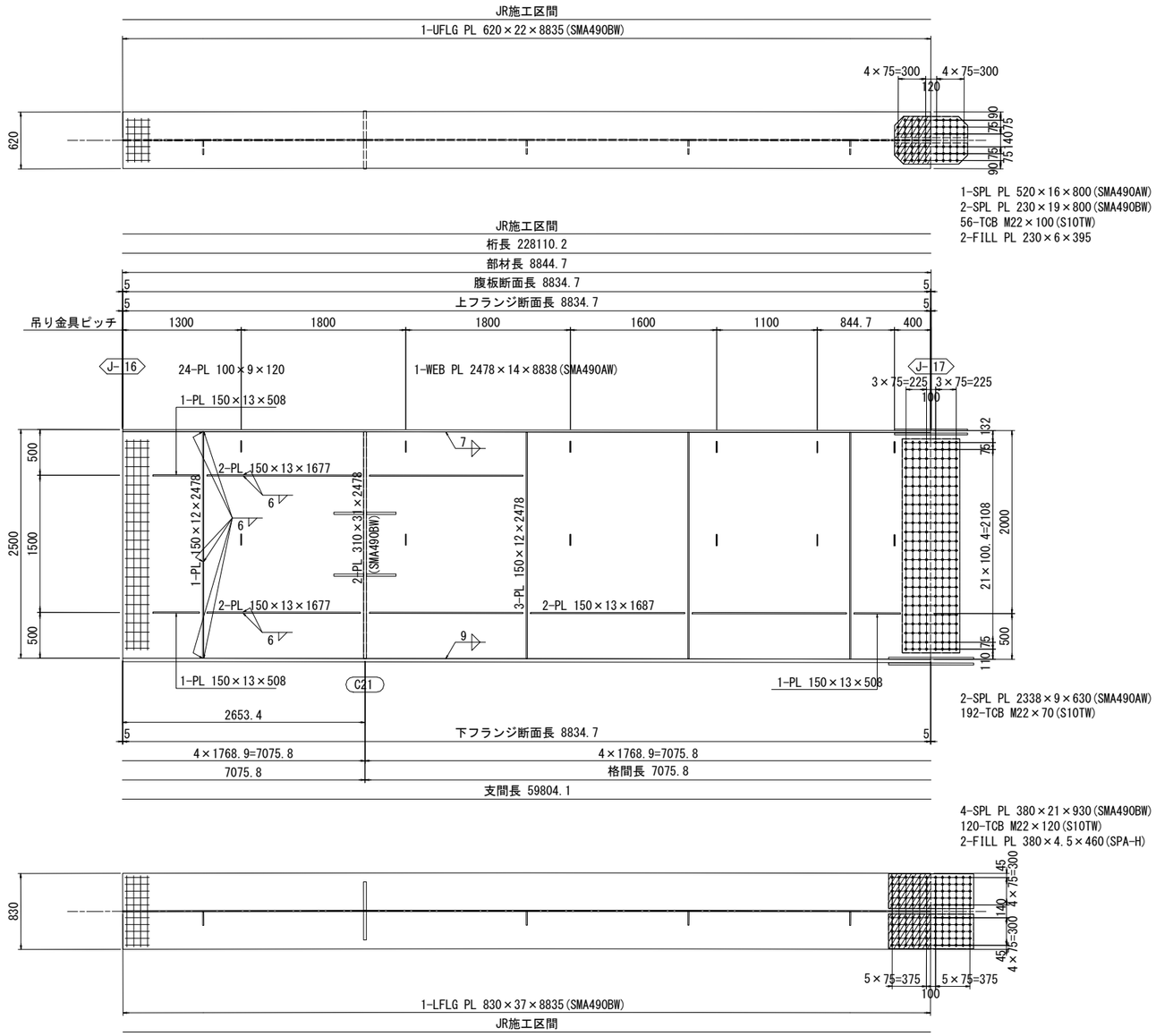
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

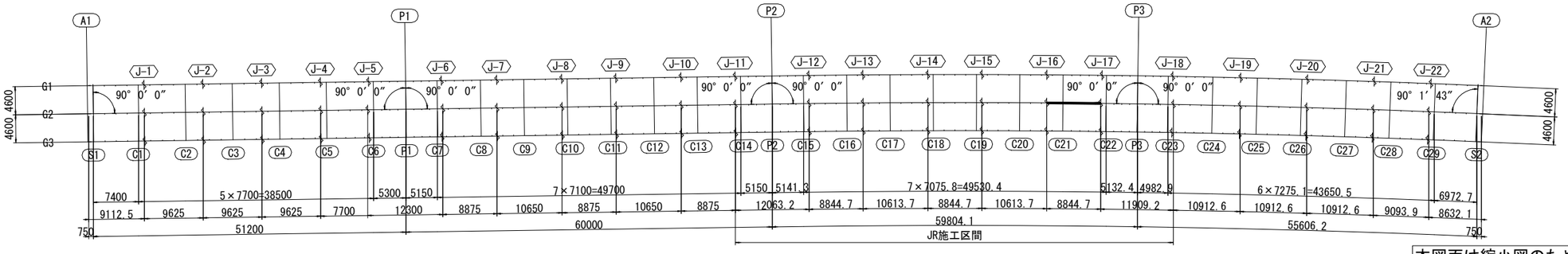
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(16)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 53
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(17)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

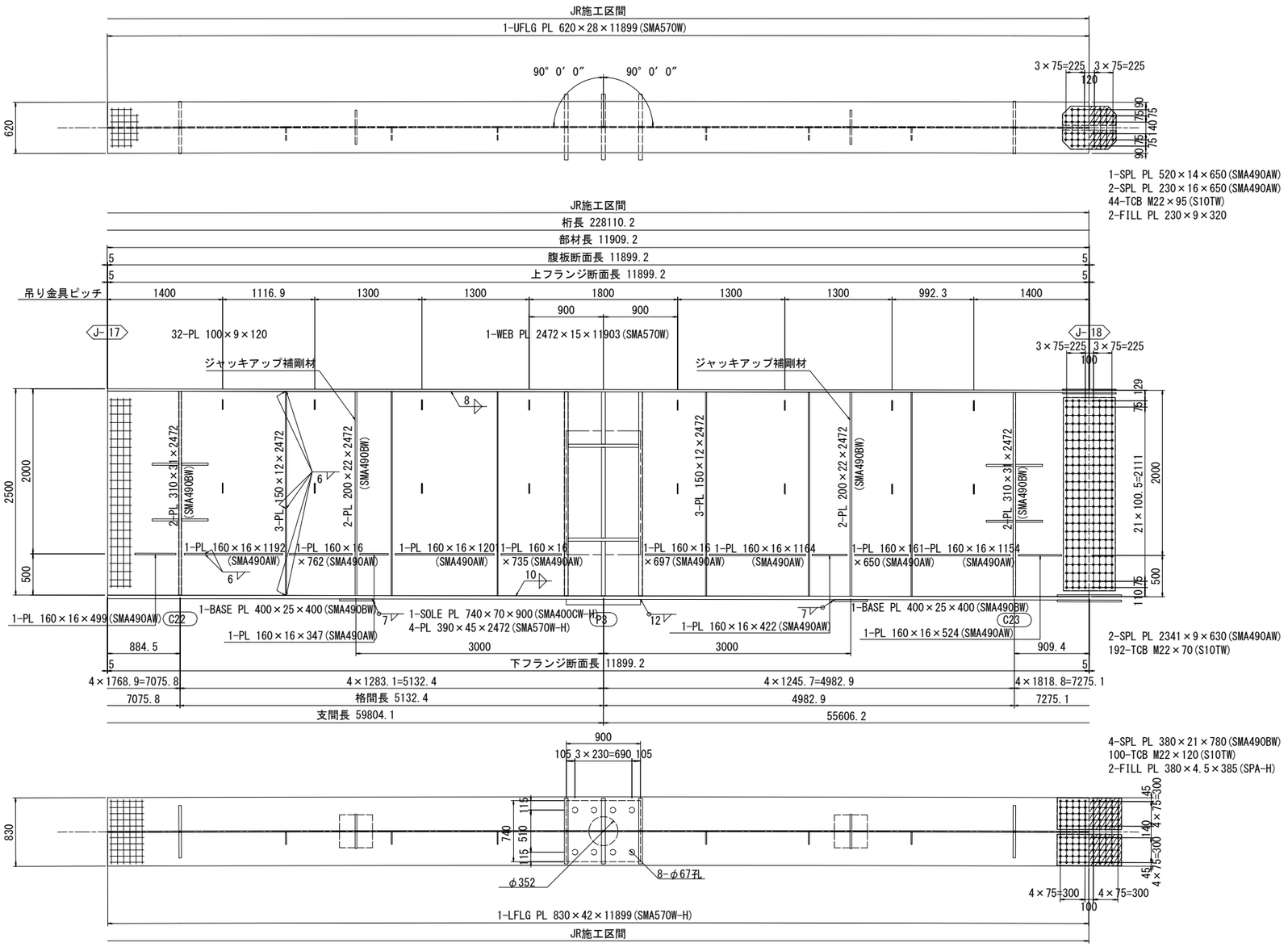
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

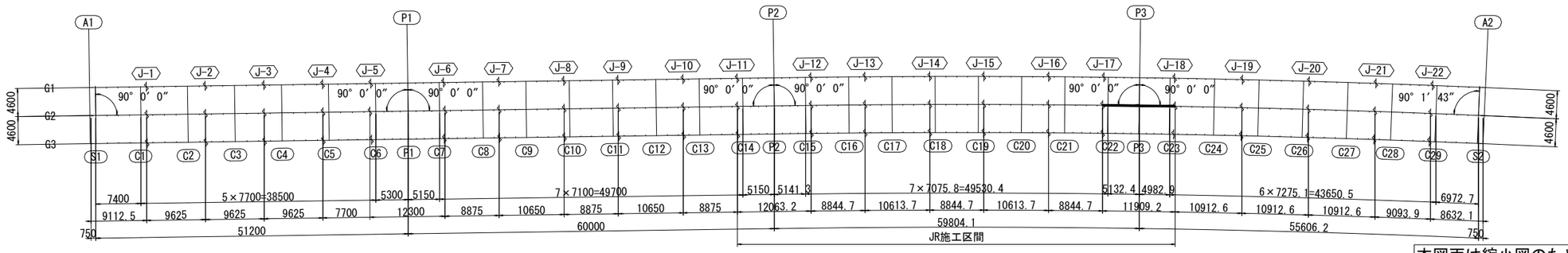
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(17)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 54
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(18)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

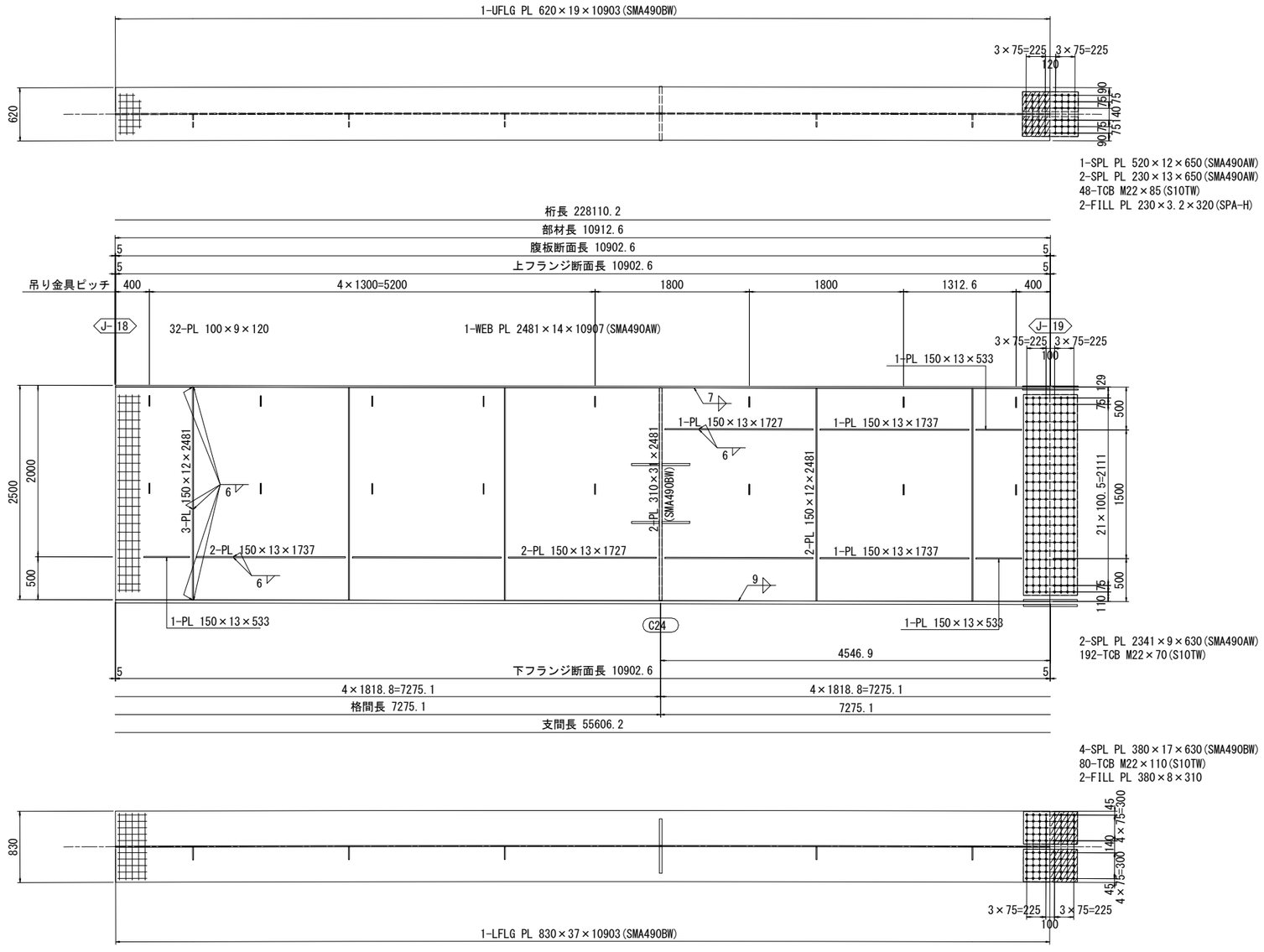
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

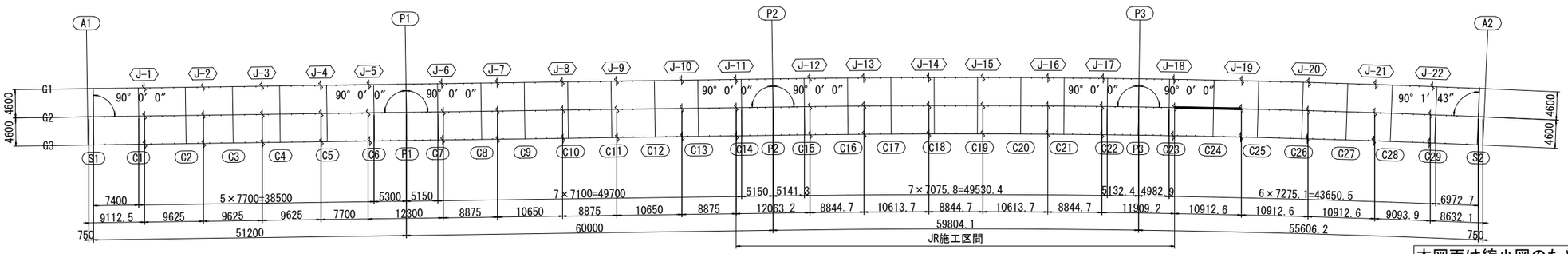
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(18)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 55
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(19)　S=1:30



配　置　図

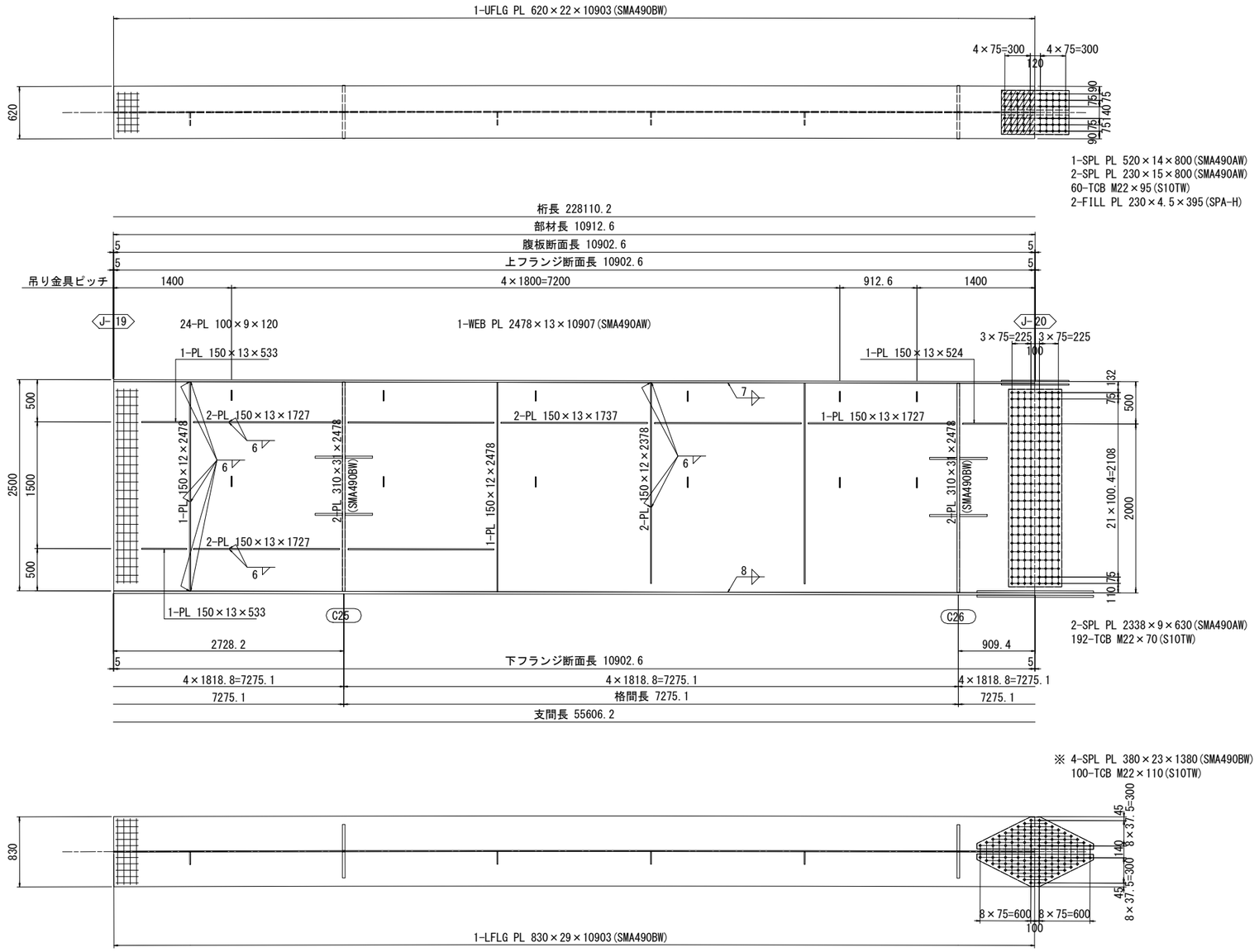


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

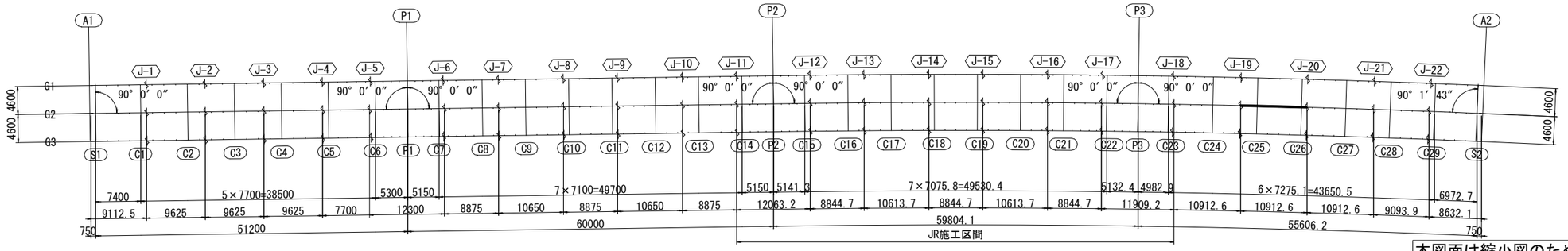
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(19)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 56
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(20)　S=1:30



配　置　図

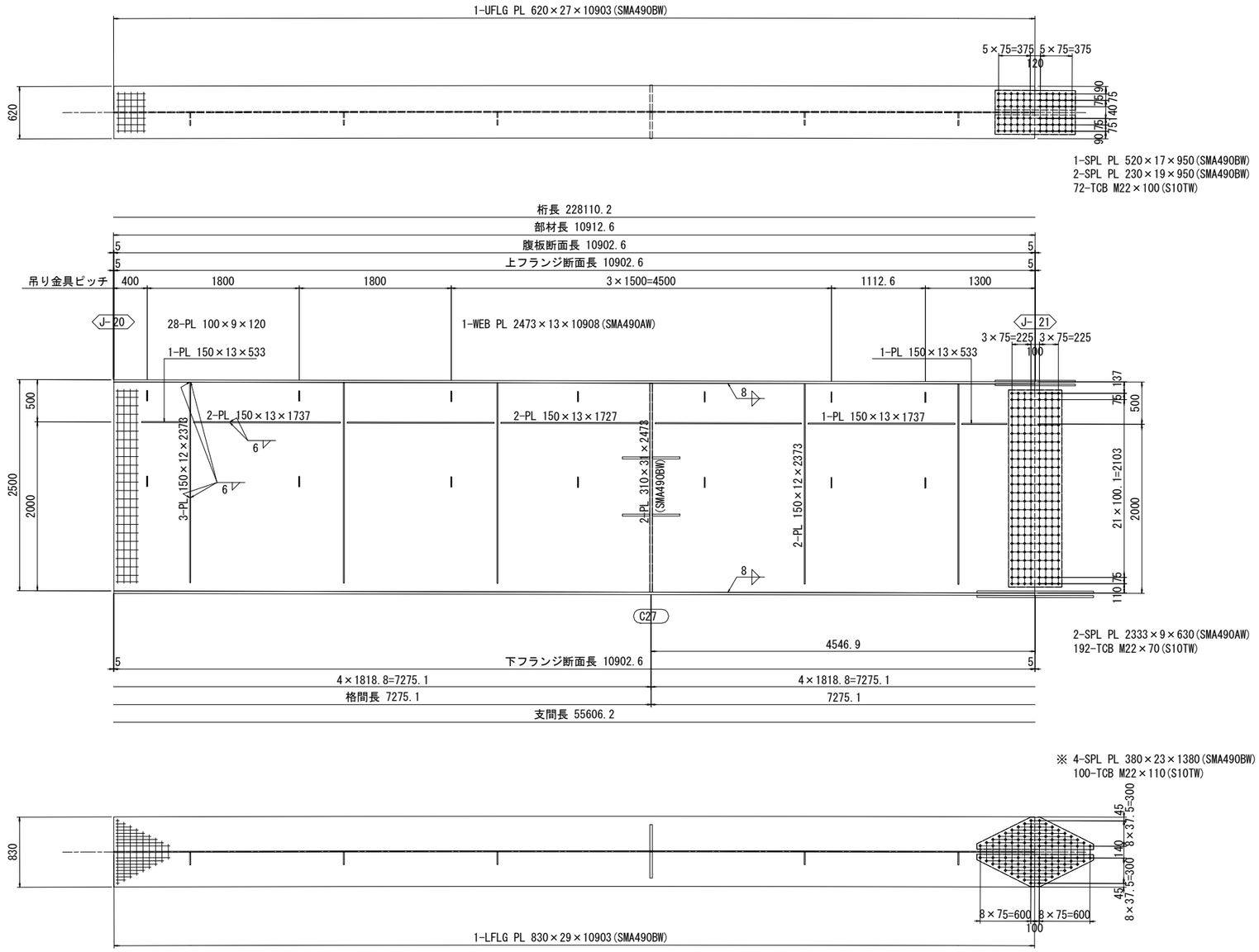


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

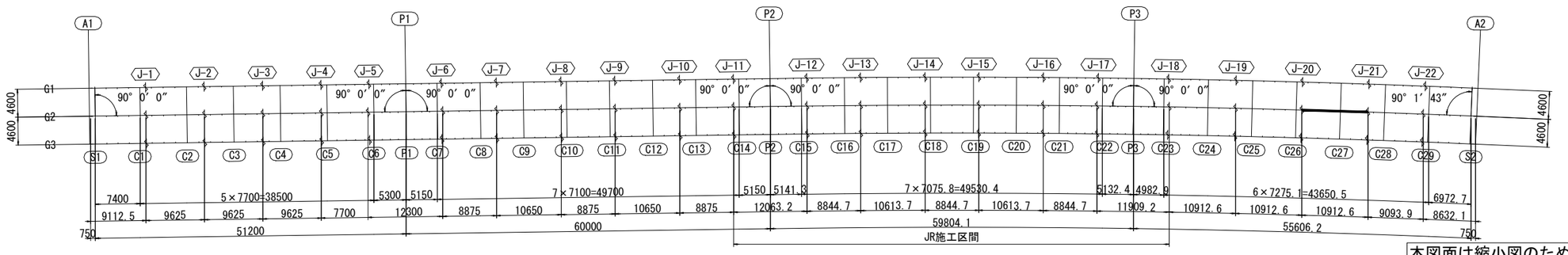
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(20)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 57
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(21)　S=1:30



配　置　図

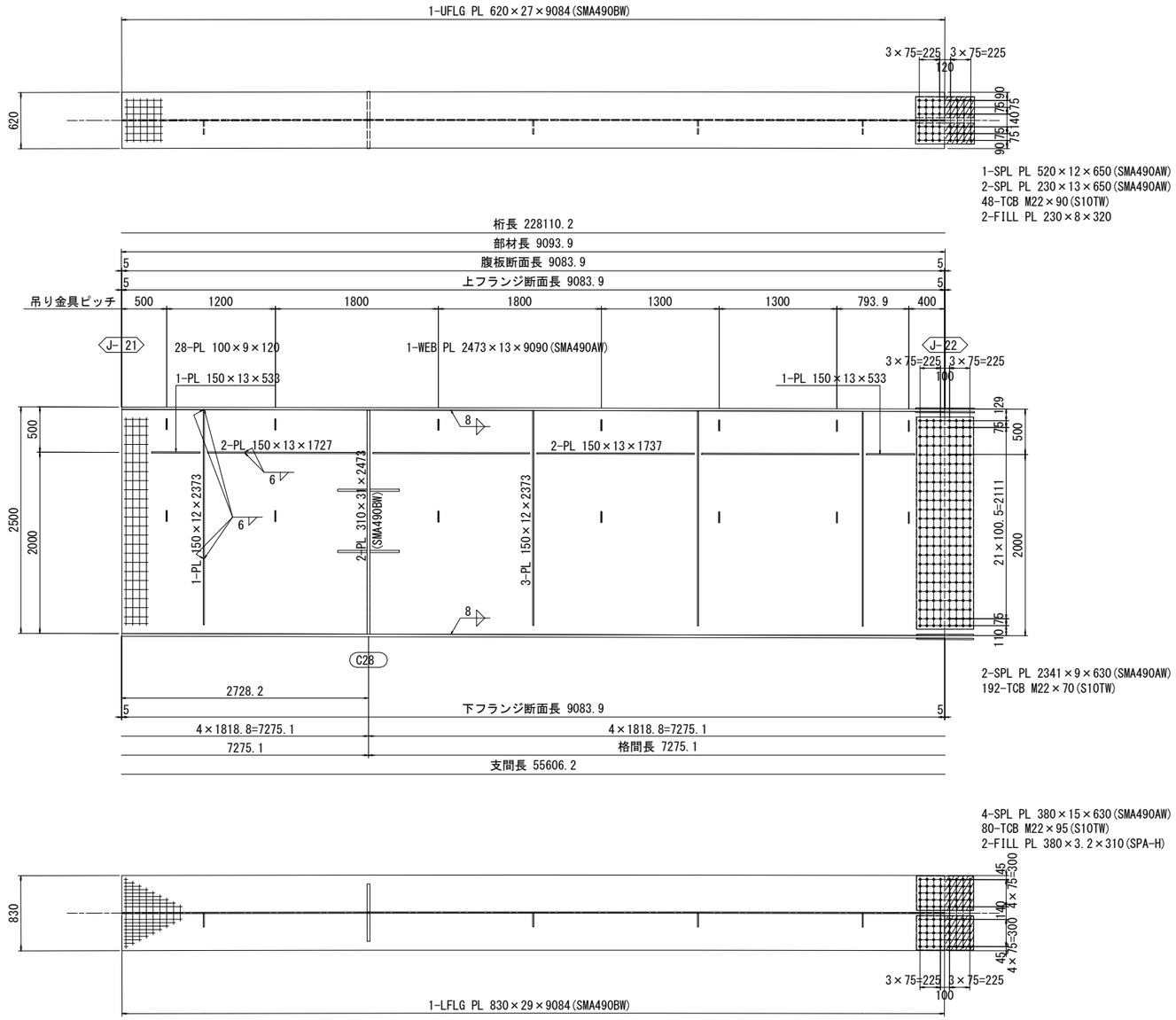


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

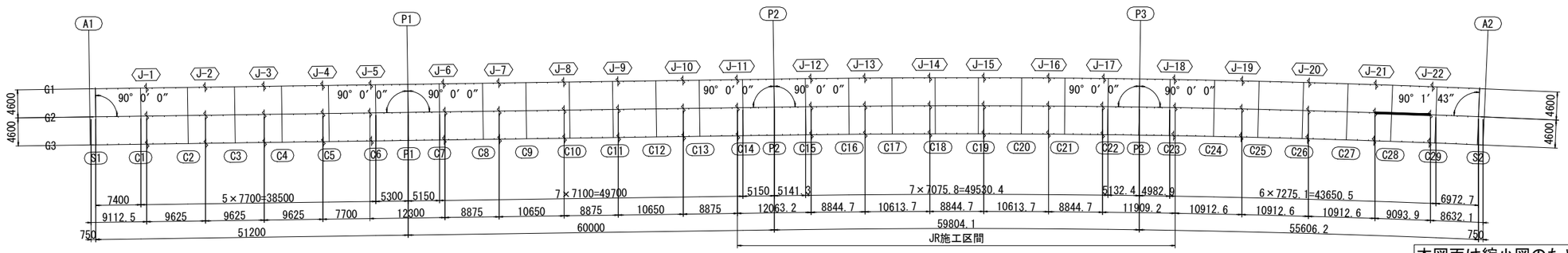
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(21)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 58
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(22)　S=1:30



配　置　図

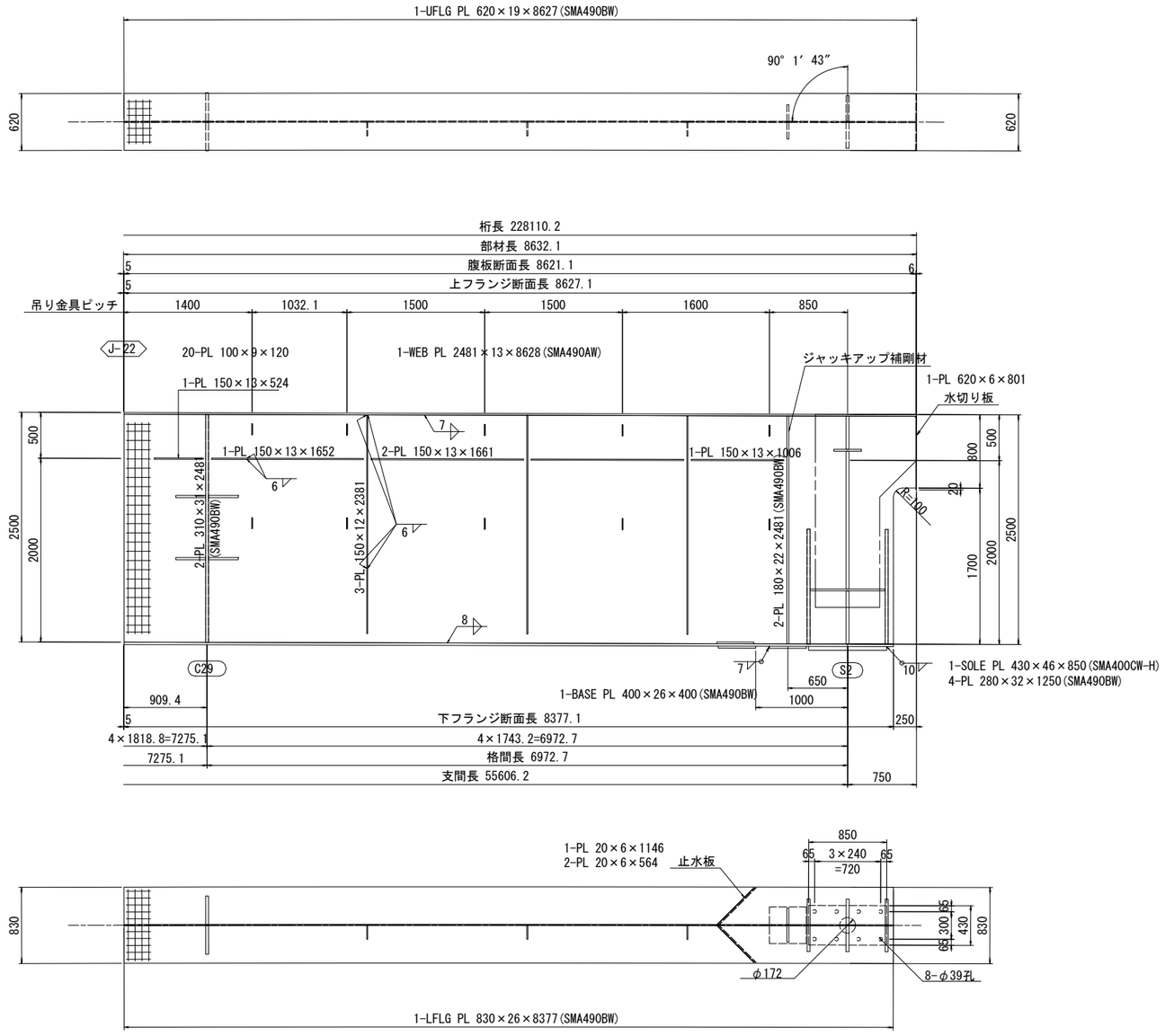


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

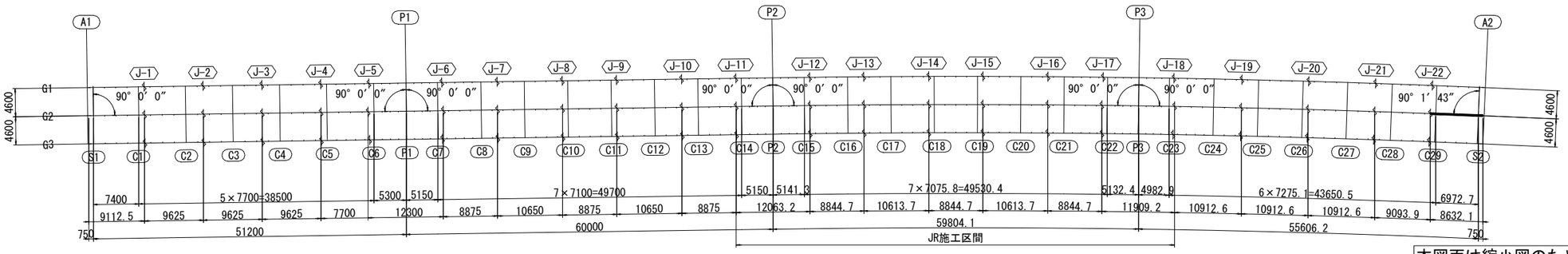
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(22)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 59
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G2(23)　S=1:30



配　置　図

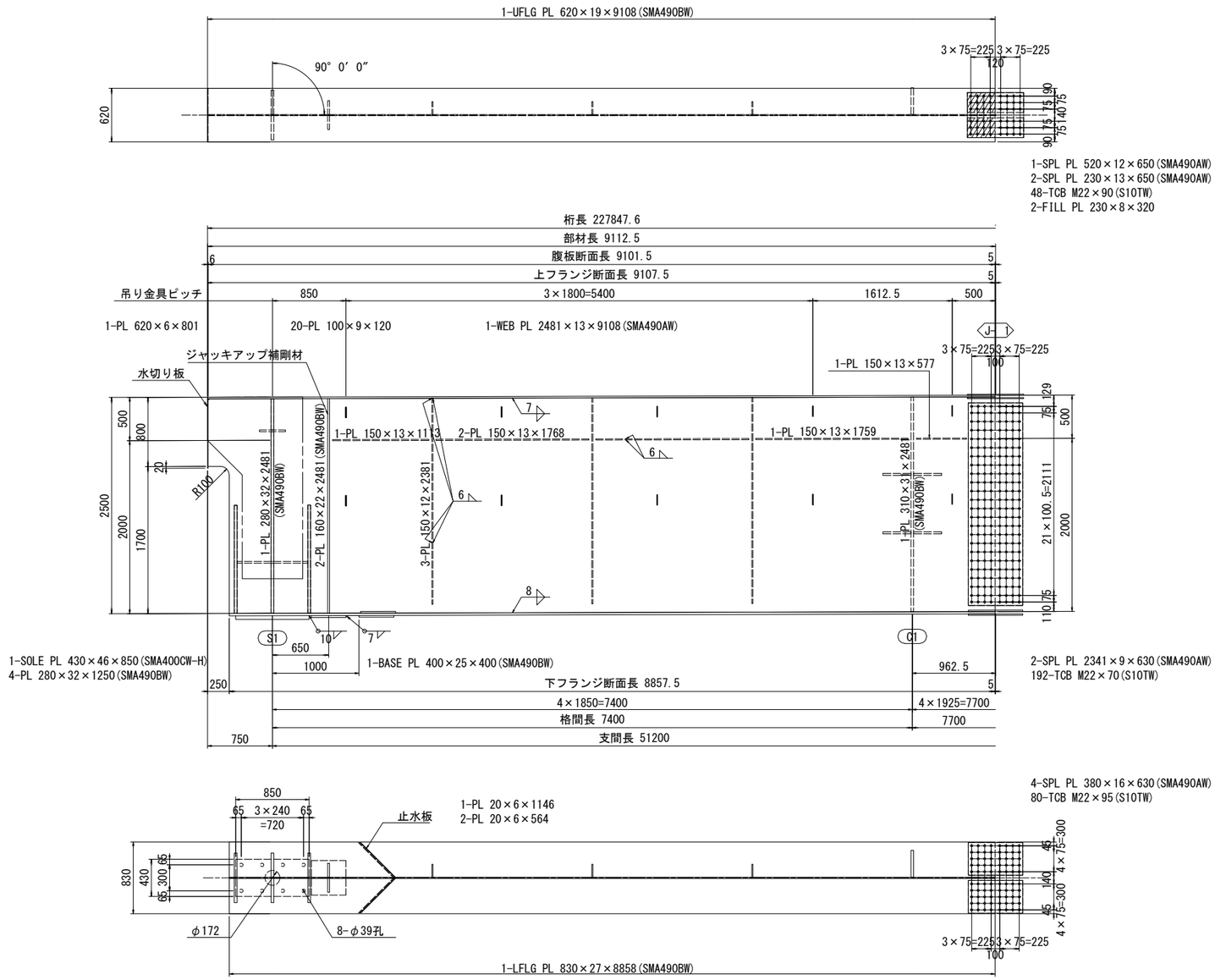


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

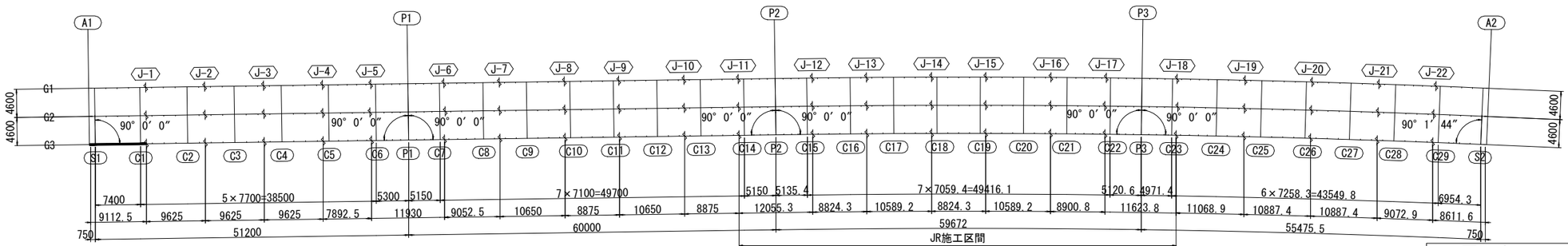
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G2(23)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 60
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(1)　S=1:30



配　置　図

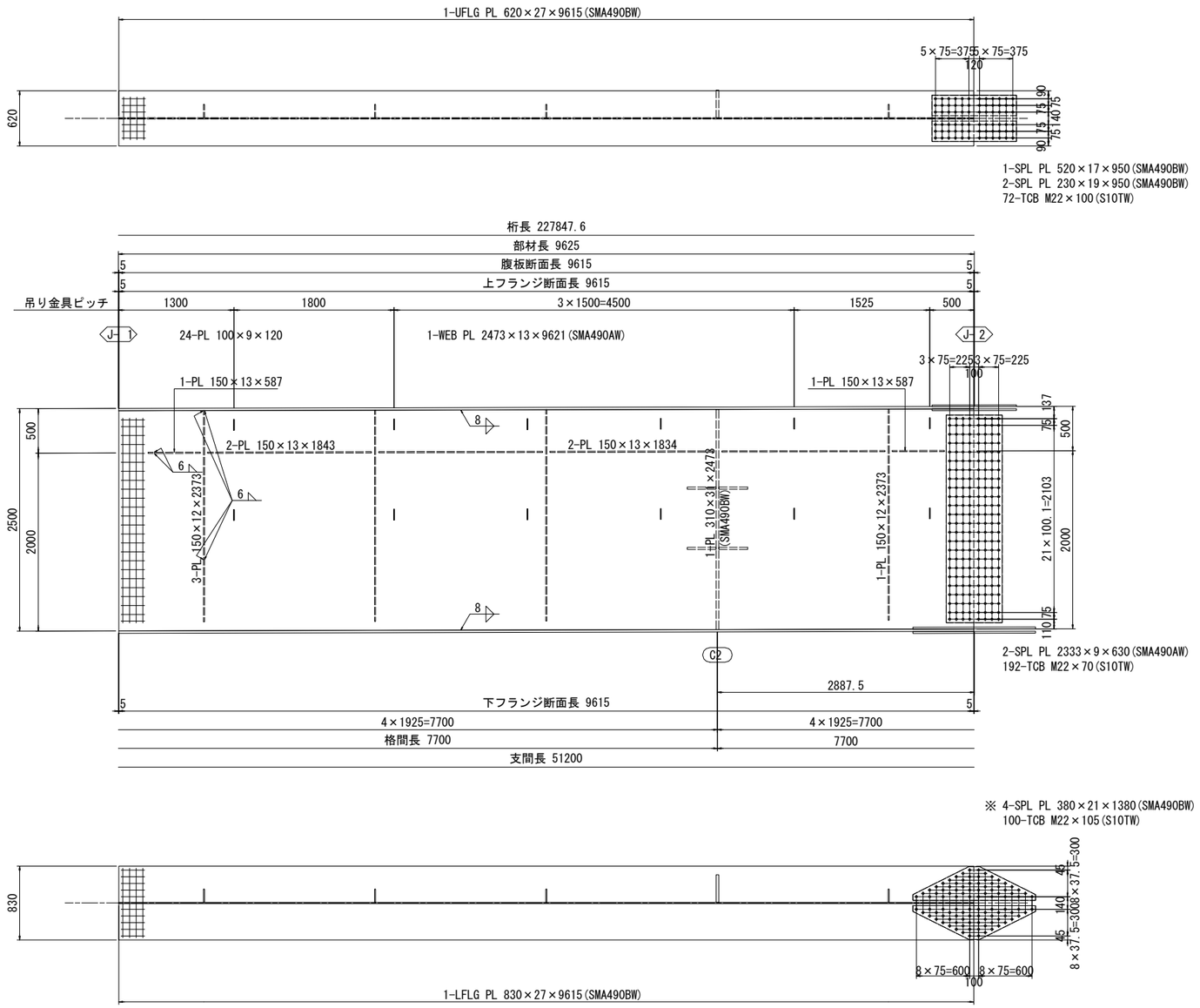


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

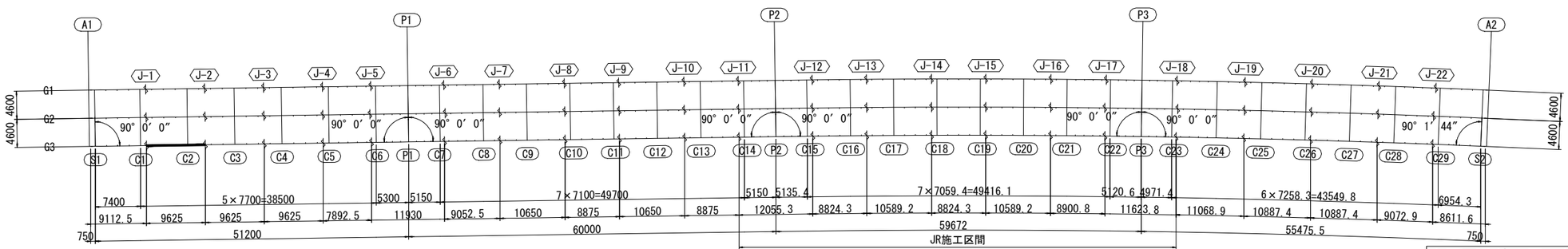
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G3(1)
縮尺	S=1:30　図面番号　178 の 61
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋主桁G3(2)　S=1:30



配　置　図

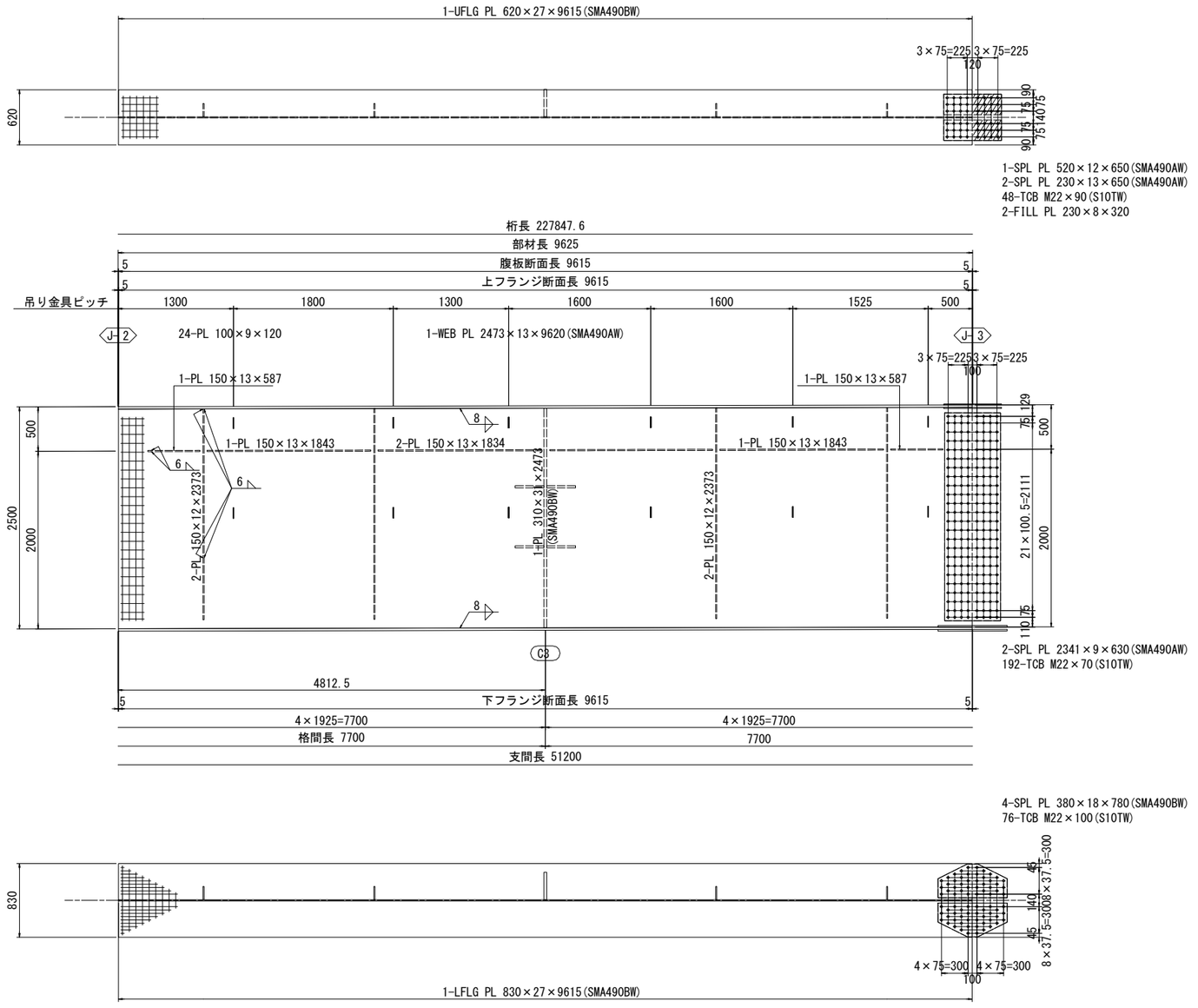


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

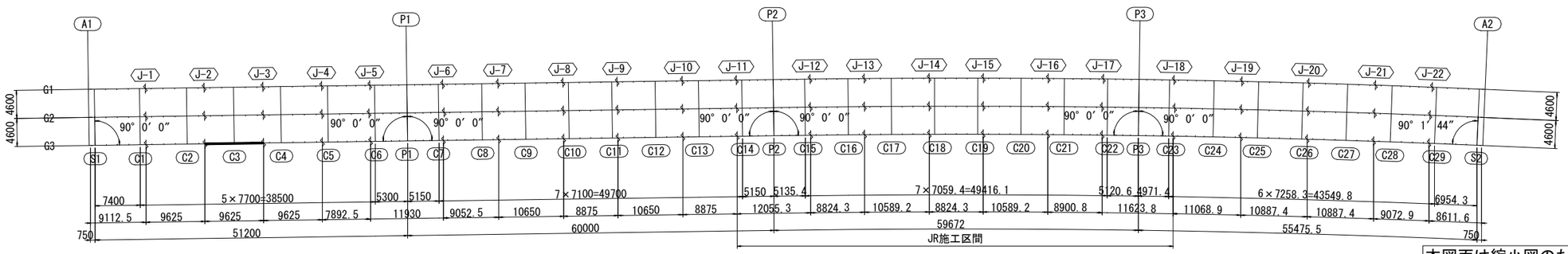
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 62
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(3)　S=1:30



配　置　図

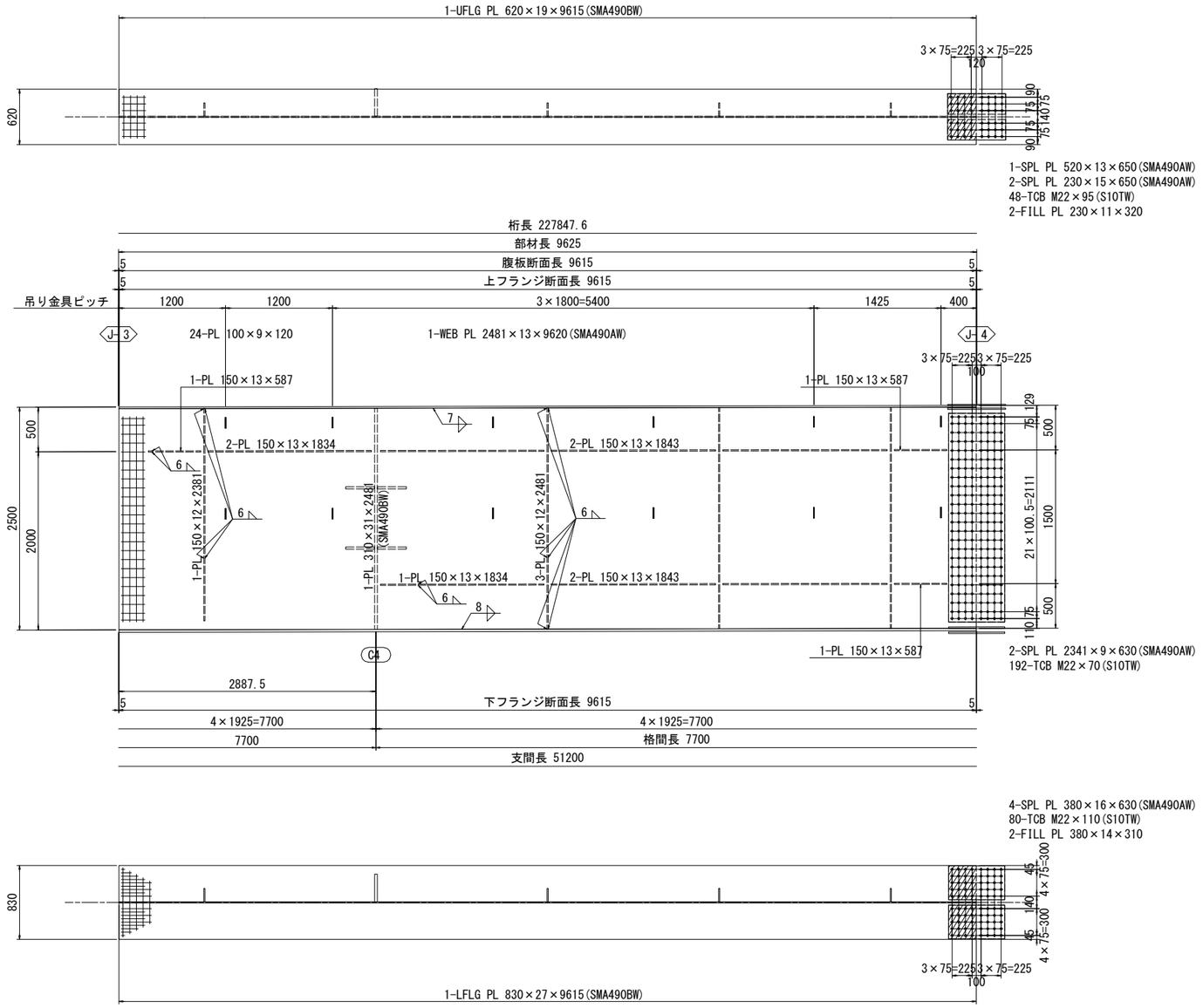


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

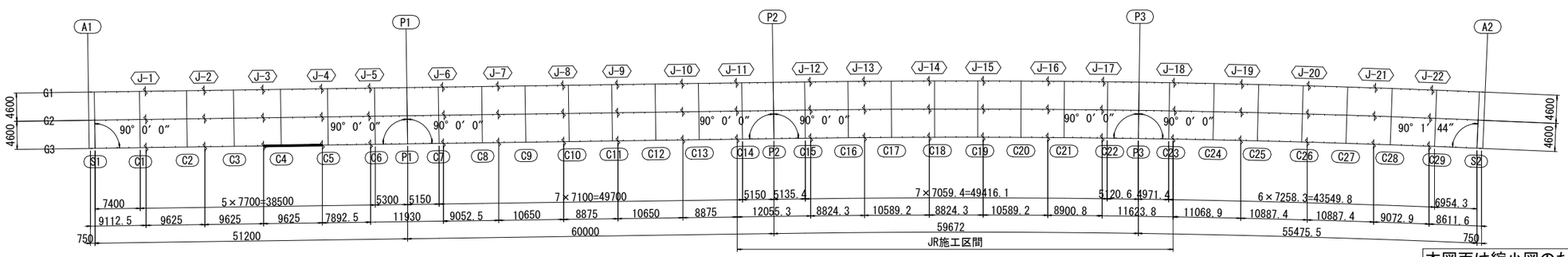
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 63
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(4)　S=1:30



配　置　図

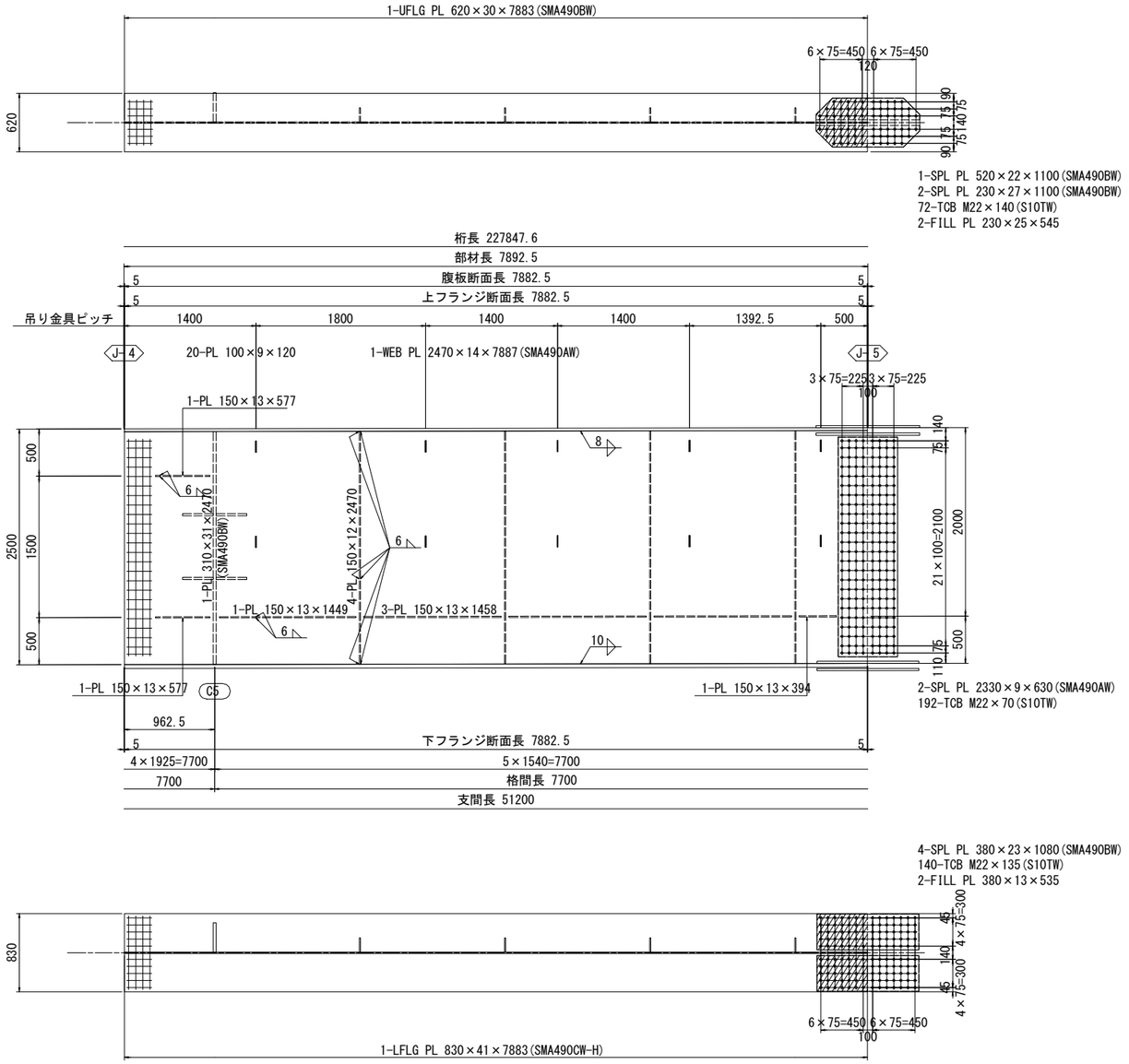


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

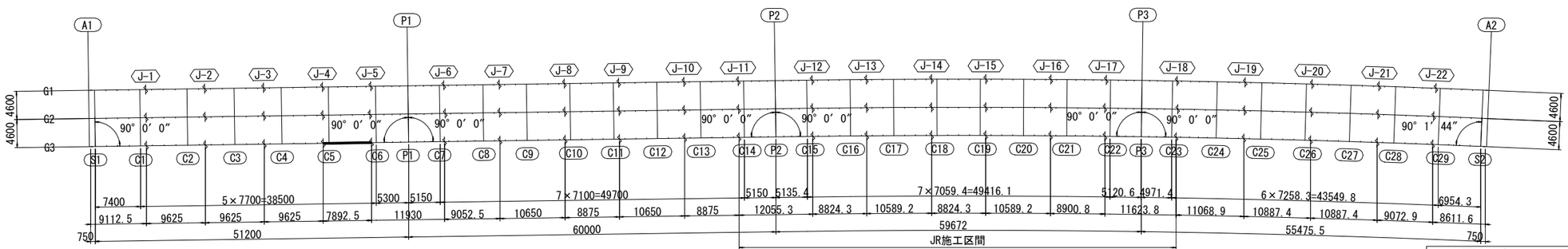
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G3(4)
縮尺	S=1:30
図面番号	178 の 64
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋主桁G3(5)　S=1:30



配　置　図

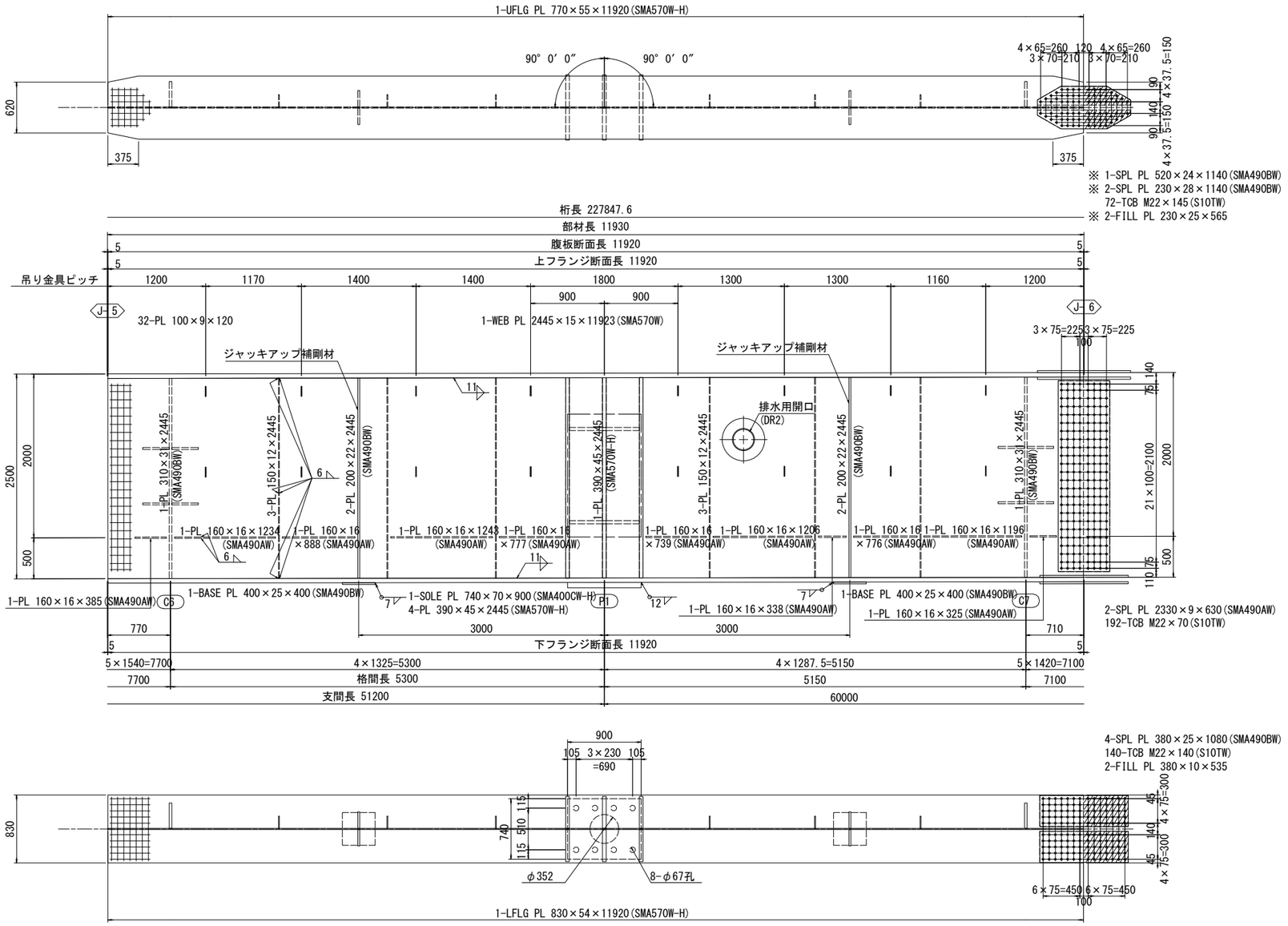


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

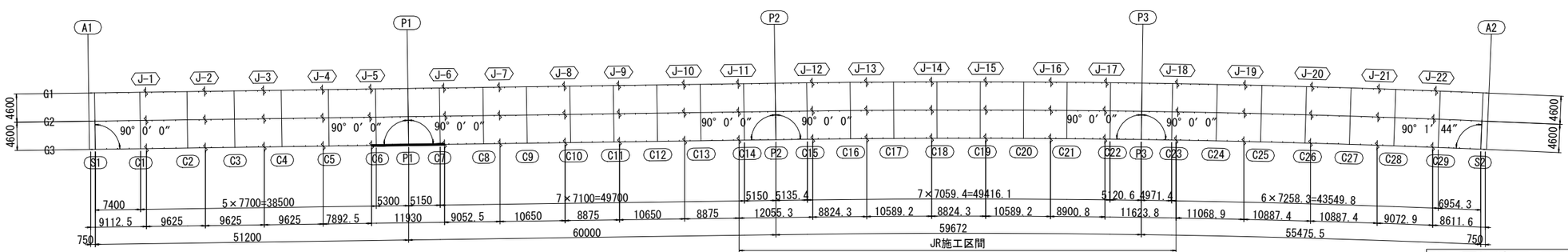
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(5)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 65
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(6)　S=1:30



配　置　図

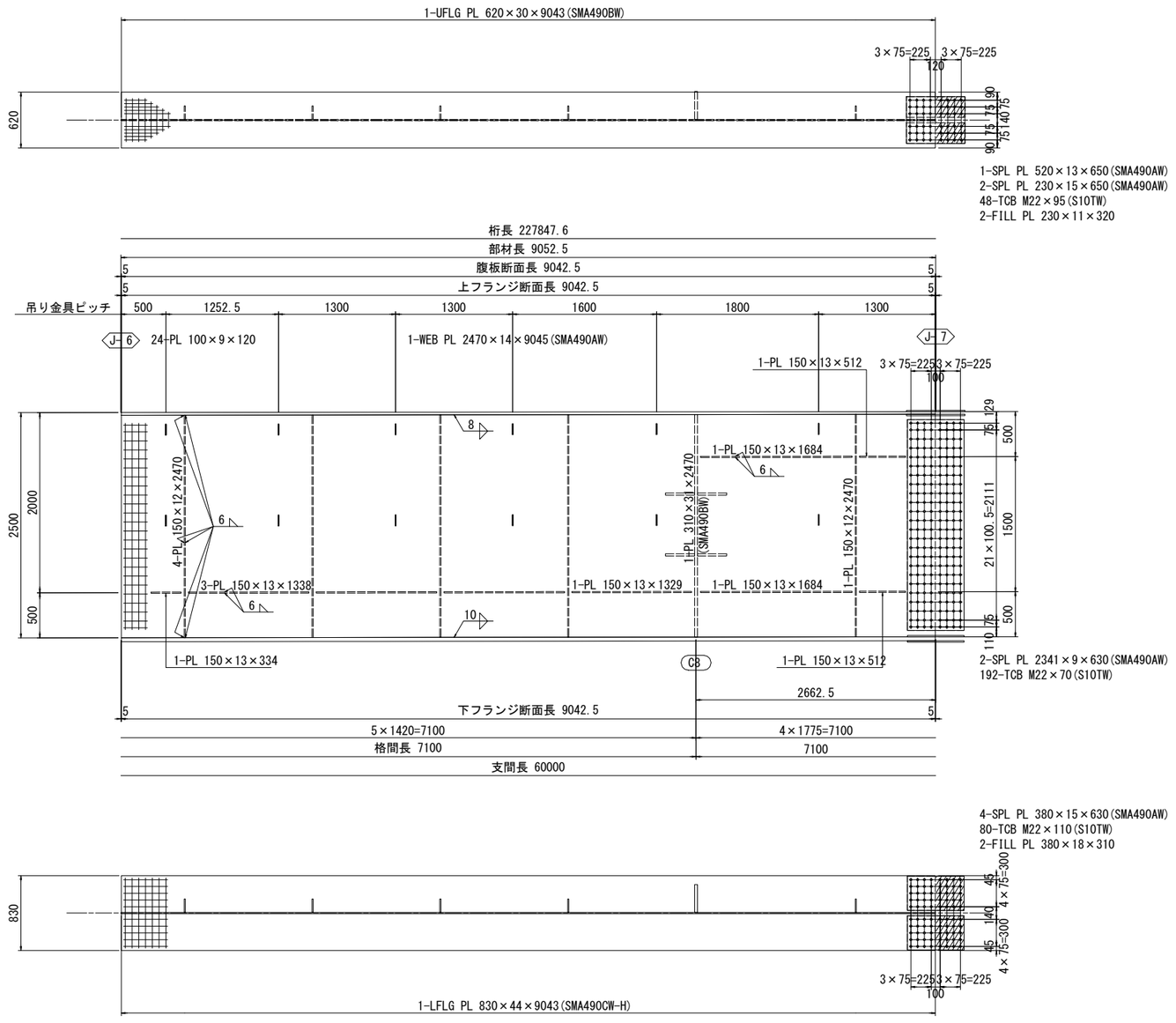


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

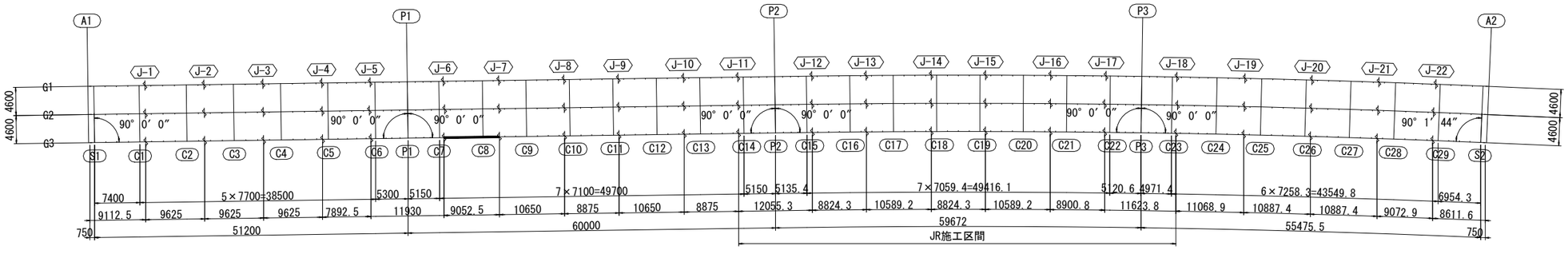
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ー印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。
6. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(6)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 66
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(7)　S=1:30



配　置　図

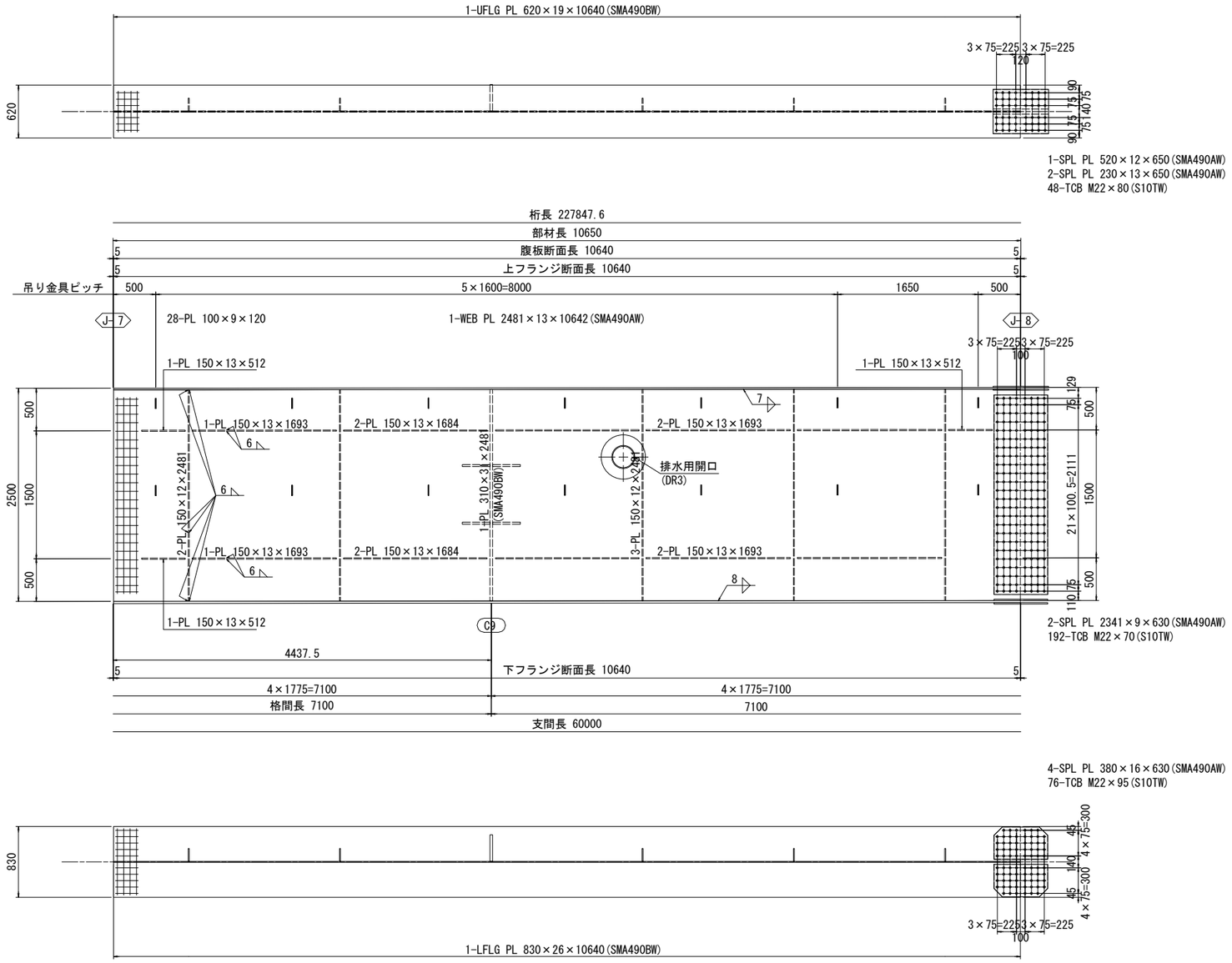


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

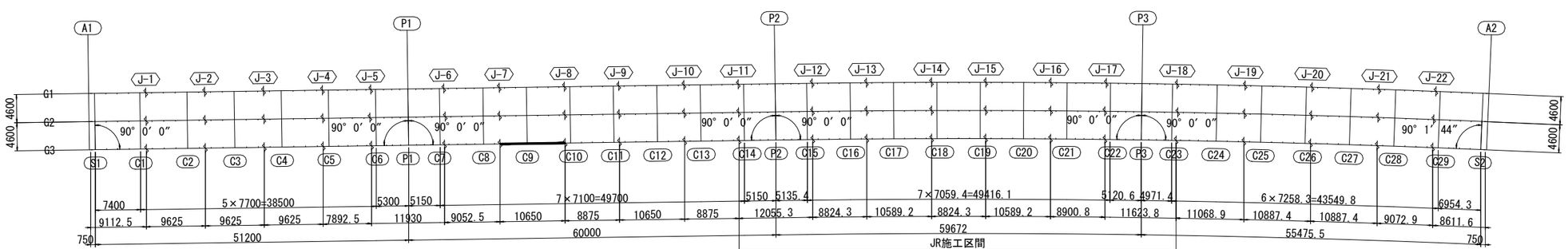
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(7)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 67
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(8)　S=1:30



配　置　図

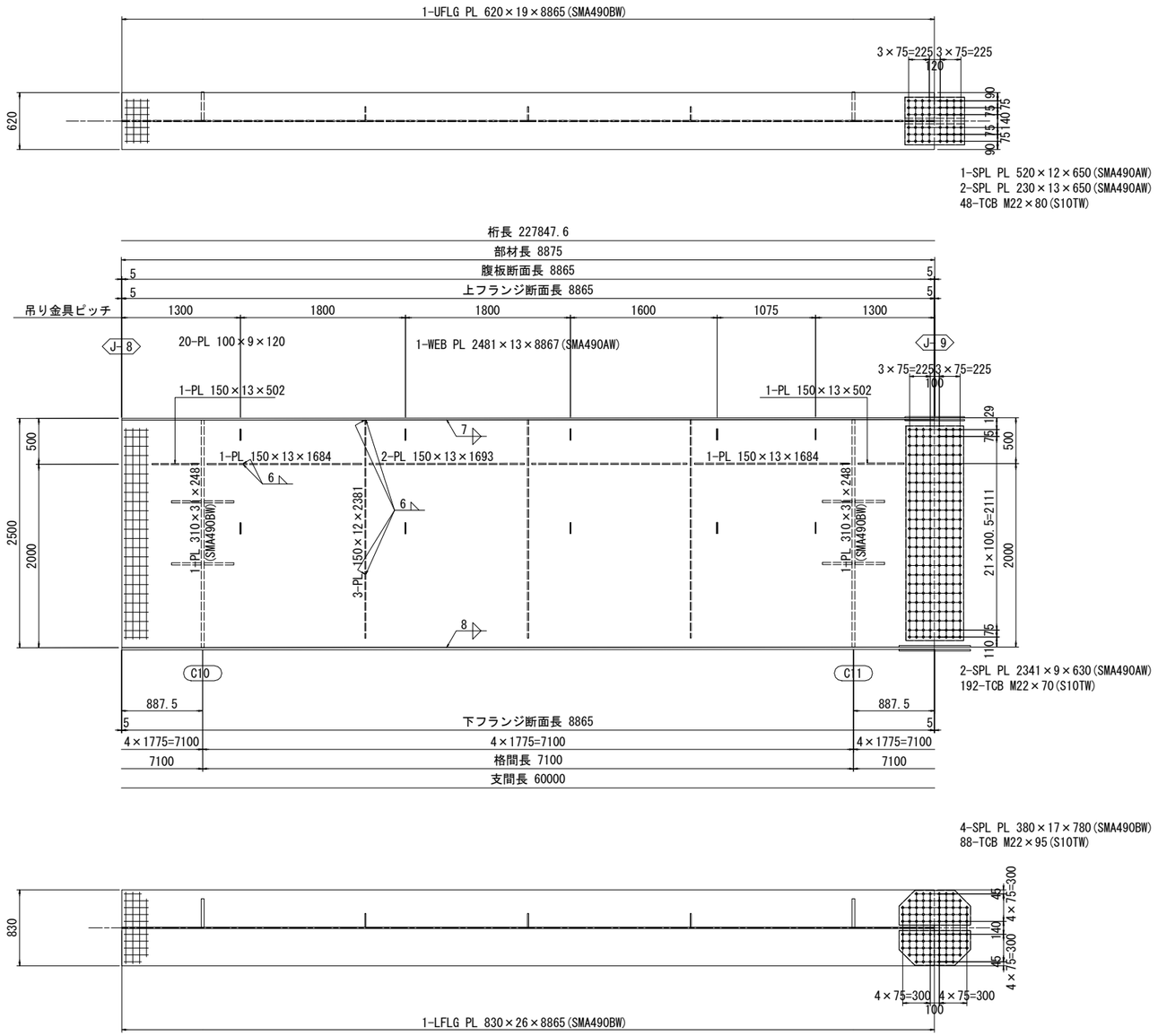


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

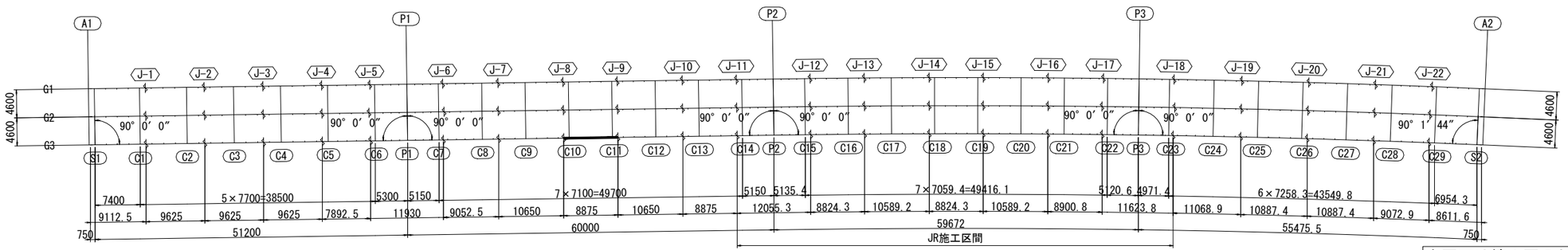
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G3(8)
縮尺	S=1:30　図面番号　178 の 68
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋主桁G3(9)　S=1:30



配　置　図

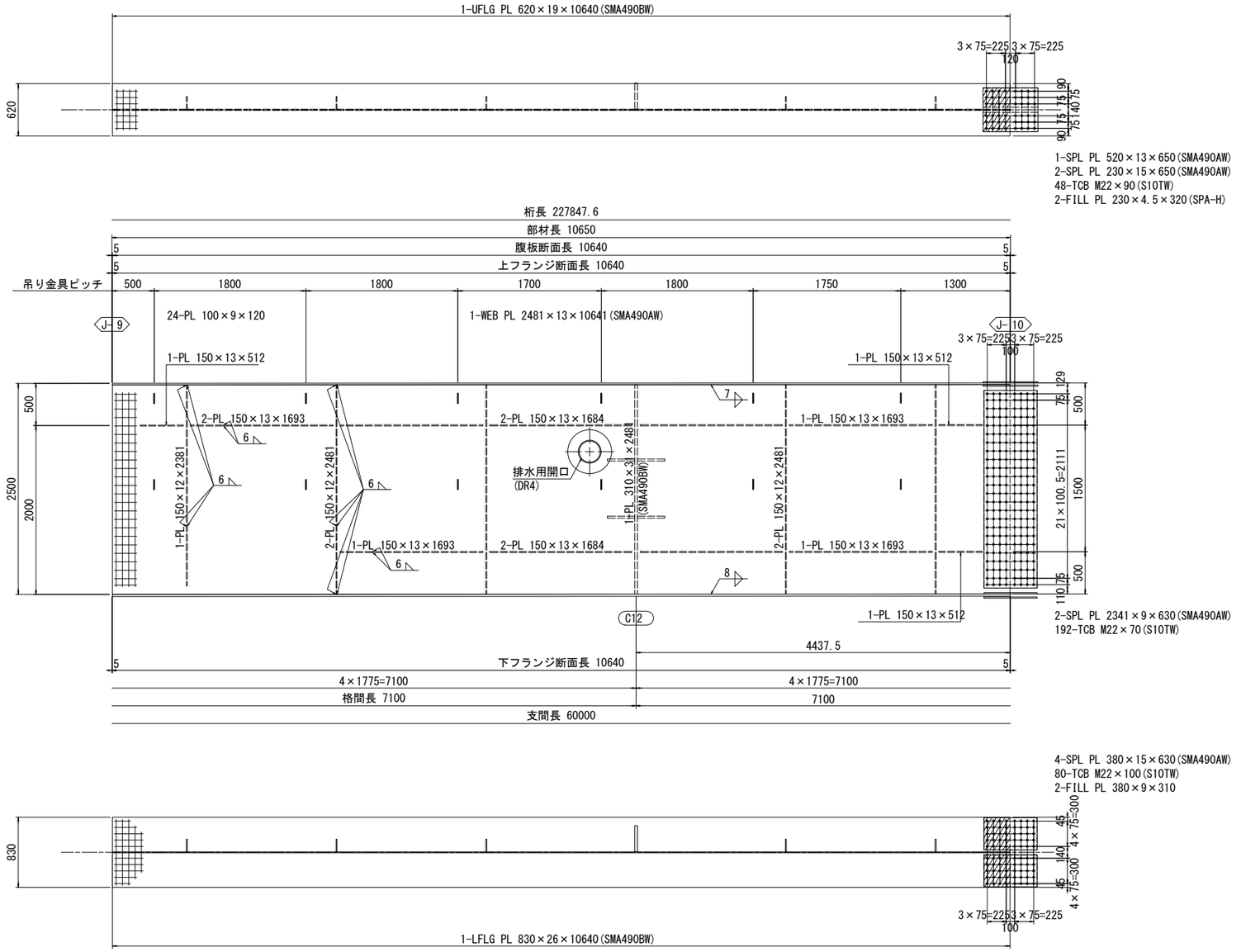


注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

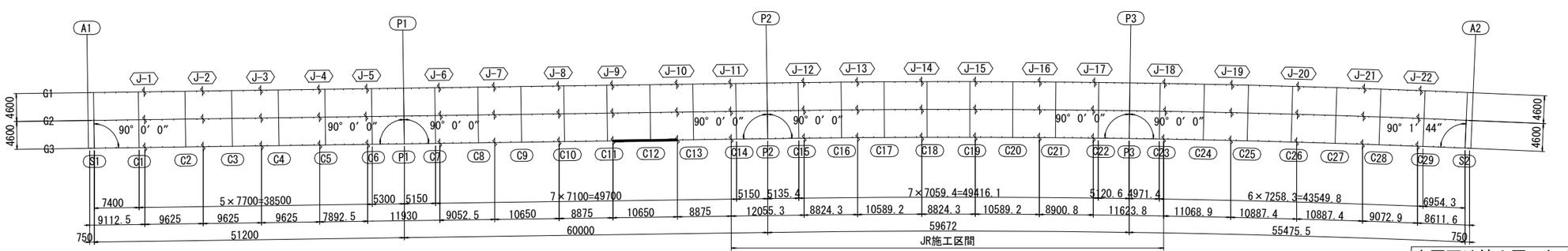
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(9)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 69
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(10)　S=1:30



配　置　図



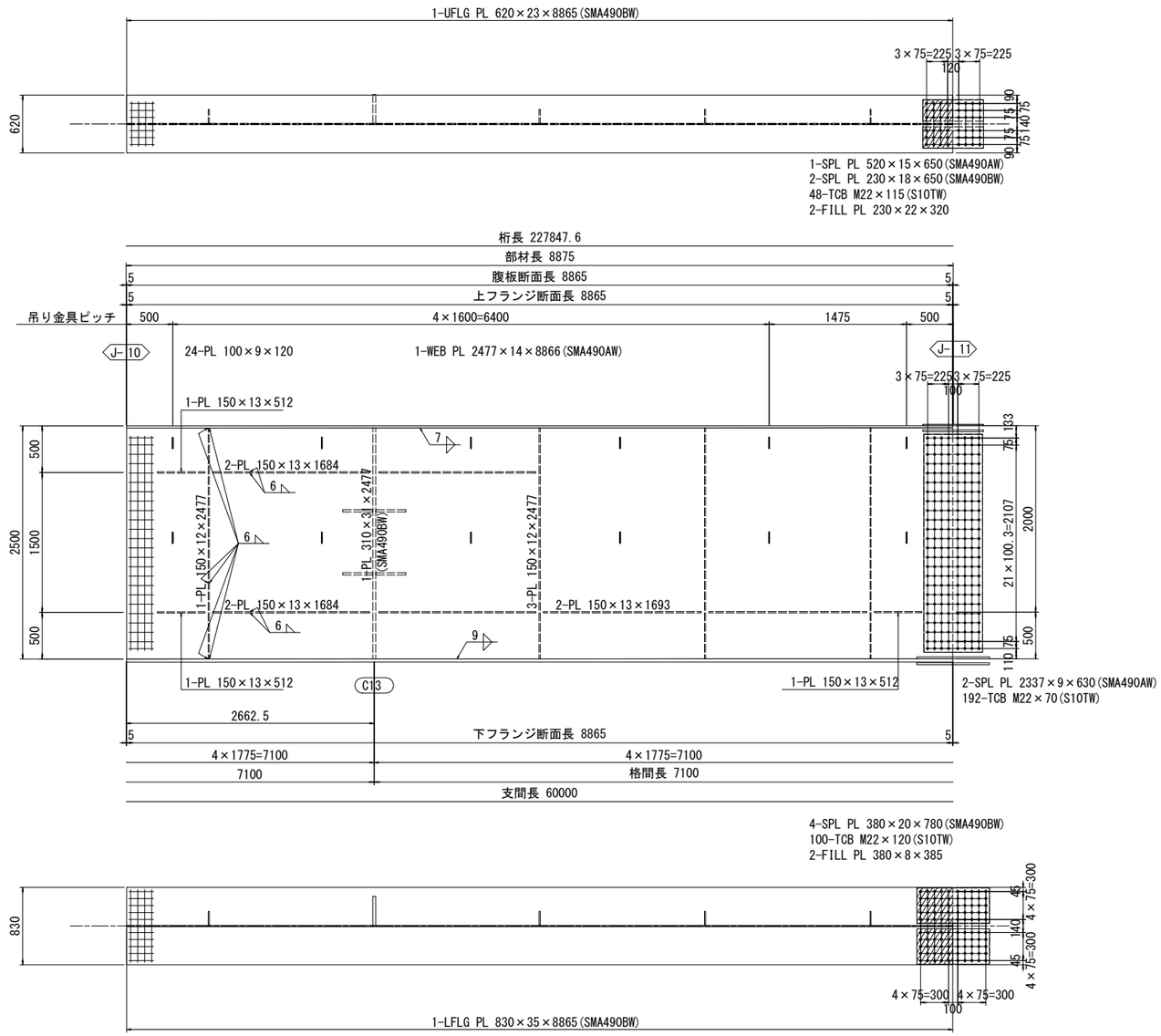
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記

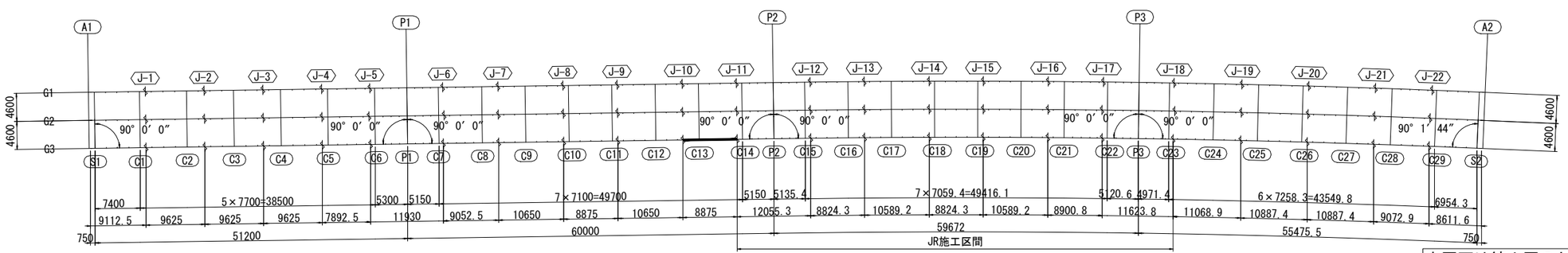
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G3(10)
縮尺	S=1:30　図面番号　178 の 70
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋主桁G3(11)　S=1:30



配　置　図

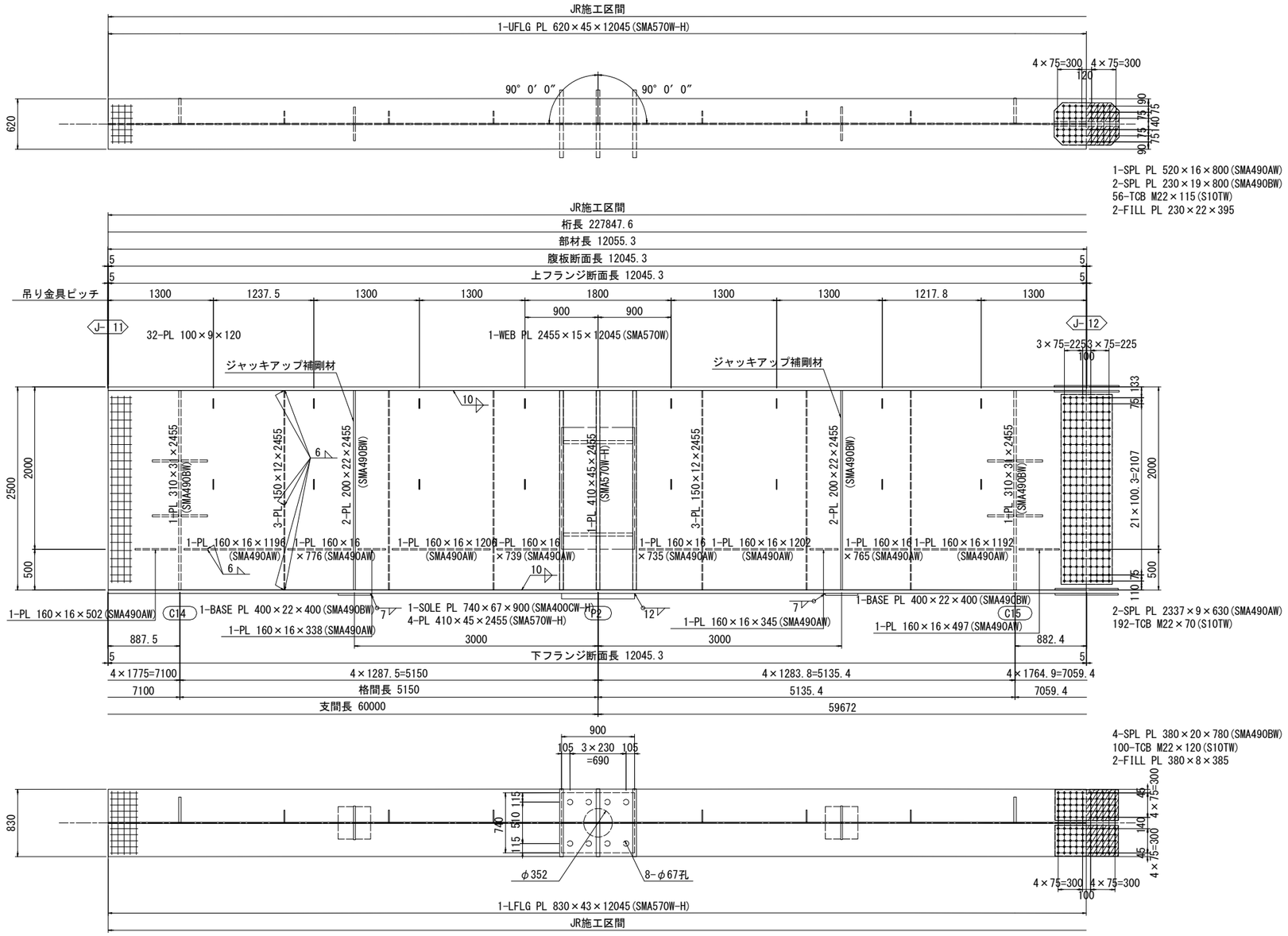


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

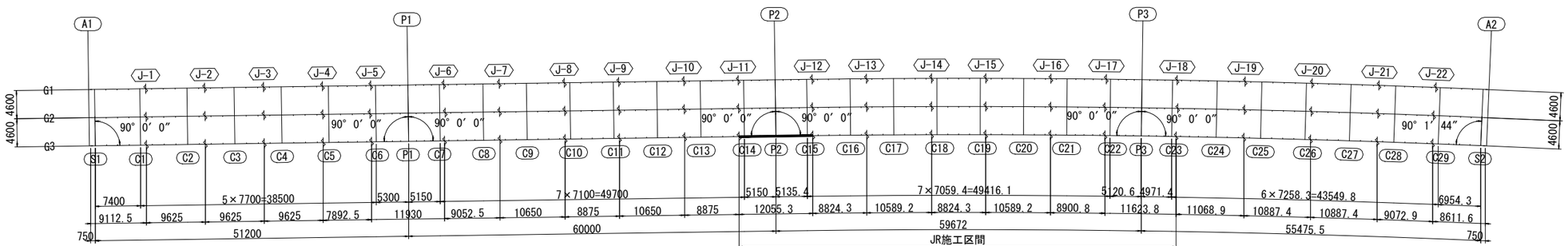
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(11)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 71
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(12)　S=1:30



配　置　図



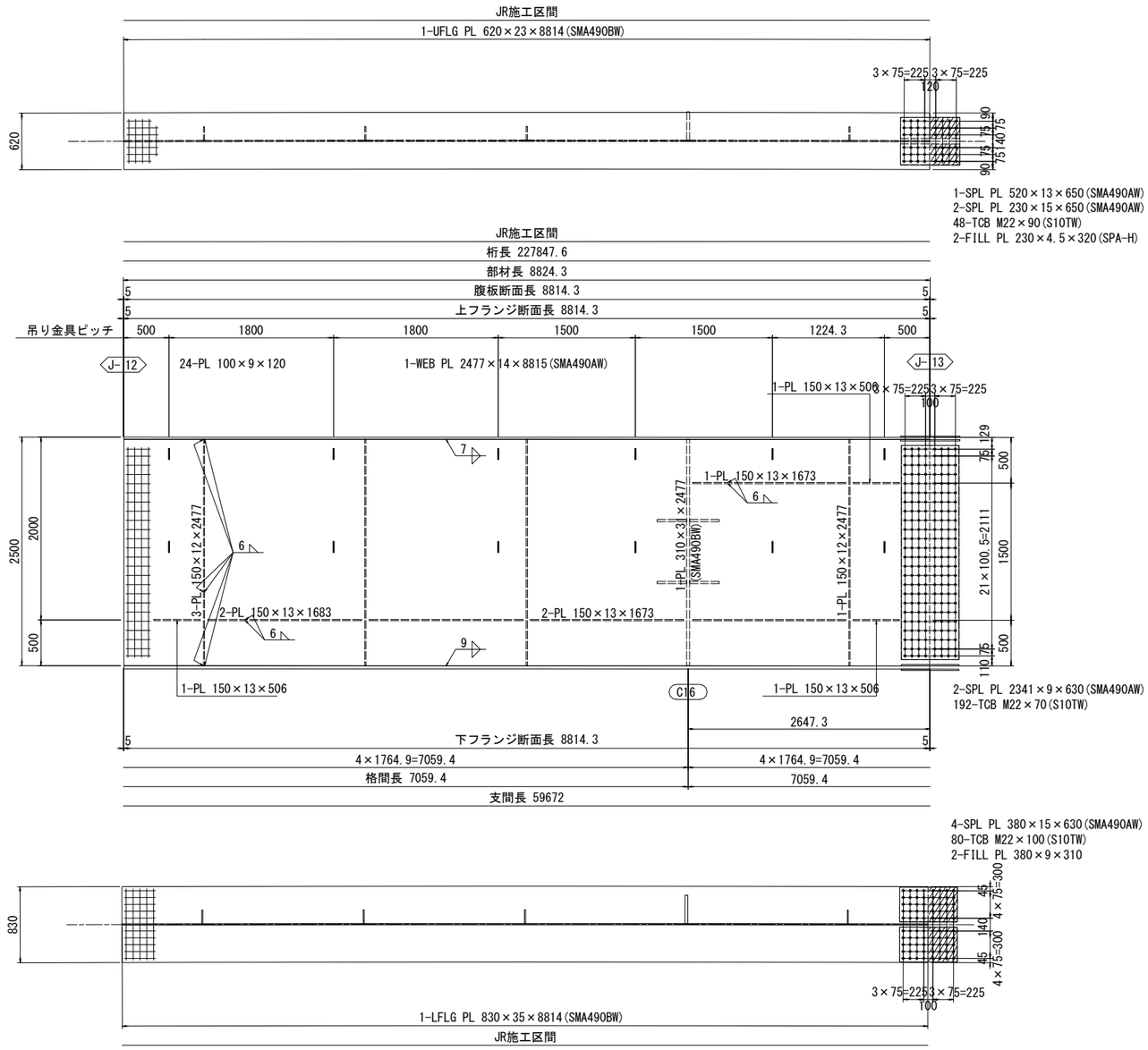
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

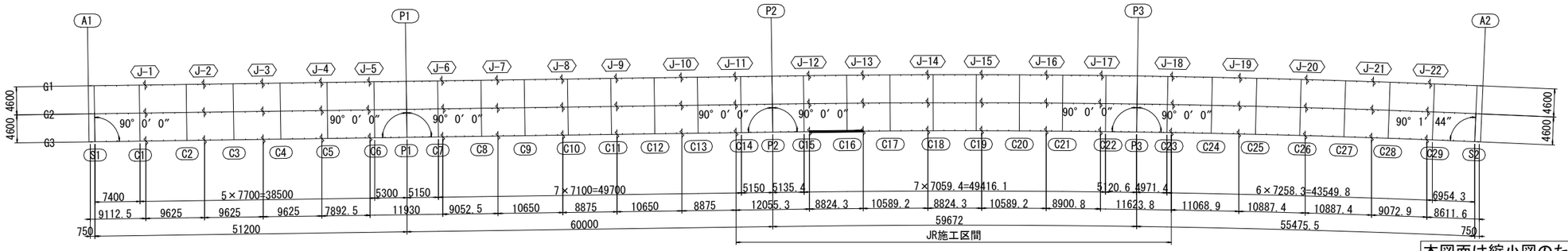
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(12)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 72
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(13)　S=1:30



配　置　図



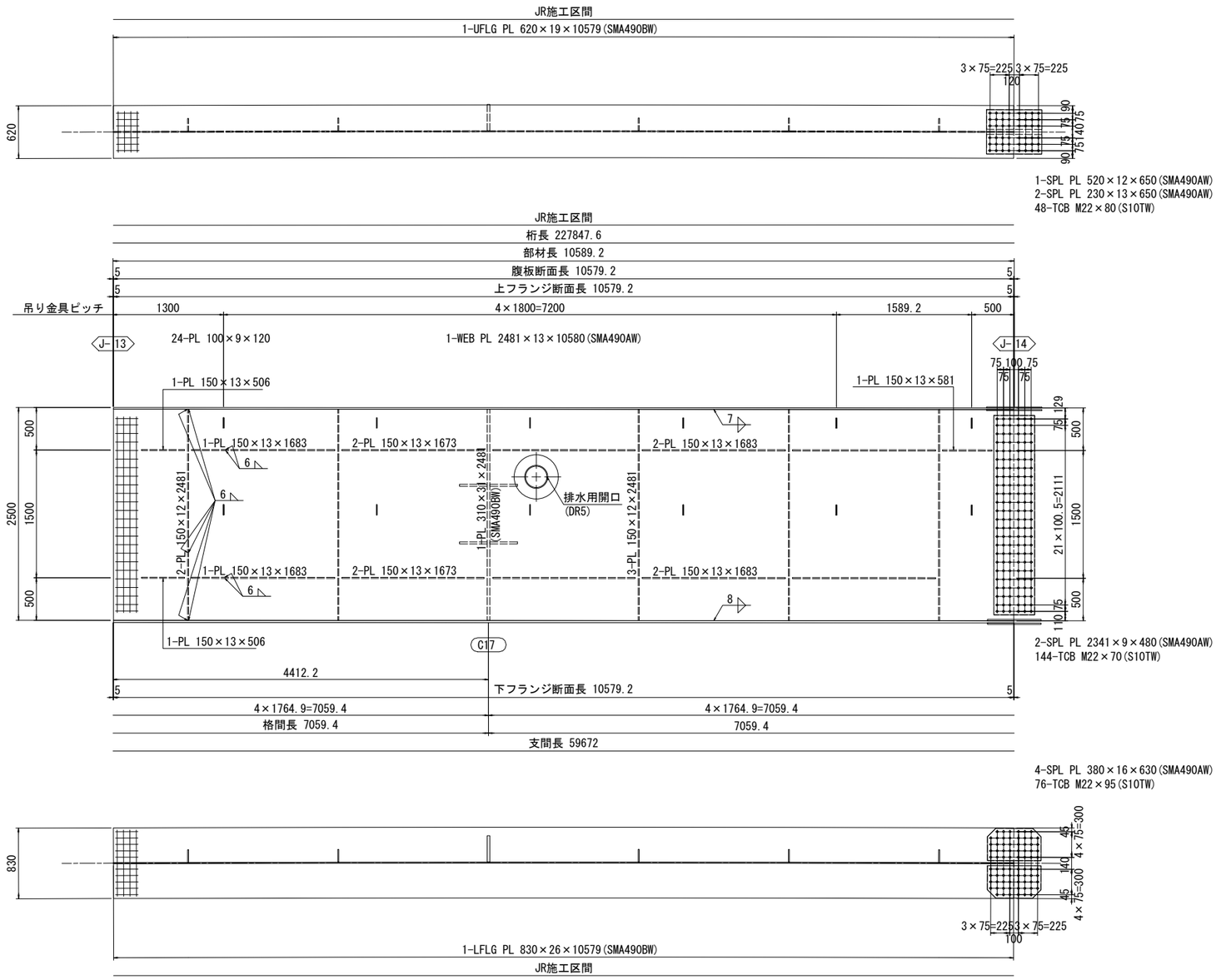
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

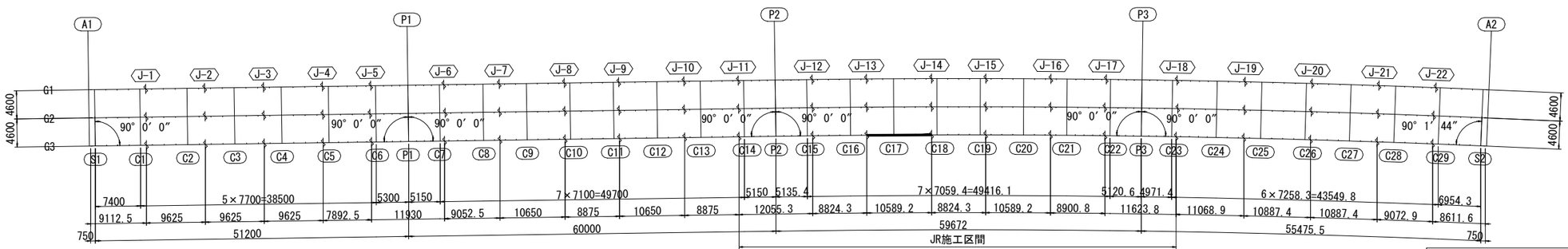
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(13)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 73
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(14)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

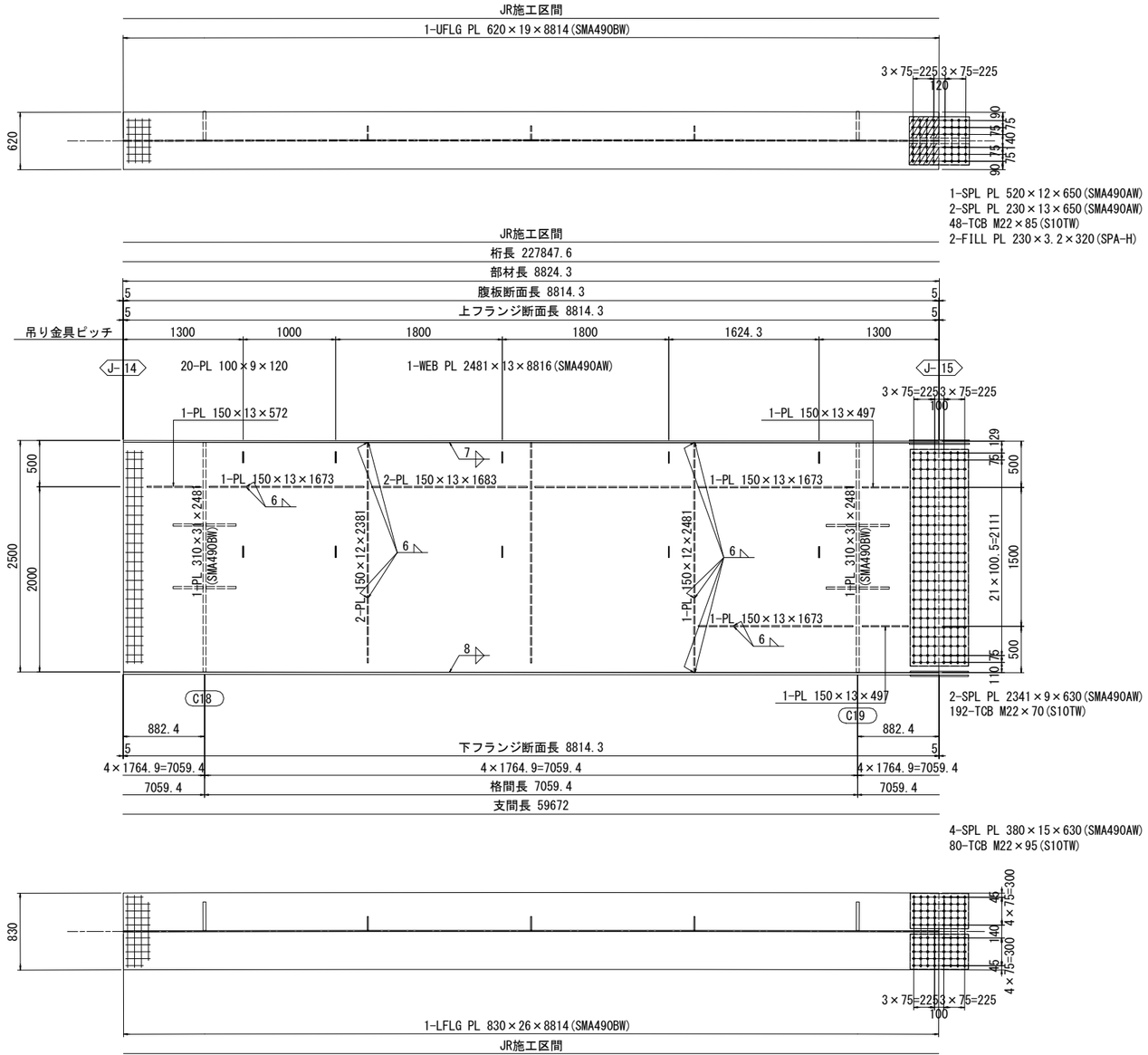
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

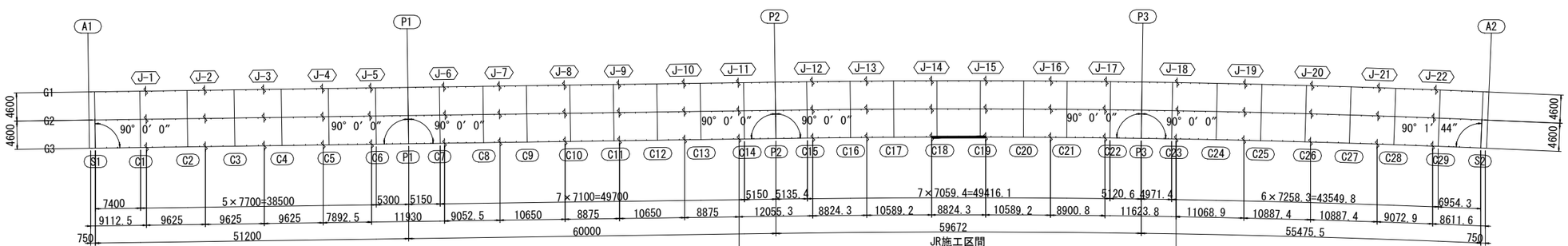
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(14)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 74
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(15)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

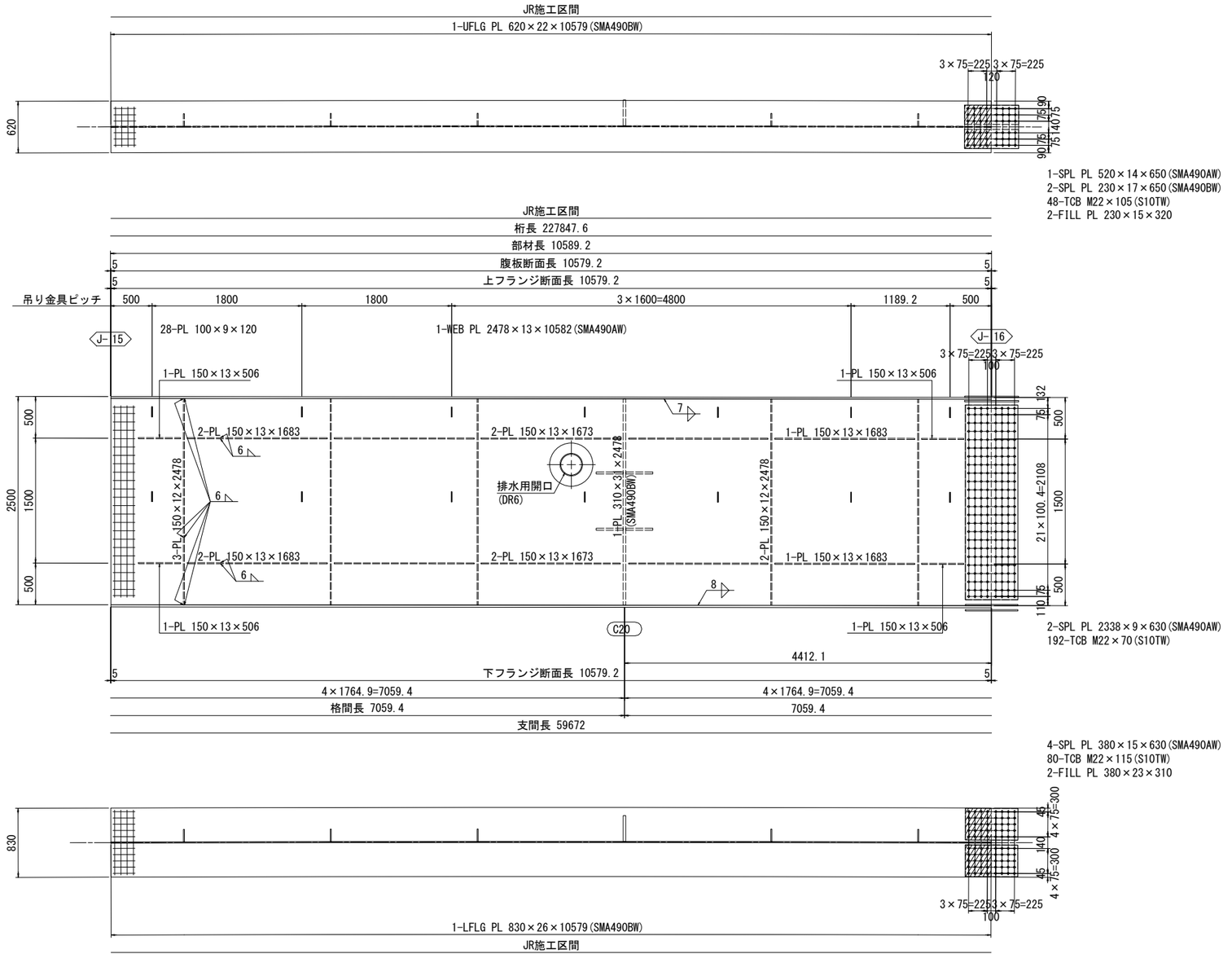
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

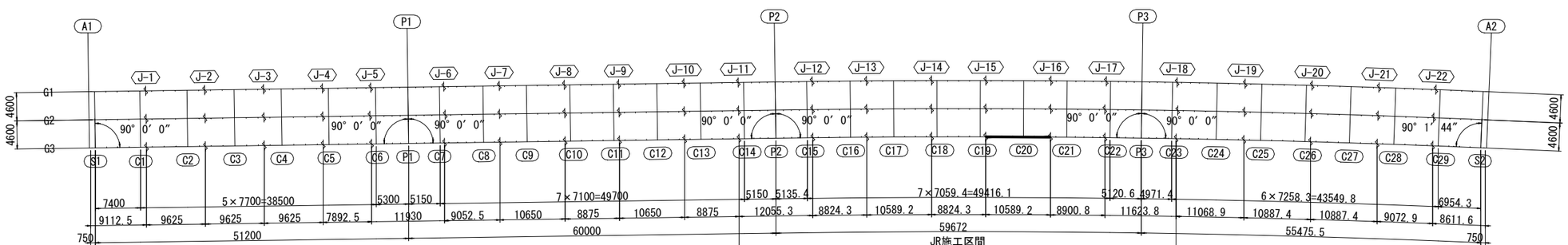
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(15)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 75
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(16)　S=1:30



配　置　図



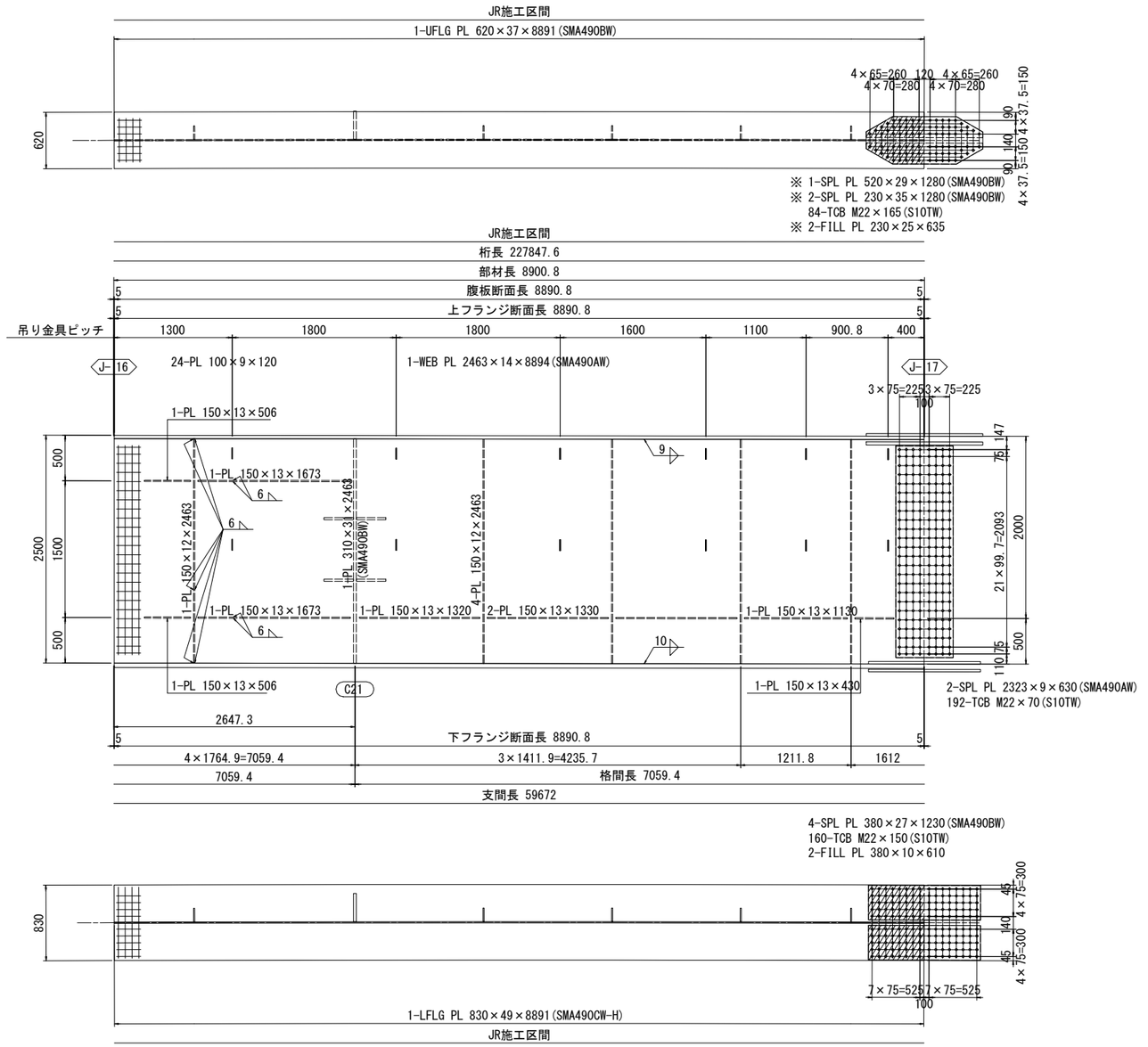
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

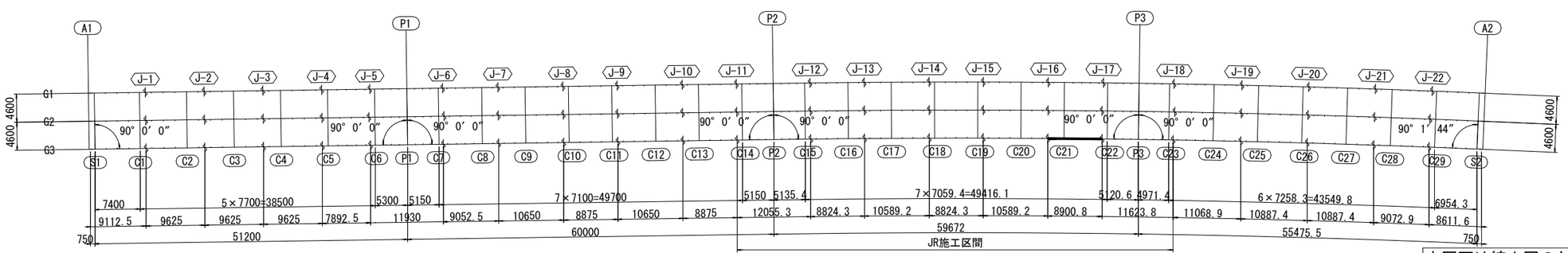
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(16)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 76
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(17)　S=1:30



配　置　図



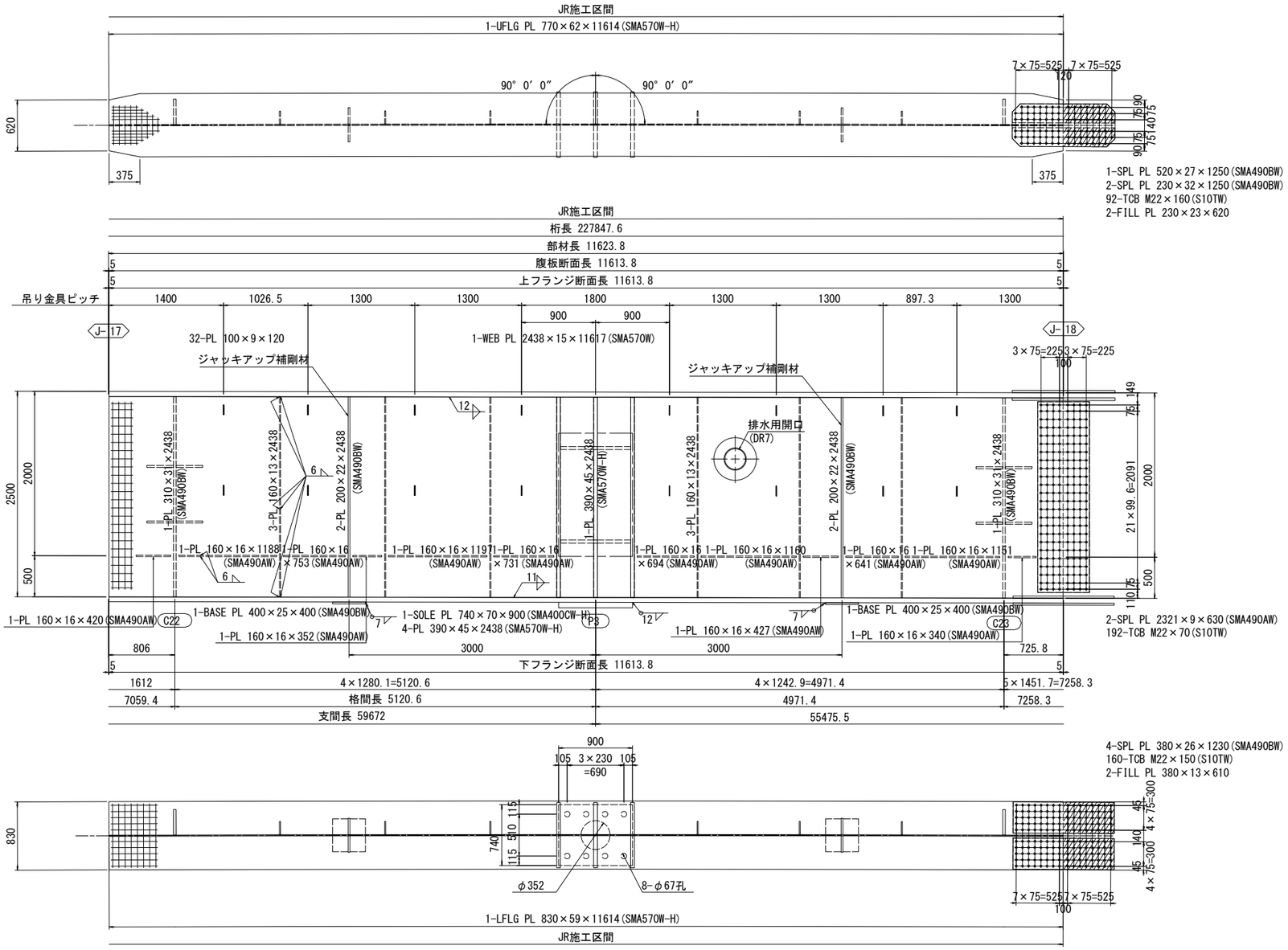
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

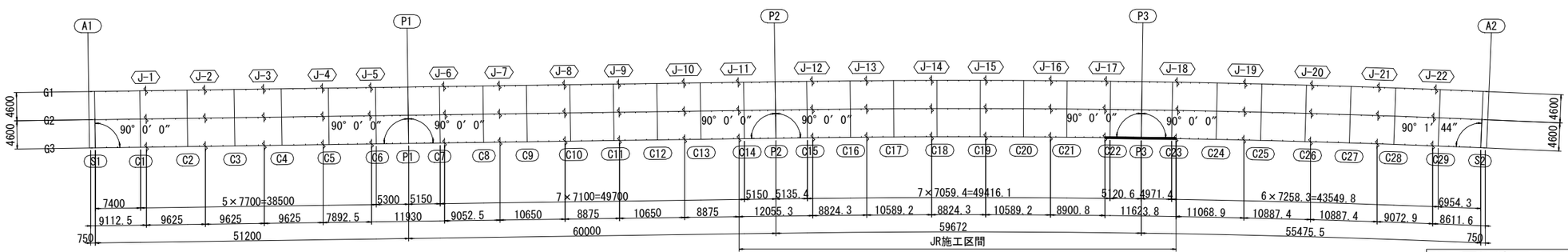
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(17)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 77
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(18)　S=1:30



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

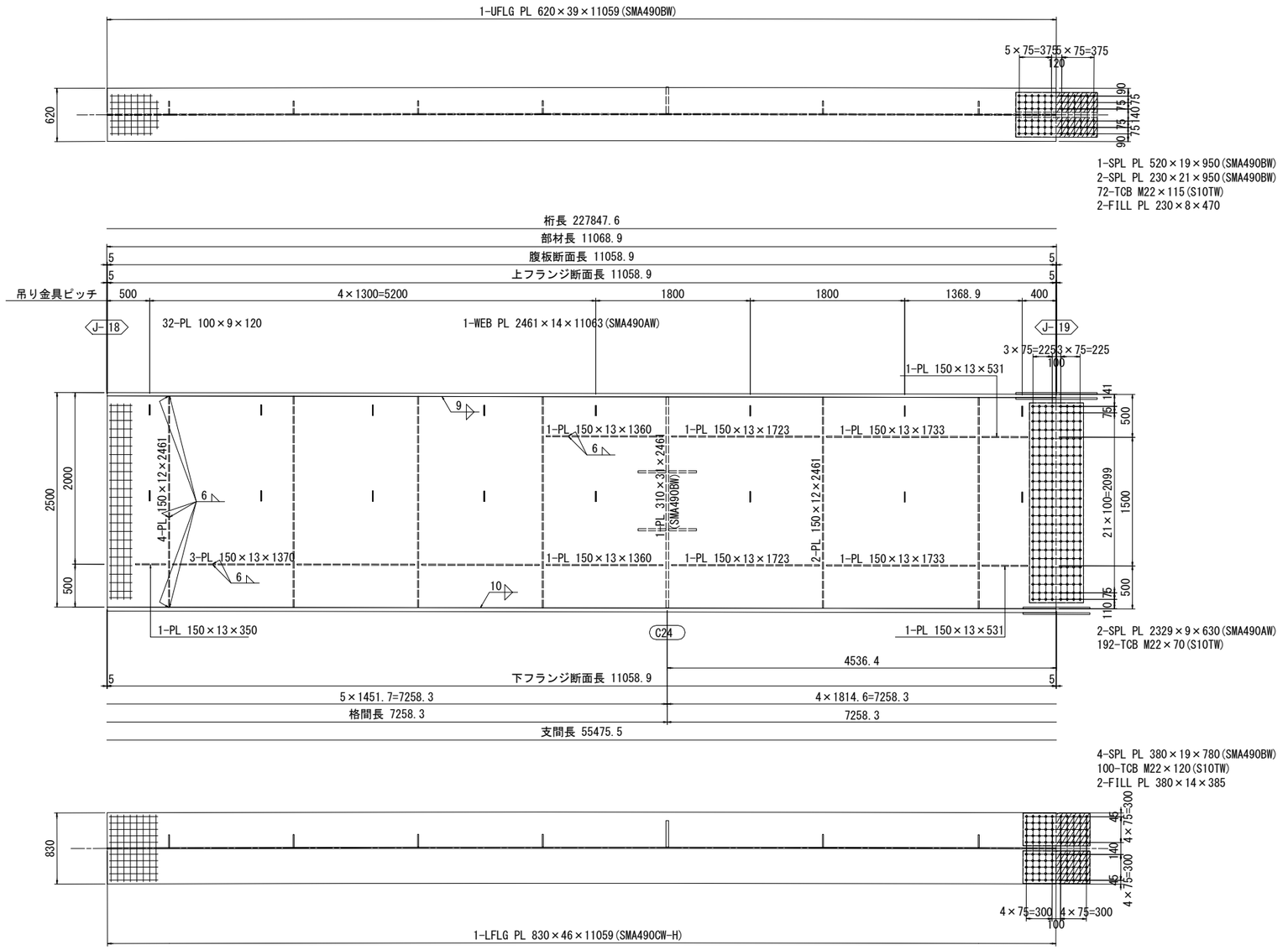
注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(その19)」を参照のこと。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

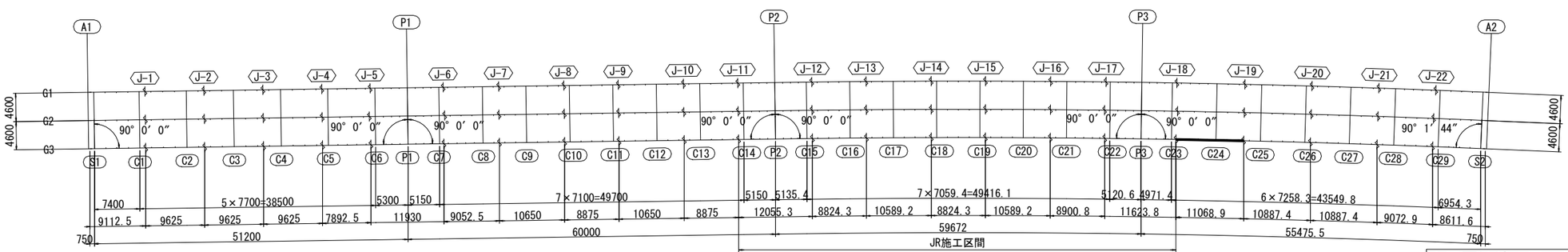
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(18)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 78
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(19)　S=1:30



配　置　図

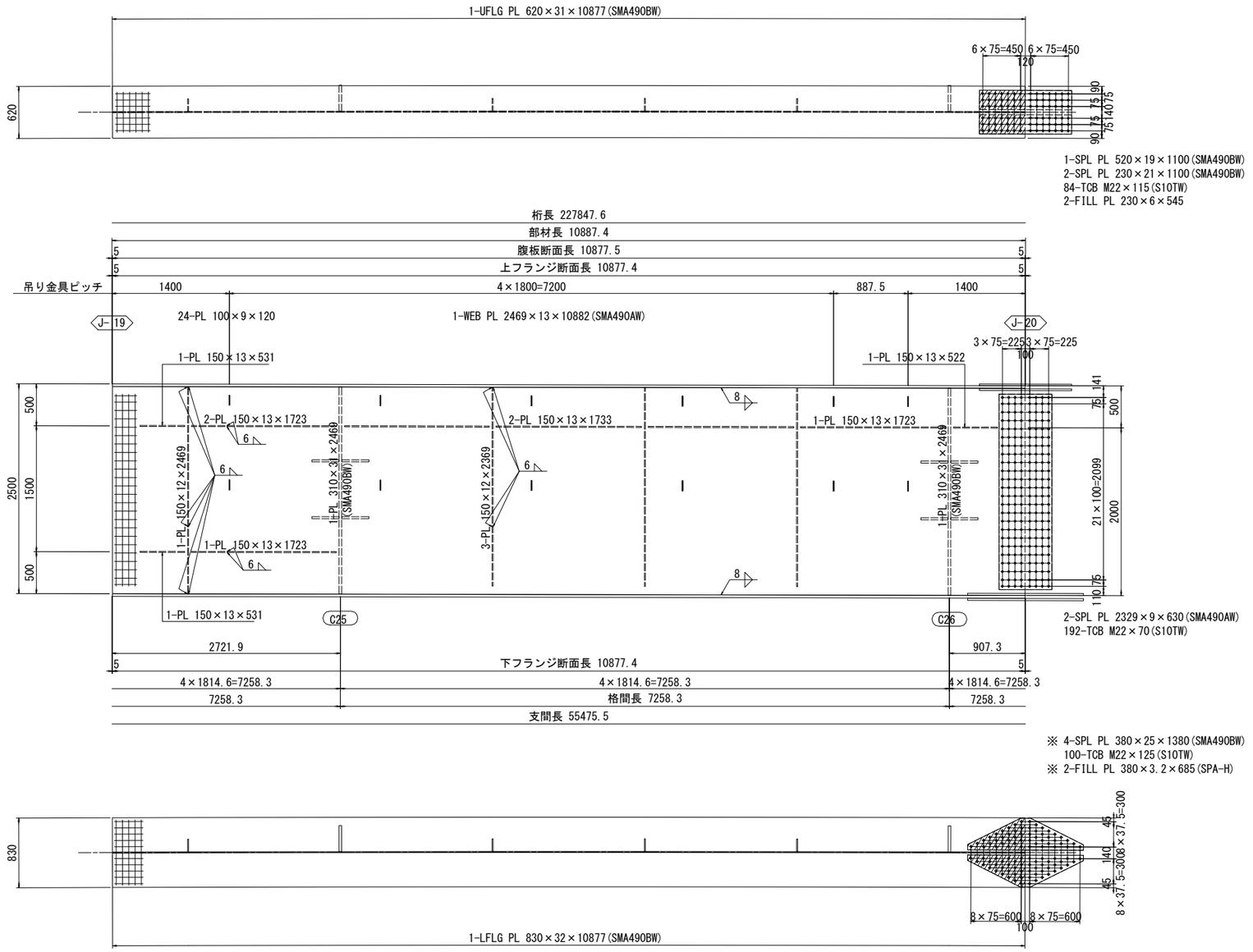


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

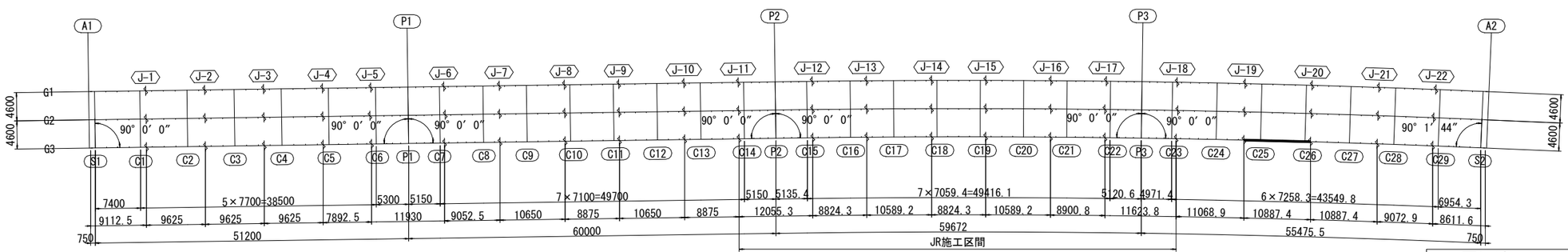
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(19)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 79
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(20)　S=1:30



配　置　図

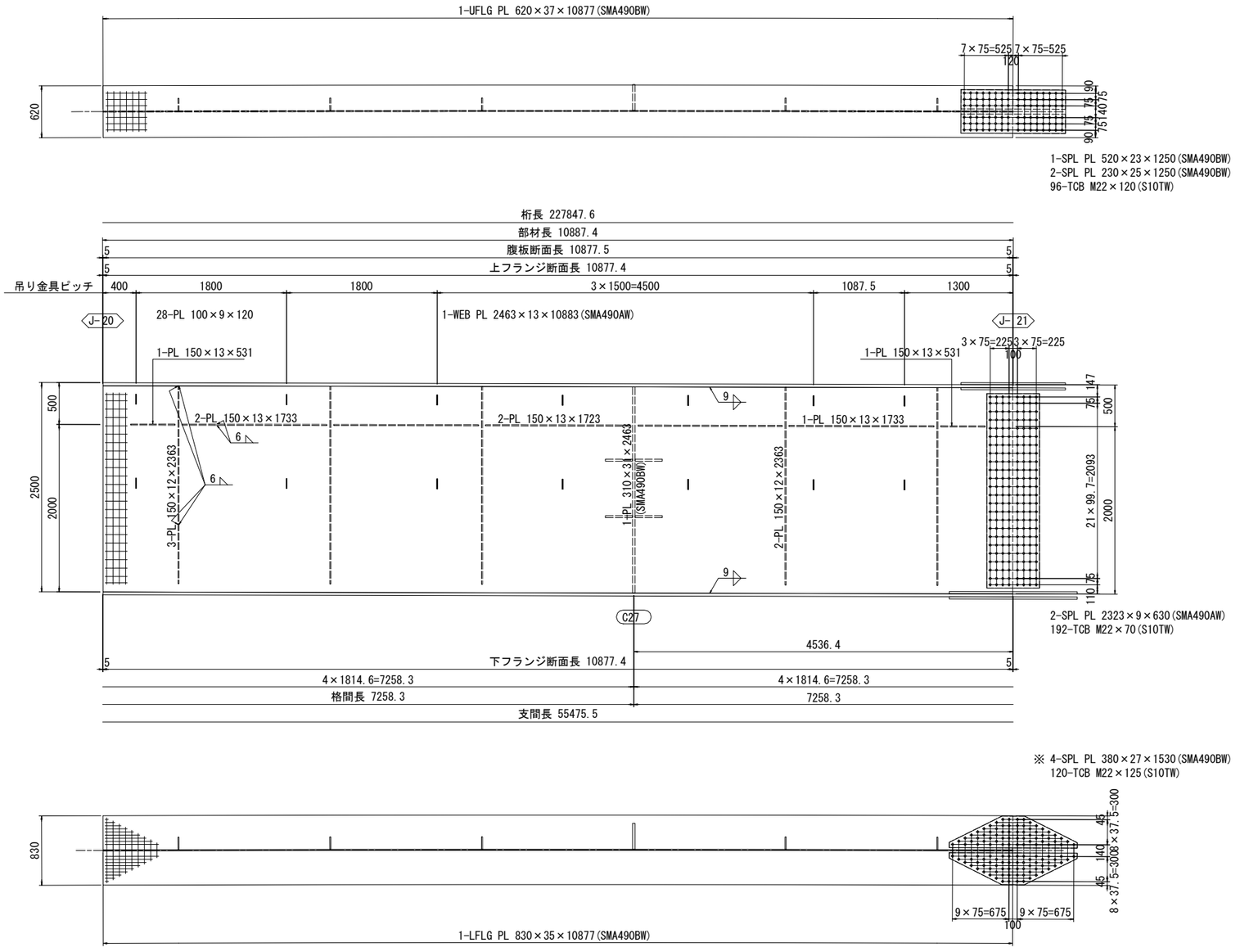


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

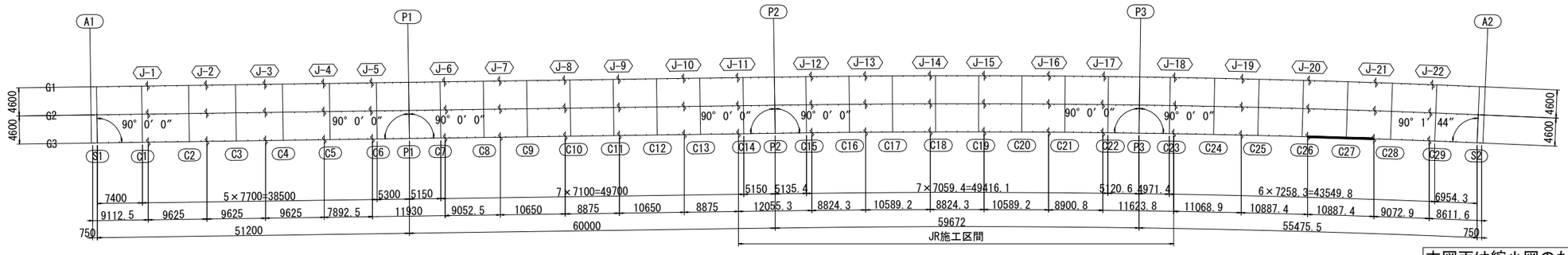
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(20)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 80
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(21)　S=1:30



配　置　図

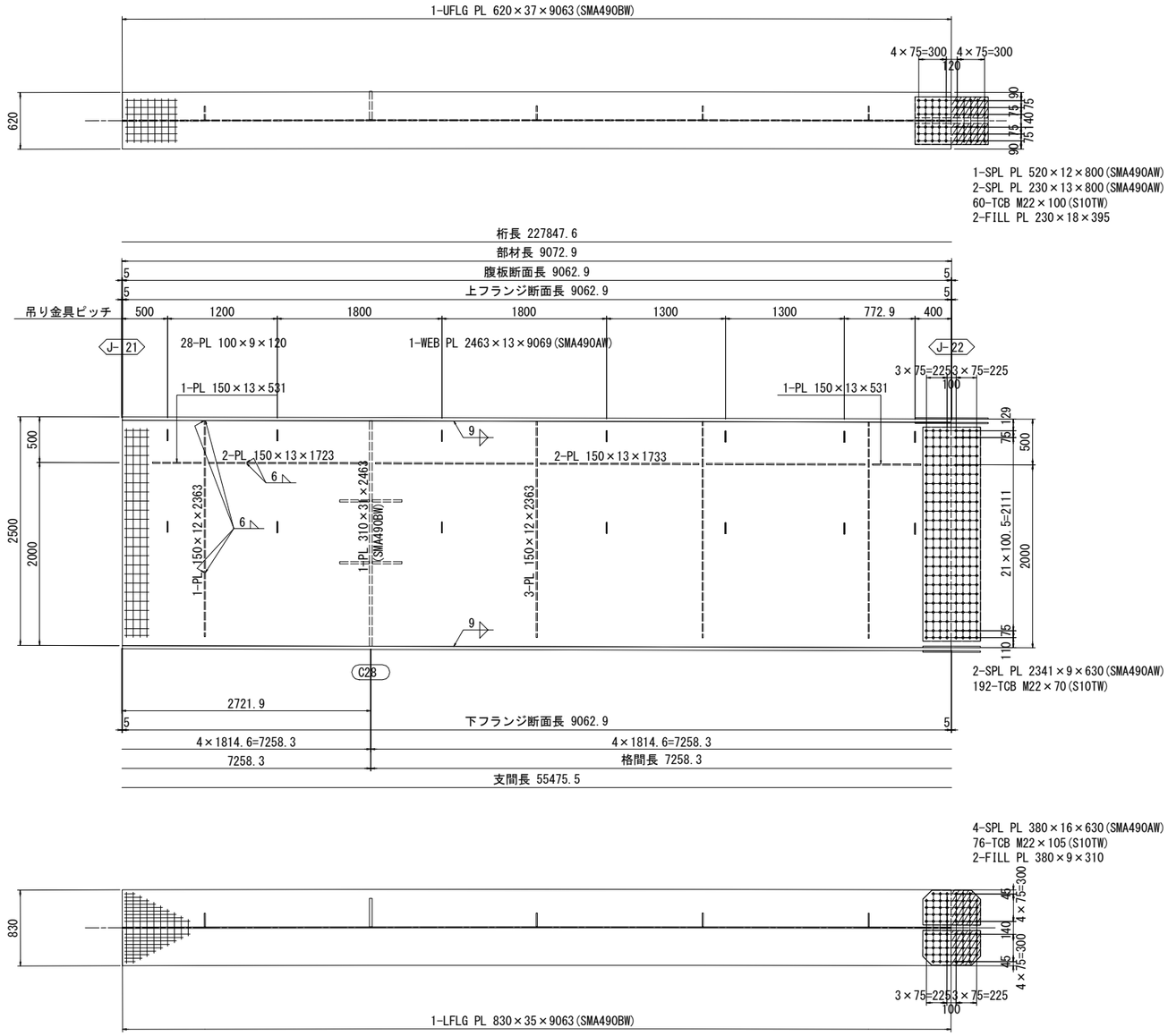


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

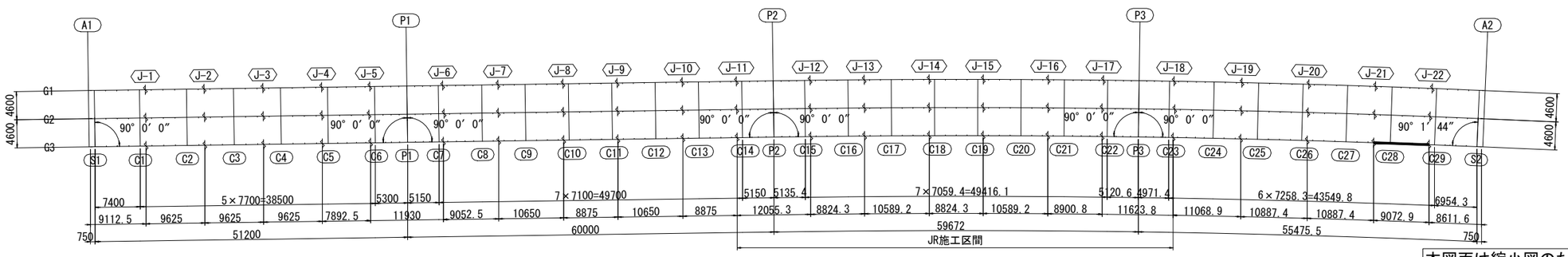
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印の部材は、接触面に無機ジンクリッチペイントを塗布する。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(21)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 81
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(22)　S=1:30



配　置　図

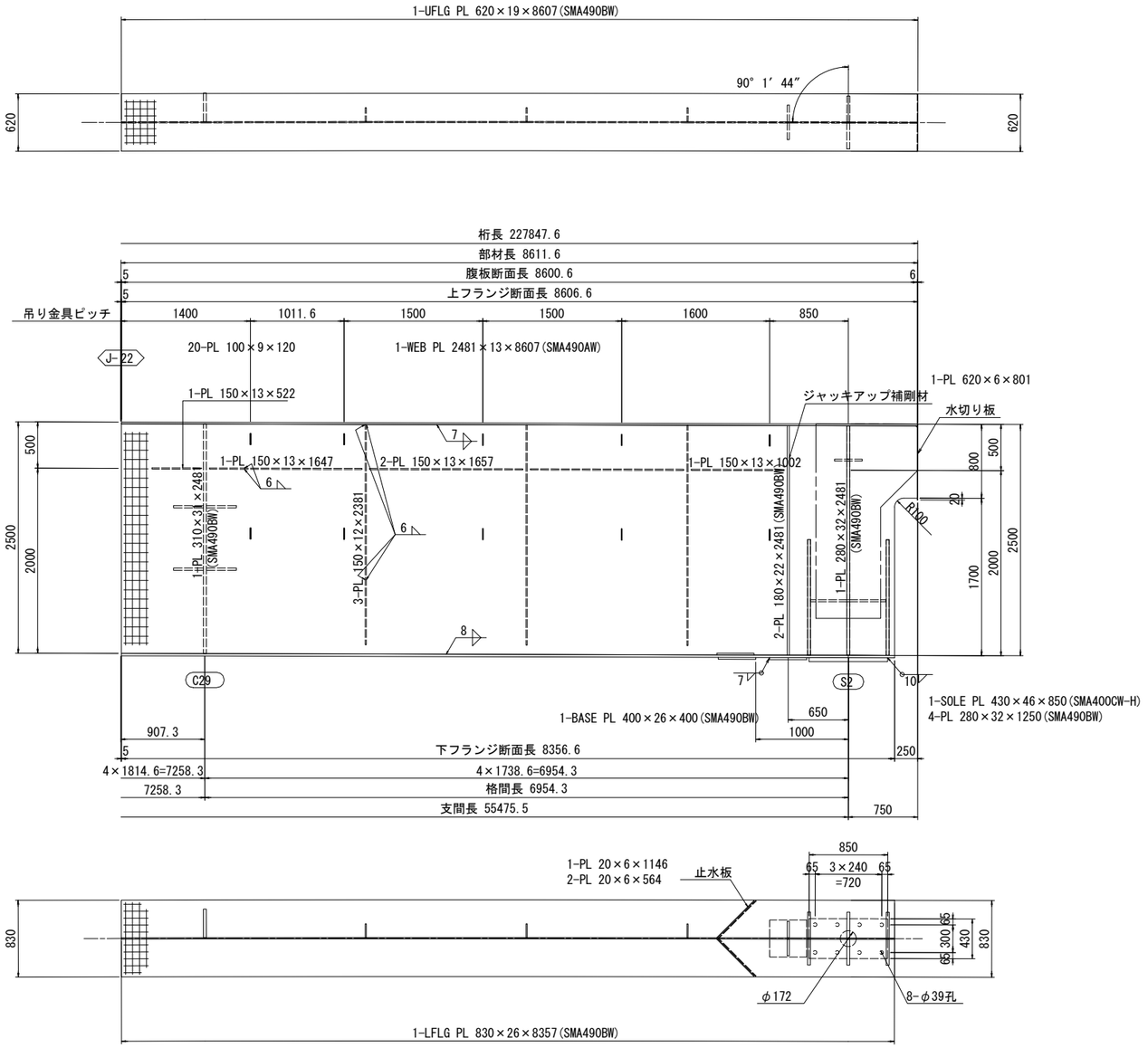


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

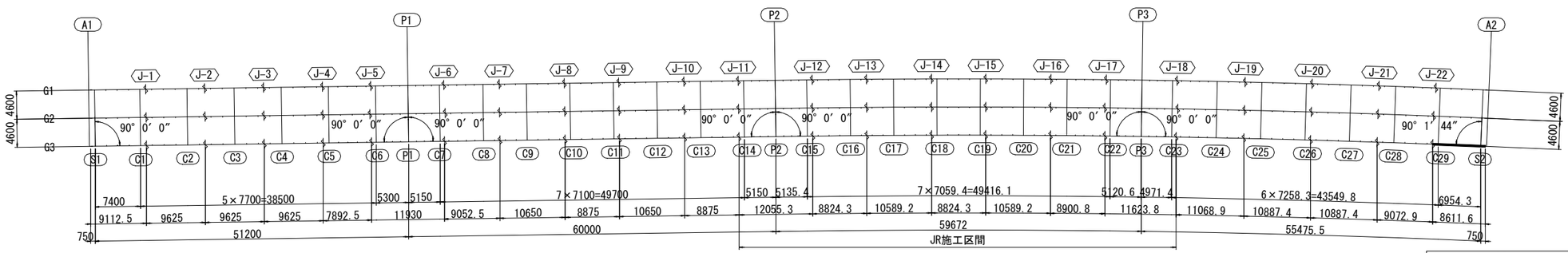
注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋主桁G3(22)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 82
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋主桁G3(23)　S=1:30



配　置　図



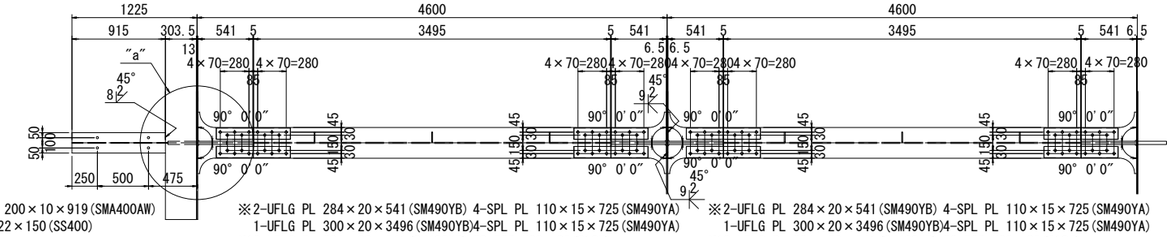
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10TW)を示す。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋主桁G3(23)
縮尺	S=1:30　図面番号　178 の 83
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋端横桁(1)　S=1:30

S1

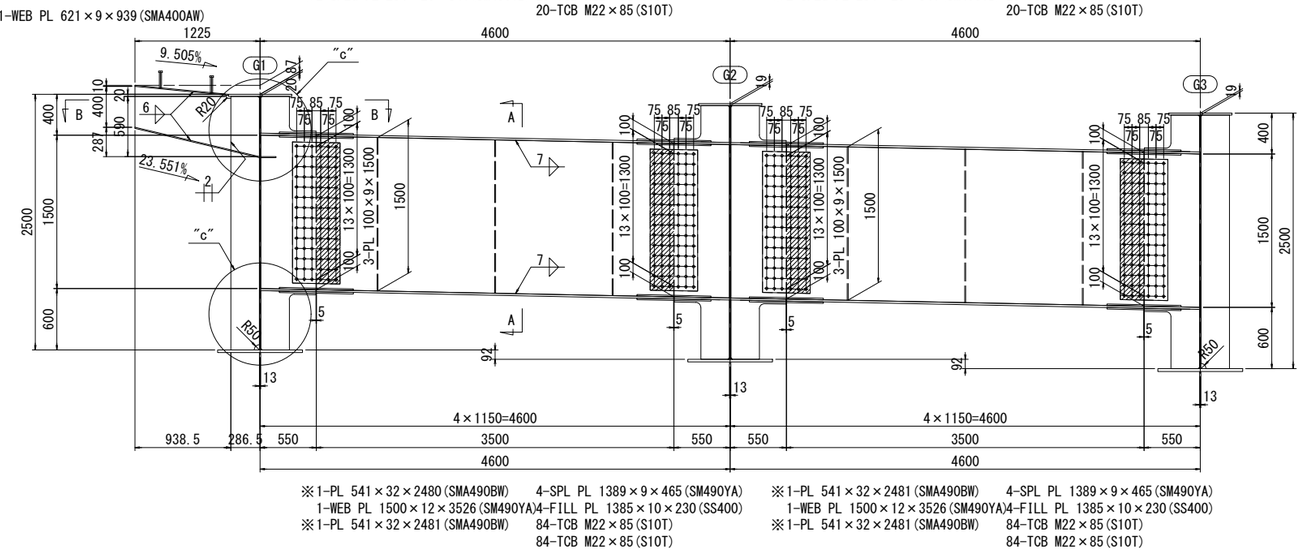


※1-UFLG PL 200×10×919(SMA400AW)
※4-STUD φ22×150(SS400)

※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-UFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

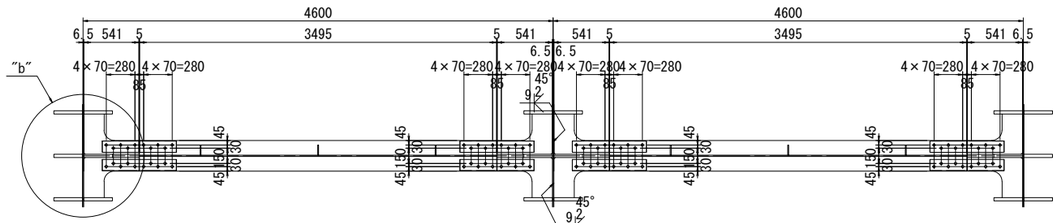
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-UFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

※1-WEB PL 621×9×939(SMA400AW)



※1-PL 541×32×2480(SMA490BW) 4-SPL PL 1389×9×465(SM490YA)
1-WEB PL 1500×12×3526(SM490YA)4-FILL PL 1385×10×230(SS400)
※1-PL 541×32×2481(SMA490BW) 84-TCB M22×85(S10T)
84-TCB M22×85(S10T)

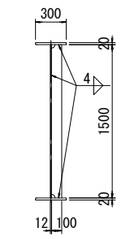
※1-PL 541×32×2481(SMA490BW) 4-SPL PL 1389×9×465(SM490YA)
1-WEB PL 1500×12×3526(SM490YA)4-FILL PL 1385×10×230(SS400)
※1-PL 541×32×2481(SMA490BW) 84-TCB M22×85(S10T)
84-TCB M22×85(S10T)



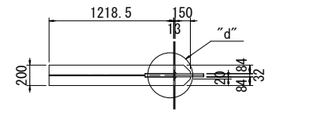
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-LFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-LFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

A－A

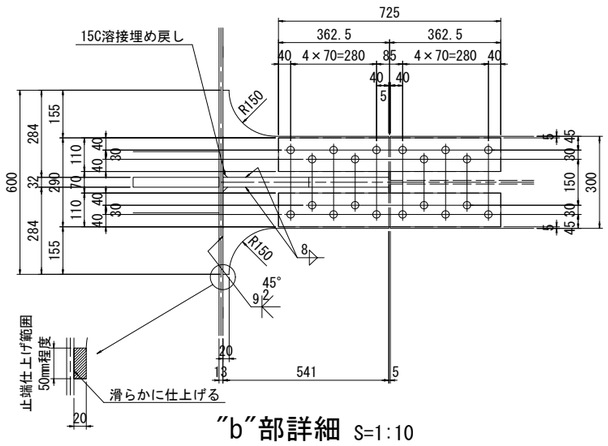


B－B

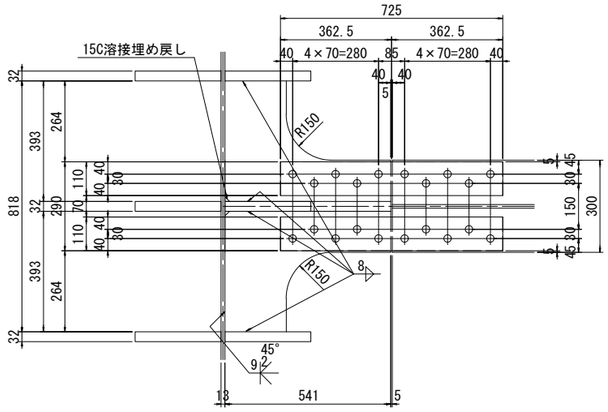


※1-LFLG PL 200×10×1252(SMA400AW)
※2-PL 84×10×150

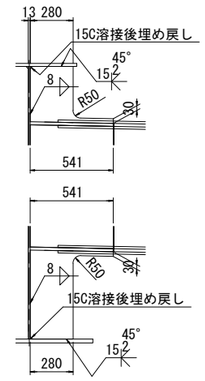
"a"部詳細　S=1:10



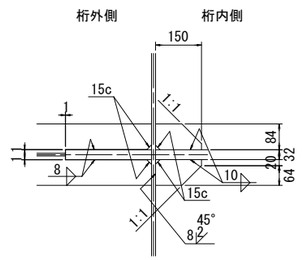
"b"部詳細　S=1:10



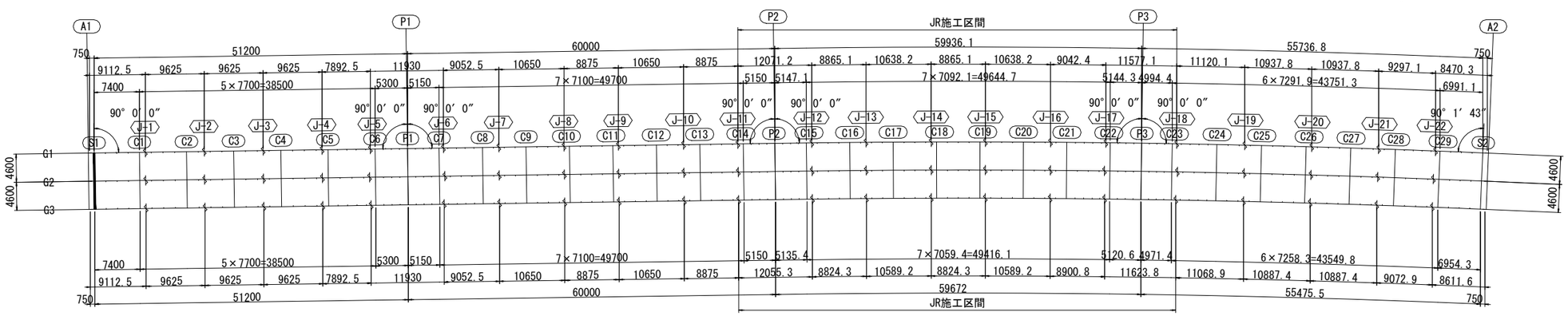
"c"部詳細図　S=1:20



"d"部詳細　S=1:10



配　置　図



注記

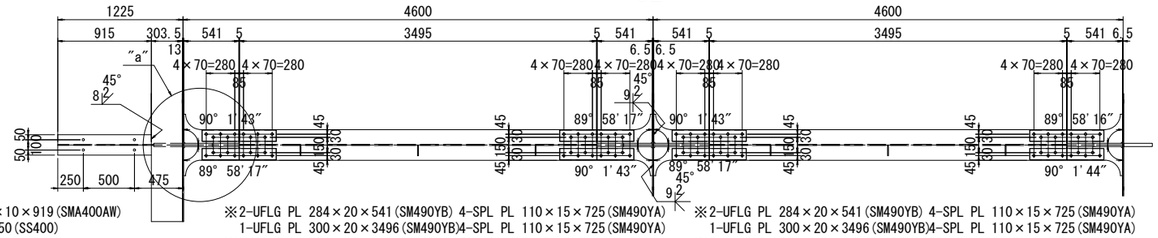
1. 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋端横桁(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 84
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋端横桁(2)　S=1:30

S2

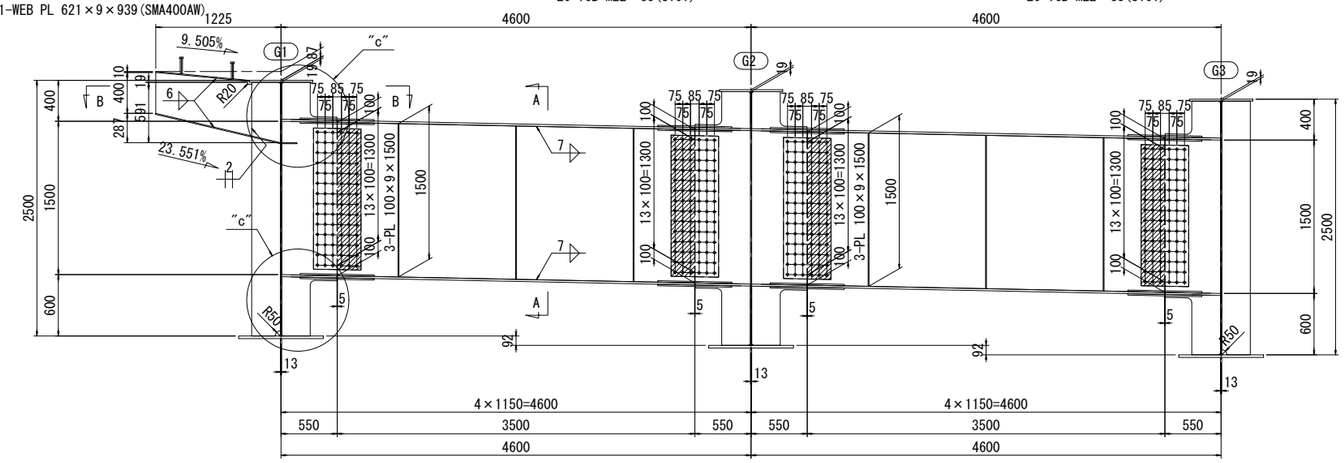


※1-UFLG PL 200×10×919(SMA400AW)
※4-STUD φ22×150(SS400)

※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-UFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

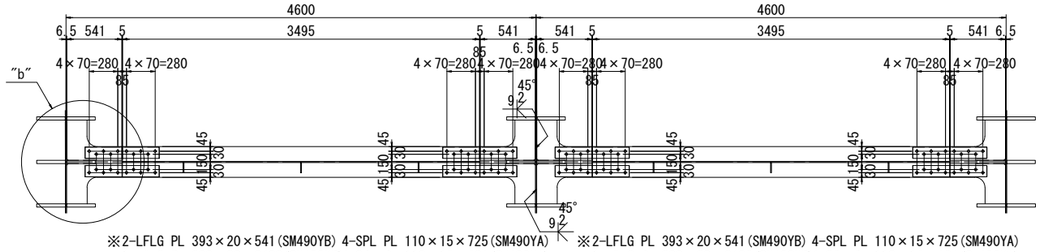
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-UFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-UFLG PL 284×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

※1-WEB PL 621×9×939(SMA400AW)



※1- PL 541×32×2481(SMA490BW) 4-SPL PL 1389×9×465(SM490YA)
1-WEB PL 1500×12×3526(SM490YA)4-FILL PL 1385×10×230(SS400)
※1- PL 541×32×2481(SMA490BW) 84-TCB M22×85(S10T)
84-TCB M22×85(S10T)

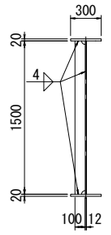
※1- PL 541×32×2481(SMA490BW) 4-SPL PL 1389×9×465(SM490YA)
1-WEB PL 1500×12×3526(SM490YA)4-FILL PL 1385×10×230(SS400)
※1- PL 541×32×2481(SMA490BW) 84-TCB M22×85(S10T)
84-TCB M22×85(S10T)



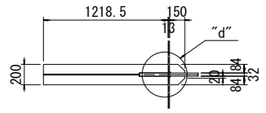
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-LFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
1-LFLG PL 300×20×3496(SM490YB)4-SPL PL 110×15×725(SM490YA)
※2-LFLG PL 393×20×541(SM490YB) 20-TCB M22×85(S10T)
20-TCB M22×85(S10T)

A - A

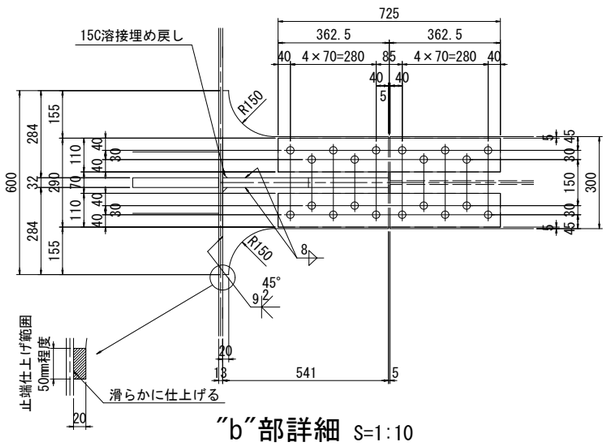


B - B

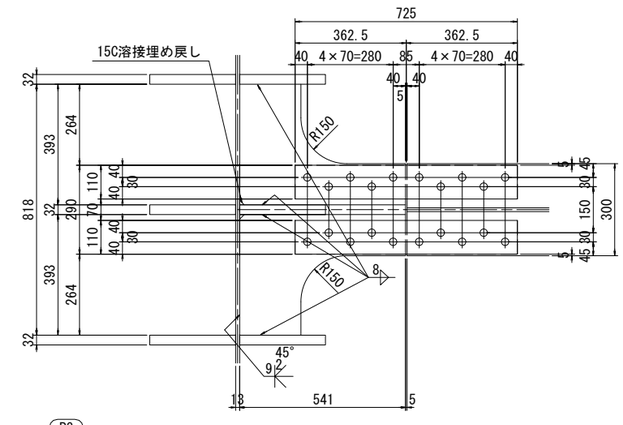


※1-LFLG PL 200×10×1252(SMA400AW)
※2-PL 84×10×150

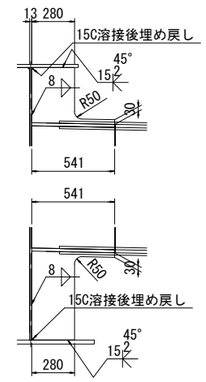
"a"部詳細 S=1:10



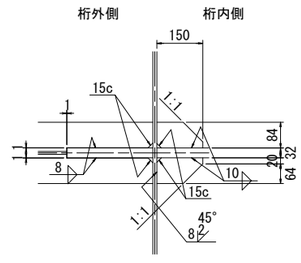
"b"部詳細 S=1:10



"c"部詳細図 S=1:20



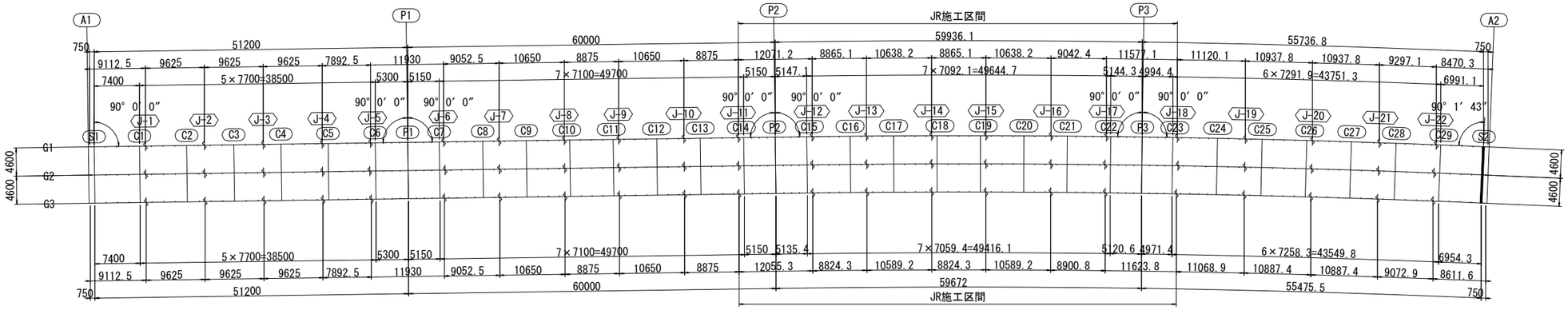
"d"部詳細 S=1:10



注記
1. 特記なき材質は、全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

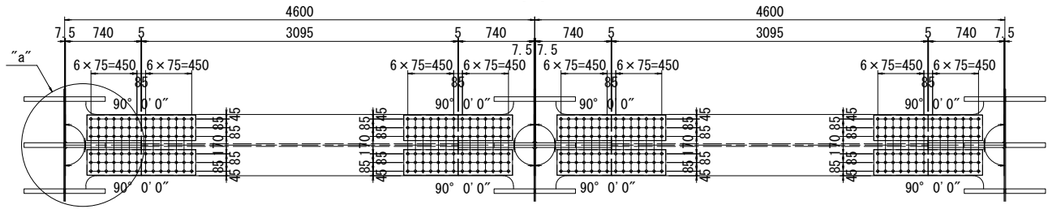
配　置　図



工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋端横桁(2)
縮尺	図示
図面番号	178 の 85
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

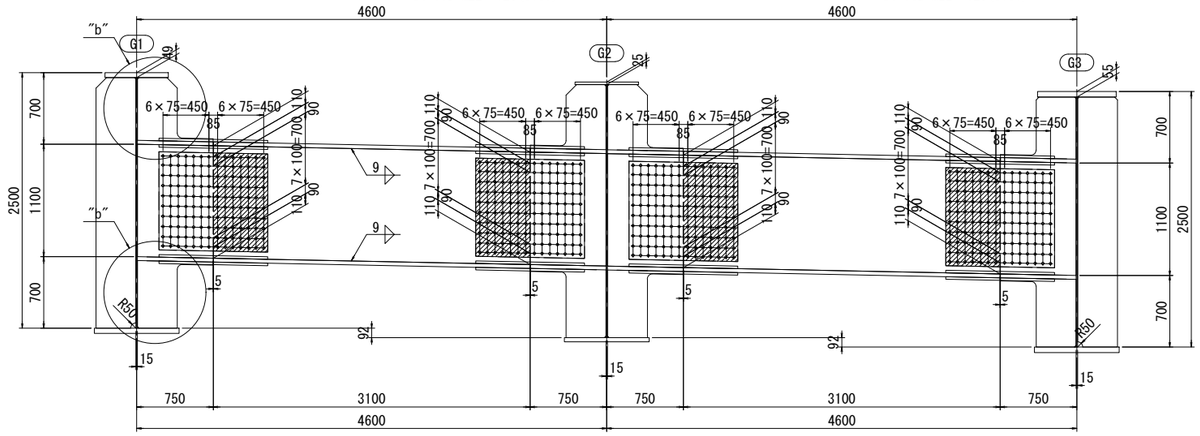
東田中高架橋中間支点横桁(1)　S=1:30

P1



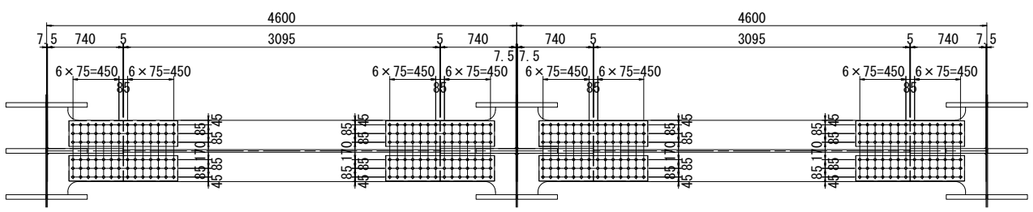
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)



※1-PL 740×45×2451(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1-PL 740×45×2475(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)

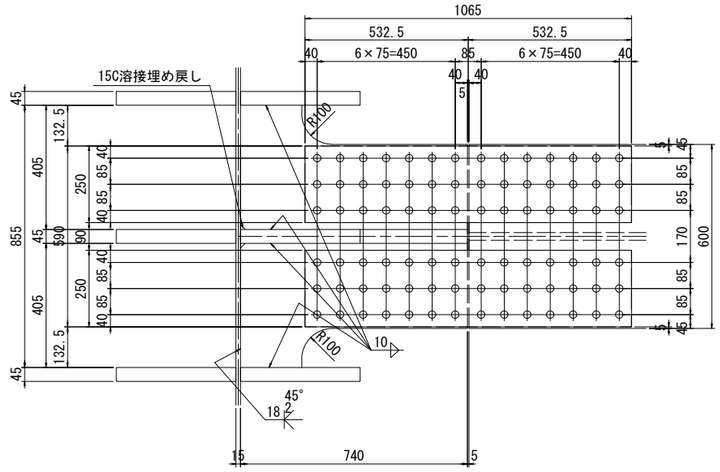
※1-PL 740×45×2475(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1-PL 740×45×2445(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)



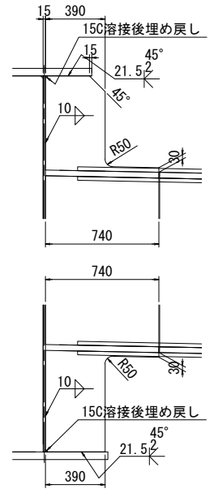
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

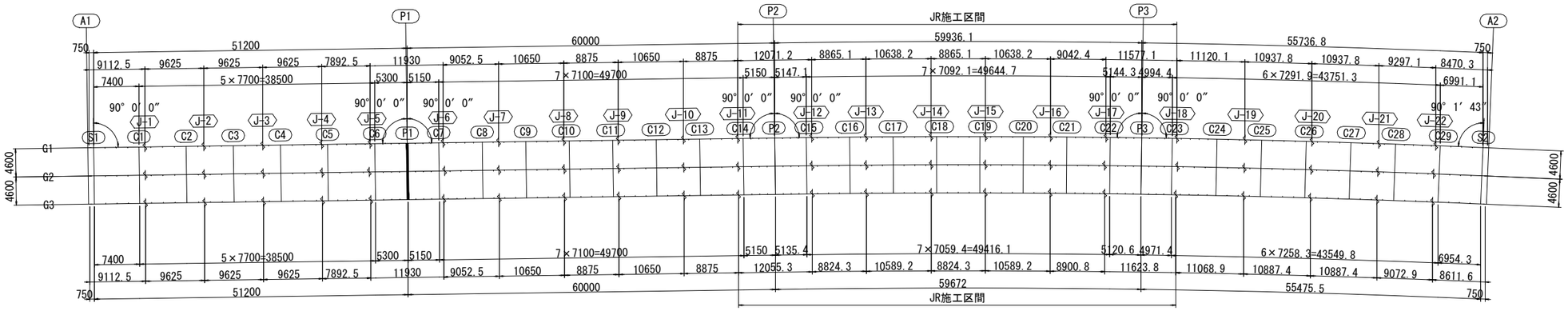
"a"部詳細　S=1:10



"b"部詳細図　S=1:20



配　置　図



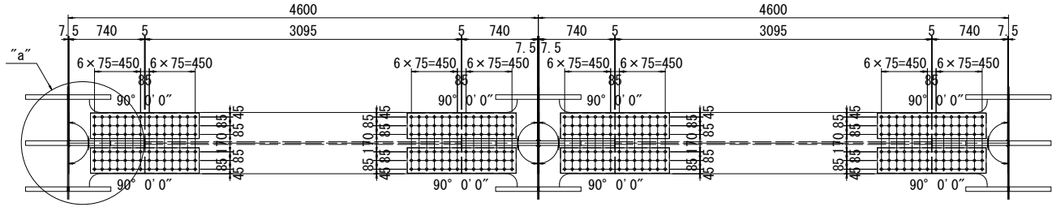
注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋中間支点横桁(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 86
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

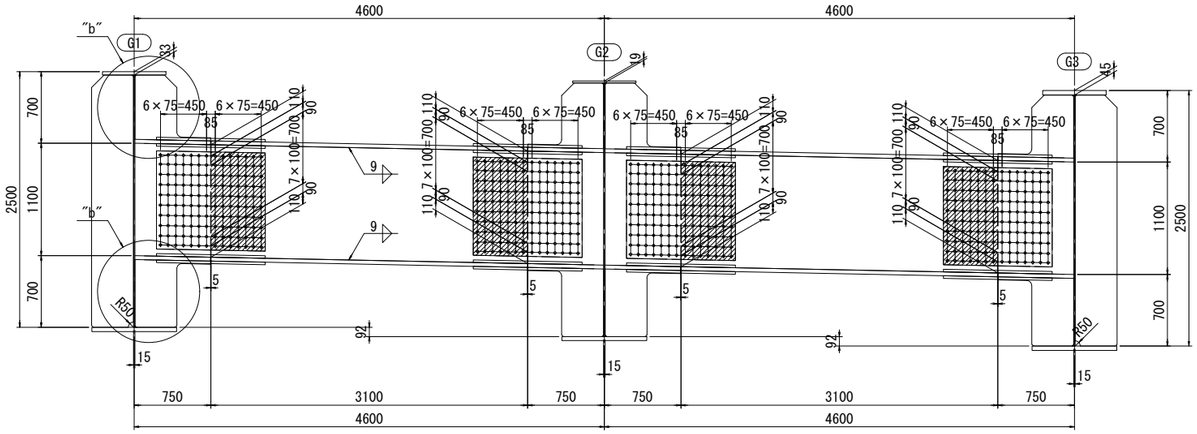
東田中高架橋中間支点横桁(2)　S=1:30

P2



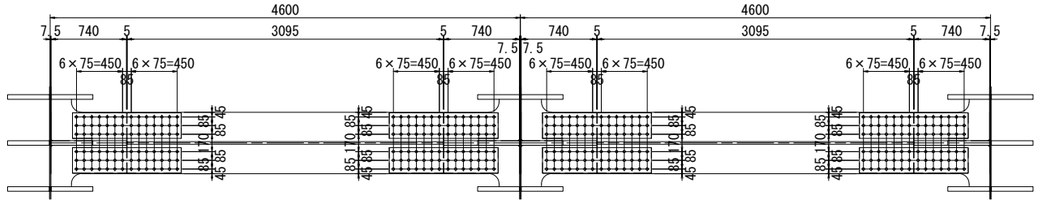
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)



※1-PL 740×45×2467(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1-PL 740×45×2481(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)

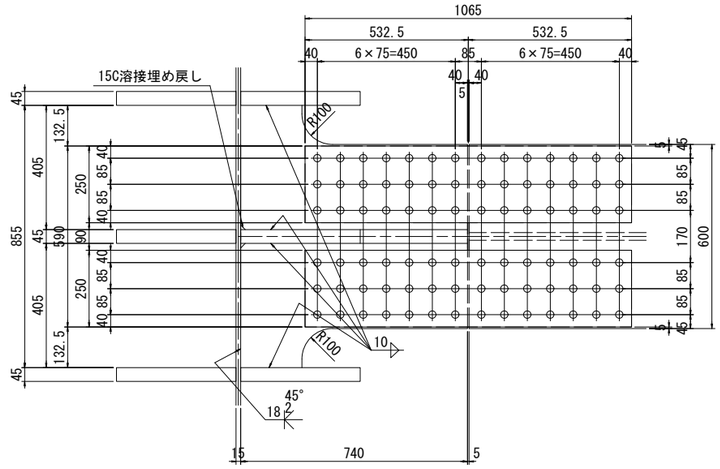
※1-PL 740×45×2481(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1-PL 740×45×2455(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)



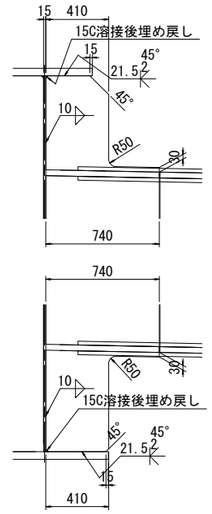
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

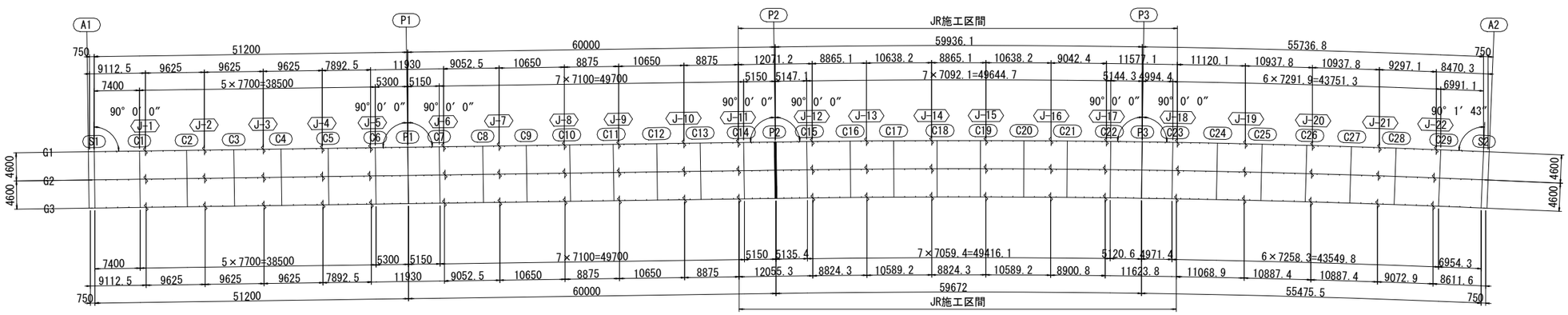
"a"部詳細　S=1:10



"b"部詳細図　S=1:20



配　置　図



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

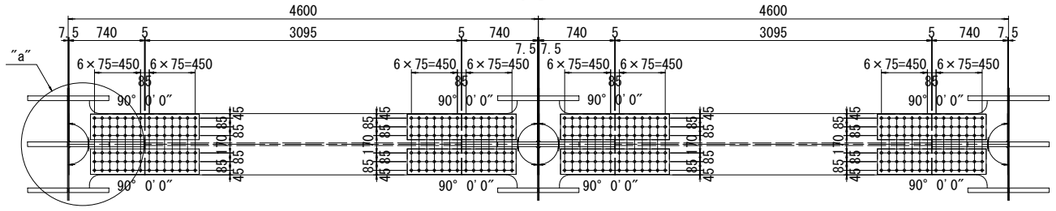
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋中間支点横桁(2)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 87
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

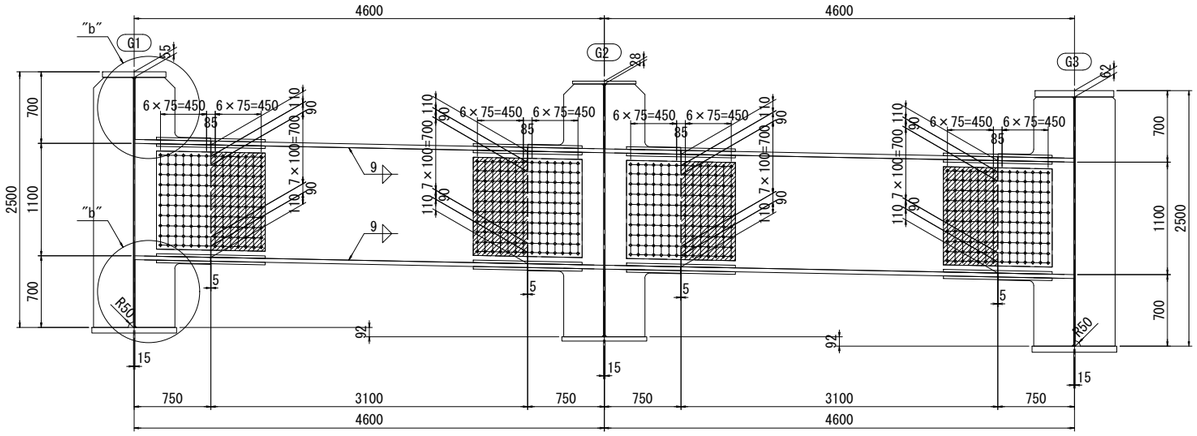
東田中高架橋中間支点横桁(3)　S=1:30

P3



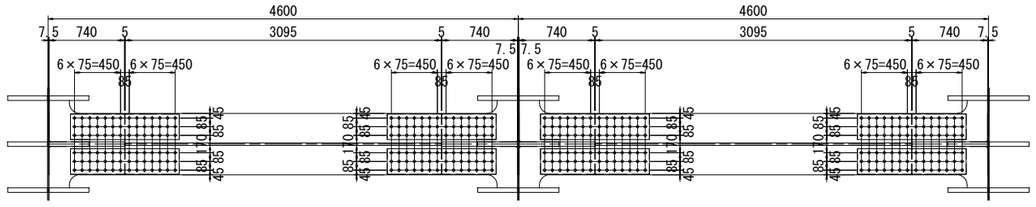
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-UFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-UFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)



※1- PL 740×45×2445(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1- PL 740×45×2472(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)

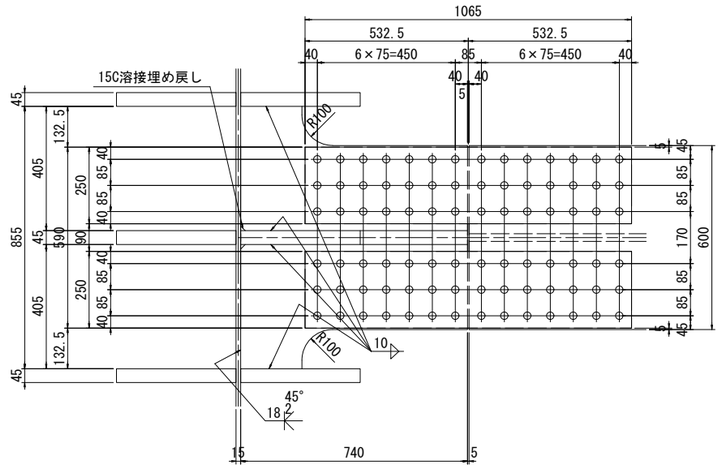
※1- PL 740×45×2472(SMA570W-H)　4-SPL PL 981×19×1065(SM570)
1-WEB PL 1100×25×3118(SM570)　4-FILL PL 971×10×530
※1- PL 740×45×2438(SMA570W-H)　140-TCB M22×120(S10T)
140-TCB M22×120(S10T)



※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

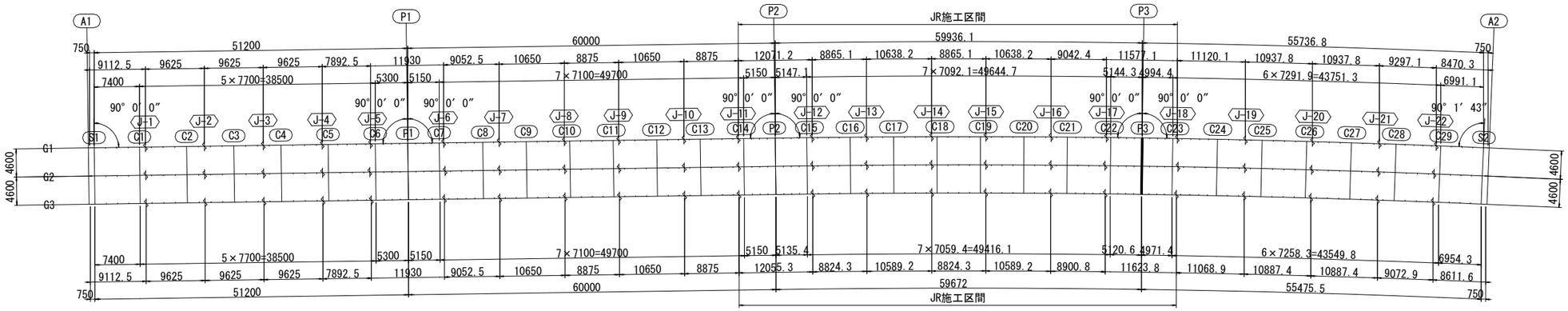
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
1-LFLG PL 600×38×3096(SM570)　4-SPL PL 250×25×1065(SM570)
※2-LFLG PL 405×38×740(SM570)　84-TCB M22×125(S10T)
84-TCB M22×125(S10T)

"a"部詳細　S=1:10



"b"部詳細図　S=1:20

配　置　図



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高力ボルトM22(S10T)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。
6. 施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

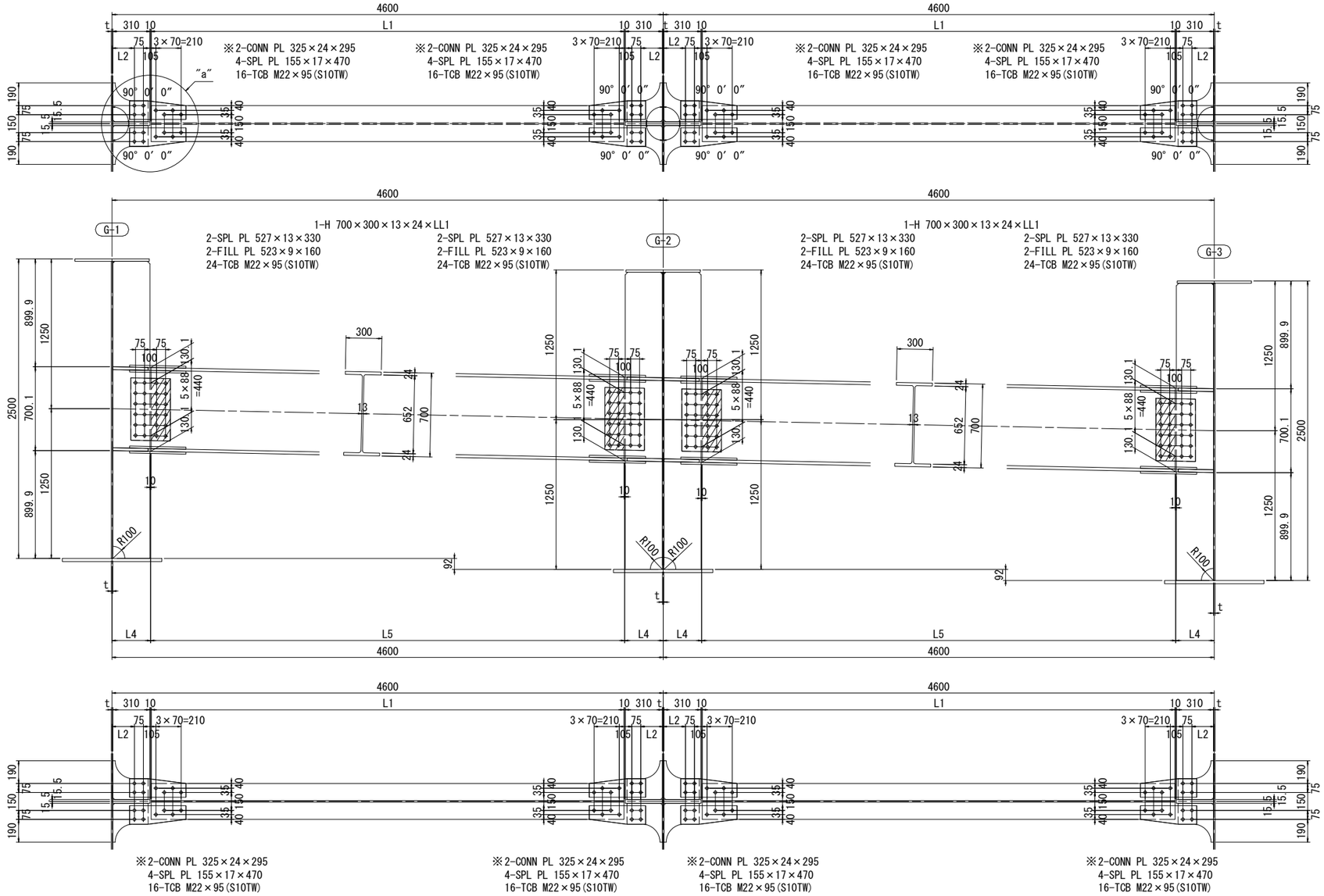
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋中間支点横桁(3)
縮尺	図示　図面番号　178 の 88
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋中間横桁(1)　S=1:20

C1～C29



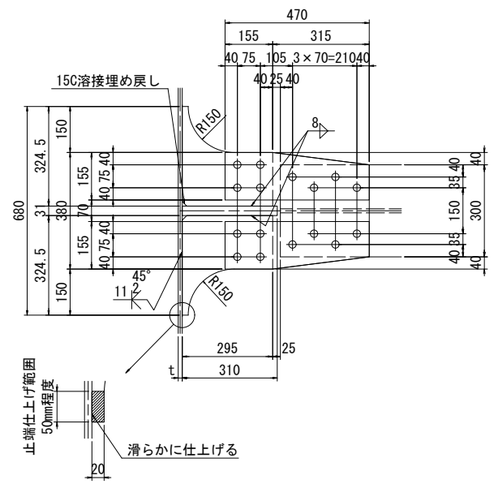
※2-CONN PL 325×24×295
4-SPL PL 155×17×470
16-TCB M22×95(S10TW)

※2-CONN PL 325×24×295
4-SPL PL 155×17×470
16-TCB M22×95(S10TW)

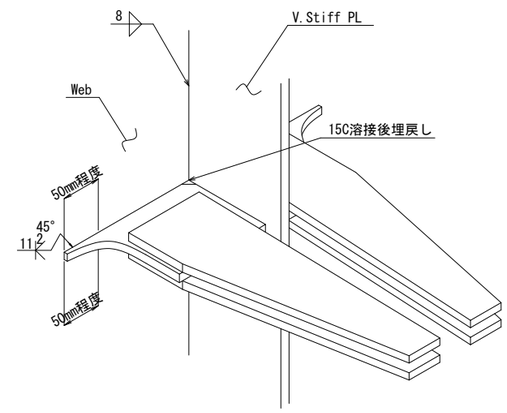
※2-CONN PL 325×24×295
4-SPL PL 155×17×470
16-TCB M22×95(S10TW)

※2-CONN PL 325×24×295
4-SPL PL 155×17×470
16-TCB M22×95(S10TW)

"a"部詳細 S=1:10



溶接仕上げ範囲詳細

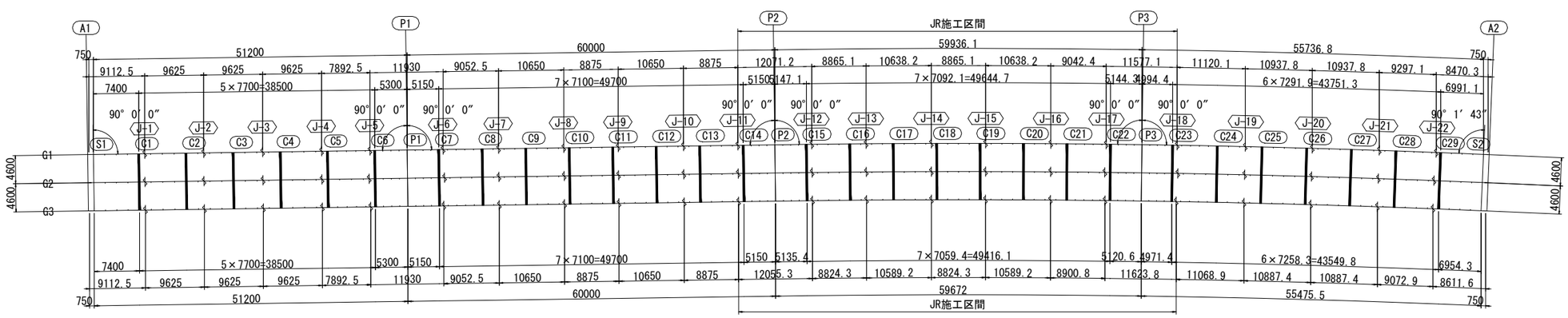


※　まわし溶接を含むConn.PL端部付近の腹板側の溶接止端部は、肉盛溶接後滑らかにグラインダーで仕上げる。

注記

1. 特記なき材質は、全てSMA400AWとする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
4. ＋印は、トルシア形高カボルトM22(S10TW)を示す。
5. ※印部材は、主桁計上とする。
6. C14～C23の施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

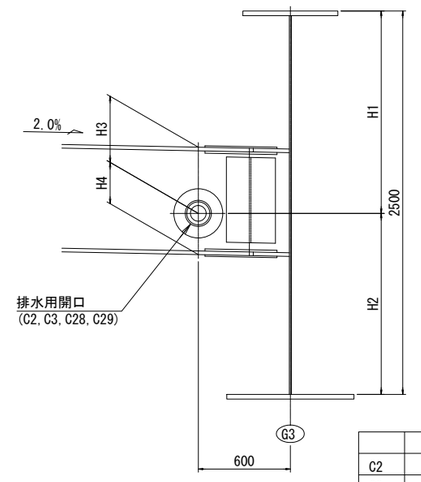
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋中間横桁(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 89
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋中間横桁(2)　S=1:20

	t	L1	L2	L3	L4	LL1	摘要
C1	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C2	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C3	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C4	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C5	14	3946	187	322	3956	3961	
C6	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C7	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C8	14	3946	187	322	3956	3961	
C9	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C10	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C11	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C12	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C13	14	3946	187	322	3956	3961	
C14	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C15	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C16	14	3946	187	322	3956	3961	
C17	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C18	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C19	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C20	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C21	14	3946	187	322	3956	3961	
C22	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C23	15	3945	187.5	322.5	3955	3960	
C24	14	3946	187	322	3956	3961	
C25	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C26	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C27	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C28	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	
C29	13	3947	186.5	321.5	3957	3962	

断面図

Cn上



(mm)

	H1	H2	H3	H4
C2	1320	1180	432	268
C3	1105	1395	217	483
C28	1108	1392	220	480
C29	1308	1192	420	280

注記

1. 排水用開口補強は、「上部構造排水装置(19)」を参照のこと。
6. C14～C23の施工はJR発注工事のため別途施工、今回対象は工場製作のみとする。

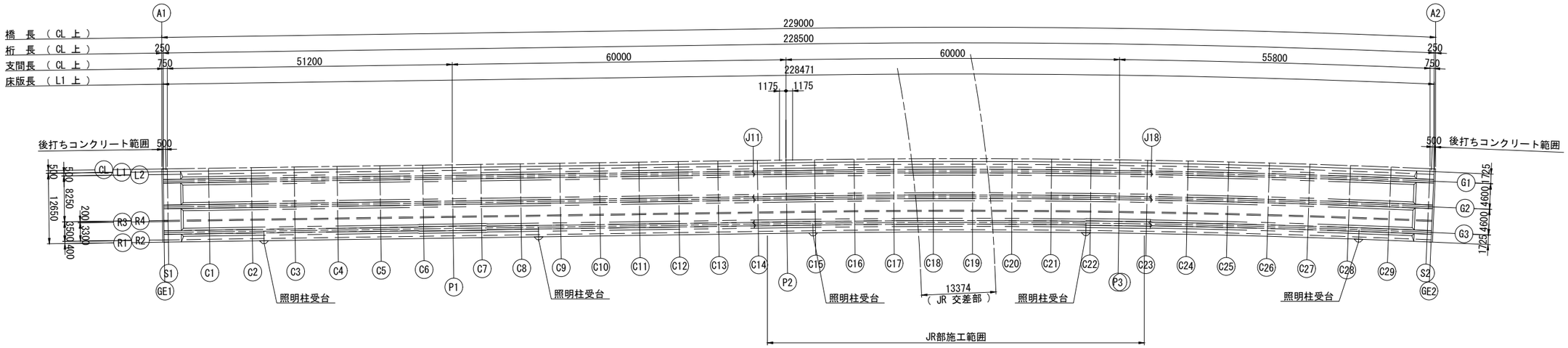
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

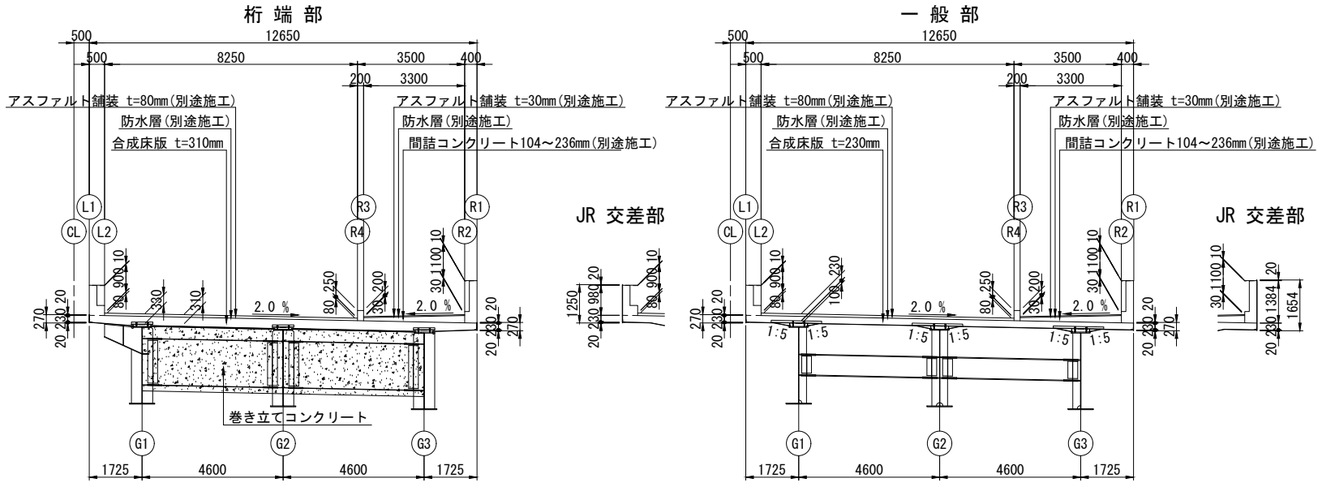
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋中間横桁(2)		
縮尺	S=1:20	図面番号	178 の 90
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋 合成床版一般図

平 面 図 S=1:400



断 面 図 S=1:100



非鋼材数量総括表

種 別		単 位	JR部	国交省部	数 量	備 考
橋面積		m2	859.5	2025.9	2885.6	
コンクリート体積	床版部 （ 膨張材使用 ）	式	1	1	1	σck = 30 N/mm2

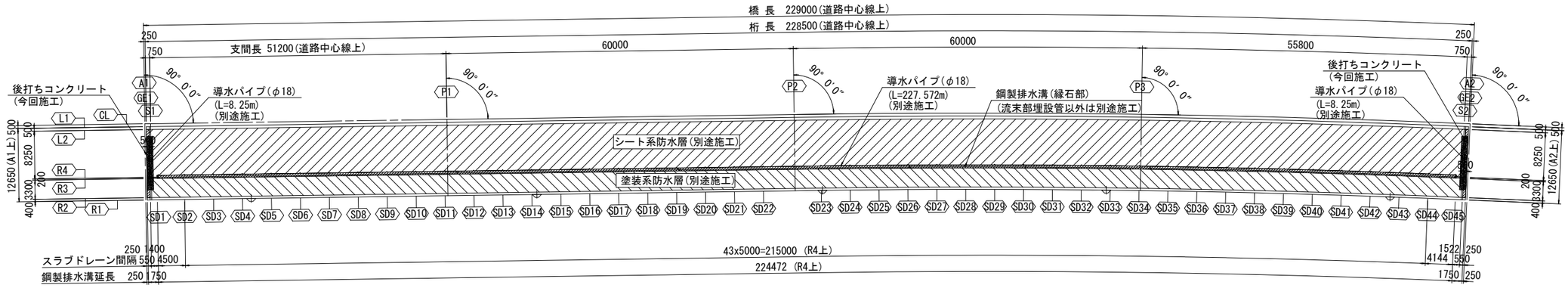
注 ） 1. 床版コンクリートの設計基準強度は σck = 30 N / mm2 とする。(膨張コンクリート)

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

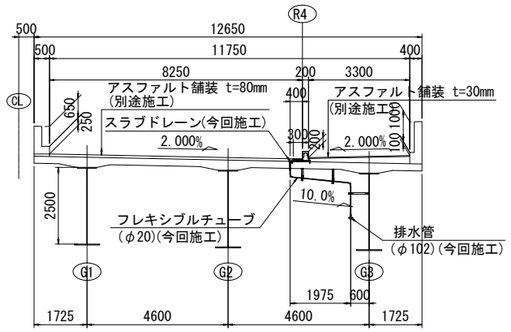
工 事 名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図 面 名	東田中高架橋 合成床版一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	178 の 91
年 月 日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋橋面排水図(1)　S=1:400

平面図

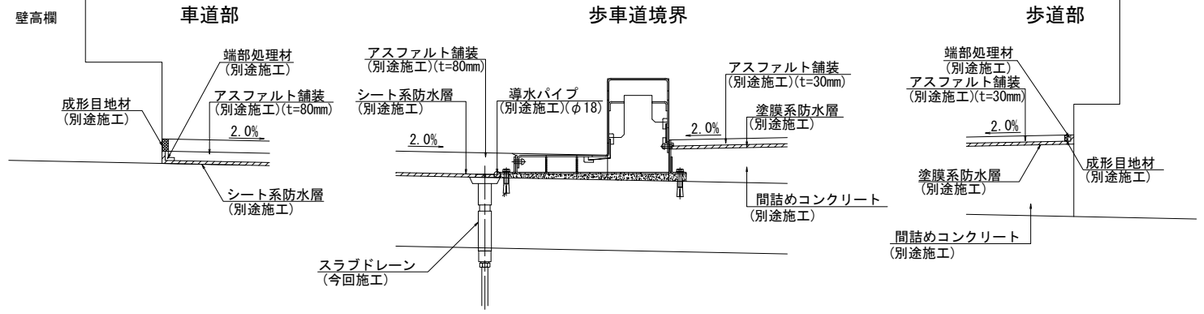


標準断面図　S=1:100

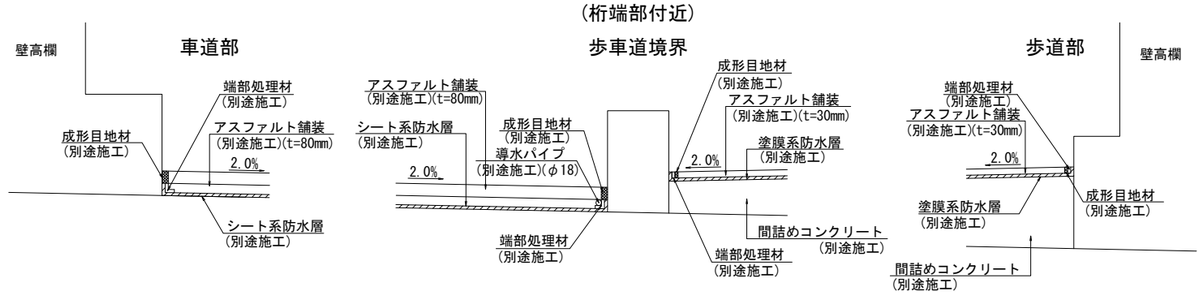


防水層端部詳細図　S=1:10

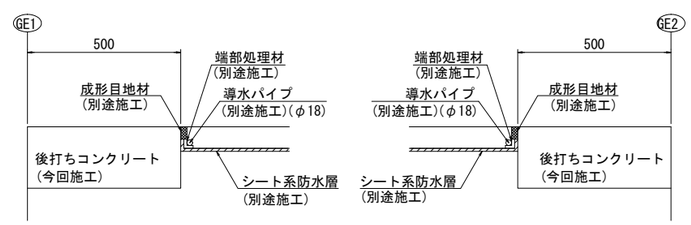
(鋼製排水溝部)



(桁端部付近)



(後打ちコンクリート部)



※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

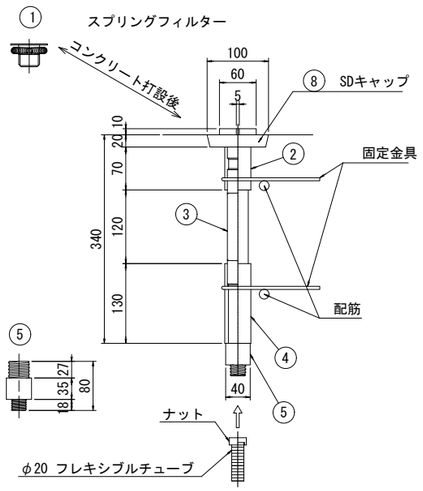
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋橋面排水図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 92
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋橋面排水図(2)　S=1:5

スラブドレーン詳細図

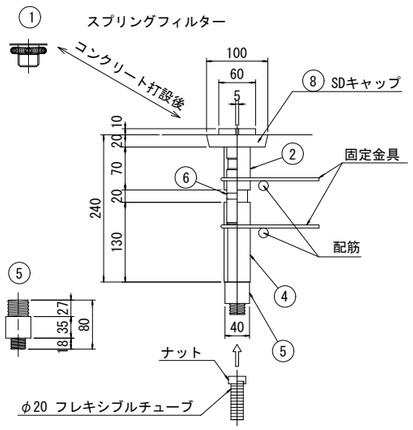
SD1, SD45

(製作数:2)



SD2～SD44

(製作数:43)



スラブドレーン材料表

(1個当り)

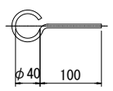
部 材 名	寸 法	備 考
①	φ34.0× 35	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）キャップ付(φ60×2.3t)
②	φ42.7× 70	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
③	φ34.0×170	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
④	φ42.7×130	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
⑤	φ40.0× 80	
SDキャップ ⑧	φ100 × 45	樹脂性
固定金具	φ6 ×227	SR235
目詰り防止フィルター		スプリングフィルター(SUS304)

スラブドレーン材料表

(1個当り)

部 材 名	寸 法	備 考
①	φ34.0× 35	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）キャップ付(φ60×2.3t)
②	φ42.7× 70	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
⑥	φ34.0×140	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
④	φ42.7×130	鋼管（亜鉛メッキ仕上げ）
⑤	φ40.0× 80	
SDキャップ ⑧	φ100 × 45	樹脂性
固定金具	φ6 ×227	SR235
目詰り防止フィルター		スプリングフィルター(SUS304)

スラブドレーン固定金具



2 - RB φ6 × 227
(スラブドレーン1個当り)

防水工材料表

(1橋当り)

名 称	仕 様	単位	数量	備 考
アスファルト舗装面積	t = 80 mm	m2	1807.1	車道部(別途施工)
	t = 30 mm	m2	748.7	歩道部(別途施工)
防 水 層	シート系	m2	1826.0	車道部(別途施工)
	塗膜系	m2	762.5	歩道部(別途施工)
端部処理材	シルバーメッシュ同等品以上	m	931.2	(別途施工)
成形目地材	セロシールSS同等品以上	m	931.2	(別途施工)
導水パイプ	ステンレスバネ鋼 φ18mm	m	244.1	車道部(別途施工)
フレキシブルチューブ	SUS304 φ20	m	78.5	国交省(今回施工)
		m	24.8	JR(今回工事購入)
調整コンクリート体積	σck = 18 N/mm2	m3	127.3	(別途施工)
スラブドレーン		箇所	33	国交省(今回施工)
		箇所	12	JR(今回工事購入)

※ フレキシブルチューブ延長は、排水装置図を参照のこと。

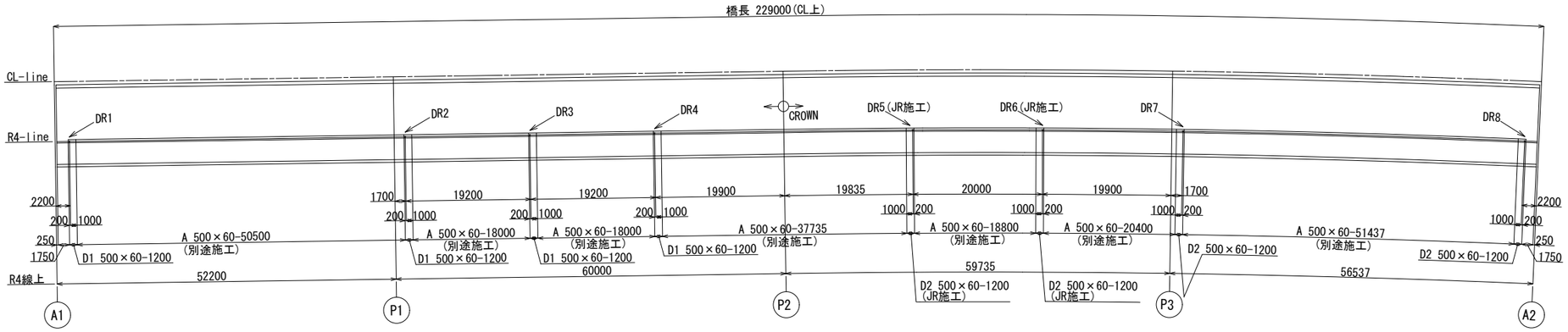
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋橋面排水図(2)		
縮尺	S=1:5	図面番号	178 の 93
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋鋼製排水装置(1)　S=1:400

鋼製排水溝設置平面図 S=1:400



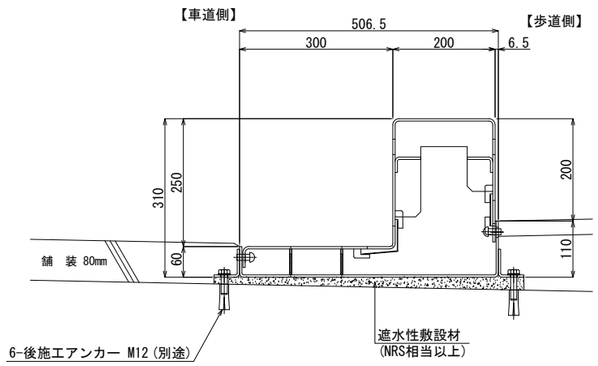
数量表

型　式	数量内訳(m)	記　事
A 500×60	214.872	一 般 部
D1 500×60	4.800	流 末 部
D2 500×60	4.800	流 末 部
DR1～DR4	4 ヶ所	流末部埋設管
DR5～DR8	4 ヶ所	流末部埋設管
敷設材	2.859m3	
合　計	224.472	

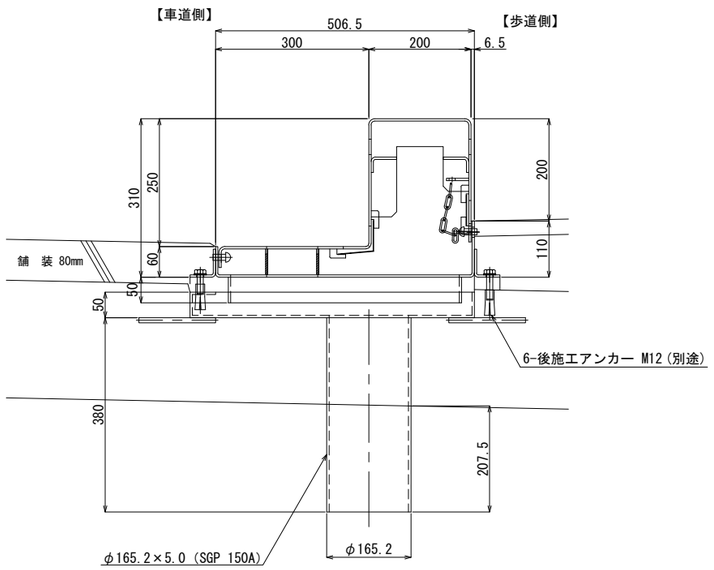
別途品数量表

型　式	数量内訳	記　事
後施工アンカー M12	1,132 本	(B・W付)

標準設置断面図 S=1:6



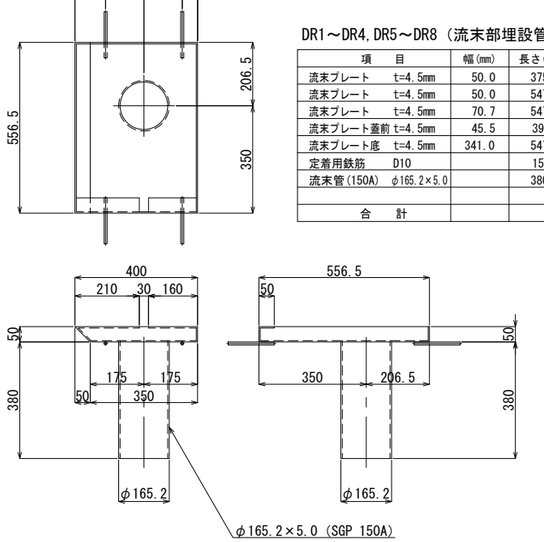
流末部設置断面図 S=1:6



DR1～DR4(DR5～DR8) (流末部埋設管)

S=1:10

※DR5～DR8は対称形

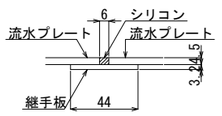


DR1～DR4, DR5～DR8 (流末部埋設管)

項　目	幅(mm)	長さ(mm)	数量(個)	単位重量	重量(kg)	備　考
流末プレート　t=4.5mm	50.0	375.0	2.0	35.33 kg/m2	1.32	SS400
流末プレート　t=4.5mm	50.0	547.5	1.0	35.33 kg/m2	0.97	SS400
流末プレート　t=4.5mm	70.7	547.5	1.0	35.33 kg/m2	1.37	SS400
流末プレート蓋前 t=4.5mm	45.5	391.0	1.0	35.33 kg/m2	0.63	SS400
流末プレート底　t=4.5mm	341.0	547.5	1.0	35.33 kg/m2	6.60	SS400
定着用鉄筋　D10		150.0	4.0	0.56 kg/m	0.34	SD295
流末管(150A)　φ165.2×5.0		380.0	1.0	19.80 kg/m	7.52	SGP
合　計					18.75	kg/set

注) SS材は、全て粉体塗装 (TNSコート・流動浸漬法)

流水部継手詳細図 S=1/2



鋼製排水装置

9.6m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
鋼製排水溝設置	流末部	m	7.2	
流末部埋設管	DR1～DR8	個	6	
鋼製排水溝専用敷設材	NRS-M	箱	3	
鋼製排水溝専用敷設材	NRS-P	箱	1	

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

注記
1. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

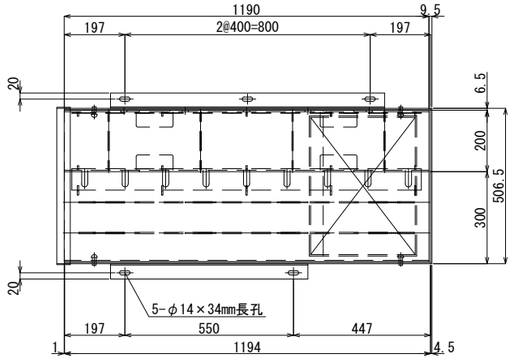
(指定部分)

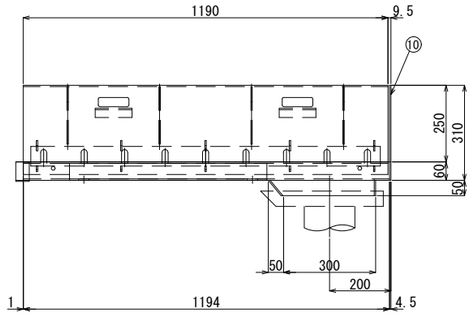
工 事 名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図 面 名	東田中高架橋鋼製排水装置(1)		
縮　尺	図 示	図面番号	178 の 94
年 月 日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

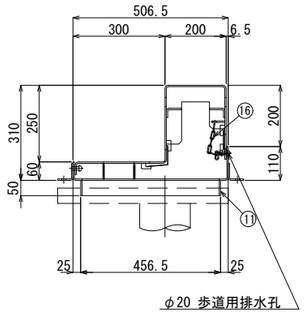
東田中高架橋鋼製排水装置(2)　S=1:10

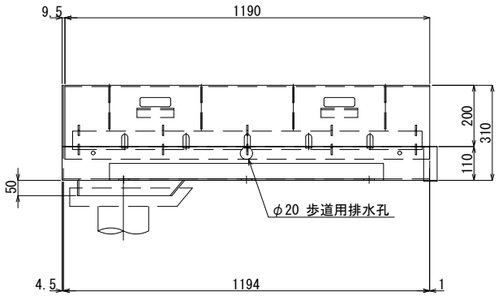
D1(D2) 500×60-1200 (流末部)
S=1:10

※D2は対称形









D1,D2 500×60-1200 (流末部)

項　目	幅(mm)	長さ(mm)	数量(個)	単位重量	重量(kg)	備　考
① 縁石プレート t=4.5mm	1,002.5	1,190.0	1.0	35.33 kg/m2	42.14	SS400
② 流水プレート t=4.5mm	660.5	1,194.0	1.0	35.33 kg/m2	27.86	SS400
③ リブプレート t=4.5mm	50.0	416.0	4.0	35.33 kg/m	2.94	SS400
④ 補強アングル t=4.5mm	97.0	644.0	1.0	35.33 kg/m2	2.21	SS400
⑤ 補強アングル t=4.5mm	97.0	894.0	1.0	35.33 kg/m2	3.06	SS400
⑥ 固定ピン　φ12		25.0	4.0	0.03 kg/個	0.12	SS400
⑦ 継ぎ手板　t=3.2mm	44.0	678.5	1.0	25.12 kg/m2	0.75	SS400
⑧ シール材　4.5×6		678.5	1.0		18.32cm3	シリコン
⑨ 補強リブプレート t=4.5mm	50.0	1,094.0	2.0	35.33 kg/m2	3.86	SS400
⑩ エンドプレート t=4.5mm	506.5	310.0	1.0	35.33 kg/m2	2.85	SS400
⑪ 流末プレート t=4.5mm	50.5	325.0	2.0	35.33 kg/m2	1.15	SS400
流末プレート t=4.5mm	50.5	447.5	1.0	35.33 kg/m2	0.79	SS400
流末プレート t=4.5mm	70.7	447.5	1.0	35.33 kg/m2	1.12	SS400
⑫ 固定板　t=4.5mm	72.0	120.0	4.0	35.33 kg/m2	1.22	SS400
⑬ 防草シート1 t=1.0mm	130.0	1,140.0	1.0	7.85 kg/m2	1.16	亜鉛処理鋼板
⑭ 防草シート2 t=1.0mm	60.0	1,140.0	1.0	7.85 kg/m2	0.54	亜鉛処理鋼板
⑮ 受金具　t=4.5mm			20.0	0.01 kg/個	0.20	SS400
⑯ チェーン			1.0	0.20 kg/個	0.20	
合　計					92.17	kg/set
					76.81	kg/m

注）SS材(B･W及びチェーンは除く)は、全て粉体塗装（TNSコート・流動浸漬法）
設置には鋼製排水溝と密着固定できる専用遮水性敷設材（ＮＲＳ相当以上）のこと

別途　5-後施工アンカー M12

注記
1.JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

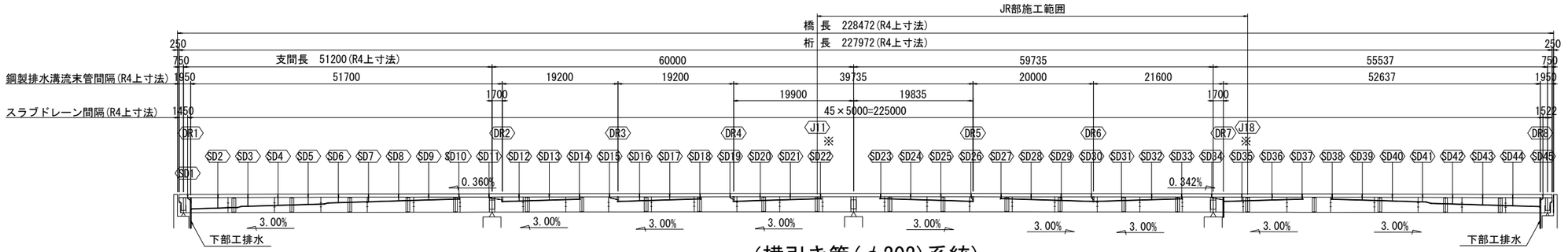
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

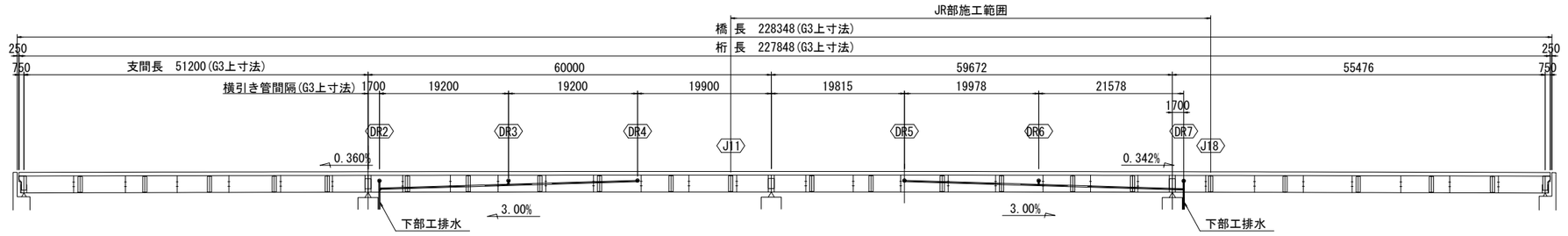
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋鋼製排水装置(2)		
縮尺	S=1:10	図面番号	178 の 95
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(1)　S=1:400

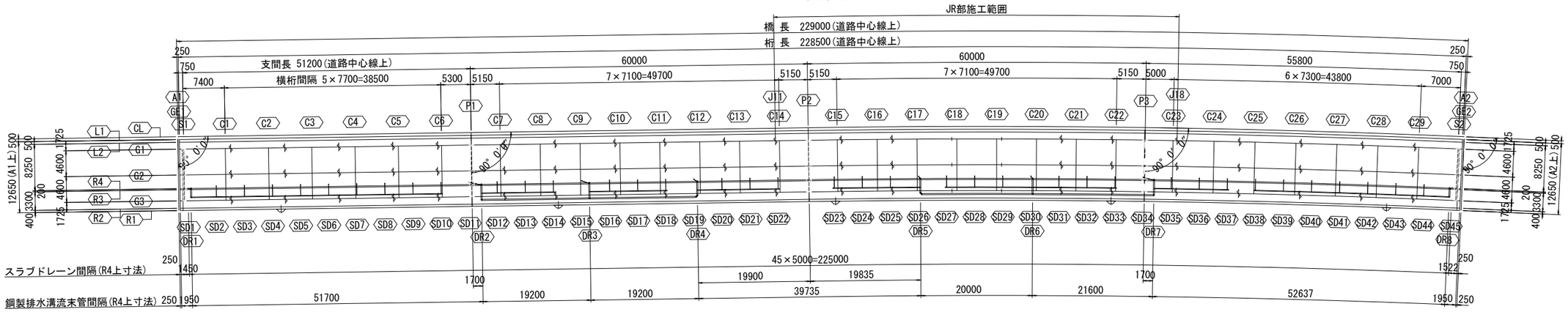
側面図
（排水桝間隔，スラブドレーン間隔，横引き管(φ102）系統）



(横引き管(φ202)系統)

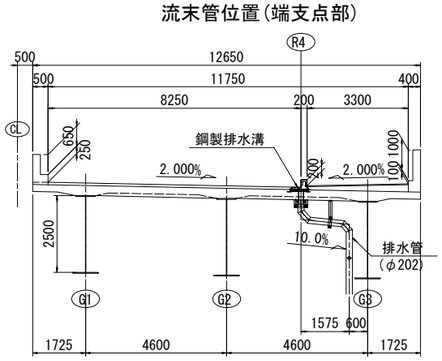


平面図

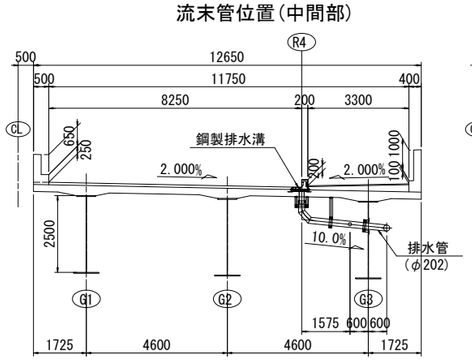


標準断面図　S=1:100

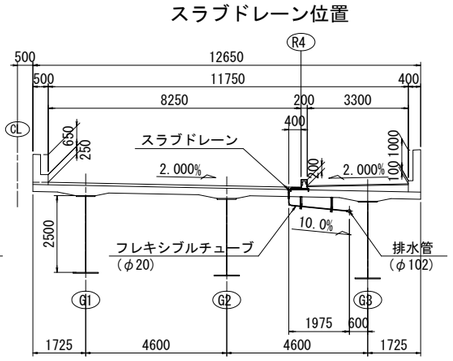
流末管位置(端支点部)



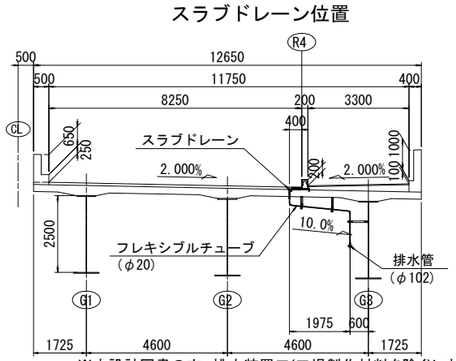
流末管位置(中間部)



スラブドレーン位置



スラブドレーン位置



※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

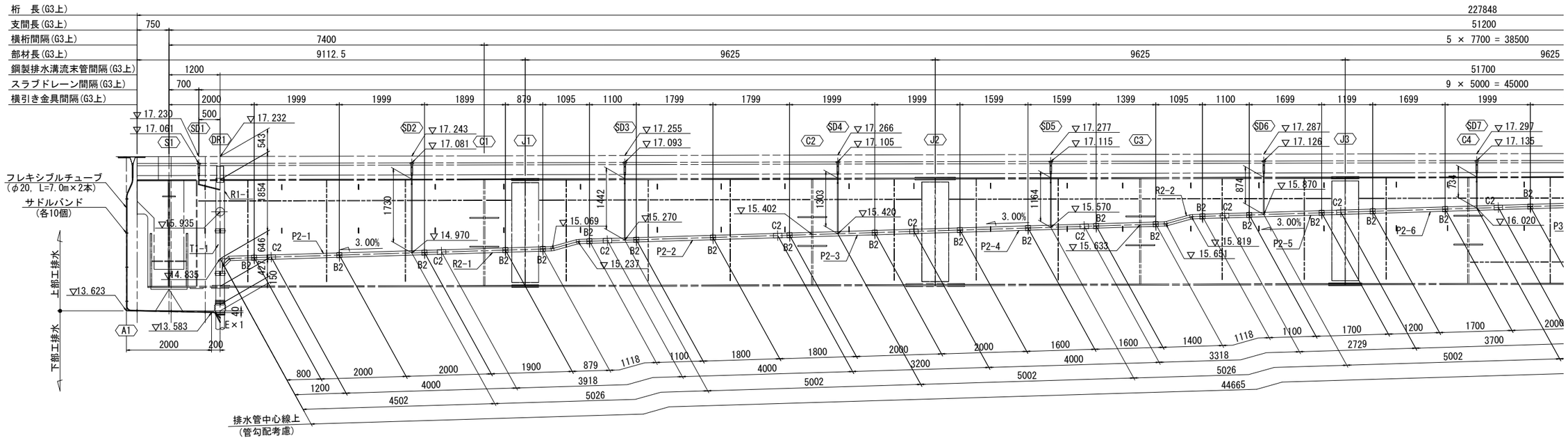
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 96
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(2)　S=1:50

A1-P1間(1/2)



直管

P2-1	L=4.000m	1 箇所
P2-2	L=4.000m	1 箇所
P2-3	L=3.200m	1 箇所
P2-4	L=4.000m	1 箇所
P2-5	L=2.729m	1 箇所
P2-6	L=3.700m	1 箇所
P2-7	L=3.200m	1 箇所
P2-8	L=3.700m	1 箇所
P3-1	L=3.200m	1 箇所
P4-1	L=3.700m	1 箇所

加工管

T1-1	1 箇所
R1-1	1 箇所
R2-1	1 箇所
R2-2	1 箇所

TSカップリング

C1	1 箇所
C2	12 箇所

取付金具

B2	27 箇所
S1	2 箇所
S2-1	1 箇所
S3-1	1 箇所
S5	5 箇所
S6-1	8 箇所
S6-2	8 箇所

伸縮継手

E×1 : 1 箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. 伸縮装置排水ホースからの流末処理については
　下部工との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

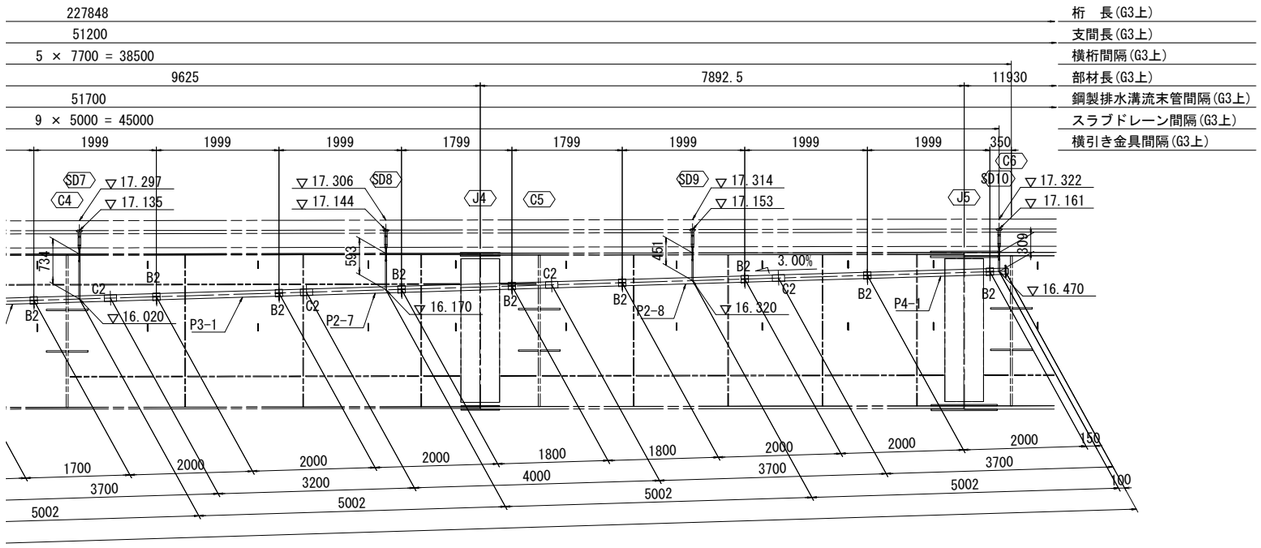
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

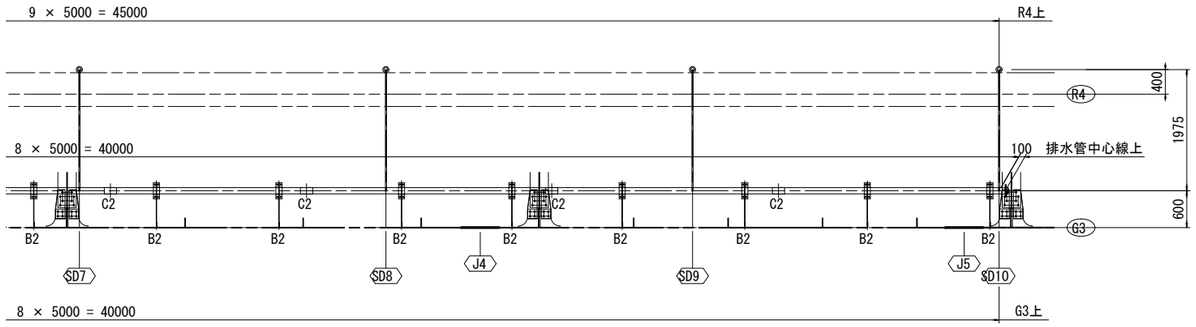
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 97
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

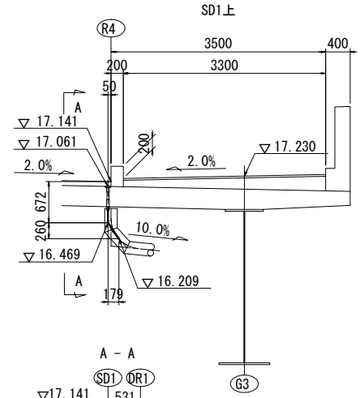
東田中高架橋上部構造排水装置(3)　S=1:50

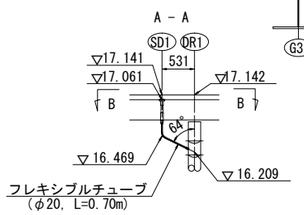
A1-P1間(2/2)

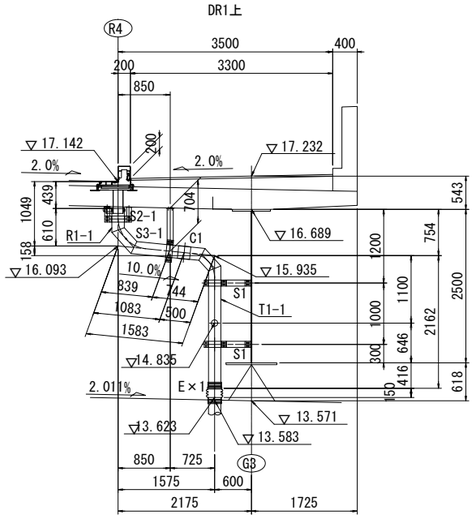


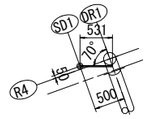


端部断面図



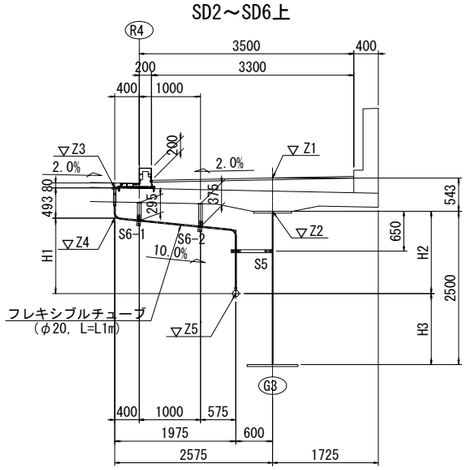




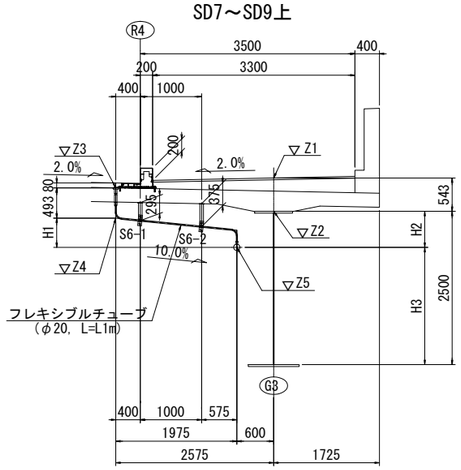


断面図

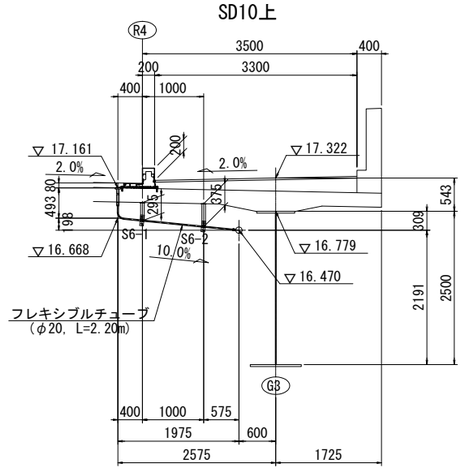
SD2～SD6上



SD7～SD9上



SD10上



(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	L1
SD2	17.243	16.700	17.081	16.588	14.970	3.60
SD3	17.255	16.712	17.093	16.600	15.270	3.30
SD4	17.266	16.723	17.105	16.612	15.420	3.20
SD5	17.277	16.734	17.115	16.622	15.570	3.00
SD6	17.287	16.744	17.126	16.633	15.870	2.70
SD7	17.297	16.754	17.135	16.642	16.020	2.60
SD8	17.306	16.763	17.144	16.651	16.170	2.40
SD9	17.314	16.771	17.153	16.660	16.320	2.30

(mm)

	H1	H2	H3
SD2	1618	1730	770
SD3	1330	1442	1058
SD4	1192	1303	1197
SD5	1052	1164	1336
SD6	763	874	1626
SD7	622	734	1766
SD8	481	593	1907
SD9	340	451	2049

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

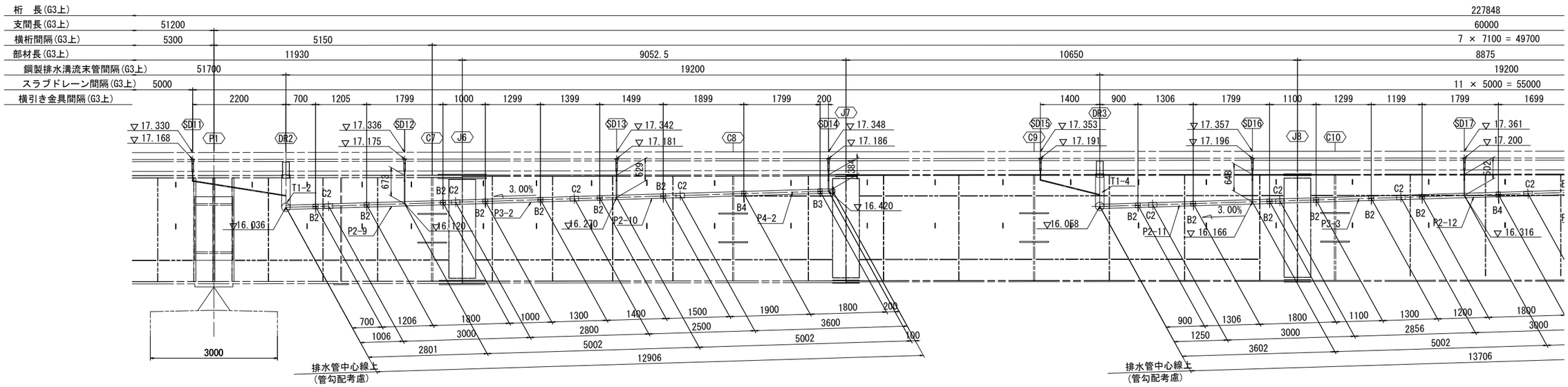
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

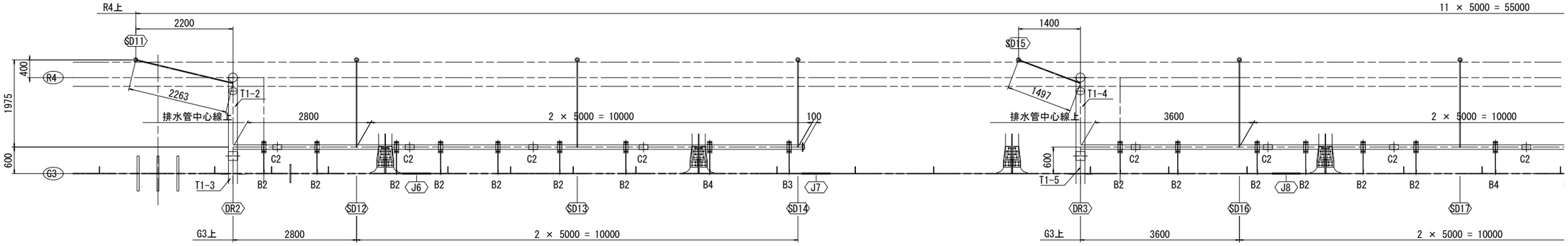
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(3)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 98
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

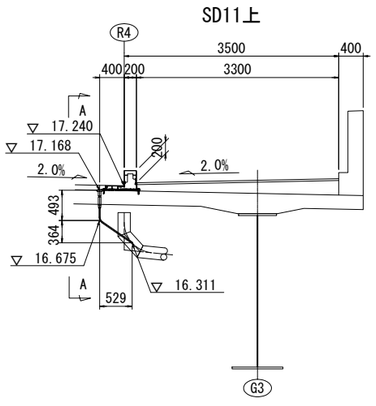
東田中高架橋上部構造排水装置(4)　S=1:50

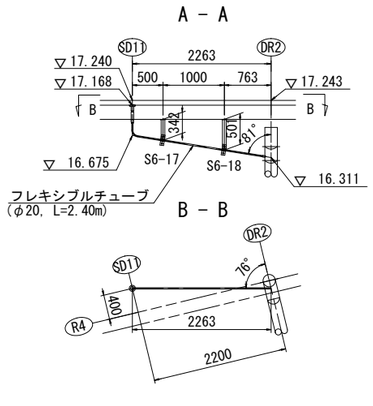
P1-P2間(1/4)

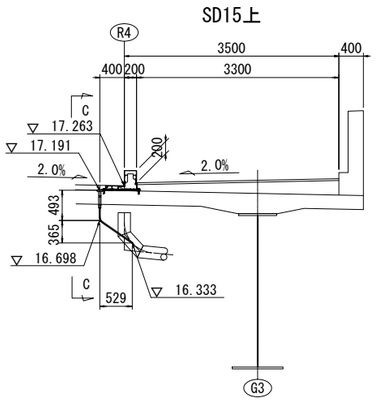


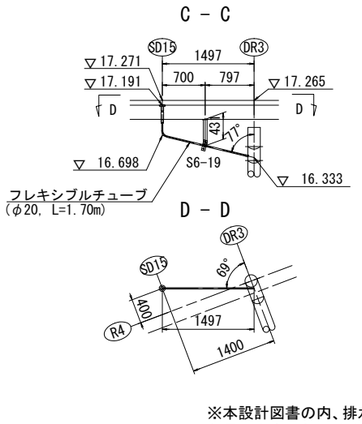


断面図









直管

P2-9	L=3.000m	1	箇所
P2-10	L=2.500m	1	箇所
P2-11	L=3.000m	1	箇所
P2-12	L=3.000m	1	箇所
P2-13	L=3.700m	1	箇所
P2-14	L=3.500m	1	箇所
P3-2	L=2.800m	1	箇所
P3-3	L=2.856m	1	箇所
P3-4	L=2.456m	1	箇所
P4-2	L=3.600m	3	箇所

TSカップリング

C2		12	箇所

取付金具

B2		22	箇所
B3		1	箇所
B4		4	箇所
S6-1		6	箇所
S6-2		6	箇所
S6-3		1	箇所
S6-4		1	箇所
S6-5		1	箇所
S6-6		1	箇所
S6-7		1	箇所
S6-8		1	箇所
S6-17		1	箇所
S6-18		1	箇所
S6-19		1	箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

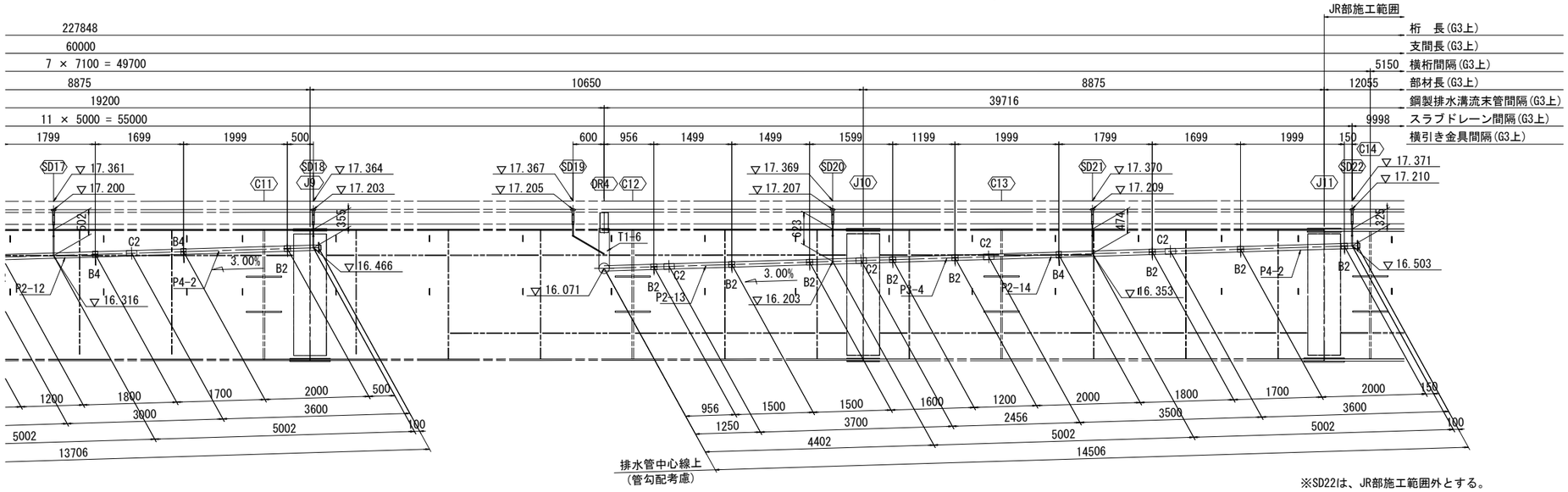
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

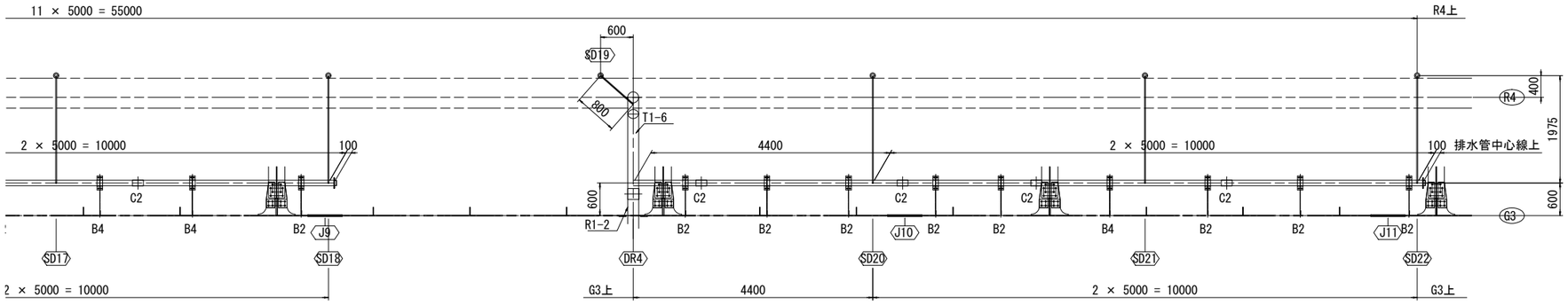
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(4)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 99
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(5)　S=1:50

P1-P2間(2/4)

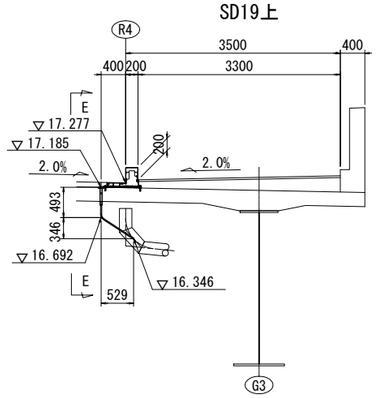


※SD22は、JR部施工範囲外とする。

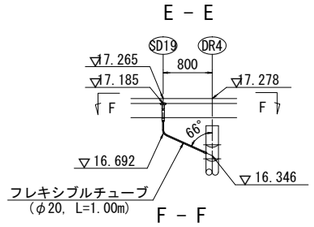


断面図

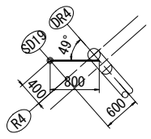
SD19上



E－E



F－F



※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

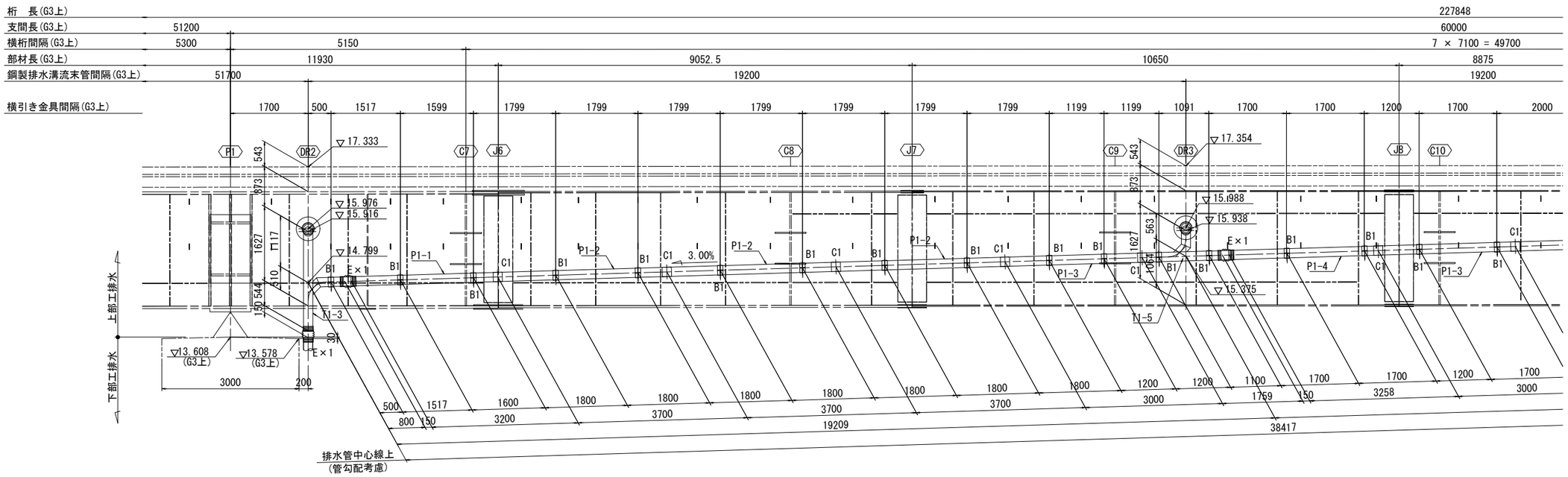
注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

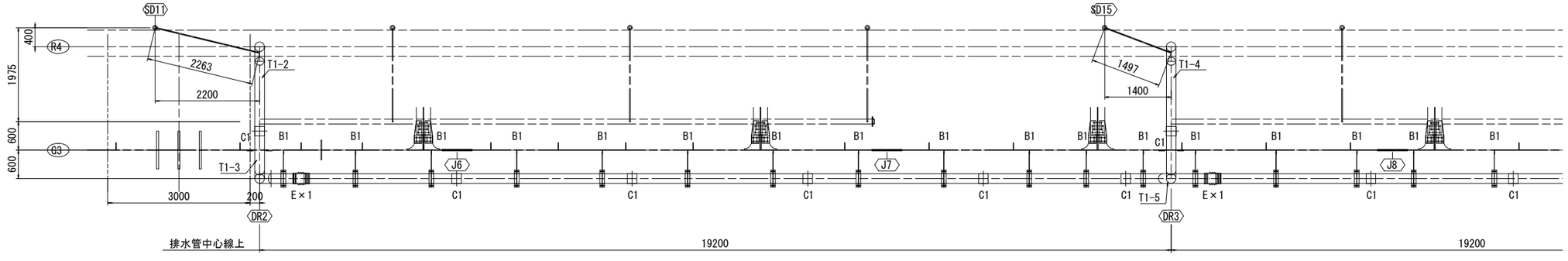
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(5)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 100
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(6)　S=1:50

P1-P2間(3/4)





直管

P1-1 ： L=3.200m　1 箇所
P1-2 ： L=3.700m　3 箇所
P1-3 ： L=3.000m　3 箇所
P1-4 ： L=3.258m　1 箇所
P1-5 ： L=4.000m　2 箇所

加工管

T1-2 ： 1 箇所
T1-3 ： 1 箇所
T1-4 ： 1 箇所
T1-5 ： 1 箇所
T1-6 ： 1 箇所
R1-2 ： 1 箇所

TSカップリング

C1 ： 13 箇所

取付金具

B1 ： 23 箇所
S1 ： 2 箇所
S2-2 ： 3 箇所
S3-2 ： 3 箇所
S4 ： 3 箇所

伸縮継手

E×1 ： 3 箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

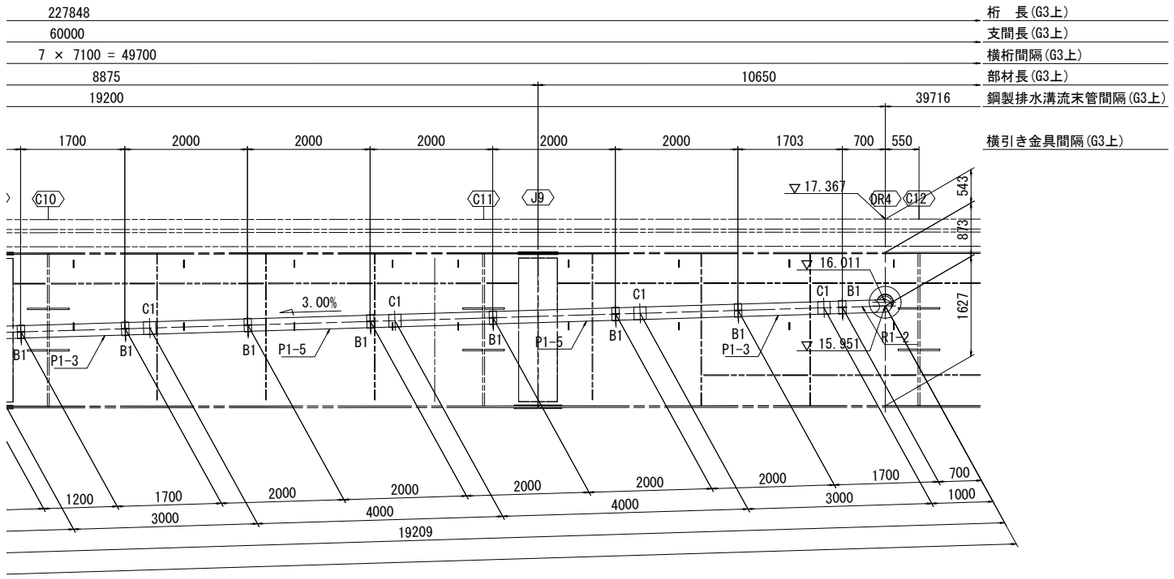
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

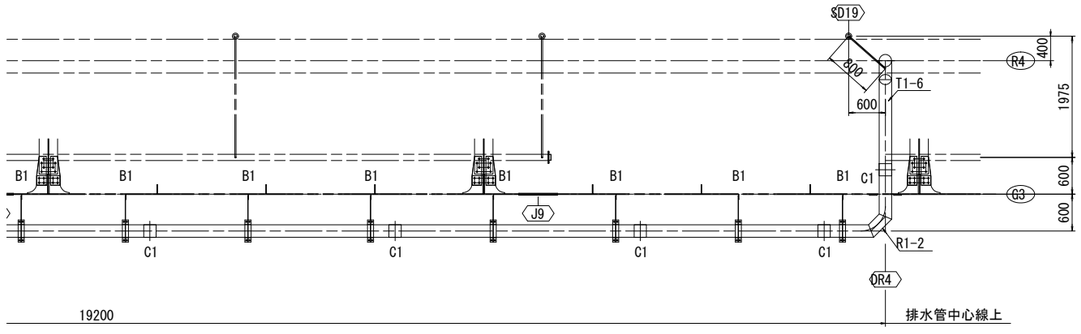
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(6)
縮尺	S=1:50　図面番号　178 の 101
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋上部構造排水装置(7)　S=1:50

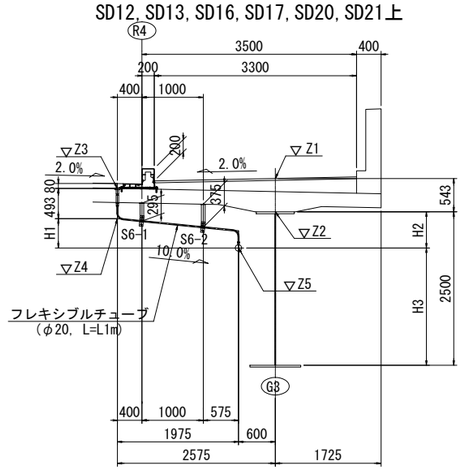
P1-P2間(4/4)



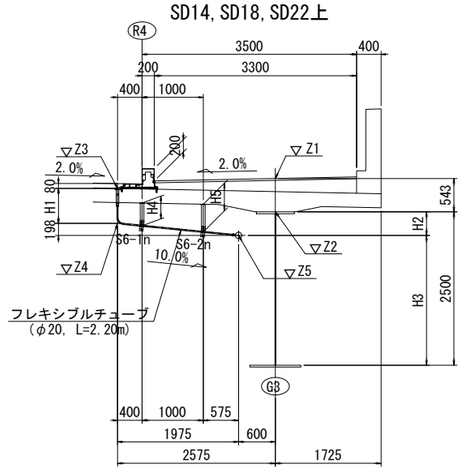


断面図

SD12, SD13, SD16, SD17, SD20, SD21上



SD14, SD18, SD22上



(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	L1
SD12	17.336	16.793	17.175	16.682	16.120	2.50
SD13	17.342	16.799	17.181	16.688	16.270	2.40
SD16	17.357	16.814	17.196	16.703	16.166	2.50
SD17	17.361	16.818	17.200	16.707	16.316	2.40
SD20	17.369	16.826	17.207	16.714	16.203	2.50
SD21	17.370	16.827	17.209	16.716	16.353	2.20

(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5
SD14	17.348	16.805	17.186	16.618	16.420
SD18	17.364	16.821	17.203	16.664	16.466
SD22	17.371	16.828	17.210	16.701	16.503

(mm)

	H1	H2	H3
SD12	561	673	1827
SD13	418	529	1971
SD16	537	648	1852
SD17	391	502	1998
SD20	511	623	1877
SD21	363	474	2026

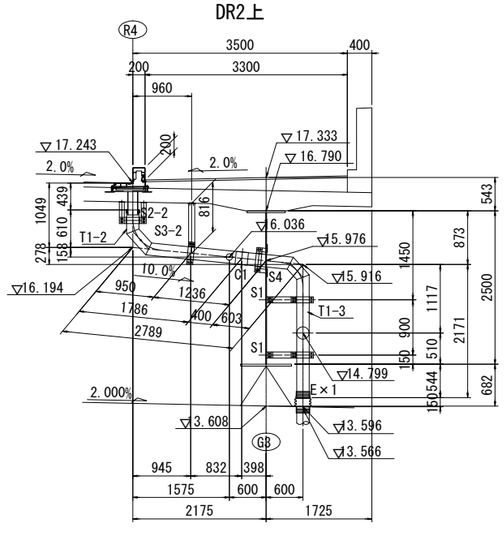
(mm)

	H1	H2	H3	H4	H5
SD14	648	384	2116	371	451
SD18	619	355	2145	341	421
SD22	589	325	2175	311	391

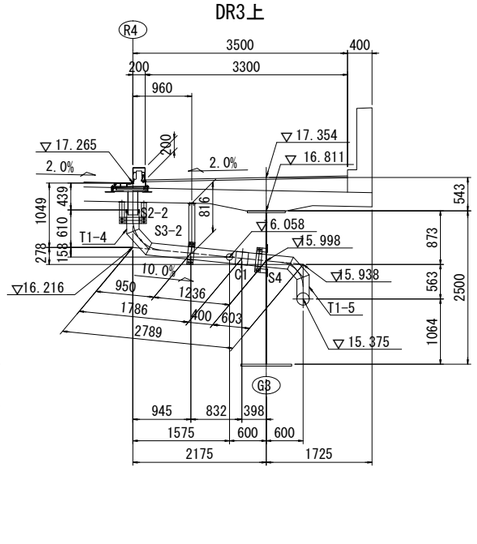
	S6-1n	S6-2n
SD14	S6-3	S6-4
SD18	S6-5	S6-6
SD22	S6-7	S6-8

断面図

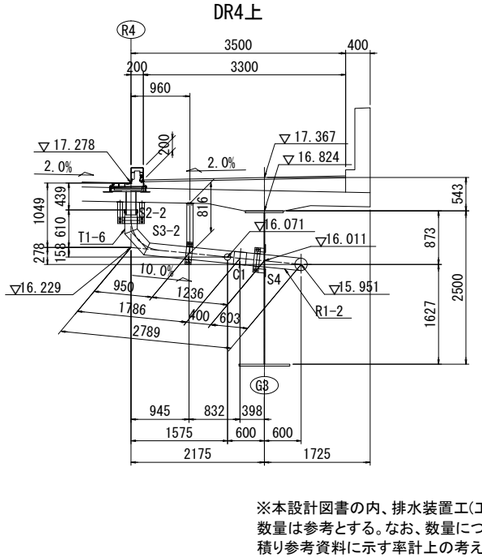
DR2上



DR3上



DR4上



※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

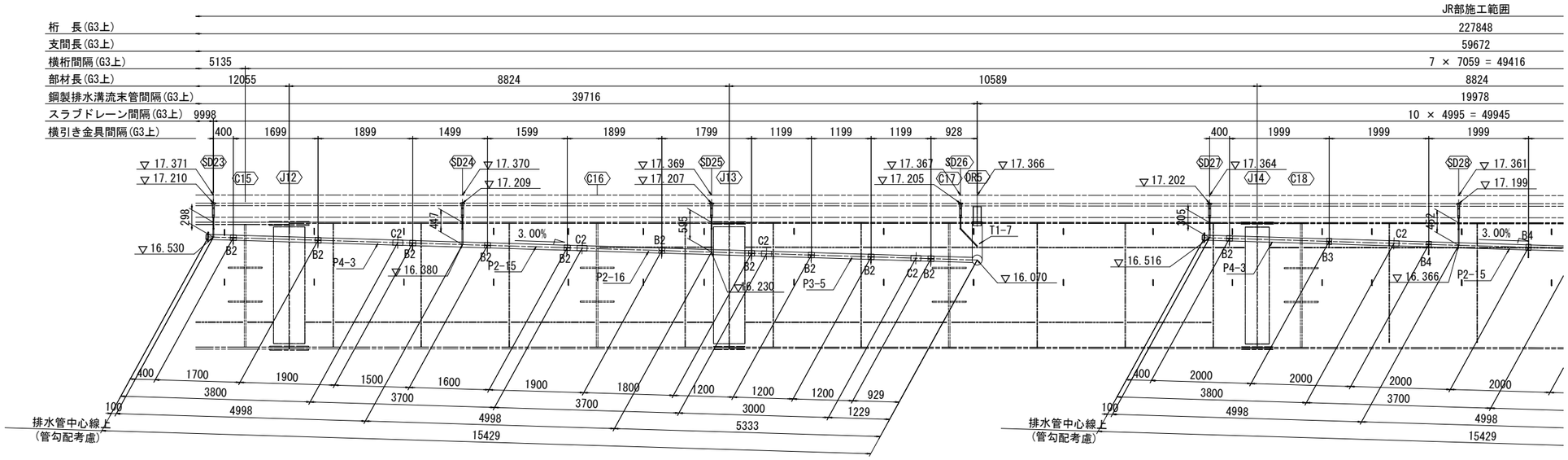
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

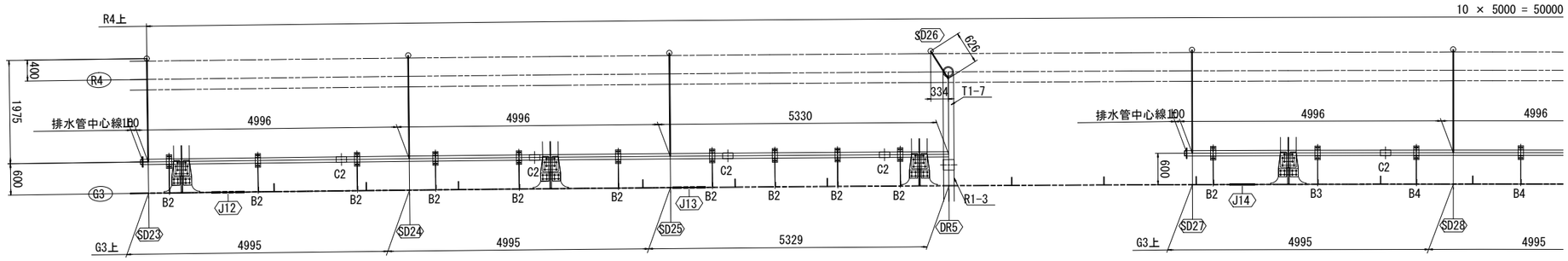
注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(7)
縮尺	S=1:50　図面番号　178 の 102
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋上部構造排水装置(8)　S=1:50

P2-P3間(1/4)





直管

P2-15:	L=3.700m	2 箇所
P2-16:	L=3.700m	1 箇所
P2-17:	L=4.000m	1 箇所
P2-18:	L=3.700m	1 箇所
P2-19:	L=3.500m	1 箇所
P3-1 :	L=3.200m	1 箇所
P3-5 :	L=3.000m	1 箇所
P3-6 :	L=3.700m	1 箇所
P4-3 :	L=3.800m	2 箇所
P4-4 :	L=2.361m	1 箇所

TSカップリング

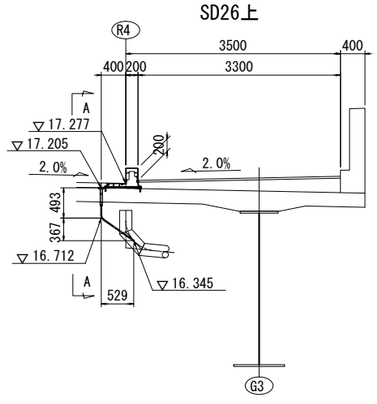
C2 :	12	箇所

取付金具

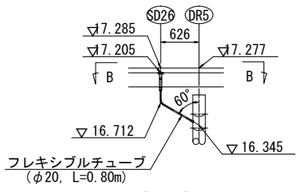
B2	: 25	箇所
B3	: 1	箇所
B4	: 2	箇所
S6-1	: 6	箇所
S6-2	: 6	箇所
S6-9	: 1	箇所
S6-10:	1	箇所
S6-11:	1	箇所
S6-12:	1	箇所
S6-13:	1	箇所
S6-14:	1	箇所

断面図

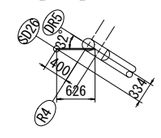
SD26上



A － A



B － B



※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

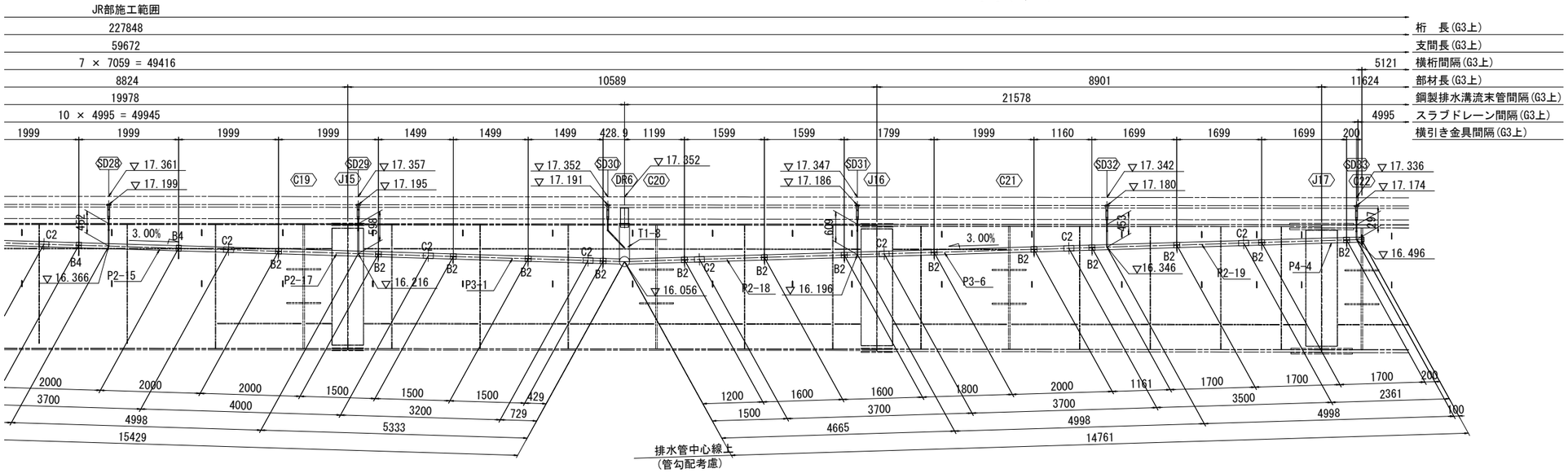
注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

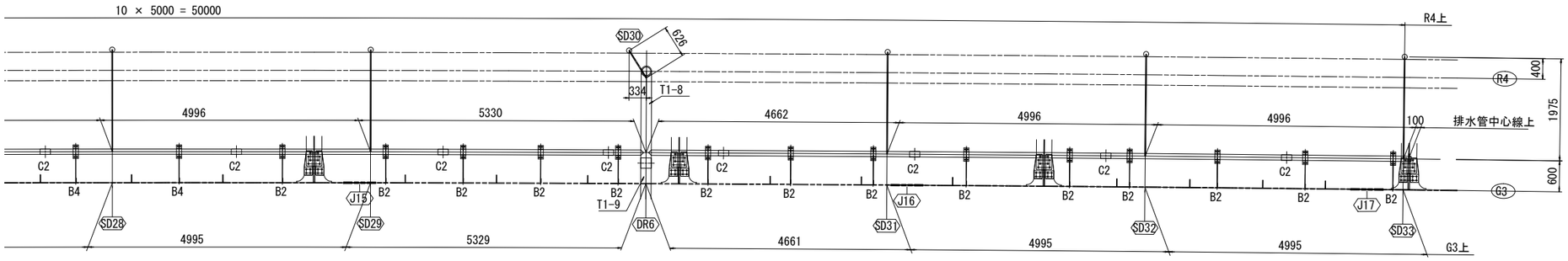
(指定部分)

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(8)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 103
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

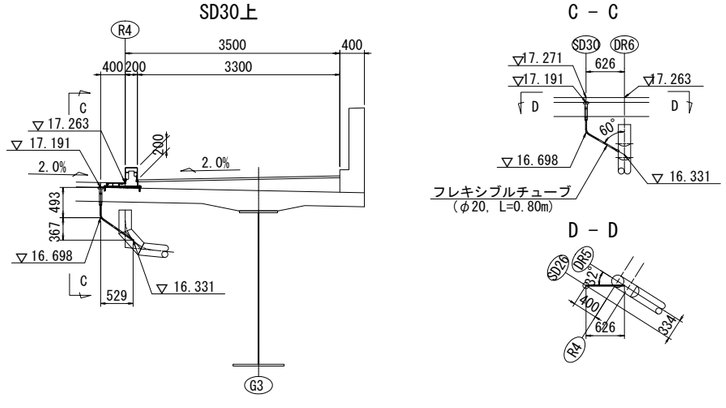
東田中高架橋上部構造排水装置(9)　S=1:50

P2-P3間(2/4)





断面図



注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(9)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 104
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

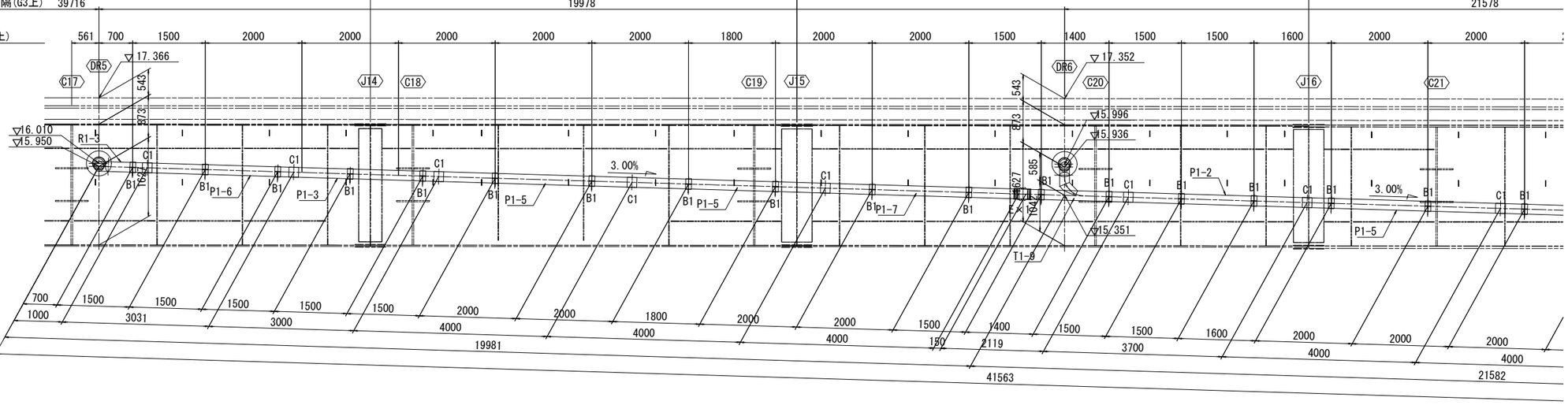
東田中高架橋上部構造排水装置(10)　S=1:50

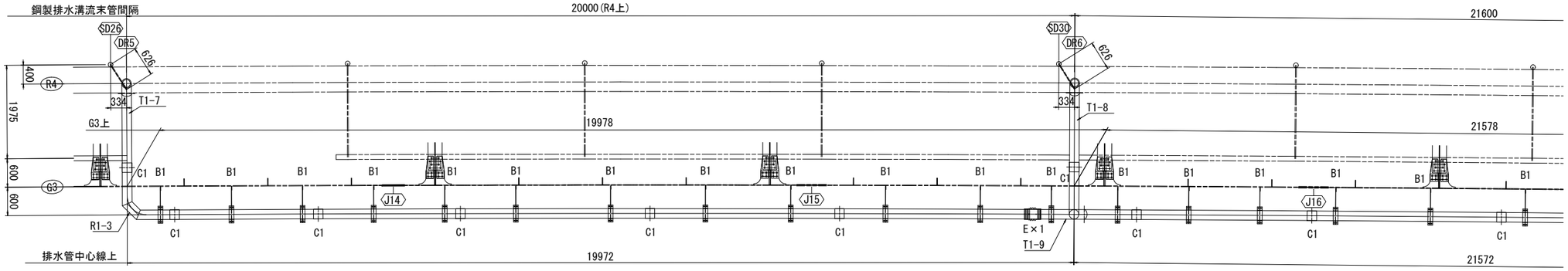
P2-P3間(3/4)

JR部施工範囲

桁　長(G3上)	227848
支間長(G3上)	59672
横桁間隔(G3上)	7 × 7059 = 49416
部材長(G3上)	8901
鋼製排水溝流末管間隔(G3上)	21578

横引き金具間隔(G3上)





直管

P1-2 ：	L=3.700m	1 箇所
P1-3 ：	L=3.000m	1 箇所
P1-5 ：	L=4.000m	5 箇所
P1-6 ：	L=3.301m	1 箇所
P1-7 ：	L=4.000m	1 箇所
P1-8 ：	L=3.612m	1 箇所

加工管

T1-7 ：	1	箇所
T1-8 ：	1	箇所
T1-9 ：	1	箇所
T1-10：	1	箇所
T1-11：	1	箇所
R1-3 ：	1	箇所

TSカップリング

C1 ： 13 箇所

取付金具

B1 ：	24	箇所
S1 ：	1	箇所
S2-2 ：	3	箇所
S3-2 ：	3	箇所
S4 ：	3	箇所

伸縮継手

E×1 ： 3 箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

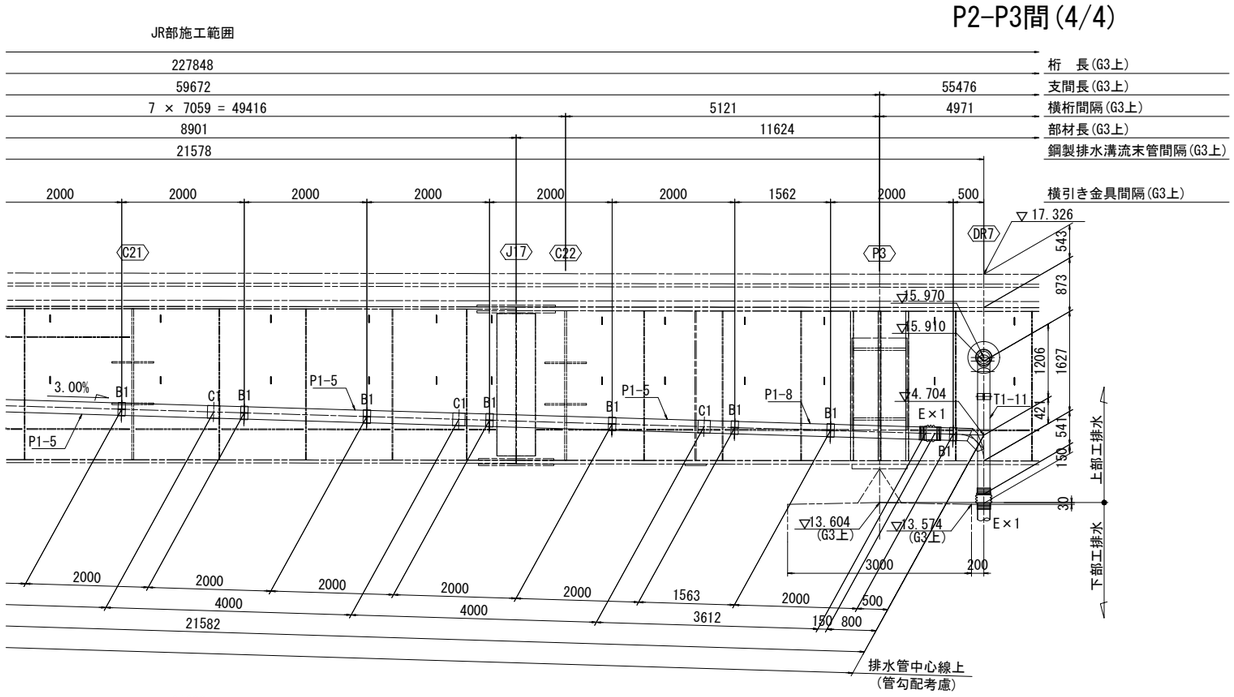
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(10)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 105
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

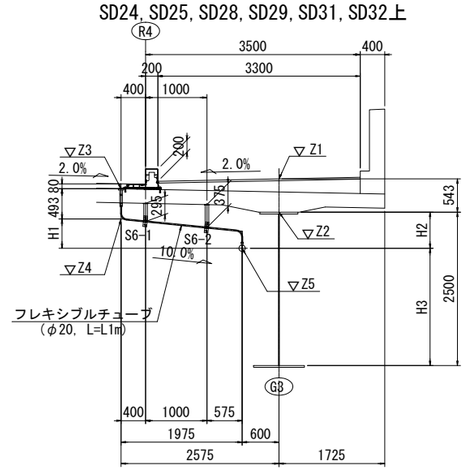
東田中高架橋上部構造排水装置(11)　S=1:50

P2-P3間(4/4)

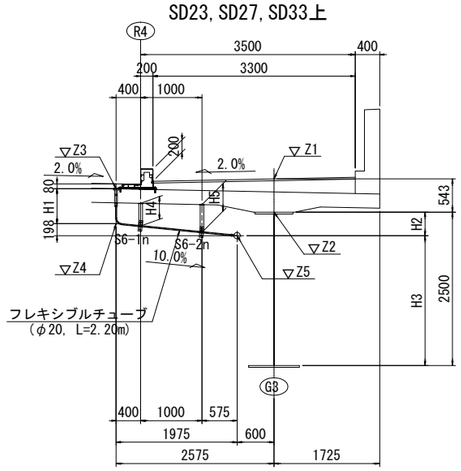


断面図

SD24, SD25, SD28, SD29, SD31, SD32上



SD23, SD27, SD33上



(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	L1
SD24	17.370	16.827	17.209	16.716	16.380	2.30
SD25	17.369	16.826	17.207	16.714	16.230	2.50
SD28	17.361	16.818	17.199	16.706	16.366	2.30
SD29	17.357	16.814	17.195	16.702	16.216	2.50
SD31	17.347	16.804	17.186	16.693	16.196	2.50
SD32	17.342	16.799	17.180	16.687	16.346	2.30

(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5
SD23	17.371	16.828	17.210	16.728	16.530
SD27	17.364	16.821	17.202	16.713	16.516
SD33	17.336	16.793	17.174	16.693	16.496

(mm)

	H1	H2	H3
SD24	336	447	2053
SD25	484	595	1905
SD28	340	452	2048
SD29	486	598	1902
SD31	497	609	1891
SD32	341	453	2047

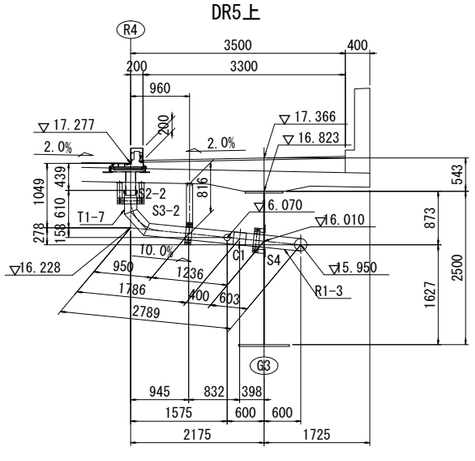
(mm)

	H1	H2	H3	H4	H5
SD23	562	298	2202	284	364
SD27	569	305	2195	291	371
SD33	561	297	2203	283	363

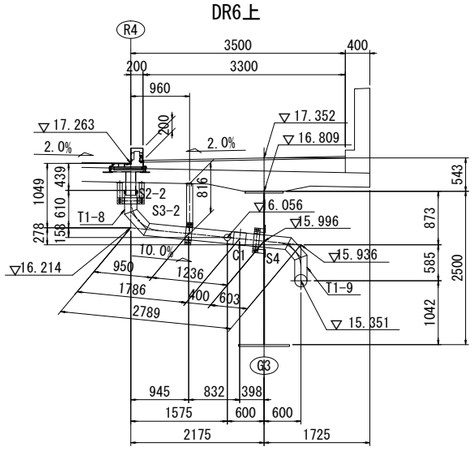
	S6-1n	S6-2n
SD23	S6-9	S6-10
SD27	S6-11	S6-12
SD33	S6-13	S6-14

断面図

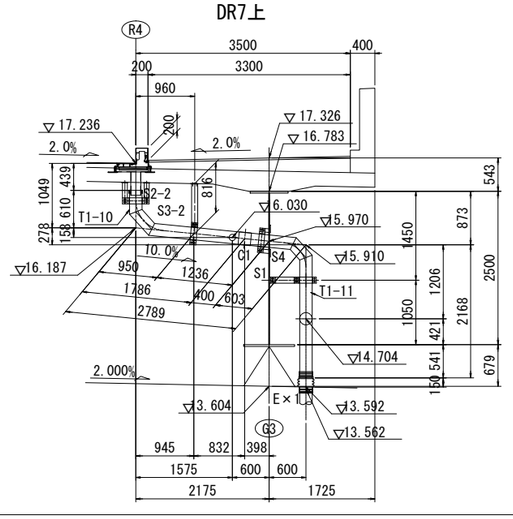
DR5上



DR6上



DR7上



注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

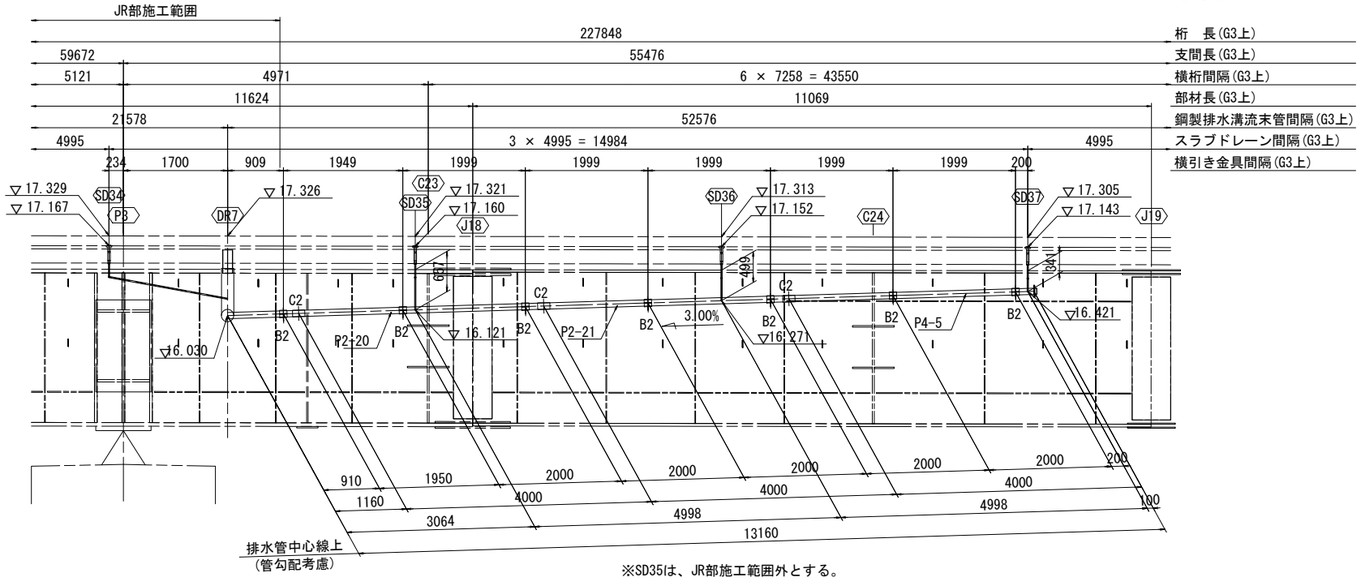
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

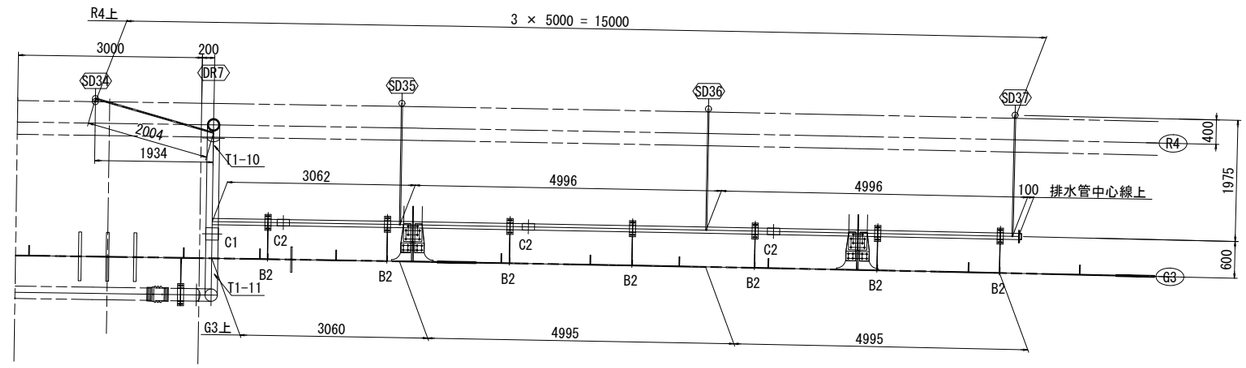
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(11)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 106
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(12)　S=1:50

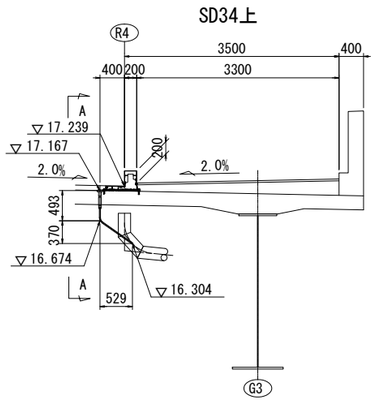
P3-A2間(1/3)

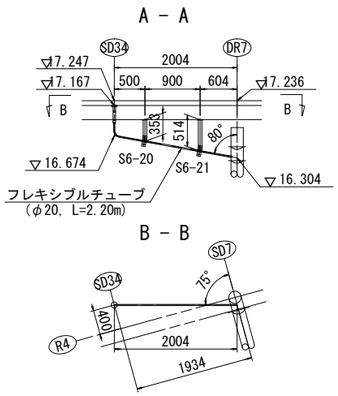


※SD35は、JR部施工範囲外とする。

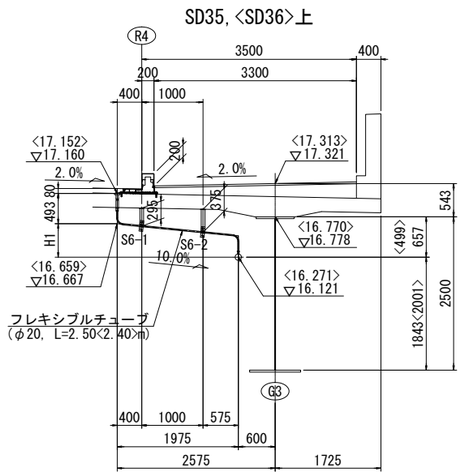


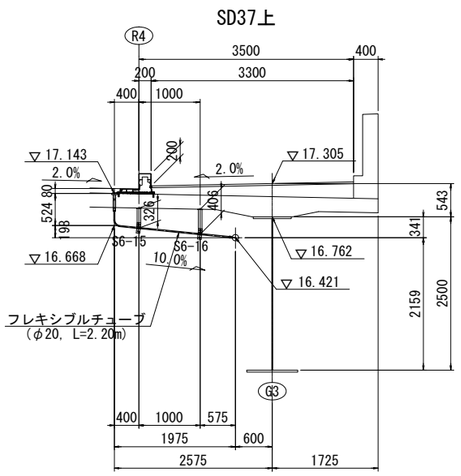
断面図





断面図





直管

P2-20:	L=4.000m	1 箇所
P2-21:	L=4.000m	1 箇所
P4-5 :	L=4.000m	1 箇所

TSカップリング

C2 :	3	箇所

取付金具

B2 :	7	箇所
S6-1 :	2	箇所
S6-2 :	2	箇所
S6-15:	1	箇所
S6-16:	1	箇所
S6-20:	1	箇所
S6-21:	1	箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

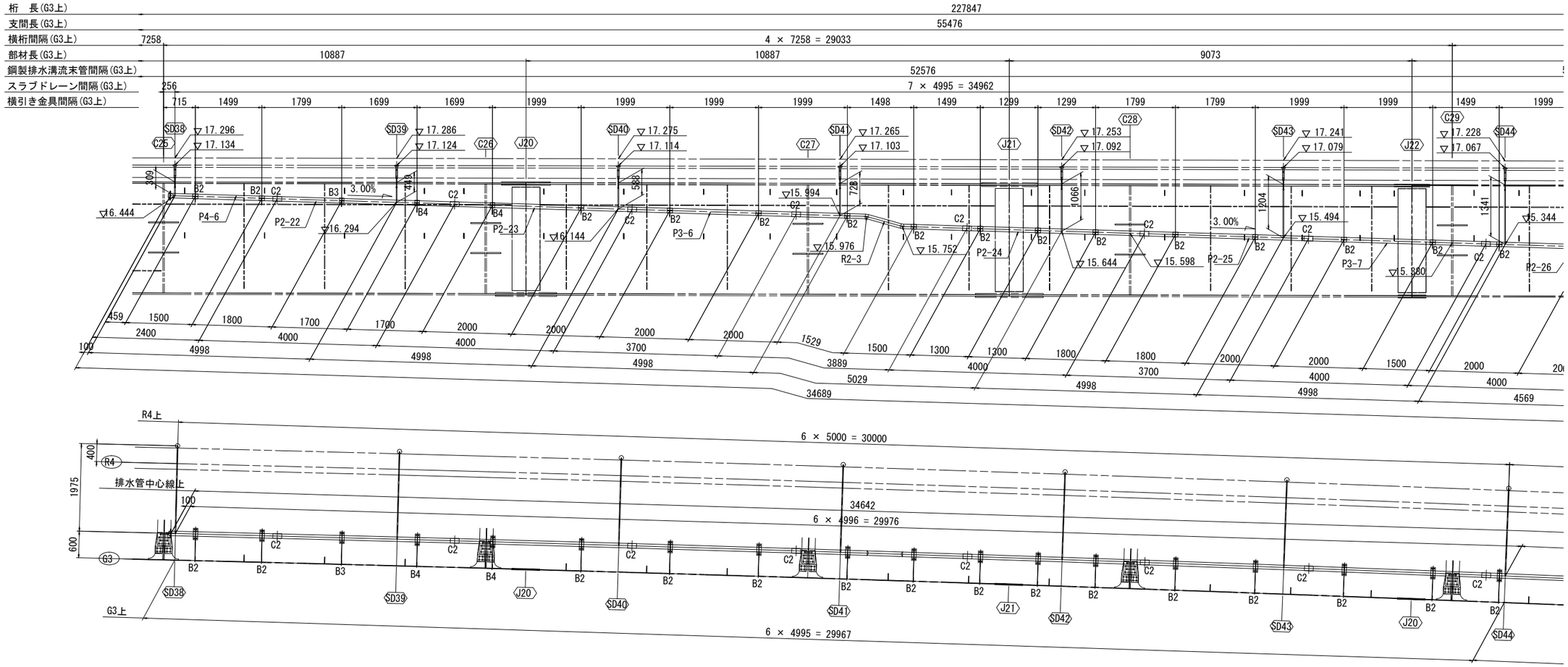
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(12)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 107
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(13) S=1:50

P3-A2間(2/3)



直管

P2-22:	L=4.000m	1 箇所
P2-23:	L=4.000m	1 箇所
P2-24:	L=4.000m	1 箇所
P2-25:	L=3.700m	1 箇所
P2-26:	L=4.000m	1 箇所
P3-6 :	L=3.700m	1 箇所
P3-7 :	L=4.000m	1 箇所
P4-6 :	L=2.400m	1 箇所

加工管

T1-12:	1	箇所
R1-4 :	1	箇所
R2-3 :	1	箇所

TSカップリング

C1 :	1	箇所
C2 :	9	箇所

取付金具

B2	: 17	箇所
B3	: 1	箇所
B4	: 2	箇所
S1	: 2	箇所
S2-1	: 1	箇所
S3-1	: 1	箇所
S5	: 3	箇所
S6-1	: 7	箇所
S6-2	: 7	箇所

伸縮継手

E×1 : 1 箇所

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

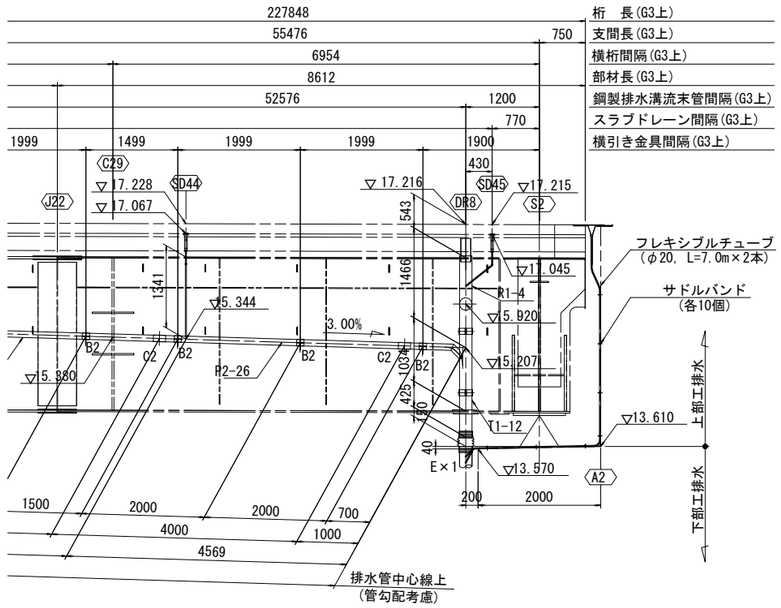
※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

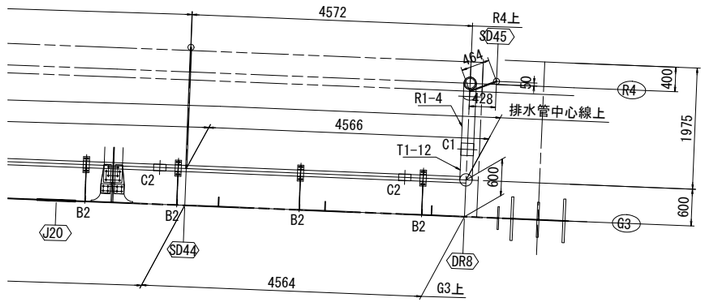
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(13)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 108
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(14)　S=1:50

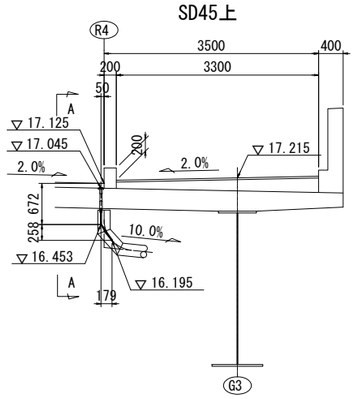
P3-A2間(3/3)



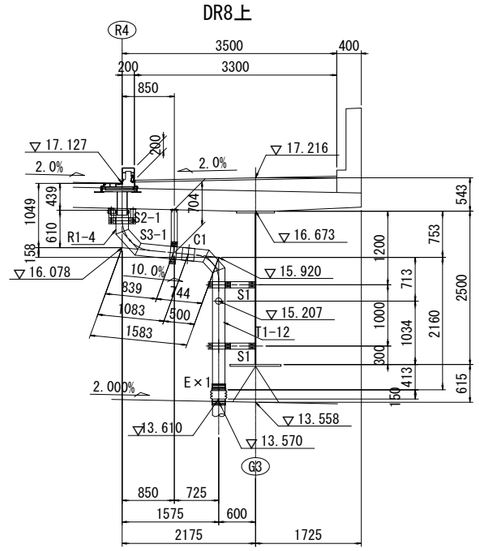


端部断面図

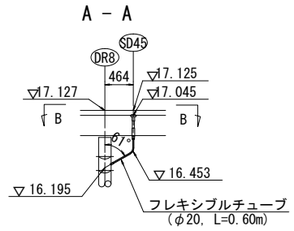
SD45上



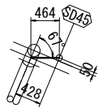
DR8上



A－A

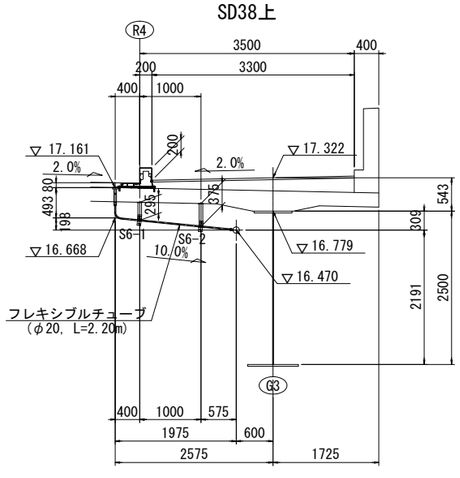


B－B

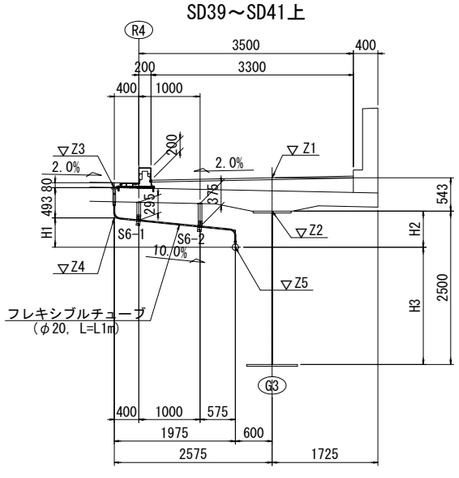


断面図

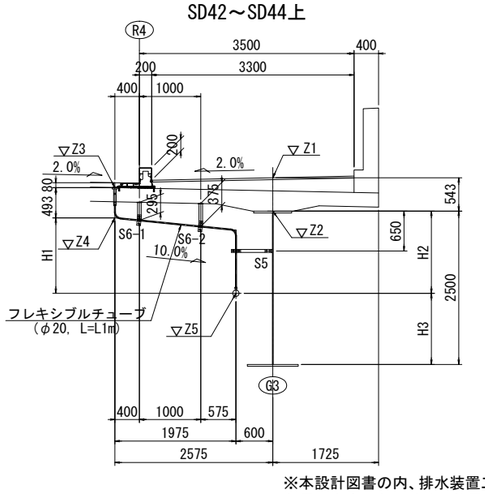
SD38上



SD39～SD41上



SD42～SD44上



(m)

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	L1
SD39	17.286	16.743	17.124	16.631	16.294	2.20
SD40	17.275	16.732	17.114	16.621	16.144	2.40
SD41	17.265	16.722	17.103	16.610	15.994	2.60
SD42	17.253	16.71	17.092	16.599	15.644	2.90
SD43	17.241	16.698	17.079	16.586	15.494	3.10
SD44	17.228	16.685	17.067	16.574	15.344	3.20

(mm)

	H1	H2	H3
SD39	337	449	2051
SD40	477	588	1912
SD41	616	728	1772
SD42	955	1066	1434
SD43	1092	1204	1296
SD44	1230	1341	1159

注記
1. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
2. 伸縮装置排水ホースからの流末処理については
　下部工との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

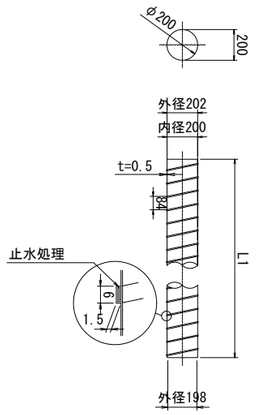
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(14)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 109
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(15)

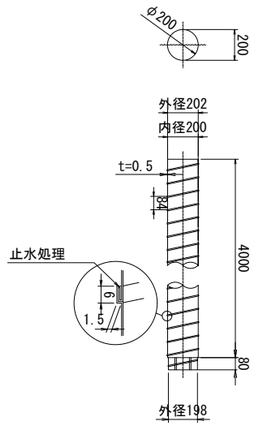
スパイラル直管詳細図　S=1:20

P1-1, P1-4, P1-8
（製作数：各1）



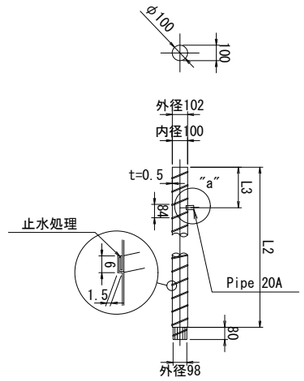
	L1
P1-1	3200
P1-4	3258
P1-8	3612

P1-2, P1-3, P1-5～P1-7
（製作数：n）



	L1	n
P1-2	3700	4
P1-3	3000	4
P1-5	4000	7
P1-6	3301	1
P1-7	4000	1

P2-1～P2-26
（製作数：n）

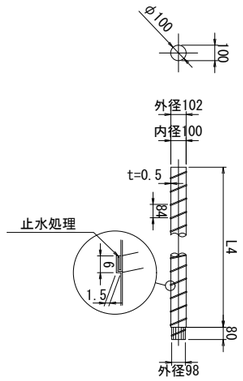


	L2	L3	n
P2-1	4000	298	1
P2-2	4000	3591	1
P2-3	3200	1789	1
P2-4	4000	787	1
P2-5	2729	1809	1
P2-6	3700	507	1
P2-7	3200	2704	1
P2-8	3700	1402	1
P2-9	3000	1204	1
P2-10	2500	1502	1
P2-11	3000	648	1
P2-12	3000	1502	1
P2-13	3700	548	1
P2-14	3500	1152	1
P2-15	3700	1298	2
P2-16	3700	2596	1
P2-17	4000	2596	1

	L2	L3	n
P2-18	3700	536	1
P2-19	3500	2737	1
P2-20	4000	2096	1
P2-21	4000	1098	1
P2-22	4000	2691	1
P2-23	4000	3689	1
P2-24	4000	2134	1
P2-25	3700	3133	1
P2-26	4000	432	1

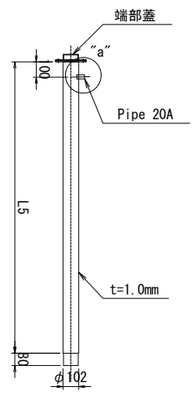
ステンレス加工管詳細図　S=1:20

P3-1～P3-7
（製作数：n）



	L4	n
P3-1	3200	2
P3-2	2800	1
P3-3	2856	1
P3-4	2456	1
P3-5	3000	1
P3-6	3700	2
P3-7	4000	1

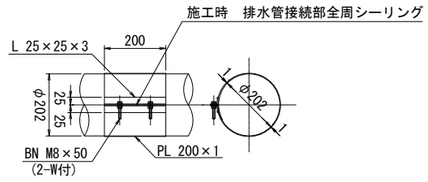
P4-1～P4-6
（製作数：n）



	L5	n
P4-1	3700	1
P4-2	3600	3
P4-3	3800	2
P4-4	2361	1
P4-5	4000	1
P4-6	2400	1

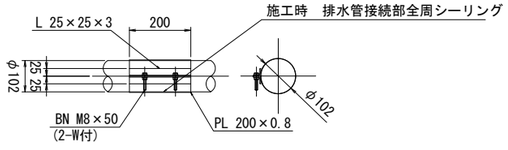
TSカップリング詳細図　S=1:10

C1（製作数：28）



2 - L 25 x 25 x 3 x 200
1 - PL 200 x 1 x 710
2 - BN M8 x 50 （2-W付）

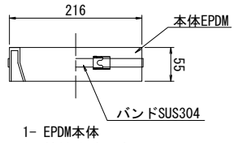
C2（製作数：48）



2 - L 25 x 25 x 3 x 200
1 - PL 200 x 0.8 x 370
2 - BN M8 x 50 （2-W付）

桝接続継手詳細　S=1:5

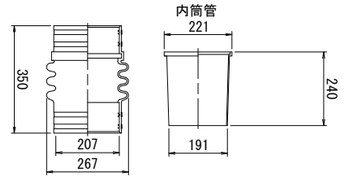
φ200用
（製作数：8）

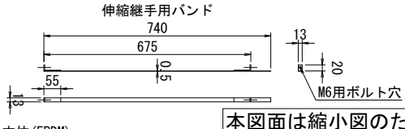


1- EPDM本体
1- 締付けバンド
1- 径合わせゴム

伸縮管詳細図　S=1:10

EX1（製作数：8）

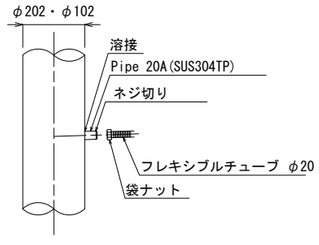




1-本体(EPDM)
4-FB　13x0.5x740（伸縮管用バンド）
4-BN　M6x50（2-W付）

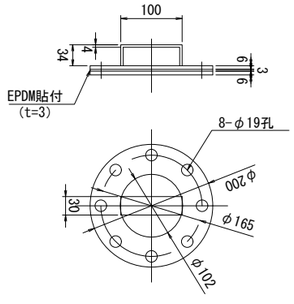
"a"部詳細図　S=1:10

フレキシブルチューブ差込み口



端部蓋詳細図　S=1:5

（製作数：9）



2-PL φ200x6(SUS304)
1-PL 30x4x160(SUS304)
8－BN M16x45 (2-W付)(SUS304)
1-EPDM φ200x3

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

注記
1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. 排水装置は、TSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。
5. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
6. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

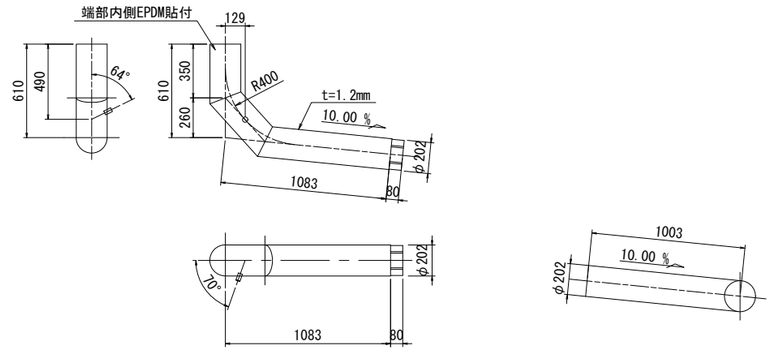
（指定部分）

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(15)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 110
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

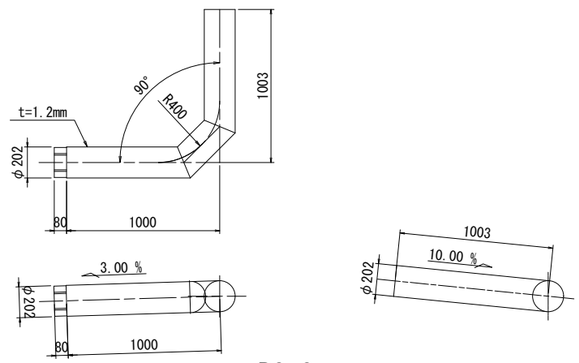
東田中高架橋上部構造排水装置(16)

S=1:20

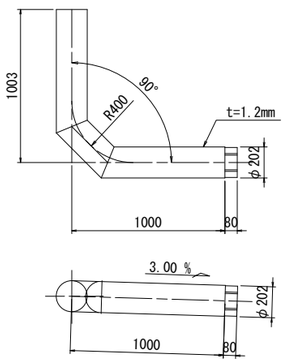
R1-1
(製作数：1)



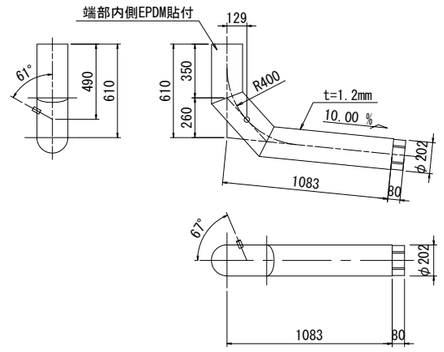
R1-2
(製作数：1)



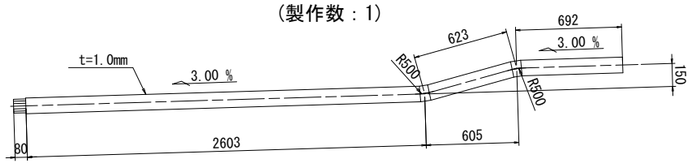
R1-3
(製作数：1)



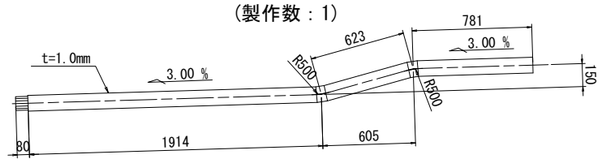
R1-4
(製作数：1)



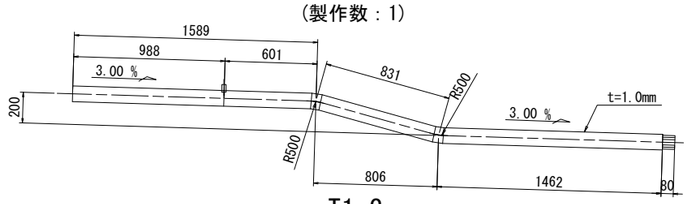
R2-1
(製作数：1)



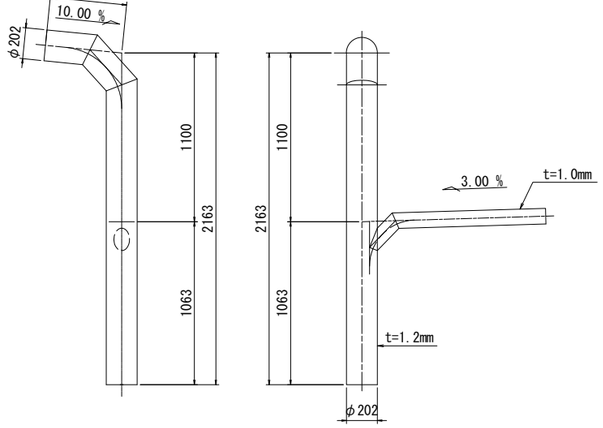
R2-2
(製作数：1)



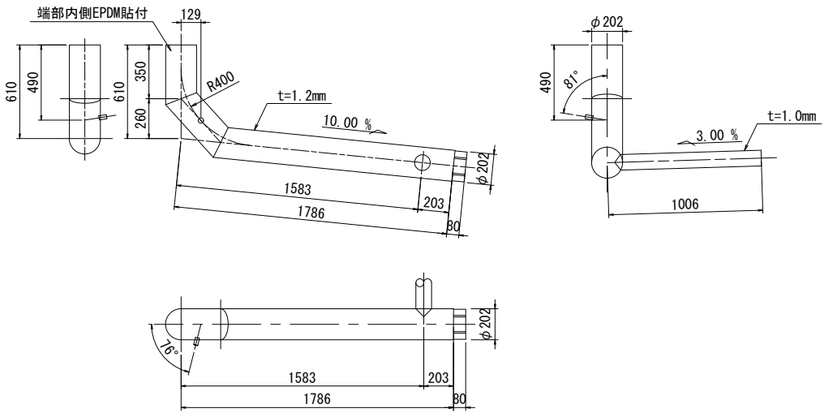
R2-3
(製作数：1)



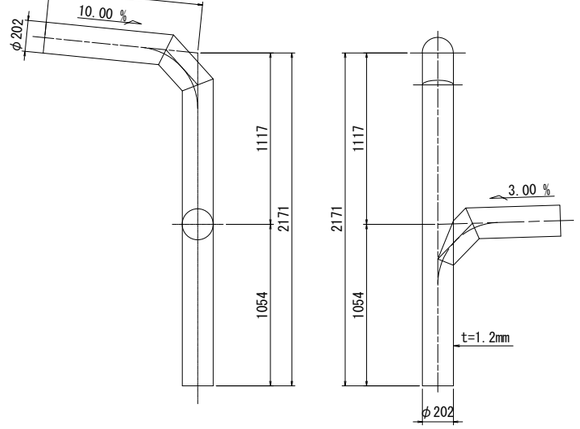
T1-1
(製作数：1)



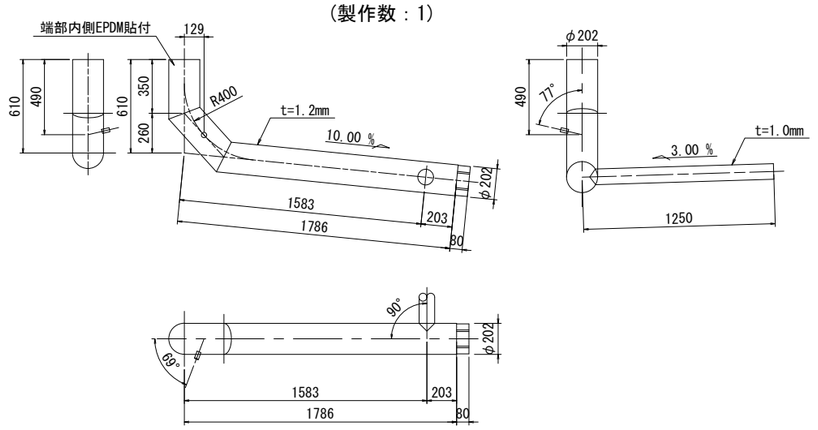
T1-2
(製作数：1)



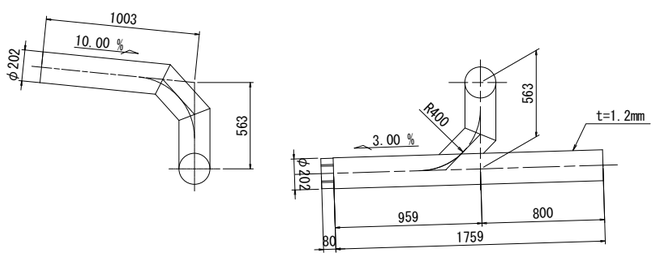
T1-3
(製作数：1)



T1-4
(製作数：1)



T1-5
(製作数：1)



注記
1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. 排水装置は、TSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。
5. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
6. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

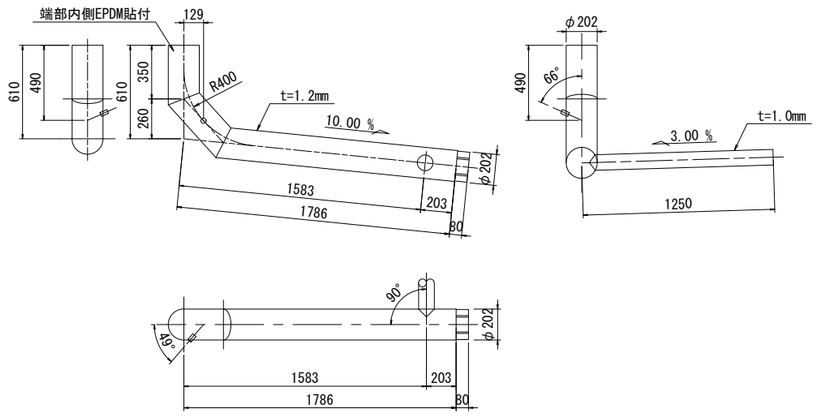
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(16)		
縮尺	S=1:20	図面番号	178 の 111
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(17)

S=1:20

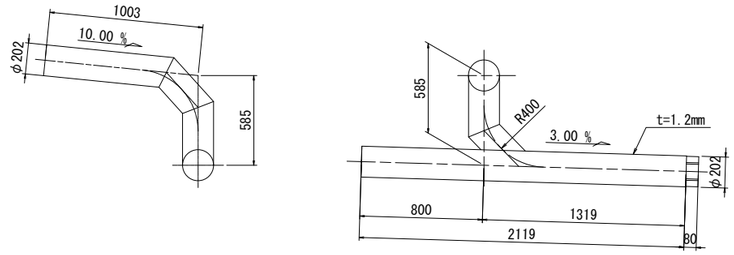
T1-6

(製作数：1)



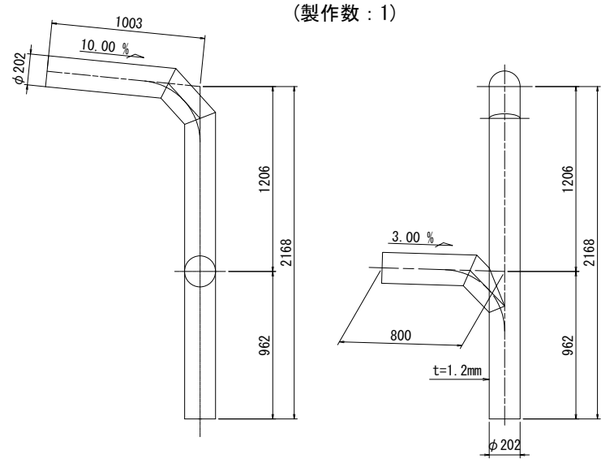
T1-9

(製作数：1)



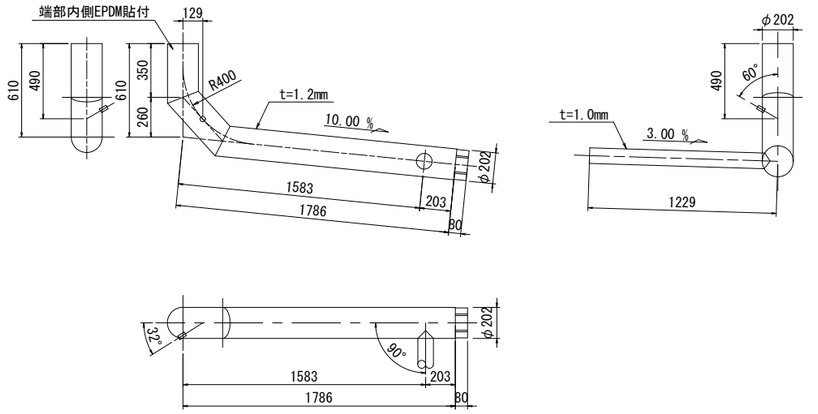
T1-11

(製作数：1)



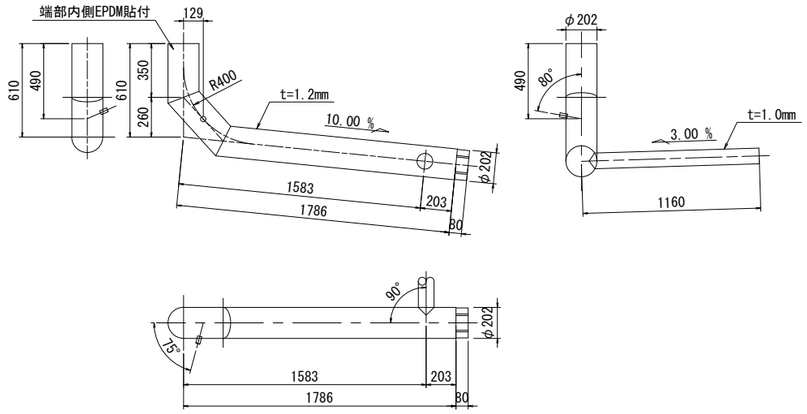
T1-7

(製作数：1)



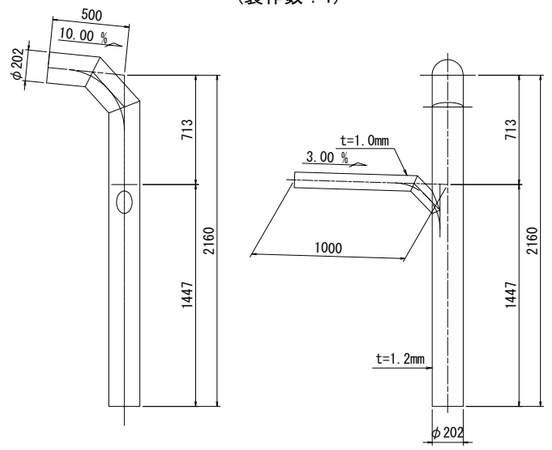
T1-10

(製作数：1)



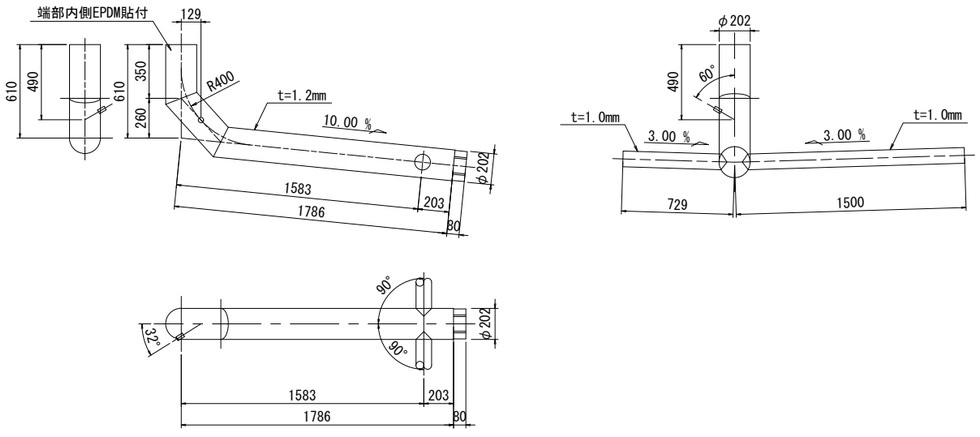
T1-12

(製作数：1)



T1-8

(製作数：1)



注記

1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. 排水装置は、TSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。
5. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
6. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(17)		
縮尺	S=1:20	図面番号	178 の 112
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

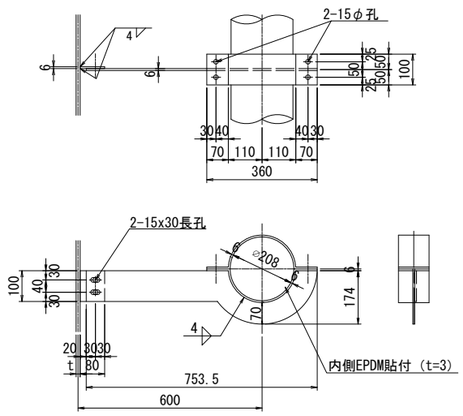
東田中高架橋上部構造排水装置(18)

S=1:10

TSステンレス排水装置

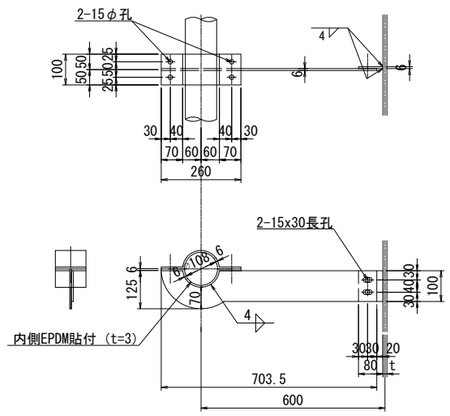
取付金具詳細図

B1
(製作数：47)



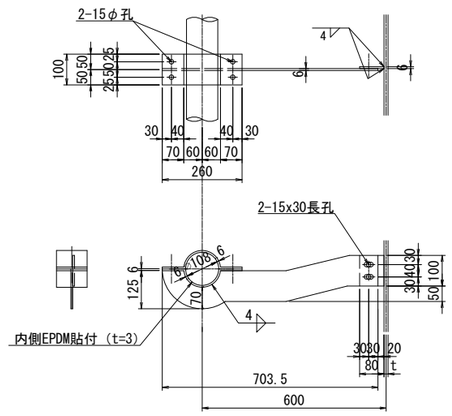
1箇所当たり
2-PL 100x6x476
1-PL 174x6x754
※ 1-PL 100x6x80(SMA400AW)
6-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-EPDM 100x3x300

B2
(製作数：98)



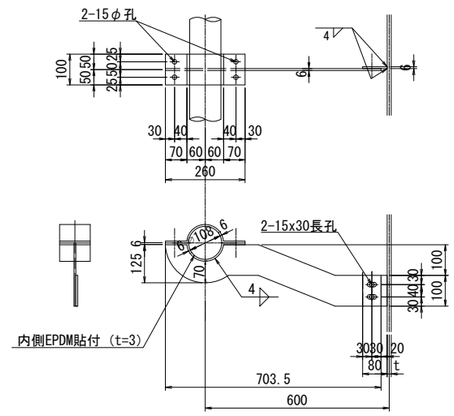
1箇所当たり
2-PL 100x6x319
1-PL 125x6x704
※ 1-PL 100x6x80(SMA400AW)
6-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-EPDM 100x3x150

B3
(製作数：3)



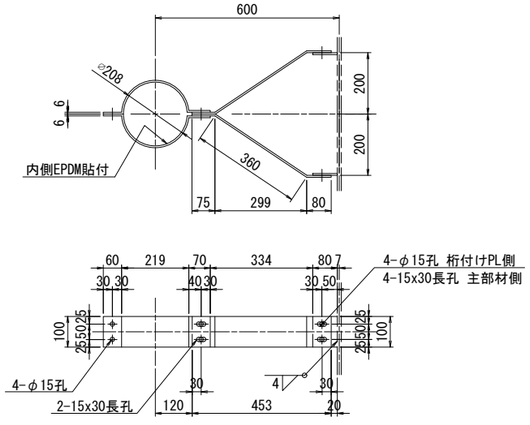
1箇所当たり
2-PL 100x6x319
1-PL 175x6x704
※ 1-PL 100x6x80(SMA400AW)
6-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-EPDM 100x3x150

B4
(製作数：8)



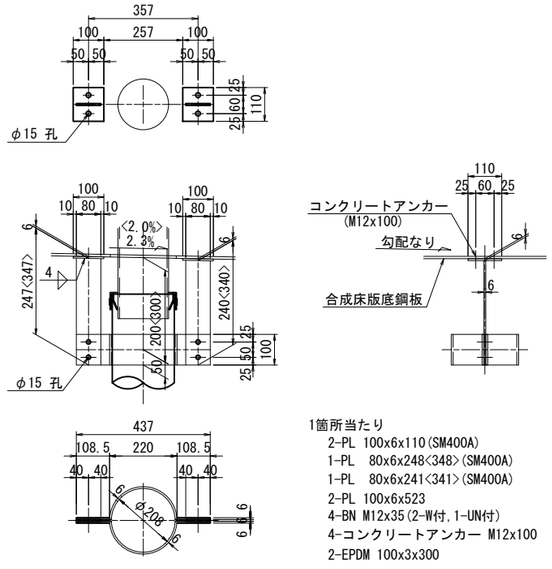
1箇所当たり
2-PL 100x6x319
1-PL 200x6x704
※ 1-PL 100x6x80(SMA400AW)
6-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-EPDM 100x3x150

S1
(製作数：7)



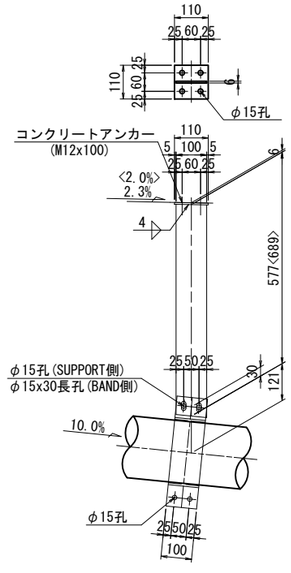
1箇所当たり
2-PL 100x6x460
2-PL 100x6x690
※ 2-PL 100x6x 80(SMA400AW)
6-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-BN M12x40(2-W付,1-UN付)
2-EPDM 100x3x300

S2-1,<S2-2>
(製作数：2<6>)

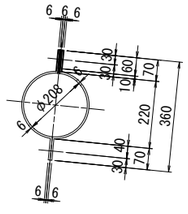


1箇所当たり
2-PL 100x6x110(SM400A)
1-PL 80x6x248<348>(SM400A)
1-PL 80x6x241<341>(SM400A)
2-PL 100x6x523
4-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
4-コンクリートアンカー M12x100
2-EPDM 100x3x300

S3-1,<S3-2>
(製作数：2<6>)



1箇所当たり
1-PL 110x6x110(SM400A)
1-PL 100x6x583<695>(SM400A)
2-PL 100x6x473
2-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
2-BN M12x40(2-W付,1-UN付)
4-コンクリートアンカー M12x100
2-EPDM 100x3x300



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 排水装置は、TSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。
5. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
6. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

(指定部分)

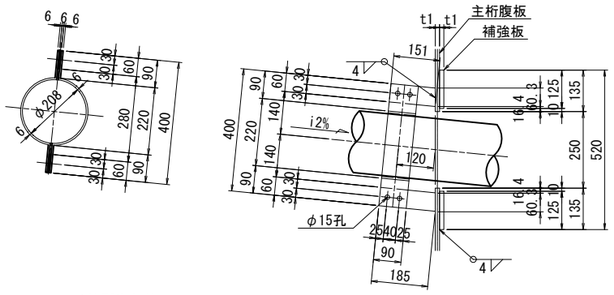
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(18)		
縮尺	S=1:10	図面番号	178 の 113
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造排水装置(19)

TSステンレス排水装置　S=1:10

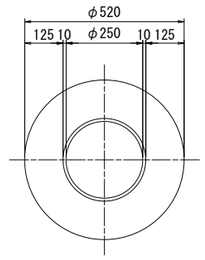
取付金具詳細図

S4
（製作数：6）



1箇所当たり
- 2-FB　50x6x594
- ※ 1-PL　50x6x138(SMA400AW)
- ※ 1-PL　50x6x154(SMA400AW)
- 4-BN M12x40(2-W付,1-UN付)
- 2-EPDM 100x3x300

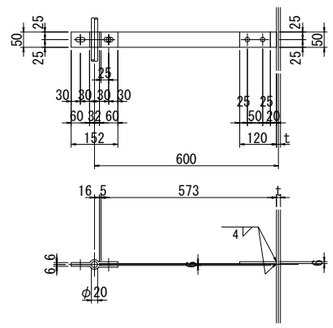
主桁貫通孔用補強板詳細
DR2～DR7
（製作数：各1）



1箇所当たり
- ※ 1-PL　φ520xt1(材質)

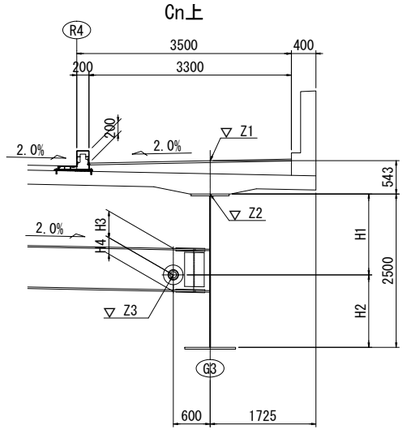
	t1	材質
DR2	15	SMA570W
DR3	13	SMA490AW
DR4	13	SMA490AW
DR5	13	SMA490AW
DR6	13	SMA490AW
DR7	15	SMA570W

S5
（製作数：8）



1箇所当たり
- 1-PL　50x6x573
- 2-PL　50x6x159
- ※ 1-PL　50x6x120(SMA400AW)
- 3-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
- 1-BN M12x40(2-W付,1-UN付)

断面図　S=1:50



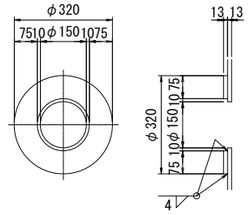
(m)

	Z1	Z2	Z3
C2	17.265	16.722	15.402
C3	17.281	16.738	15.633
C28	17.249	16.706	15.598
C29	17.231	16.688	15.380

(mm)

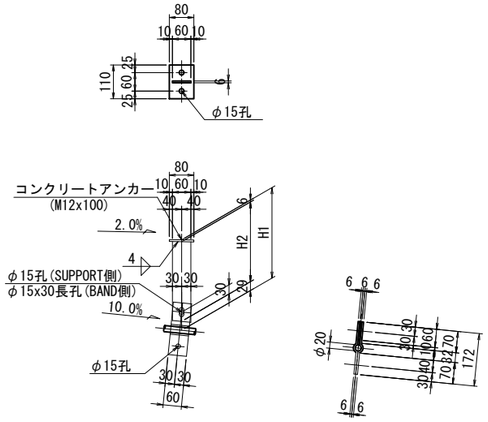
	H1	H2	H3	H4
C2	1320	1180	432	268
C3	1105	1395	217	483
C28	1108	1392	220	480
C29	1308	1192	420	280

中間横桁貫通孔用補強板詳細
C2,C3,C28,C29上
（製作数：各1）



1箇所当たり
- 1-PL　φ320x13(SMA400AW)

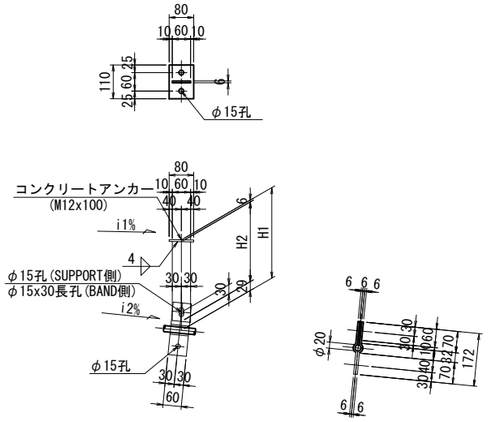
S6-1 ～ S6-16
（製作数：n）



	H1	H2	l1	n
S6-1	295	260	264	29
S6-2	375	340	344	29
S6-3	371	336	340	1
S6-4	451	416	420	1
S6-5	341	306	310	1
S6-6	421	386	390	1
S6-7	311	276	280	1
S6-8	391	356	360	1
S6-9	284	249	253	1
S6-10	364	329	333	1
S6-11	291	256	260	1
S6-12	371	336	340	1
S6-13	283	248	252	1
S6-14	363	328	332	1
S6-15	326	291	295	1
S6-16	406	371	375	1

1箇所当たり
- 1-PL　110x6x80(SM400A)
- 1-PL　100x6x11(SM400A)
- 2-PL　100x6x179
- 1-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
- 1-BN M12x40(2-W付,1-UN付)
- 2-コンクリートアンカー M12x100

S6-17 ～ S6-21
（製作数：各1）



	H1	H2	i1%	i2%	l2
S6-17	342	307	0.2	16.1%	312
S6-18	501	466	0.2	16.1%	471
S6-19	431	396	0.4	24.4%	401
S6-20	353	318	0.5	18.5%	323
S6-21	514	479	0.5	18.5%	484

1箇所当たり
- 1-PL　110x6x80(SM400A)
- 1-PL　100x6x12(SM400A)
- 2-PL　100x6x179
- 1-BN M12x35(2-W付,1-UN付)
- 1-BN M12x40(2-W付,1-UN付)
- 2-コンクリートアンカー M12x100

注記
1. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

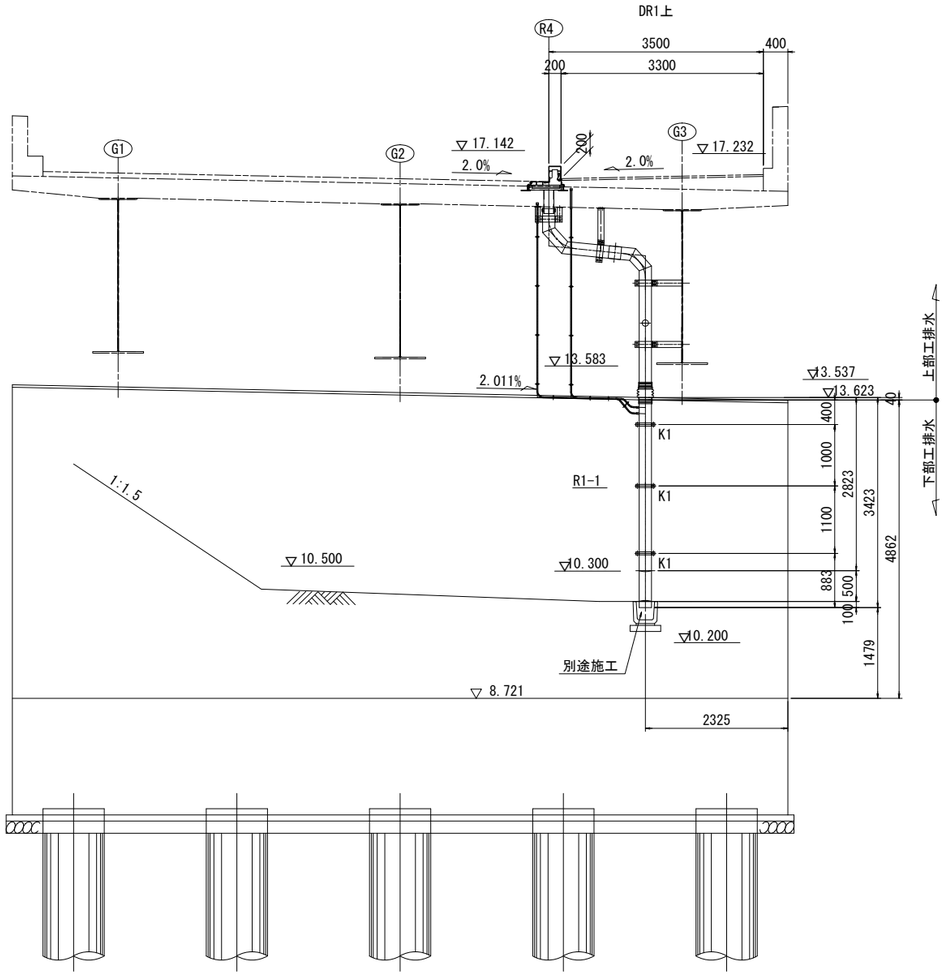
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

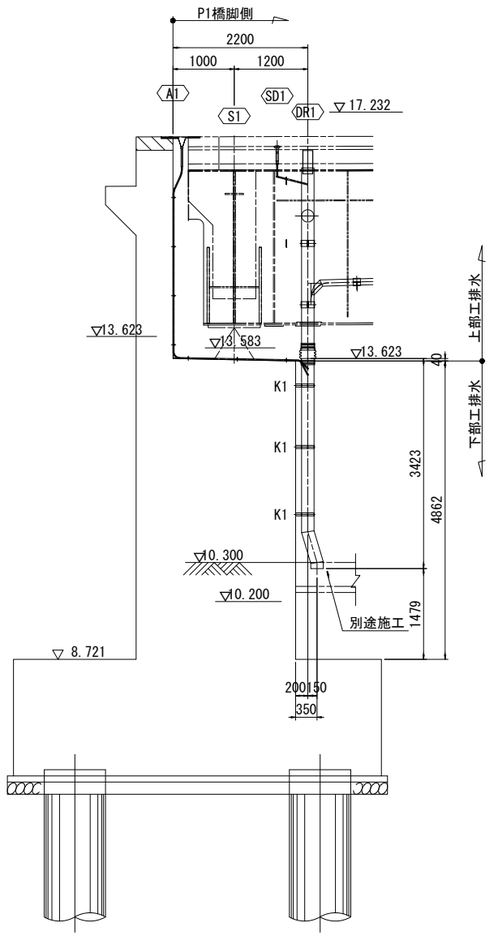
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造排水装置(19)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 114
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造排水装置(1)　S=1:50

A1橋台





加工管
R1-1 ： 1 箇所

取付金具
K1 ： 3 箇所

注記
1. 伸縮装置排水ホースからの流末処理については
下部工との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

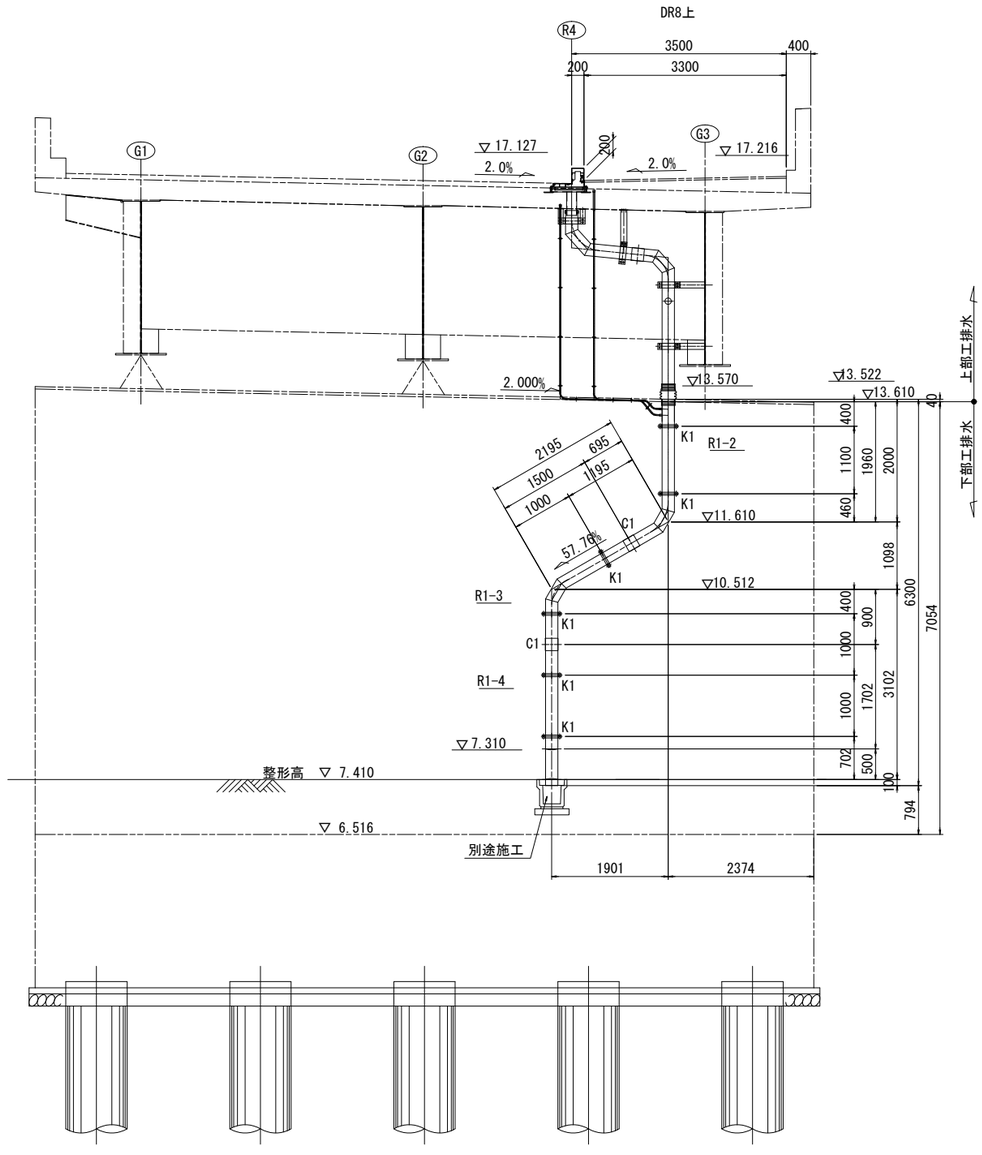
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

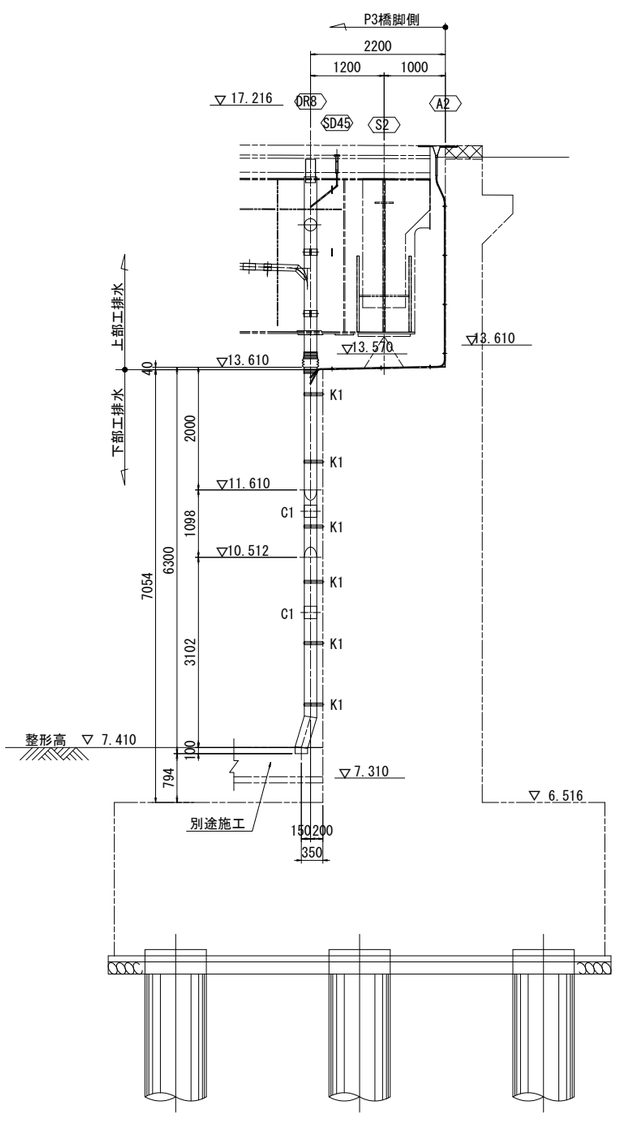
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造排水装置(1)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 115
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造排水装置(2)

S=1:50

A2橋台





加工管

R1-2 ： 1 箇所
R1-3 ： 1 箇所
R1-4 ： 1 箇所

TSカップリング

C1 ： 2 箇所

取付金具

K1 ： 6 箇所

注記

1. 伸縮装置排水ホースからの流末処理については
下部工との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

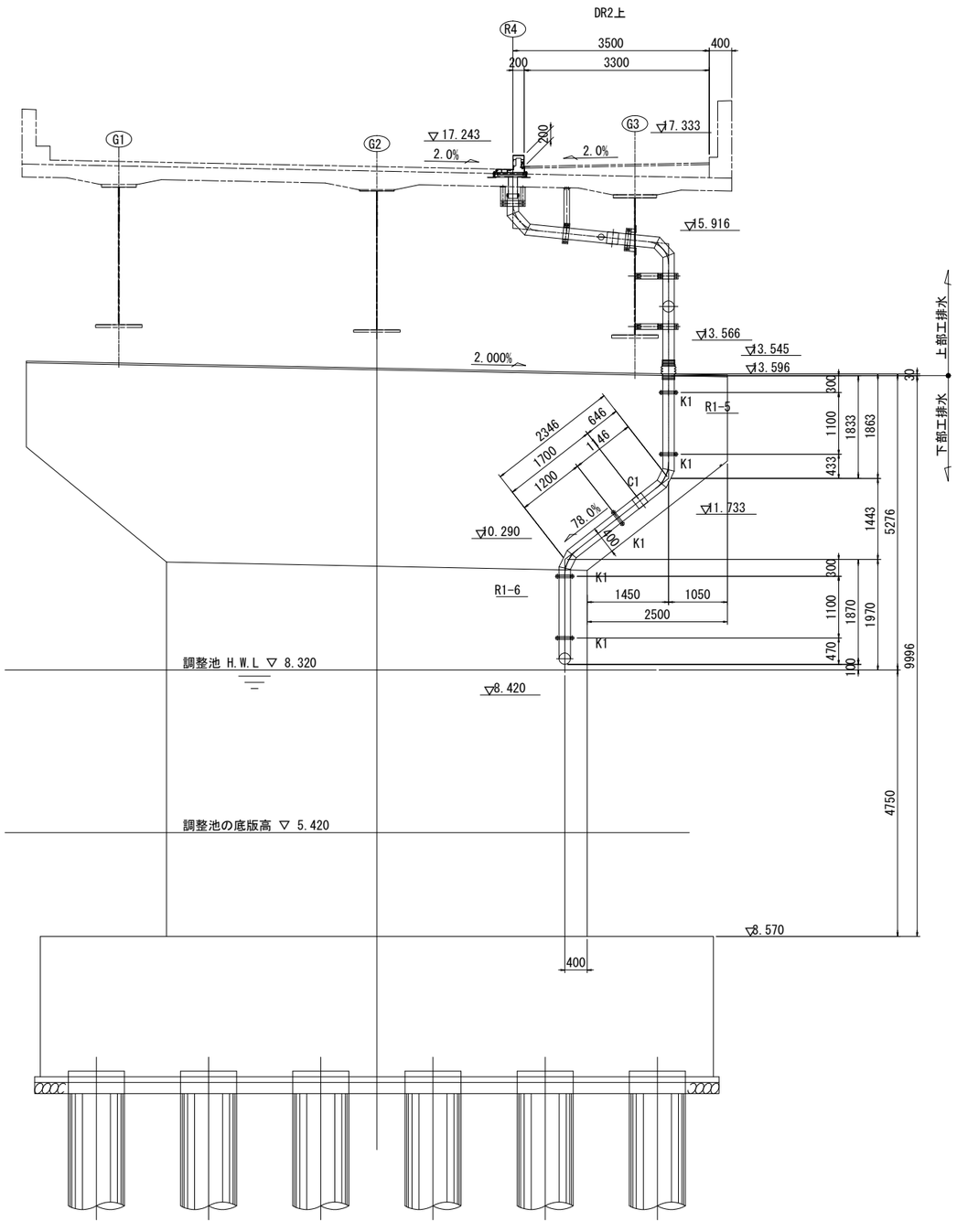
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

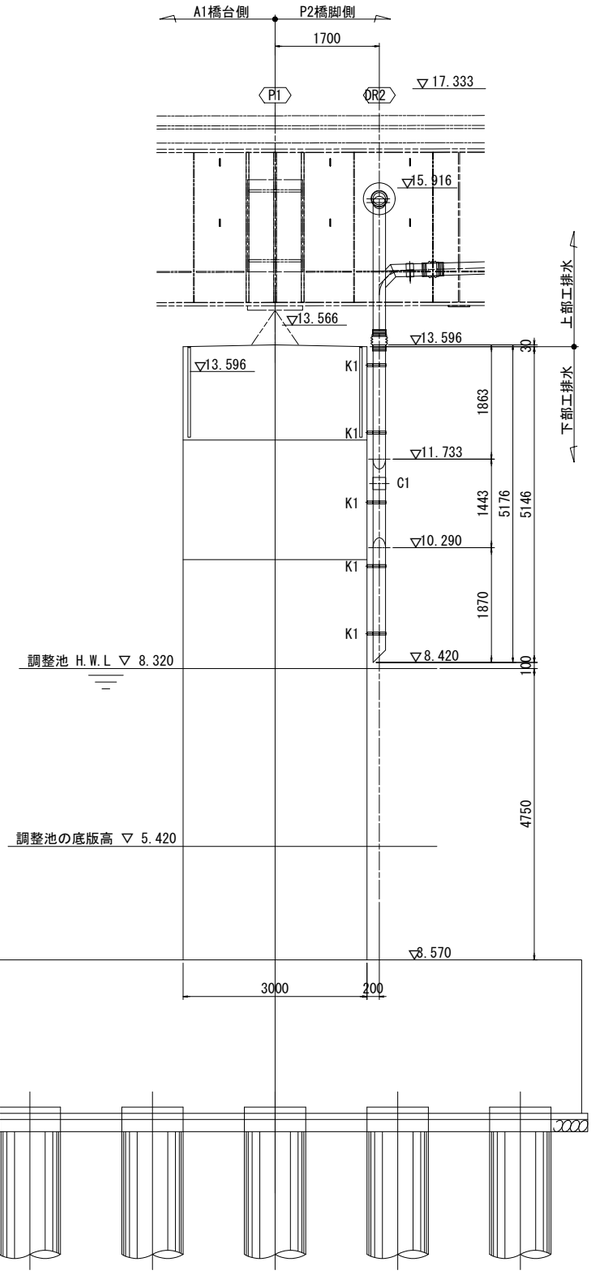
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造排水装置(2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 116
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造排水装置(3)

S=1:50

P1橋脚





加工管

R1-5 : 1 箇所
R1-6 : 1 箇所

TSカップリング

C1 : 1 箇所

取付金具

K1 : 5 箇所

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

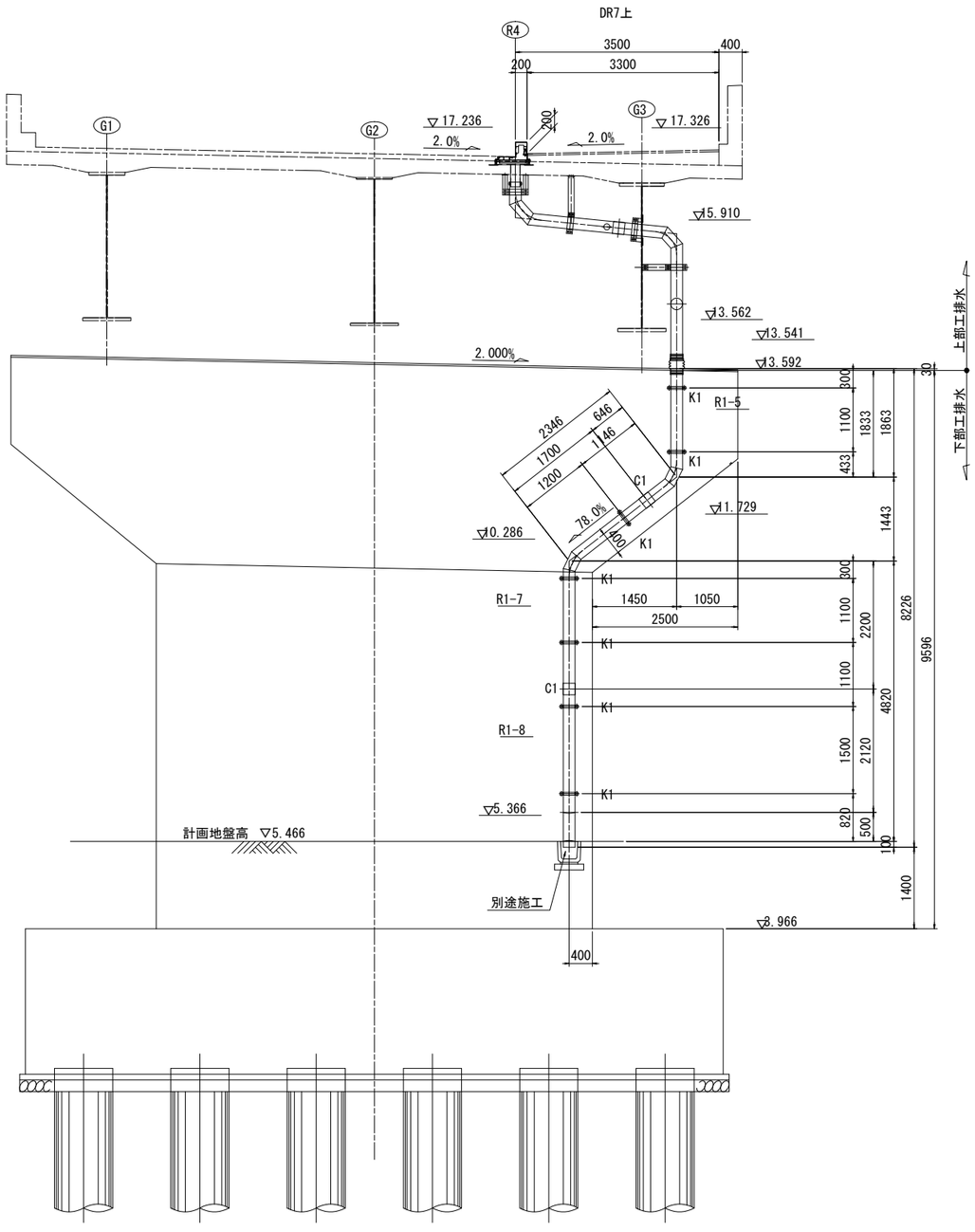
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

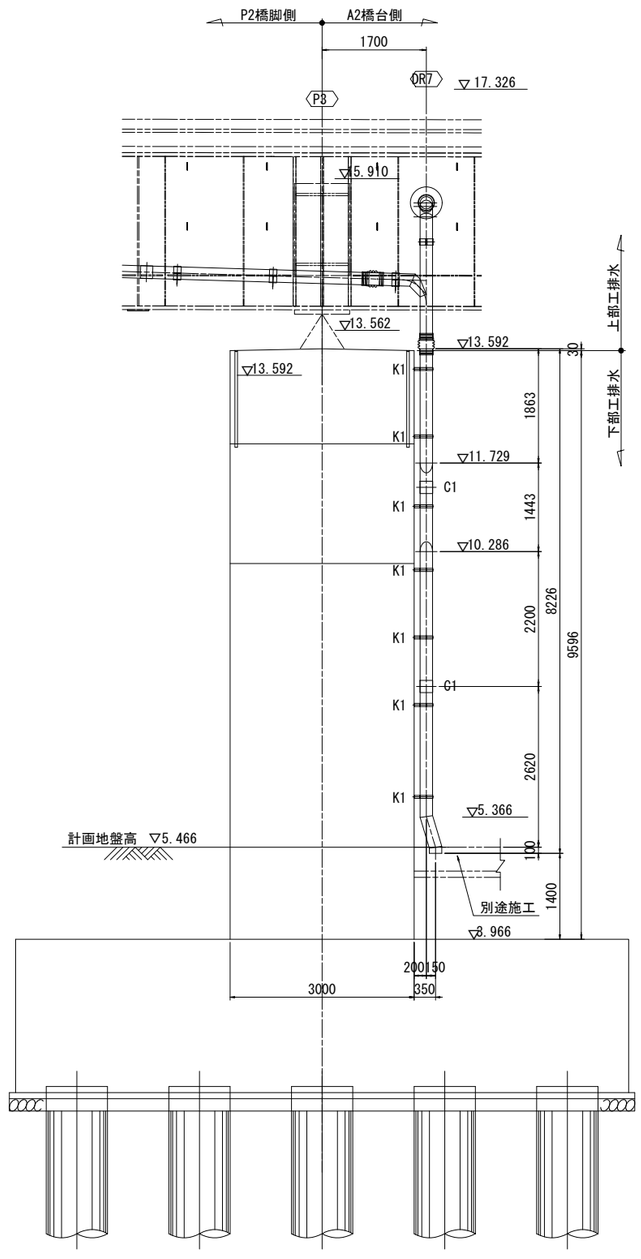
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造排水装置(3)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 117
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造排水装置(4)

S=1:50

P3橋脚(JR施工)





加工管

R1-5 : 1 箇所
R1-7 : 1 箇所
R1-8 : 1 箇所

TSカップリング

C1 : 2 箇所

取付金具

K1 : 7 箇所

注記

JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

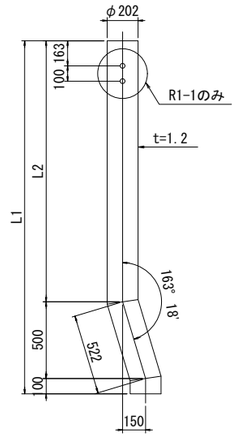
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造排水装置(4)		
縮尺	S=1:50	図面番号	178 の 118
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造排水装置(5)

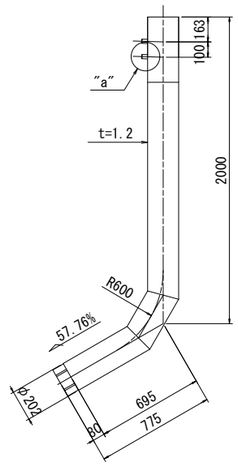
ステンレス加工管詳細　S=1:20

R1-n
(製作数：各1)

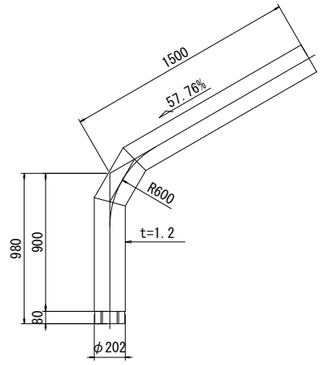


	L1	L2
R1-1	3423	2823
R1-4	2302	1702
R1-8	2720	2120

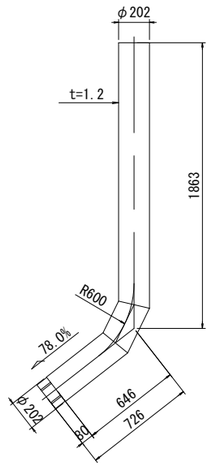
R1-2
(製作数：1)



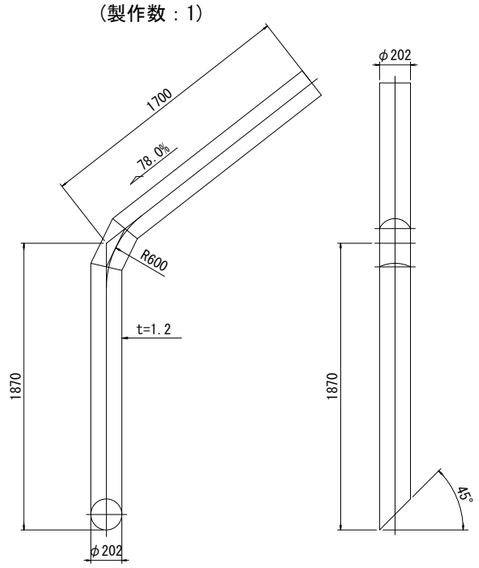
R1-3
(製作数：1)



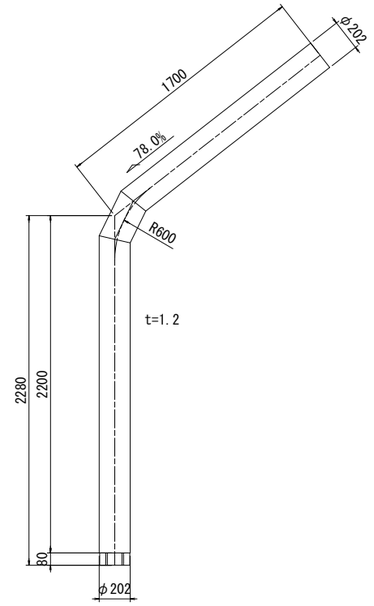
R1-5
(製作数：2)



R1-6
(製作数：1)

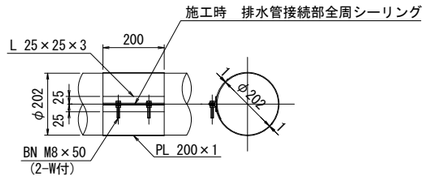


R1-7
(製作数：1)



TSカップリング詳細図　S=1:10

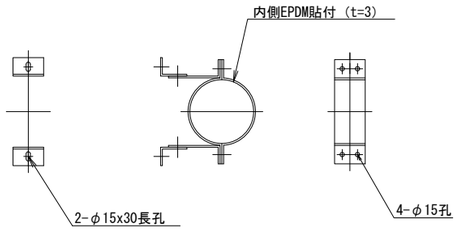
C1
(製作数：5)

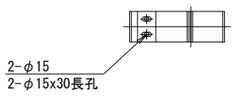


2 - L 25 x 25 x 3 x 200
1 - PL 200 x 1 x 710
2 - BN M8 x 50　(2-W付)

取付金具詳細図　S=1:10

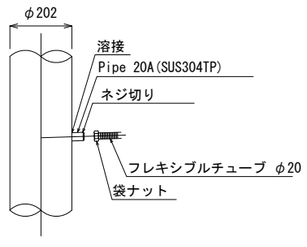
K1
(製作数：21)





2-PL 100x6x456(SS400)
2-PL 100x6x222(SS400)
2-PL 100x6x140(SS400)
8-B.N　M12x45(SS400)
2-アンカーボルト　M12x100(SS400)
2-EPDM　100x3x300

"a"部詳細図　S=1:10
フレキシブルチューブ差込み口



排水設備(1)数量表

1式当り

名称	規格	単位	数量	摘要
排水装置資材	排水管、橋面排水含む	式	1	
排水管設置		m	206.365	
アンカーボルト設置		本	182	
スラブドレーン設置	H=240～340mm	箇所	33	
フレキシブルチューブ設置	φ20	m	78.5	
主桁貫通用補強板設置	φ520	箇所	6	

排水設備(2)【JR工事支給品】数量表

1式当り

名称	規格	単位	数量	摘要
排水装置資材	排水管、橋面排水含む	式	1	

注記
1. 特記なき材質は、全てSUS304とする。
2. 排水装置は、TSステンレス排水装置に準ずる。
3. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し
　耐食性向上の措置を講じる。
4. 現地調査にて寸法確定後製作する。
5. JR施工範囲は、排水管等の製品購入のみとする。

※本設計図書の内、排水装置工(工場製作材料を除く)における図示並びに数量は参考とする。なお、数量については、一式計上としている事から、見積り参考資料に示す率計上の考え方に基づき見積りされたい。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

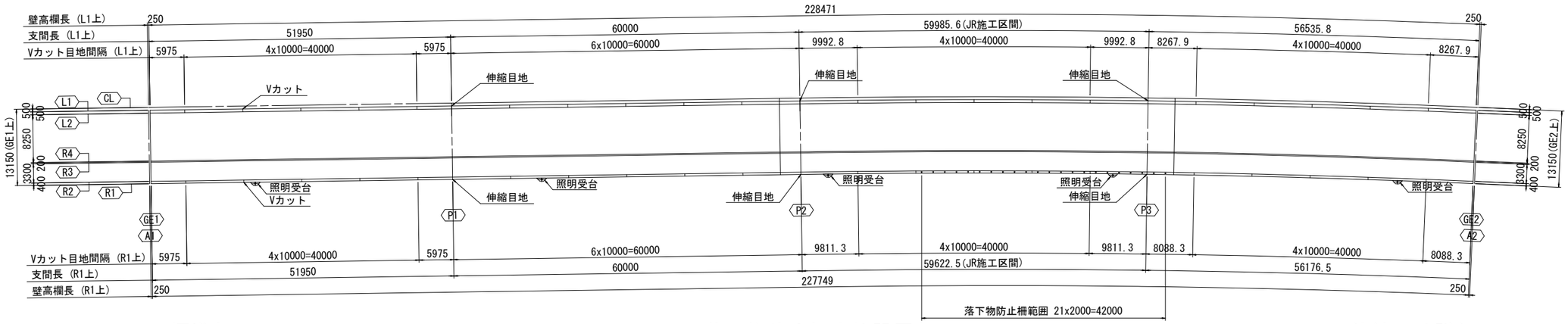
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造排水装置(5)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 119
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

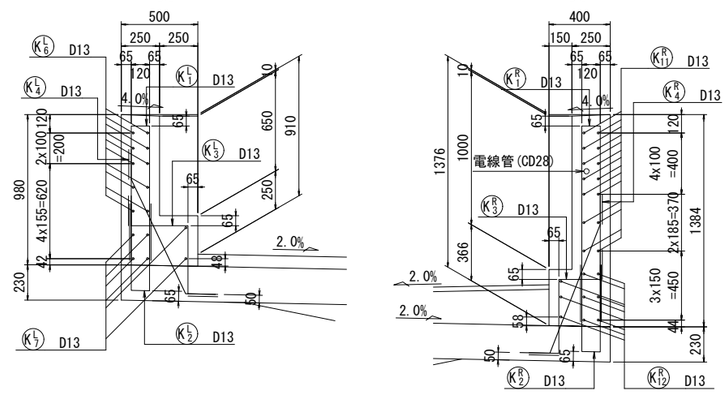
東田中高架橋壁高欄配筋図(1)

S=1:400

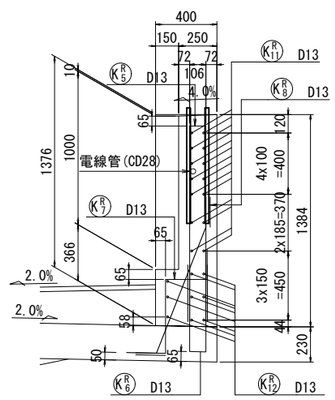
壁高欄配置図



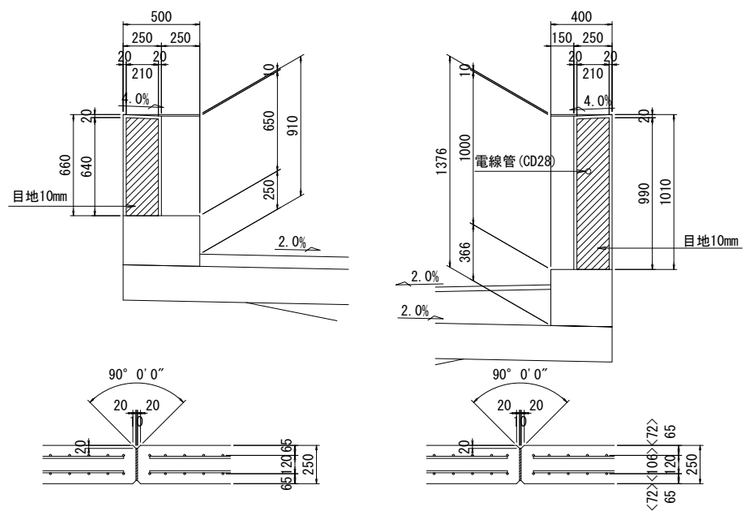
標準部 S=1:20



落下物防止柵支柱設置部 S=1:20



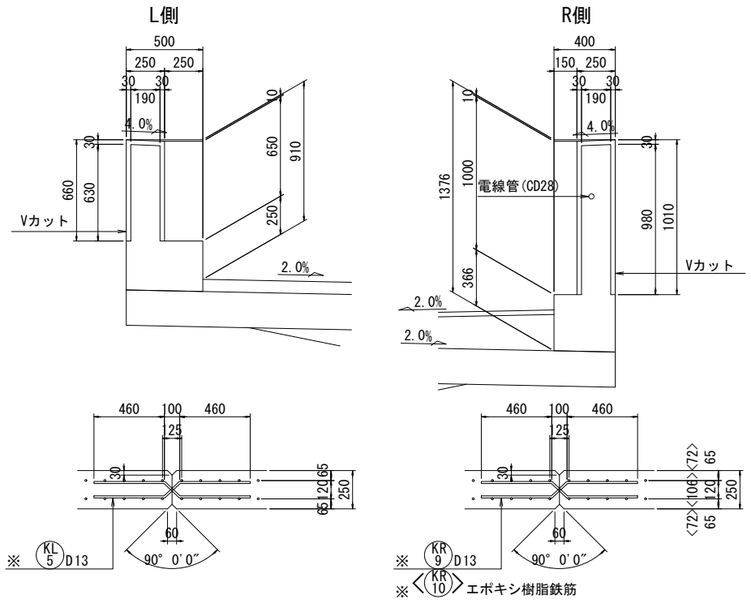
伸縮目地詳細 S=1:20



※< >内は落下物防止柵支柱設置部を示す。

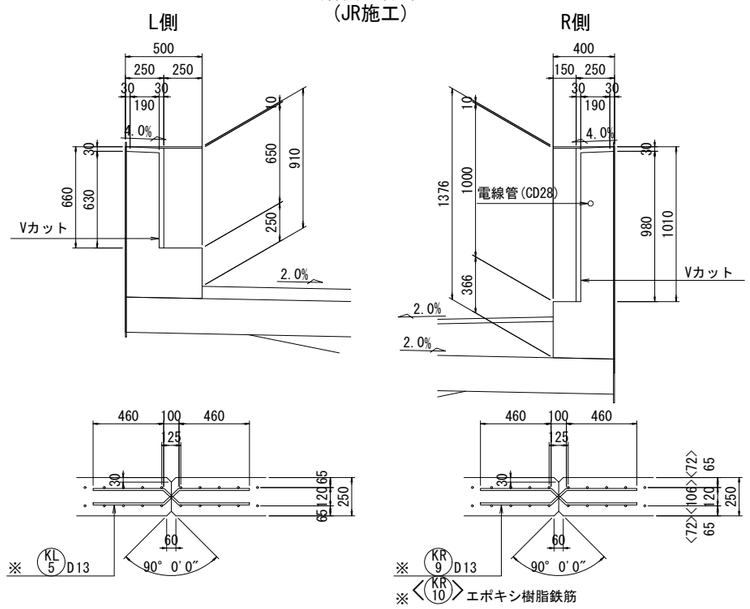
Vカット詳細図 S=1:20

一般部



※< >内は落下物防止柵支柱設置部を示す。

鋼製型枠部 (JR施工)



※< >内は落下物防止柵支柱設置部を示す。

注記

1. ※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

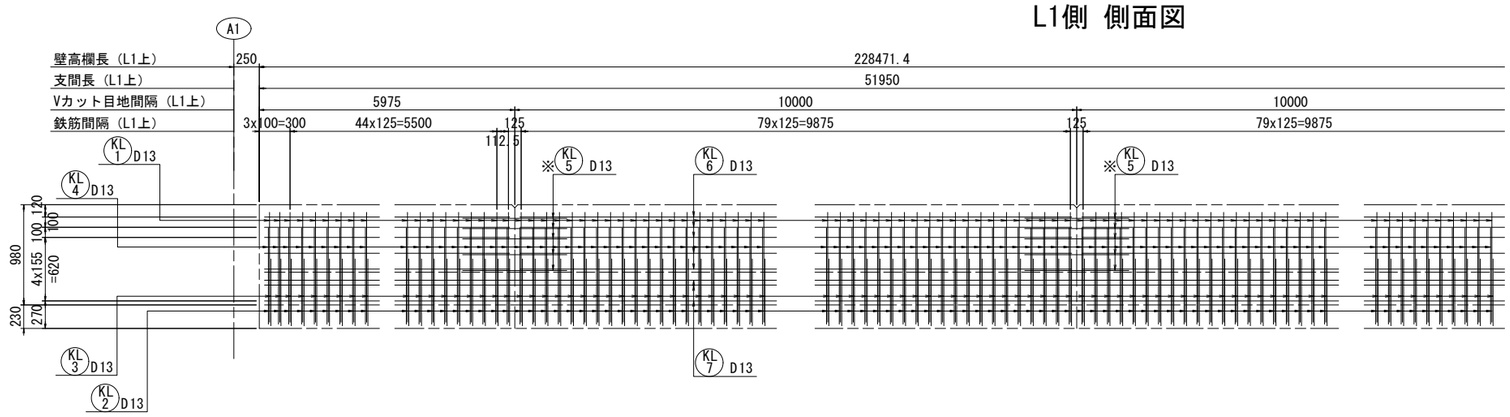
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

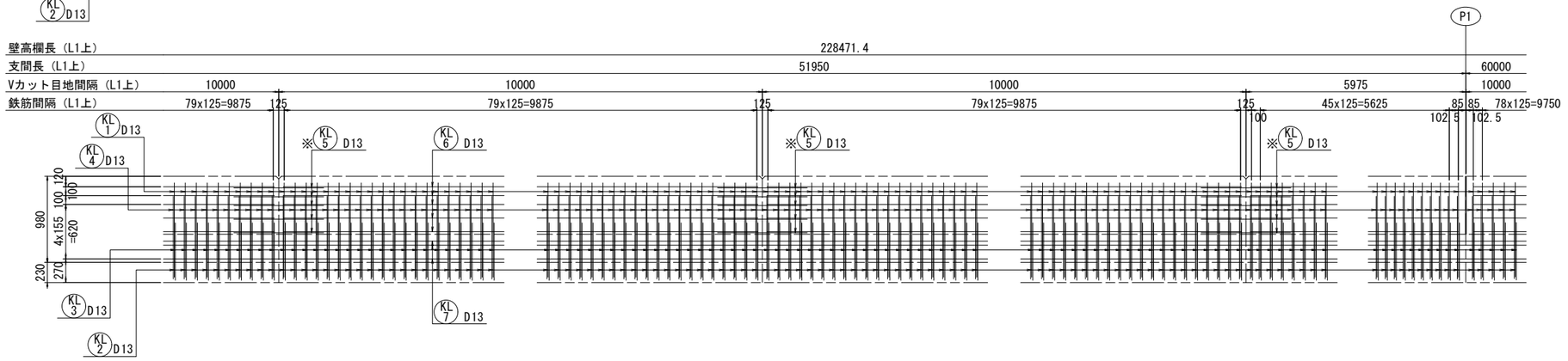
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 120
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

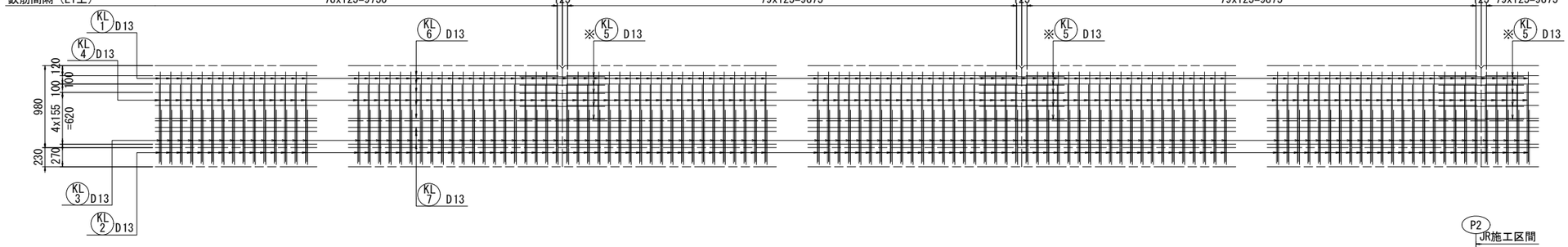
東田中高架橋壁高欄配筋図(2)

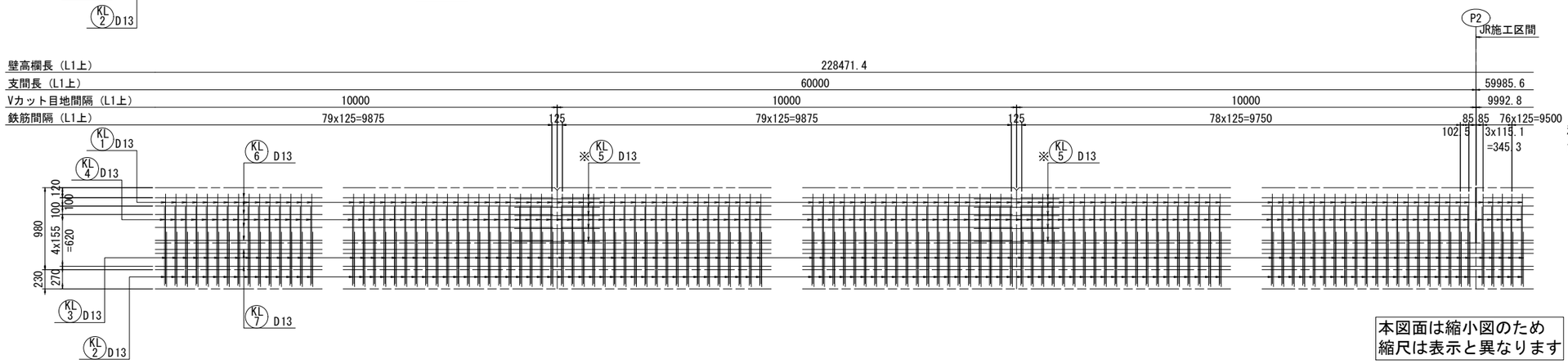
S=1:30

L1側 側面図









注記

1. ※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

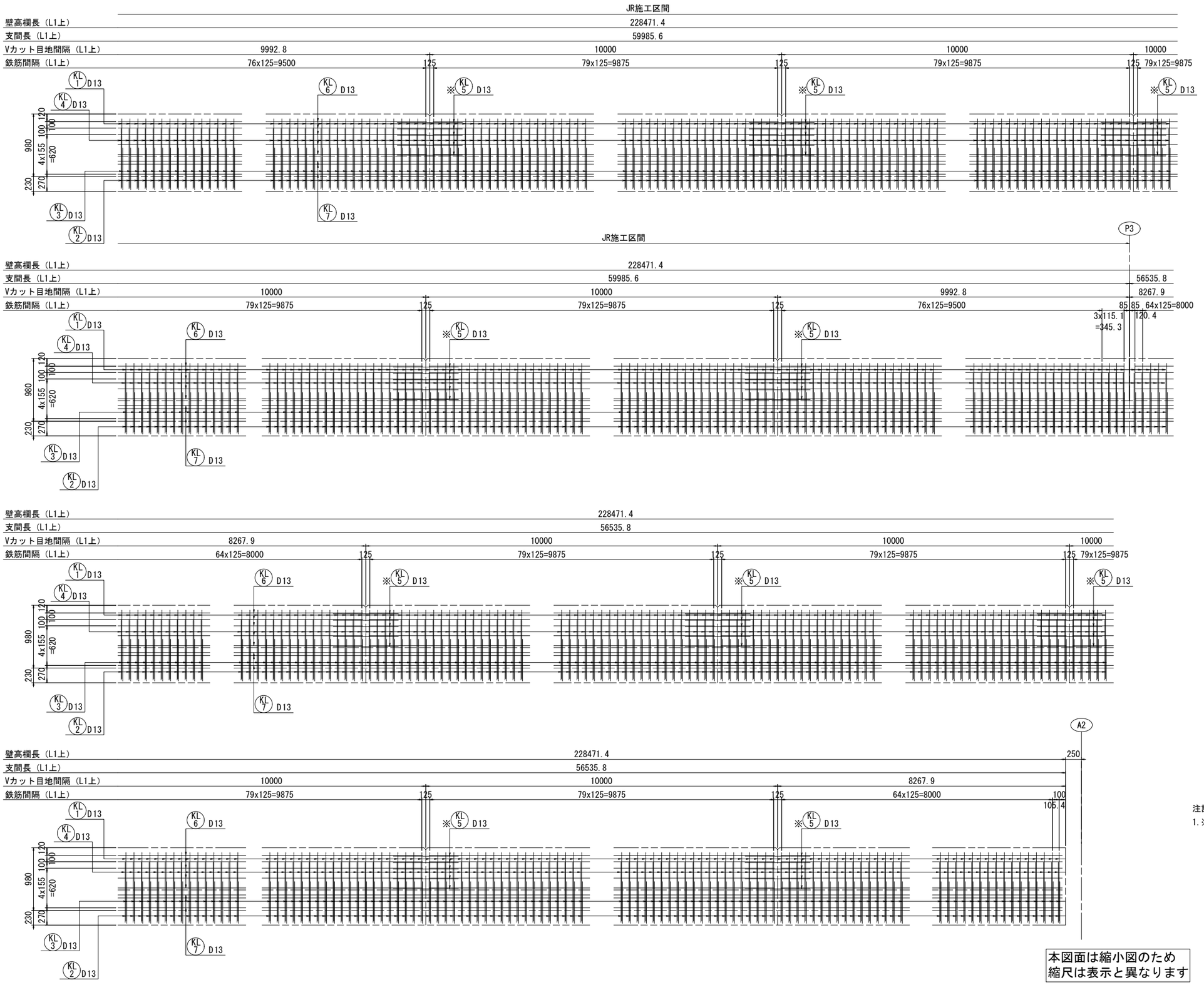
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 121
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋壁高欄配筋図(3)

S=1:30

L1側 側面図



注記

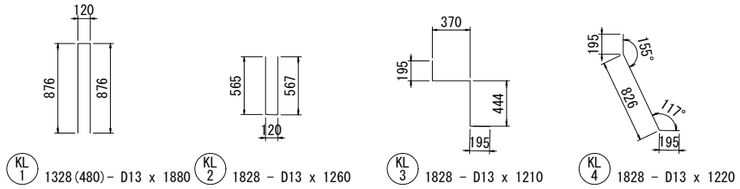
1. ※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(3)
縮尺	S=1:30
図面番号	178 の 122
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋壁高欄配筋図(4)

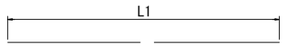
S=1:30



KL1 1328(480)- D13 x 1880　KL2 1828 - D13 x 1260　KL3 1828 - D13 x 1210　KL4 1828 - D13 x 1220



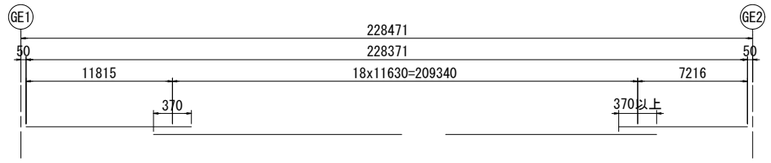
※ KL5 150(50) - D13 x 1060



KL6-n n1-D13xL2

鉄筋番号	n1	L1	L2
KL6-1	10	5875	5880
KL6-2	120(40)	9900	9900
KL6-3	10	5840	5840
KL6-4	(20)	9865	9870
KL6-5	20	9858	9860
KL6-6	10	8133	8140
KL6-7	10	8168	8170

注)( )内はJR施工の鉄筋を示す。



KL7-1 78(36)-D13x12000　KL7-2 6-D13x7500

壁高欄コンクリート数量表

168.485m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	55.600	
型枠		式	1	
鉄筋(1)	SD345 D13	t	11.845	
鉄筋(2)	SD345 D13 エポキシ樹脂	t	0.158	
目地版	t=10mm	m2	0.134	
Vカット		m	13.650	

鉄 筋 表（国土交通省施工）

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
KL1	D13	1880	1348	0.995	1.87	2521	
KL2	D13	1260	1828	0.995	1.25	2285	
KL3	D13	1210	1828	0.995	1.20	2194	
KL4	D13	1220	1828	0.995	1.21	2212	
KL5	D13	1060	150	0.995	1.05	158	※
KL6-1	D13	5880	10	0.995	5.85	59	
KL6-2	D13	9900	120	0.995	9.85	1182	
KL6-3	D13	5840	10	0.995	5.81	58	
KL6-4	D13	9870	20	0.995	9.82	196	
KL6-5	D13	9860	0	0.995	9.81	0	
KL6-6	D13	8140	10	0.995	8.10	81	
KL6-7	D13	8170	10	0.995	8.13	81	
KL7-1	D13	12000	78	0.995	11.94	931	
KL7-2	D13	7500	6	0.995	7.46	45	
					合計	12003 kg	
				鉄筋質量（SD345）：D13		11845 kg	
				鉄筋質量（SD345）：D13(エポキシ樹脂)		158 kg	
				コンクリート体積 （σck=30N/mm²）：		55.6 m³	
				型 枠 面 積：		1 式	

鉄 筋 表（JR施工区間）

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
KL1	D13	1880	480	0.995	1.87	898	
KL2	D13	1260	0	0.995	1.25	0	
KL3	D13	1210	0	0.995	1.20	0	
KL4	D13	1220	0	0.995	1.21	0	
KL5	D13	1060	50	0.995	1.05	53	※
KL6-1	D13	5880	0	0.995	5.85	0	
KL6-2	D13	9900	40	0.995	9.85	394	
KL6-3	D13	5840	0	0.995	5.81	0	
KL6-4	D13	9870	0	0.995	9.82	0	
KL6-5	D13	9860	20	0.995	9.81	196	
KL6-6	D13	8140	0	0.995	8.10	0	
KL6-7	D13	8170	0	0.995	8.13	0	
KL7-1	D13	12000	36	0.995	11.94	430	
KL7-2	D13	7500	0	0.995	7.46	0	
					合計	1971 kg	
				鉄筋質量（SD345）：D13		1918 kg	
				鉄筋質量（SD345）：D13(エポキシ樹脂)		53 kg	
				コンクリート体積 （σck=30N/mm²）：		19.7 m³	
				型 枠 面 積：		1式	

注記
1.※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

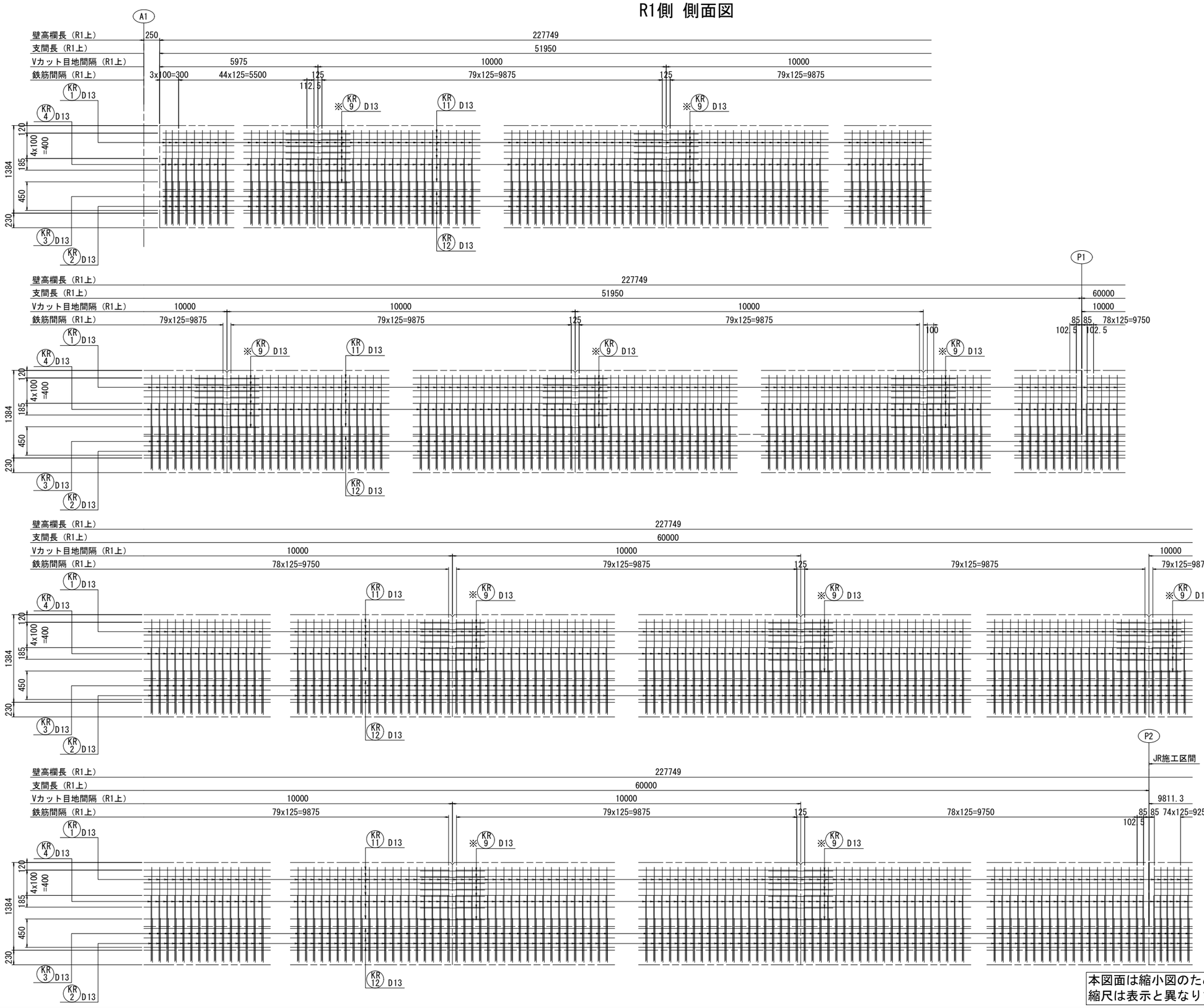
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(4)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 123
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋壁高欄配筋図(5)

S=1:30

R1側 側面図



注記

1. ※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

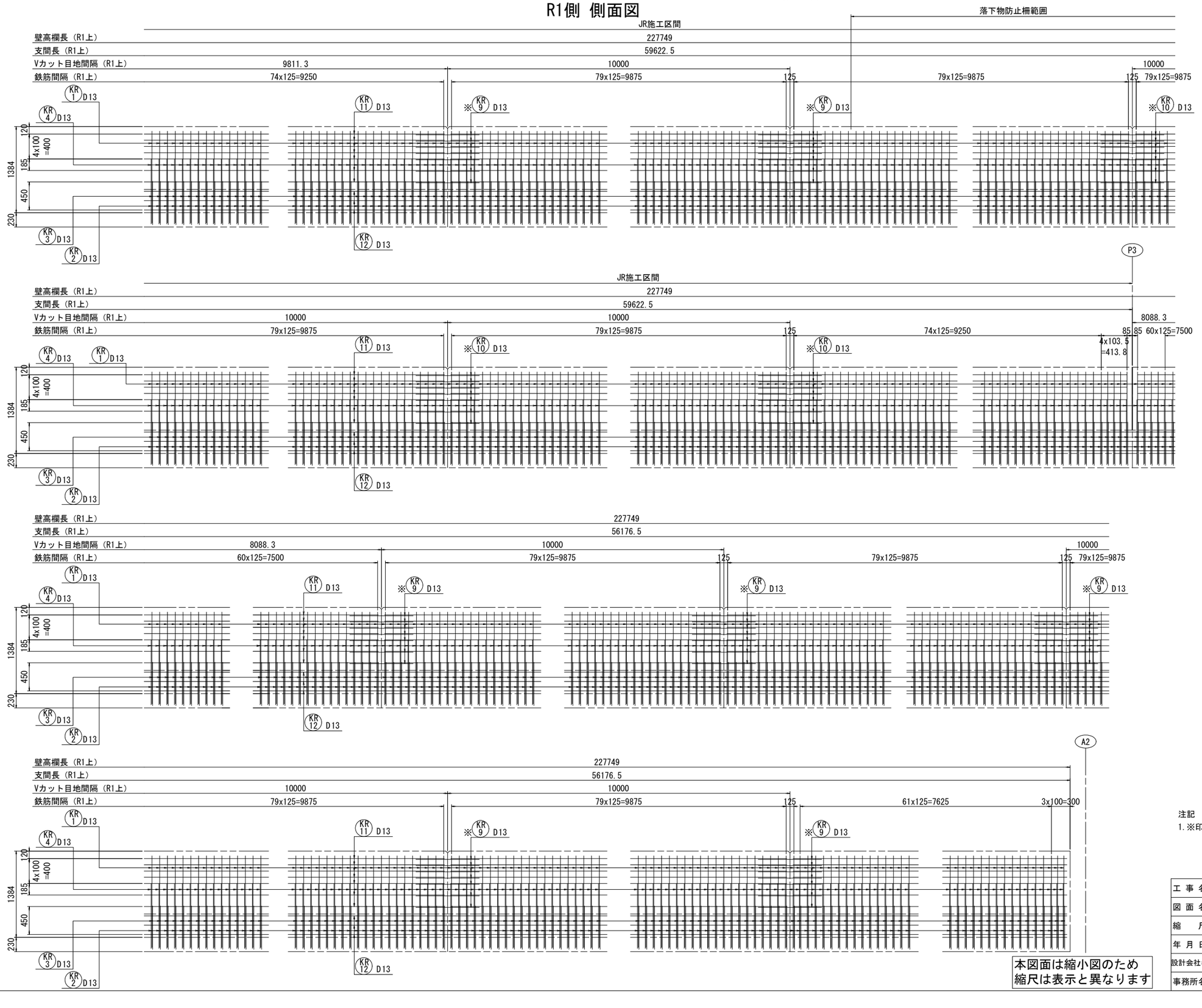
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(5)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 124
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋壁高欄配筋図(6)

S=1:30

R1側 側面図



注記

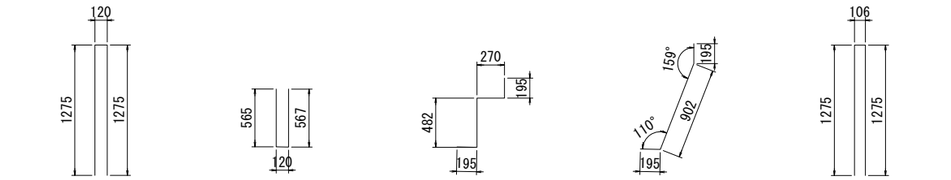
1. ※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

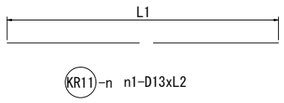
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(6)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 125
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋壁高欄配筋図(7)

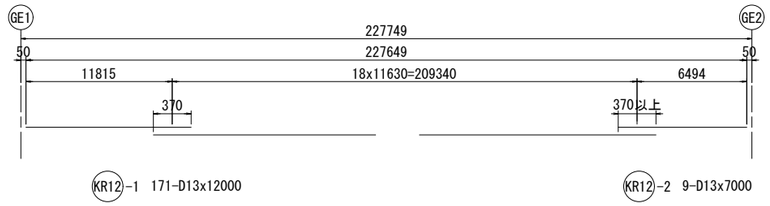
S=1:30





鉄筋番号	n1	L1	L2
KR11-1	14	5875	5880
KR11-2	168(56)	9900	9900
KR11-3	14	5840	5840
KR11-4	(28)	9865	9870
KR11-5	28	9676	9680
KR11-6	14	7953	7960
KR11-7	14	7988	7990

注)( )内はJR施工の鉄筋を示す。



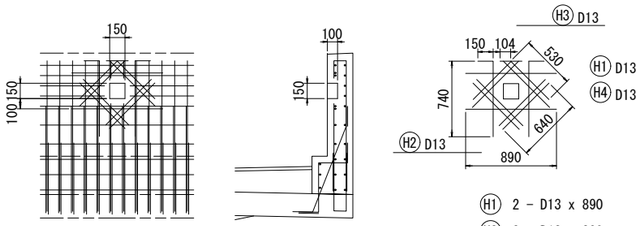
壁高欄コンクリート数量表

168.126m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	67.603	
型枠		式	1	
鉄筋(1)	SD345 D13	t	14.343	
鉄筋(2)	SD345 D13 エポキシ樹脂	t	0.221	
目地版	t=10mm	m2	0.208	
Vカット		m	18.900	

プルボックス補強筋

[製作数:3(2)]



H1 2 - D13 x 890
H2 2 - D13 x 890
H3 2 - D13 x 640
H4 6 - D13 x 640

鉄 筋 表（国土交通省施工）

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	
KR1	D13	2670	1420	0.995	2.66	3777		
KR2	D13	1260	1487	0.995	1.25	1859		
KR3	D13	1150	1487	0.995	1.14	1695		
KR4	D13	1300	1487	0.995	1.29	1918		
KR5	D13	2660	26	0.995	2.65	69		
KR6	D13	1240	337	0.995	1.23	415		
KR7	D13	1140	337	0.995	1.13	381		
KR8	D13	1280	337	0.995	1.27	428		
KR9	D13	1060	210	0.995	1.05	221		※
KR10	D13	1050	0	0.995	1.04	0		※
KR11-1	D13	5880	14	0.995	5.85	82		
KR11-2	D13	9900	168	0.995	9.85	1655		
KR11-3	D13	5840	14	0.995	5.81	81		
KR11-4	D13	9870	28	0.995	9.82	275		
KR11-5	D13	9680	0	0.995	9.63	0		
KR11-6	D13	7960	14	0.995	7.92	111		
KR11-7	D13	7990	14	0.995	7.95	111		
KR12-1	D13	12000	117	0.995	11.94	1397		
KR12-2	D13	7000	9	0.995	6.97	63		
H1	D13	890	6	0.995	0.89	5		
H2	D13	890	6	0.995	0.89	5		
H3	D13	640	6	0.995	0.64	4		
H4	D13	640	18	0.995	0.64	12		
					合計	14564 kg		
				鉄筋質量（SD345）：D13		14343 kg		
				鉄筋質量（SD345）：D13(エポキシ樹脂)		221 kg		
				コンクリート体積 （σck=30N/mm²）：		67.6 m³		
				型 枠 面 積：		1 式		

鉄 筋 表（JR施工区間）

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要	
KR1	D13	2670	67	0.995	2.66	178		
KR2	D13	1260	0	0.995	1.25	0		
KR3	D13	1150	0	0.995	1.14	0		
KR4	D13	1300	0	0.995	1.29	0		
KR5	D13	2660	311	0.995	2.65	824		
KR6	D13	1240	0	0.995	1.23	0		
KR7	D13	1140	0	0.995	1.13	0		
KR8	D13	1280	0	0.995	1.27	0		
KR9	D13	1060	28	0.995	1.05	29		※
KR10	D13	1050	42	0.995	1.04	44		※
KR11-1	D13	5880	0	0.995	5.85	0		
KR11-2	D13	9900	56	0.995	9.85	552		
KR11-3	D13	5840	0	0.995	5.81	0		
KR11-4	D13	9870	0	0.995	9.82	0		
KR11-5	D13	9680	28	0.995	9.63	270		
KR11-6	D13	7960	0	0.995	7.92	0		
KR11-7	D13	7990	0	0.995	7.95	0		
KR12-1	D13	12000	54	0.995	11.94	645		
KR12-2	D13	7000	0	0.995	6.97	0		
H1	D13	890	4	0.995	0.89	4		
H2	D13	890	4	0.995	0.89	4		
H3	D13	640	4	0.995	0.64	3		
H4	D13	640	12	0.995	0.64	8		
					合計	2561 kg		
				鉄筋質量（SD345）：D13		2488 kg		
				鉄筋質量（SD345）：D13(エポキシ樹脂)		73 kg		
				コンクリート体積 （σck=30N/mm²）：		24.1 m³		
				型 枠 面 積：		1式		

注記

1.※印鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を示す。

2.プルボックス位置は照明柱受台詳細図を参照する。

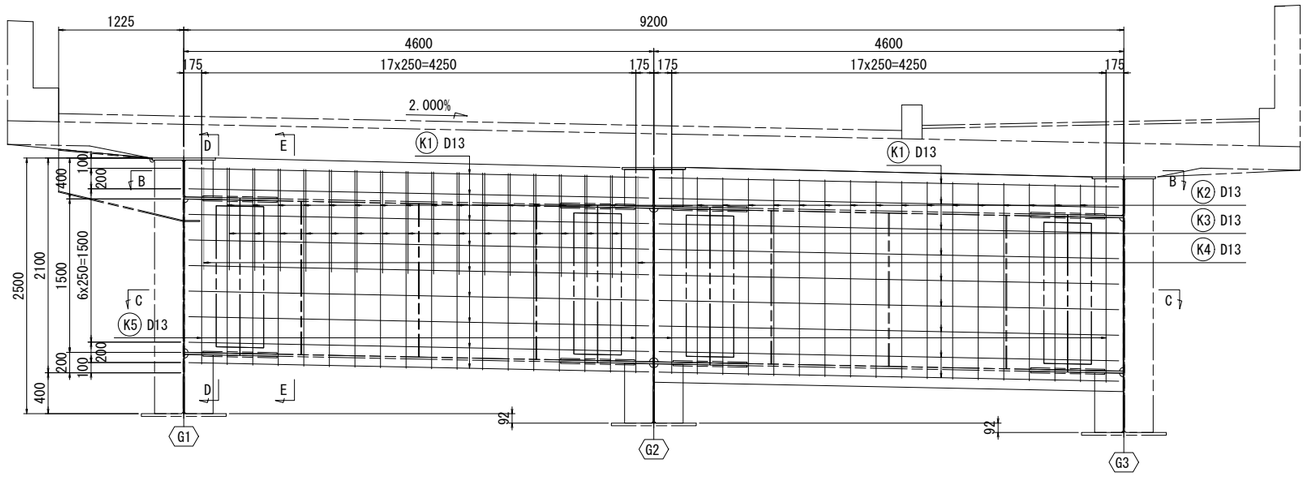
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋壁高欄配筋図(7)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 126
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

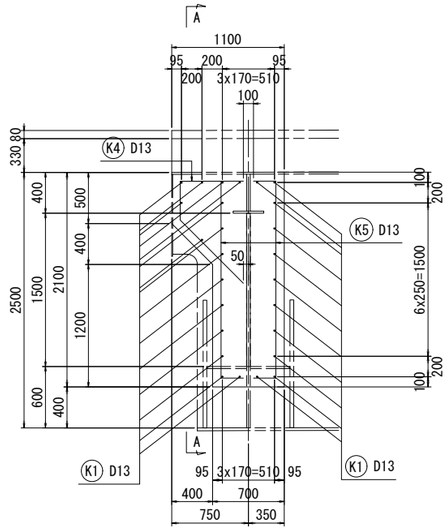
東田中高架橋巻き立てコンクリート(1)　S=1:30

S1, S2

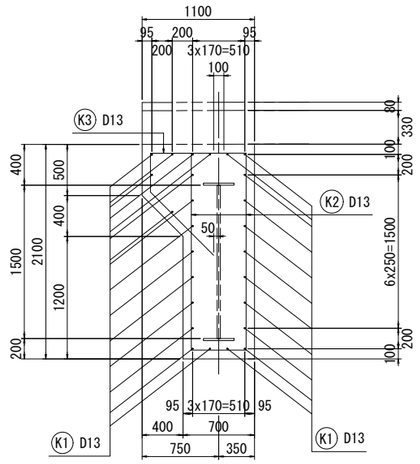
A － A



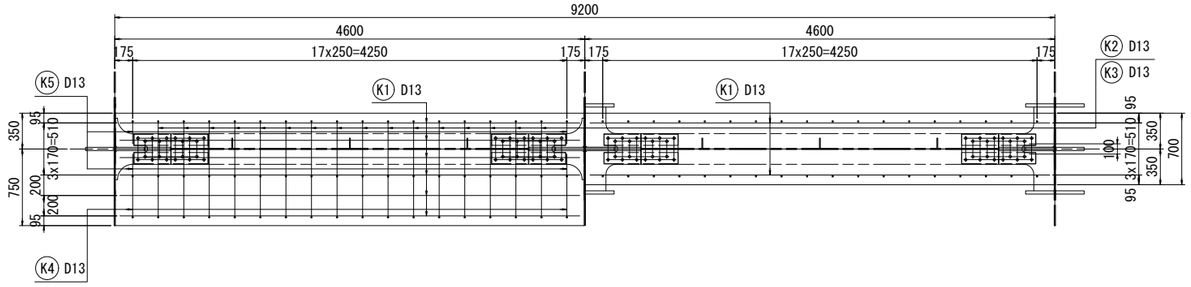
D － D



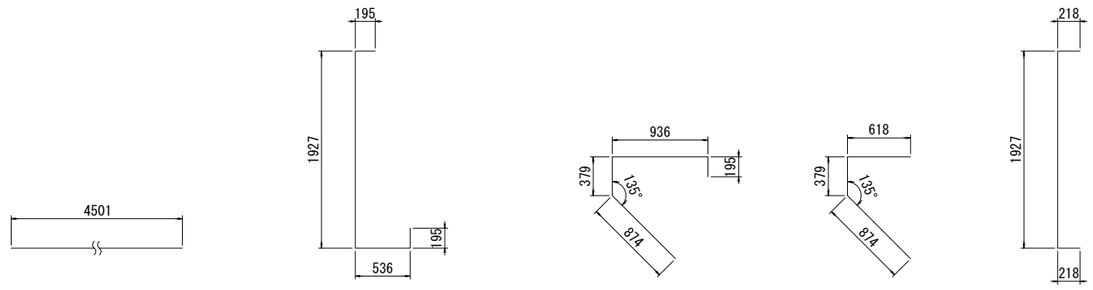
E － E



B － B



C － C



K1 52-D13x4510　K2 64-D13x2860　K3 32-D13x2390　K4 4-D13x1880　K5 8-D13x2370

S1 鉄 筋 表

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
K1	D13	4510	52	0.995	4.49	233	―
K2	D13	2860	64	0.995	2.85	182	⌊
K3	D13	2390	32	0.995	2.38	76	⌜
K4	D13	1880	4	0.995	1.87	7	⌜
K5	D13	2370	8	0.995	2.36	19	⌈
					合計	517 kg	
				鉄筋質量 (SD345)	D13	517 kg	
				コンクリート体積 (σck=30 N/mm2)		16.1 m3	
				型 枠 面 積		1 式	

S2 鉄 筋 表

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
K1	D13	4510	52	0.995	4.49	233	―
K2	D13	2860	64	0.995	2.85	182	⌊
K3	D13	2390	32	0.995	2.38	76	⌜
K4	D13	1880	4	0.995	1.87	7	⌜
K5	D13	2370	8	0.995	2.36	19	⌈
					合計	517 kg	
				鉄筋質量 (SD345)	D13	517 kg	
				コンクリート体積 (σck=30 N/mm2)		16.1 m3	
				型 枠 面 積		1 式	

巻立てコンクリート数量表　A1橋台当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	16.100	
型枠		式	1.000	
鉄筋	SD345 D13	t	0.517	

巻立てコンクリート数量表　A2橋台当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	16.100	
型枠		式	1.000	
鉄筋	SD345 D13	t	0.517	

注記
1.特記なき材質は、全てSD345とする。

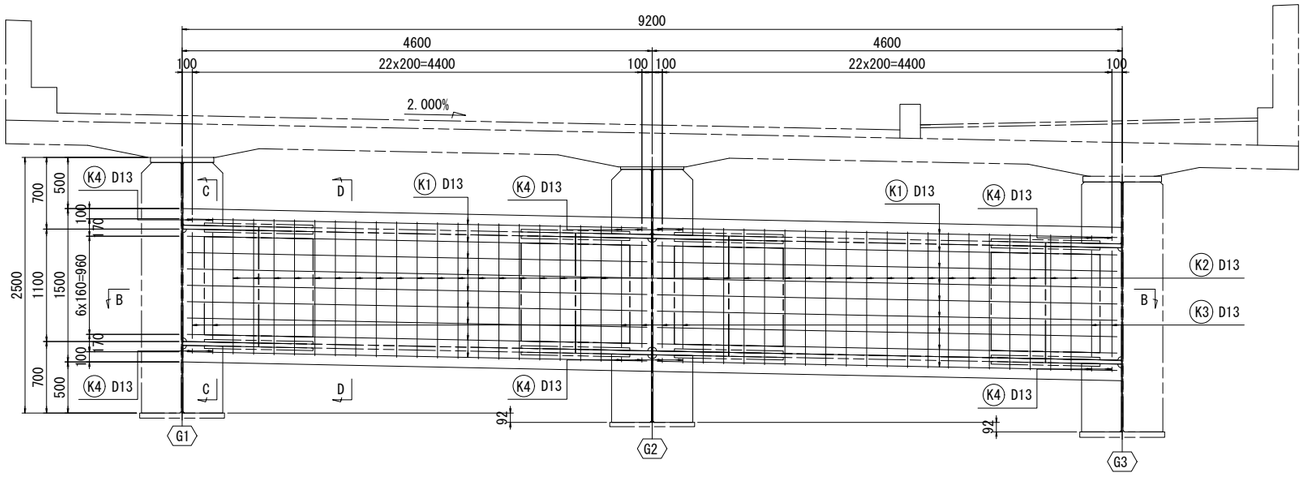
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋巻き立てコンクリート(1)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 127
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

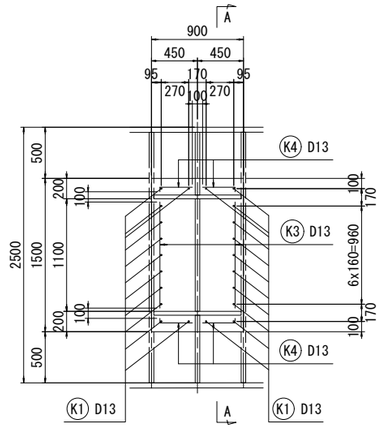
東田中高架橋巻き立てコンクリート(2)　S=1:30

P1

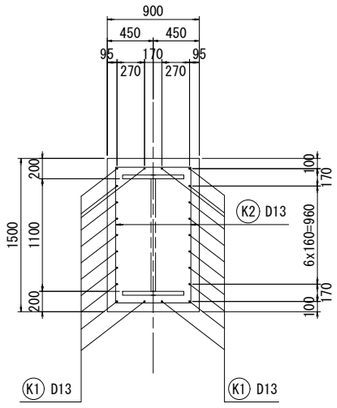
A － A



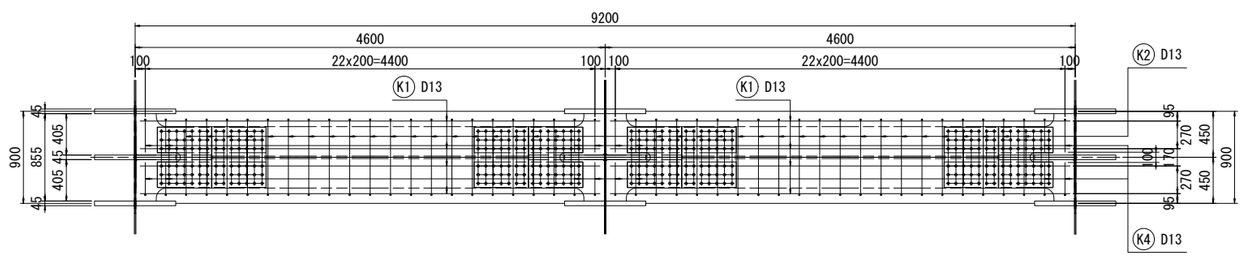
C － C

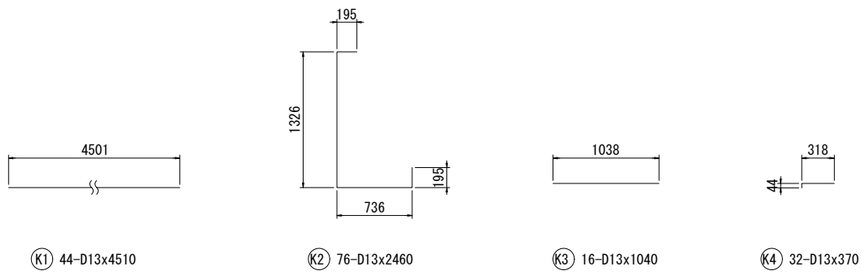


D － D



B － B





K1 44-D13x4510　　K2 76-D13x2460　　K3 16-D13x1040　　K4 32-D13x370

P1 鉄 筋 表

記　号	径	長　さ	本　数	単位質量	1本当り質量	質　量	摘　要
K1	13	4510	44	0.995	4.49	198	―
K2	13	2460	76	0.995	2.45	186	⌊
K3	13	1040	16	0.995	1.03	16	―
K4	13	370	32	0.995	0.37	12	⌐
					合計	412 kg	

鉄筋質量　(SD345)	D13	412 kg
コンクリート体積 (σck=30 N/mm2)		12.4 m3
型　枠　面　積		1　式

巻立てコンクリート数量表

P1橋脚当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	12.420	
型枠		式	1.000	
鉄筋	SD345 D13	t	0.412	

注記
1.特記なき材質は、全てSD345とする。

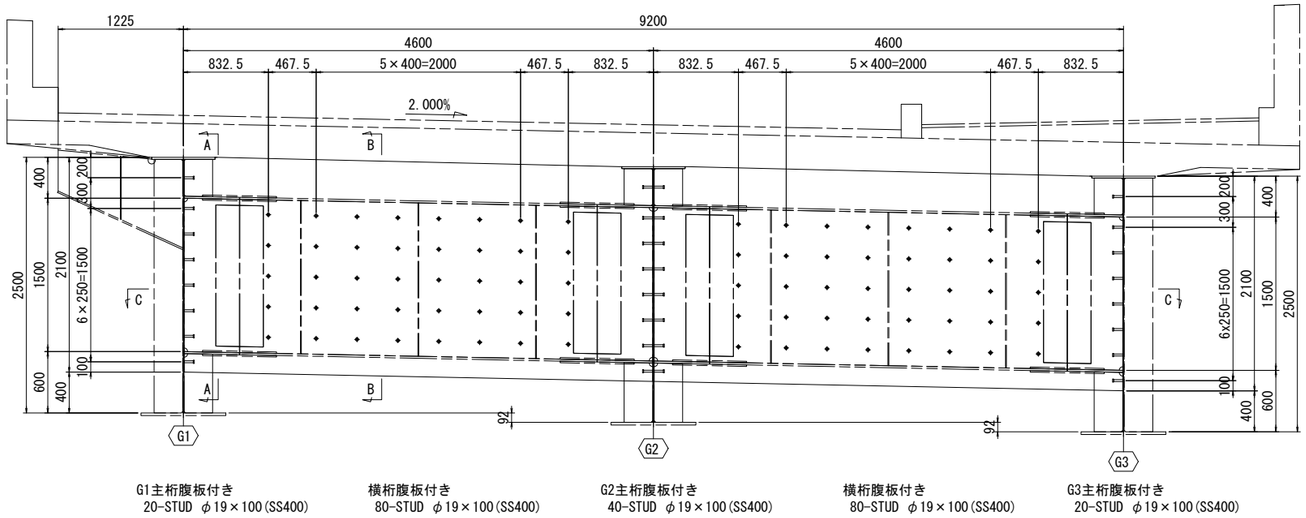
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋巻き立てコンクリート(2)		
縮　尺	S=1:30	図面番号	178 の 128
年月日	令和 7 年 8 月　　日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(1)　S=1:30

S1, S2

正 面 図



G1主桁腹板付き
20-STUD φ19×100(SS400)

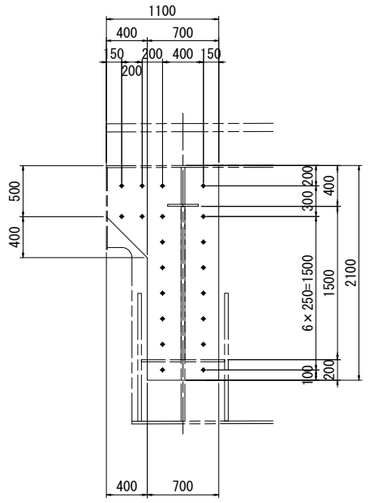
横桁腹板付き
80-STUD φ19×100(SS400)

G2主桁腹板付き
40-STUD φ19×100(SS400)

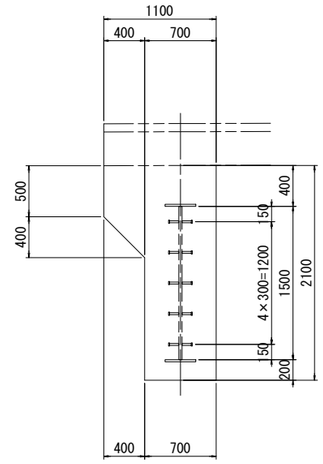
横桁腹板付き
80-STUD φ19×100(SS400)

G3主桁腹板付き
20-STUD φ19×100(SS400)

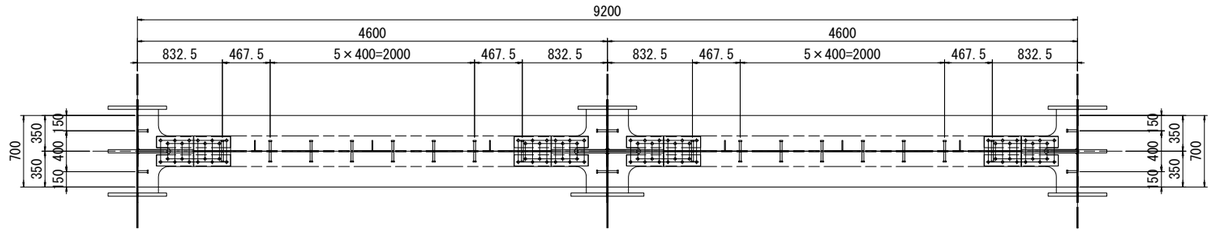
A － A



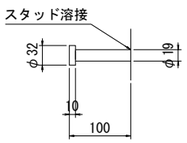
B － B



C － C

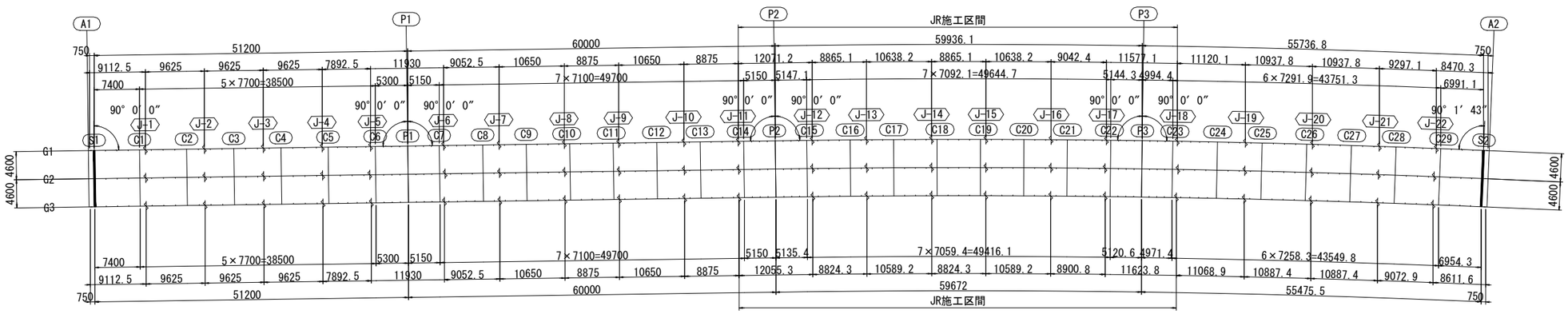


スタッド詳細図 S=1:5



1-STUD φ19×100(SS400)

配 置 図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

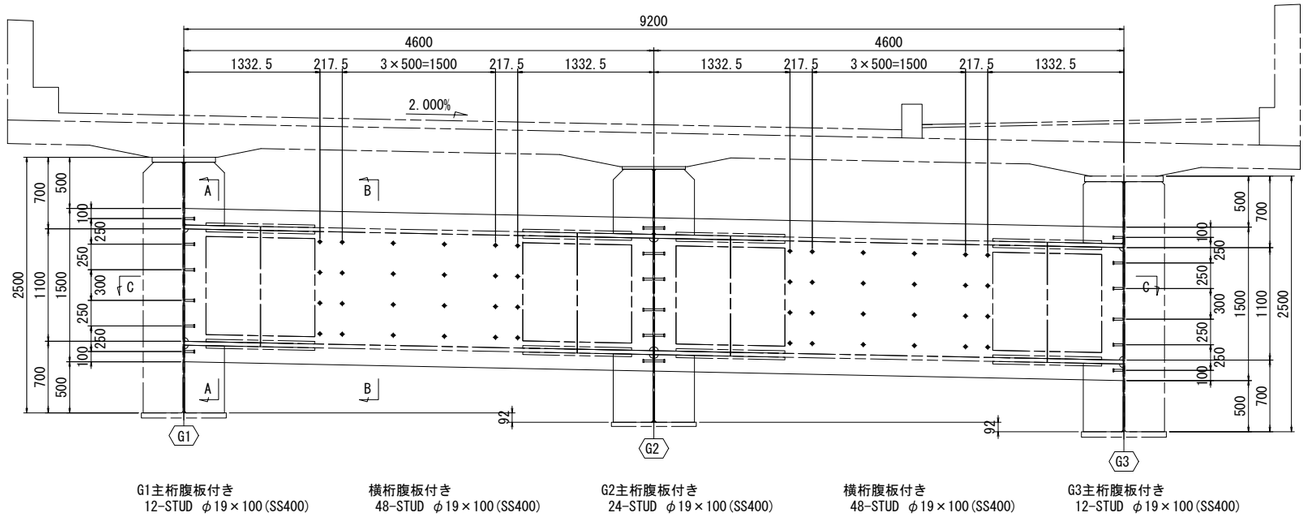
注記
1. 特記なき材質は、全てSD345とする。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 129
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(2)　S=1:30

P1

正 面 図



G1主桁腹板付き
12-STUD φ19×100(SS400)

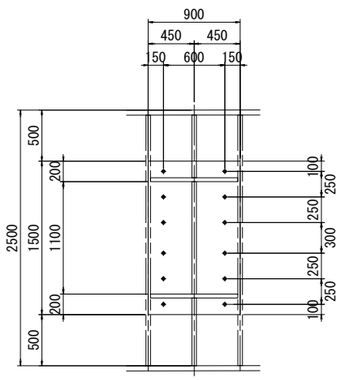
横桁腹板付き
48-STUD φ19×100(SS400)

G2主桁腹板付き
24-STUD φ19×100(SS400)

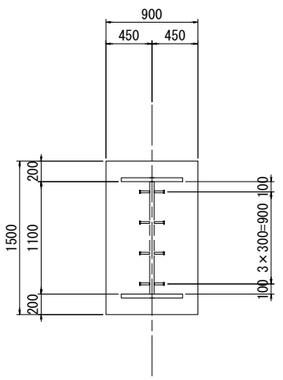
横桁腹板付き
48-STUD φ19×100(SS400)

G3主桁腹板付き
12-STUD φ19×100(SS400)

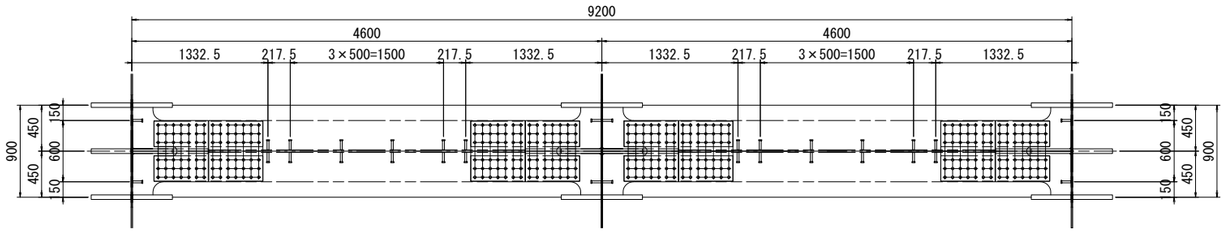
A － A



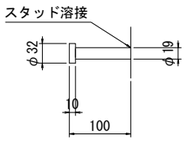
B － B



C － C

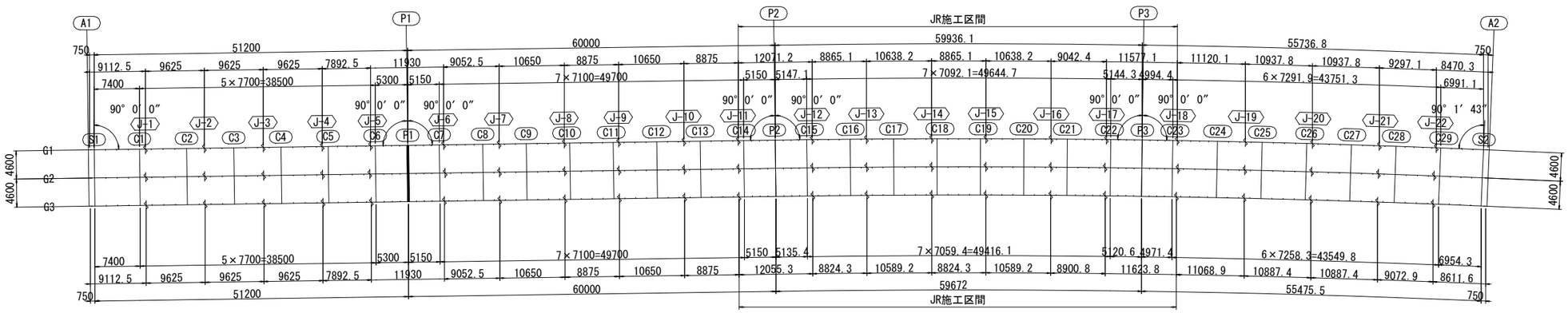


スタッド詳細図　S=1:5



1-STUD φ19×100(SS400)

配 置 図



注記
1.特記なき材質は、全てSD345とする。

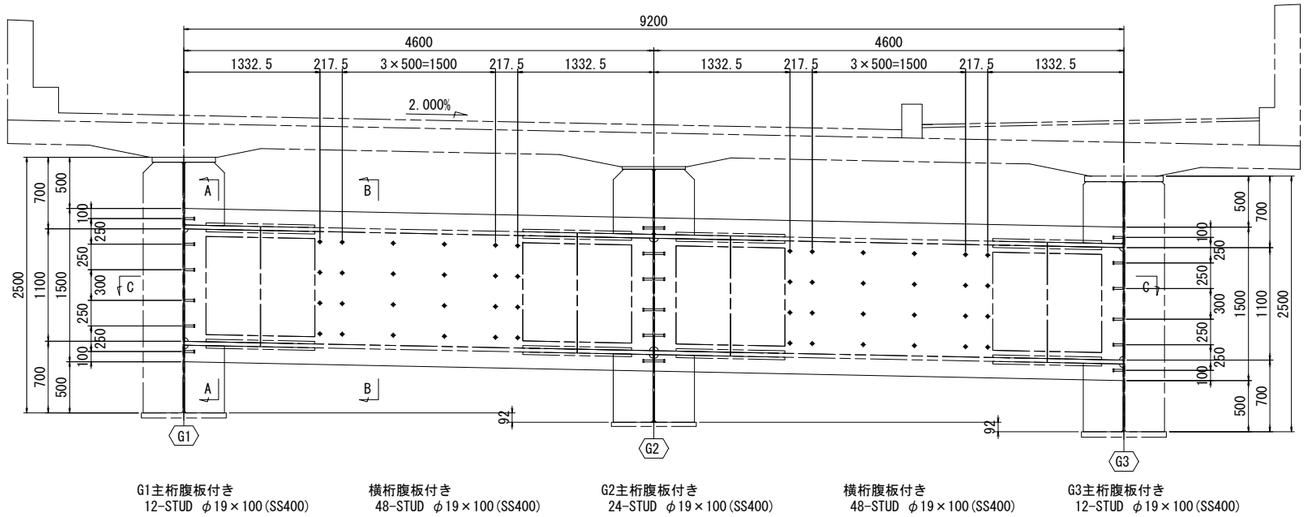
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(2)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 130
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(3)　S=1:30

P2, P3

正 面 図



G1主桁腹板付き
12-STUD φ19×100(SS400)

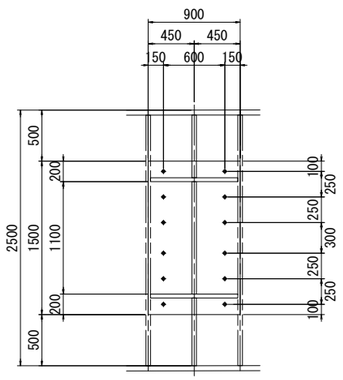
横桁腹板付き
48-STUD φ19×100(SS400)

G2主桁腹板付き
24-STUD φ19×100(SS400)

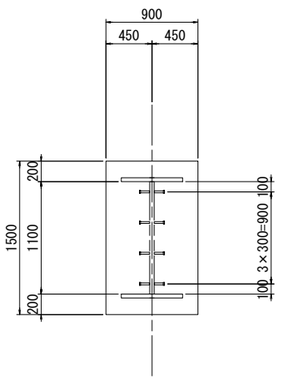
横桁腹板付き
48-STUD φ19×100(SS400)

G3主桁腹板付き
12-STUD φ19×100(SS400)

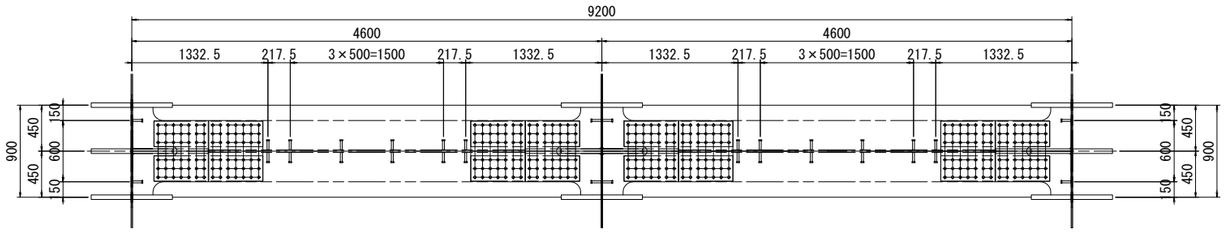
A － A



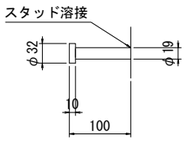
B － B



C － C

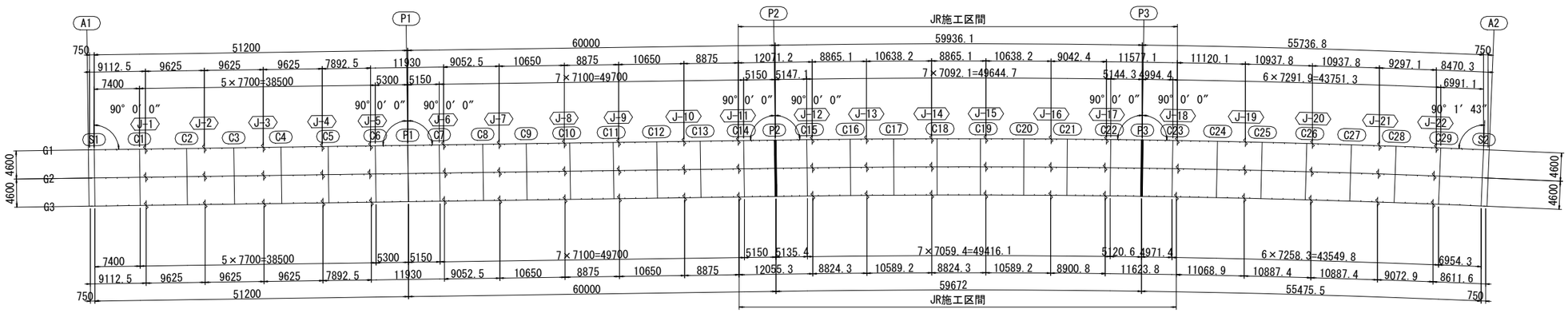


スタッド詳細図　S=1:5



1-STUD φ19×100(SS400)

配 置 図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

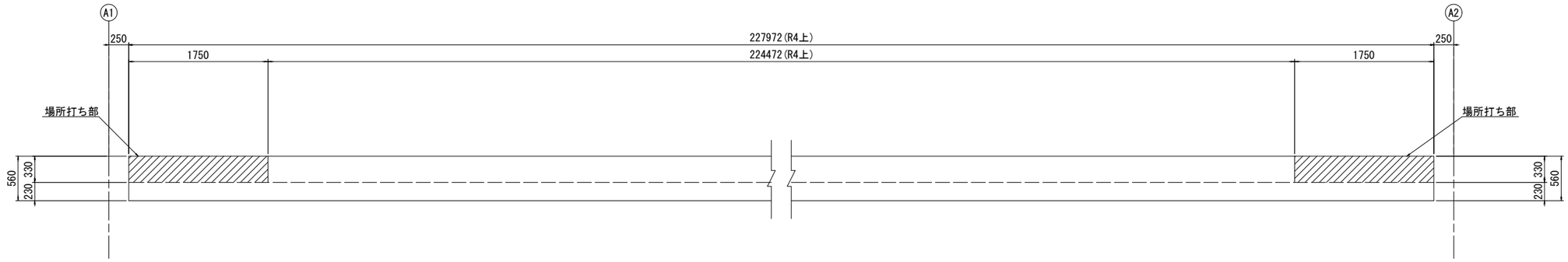
注記
1. 特記なき材質は、全てSD345とする。
2. 施工は、JR発注のため別途施工、今回対象は
工場製作のみとする。

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋巻き立てコンクリートスタッド図(3)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 131
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

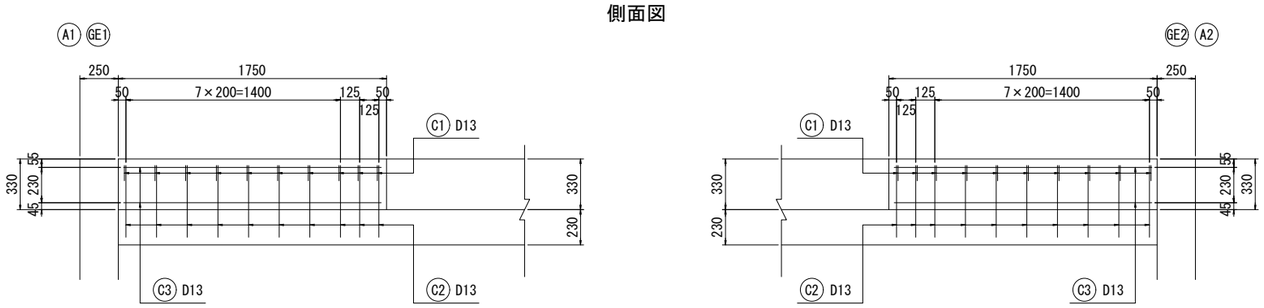
東田中高架橋歩車道境界配筋図 S=1:30

側面図



場所打ち部詳細図 S=1:20

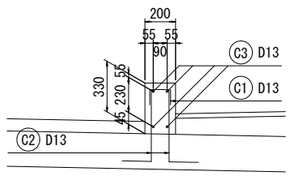
側面図



平面図



断面図



鉄筋加工図 S=1:20



C1 20-D13×320　C2 40-D13×660　C3 8-D13×1680

鉄 筋 表

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
C1	D13	320	20	0.995	0.32	6	⌐
C2	D13	660	40	0.995	0.66	26	⌟
C3	D13	1680	8	0.995	1.67	13	―
					合計	45 kg	
				鉄筋質量 (SD345)	D13	45 kg	
				コンクリート体積 (σck=24 N/mm2)		0.2 m3	
				型 枠 面 積		1 式	

歩車道境界コンクリート数量表

0.232m3当り

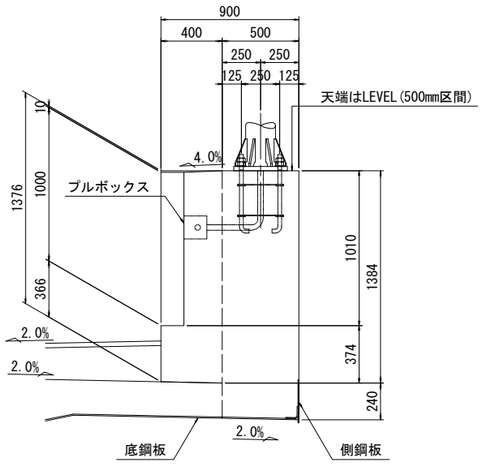
名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=24N/mm2	m3	0.232	
型枠		式	1	
鉄筋	SD345 D13	t	0.045	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

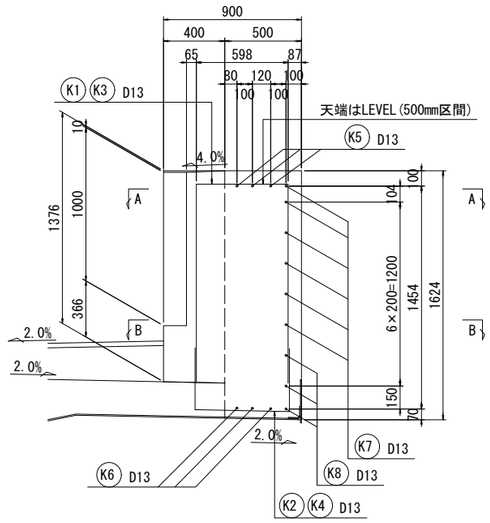
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋歩車道境界配筋図
縮尺	図示
図面番号	178 の 132
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋照明柱受台詳細図 S=1:20

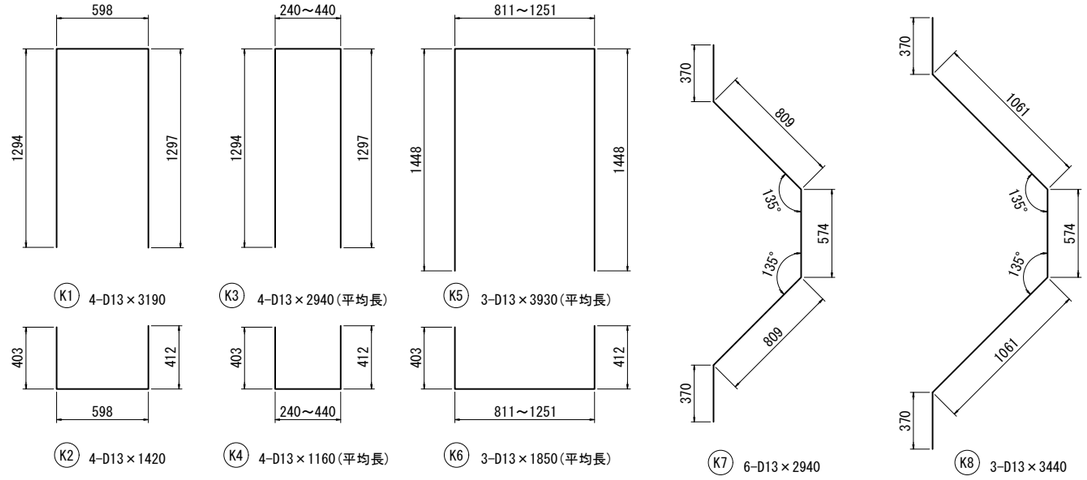
アンカーボルト配筋図



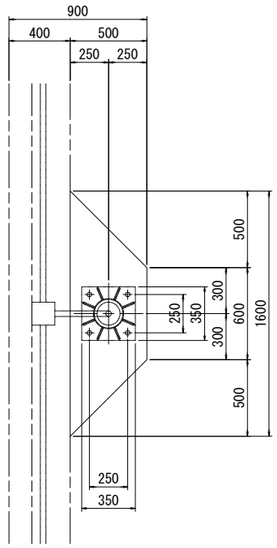
断面配筋図



加工筋図

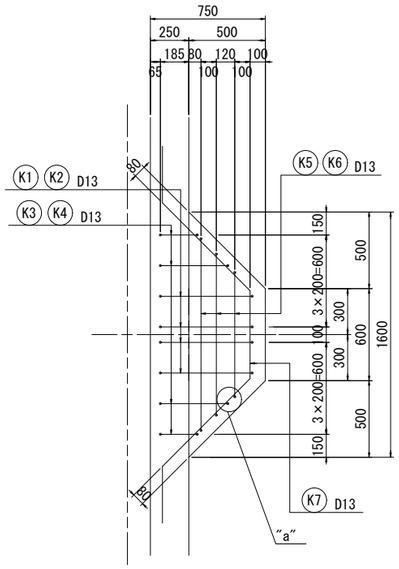


平面配筋図

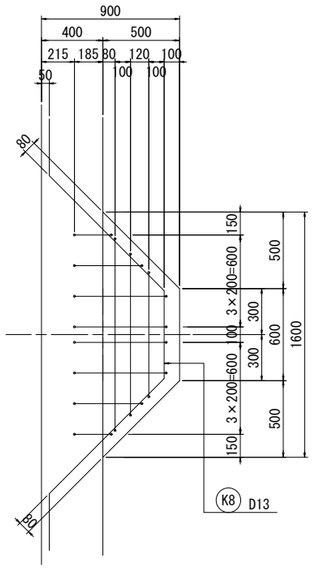


平面配筋図

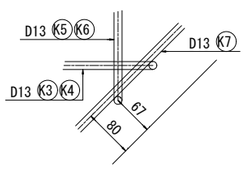
A－A



B－B



"a"部詳細図 S=1:5



照明柱受台 材料表(1箇所当り)

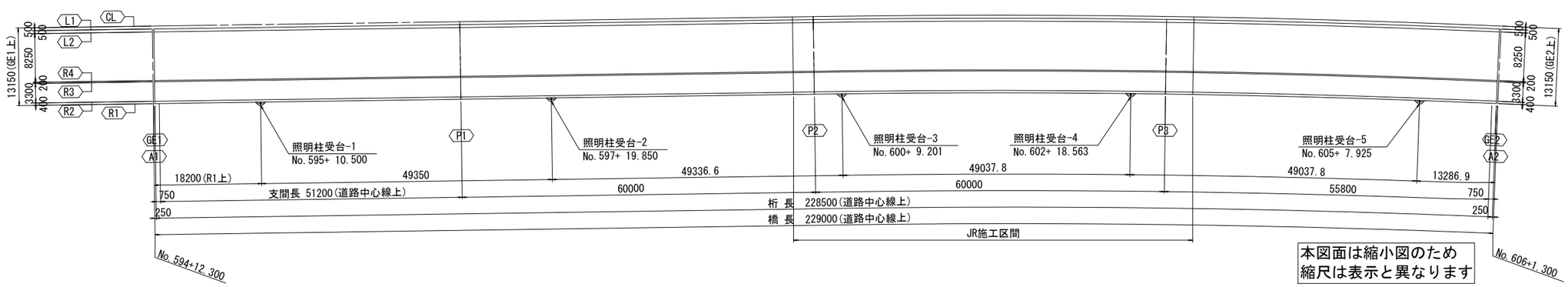
記　号	径	長　さ	本　数	単位質量	1本当り質量	質　量	摘　要
K1	D13	3190	4	0.995	3.17	13	⊓
K2	D13	1420	4	0.995	1.41	6	⊔
K3	D13	2940	4	0.995	2.93	12	⊓ (平均長)
K4	D13	1160	4	0.995	1.15	5	⊔ (平均長)
K5	D13	3930	3	0.995	3.91	12	⊓ (平均長)
K6	D13	1850	3	0.995	1.84	6	⊔ (平均長)
K7	D13	2940	6	0.995	2.93	18	〉
K8	D13	3440	3	0.995	3.42	10	〉
					合計	82 kg	
				鉄筋質量 (SD345) : D13		82 kg	
				コンクリート体積 (σck=30N/mm2) :		0.761 m3	
				型　枠　面　積 :		1　式	
総合計(3箇所)(今回施工)							
				鉄筋質量 (SD345) : D13		246 kg	
				コンクリート体積 (σck=30N/mm2) :		2.283 m3	
				型　枠　面　積 :		1　式	

照明柱受台コンクリート数量表

3箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	2.283	
型枠		式	1	
鉄筋	SD345 D13	t	0.246	

配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

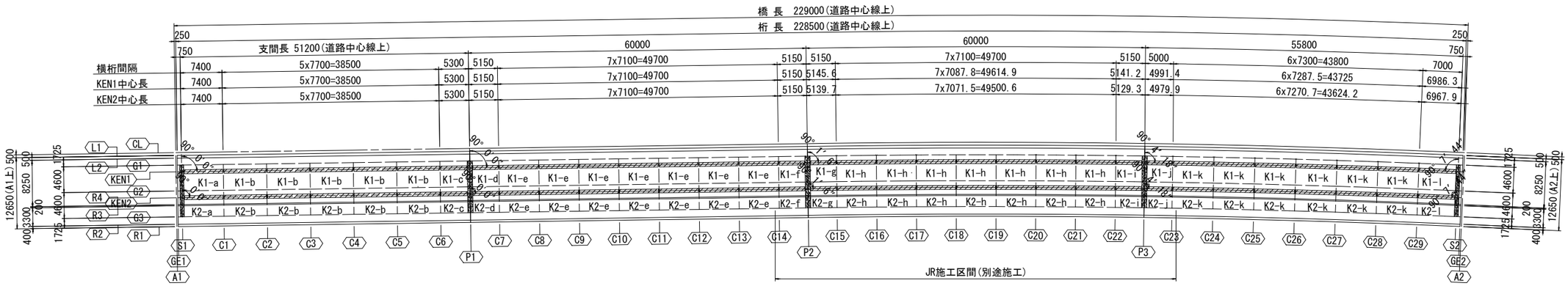
注記

1. 鉄筋の材質はすべてSD345とする。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。
3. 照明柱受台-3・受台-4はJR施工

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋照明柱受台詳細図
縮　尺	図　示
図面番号	178 の 133
年月日	令和　7　年　8　月　　日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

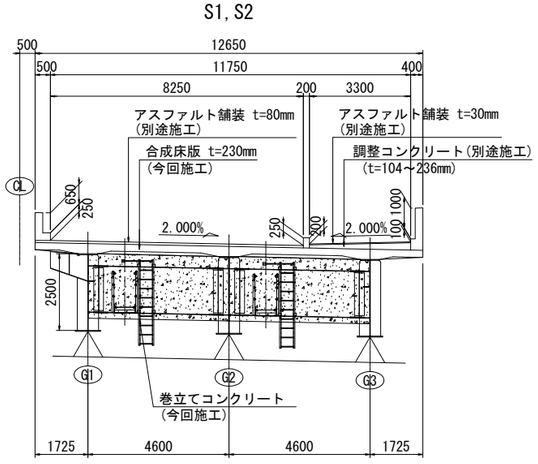
東田中高架橋上部構造検査路(1)　S=1:400

平面図

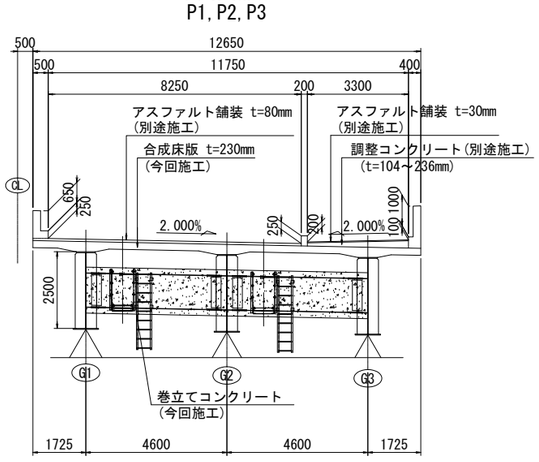


断面図　S=1:100

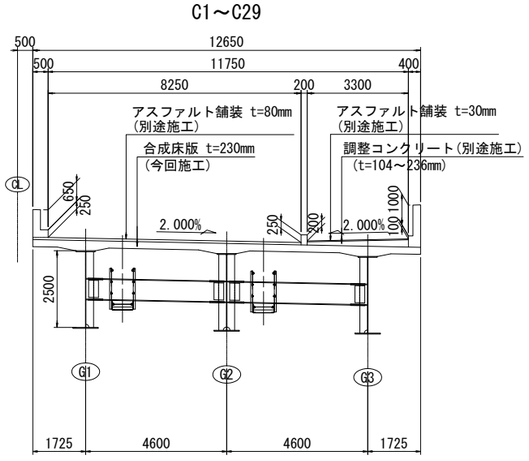
端支点部
S1, S2



中間支点部
P1, P2, P3



中間部
C1～C29



注記
JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

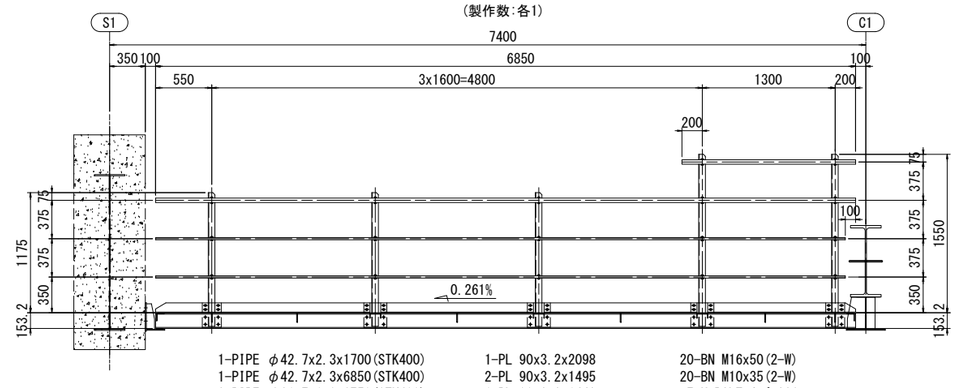
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 134
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(2)　S=1:30

K1-a, K2-a

(製作数:各1)



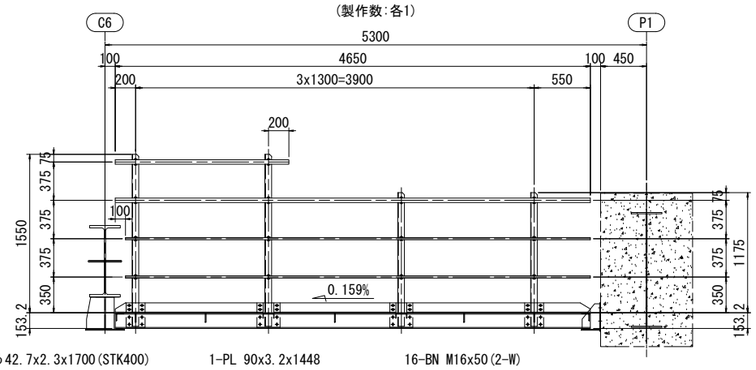
1-PIPE φ42.7x2.3x1700(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x6850(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6750(STK400)
3-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x2098
2-PL 90x3.2x1495
1-PL 90x3.2x1448
2-PL 240x12x185(SM400A)
3-PL 240x12x225(SM400A)

20-BN M16x50(2-W)
20-BN M10x35(2-W)
7-U.BOLT呼び 32C
10-U.BOLT呼び 15C

K1-c, K2-c

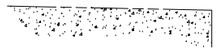
(製作数:各1)



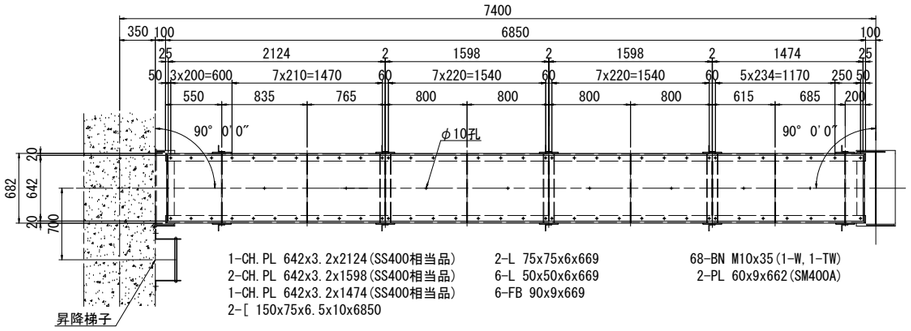
1-PIPE φ42.7x2.3x1700(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4650(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4550(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x1448
1-PL 90x3.2x1195
1-PL 90x3.2x1798
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C



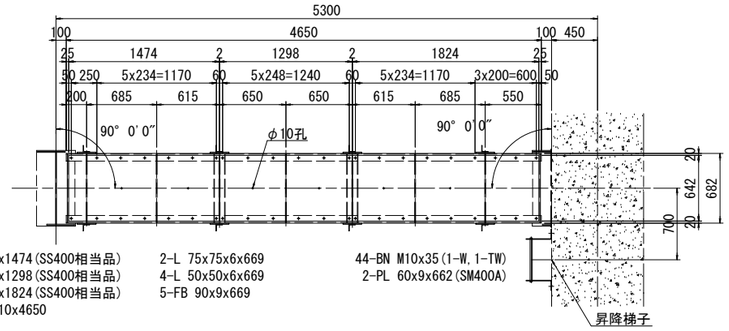




1-CH.PL 642x3.2x2124(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1474(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6850

2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

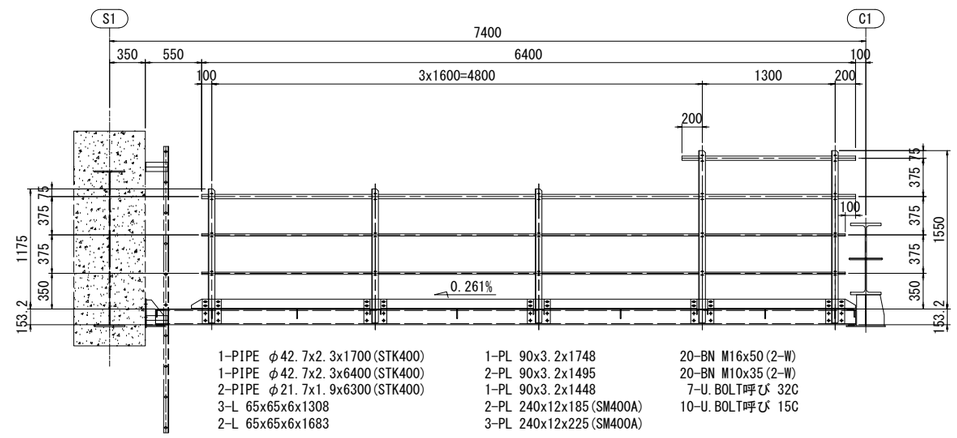
68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-CH.PL 642x3.2x1474(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1298(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1824(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4650

2-L 75x75x6x669
4-L 50x50x6x669
5-FB 90x9x669

44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

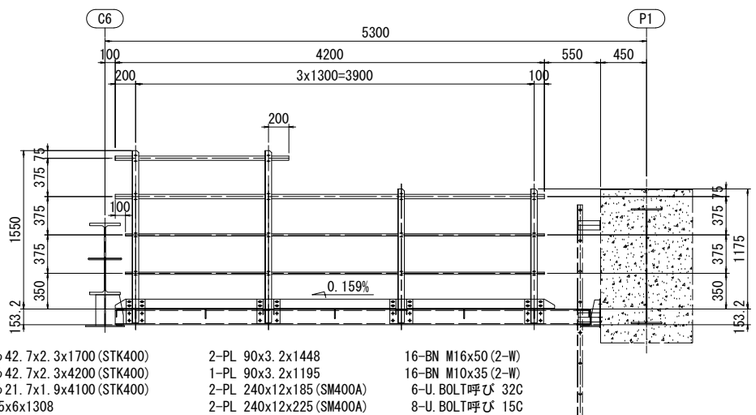


1-PIPE φ42.7x2.3x1700(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x6400(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6300(STK400)
3-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x1748
2-PL 90x3.2x1495
1-PL 90x3.2x1448
2-PL 240x12x185(SM400A)
3-PL 240x12x225(SM400A)

20-BN M16x50(2-W)
20-BN M10x35(2-W)
7-U.BOLT呼び 32C
10-U.BOLT呼び 15C





1-PIPE φ42.7x2.3x1700(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4200(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4100(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

2-PL 90x3.2x1448
1-PL 90x3.2x1195
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

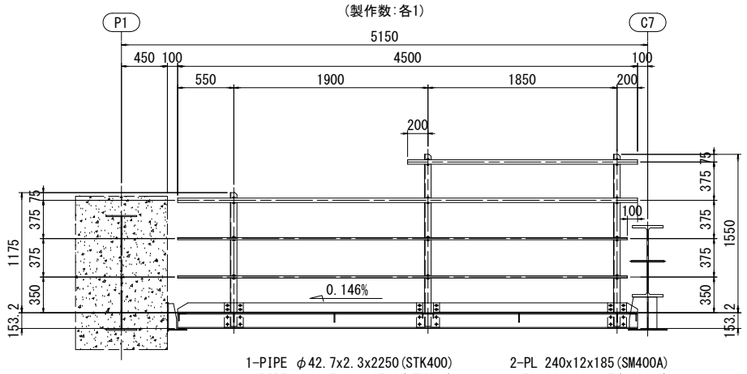
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 135
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(3)　S=1:30

K1-d,K2-d

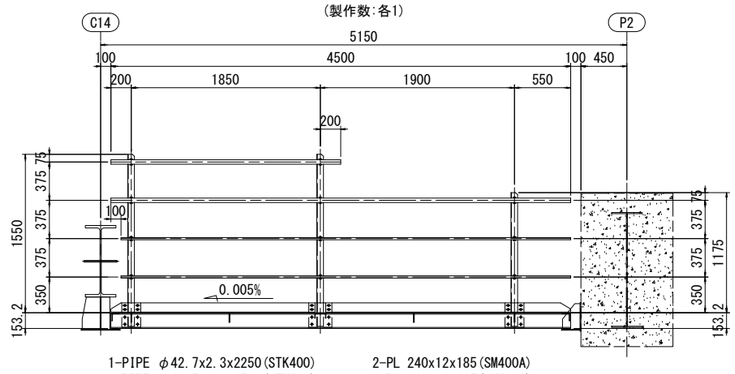
(製作数:各1)



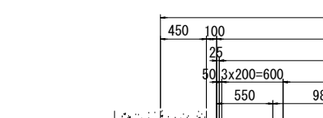
1-PIPE φ42.7x2.3x2250(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4500(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4400(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2398
1-PL 90x3.2x1998
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

K1-f,K2-f(JR施工)

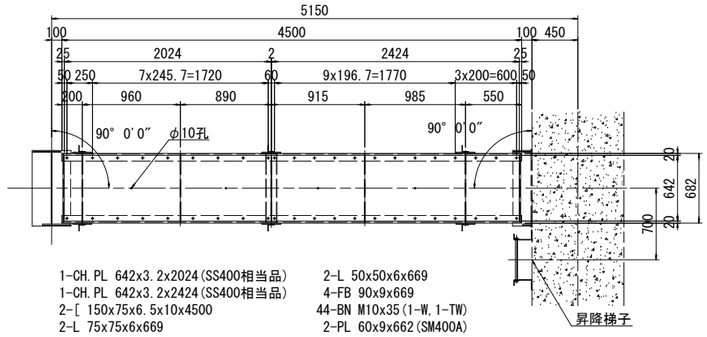
(製作数:各1)



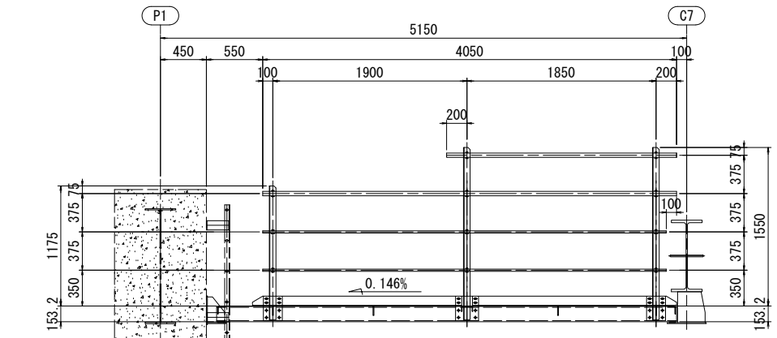
1-PIPE φ42.7x2.3x2250(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4500(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4400(STK400)
2-L 65x65x6x1683
1-L 65x65x6x1308
1-PL 90x3.2x1998
1-PL 90x3.2x2398
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2024(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4500
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

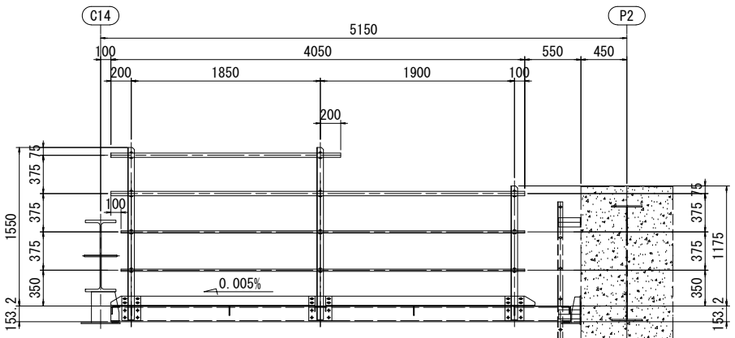


1-CH.PL 642x3.2x2024(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4500
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-PIPE φ42.7x2.3x2250(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4050(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3950(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2048
1-PL 90x3.2x1998
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C





1-PIPE φ42.7x2.3x2250(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4050(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3950(STK400)
2-L 65x65x6x1683
1-L 65x65x6x1308
1-PL 90x3.2x1998
1-PL 90x3.2x2048
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

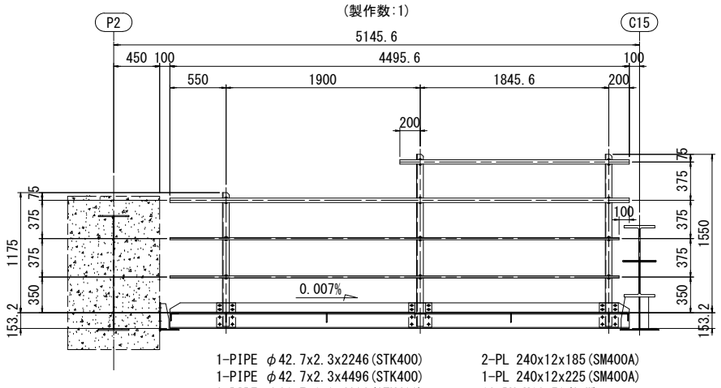
(指定部分)

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 136
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

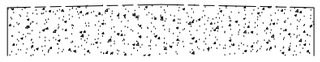
東田中高架橋上部構造検査路(4)　S=1:30

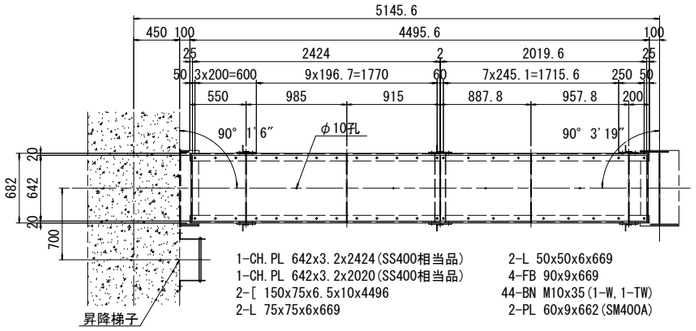
K1-g(JR施工)

(製作数:1)

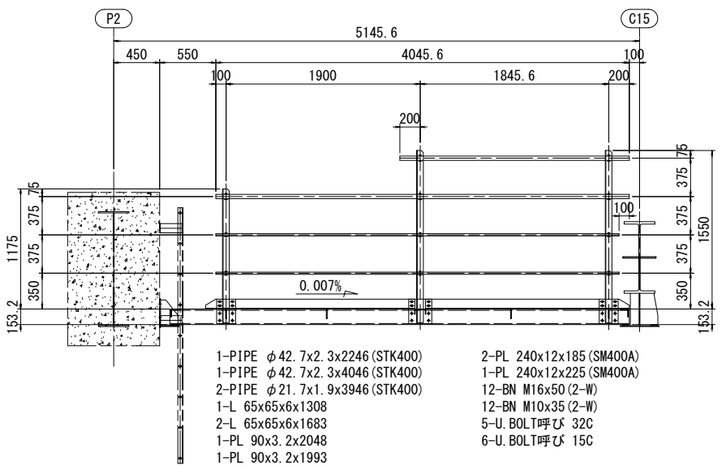


1-PIPE φ42.7x2.3x2246(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4496(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4396(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2398
1-PL 90x3.2x1993
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

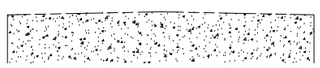




1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2020(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4496
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

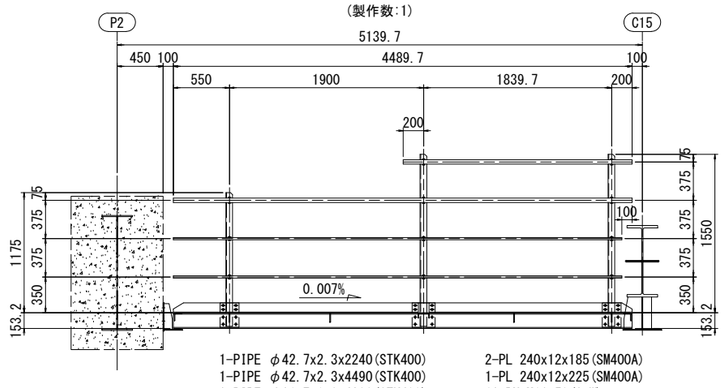


1-PIPE φ42.7x2.3x2246(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4046(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3946(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2048
1-PL 90x3.2x1993
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

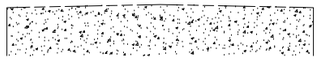


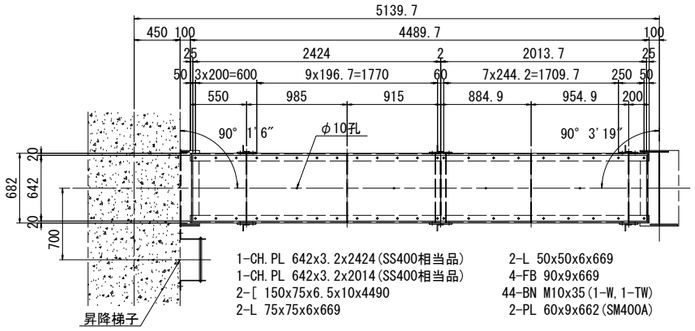
K2-g(JR施工)

(製作数:1)

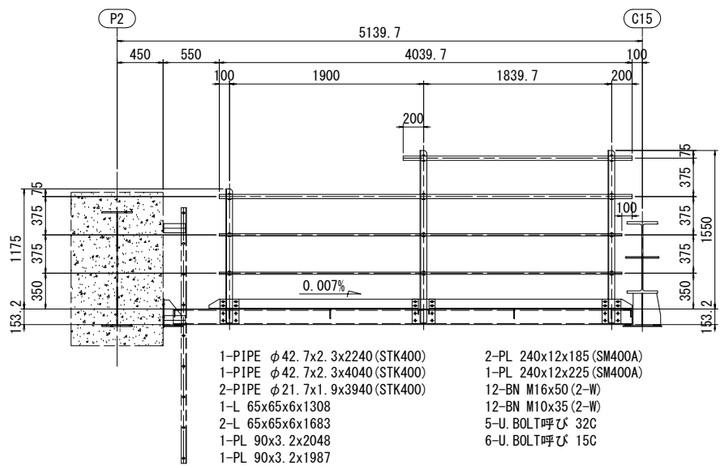


1-PIPE φ42.7x2.3x2240(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4490(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4390(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2398
1-PL 90x3.2x1987
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

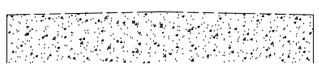




1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2014(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4490
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-PIPE φ42.7x2.3x2240(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4040(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3940(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2048
1-PL 90x3.2x1987
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

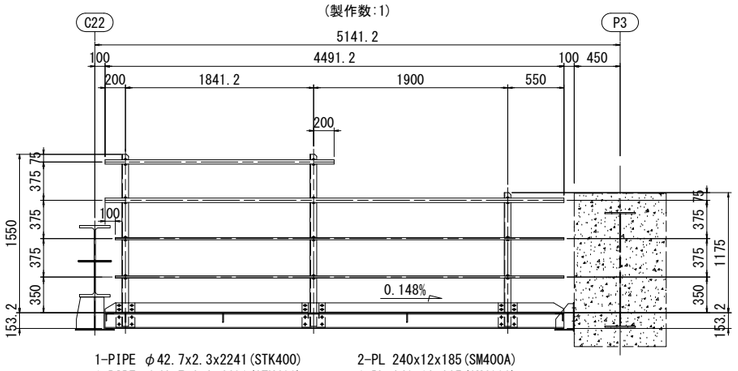
(指定部分)

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(4)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 137
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(5)　S=1:30

K1-i(JR施工)

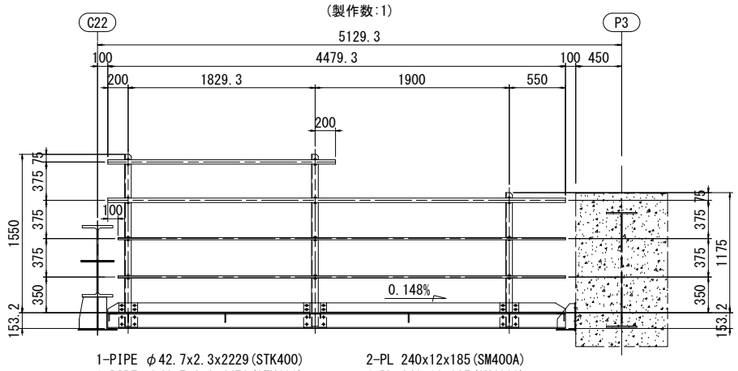
(製作数:1)



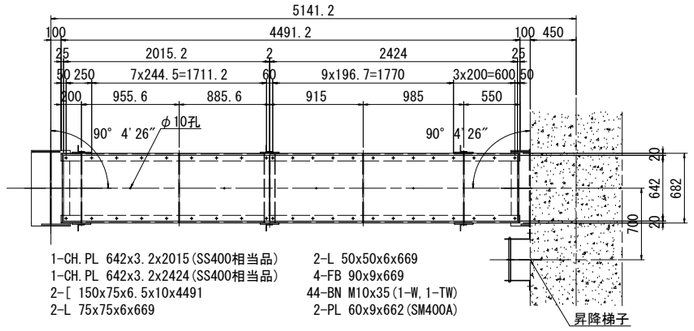
1-PIPE φ42.7x2.3x2241(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4491(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4391(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x1989
1-PL 90x3.2x2398
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

K2-i(JR施工)

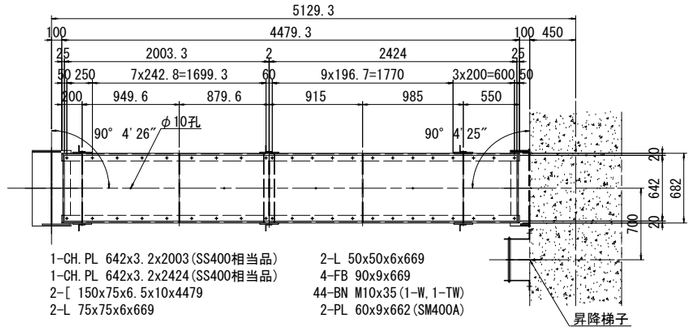
(製作数:1)



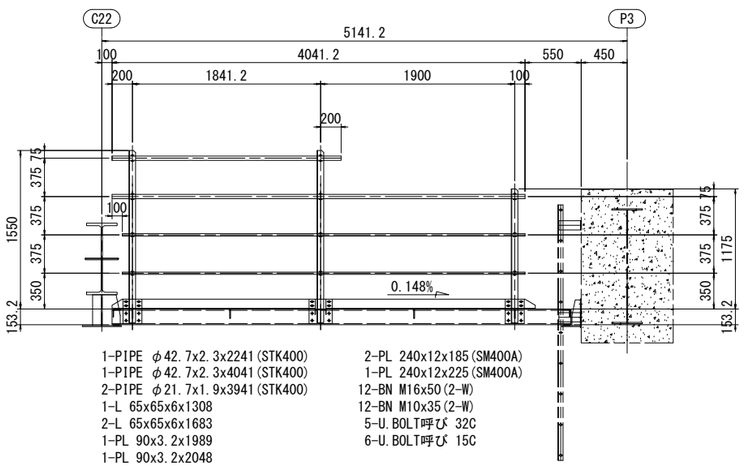
1-PIPE φ42.7x2.3x2229(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4479(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4379(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x1977
1-PL 90x3.2x2398
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



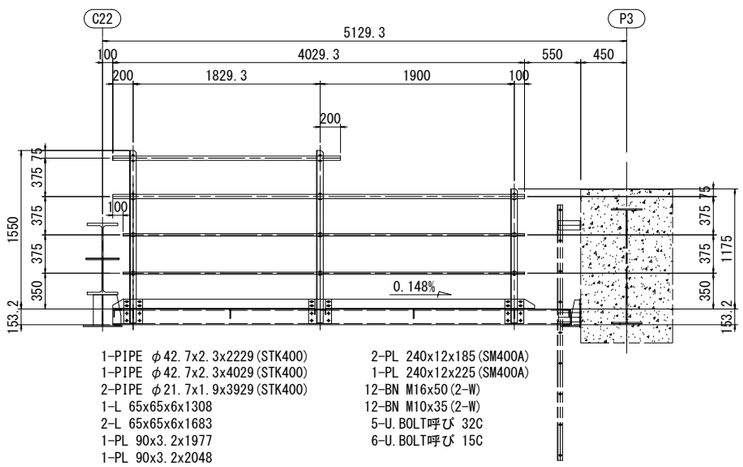
1-CH.PL 642x3.2x2015(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4491
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-CH.PL 642x3.2x2003(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4479
2-L 75x75x6x669
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-PIPE φ42.7x2.3x2241(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4041(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3941(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x1989
1-PL 90x3.2x2048
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



1-PIPE φ42.7x2.3x2229(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4029(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3929(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x1977
1-PL 90x3.2x2048
2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

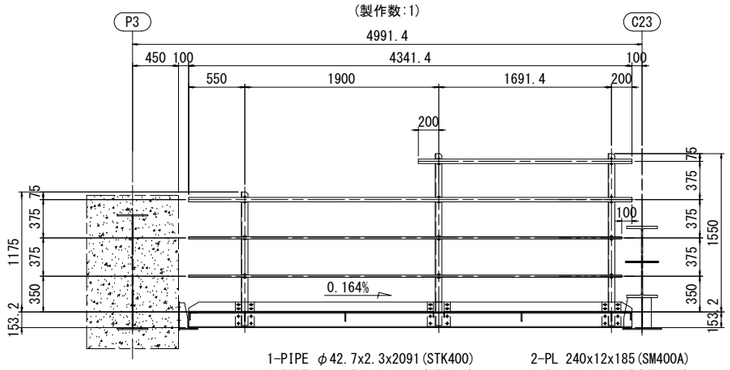
(指定部分)

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(5)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 138
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(6)　S=1:30

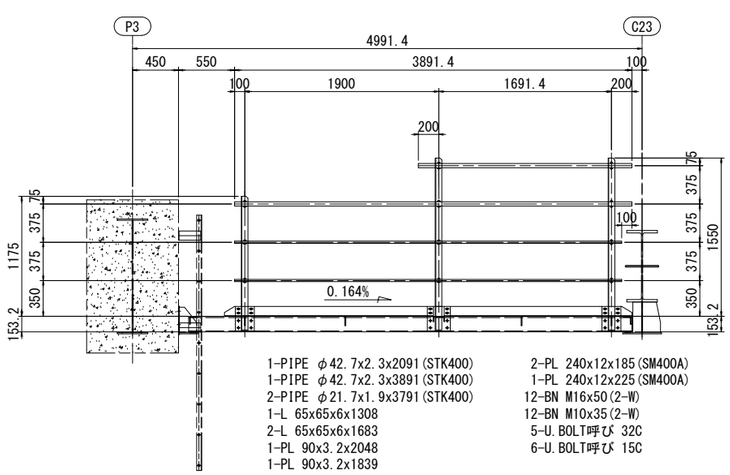
K1-j(JR施工)

(製作数:1)



1-PIPE φ42.7x2.3x2091(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4341(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4241(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2398
1-PL 90x3.2x1839

2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1865(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4341
2-L 75x75x6x669

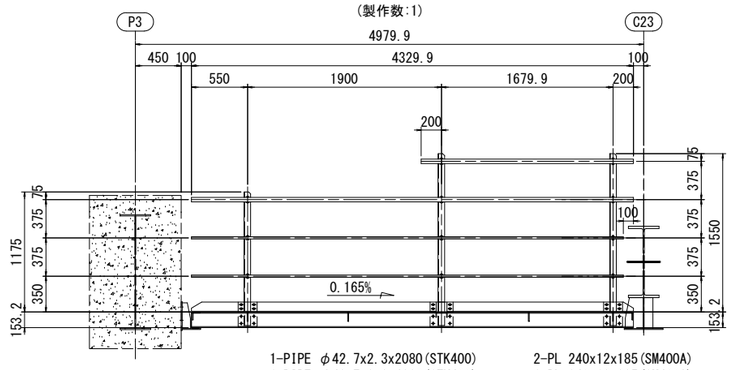
2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

1-PIPE φ42.7x2.3x2091(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x3891(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3791(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2048
1-PL 90x3.2x1839

2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

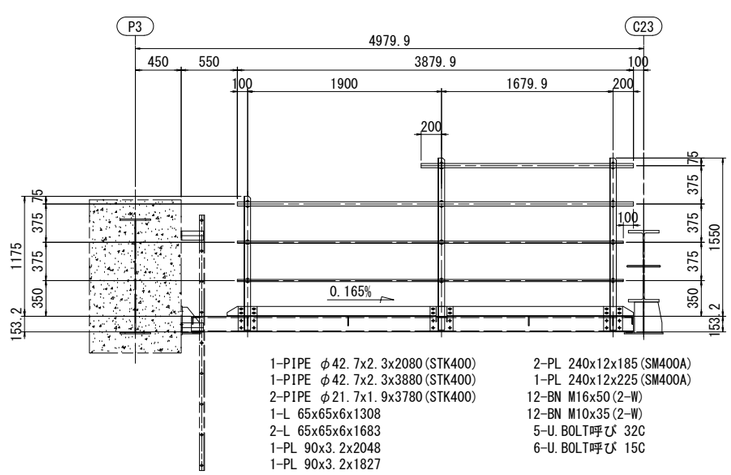
K2-j(JR施工)

(製作数:1)



1-PIPE φ42.7x2.3x2080(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x4330(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4230(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2398
1-PL 90x3.2x1827

2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C



1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1854(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x4330
2-L 75x75x6x669

2-L 50x50x6x669
4-FB 90x9x669
44-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

1-PIPE φ42.7x2.3x2080(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x3880(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3780(STK400)
1-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683
1-PL 90x3.2x2048
1-PL 90x3.2x1827

2-PL 240x12x185(SM400A)
1-PL 240x12x225(SM400A)
12-BN M16x50(2-W)
12-BN M10x35(2-W)
5-U.BOLT呼び 32C
6-U.BOLT呼び 15C

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

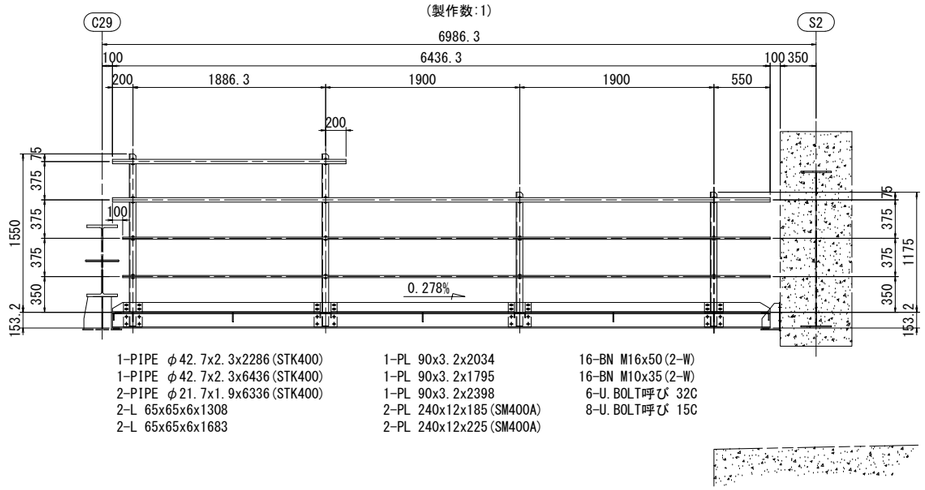
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(6)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 139
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(7)　S=1:30

K1-I
(製作数:1)

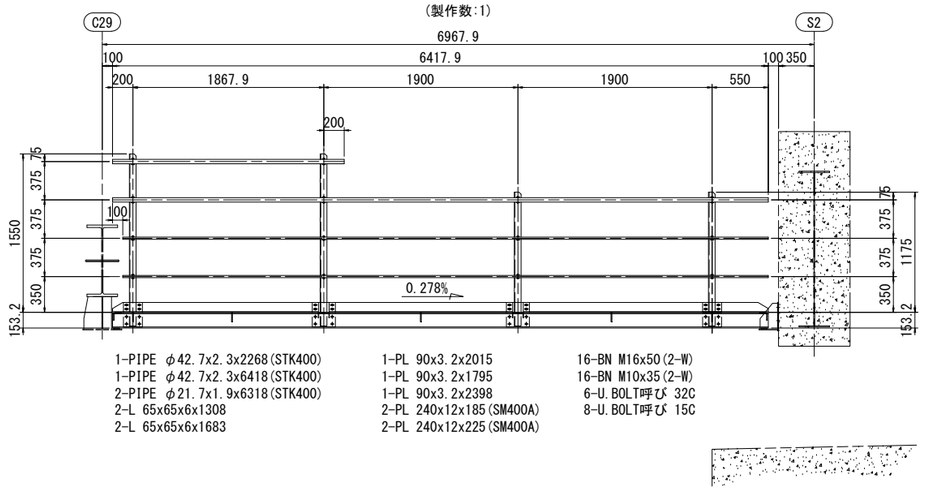


1-PIPE φ42.7x2.3x2286(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x6436(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6336(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x2034
1-PL 90x3.2x1795
1-PL 90x3.2x2398
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C

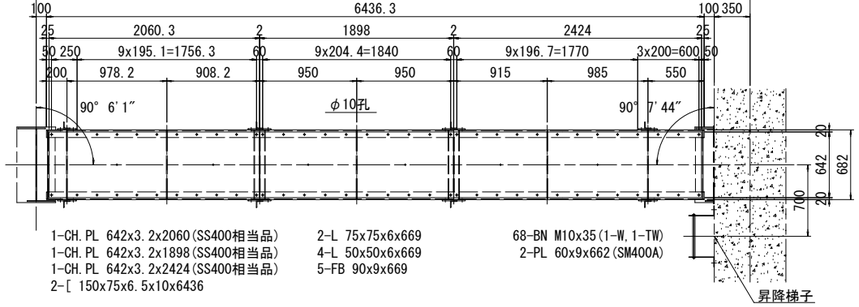
K2-I
(製作数:1)



1-PIPE φ42.7x2.3x2268(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x6418(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6318(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x2015
1-PL 90x3.2x1795
1-PL 90x3.2x2398
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

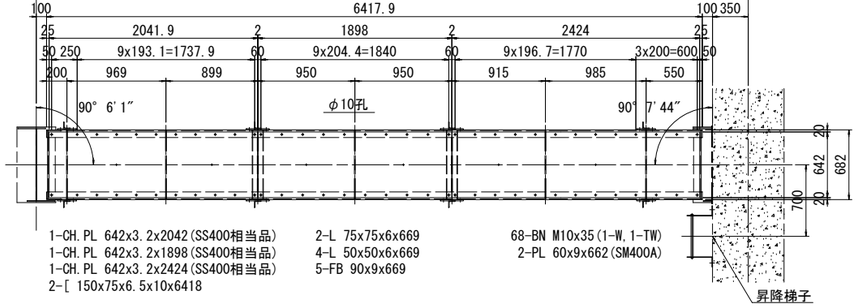
16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C



1-CH.PL 642x3.2x2060(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1898(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6436

2-L 75x75x6x669
4-L 50x50x6x669
5-FB 90x9x669

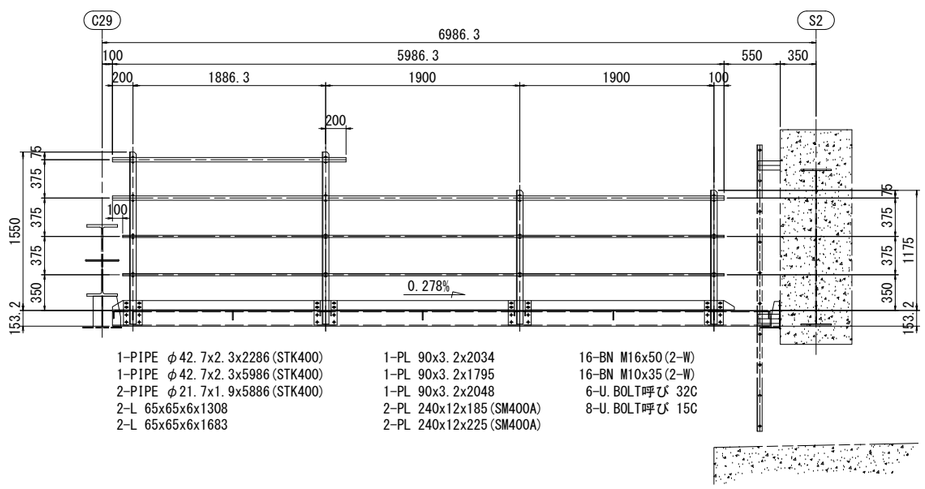
68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-CH.PL 642x3.2x2042(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x1898(SS400相当品)
1-CH.PL 642x3.2x2424(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6418

2-L 75x75x6x669
4-L 50x50x6x669
5-FB 90x9x669

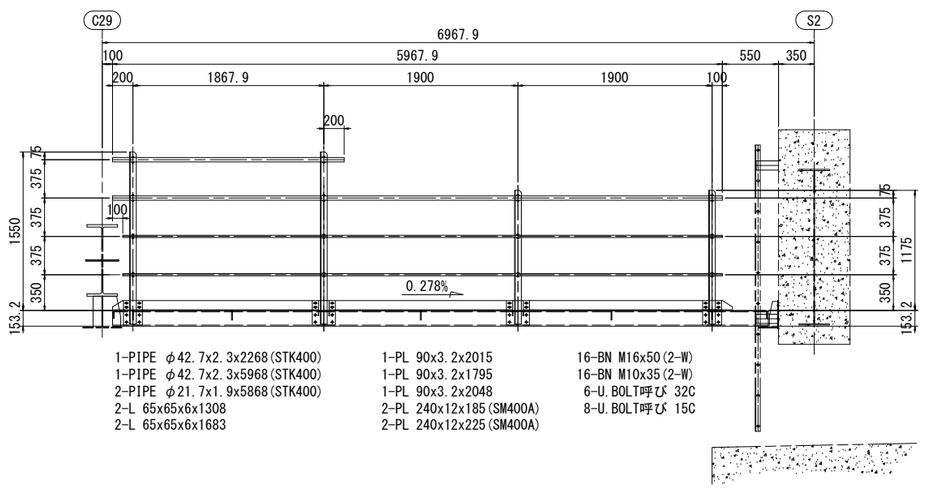
68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)



1-PIPE φ42.7x2.3x2286(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x5986(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x5886(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x2034
1-PL 90x3.2x1795
1-PL 90x3.2x2048
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C



1-PIPE φ42.7x2.3x2268(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x5968(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x5868(STK400)
2-L 65x65x6x1308
2-L 65x65x6x1683

1-PL 90x3.2x2015
1-PL 90x3.2x1795
1-PL 90x3.2x2048
2-PL 240x12x185(SM400A)
2-PL 240x12x225(SM400A)

16-BN M16x50(2-W)
16-BN M10x35(2-W)
6-U.BOLT呼び 32C
8-U.BOLT呼び 15C

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

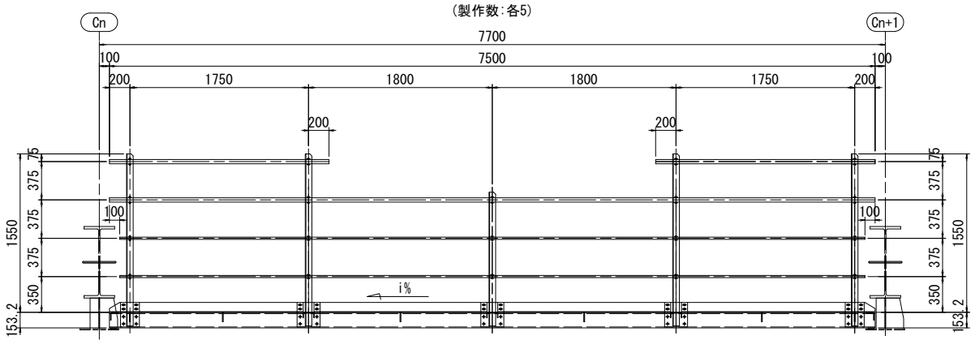
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(7)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 140
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(8)　S=1:30

K1-b <K2-b>

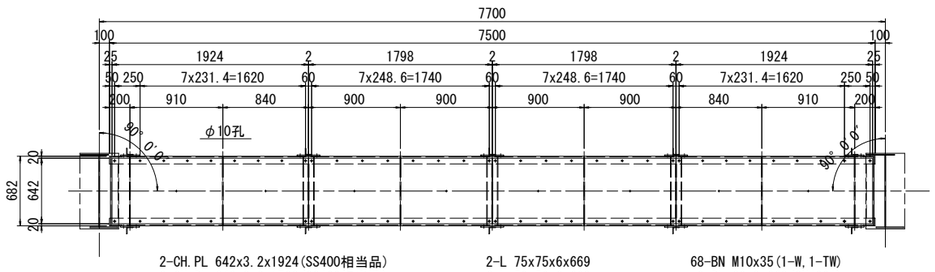
(製作数:各5)



4-PIPE φ42.7x2.3x2150(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x7500(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x7300(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1898
4-PL 90x3.2x1695
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



2-CH.PL 642x3.2x1924(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1798(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x7500

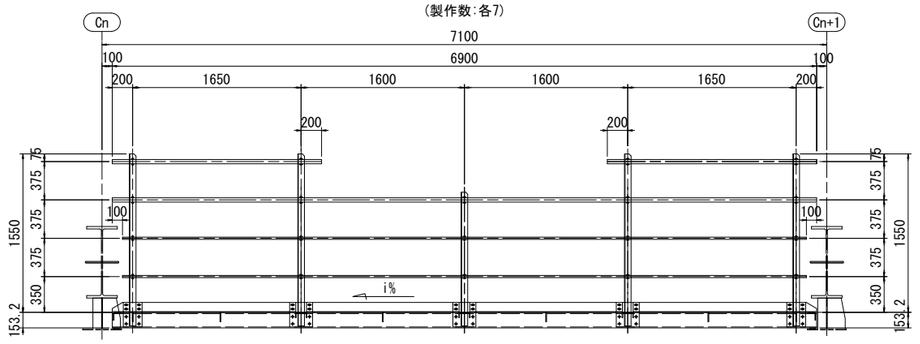
2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %
K1-b <K2-b>	C1	C2	0.232
	C2	C3	0.214
	C3	C4	0.196
	C4	C5	0.179
	C5	C6	0.159

K1-e <K2-e>

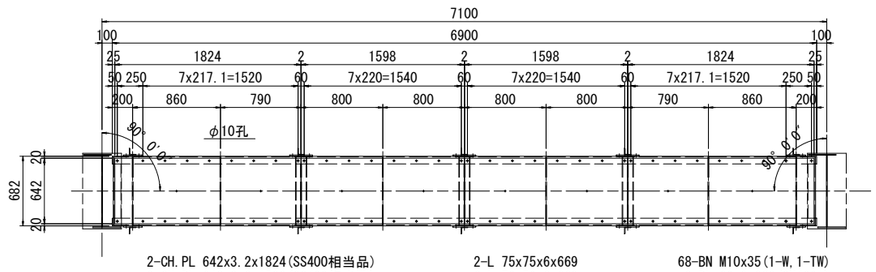
(製作数:各7)



4-PIPE φ42.7x2.3x2050(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x6900(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x6700(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1798
4-PL 90x3.2x1495
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



2-CH.PL 642x3.2x1824(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6900

2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %
K1-e <K2-e>	C7	C8	0.119
	C8	C9	0.102
	C9	C10	0.086
	C10	C11	0.068
	C11	C12	0.052
	C12	C13	0.036
	C13	C14	0.019

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

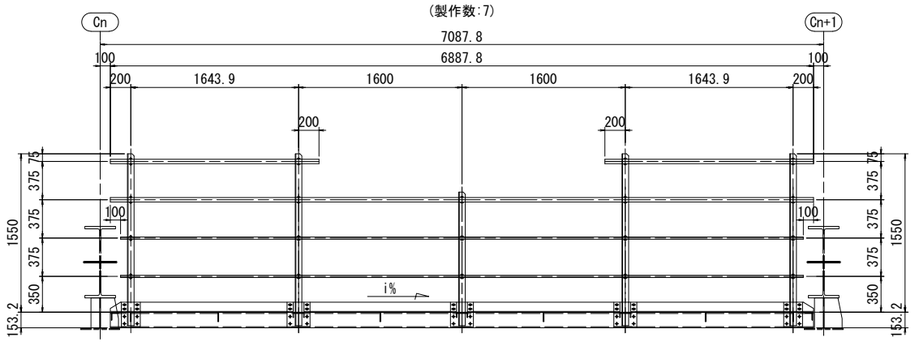
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(8)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 141
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(9)　S=1:30

K1-h(JR施工)

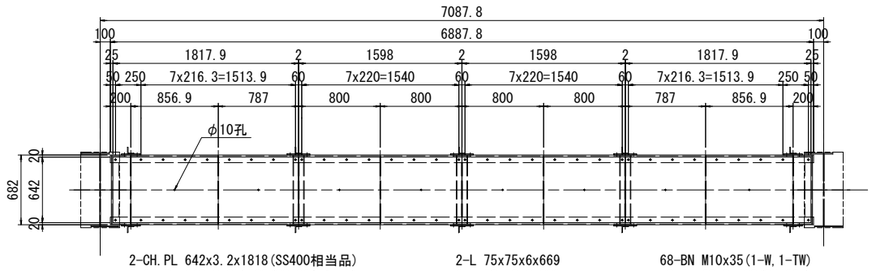
(製作数:7)



4-PIPE φ42.7x2.3x2044(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x6888(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x6688(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1791
4-PL 90x3.2x1495
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



2-CH.PL 642x3.2x1818(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6888

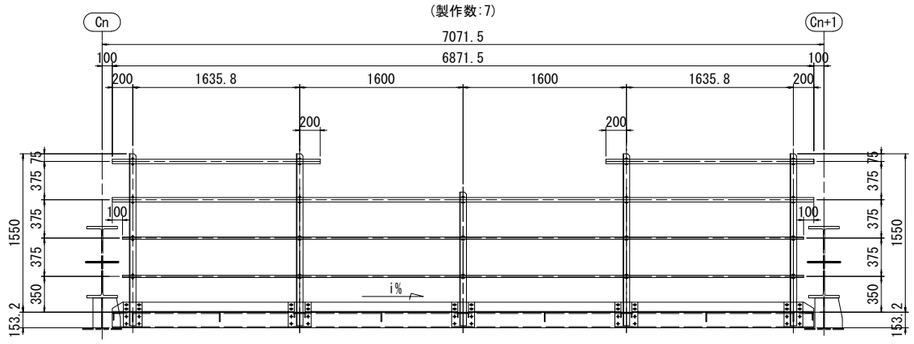
2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %
K1-h	C15	C16	0.023
	C16	C17	0.039
	C17	C18	0.055
	C18	C19	0.072
	C19	C20	0.089
	C20	C21	0.105
	C21	C22	0.122

K2-h(JR施工)

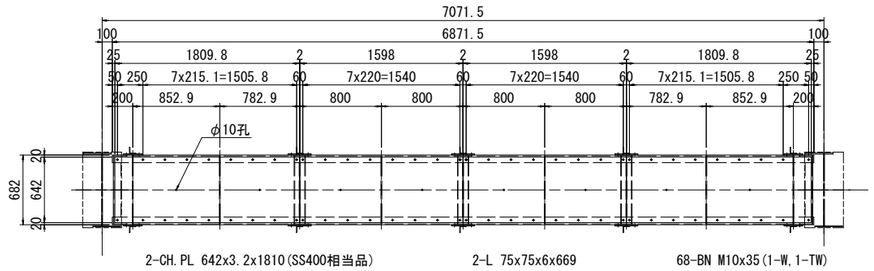
(製作数:7)



4-PIPE φ42.7x2.3x2036(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x6872(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x6672(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1783
4-PL 90x3.2x1495
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



2-CH.PL 642x3.2x1810(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x6872

2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %
K2-h	C15	C16	0.023
	C16	C17	0.039
	C17	C18	0.055
	C18	C19	0.072
	C19	C20	0.089
	C20	C21	0.105
	C21	C22	0.122

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

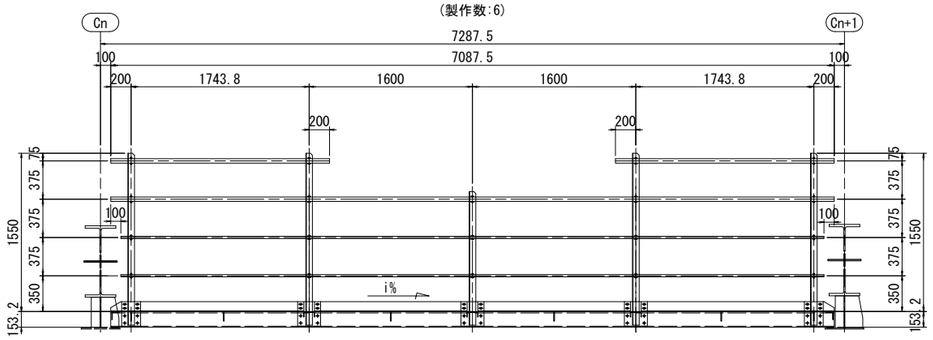
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(9)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 142
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(10)　S=1:30

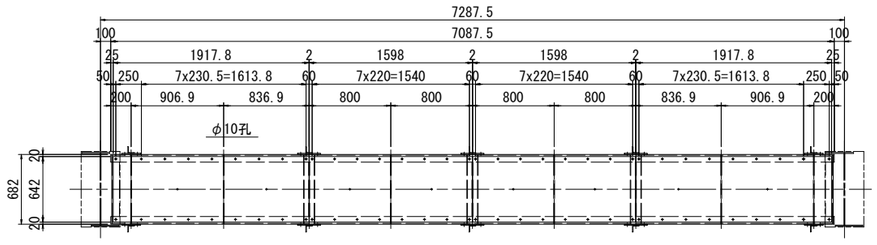
K1-k
(製作数:6)



4-PIPE φ42.7x2.3x2144(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x7088(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x6888(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1891
4-PL 90x3.2x1495
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



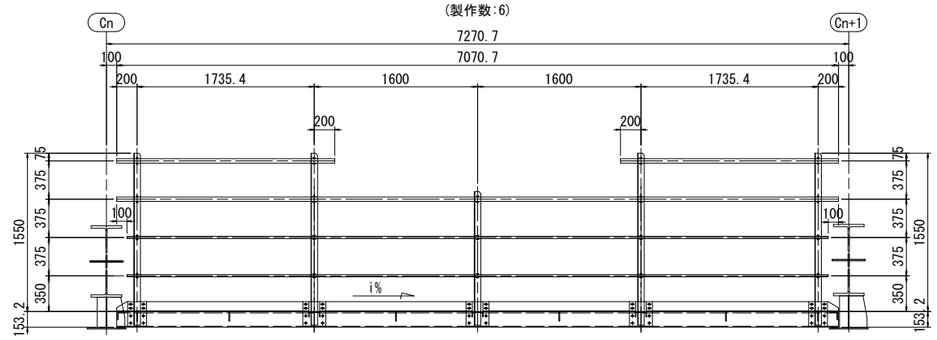
2-CH.PL 642x3.2x1918(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x7088

2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %	θ1
K1-k	C23	C24	0.162	90° 06′ 16″
	C24	C25	0.180	90° 06′ 17″
	C25	C26	0.197	90° 06′ 16″
	C26	C27	0.214	90° 06′ 16″
	C27	C28	0.231	90° 06′ 17″
	C28	C29	0.248	90° 06′ 17″

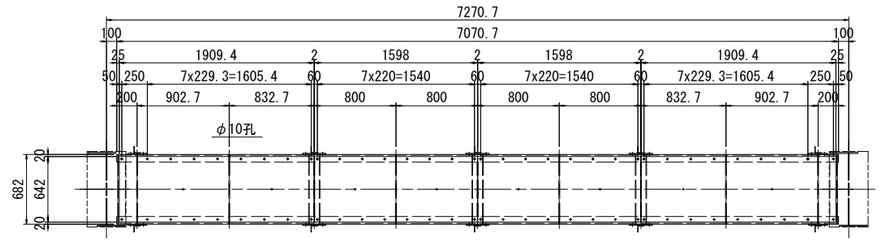
K2-k
(製作数:6)



4-PIPE φ42.7x2.3x2135(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x7071(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x6871(STK400)
2-L 65x65x6x1308
8-L 65x65x6x1683

4-PL 90x3.2x1883
4-PL 90x3.2x1495
4-PL 240x12x185(SM400A)
6-PL 240x12x225(SM400A)

40-BN M16x50(2-W)
40-BN M10x35(2-W)
18-U.BOLT呼び 32C
20-U.BOLT呼び 15C



2-CH.PL 642x3.2x1909(SS400相当品)
2-CH.PL 642x3.2x1598(SS400相当品)
2-[150x75x6.5x10x7071

2-L 75x75x6x669
6-L 50x50x6x669
6-FB 90x9x669

68-BN M10x35(1-W,1-TW)
2-PL 60x9x662(SM400A)

KEN	Cn	Cn+1	i %
K2-k	C23	C24	0.163
	C24	C25	0.180
	C25	C26	0.197
	C26	C27	0.214
	C27	C28	0.231
	C28	C29	0.249

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

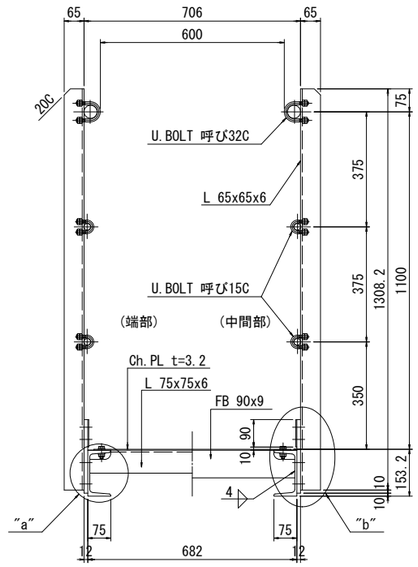
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

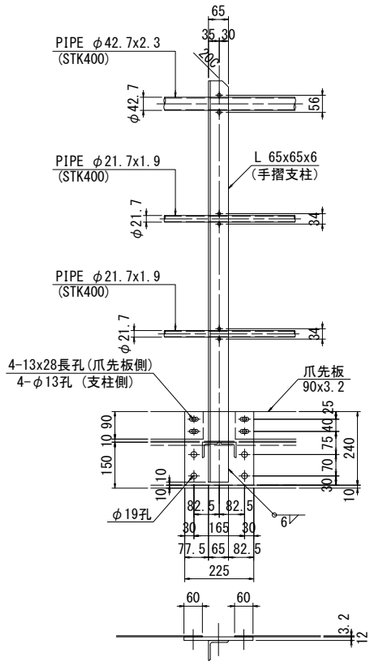
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(10)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 143
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(11) S=1:10

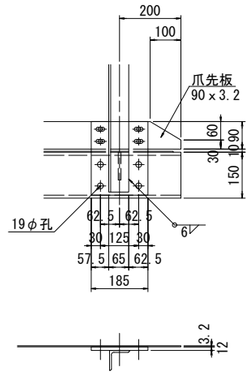
歩廊断面及び構造詳細

CH 150x75x6.5x10

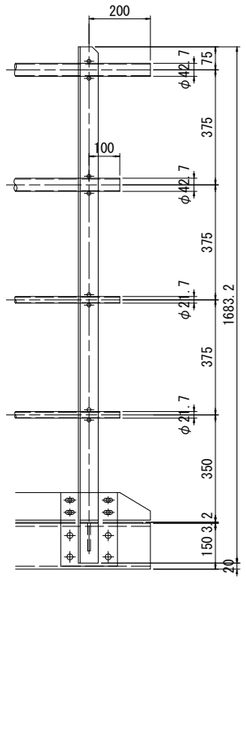




端支柱部

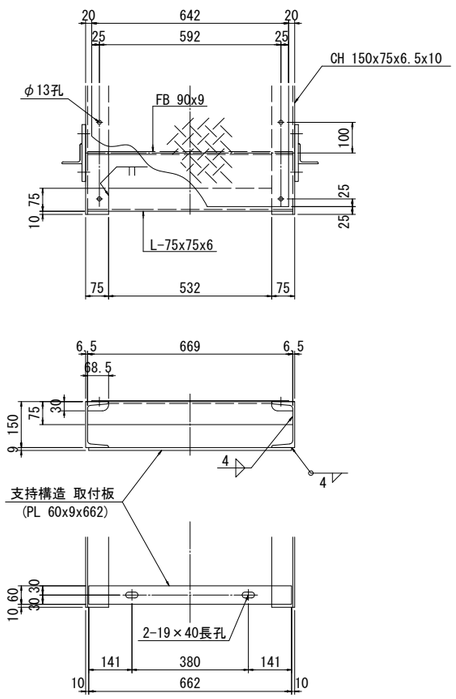


中間横桁部手摺詳細

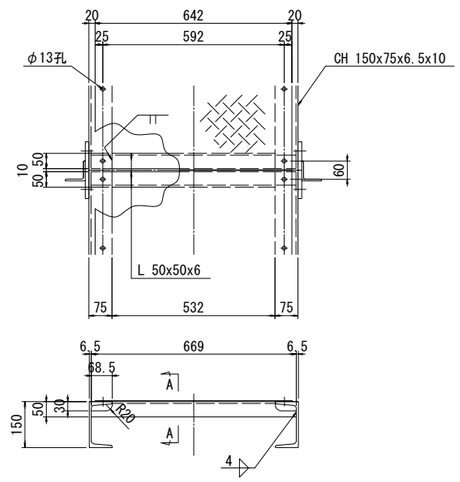


歩廊部詳細

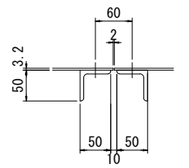
端部



中間部

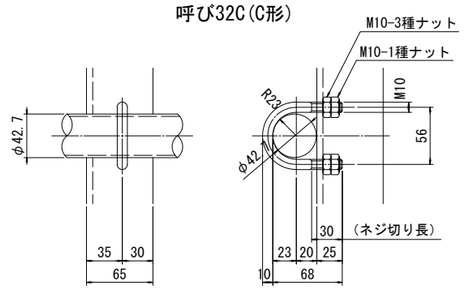


A - A S=1:5

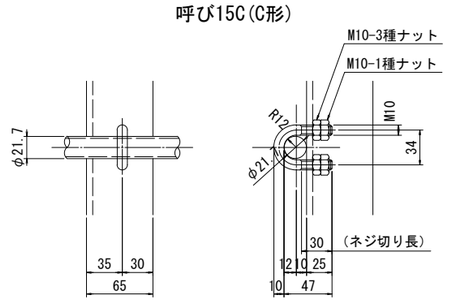


Uボルト詳細 S=1:3

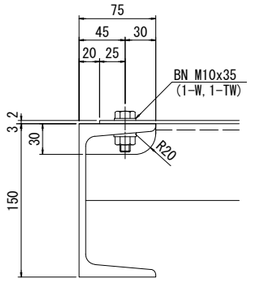
呼び32C(C形)



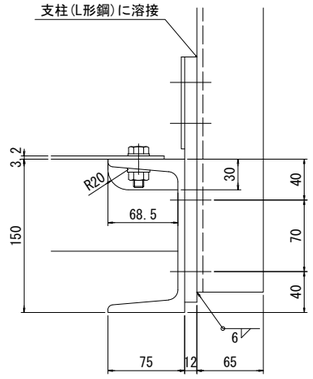
呼び15C(C形)



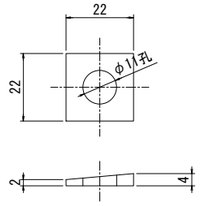
"a"部詳細 S=1:3



"b"部詳細 S=1:3

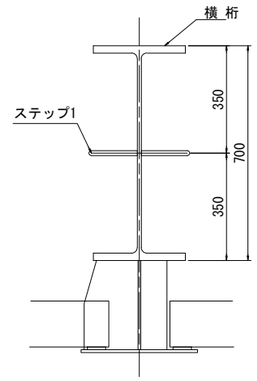


5° テーパ座金詳細 S=1:5



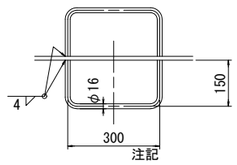
横桁付ステップ1

(製作数:58箇所)



1箇所当たり材料
※ 2-RB φ16x600(SMA400AW)

ステップ1 詳細



注記

1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2㎜以上6㎜未満の部材は HDZT63とする。
   ボルト･ナットおよび板厚3.2㎜未満の部材は HDZT49とする。
5. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+3㎜を標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

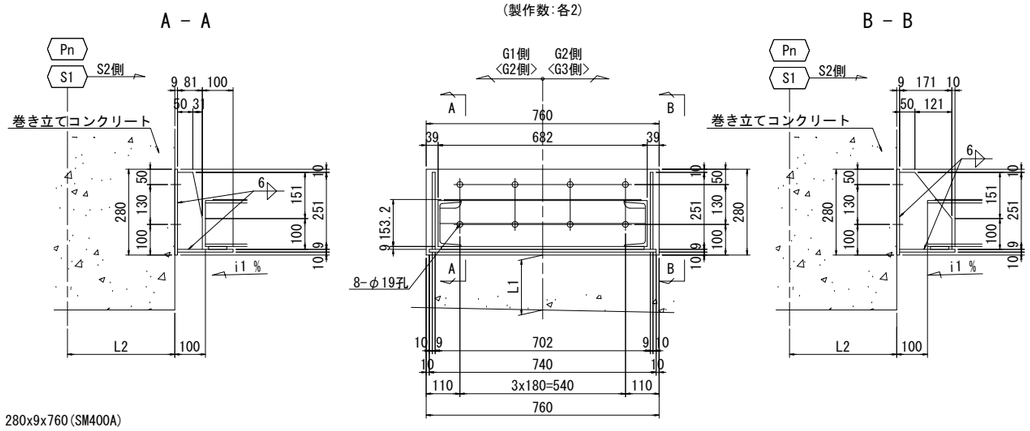
(指定部分)

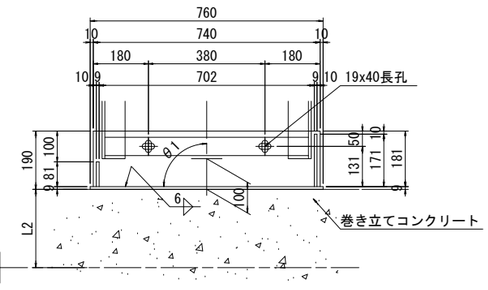
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(11)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 144
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(12) S=1:10

端支点横桁部

S1,P1～P3 (S2側)
(製作数:各2)





1-BASE PL 280x9x760(SM400A)
1-FLG PL 181x9x740(SM400A)
1-RIB PL 171x9x251(SM400A)
1-RIB PL 81x9x251(SM400A)
2-BN M16x45(2-W)
8-打ち込み式アンカー M16x125

◇内は、KEN2側を示す。

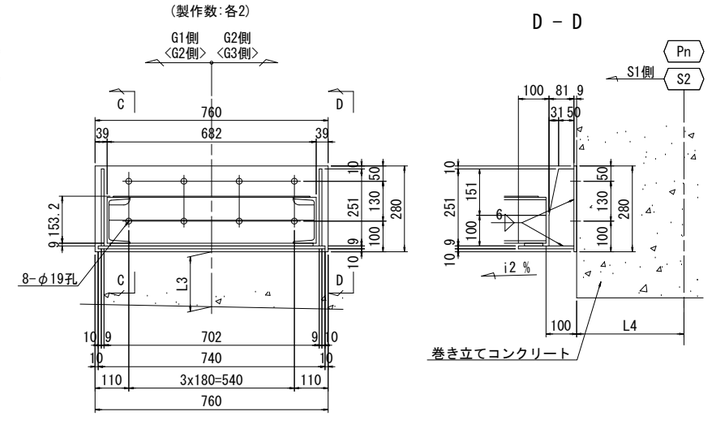
KEN1

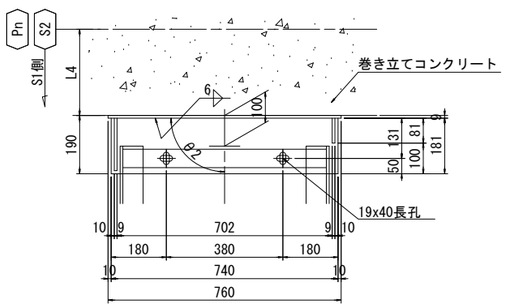
	θ1	i1%	L1	L2
S1	90° 00′ 00″	0.261	171.9	350
P1	90° 00′ 00″	0.146	71.9	450
P2	90° 01′ 06″	-0.007	71.9	450
P3	90° 04′ 18″	-0.164	71.9	450

KEN2

	θ1	i1%	L1	L2
S1	90° 00′ 00″	0.261	171.9	350
P1	90° 00′ 00″	0.146	71.9	450
P2	90° 01′ 06″	-0.007	71.9	450
P3	90° 04′ 18″	-0.165	71.9	450

S2,P1～P3 (S1側)
(製作数:各2)





1-BASE PL 280x9x760(SM400A)
1-FLG PL 181x9x740(SM400A)
1-RIB PL 171x9x251(SM400A)
1-RIB PL 81x9x251(SM400A)
2-BN M16x45(2-W)
8-打ち込み式アンカー M16x125

◇内は、KEN2側を示す。

KEN1

	θ2	i2%	L3	L4
P1	90° 00′ 00″	0.159	71.9	450
P2	90° 00′ 00″	0.005	71.9	450
P3	90° 04′ 26″	-0.148	71.9	450
S2	90° 07′ 44″	-0.278	171.9	350

KEN2

	θ2	i2%	L3	L4
P1	90° 00′ 00″	0.159	71.9	450
P2	90° 00′ 00″	0.005	71.9	450
P3	90° 04′ 25″	-0.148	71.9	450
S2	90° 07′ 44″	-0.278	171.9	350

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上6mm未満の部材は HDZT63とする。
ボルト･ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は HDZT49とする。
5. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P2・P3橋脚はJR施工

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

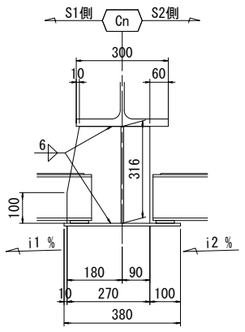
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(12)		
縮尺	S=1:10	図面番号	178 の 145
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

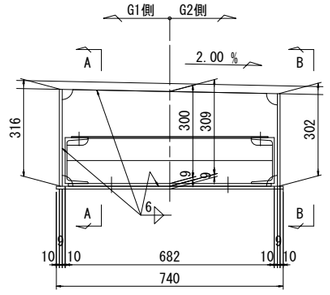
東田中高架橋上部構造検査路(13) S=1:10

中間横桁部

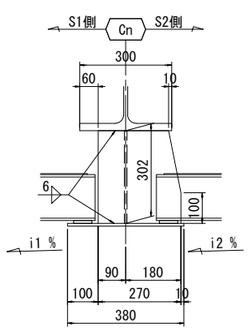
A － A

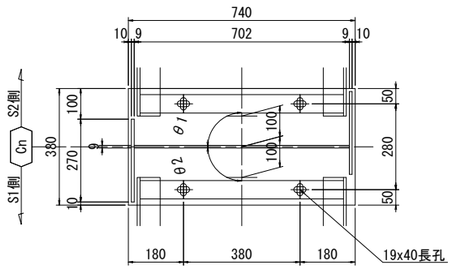


KEN1 C1～C29
（製作数:各1）



B － B

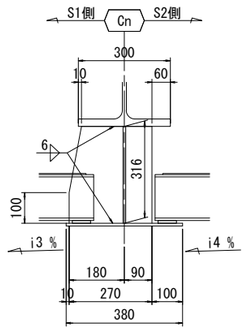




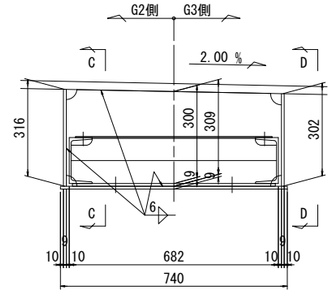
※1-WEB PL 316x9x702(SMA400AW)
※1-FLG PL 380x9x740(SMA400AW)
※1-RIB PL 316x9x270(SMA400AW)
※1-RIB PL 302x9x270(SMA400AW)
4-BN M16x45(2-W)

	θ1	θ2	i1%	i2%
C1	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.261	0.232
C2	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.232	0.214
C3	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.214	0.196
C4	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.196	0.179
C5	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.179	0.159
C6	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.159	0.159
C7	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.146	0.119
C8	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.119	0.102
C9	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.102	0.086
C10	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.086	0.068
C11	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.068	0.052
C12	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.052	0.036
C13	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.036	0.019
C14	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.019	0.005
C15	90° 06′ 06″	90° 03′ 19″	-0.007	-0.023
C16	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.023	-0.039
C17	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.039	-0.055
C18	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.055	-0.072
C19	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.072	-0.089
C20	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.089	-0.105
C21	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.105	-0.122
C22	90° 04′ 26″	90° 06′ 06″	-0.122	-0.148
C23	90° 06′ 16″	90° 04′ 18″	-0.164	-0.162
C24	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.162	-0.180
C25	90° 06′ 16″	90° 06′ 17″	-0.180	-0.197
C26	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.197	-0.214
C27	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.214	-0.231
C28	90° 06′ 16″	90° 06′ 17″	-0.231	-0.248
C29	90° 06′ 01″	90° 06′ 17″	-0.248	-0.278

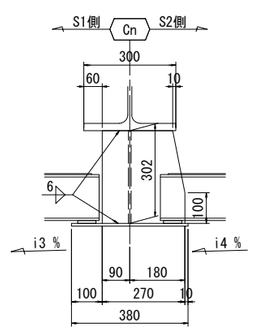
C － C

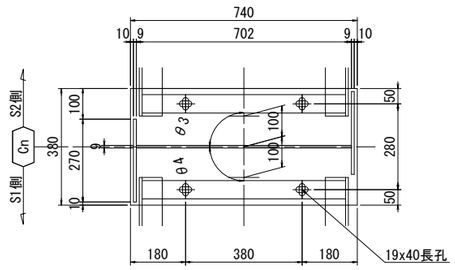


KEN2 C1～C29
（製作数:各1）



D － D





※1-WEB PL 316x9x702(SMA400AW)
※1-FLG PL 380x9x740(SMA400AW)
※1-RIB PL 316x9x270(SMA400AW)
※1-RIB PL 302x9x270(SMA400AW)
4-BN M16x45(2-W)

	θ3	θ4	i3%	i4%
C1	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.261	0.232
C2	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.232	0.214
C3	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.214	0.196
C4	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.196	0.179
C5	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.179	0.159
C6	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.159	0.159
C7	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.146	0.119
C8	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.119	0.102
C9	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.102	0.086
C10	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.086	0.068
C11	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.068	0.052
C12	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.052	0.036
C13	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.036	0.019
C14	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	0.019	0.005
C15	90° 06′ 06″	90° 03′ 19″	-0.007	-0.023
C16	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.023	-0.039
C17	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.039	-0.055
C18	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.055	-0.072
C19	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.072	-0.089
C20	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.089	-0.105
C21	90° 06′ 06″	90° 06′ 06″	-0.105	-0.122
C22	90° 04′ 26″	90° 06′ 06″	-0.122	-0.148
C23	90° 06′ 16″	90° 04′ 18″	-0.165	-0.163
C24	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.163	-0.180
C25	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.180	-0.197
C26	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.197	-0.214
C27	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.214	-0.231
C28	90° 06′ 16″	90° 06′ 16″	-0.231	-0.249
C29	90° 06′ 01″	90° 06′ 16″	-0.249	-0.278

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
2. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
3. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2㎜以上6㎜未満の部材は HDZT63とする。
ボルト･ナットおよび板厚3.2㎜未満の部材は HDZT49とする。
4. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+3㎜を標準とする。
5. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

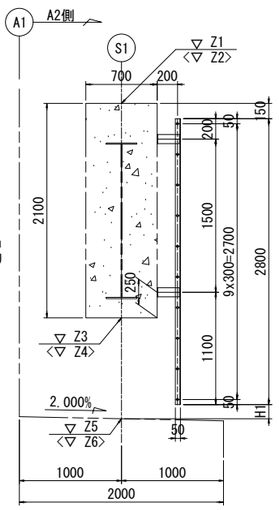
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(13)		
縮尺	S=1:10	図面番号	178 の 146
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋上部構造検査路(14)　S=1:30

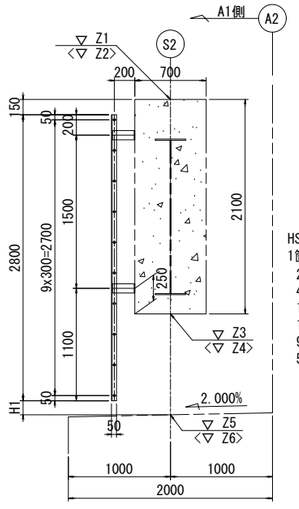
昇降梯子詳細

A - A <B - B>
(製作数:各1)



HS1-a, HS2-a
1箇所当たり
2-L 50x50x6x2800
4-FB 90x6x312
1-FB 90x6x339
1-RB φ22x930
9-RB φ22x430
5-打込式アンカー M16x125

A - A <B - B>
(製作数:各1)

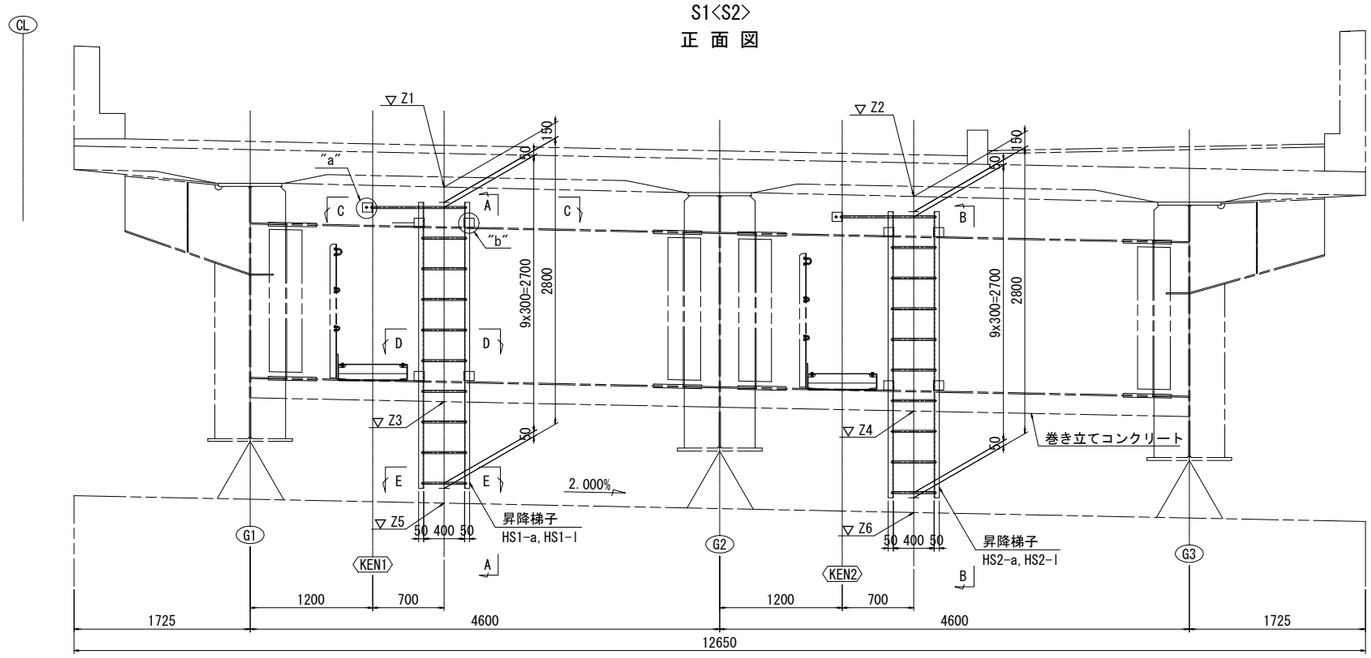


HS1-I, HS2-I
1箇所当たり
2-L 50x50x6x2800
4-FB 90x6x312
1-FB 90x6x339
1-RB φ22x930
9-RB φ22x430
5-打込式アンカー M16x125

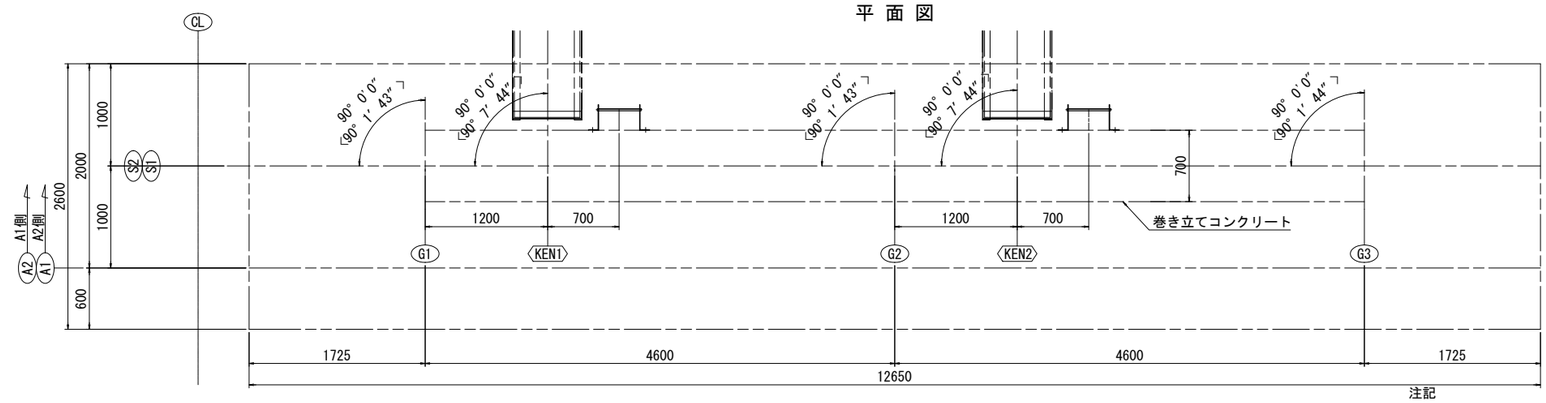
	Z1	Z2	Z3	Z4
S1	16.826	16.734	14.731	14.639
S2	16.810	16.718	14.716	14.624

	Z5	Z6	H1
S1	13.738	13.646	138
S2	13.724	13.632	136

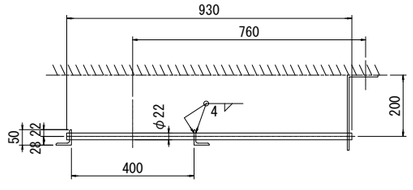
S1<S2>
正 面 図



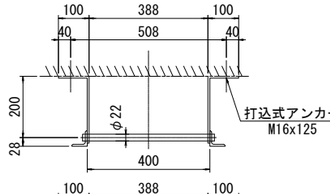
平 面 図



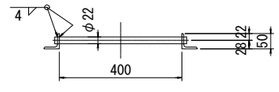
C - C　S=1:10



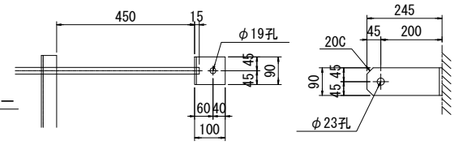
D - D　S=1:10



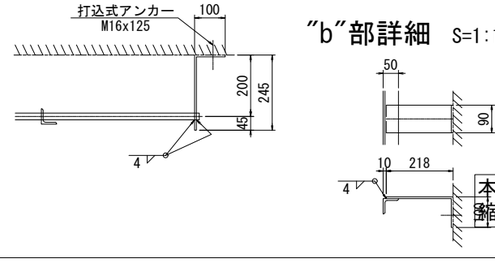
E - E　S=1:10



"a"部詳細　S=1:10



"b"部詳細　S=1:10



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

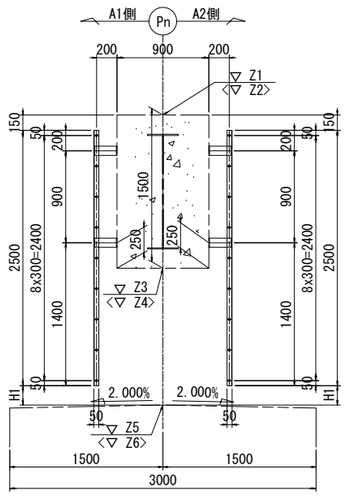
注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
2. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
3. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上6mm未満の部材は HDZT63とする。
ボルト･ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は HDZT49とする。
4. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
5. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(14)
縮尺	図示
図面番号	178 の 147
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋上部構造検査路(15) S=1:30

昇降梯子詳細

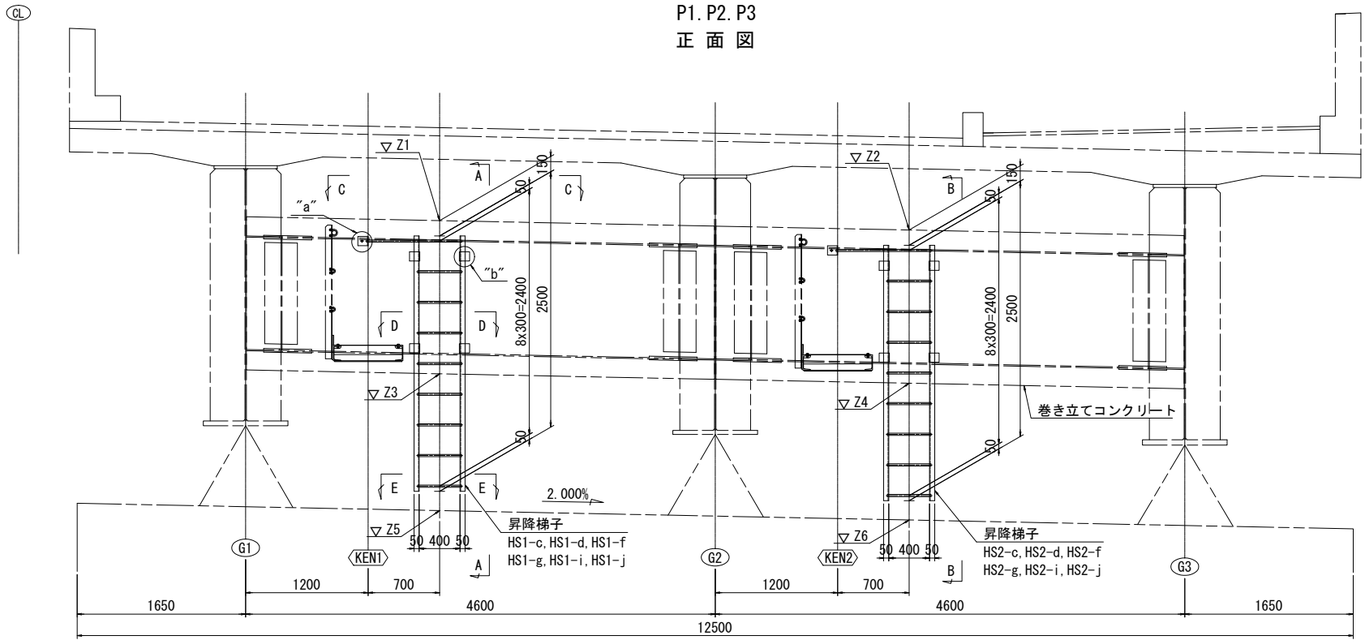
A － A <B － B>
(製作数:各1)



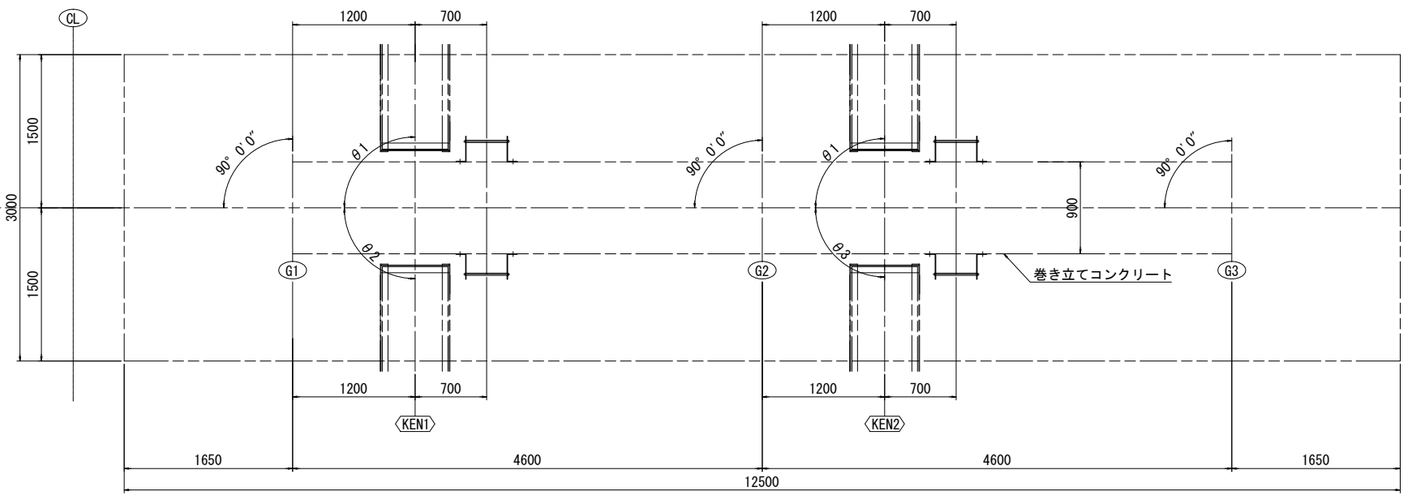
HS1-c, HS1-d, HS1-f
HS1-g, HS1-i, HS1-j
<HS2-c, HS2-d, HS2-f,
HS1-g, HS1-i, HS1-j>
1箇所当たり
2-L 50x50x6x2500
4-FB 90x6x312
1-FB 90x6x339
1-RB φ22x930
8-RB φ22x430
5-打込式アンカー M16x125

	Z1	Z2	Z3	Z4	Z5	Z6	H1
P1	16.433	16.341	14.933	14.841	13.594	13.502	189
P2	16.474	16.382	14.974	14.882	13.644	13.552	180
P3	16.431	16.339	14.931	14.839	13.584	13.492	197

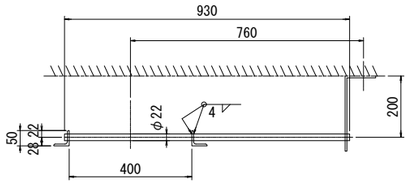
P1. P2. P3
正 面 図



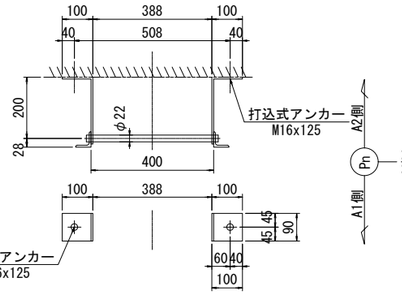
平 面 図



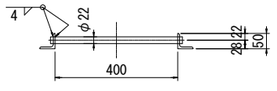
C － C S=1:10



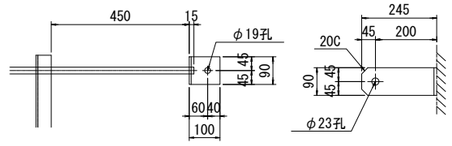
D － D S=1:10



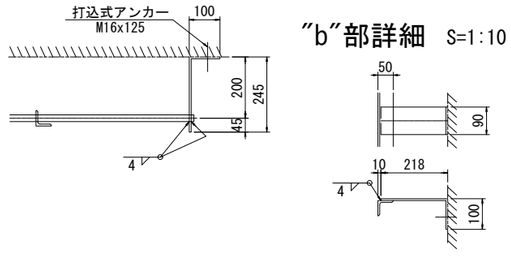
E － E S=1:10



"a"部詳細 S=1:10



"b"部詳細 S=1:10



	θ1	θ2	θ3
P1	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″
P2	90° 01′ 06″	90° 00′ 00″	90° 00′ 00″
P3	90° 04′ 18″	90° 04′ 26″	90° 04′ 25″

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
2. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
3. ※印部材以外は、全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上6mm未満の部材は HDZT63とする。
ボルト･ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は HDZT49とする。
4. ボルト孔は、メッキ付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
5. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
6. P2・P3橋脚はJR施工

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

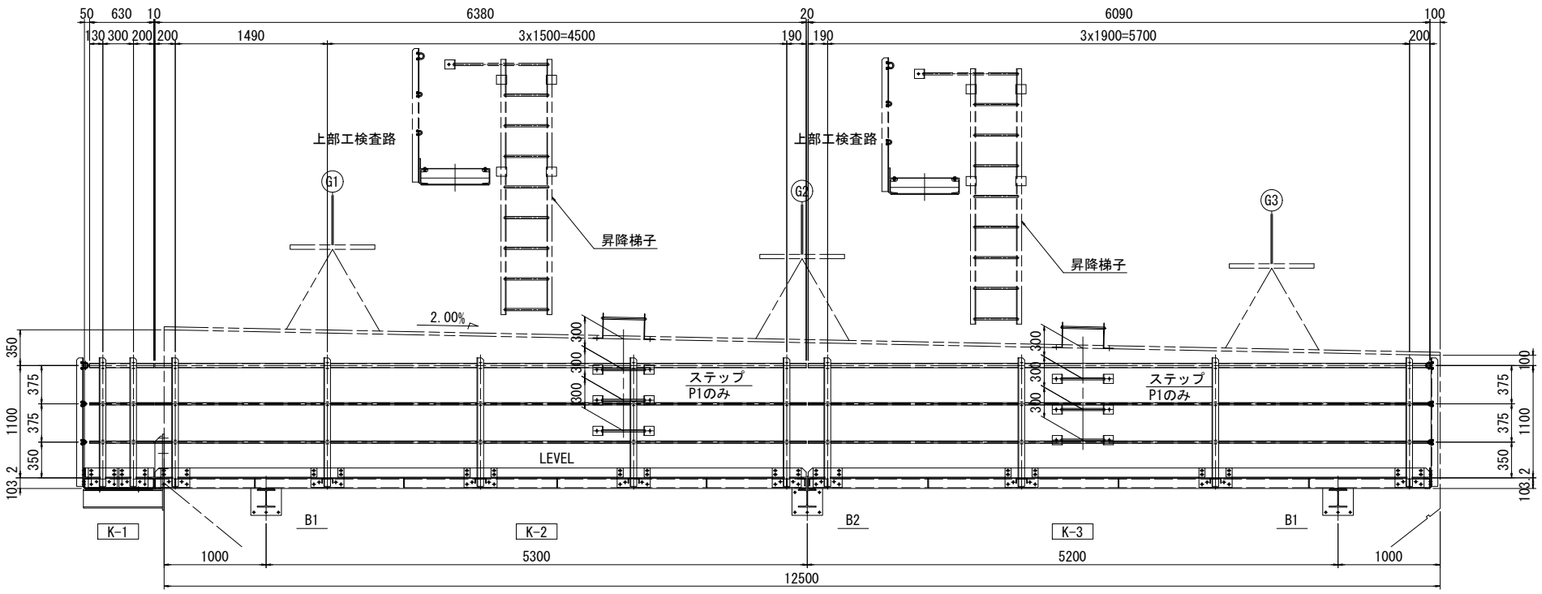
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋上部構造検査路(15)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 148
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(1)

S=1:30

A - A　P1,<P3>橋脚

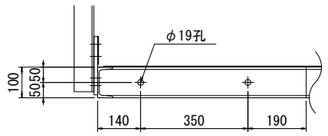


K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

K-2 (製作数:2)
1-PIPE φ42.7x2.3x6380(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6380(STK400)
5-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1588
2-PL 90x3.2x1295
2-PL 190x12x285(SM400A)
3-PL 190x12x325(SM400A)
20-BN M10x35(2-W)
20-BN M16x45(2-W)
5-U.BOLT 呼び32C
10-U.BOLT 呼び15C

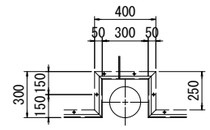
K-3 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x6090(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6090(STK400)
4-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1988
1-PL 90x3.2x1695
1-PL 90x3.2x1998
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

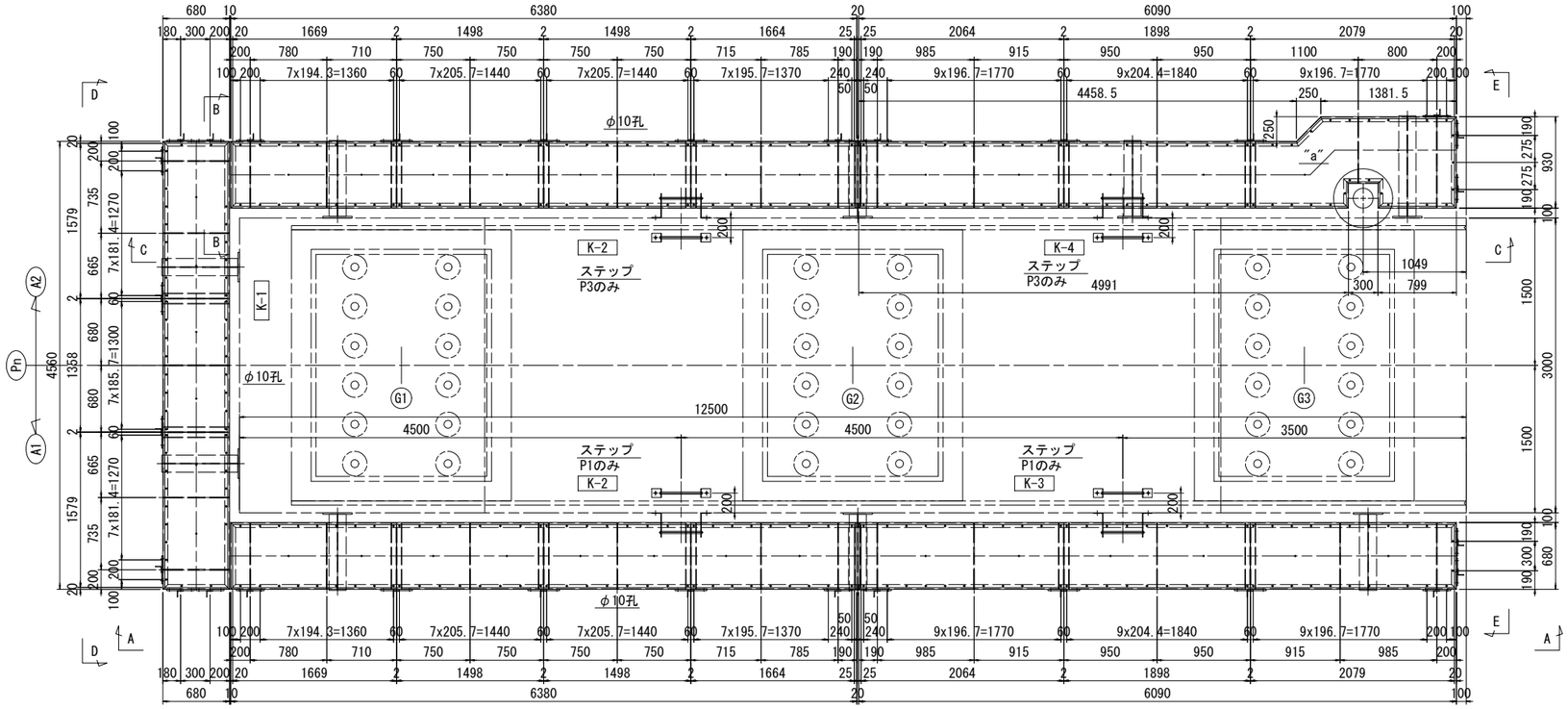
B - B　S=1:10



(2箇所)
2-BN M16x50(2-W)

"a"部詳細図　S=1:20





K-1 (製作数:1)
2-Ch.PL 640x3.2x1579(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1358(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x4560
2-[100x50x5x7.5x680
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
2-PL 160x9x660(SM400A)
50-BN M10x30(1-W,1-TW)

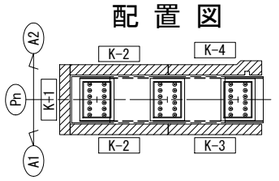
K-2 (製作数:2)
1-Ch.PL 640x3.2x1669(SS400相当品)
2-Ch.PL 640x3.2x1498(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1664(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x6380
1-[100x50x5x7.5x680
1-L 75x75x6x670
6-L 50x50x6x670
6-FB 90x9x670
1-PL 160x9x660(SM400A)
1-PL 60x9x660(SM400A)
68-BN M10x30(1-W,1-TW)
4-BN M16x50(2-W)

K-3 (製作数:1)
1-Ch.PL 640x3.2x2064(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1898(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x2079(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x6090
1-[100x50x5x7.5x680
1-L 75x75x6x670
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
1-PL 60x9x660(SM400A)
1-PL 160x9x660(SM400A)
66-BN M10x30(1-W,1-TW)

K-4 (製作数:1)
1-Ch.PL 640x3.2x2064(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1898(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x2079(SS400相当品)
1-[100x50x5x7.5x4479
1-[100x50x5x7.5x374
1-[100x50x5x7.5x1382
1-[100x50x5x7.5x930
1-[100x50x5x7.5x799
2-[100x50x5x7.5x300
1-[100x50x5x7.5x400
1-[100x50x5x7.5x4991
1-L 75x75x6x670
4-L 50x50x6x670
4-FB 90x9x670
1-FB 90x9x920
1-PL 60x9x660(SM400A)
1-PL 160x9x660(SM400A)
1-PL 160x9x910(SM400A)
69-BN M10x30(1-W,1-TW)

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P3橋脚はJR施工

配置図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

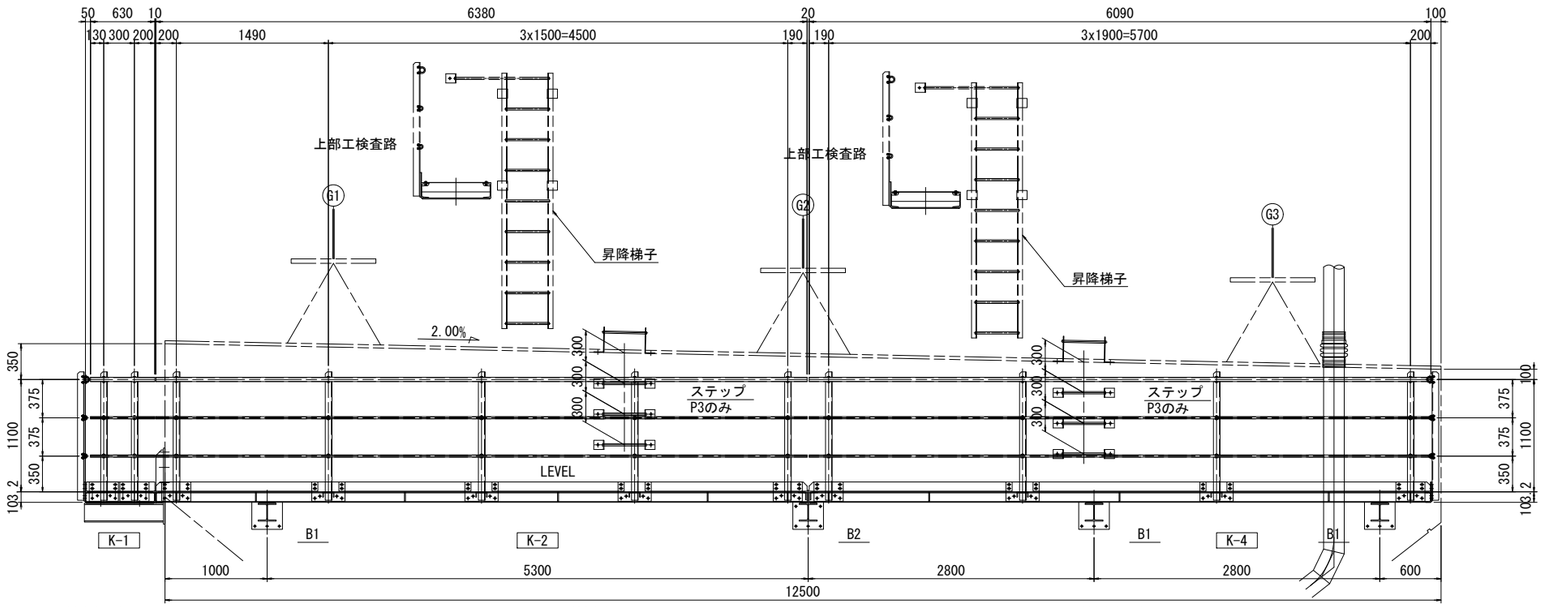
工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 149
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(2)

S=1:30

P1,<P3>橋脚

C - C

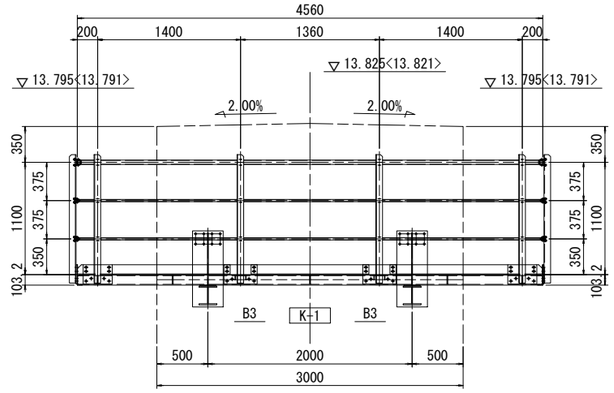


K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

K-2 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x6380(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6380(STK400)
5-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1588
2-PL 90x3.2x1295
2-PL 190x12x285(SM400A)
3-PL 190x12x325(SM400A)
20-BN M10x35(2-W)
20-BN M16x45(2-W)
5-U.BOLT 呼び32C
10-U.BOLT 呼び15C

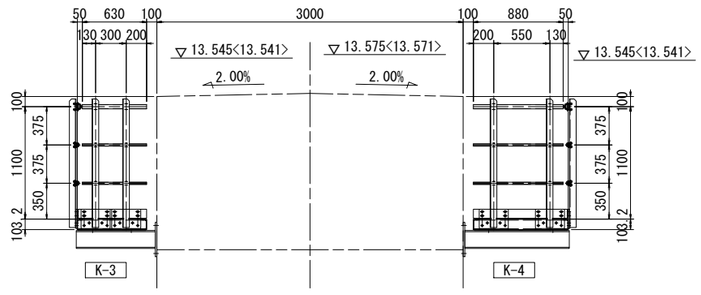
K-4 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x4471(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x371(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x1387(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4463(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x363(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x1387(STK400)
4-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1988
1-PL 90x3.2x1695
1-PL 90x3.2x2101
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

D - D



K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x4560(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4560(STK400)
4-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1498
1-PL 90x3.2x1155
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

E - E

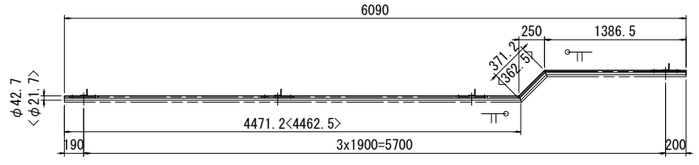


K-3 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

K-4 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x880(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x880(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x920
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

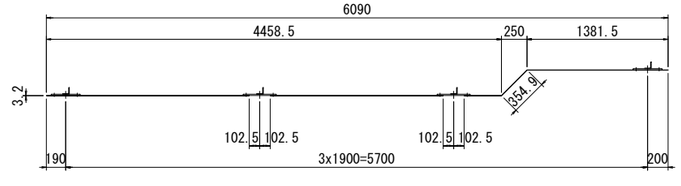
手摺加工図 上段<中、下段>

K-4

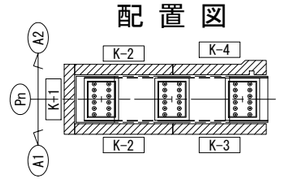


爪先板加工図

K-4



配 置 図



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P3橋脚はJR施工

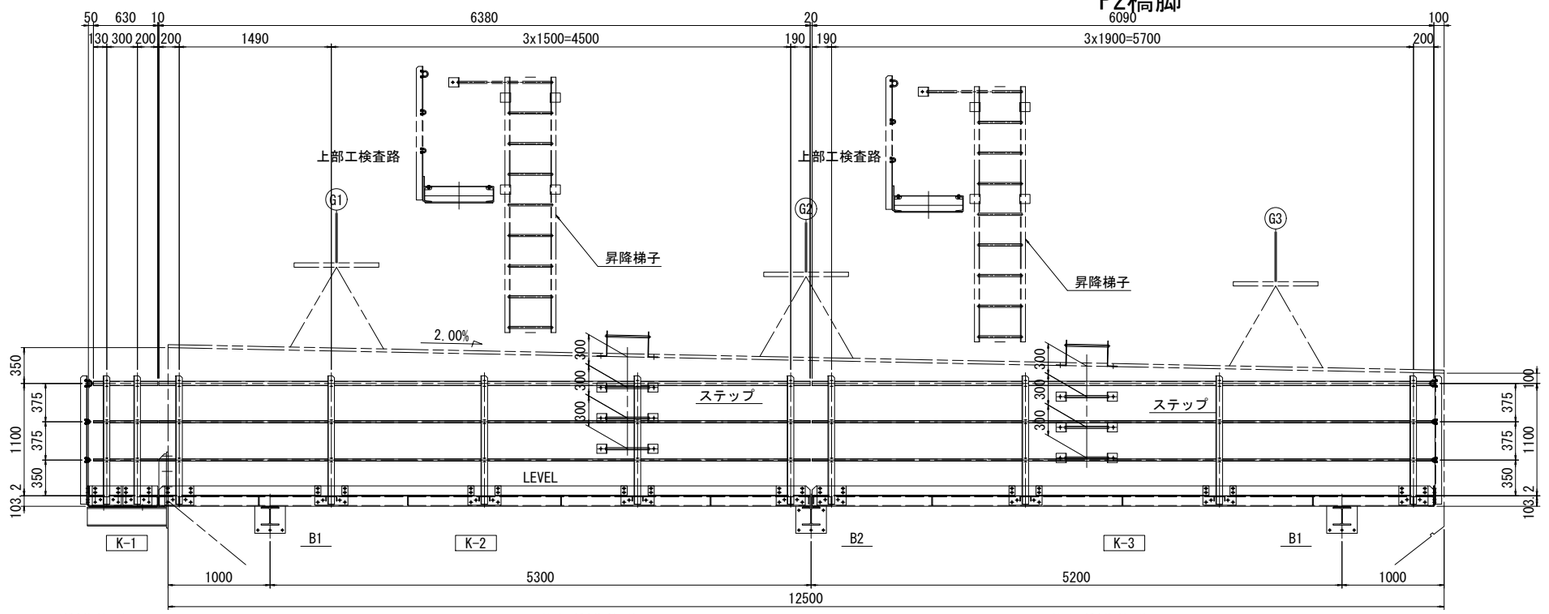
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	178 の 150
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(3)　S=1:30

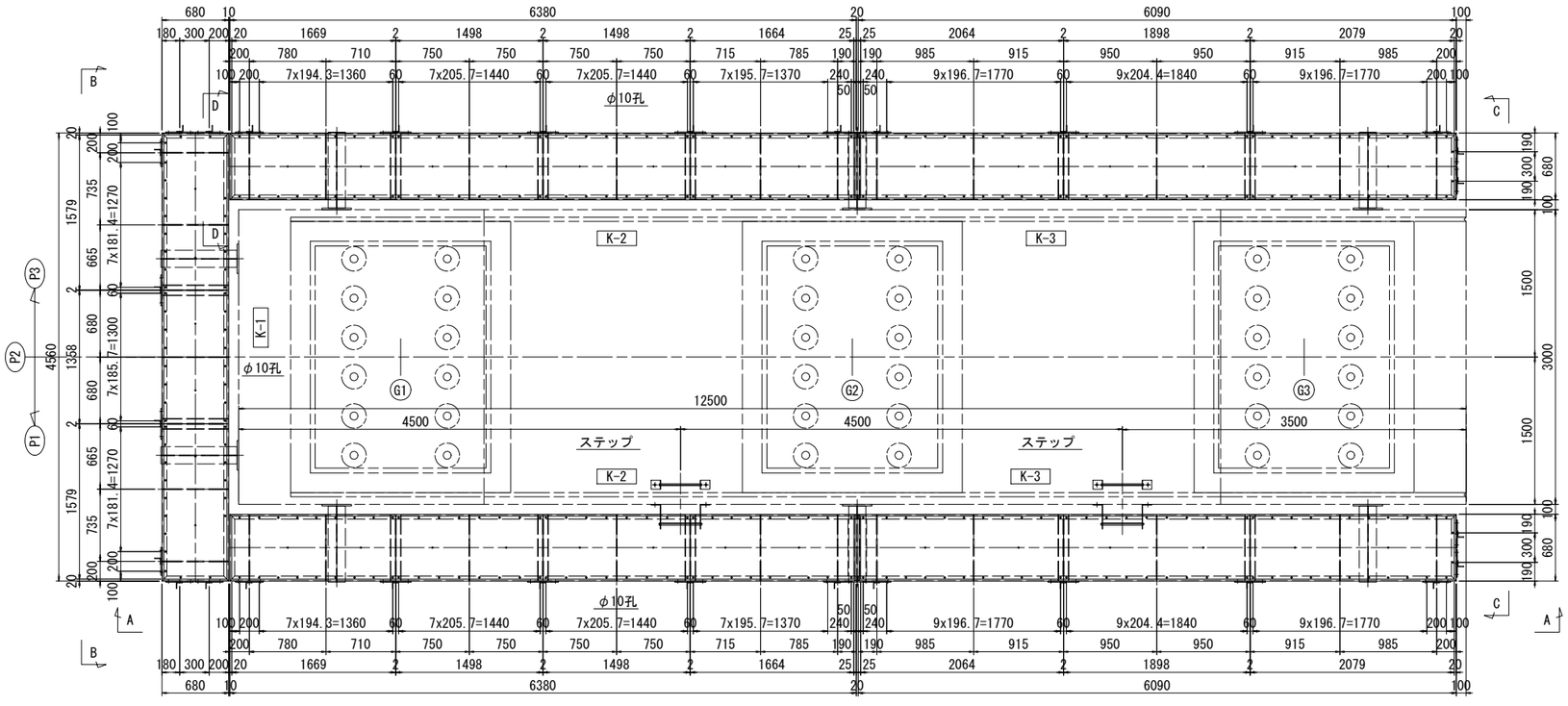
A － A　P2橋脚



K-1 (製作数:2)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

K-2 (製作数:2)
1-PIPE φ42.7x2.3x6380(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6380(STK400)
5-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1588
2-PL 90x3.2x1295
2-PL 190x12x285(SM400A)
3-PL 190x12x325(SM400A)
20-BN M10x35(2-W)
20-BN M16x45(2-W)
5-U.BOLT 呼び32C
10-U.BOLT 呼び15C

K-3 (製作数:2)
1-PIPE φ42.7x2.3x6090(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x6090(STK400)
4-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1988
1-PL 90x3.2x1695
1-PL 90x3.2x1998
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

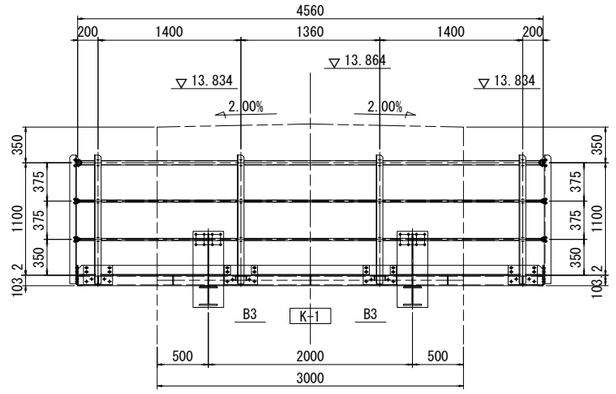


K-1 (製作数:1)
2-Ch.PL 640x3.2x1579(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1358(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x4560
2-[100x50x5x7.5x680
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
2-PL 160x9x660(SM400A)
50-BN M10x30(1-W,1-TW)

K-2 (製作数:2)
1-Ch.PL 640x3.2x1669(SS400相当品)
2-Ch.PL 640x3.2x1498(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1664(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x6380
1-[100x50x5x7.5x680
1-L 75x75x6x670
6-L 50x50x6x670
6-FB 90x9x670
1-PL 160x9x660(SM400A)
1-PL 60x9x660(SM400A)
68-BN M10x30(1-W,1-TW)

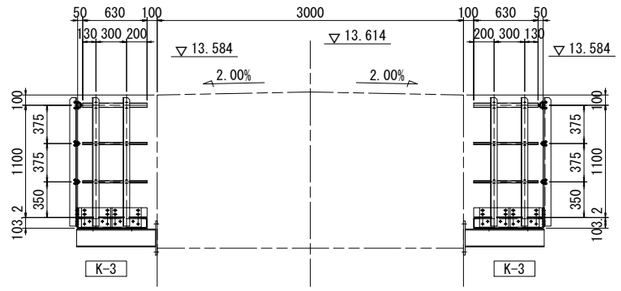
K-3 (製作数:2)
1-Ch.PL 640x3.2x2064(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1898(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x2079(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x6090
1-[100x50x5x7.5x680
1-L 75x75x6x670
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
1-PL 60x9x660(SM400A)
1-PL 160x9x660(SM400A)
66-BN M10x30(1-W,1-TW)

B － B



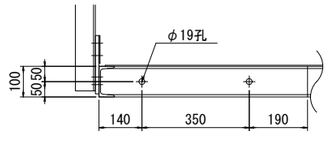
K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x4560(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4560(STK400)
4-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1498
1-PL 90x3.2x1155
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

C － C



K-3 (製作数:2)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

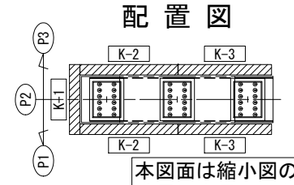
D － D　S=1:10



(2箇所)
2-BN M16x50(2-W)

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P2橋脚はJR施工

配置図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

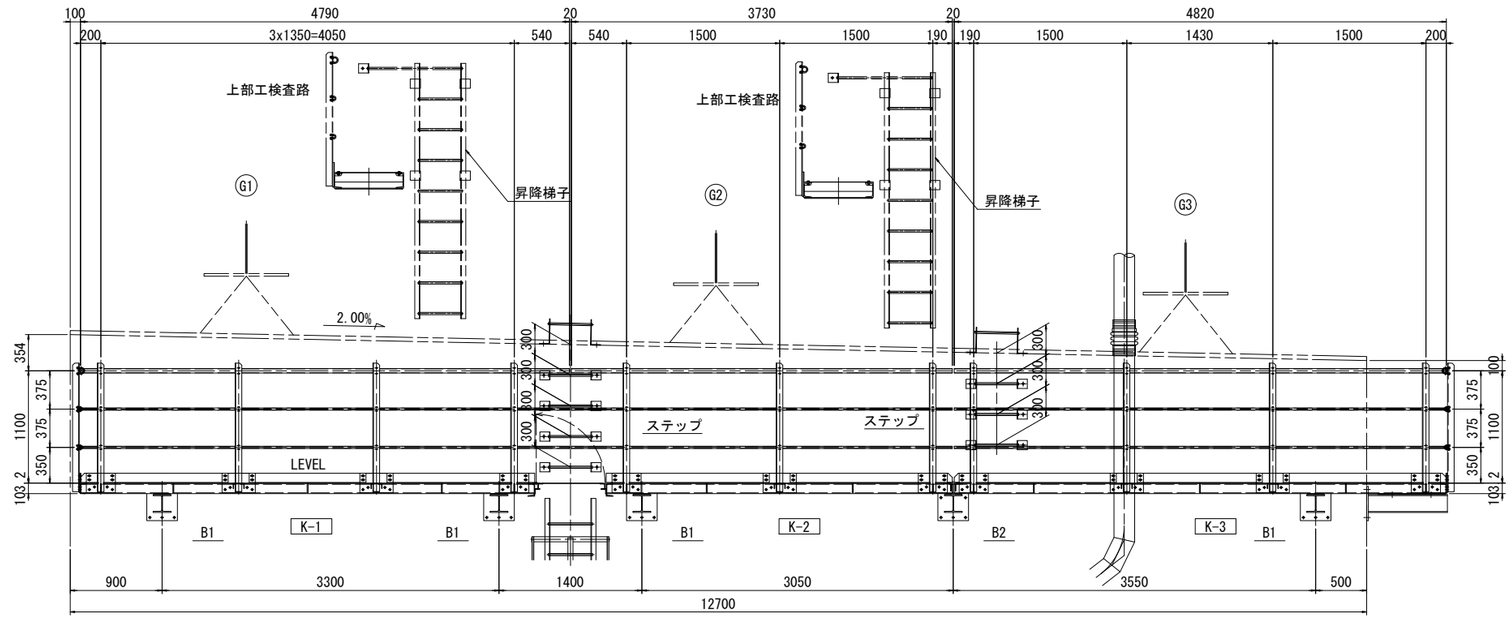
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(3)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 151
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(4)

S=1:30

A － A　A2橋台

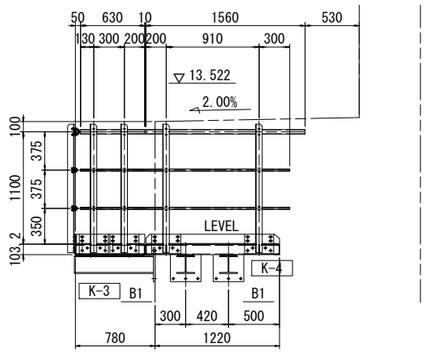


K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x4790(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x4790(STK400)
4-L 65x65x6x1258
2-PL 90x3.2x1448
1-PL 90x3.2x1145
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

K-2 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x3730(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x3730(STK400)
3-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1598
1-PL 90x3.2x1588
2-PL 190x12x285(SM400A)
1-PL 190x12x325(SM400A)
12-BN M10x35(2-W)
12-BN M16x45(2-W)
3-U.BOLT 呼び32C
6-U.BOLT 呼び15C

K-3 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x995(STK400)
2-PIPE φ42.7x2.3x371(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x875(STK400)
1-PIPE φ42.7x2.3x2485(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x987(STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x363(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x875(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x2476(STK400)
4-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1691
1-PL 90x3.2x1329
1-PL 90x3.2x1598
2-PL 190x12x285(SM400A)
2-PL 190x12x325(SM400A)
16-BN M10x35(2-W)
16-BN M16x45(2-W)
4-U.BOLT 呼び32C
8-U.BOLT 呼び15C

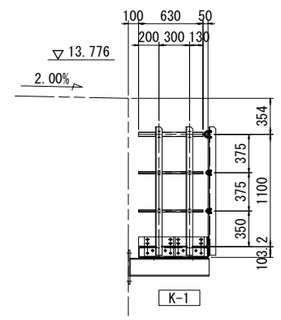
B － B



K-3 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C
1-Ch.PL 640x3.2x1270(SS400相当品)

K-4 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x1560(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x1410(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x1310
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

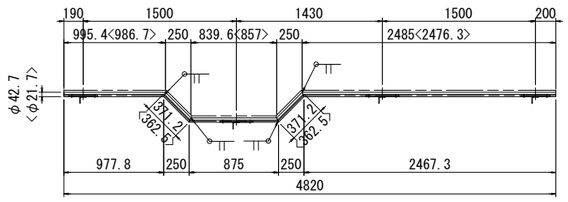
C － C



K-1 (製作数:1)
1-PIPE φ42.7x2.3x630(STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x630(STK400)
2-L 65x65x6x1258
1-PL 90x3.2x670
2-PL 190x12x285(SM400A)
8-BN M10x35(2-W)
8-BN M16x45(2-W)
2-U.BOLT 呼び32C
4-U.BOLT 呼び15C

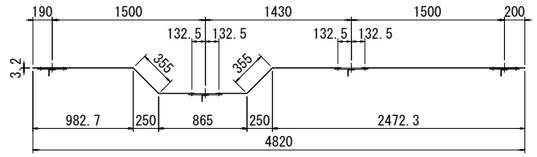
手摺加工図 上段<中、下段>

K-3



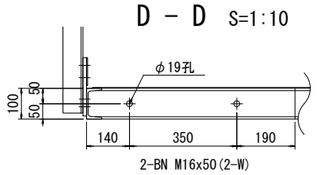
爪先板加工図

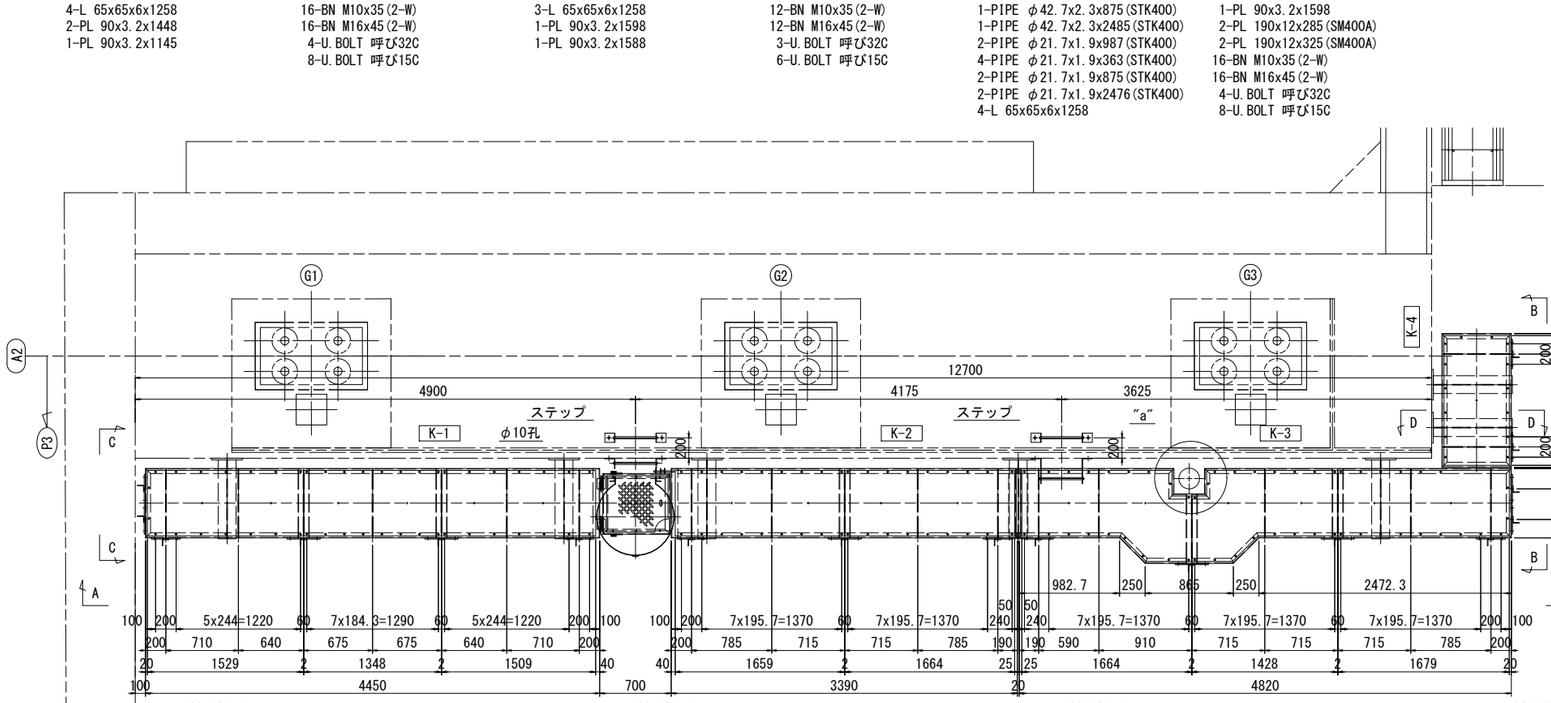
K-3



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

D － D　S=1:10





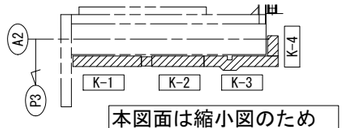
K-1 (製作数:1)
1-Ch.PL 640x3.2x1529(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1348(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1509(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x4450
1-[100x50x5x7.5x680
1-[125x65x6x8x680
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
2-PL 160x9x660(SM400A)
46-BN M10x30(1-W,1-TW)

K-2 (製作数:1)
1-Ch.PL 640x3.2x1659(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1664(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x3390
1-[125x65x6x8x680
1-L 75x75x6x670
2-L 50x50x6x670
4-FB 90x9x670
1-PL 160x9x660(SM400A)
1-PL 60x9x660(SM400A)
36-BN M10x30(1-W,1-TW)

K-3 (製作数:1)
1-Ch.PL 890x3.2x1664(SS400相当品)
1-Ch.PL 890x3.2x1428(SS400相当品)
1-Ch.PL 640x3.2x1679(SS400相当品)
1-[100x50x5x7.5x1003
2-[100x50x5x7.5x374
1-[100x50x5x7.5x865
1-[100x50x5x7.5x2493
1-[100x50x5x7.5x1515
2-[100x50x5x7.5x300
1-[100x50x5x7.5x400
1-[100x50x5x7.5x3005
1-[100x50x5x7.5x680
1-L 75x75x6x670
4-L 50x50x6x670
5-FB 90x9x670
1-PL 160x9x660(SM400A)
1-PL 60x9x660(SM400A)
52-BN M10x30(1-W,1-TW)

K-4 (製作数:1)
1-Ch.PL 640x3.2x1270(SS400相当品)
2-[100x50x5x7.5x1310
2-[100x50x5x7.5x680
2-FB 90x9x670
2-PL 160x9x660(SM400A)
14-BN M10x30(1-W,1-TW)

配置図

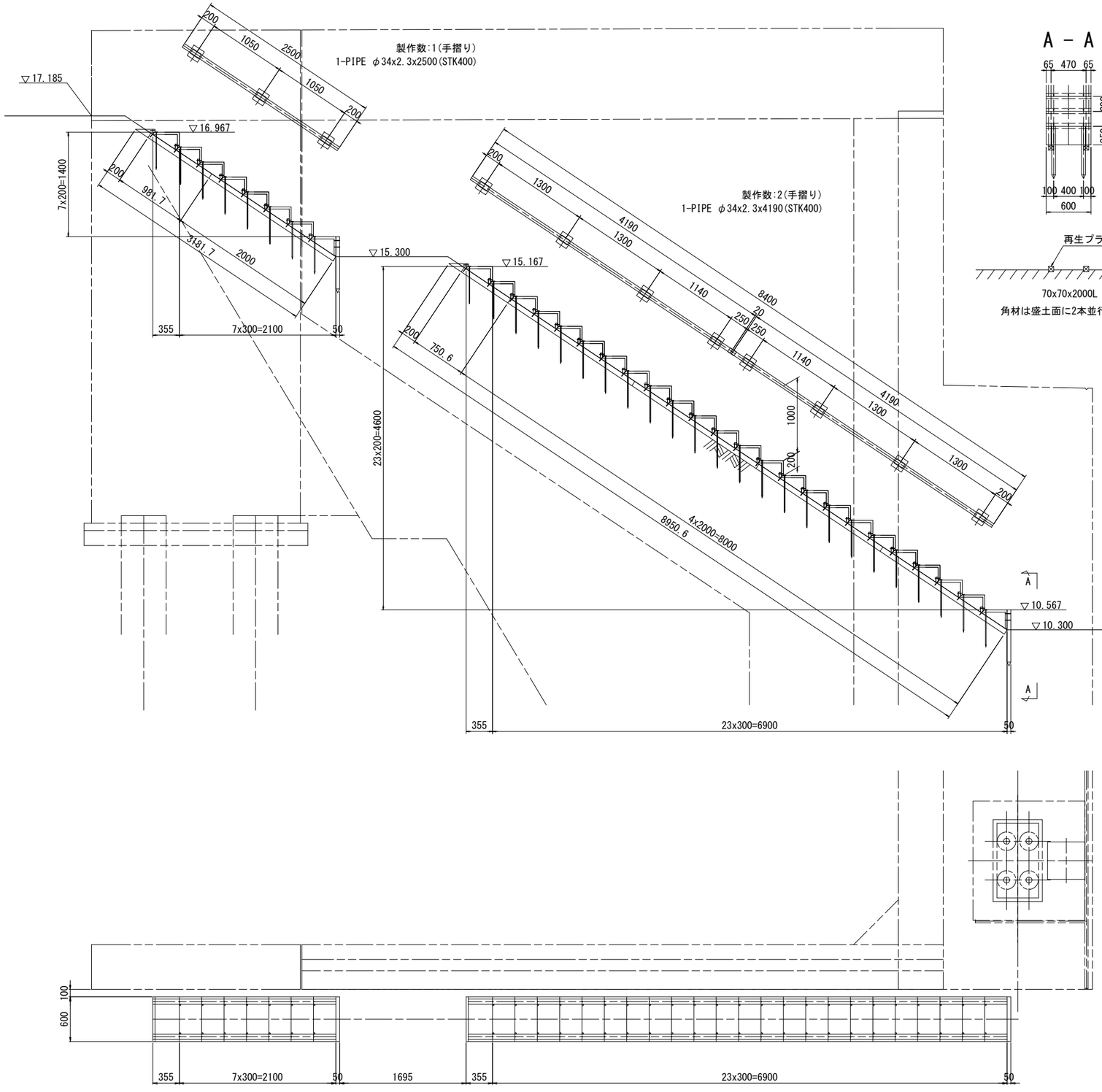


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(4)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 152
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(5) S=1:30

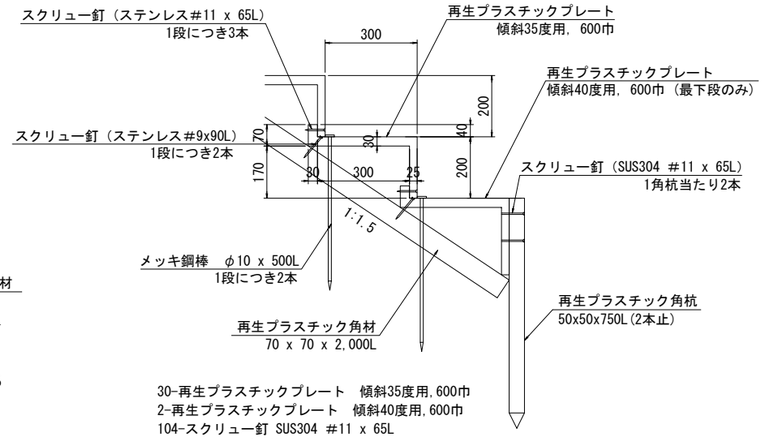
A1橋台階段部



A - A

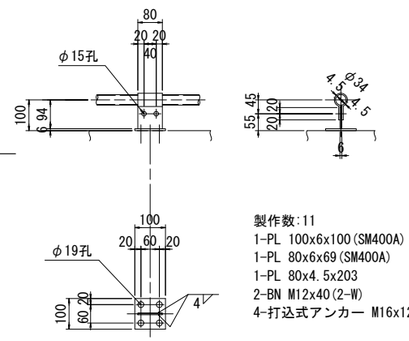
角材は盛土面に2本並行に設置する

階段詳細図 S=1:10



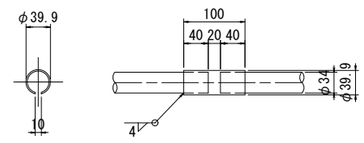
30-再生プラスチックプレート 傾斜35度用,600巾
2-再生プラスチックプレート 傾斜40度用,600巾
104-スクリュー釘 SUS304 #11 x 65L
64-スクリュー釘 SUS304 #9 x 90L
64-メッキ鋼棒（アンカー）φ10 x 500L
10-再生プラスチック角材 70 x 70 x 2,000L
2-再生プラスチック角材 70 x 70 x 751L
2-再生プラスチック角材 70 x 70 x 982L
4-再生プラスチック角材 70 x 70 x 200L
4-再生プラスチック角杭 50 x 50 x 750L

手摺取付金具詳細 S=1:10



製作数:11
1-PL 100x6x100(SM400A)
1-PL 80x6x69(SM400A)
1-PL 80x4.5x203
2-BN M12x40(2-W)
4-打込式アンカー M16x125

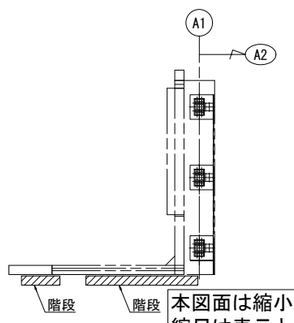
手摺継手詳細 S=1:5



製作数:1
1-PIPE φ39.9x2.3x100(STK400)

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

配置図 S=1:200



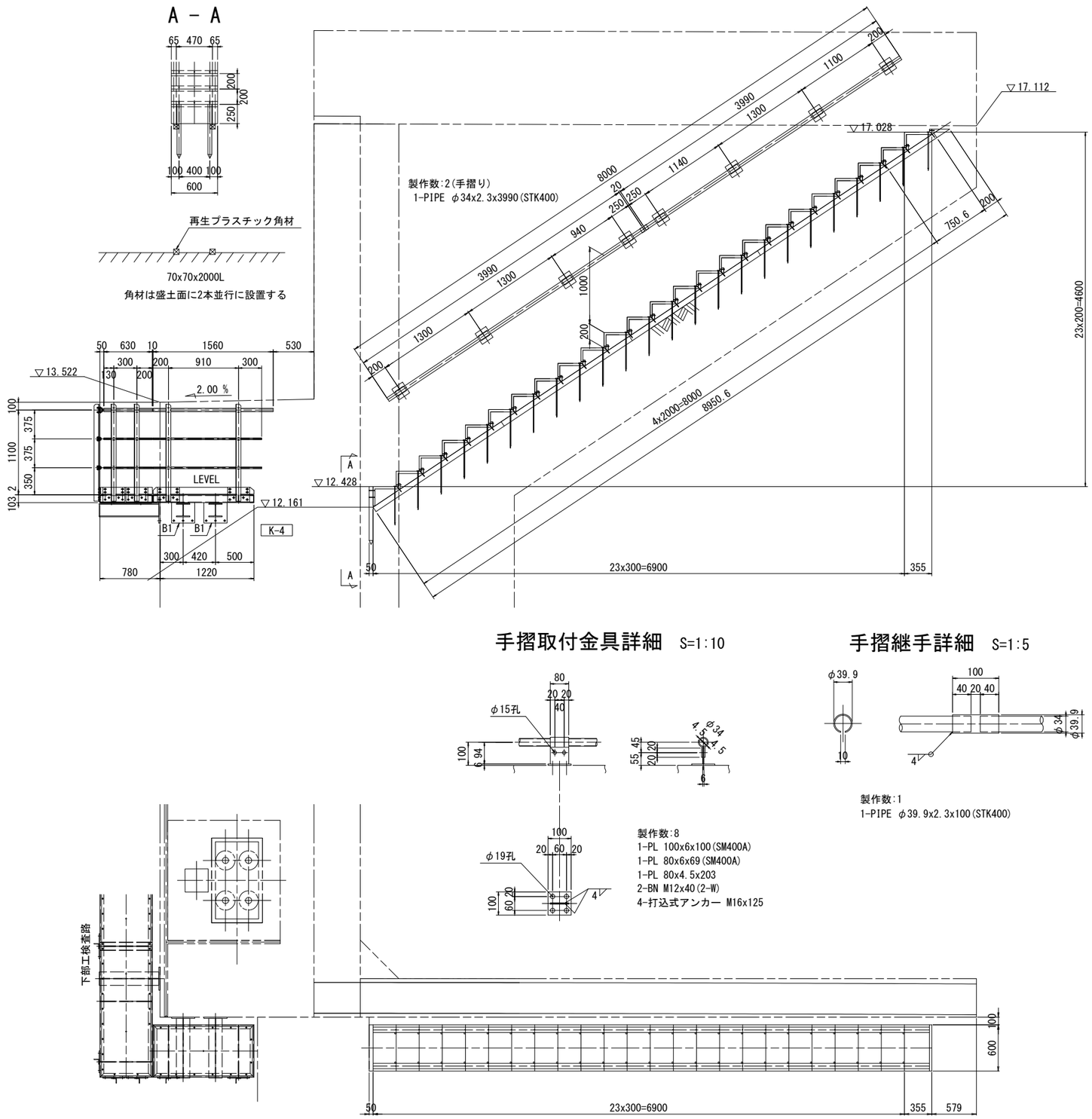
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(5)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 153
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

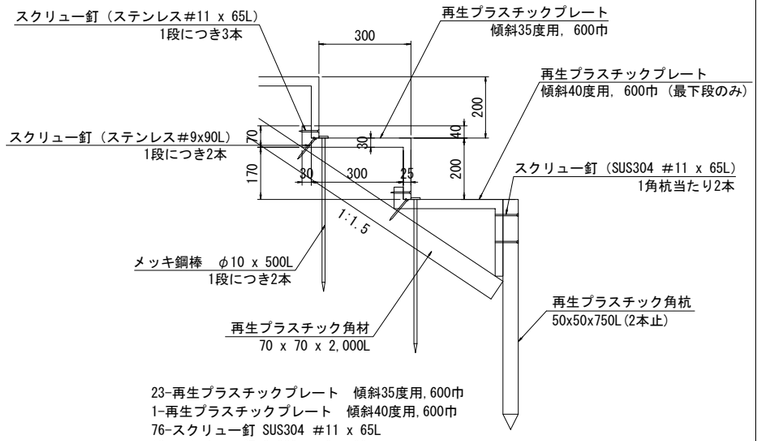
東田中高架橋下部構造検査路(6)

S=1:30

A2橋台階段部

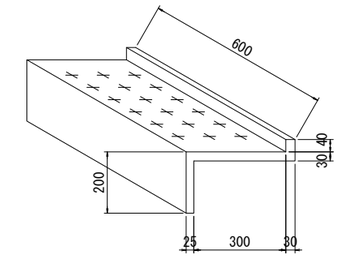


階段詳細図 S=1:10



23-再生プラスチックプレート 傾斜35度用,600巾
1-再生プラスチックプレート 傾斜40度用,600巾
76-スクリュー釘 SUS304 #11 x 65L
48-スクリュー釘 SUS304 #9 x 90L
48-メッキ鋼棒（アンカー）φ10 x 500L
8-再生プラスチック角材 70 x 70 x 2,000L
2-再生プラスチック角材 70 x 70 x 751L
2-再生プラスチック角材 70 x 70 x 200L
2-再生プラスチック角杭 50 x 50 x 750L

ステップ詳細 S=1:10



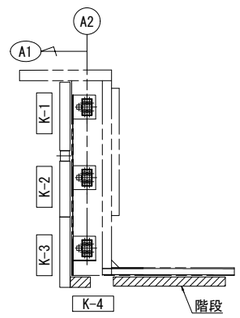
手摺取付金具詳細 S=1:10

製作数:8
1-PL 100x6x100(SM400A)
1-PL 80x6x69(SM400A)
1-PL 80x4.5x203
2-BN M12x40(2-W)
4-打込式アンカー M16x125

手摺継手詳細 S=1:5

製作数:1
1-PIPE φ39.9x2.3x100(STK400)

配置図 S=1:200



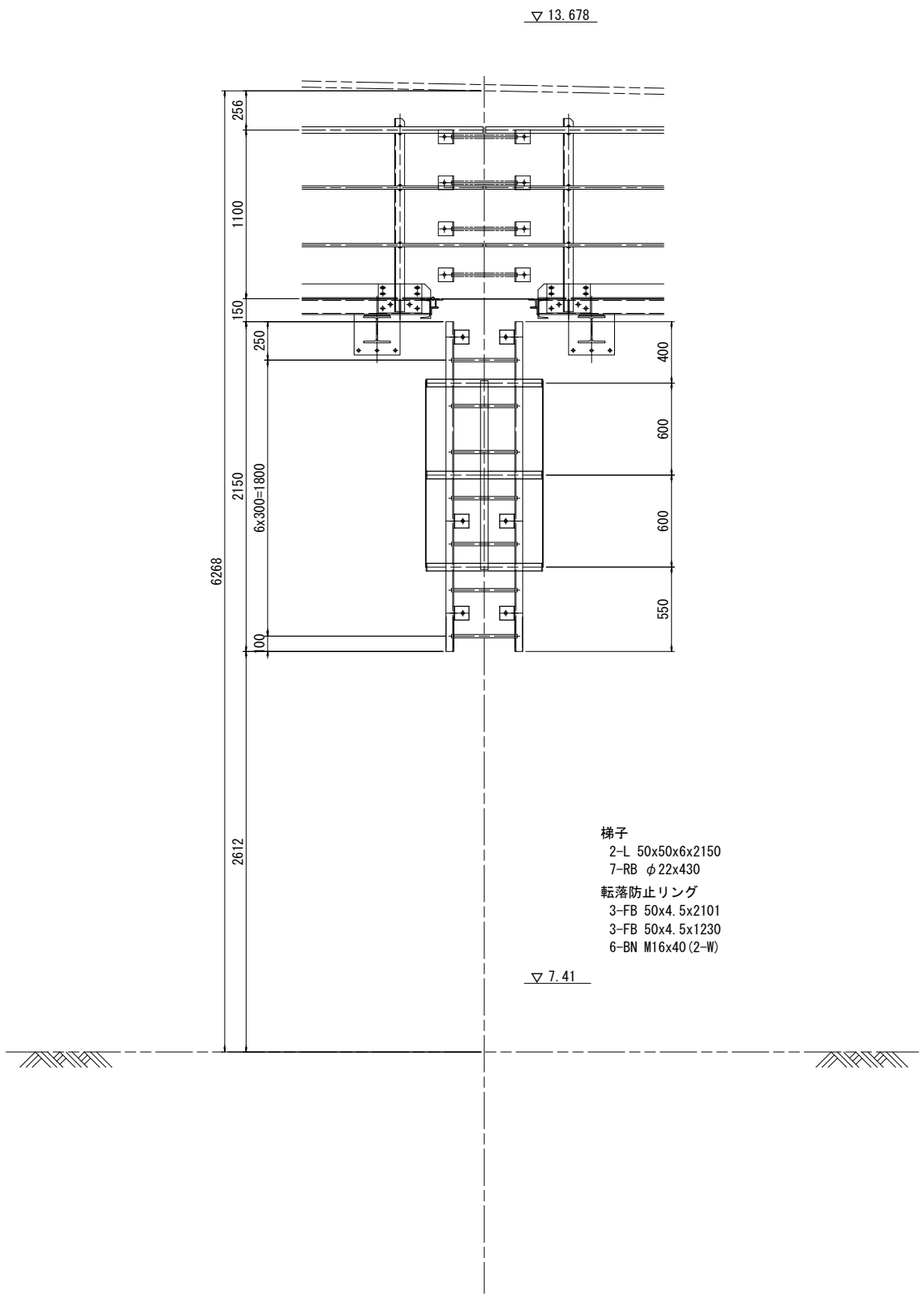
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(6)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 154
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

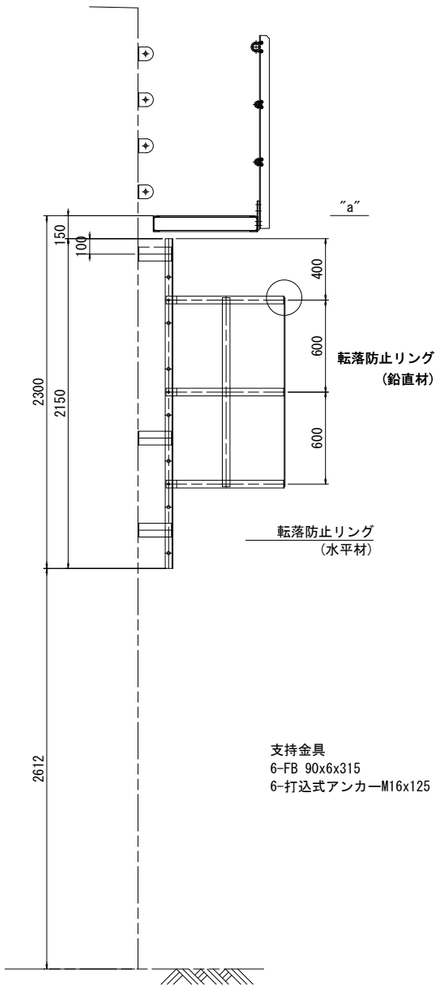
東田中高架橋下部構造検査路(7)　S=1:20

昇降梯子
(製作数:1)



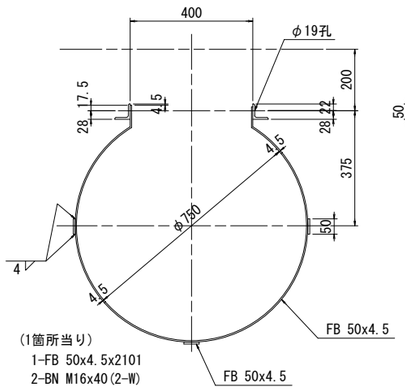
梯子
2-L 50x50x6x2150
7-RB φ22x430

転落防止リング
3-FB 50x4.5x2101
3-FB 50x4.5x1230
6-BN M16x40(2-W)



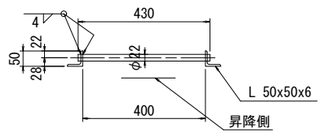
支持金具
6-FB 90x6x315
6-打込式アンカーM16x125

転落防止リング　S=1:10



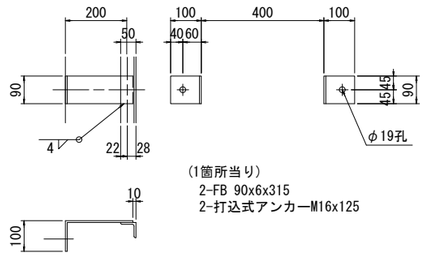
(1箇所当り)
1-FB 50x4.5x2101
2-BN M16x40(2-W)

梯子断面　S=1:10



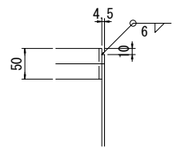
(1箇所当り)
1-RB φ22x430

梯子支持金具　S=1:10



(1箇所当り)
2-FB 90x6x315
2-打込式アンカーM16x125

"a"部詳細図　S=1:5



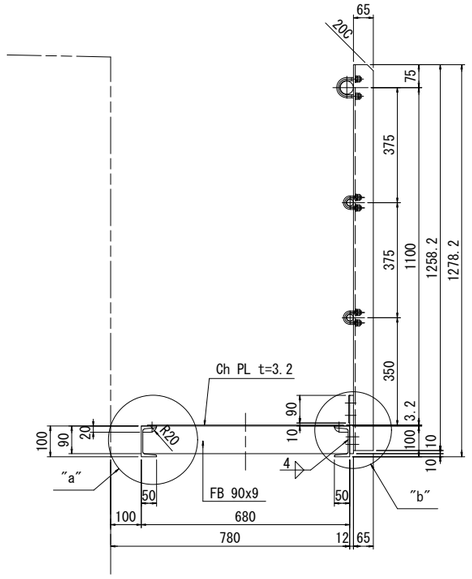
注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

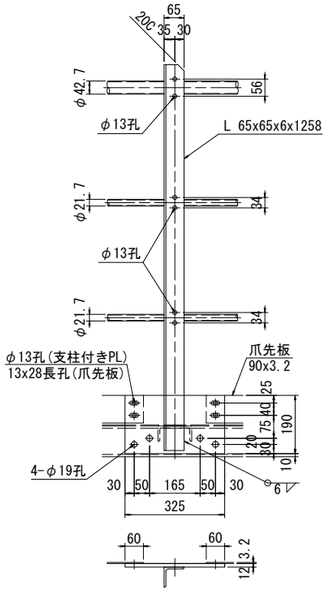
工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(7)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 155
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(8)　S=1:10

検査路標準断面

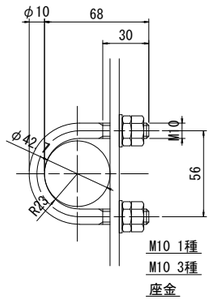


中間支柱部

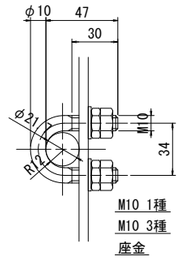


Uボルト詳細　S=1:2

呼び32(C形)

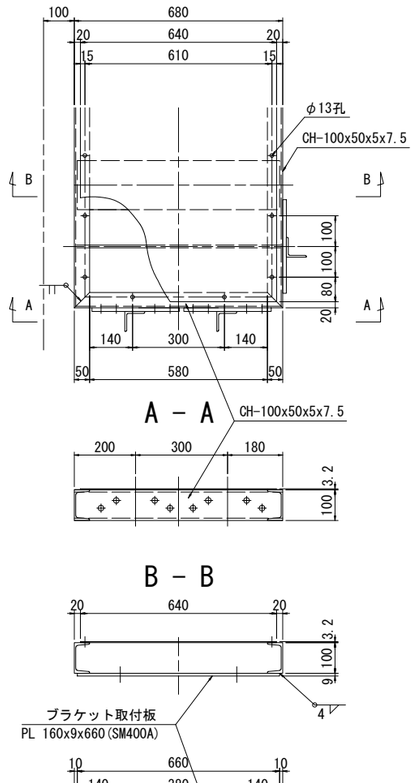


呼び15(C形)

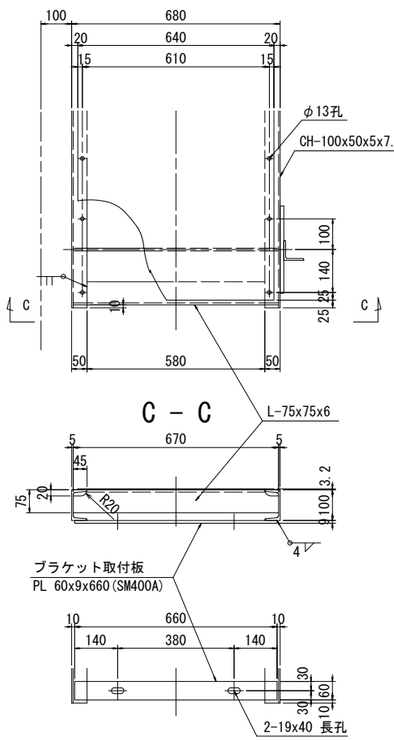


歩廊端部詳細

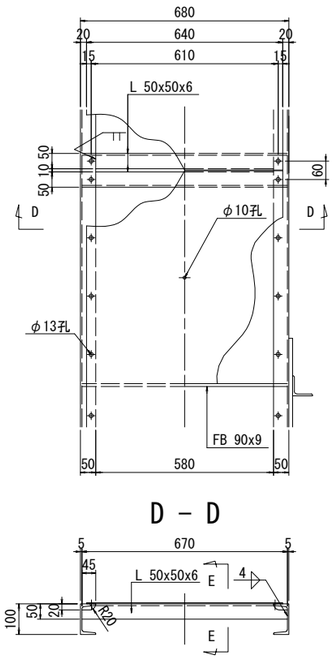
端部



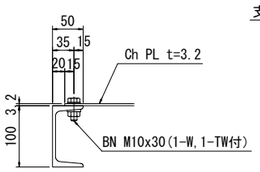
架け違い部



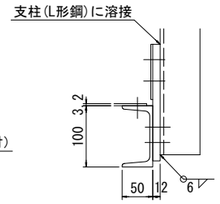
歩廊中間部詳細図



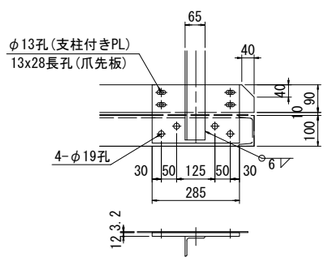
"a"部詳細　S=1:5



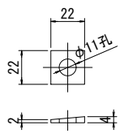
"b"部詳細　S=1:5



端支柱部

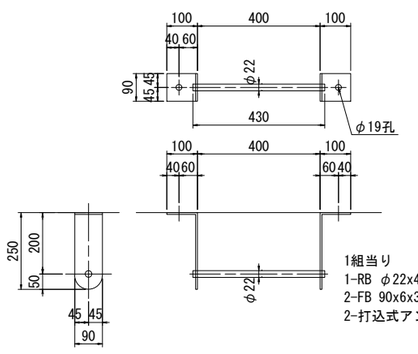


5° テーパ座金詳細　S=1:2



ステップ1詳細

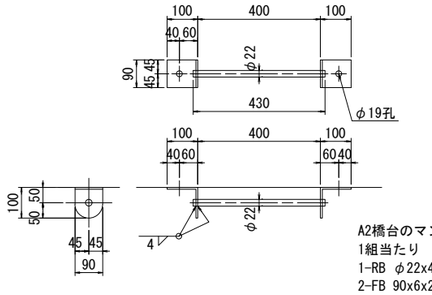
(製作数:29)



1組当り
1-RB φ22x430
2-FB 90x6x350
2-打込式アンカー M16x125

ステップ2詳細

(製作数:4)



A2橋台のマンホール部
1組当たり
1-RB φ22x430
2-FB 90x6x200
2-打ち込み式アンカー M16x125

注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P2・P3橋脚はJR施工

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

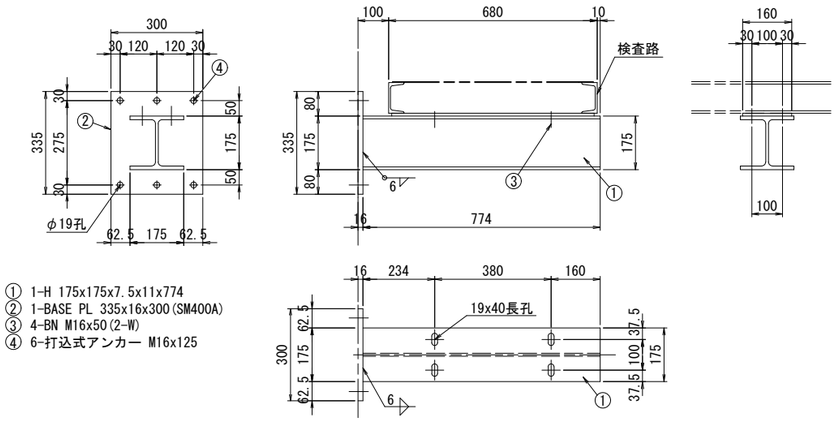
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(8)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 156
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(9)

S=1:10

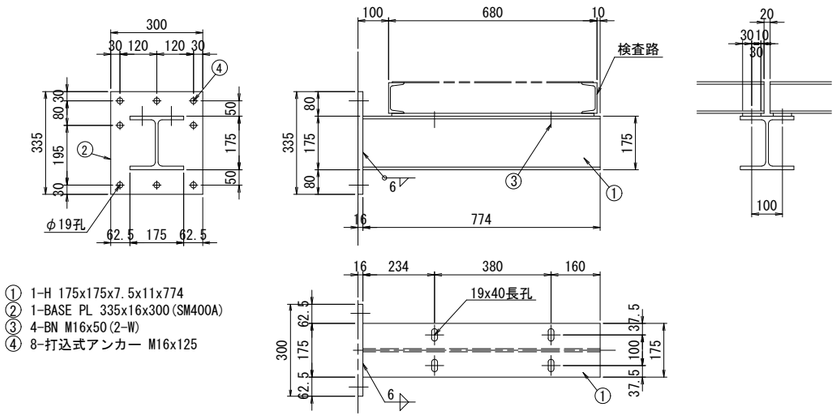
支持金具詳細

B1 (製作数:20)



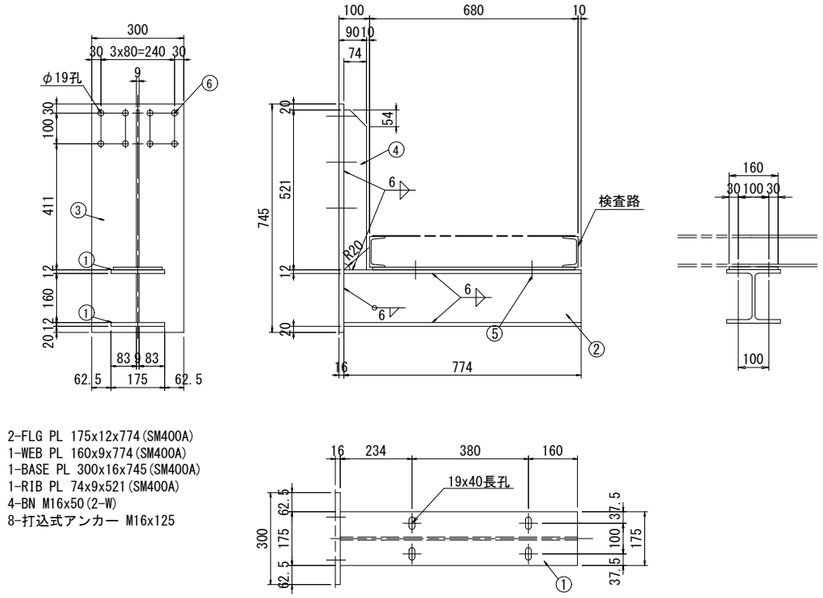
① 1-H 175x175x7.5x11x774
② 1-BASE PL 335x16x300(SM400A)
③ 4-BN M16x50(2-W)
④ 6-打込式アンカー M16x125

B2 (製作数:7)



① 1-H 175x175x7.5x11x774
② 1-BASE PL 335x16x300(SM400A)
③ 4-BN M16x50(2-W)
④ 8-打込式アンカー M16x125

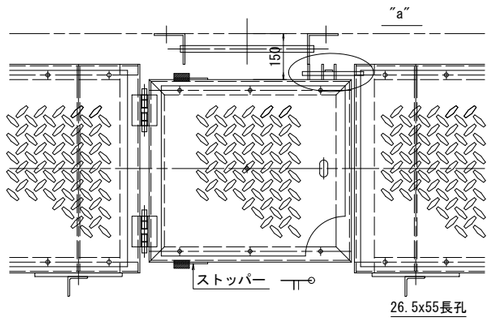
B3 (製作数:6)

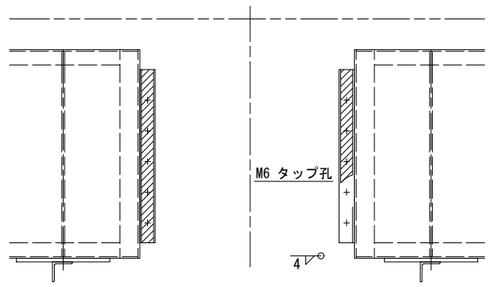


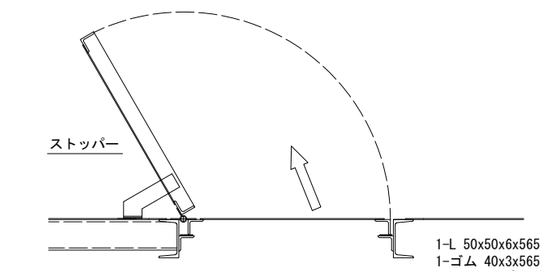
① 2-FLG PL 175x12x774(SM400A)
② 1-WEB PL 160x9x774(SM400A)
③ 1-BASE PL 300x16x745(SM400A)
④ 1-RIB PL 74x9x521(SM400A)
⑤ 4-BN M16x50(2-W)
⑥ 8-打込式アンカー M16x125

マンホール詳細図

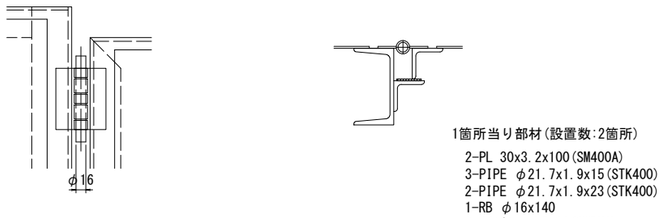
製作数:1組



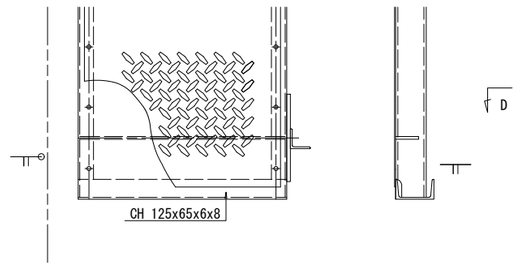




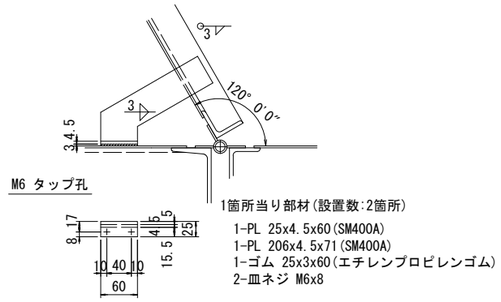
蝶番詳細図 S=1:5



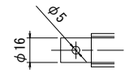
マンホール部端部詳細



ストッパー詳細図 S=1:5



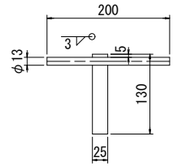
ピン端部詳細 S=1:2



割ピン詳細 S=1:2

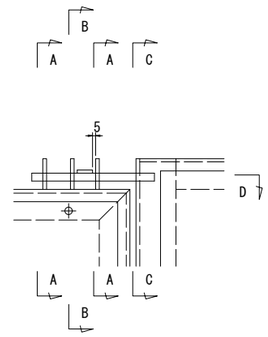


マンホール鍵詳細図 S=1:5

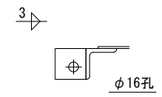


本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

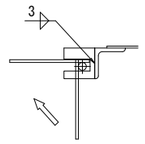
"a"部詳細図 S=1:5



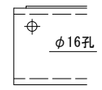
A － A S=1:5



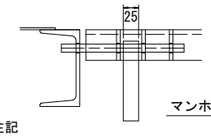
B － B S=1:5



C － C S=1:5



D － D S=1:5



注記
1. 特記なき材質は、全てSS400とする。
2. 特記なきスカーラップは、35Rとする。
3. Uボルト付き以外のナットは全て緩み止めナットを使用すること。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっきとする。
   亜鉛の付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
   但し、板厚3.2mm以上、6mm未満の部材は、HDZT63とする。
   ボルト・ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
5. ボルト孔は、めっき付着量を考慮し、ボルト径+3mmを標準とする。
6. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。
7. P2・P3橋脚はJR施工

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(9)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 157
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋下部構造検査路(10)

検査路階段(1)数量表

1箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
再生プラスチックシート	傾斜35度用 600幅	枚	30	
再生プラスチックシート	傾斜40度用 600幅	枚	2	
コーススレッド釘	SUS製 65L	本	104	
コーススレッド釘	SUS製 100L	本	64	
メッキ鋼棒	Φ10×500L	本	64	
再生プラスチック角材	70×70×2000L	本	10	
再生プラスチック角材	70×70×751L	本	2	
再生プラスチック角材	70×70×982L	本	2	
再生プラスチック角材	70×70×200L	本	4	
再生プラスチック角材	50×50×750L	本	4	
検査路階段設置	角杭･メッキ棒鋼打込み,角材･プレート設置含む	箇所	1	

検査路階段(2)数量表

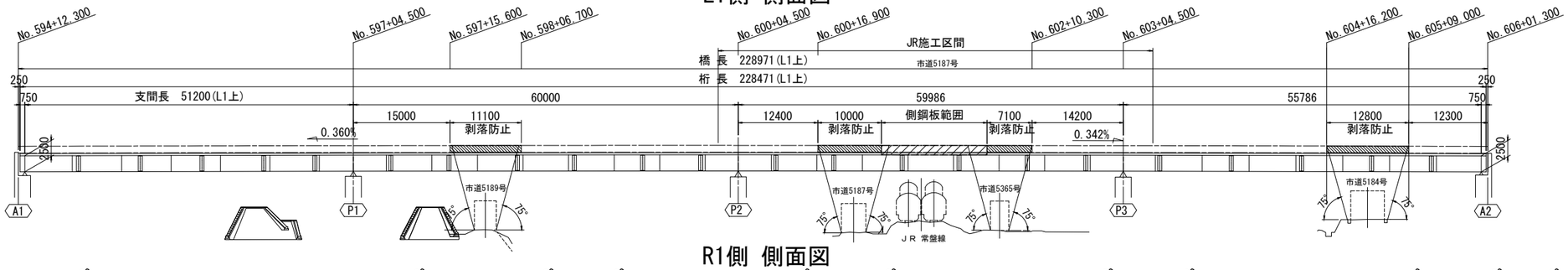
1箇所当り

名称	規格	単位	数量	摘要
再生プラスチックシート	傾斜35度用 600幅	枚	23	
再生プラスチックシート	傾斜40度用 600幅	枚	1	
コーススレッド釘	SUS製 65L	本	76	
コーススレッド釘	SUS製 100L	本	48	
メッキ鋼棒	Φ10×500L	本	48	
再生プラスチック角材	70×70×2000L	本	8	
再生プラスチック角材	70×70×751L	本	2	
再生プラスチック角材	70×70×200L	本	2	
再生プラスチック角材	50×50×750L	本	2	
検査路階段設置	角杭･メッキ棒鋼打込み,角材･プレート設置含む	箇所	1	

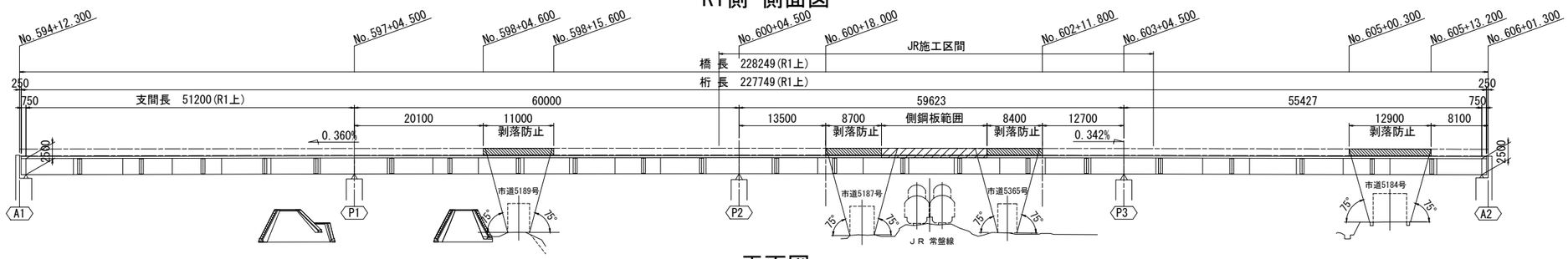
工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋下部構造検査路(10)		
縮尺	—	図面番号	178 の 158
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋はく落防止工詳細図　S=1:400

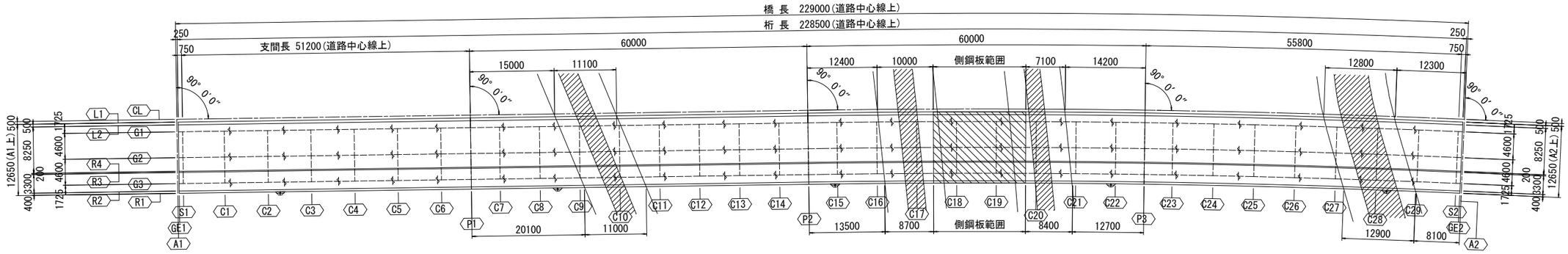
L1側 側面図



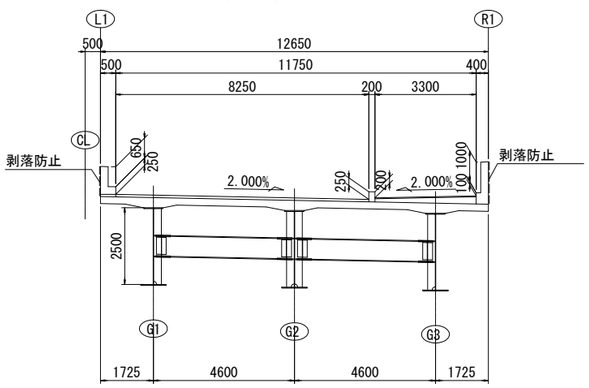
R1側 側面図



平面図

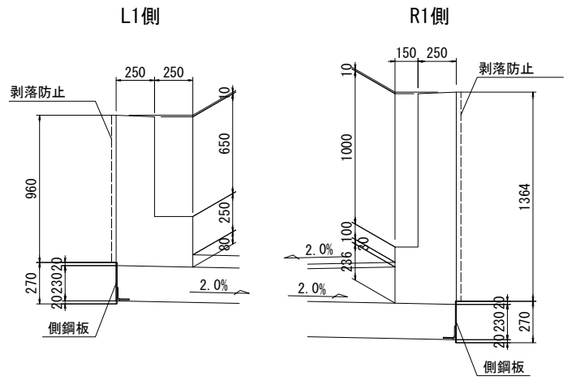


断面図 S=1:100

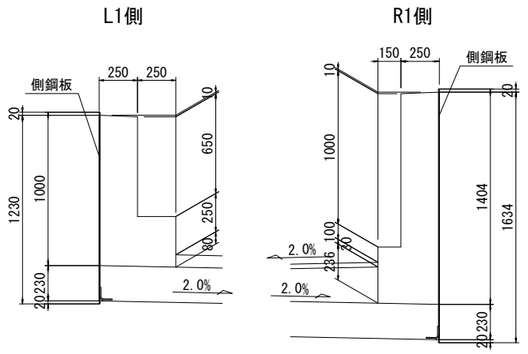


壁高欄詳細 S=1:20

はく落防止工範囲



JR部範囲



剥落防止数量表

施工数量：55.544m2　　1m2当り

名称	規格	単位	数量	摘要
剥落防止	砂付ｱﾗﾐﾄﾞ三軸ﾒｯｼｭｼｰﾄ	m2	1	

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

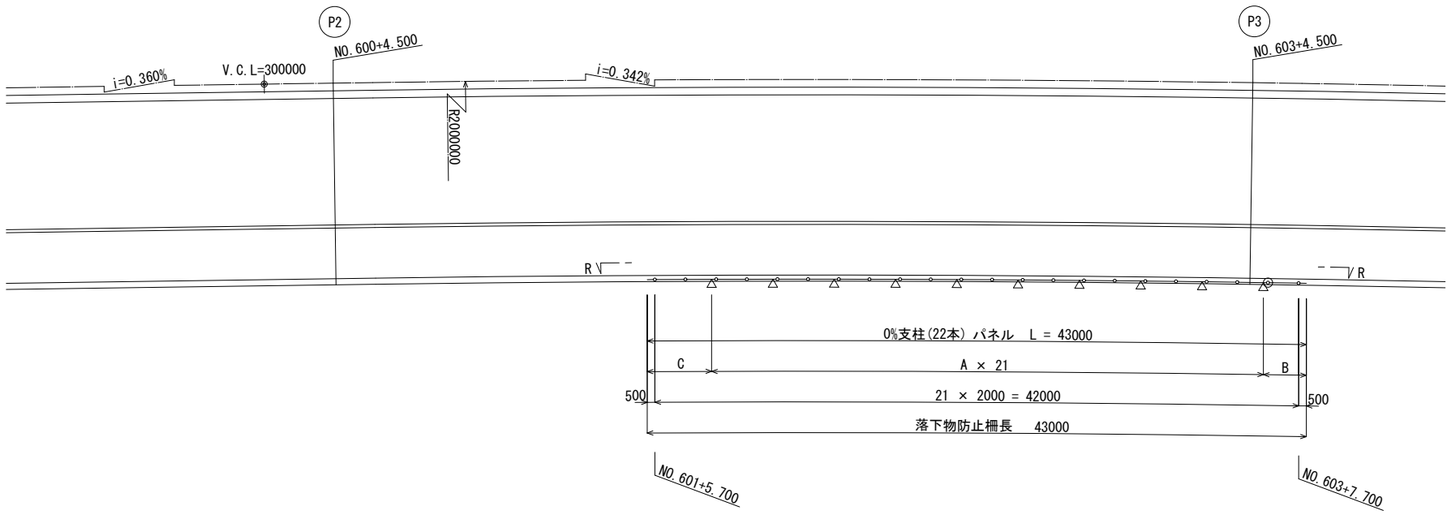
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋はく落防止工詳細図
縮尺	図示
図面番号	178 の 159
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋落下物防止柵詳細図(1)

JR施工

落下物防止柵配置図 S=1:200

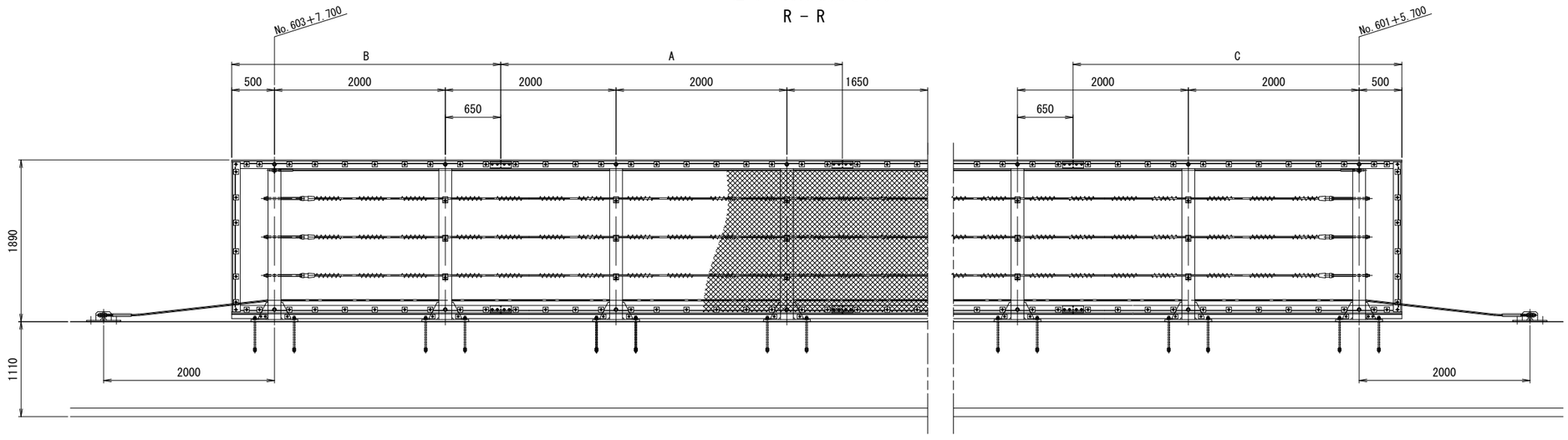
・落下物防止柵長は主要横梁中心線上の実長寸法を示す。　—○— 接続部



落下物防止柵姿図 S=1:30

注. ▽ 印は胴縁接続部を示す。

R － R



注記
施工はJR発注工事のため、落下物防止柵の資材購入のみ計上とする。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

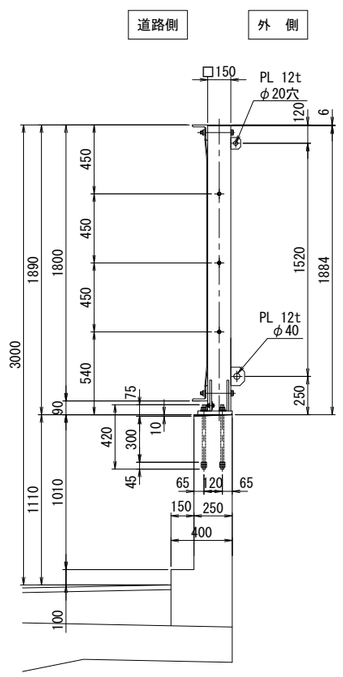
(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋落下物防止柵詳細図(1)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 160
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

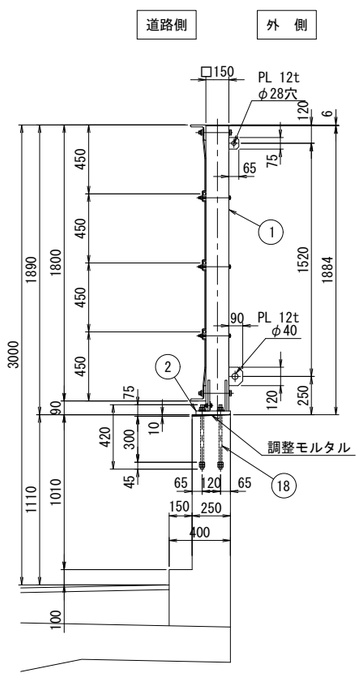
東田中高架橋落下物防止柵詳細図(2)

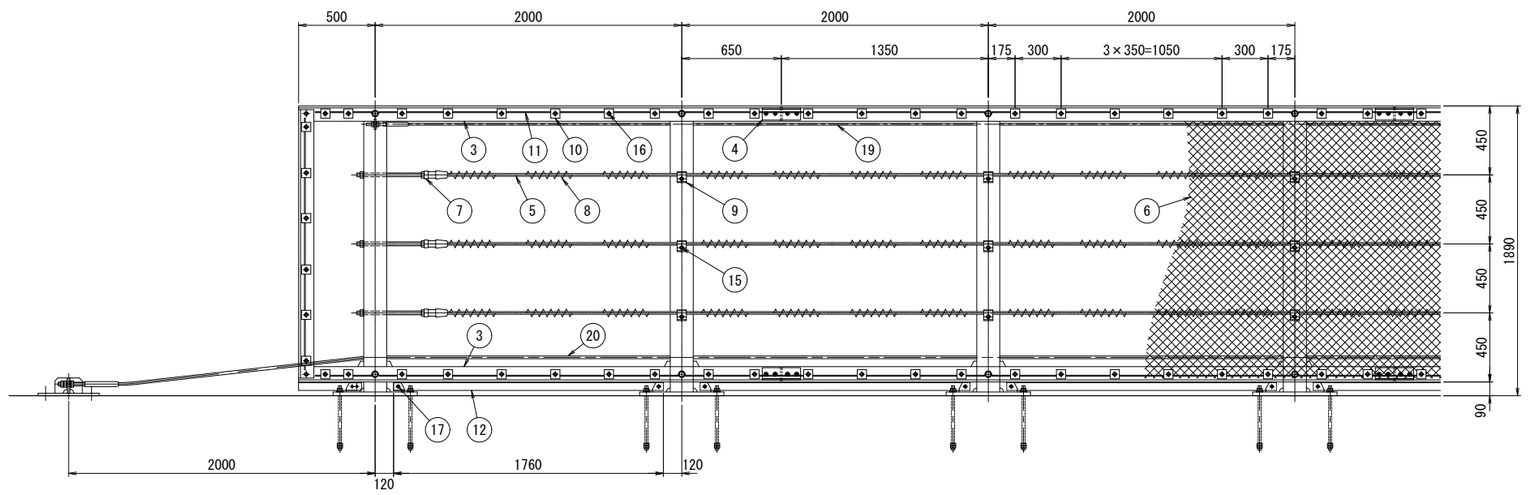
JR施工

端末支柱 S=1:20



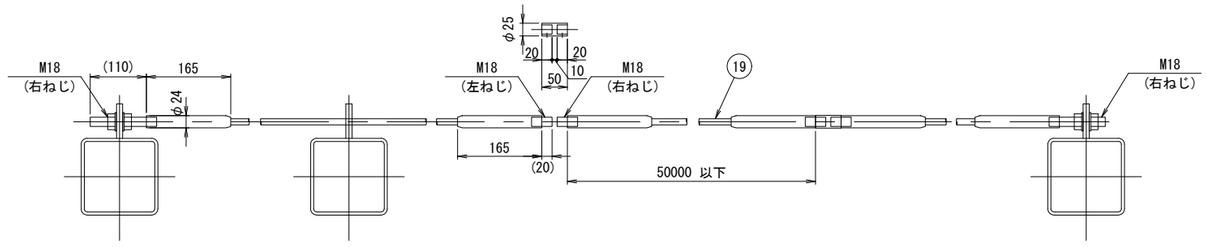
中間支柱 S=1:20





支柱回転防止ワイヤー詳細図 S=1:6

端部（定着部）

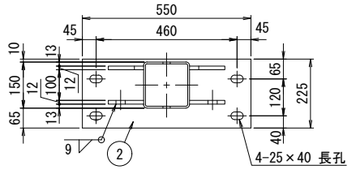


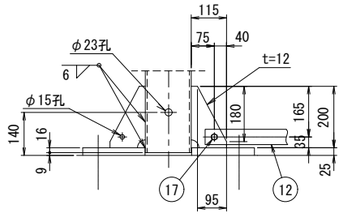
中間部

接続部

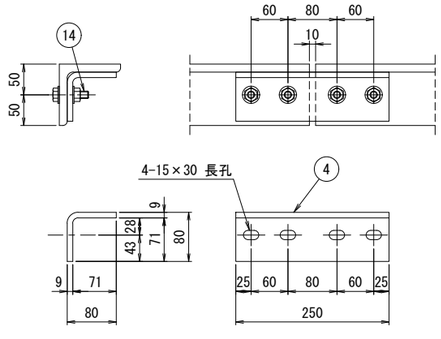
接続部 結合形状

ベースプレート部詳細図 S=1:10

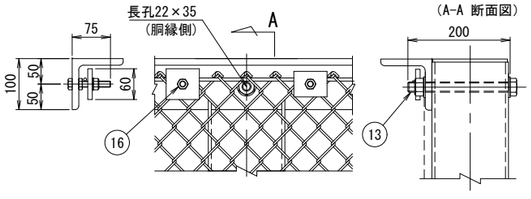




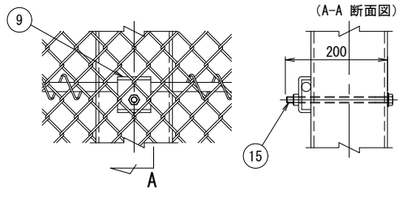
継手部詳細図 S=1:5



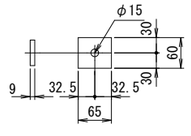
a 部詳細図 S=1:6



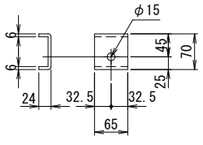
b 部詳細図 S=1:6



金網押え金具詳細図 S=1:6



ワイヤーロープ押え金具詳細図 S=1:6



注記

施工はJR発注工事のため、落下物防止柵の資材購入のみ計上とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋落下物防止柵詳細図(2)		
縮尺	図示	図面番号	178 の 161
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋落下物防止柵詳細図(3)

JR施工

支柱落下防止ワイヤー端末固定ベースプレート詳細図　S=1:5

材料表(12m当り)

符号	名　称	寸　　法	材　質	単重(kg/本)	個数	重量(kg)	表面処理
1	支　柱	150x150x6.0x　1865　(蓋,ブラケット含)	STKR400	51.6	6	309.6	HZA50A
2	ベースプレート	PL 25x225x550(リブ含む)	SS400	28.2	6	169.2	HZA50A
3	胴　縁	L-100x100x13x　3994	SS400	76.3	6	457.8	HZA50A
4	胴縁継手金具	PL 9x80x80x250	SS400	2.83	6	17.0	HZA50A
5	ワイヤーロープ	φ18(3x7)G/Ox　12000	G種相当	13.2	3	39.6	J-WITEX SPEC *2
6	菱形金網	φ3.2x40 x　21.6㎡	JIS G 3552 Z-GS7相当	71.3	1	71.3	AZA-30 *1
7	索端金具	φ25(M24)x500	SS490	3.46	3	10.4	HZA36A
8	結合コイル	φ3.2x50x50x300	JIS G 3506相当	0.06	72	4.3	AZA-30 *1
9	ワイヤー押え金具	PL6x65x70	SS400	0.36	18	6.5	HZA50A
10	金網押え金具	FB9x65x50	SS400	0.23	72	16.6	HZA50A
11	丸鋼	φ6.0x　24000	JIS G 3547 SWMGS-7相当	5.30	1	5.3	AZA-30 *1
12	裾隠し	FB4.5x50x1760	SS400	3.11	6	18.7	HZA50A
13	セットボルト	M20x200　(UN-2PW 付)	4.6以上	0.09	12	1.1	HZA36A
14		M12x50　(UN-2PW 付)	4.6以上	0.18	24	4.3	HZA36A
15		M12x200　(UN-PW 付)	4.6以上	0.21	18	3.8	HZA36A
16		M12x65　(UN-N(3種)-PW 付)	4.6以上	0.09	72	6.5	HZA36A
17		M12x40　(UN-2PW 付)	4.6以上	0.08	12	1.0	HZA36A
18	アンカーボルト	M20x420　(UN-2N-(特)PW 付)	8.8	1.23	24	29.5	HZA36A
19	回転防止ワイヤー	φ12(6x19)G/Ox　12000	JIS G3525準拠	6.29	1	6.3	亜鉛めっき+ナイロン被覆
20	落下防止ワイヤー	φ18(7x19)G/Ox　12000	JIS G3549準拠	14.3	1	14.3	亜鉛めっき+ナイロン被覆
		合　　計		99.4 kg/m	12.000m	1193.1	

注記

・UN:Uナット、N：ナット、PW：平座金を示す。
・製品の表面処理は、「JIS H 8643」溶融亜鉛アルミニウム合金めっき(Mg入り)
　又は溶融亜鉛-10%アルミニウム合金めっきとする。
　HZA50Aは「主要部材の平均膜厚50μm以上」、HZA36Aは「平均膜厚36μm以上」とする。
・*1,*2の表面処理は下表の通りとする。
・アンカーボルトはNCアンカーとする。

めっき付着量

*1	溶融亜鉛-10%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき	300g/m2以上
*2	溶融亜鉛-10%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき	500g/m2以上

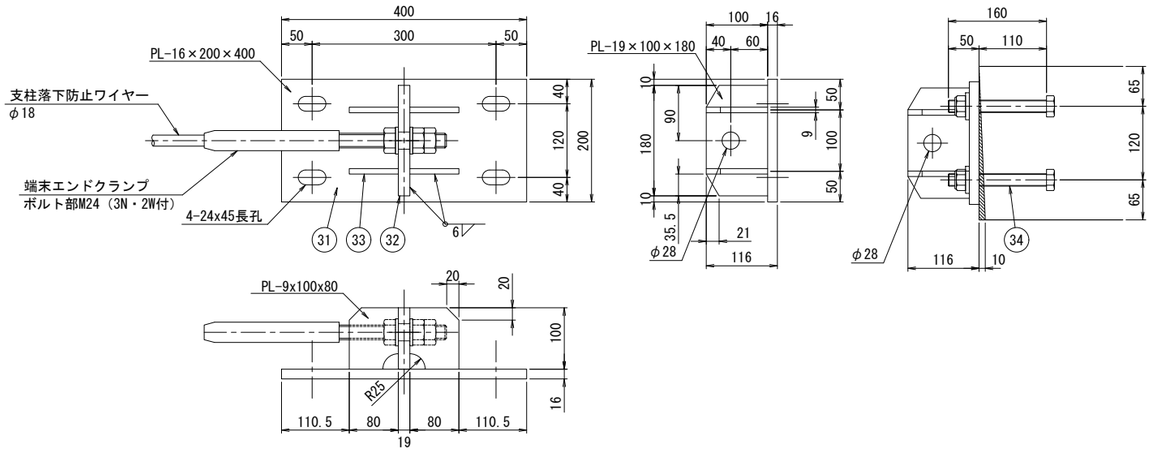
・上記付着量について、複合部材は主要部材の平均付着量とします。

落下防止柵数量表

購入数量：43m　　1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
落下防止柵		m	1	

φ18用定着プレート



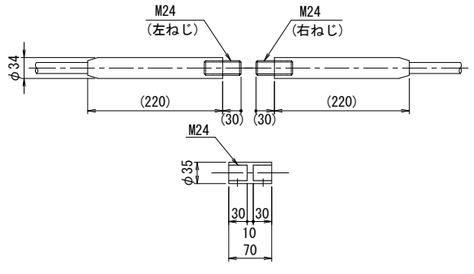
材料表(1個当り)　　製作数:2個

符号	名　称	寸　法	材　質	単重(kg/本)	個数	重量(kg)	表面処理
31	プレート	PL-16 x 200 x 400	SS400	10.0	1	10.0	HZA50A
32	プレート	PL-19 x 100 x 180	SS400	2.68	1	2.7	HZA50A
33	プレート	PL-9 x 100 x 80	SS400	0.57	4	2.3	HZA50A
34	アンカーボルト	M20x160 (UN.PW 付)	4.6以上	0.50	4	2.0	HZA36A
					合計	17.0	

注記

・UN:Uナット、N：ナット、PW：平座金を示す。
・製品の表面処理 は、「JIS H 8643」溶融亜鉛アルミニウム合金めっき(Mg入り)
　HZA50Aは「主要部材の平均膜厚50μm以上」、HZA36Aは「平均膜厚36μm以上」とする。
・アンカーボルトはNCアンカーとする。

ワイヤー接続部



注記
　施工はJR発注工事のため、落下物防止柵の
　資材購入のみ計上とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

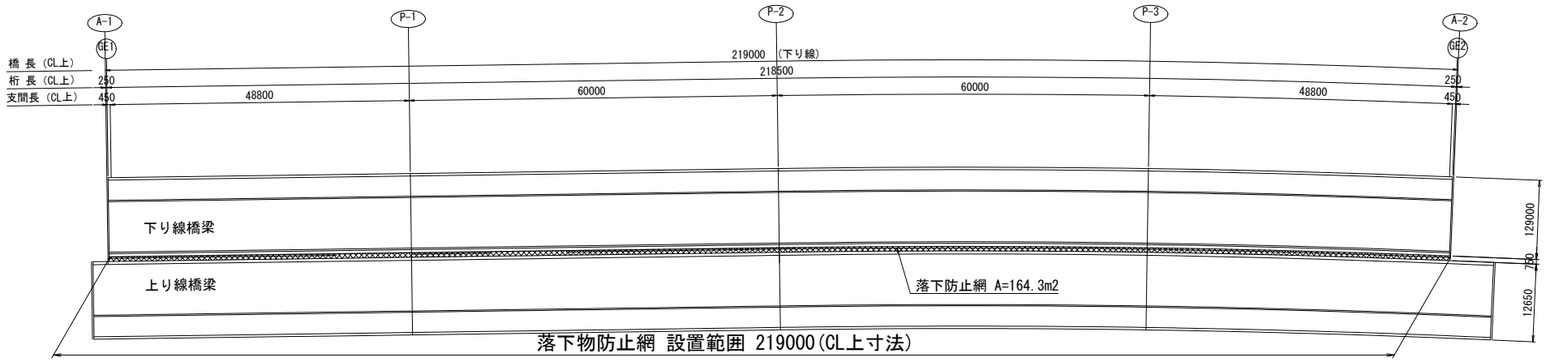
(指定部分)

工 事 名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図 面 名	東田中高架橋落下物防止柵詳細図(3)		
縮　尺	図 示	図面番号	178 の 162
年 月 日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

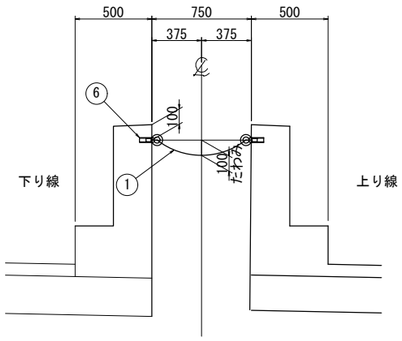
東田中高架橋落下物防止網詳細図

S=1:500

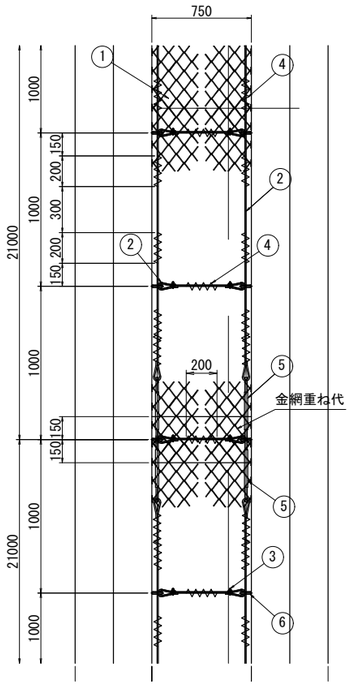
JR施工



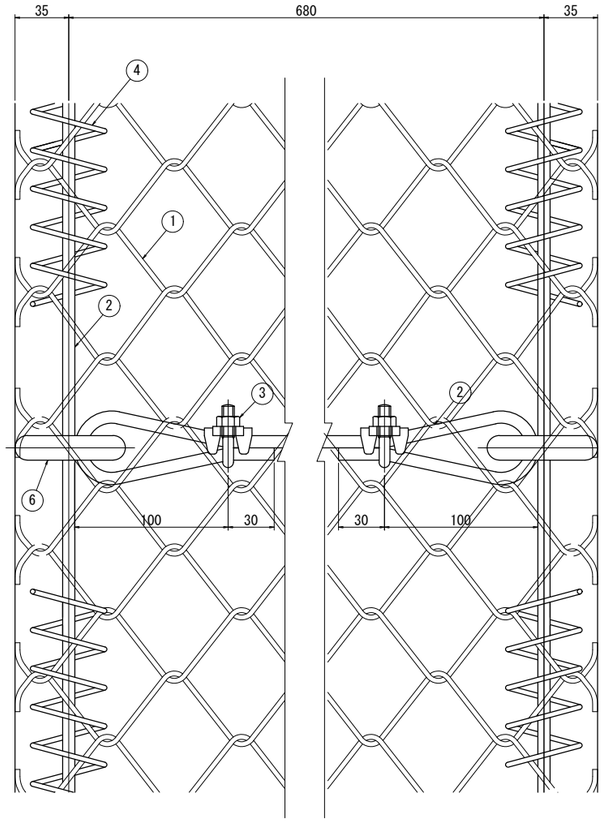
断面図 S=1:20



側面図 S=1:20

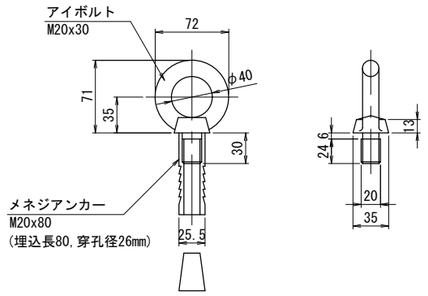


金網およびワイヤーロープ取付詳細 S=1:2

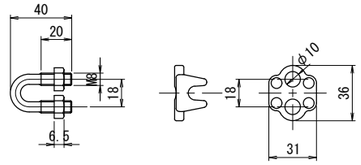


アンカーボルト S=1:3

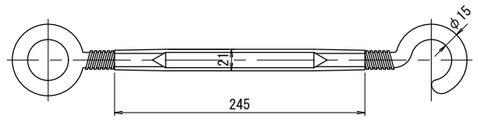
(アイボルト付)



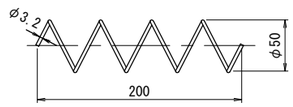
ワイヤークリップ S=1:2



ターンバックル S=1:3



結合コイル S=1:3



落下防止網材料表

219m当り

番号	品　名	寸　法	規　格	数　量
①	金　網	φ3.2×56	JIS G3537（亜鉛めっき鉄線4種） JIS G3552	178.3 m2
②	ワイヤーロープ	φ8（3×7　G/O）	JIS G 3525 (普通Zより亜鉛めっき4号ロープ)	648.3 m
③	ワイヤークリップ	φ8用		572 個
④	結合コイル	φ3.2×50×200	JIS G3537 (亜鉛めっき鉄線4種)	1096 個
⑤	ターンバックル	φ15×245		44 個
⑥	アンカーボルト (アイボルト付)	M20	JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材第2種)	440 個

落下防止網材料費数量表

施工数量 219m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
落下物防止網	Φ3.2×56	m	1	JR施工

特記

1) 部材製作寸法は、現場測量後に決定すること。
2) 施工はJR発注工事のため、落下物防止網の資材購入のみ計上とする。

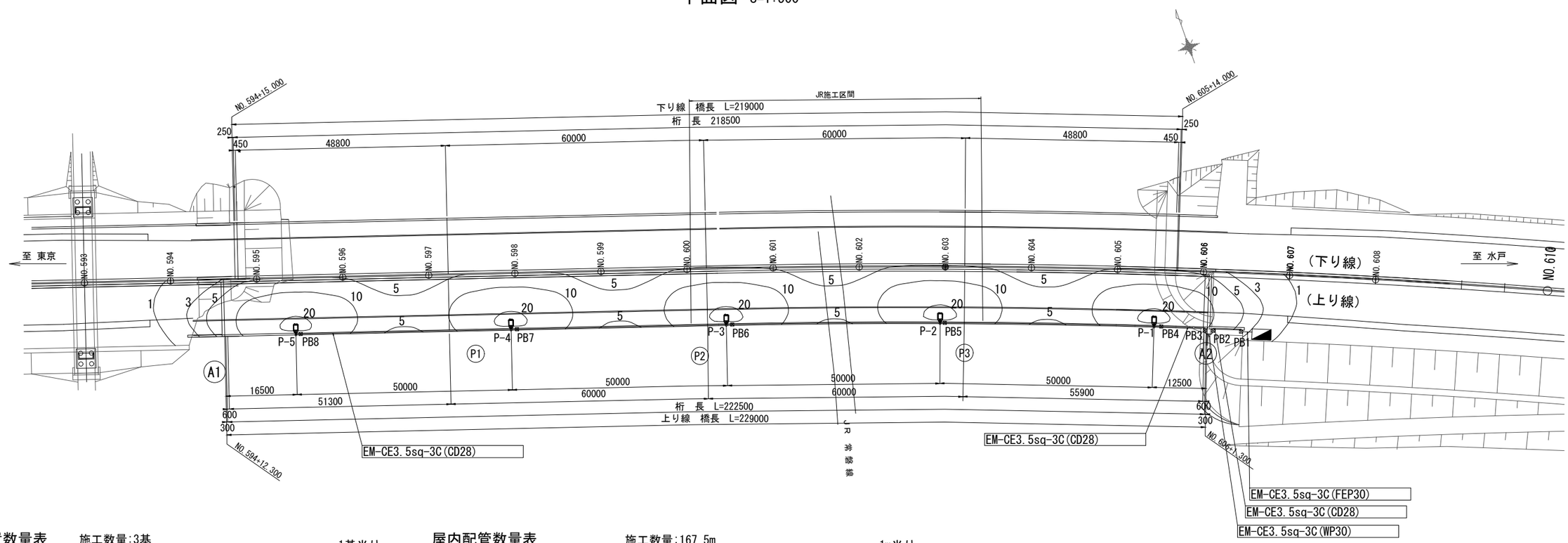
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋落下物防止網詳細図		
縮　尺	図　示	図面番号	178 の 163
年月日	令和　7　年　8　月　　日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋照明配置図

平面図 S=1:500



道路照明灯設置数量表　施工数量:3基

1基当り

名称	規格	単位	数量	摘要
照明灯建柱	直線テーパーポール H=12m 溶融亜鉛メッキ仕上	基	1	
ジョイントユニット	連接用	個	1	
ケーブル	VCT2sq-3c	m	12	

道路照明灯材料表(JR支給品)　購入数量:2基

1基当り

名称	規格	単位	数量	摘要
照明灯材料費	直線テーパーポール H=12m 溶融亜鉛メッキ仕上	基	1	
アンカーボルト	12m柱用 4-M24×500L	基	1	
ジョイントユニット	連接用	個	1	
ケーブル	VCT2sq-3c	m	12	

地中配管費数量表　施工数量:6.0m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
波付硬質合成樹脂管	FEP 30mm	m	1	

屋内配管数量表　施工数量:167.5m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
合成樹脂可とう電線管	CD28	m	1	

屋内配管材料表(JR支給)　購入数量:62.0m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
配線・配管	CD28	m	1	

屋外配管数量表　施工数量:1.0m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
金属製可とう電線管	WP30 ビニル被覆	m	1	

屋外配線数量表　施工数量:242.5m

1m当り

名称	規格	単位	数量	摘要
ケーブル及び電線配線	EM-CE3.5sq-3c	m	1	

プルボックス数量表　施工数量:6個

1個当り

名称	規格	単位	数量	摘要
プルボックス	150×150×150 鋼製 溶融亜鉛メッキ 防水	個	1	

プルボックス材料表(JR支給)　購入数量:2個

1個当り

名称	規格	単位	数量	摘要
プルボックス	150×150×150 鋼製 溶融亜鉛メッキ 防水	個	1	

凡　例

記　号	摘　　要	数　量
― ―	照明柱　取付高さ H=12m 照明器具（別途施工）	5
― ☒PB ―	プルボックス 150×150×150(溶融亜鉛メッキ)	8
― ―	分電盤 屋外用共架式 1φ2W200V50Hz 引込柱 H=6m ベース式	1
― ――― ―	地中配管 波付硬質合成樹脂管(FEP)	1
― ――― ―	地覆埋設配管 合成樹脂製可とう電線管(CD)	
― ――― ―	露出配管 金属製可とう電線管(WP)	

注　記
1. ケーブル3Cの内1Cを接地線とする。
2. D種接地は分電盤で一括とする。

ランプ名	全光束[lm]	保守率	台数	器具高さ
LED	13750	0.70	5	12.000

	平均値 [lx]	最大値 [lx]	最小値 [lx]	均斉度 最小/平均
車道	8.34	17.85	3.44	0.41
歩道	12.71	21.15	5.15	0.41

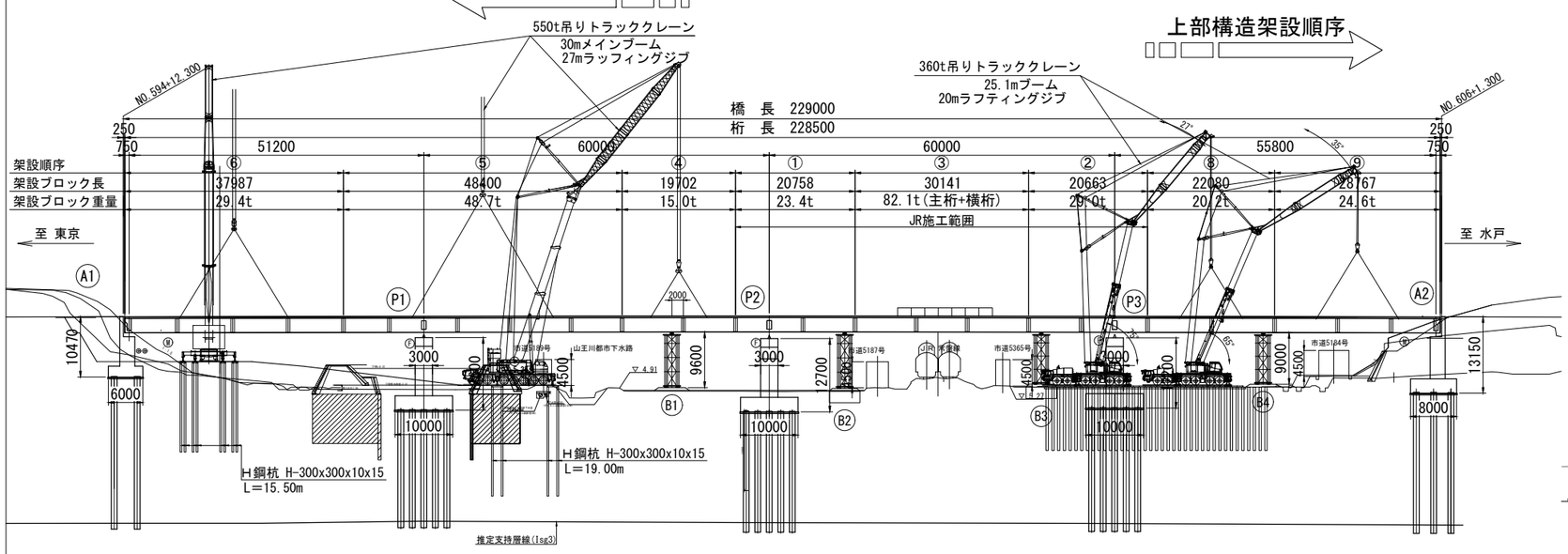
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋照明配置図
縮尺	S=1:500　図面番号　178 の 164
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

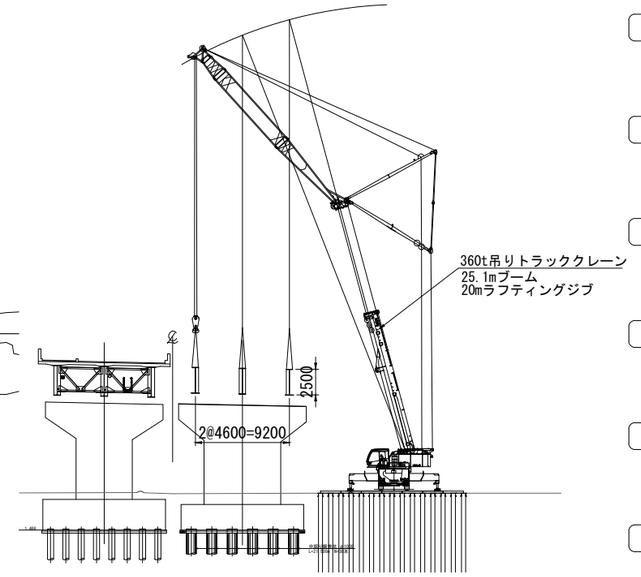
東田中高架橋上部構造架設計画図

国土交通省架設区間

側　面　図　S=1:500



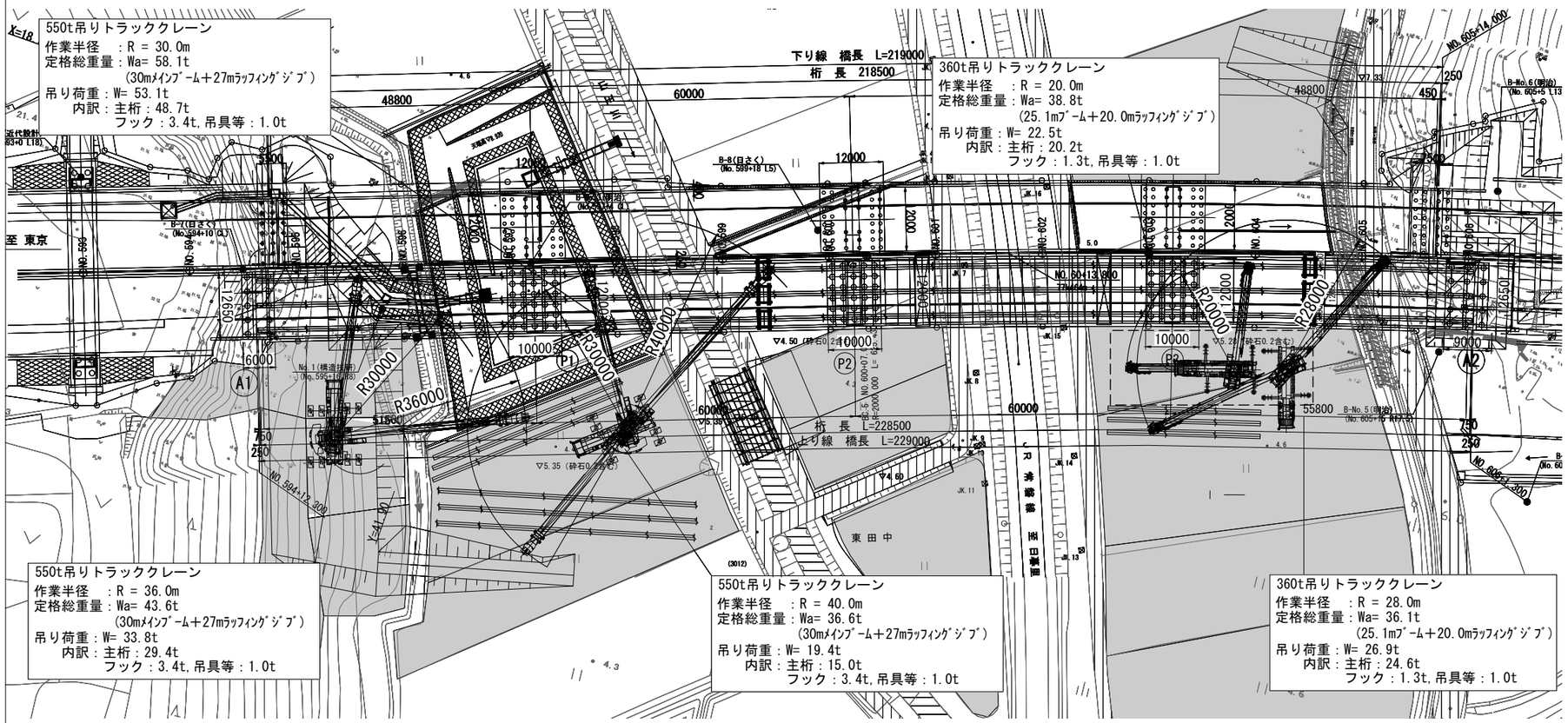
横　断　図　S=1:300



施工手順

① 準備工
↓
② 資材・機材搬入
↓
③ ベント設置
↓
④ 支承据付け
↓
⑤ 上部構造架設
↓
⑥ ベント撤去

平　面　図　S=1:500



550t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 30.0m
定格総重量：Wa= 58.1t
(30mﾒｲﾝﾌﾞｰﾑ+27mﾗｯﾌｨﾝｸﾞｼﾞﾌﾞ)
吊り荷重：W= 53.1t
内訳：主桁：48.7t
フック：3.4t,吊具等：1.0t

360t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 20.0m
定格総重量：Wa= 38.8t
(25.1mﾌﾞｰﾑ+20.0mﾗｯﾌｨﾝｸﾞｼﾞﾌﾞ)
吊り荷重：W= 22.5t
内訳：主桁：20.2t
フック：1.3t,吊具等：1.0t

550t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 36.0m
定格総重量：Wa= 43.6t
(30mﾒｲﾝﾌﾞｰﾑ+27mﾗｯﾌｨﾝｸﾞｼﾞﾌﾞ)
吊り荷重：W= 33.8t
内訳：主桁：29.4t
フック：3.4t,吊具等：1.0t

550t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 40.0m
定格総重量：Wa= 36.6t
(30mﾒｲﾝﾌﾞｰﾑ+27mﾗｯﾌｨﾝｸﾞｼﾞﾌﾞ)
吊り荷重：W= 19.4t
内訳：主桁：15.0t
フック：3.4t,吊具等：1.0t

360t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 28.0m
定格総重量：Wa= 36.1t
(25.1mﾌﾞｰﾑ+20.0mﾗｯﾌｨﾝｸﾞｼﾞﾌﾞ)
吊り荷重：W= 26.9t
内訳：主桁：24.6t
フック：1.3t,吊具等：1.0t

施工　凡例

- 地組ブロック架設（3&4）
- 地組ブロック架設（2）
- 地組ブロック架設（5）
- JR架設範囲

平面図　凡例

- 現況道路
- 河川・水路
- 借地済

360ｔ吊りトラッククレーン 定格総荷重表

ブーム長さ(m)	20.1		25.1		30.2	
ブーム起伏角 / 作業半径(m)	75°	65°	75°	65°	83°	75°
20	52.9		38.8		37.5	38.8
22	45.5	47.2	38.2		37.0	38.8
24	44.8	43.6	37.2	38.8		37.7
26		40.4	37.2	38.5		35.1
28		37.5		36.1		

550ｔ吊りトラッククレーン 定格総荷重表

MB長さ(m)	22.0	26.0	30.0
ジブ長さ(m)	27.0	27.0	27.0
オフセット / 作業半径(m)	20°	20°	20°
26	62.3	64.4	66.4
28	58.7	60.9	62.8
30	55.5	57.7	58.1
32	52.7	53.2	52.6
34	49.0	48.4	47.8
36	44.8	44.2	43.6
38	41.1	40.5	39.9
40	37.7	37.1	36.6

注）ベントB2，B3の撤去時期については，施工前に施工業者間で調整すること。

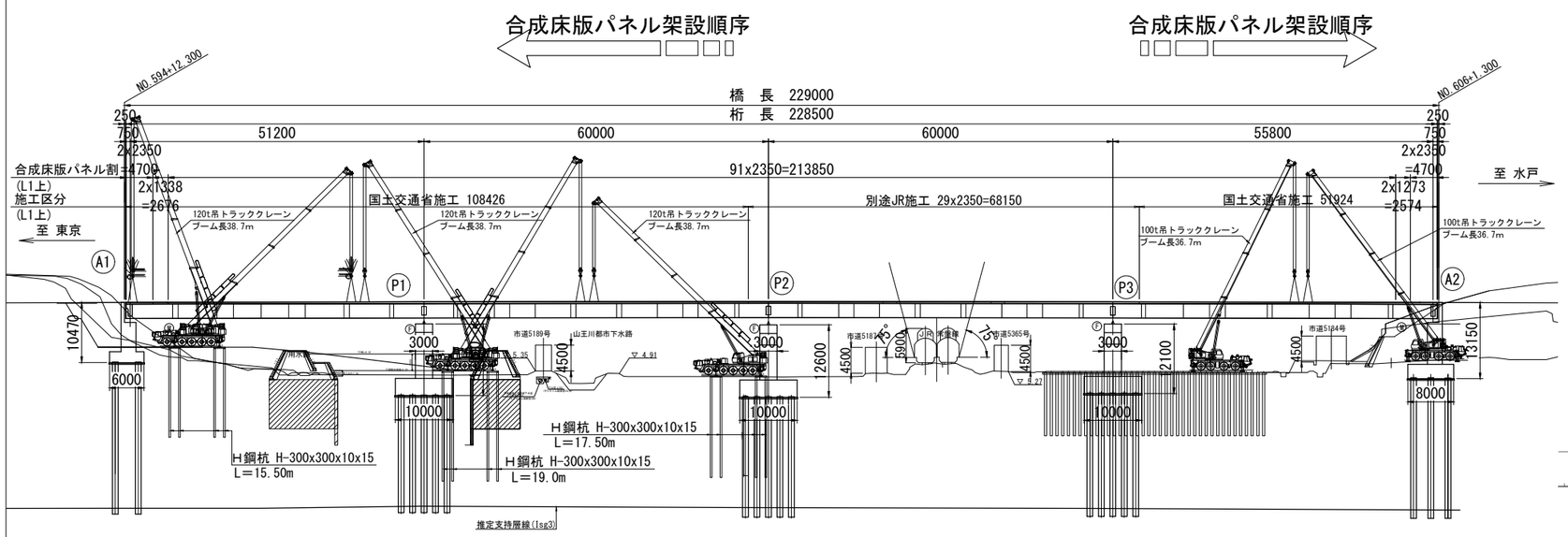
本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋上部構造架設計画図
縮尺	図示
図面番号	178 の 165
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

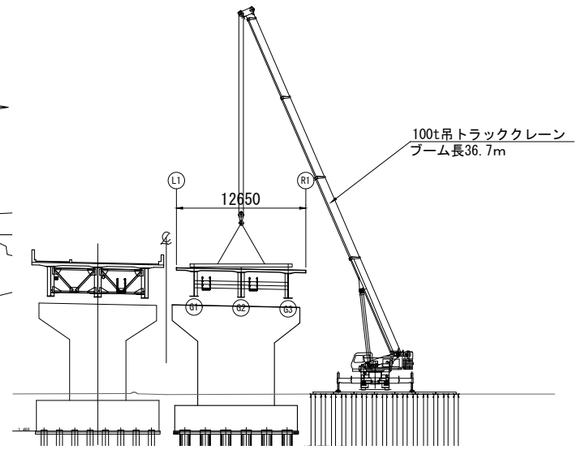
東田中高架橋合成床版架設計画図

国土交通省架設区間

側　面　図　S=1:500



横　断　図　S=1:300



施工手順

① 準備工

↓

② 資材・機材搬入

↓

③ ベント設置

↓

④ 支承据付け

↓

⑤ 上部構造架設

↓

⑥ ベント撤去

↓

⑦ 合成床版パネル架設

平　面　図　S=1:500

120t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 30.0m
定格総重量：Wa=　6.2t (38.7mブーム)
吊り荷重：W=　5.2t
　内訳：合成床版パネル：3.6t
　　フック：0.6t,吊具等：1.0t

120t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 30.0m
定格総重量：Wa=　6.2t (38.7mブーム)
吊り荷重：W=　5.2t
　内訳：合成床版パネル：3.6t
　　フック：0.6t,吊具等：1.0t

100t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 20.0m
定格総重量：Wa=　7.3t (36.7mブーム)
吊り荷重：W=　5.1t
　内訳：合成床版パネル：3.6t
　　フック：0.5t,吊具等：1.0t

100t吊りトラッククレーン
作業半径　：R = 24.0m
定格総重量：Wa=　5.8t (36.7mブーム)
吊り荷重：W=　5.1t
　内訳：合成床版パネル：3.6t
　　フック：0.5t,吊具等：1.0t

100ｔ吊トラッククレーン 定格総荷重表

ブーム長さ(m) / 作業半径(m)	28.3	36.7	45.0
16	12.1	8.9	8.4
18	10.1	8.0	7.4
20	8.3	7.3	6.5
22	6.9	6.5	5.7
24	5.8	5.8	5.1
26	4.8	5.0	4.6

120ｔ吊トラッククレーン 定格総荷重表

合計ブーム長さ(m) / 作業半径(m)	29.8	38.7	47.5
20	13.1	11.8	10.8
22	11.1	10.7	9.7
24	9.5	9.7	8.8
26	8.1	8.4	8.0
28	—	7.2	7.2
30	—	6.2	6.4
32	—	5.3	5.5
34	—	4.5	4.7

施工 凡例

- 国土交通省架設範囲（1パネル架設）
- JR架設範囲

平面図 凡例

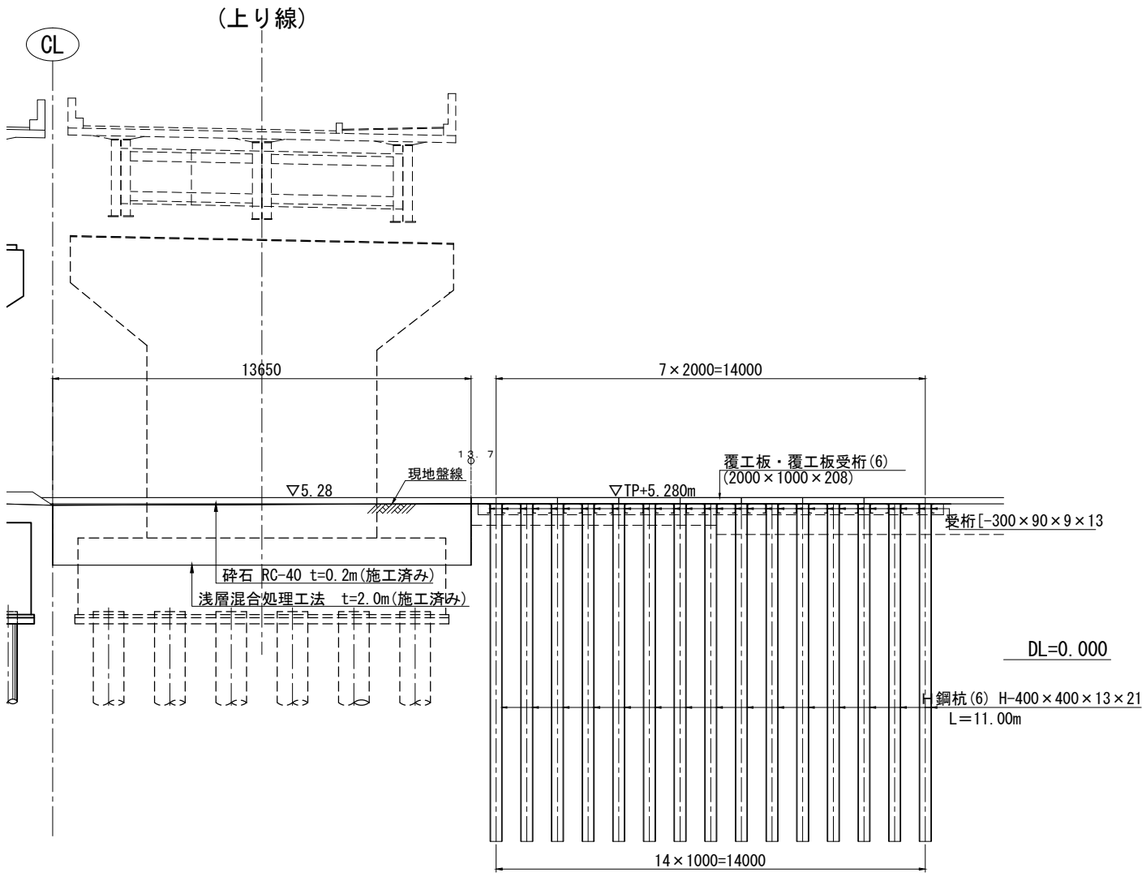
- 現況道路
- 河川・水路
- 借地済

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

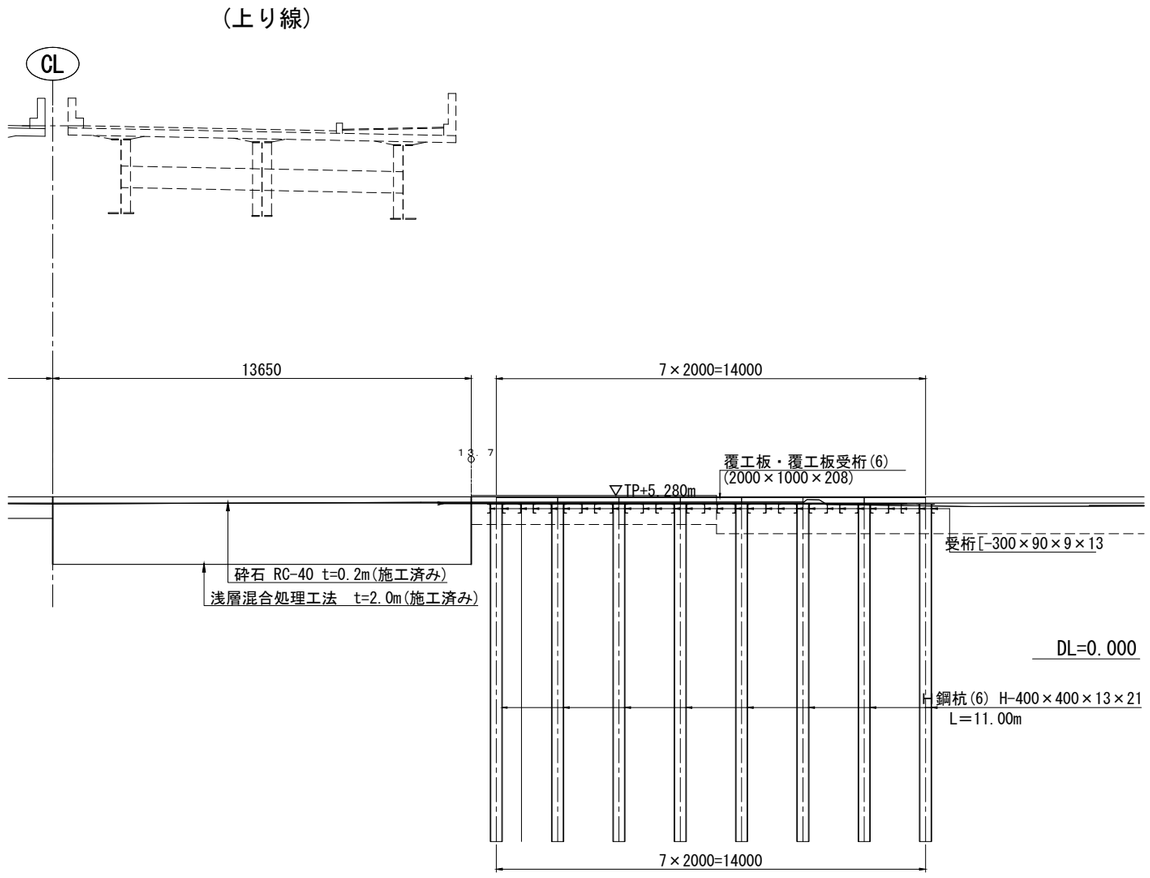
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋合成床版架設計画図		
縮尺	図示	図面番号	178 の 166
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋施工ヤード計画図　S=1:100

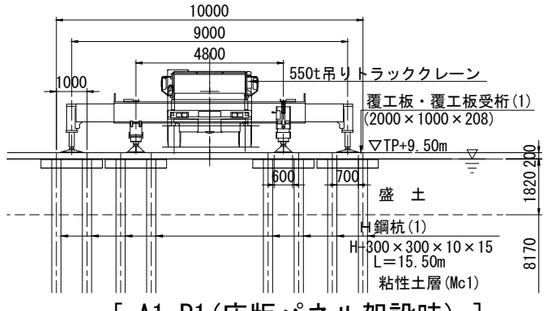
[4 - 4(上部構造・床版パネル架設時)]



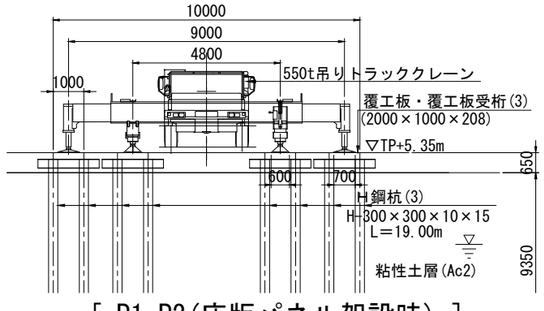
[5 - 5 (上部構造・床版パネル架設時)]



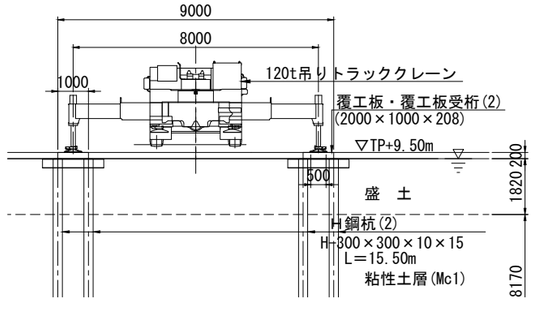
[A1-P1(上部構造架設時)]



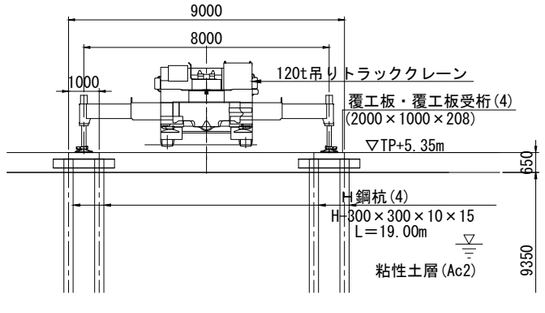
[P1-P2(上部構造架設時)]



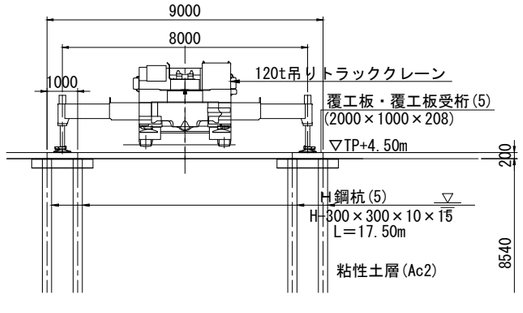
[A1-P1(床版パネル架設時)]



[P1-P2(床版パネル架設時)]



[P1-P2(床版パネル架設時)]



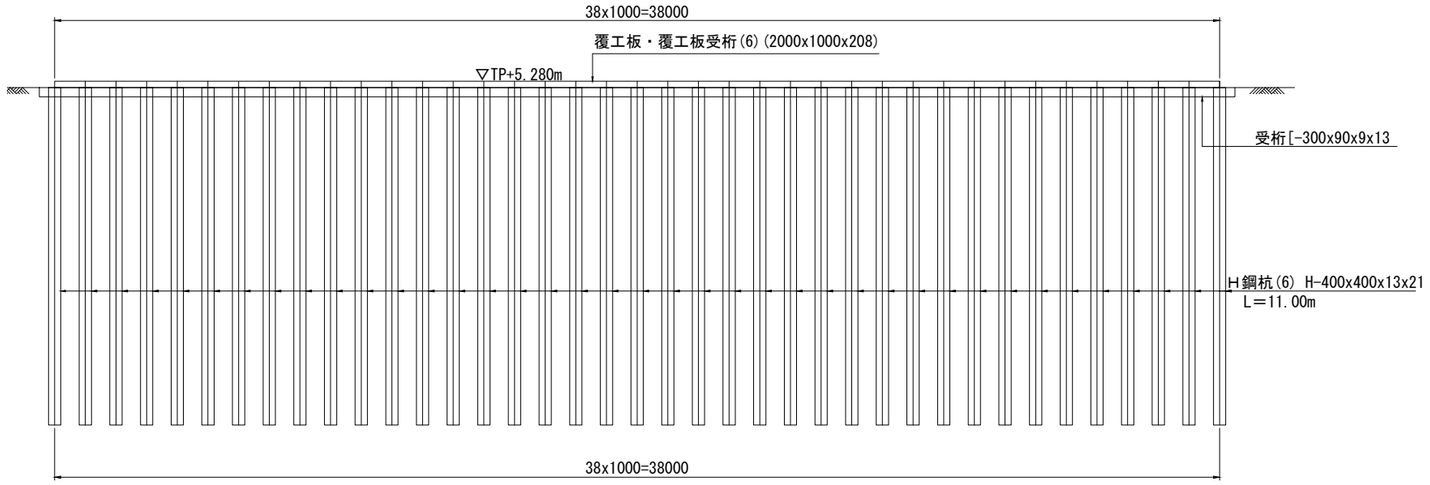
注記
1. 使用する重機，クレーンに合わせて杭間隔，仕様を見直すこと。
2. 覆工板・覆工板受桁(5)(6)、H鋼杭(5)(6)はJR発注工事で設置(打込み)、今回工事で撤去(引抜)とする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

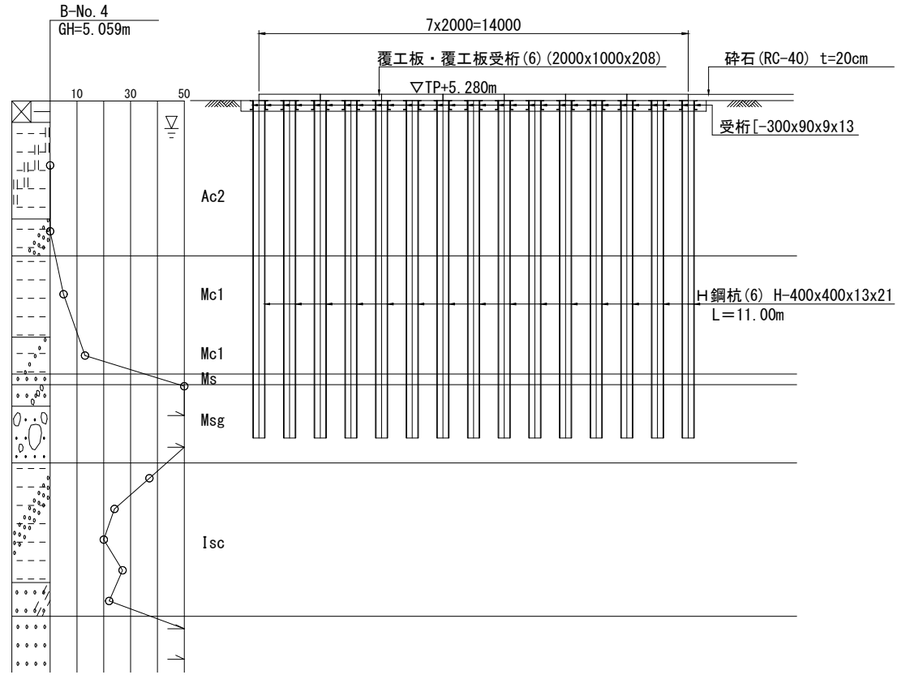
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋施工ヤード計画図		
縮尺	S=1:100	図面番号	178 の 167
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋架設架台計画図

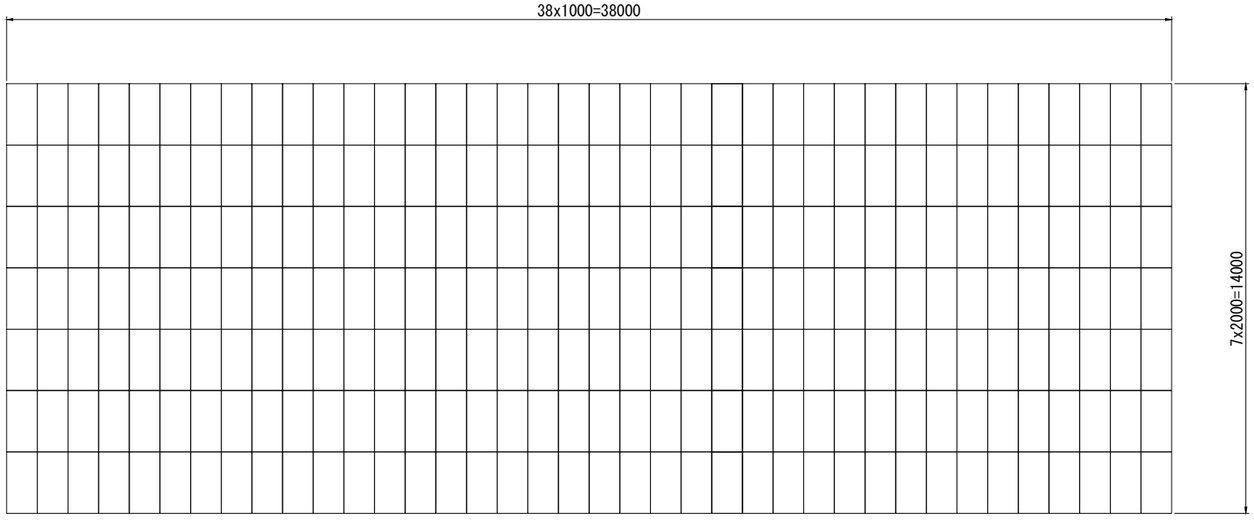
側　面　図　S=1:100



断　面　図　S=1:100

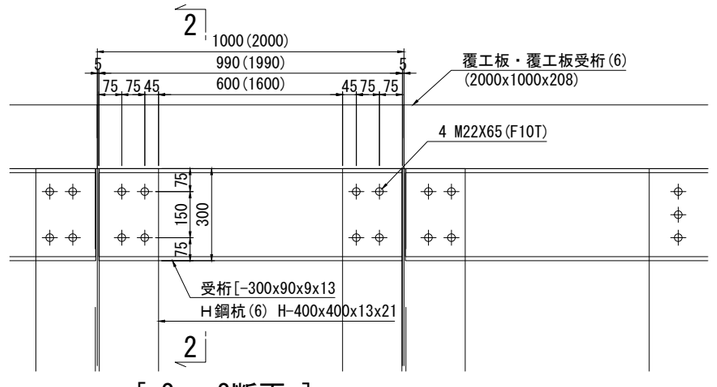


覆工板配置図　S=1:100

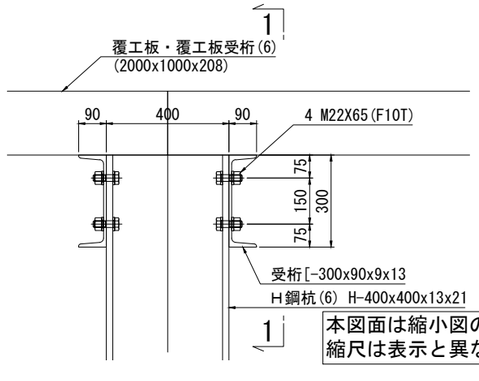


杭頭結合部詳細図　S=1:10

[1 - 1断面]



[2 - 2断面]



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋架設架台計画図		
縮尺	図示	図面番号	178 の 168
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋作業ヤード数量表

H鋼杭(1)数量表　A1～P1(上部構造架設時)　施工数量：　32本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼打込み	平均打込長　15.2m	本	1	
H形鋼引抜き	平均引抜長　15.2m	本	1	
ガス切断	鋼材規格	箇所	1	
H形鋼杭賃料	H-300×300×10×25×15500	本	1	

H鋼杭(2)数量表 A1～P1(床版パネル架設時)　施工数量：　16本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼打込み	平均打込長　15.2m	本	1	
H形鋼引抜き	平均引抜長　15.2m	本	1	
ガス切断	鋼材規格	箇所	1	
H形鋼杭賃料	H-300×300×10×25×15500	本	1	

H鋼杭(3)数量表　P1～P2(上部構造架設時)　施工数量：　32本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼打込み	平均打込長　18.7m	本	1	
H形鋼引抜き	平均引抜長　18.7m	本	1	
ガス切断	鋼材規格	箇所	1	
H形鋼杭賃料	H-300×300×10×25×19000	本	1	

H鋼杭(4)数量表 P1～P2(床版パネル架設時)　施工数量：　16本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼打込み	平均打込長　18.7m	本	1	
H形鋼引抜き	平均引抜長　18.7m	本	1	
ガス切断	鋼材規格	箇所	1	
H形鋼杭賃料	H-300×300×10×25×19000	本	1	

H鋼杭(5)数量表 P1～P2(床版パネル架設時)　施工数量：　16本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼引抜き	平均引抜長　17.2m	本	1	
ガス切断	鋼材規格	箇所	1	
H形鋼杭賃料	H-300×300×10×25×17500	本	1	

※JR発注工事より引継ぎ

H鋼杭(6)数量表 P3付近(上部構造･床版パネル架設時)　施工数量：　445本　1本当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
H形鋼引抜き	平均引抜長　10.7m	本	1	
H形鋼杭賃料	H-400×400×13×21×11000	本	1	

※JR発注工事より引継ぎ

覆工板･覆工板受桁(1)数量表　A1～P1(上部構造架設時)　16m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	設置撤去	m2	16	
賃料	1000×208×2000	m2	16	
HTB	M22×65	組	192	
溝形鋼	SS400　9×300×90	t	1.216	

覆工板･覆工板受桁(2)数量表　A1～P1(床版パネル架設時)　8m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	設置撤去	m2	8	
賃料	1000×208×2000	m2	8	
HTB	M22×65	組	96	
溝形鋼	SS400　9×300×90	t	0.608	

覆工板･覆工板受桁(3)数量表　P1～P2(上部構造架設時)　16m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	設置撤去	m2	16	
賃料	1000×208×2000	m2	16	
HTB	M22×65	組	192	
溝形鋼	SS400　9×300×90	t	1.216	

覆工板･覆工板受桁(4)数量表　P1～P2(床版パネル架設時)　8m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	設置撤去	m2	8	
賃料	1000×208×2000	m2	8	
HTB	M22×65	組	96	
溝形鋼	SS400　9×300×90	t	0.608	

覆工板･覆工板受桁(5)数量表P1～P2(床版パネル架設時)　施工数量：8m2　1m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	撤去	m2	1	
賃料	1000×208×2000	m2	1	

※JR発注工事より引継ぎ

覆工板･覆工板受桁(6)数量表P3(上部構造･床版パネル架設時)　施工数量：532m2　1m2当り

名称	規格・寸法	単位	数量	摘要
覆工板	撤去	m2	1	
賃料	1000×208×2000	m2	1	

※JR発注工事より引継ぎ

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋作業ヤード数量表		
縮尺	―	図面番号	178 の 169
年月日	令和　7　年　8　月　　日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鋼材数量表(1)

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体							付属物			総計
				国交省						本体計	国交省		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
PL	SMA570W-H	50＜t≦75	55	3,963					3,963	3,963				3,963
			54	4,194					4,194	4,194				4,194
			50＜t≦60小計	8,157					8,157	8,157				8,157
		38＜t≦50	50	3,883					3,883	3,883				3,883
			49	2,843					2,843	2,843				2,843
			45＜t≦50小計	6,726					6,726	6,726				6,726
			45	6,669					6,669	6,669				6,669
			41	3,283					3,283	3,283				3,283
			40＜t≦45小計	9,952					9,952	9,952				9,952
		PL 計		24,835					24,835	24,835				24,835
	SMA570W	20＜t≦38	25	1,495					1,495	1,495				1,495
			t≦25 小計	1,495					1,495	1,495				1,495
		6≦t≦20	15	10,489					10,489	10,489				10,489
			t≦25 小計	10,489					10,489	10,489				10,489
		PL 計		11,984					11,984	11,984				11,984
	SM570	20＜t≦38	38	1,144		2,216			3,360	3,360				3,360
			35＜t≦40 小計	1,144		2,216			3,360	3,360				3,360
			25			3,018			3,018	3,018				3,018
			t≦25 小計			3,018			3,018	3,018				3,018
		6≦t≦20	19			1,248			1,248	1,248				1,248
			t≦25 小計			1,248			1,248	1,248				1,248
		PL SM570計		1,144		6,482			7,626	7,626				7,626
	SMA490CW-H	38＜t≦50	46	3315					3,315	3,315				3,315
			45＜t≦50 小計	3,315					3,315	3,315				3,315
			44	5,777					5,777	5,777				5,777
			41	4,522					4,522	4,522				4,522
			40＜t≦45 小計	10,299					10,299	10,299				10,299
		PL 計		13,614					13,614	13,614				13,614
	SMA490BW	38＜t≦50	39	10,013					10,013	10,013				10,013
			35＜t≦40 小計	10,013					10,013	10,013				10,013
		25＜t≦38	38	1,952					1,952	1,952				1,952
			37	6,219					6,219	6,219				6,219
			35＜t≦40 小計	8,171					8,171	8,171				8,171
			35	10,345					10,345	10,345				10,345
			34	1,964					1,964	1,964				1,964
			32	8,376	137				8,513	8,513				8,513
			31	20,559					20,559	20,559				20,559
			30＜t≦35 小計	41,244	137				41,381	41,381				41,381
			30	6,229	762				6,991	6,991				6,991
			29	5,836	96				5,932	5,932				5,932
			28		92				92	92				92
			27	12,972	548				13,520	13,520				13,520
			26	30,545	382				30,927	30,927				30,927
			25＜t≦30 小計	55,582	1,880				57,462	57,462				57,462
		6＜t≦25	25	1,241	1,094				2,335	2,335				2,335
			24		190				190	190				190
			23	992	1,718				2,710	2,710				2,710
			22	3,058	89				3,147	3,147				3,147
			21		966				966	966				966
			20	3,695	828				4,523	4,523				4,523
			19	20,160	1,070				21,230	21,230				21,230
			18		701				701	701				701
			17		402				402	402				402
			t≦25 小計	29,146	7,058				36,204	36,204				36,204
		PL SMA490BW計		144,156	9,075				153,231	153,231				153,231

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体						付属物			総計
				国交省					本体計	国交省		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
PL	SMA490AW	6＜t≦50	16	562	956				1,518	1,518				1,518
			15		1,789				1,789	1,789				1,789
			14	29,945	257				30,202	30,202				30,202
			13	81,700	864				82,564	82,564				82,564
			12		597				597	597				597
			12≦t≦25 小計	112,207	4,463				116,670	116,670				116,670
			9		9,978				9,978	9,978				9,978
			6＜t≦12 小計		9,978				9,978	9,978				9,978
		PL SMA490AW計		112,207	14,441				126,648	126,648				126,648
	SM490YB	t≦25	20	536		1,320			1,856	1,856				1,856
			6＜t≦25 小計	536		1,320			1,856	1,856				1,856
		PL SM490YB計		536		1,320			1,856	1,856				1,856
	SM490YA	t≦25	15			608			608	608				608
			12			1992			1,992	1,992				1,992
			12≦t≦25 小計			2,600			2,600	2,600				2,600
			9			728			728	728				728
			6＜t≦12 小計			728			728	728				728
		PL SM490YA計				3,328			3,328	3,328				3,328
	SMA400CW-H	50＜t≦100	70	1,098					1,098	1,098				1,098
			60＜t≦70 小計	1,098					1,098	1,098				1,098
		38＜t≦50	46	792					792	792				792
			45＜t≦50 小計	792					792	792				792
		PL SMA400CW-H計		1,890					1,890	1,890				1,890
	SMA400AW	6≦t≦38	25		85				85	85				85
			24	3,270	77				3,347	3,347				3,347
			23		51				51	51				51
			22		64				64	64				64
			18		59				59	59				59
			17			5,320			5,320	5,320				5,320
			15		28				28	28				28
			14		73				73	73				73
			13	7,999	113	2,700			10,812	10,812				10,812
			12	6,842	69				6,911	6,911				6,911
			12≦t≦25 小計	18,111	619	8,020			26,750	26,750				26,750
			11		61				61	61				61
			10	72	32				104	104				104
			9	1,064	128	912			2,104	2,104	1,786		1,786	3,890
			8		98				98	98				98
			6＜t≦12 小計	1,136	319	912			2,367	2,367	1,786		1,786	4,153
			6(W＜100)	12			14		26	26				26
			6(100≦W＜400)		76		106		182	182				182
			6(400≦W＜700)	78					78	78				78
			4.5＜t≦6 小計	90	76		120		286	286				286
		PL SMA400AW計		19,337	1,014	8,932	120		29,403	29,403	1,786		1,786	31,189

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	鋼材数量表(1)
縮尺	—
図面番号	178 の 170
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

鋼材数量表(2)

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体							付属物			総計
				国交省						本体計	国交省		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
PL	SM400A	t≦38	16									238	238	238
			12								2,016	302	2,318	2,318
			12≦t≦25 小計								2,016	540	2,556	2,556
			9			128			128	128	480	139	619	747
			6＜t≦12 小計			128			128	128	480	139	619	747
			6(W＜100)				10		10	10		5	5	15
			6(100≦W＜400)				172		172	172		9	9	181
			4.5＜t≦6 小計				182		182	182		14	14	196
			4.5(W＜100)									1	1	1
			4.5(100≦W＜400)									1	1	1
			t=4.5 小計									2	2	2
			3.2(W＜100)									1	1	1
			t=3.2 小計									1	1	1
		PL SM400A計				128	182		310	310	2,496	696	3,192	3,502
	SS400		10			724			724	724				724
			6＜t≦12 小計			724			724	724				724
			6(W＜100)				16		16	16				16
			6(100≦W＜400)				1,027	98	1,125	1,125				1,125
			4.5＜t≦6 小計				1,043	98	1,141	1,141				1,141
			4.5(W＜100)									11	11	11
			t=4.5 小計									11	11	11
			3.2(W＜100)								1,306	105	1,411	1,411
			t=3.2 小計								1,306	105	1,411	1,411
		PL SS400計				724	1,043	98	1,865	1,865	1,306	116	1,422	3,287
	SPA-H	1.6≦t≦16	4.5		72				72	72				72
			t=4.5 小計		72				72	72				72
			3.2		18				18	18				18
			t=3.2 小計		18				18	18				18
		PL SPA-H計			90				90	90				90
FB	SS400		90×9								1,106	185	1,291	1,291
			90×6								48	55	103	103
			50×6				9		9	9		2	2	11
			50×4.5									18	18	18
			25×4.5									1	1	1
			FB 小計				9		9	9	1,154	261	1,415	1,424
L	SS400		75×75×6								396	30	426	426
			65×65×6								3,984	351	4,335	4,335
			50×50×6								932	138	1,070	1,070
			L 小計								5,312	519	5,831	5,831
H	SMA400AW		700×300×13×24			27,398			27,398	27,398				27,398
			H SMA400AW 小計			27,398			27,398	27,398				27,398
	SS400		175×175×7.5×11									434	434	434
			H SS400 小計									434	434	434
CH	SS400		150×75×6.5×10								11,218		11,218	11,218
			125×65×6×8									18	18	18
			100×50×5×7.5									895	895	895
			CH 小計								11,218	913	12,131	12,131
PIPE	STK400		42.7×2.3								2,150	112	2,262	2,262
			39.9×2.3									2	2	2
			34×2.3									34	34	34
			21.7×1.9								1,084	93	1,177	1,177
			PIPE 小計								3,234	241	3,475	3,475

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体							付属物			総計
				国交省						本体計	国交省		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
RB	SMA400AW	t≦38	16Φ								76		76	76
			RB SMA400AW 小計								76		76	76
	SS400		22Φ								112	26	138	138
			16Φ									1	1	1
			13Φ									1	1	1
			RB SS400 小計								112	28	140	140
CHPL	SS400		890×3.2									74	74	74
			642×3.2								5,148		5,148	5,148
			640×3.2									686	686	686
			555×3.2									9	9	9
			CHPL 小計								5,148	769	5,917	5,917
加工鋼重計				329,703	24,620	48,312	1,354	98	404,087	404,087	31,842	3,977	35,819	439,906
STUD	SS400		φ22×150	4,202					4,202	4,202				4,202
			φ19×100	55		114			169	169				169
			STUD(SS400) 小計	4,257		114			4,371	4,371				4,371
TCB	S10T		M22			1,400			1,400	1,400				1,400
			TCB(S10T) 小計			1,400			1,400	1,400				1,400
TCB	S10TW		M22		9,539	2,584			12,123	12,123				12,123
			TCB(S10TW) 小計		9,539	2,584			12,123	12,123				12,123
BN	SS400		M16								306	45	351	351
			M12				262	14	276	276		3	3	279
			M10								260	42	302	302
			BN(SS400) 小計				262	14	276	276	566	90	656	932
UB	SS400		M10(32C)								124	14	138	138
			M10(15C)								88	14	102	102
			UB(SS400) 小計								212	28	240	240
WPIN	SWRM8		φ5×36									1	1	1
			WPIN(SWRM8) 小計									1	1	1
AN	SS400		16×125								40	82	122	122
			AN 小計								40	82	122	122
購入部品計				4,257	9,539	4,098	262	14	18,170	18,170	818	201	1,019	19,189
合計				333,960	34,159	52,410	1,616	112	422,257	422,257	32,660	4,178	36,838	459,095

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	鋼材数量表(2)
縮尺	—
図面番号	178 の 171
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

鋼材数量表(3)

ボルト本数集計表（製作）　　（単位：組）

材質	形状	寸法	本体							付属物			総計
			国交省						本体 計	国交省		付属物計	
			主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
TCB	S10T	M22 × 85			992			992	992				992
		M22 × 120			560			560	560				560
		M22 × 125			672			672	672				672
	S10T 計				2,224			2,224	2,224				2,224
	S10TW	M22 × 70		9,216				9,216	9,216				9,216
		M22 × 80		444				444	444				444
		M22 × 85		444				444	444				444
		M22 × 90		380				380	380				380
		M22 × 95		884	4,256			5,140	5,140				5,140
		M22 × 100		1,196				1,196	1,196				1,196
		M22 × 105		256				256	256				256
		M22 × 110		860				860	860				860
		M22 × 115		304				304	304				304
		M22 × 120		696				696	696				696
		M22 × 125		340				340	340				340
		M22 × 130		252				252	252				252
		M22 × 135		560				560	560				560
		M22 × 140		352				352	352				352
		M22 × 145		144				144	144				144
		M22 × 150		160				160	160				160
		M22 × 160		92				92	92				92
	S10TW 計			16,580	4,256			20,836	20,836				20,836
TCB 計				16,580	6,480			23,060	23,060				23,060
BN	SS400	M10 × 30(1W,1TW)									469	469	469
		M10 × 30(2W)									6	6	6
		M10 × 35(1W,1TW)								1,696		1,696	1,696
		M10 × 35(2W)								2,896	188	3,084	3,084
		M12 × 35(2W,1UN)				759		759	759				759
		M12 × 40(2W,1UN)				99		99	99		38	38	137
		M12 × 45					112	112	112				112
		M16 × 40(2W)									6	6	6
		M16 × 45(2W)								168	188	356	356
		M16 × 50(2W)								1,696	74	1,770	1,770
BN 計						858	112	970	970	6,456	969	7,425	8,395
STUD	SS400	Φ19 × 100	208		416			624	624				624
		Φ22 × 150	8,300					8,300	8,300				8,300
STUD 計			8,508		416			8,924	8,924				8,924
UB	SS400	M10(15C)								848	94	942	942
		M10(32C)								744	47	791	791
UB 計										1,592	141	1,733	1,733
WPIN	SWRM8	Φ5 × 36									4	4	4
WPIN 計											4	4	4
AN	SS400	12 × 100				154	28	182	182				182
		16 × 125								104	222	326	326
AN 計						154	28	182	182	104	222	326	508
合　　計			8,508	16,580	6,896	1,012	140	33,136	33,136	8,152	1,336	9,488	42,624

工数算定要素集計表

集計要素				単位	本体			付属物		合計
					橋体	上部構造排水	下部構造排水			
本体及び本体付付属物	下記以外	大型材片	材片数	ヶ	200	－	－	－	－	200
			材片重量 *1	kg	313,025	－	－	－	－	313,025
		小型材片	材片数	ヶ	2,800	－	－	－	－	2,800
			材片重量 *2	kg	89,610	1,354	98	－	－	91,062
		部材数	*5	ヶ	96	－	－	－	－	96
	対傾構横構	加工鋼重	*3	kg	－	－	－	－	－	
		部材数	形鋼ﾄﾗｽ構造 *6	ヶ	－	－	－	－	－	
			鋼板ﾄﾗｽ構造 *7	ヶ	－	－	－	－	－	
		加工鋼重	*4	kg	－	－	－	－	－	
		部材数	形鋼構造 *8	ヶ	－	－	－	－	－	
			鋼板構造 *9	ヶ	－	－	－	－	－	
	加工鋼重		*1++2+*3+*4 計	kg	402,635	1,354	98	－	－	404,087
			内570材相当鋼加工鋼重	kg	44,445	－	－	－	－	44,445
	部材数		*5+*6+*7+*8+*9	ヶ	96	－	－	－	－	96
	板継溶接延長			m	－	－	－	－	－	0
	大型材Ｔ継手溶接長			m	1,958	－	－	－	－	1,958
構造要素			平均支間長	mm	56,750	－	－	－	－	56,750
			主桁間隔	mm	4,600	－	－	－	－	4,600
			主桁高	mm	2,500	－	－	－	－	2,500

付属物要素集計表

項目	単位	数　量	摘　要
上部工検査路	kg	31,842	
下部工検査路	kg	3,977	
付属物計	kg	35,819	

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	鋼材数量表(3)		
縮　尺	—	図面番号	178 の 172
年月日	令和　7　年　8　月　　日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鋼材数量表(4)

メッキ重量集計表(検査路)　(単位：kg)

材質	形状	寸法	本体工 上部構造排水	本体工 下部構造排水	本体工 本体計	付属物 上部構造検査路	付属物 下部構造検査路	付属物 本体計	総計	規格
SM400A	ＰＬ	16					238	238	238	HDZT77
		12				2,016	302	2,318	2,318	
		9				480	139	619	619	
		6					14	14	14	
SS400	FB	90×9				1,106	185	1,291	1,291	
		90×6				48	55	103	103	
		50×6					2	2	2	
	L	75×75×6				396	30	426	426	
		65×65×6				3,984	351	4,335	4,335	
		50×50×6				932	138	1,070	1,070	
	H	175×175×7.5					434	434	434	
	CH	150×75×6.5				11,218		11,218	11,218	
		125×65×6×8					18	18	18	
		100×50×5					895	895	895	
	RB	22Φ				112	26	138	138	
		16Φ					1	1	1	
		13Φ					1	1	1	
HDZT77重計						20,292	2,829	23,121	23,121	
SM400A	ＰＬ	4.5					2	2	2	HDZT63
		3.2					1	1	1	
SS400	ＰＬ	4.5					11	11	11	
		3.2				1,306	105	1,411	1,411	
	FB	50×4.5					18	18	18	
		20×4.5					1	1	1	
	CHPL	890×3.2					74	74	74	
		642×3.2				5,148		5,148	5,148	
		640×3.2					686	686	686	
		555×3.2					9	9	9	
HDZT63重計						6,454	907	7,361	7,361	
SS400	BN	M16				306	45	351	351	HDZT49
		M12					3	3	3	
		M10				260	42	302	302	
	UB	M10(32C)				124	14	138	138	
		M10(15C)				88	14	102	102	
	AN	16×125				40	82	122	122	
SWRM8	WPIN	φ5×36					1	1	1	
STK400	PIPE	42.7×2.3				2,150	112	2,262	2,262	
		39.9×2.3					2	2	2	
		34×2.3					34	34	34	
		21.7×1.9				1,084	93	1,177	1,177	
HDZT49重計						4,052	442	4,494	4,494	
合計						30,798	4,178	34,976	34,976	

メッキ重量集計表　(単位：t)

規格	数量 検査路	数量 排水装置	数量 計	摘要
HDZT77	23.121		23.121	
HDZT77		1.346	1.346	
HDZT63	7.361		7.361	
HDZT49	4.494	0.402	4.896	
計	34.976	1.748	36.724	

塗装系別集計表

項目		単位	数量	摘要
工場塗装	一般部外面	m2	122.87	
	ボルト外面	m2	93.59	
	コンクリート接触面	m2	482.90	
	添接部接触面	m2	638.86	
	ブラスト	m2	7,146.68	
	無機ジンクリッチ	m2	95.08	

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	鋼材数量表(4)
縮尺	—
図面番号	178 の 173
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

鋼材数量表(5)

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体							付属物			総計
				JR						本体計	JR		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
PL	SMA570W-H	50＜t≦75	62	4,352					4,352	4,352				4,352
			60＜t≦70小計	4,352					4,352	4,352				4,352
			59	4,465					4,465	4,465				4,465
			55	7,241					7,241	7,241				7,241
			50＜t≦60小計	11,706					11,706	11,706				11,706
		38＜t≦50	45	16,232					16,232	16,232				16,232
			43	6,754					6,754	6,754				6,754
			42	3,256					3,256	3,256				3,256
			40＜t≦45小計	26,242					26,242	26,242				26,242
		PL 計		42,300					42,300	42,300				42,300
	SMA570W	20＜t≦38	38	2,984					2,984	2,984				2,984
			35＜t≦40 小計	2,984					2,984	2,984				2,984
			33	1,937					1,937	1,937				1,937
			30＜t≦35 小計	1,937					1,937	1,937				1,937
			28	1,622					1,622	1,622				1,622
			25＜t≦30 小計	1,622					1,622	1,622				1,622
		6≦t≦20	19	1,115					1,115	1,115				1,115
			15	20,670					20,670	20,670				20,670
			t≦25 小計	21,785					21,785	21,785				21,785
		PL 計		28,328					28,328	28,328				28,328
	SM570	20＜t≦38	38	2,288		4,432			6,720	6,720				6,720
			35＜t≦40 小計	2,288		4,432			6,720	6,720				6,720
			25			6,036			6,036	6,036				6,036
			t≦25 小計			6,036			6,036	6,036				6,036
		6≦t≦20	19			2,496			2,496	2,496				2,496
			t≦25 小計			2,496			2,496	2,496				2,496
		PL SM570計		2,288		12,964			15,252	15,252				15,252
	SMA490CW-H	38＜t≦50	49	2,839					2,839	2,839				2,839
			47	2,766					2,766	2,766				2,766
			45＜t≦50 小計	5,605					5,605	5,605				5,605
		PL 計		5,605					5,605	5,605				5,605
	SMA490BW	25＜t≦38	37	3,731					3,731	3,731				3,731
			35＜t≦40 小計	3,731					3,731	3,731				3,731
			35	5,568	138				5,706	5,706				5,706
			33		130				130	130				130
			32	1,842					1,842	1,842				1,842
			31	7,456					7,456	7,456				7,456
			30＜t≦35 小計	14,866	268				15,134	15,134				15,134
			29		129				129	129				129
			27		516				516	516				516
			26	15,266	382				15,648	15,648				15,648
			25＜t≦30 小計	15,266	1,027				16,293	16,293				16,293
		6＜t≦25	25	189					189	189				189
			23	987					987	987				987
			22	4,282					4,282	4,282				4,282
			21		233				233	233				233
			20		372				372	372				372
			19	8,993	275				9,268	9,268				9,268
			18		269				269	269				269
			17		82				82	82				82
			t≦25 小計	14,451	1,231				15,682	15,682				15,682
		PL SMA490BW計		48,314	2,526				50,840	50,840				50,840

鋼材重量集計表　　(単位：kg)

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体						付属物			総計
				JR					本体計	JR		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水		上部工検査路	下部工検査路		
PL	SMA490AW	6＜t≦50	16	1,125	214				1,339	1,339				1,339
			15		1,227				1,227	1,227				1,227
			14	14,486	76				14,562	14,562				14,562
			13	22,875	396				23,271	23,271				23,271
			12		192				192	192				192
			12≦t≦25 小計	38,486	2,105				40,591	40,591				40,591
			9		3,691				3,691	3,691				3,691
			6＜t≦12 小計		3,691				3,691	3,691				3,691
		PL SMA490AW計		38,486	5,796				44,282	44,282				44,282
	SMA400CW-H	50＜t≦100	70	1,098					1,098	1,098				1,098
			67	1,050					1,050	1,050				1,050
			60＜t≦70 小計	2,148					2,148	2,148				2,148
		PL SMA400CW-H計		2,148					2,148	2,148				2,148
	SMA400AW	6≦t≦38	25		49				49	49				49
			24	1,721					1,721	1,721				1,721
			23		43				43	43				43
			22		30				30	30				30
			21		39				39	39				39
			20		39				39	39				39
			17			2,800			2,800	2,800				2,800
			16		18				18	18				18
			15		17				17	17				17
			14		17				17	17				17
			13	4,030		1,400			5,430	5,430				5,430
			12	2,898					2,898	2,898				2,898
			12≦t≦25 小計	8,649	252	4,200			13,101	13,101				13,101
			11		20				20	20				20
			10		36				36	36				36
			9	465	34	480			979	979	940		940	1,919
			8		65				65	65				65
			6＜t≦12 小計	465	155	480			1,100	1,100	940		940	2,040
			6(W＜100)				6		6	6				6
			6(100≦W＜400)		30		55		85	85				85
			4.5＜t≦6 小計		30		61		91	91				91
		PL SMA400AW計		9,114	437	4,680	61		14,292	14,292	940		940	15,232
	SM400A	t≦38	16									281	281	281
			12								880	424	1,304	1,304
			12≦t≦25 小計								880	705	1,585	1,585
			9								348	168	516	516
			6＜t≦12 小計								348	168	516	516
			6(W＜100)				6		6	6				6
			6(100≦W＜400)				69		69	69				69
			4.5＜t≦6 小計				75		75	75				75
		PL SM400A計					75		75	75	1,228	873	2,101	2,176

注記
1. JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	鋼材数量表(5)
縮尺	—
図面番号	178 の 174
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

鋼材数量表(6)

鋼材重量集計表　　（単位：kg）

形状	材質		厚みｴｷｽﾄﾗ	本体							付属物			総計
				JR						本体計	JR		付属物計	
				主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
	SS400		10			648			648	648				648
			6＜t≦12 小計			648			648	648				648
			6(100≦W＜400)				522	49	571	571				571
			4.5<t≦6 小計				522	49	571	571				571
			3.2(W＜100)								572	138	710	710
			t=3.2 小計								572	138	710	710
		PL SS400計				648	522	49	1,219	1,219	572	138	710	1,929
	SPA-H	1.6≦t≦16	5		17				17	17				17
			4.5<t≦6 小計		17				17	17				17
			3.2		8				8	8				8
			t=3.2 小計		8				8	8				8
		PL SPA-H計			25				25	25				25
FB	SS400		90×9								500	232	732	732
			90×6								48	48	96	96
			50×6				9		9	9				9
			FB 小計				9		9	9	548	280	828	837
L	SS400		75×75×6								198	40	238	238
			65×65×6								1,778	448	2,226	2,226
			50×50×6								476	144	620	620
			L 小計								2,452	632	3,084	3,084
H	SMA400AW		700×300×13×24			14,420			14,420	14,420				14,420
			H SMA400AW 小計			14,420			14,420	14,420				14,420
	SS400		175×175×7.5×11									403	403	403
			H SS400 小計									403	403	403
CH	SS400		150×75×6.5×10								4,908		4,908	4,908
			100×50×5×7.5									1,188	1,188	1,188
			CH 小計								4,908	1,188	6,096	6,096
PIPE	STK400		42.7×2.3								939	147	1,086	1,086
			21.7×1.9								470	118	588	588
			PIPE 小計								1,409	265	1,674	1,674
RB	SMA400AW	t≦38	16Φ								40		40	40
			RB SMA400AW 小計								40		40	40
	SS400		22Φ								104	16	120	120
			RB SS400 小計								104	16	120	120
CHPL	SS400		642×3.2								2,254		2,254	2,254
			640×3.2									1,006	1,006	1,006
			CHPL 小計								2,254	1,006	3,260	3,260
加工鋼重計				176,583	8,784	32,712	667	49	218,795	218,795	14,455	4,801	19,256	238,051
STUD	SS400		φ22×150	2,427					2,427	2,427				2,427
			φ19×100	26		52			78	78				78
			STUD(SS400) 小計	2,453		52			2,505	2,505				2,505
TCB	S10T		M22			1,680			1,680	1,680				1,680
			TCB(S10T) 小計			1,680			1,680	1,680				1,680
TCB	S10TW		M22		3,400	1,360			4,760	4,760				4,760
			TCB(S10TW) 小計		3,400	1,360			4,760	4,760				4,760
BN	SS400		M16								144	53	197	197
			M12				106	7	113	113				113
			M10×35								124	54	178	178
			BN(SS400) 小計				106	7	113	113	268	107	375	488
UB	SS400		M10(32C)								58	16	74	74
			M10(15C)								44	16	60	60
			UB(SS400) 小計								102	32	134	134
AN	SS400		16×125								40	58	98	98
			AN 小計								40	58	98	98
購入部品計				2,453	3,400	3,092	106	7	9,058	9,058	410	197	607	9,665
合計				179,036	12,184	35,804	773	56	227,853	227,853	14,865	4,998	19,863	247,716

注記
1.JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

(指定部分)

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	鋼材数量表(6)		
縮尺	—	図面番号	178 の 175
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

鋼材数量表(7)

ボルト本数集計表（製作）【国道６号千代田石岡BP東田中高架橋上部工事】　（単位：組）

材質	形状	寸法	本体							付属物			総計
			JR						本体 計	JR		付属物計	
			主桁	主桁添接	横桁	上部構造排水	下部構造排水	小計		上部工検査路	下部工検査路		
TCB	S10T	M22 × 120			1,120			1,120	1,120				1,120
		M22 × 125			1,344			1,344	1,344				1,344
	S10T 計				2,464			2,464	2,464				2,464
	S10TW	M22 × 70		3,408				3,408	3,408				3,408
		M22 × 80		240				240	240				240
		M22 × 85		192				192	192				192
		M22 × 90		96				96	96				96
		M22 × 95		316	2,240			2,556	2,556				2,556
		M22 × 100		560				560	560				560
		M22 × 105		128				128	128				128
		M22 × 110		80				80	80				80
		M22 × 115		216				216	216				216
		M22 × 120		320				320	320				320
		M22 × 145		160				160	160				160
		M22 × 150		244				244	244				244
		M22 × 165		84				84	84				84
	S10TW 計			6,044	2,240			8,284	8,284				8,284
TCB 計				6,044	4,704			10,748	10,748				10,748
BN	SS400	M10 × 30(1W,1TW)									639	639	639
		M10 × 35(1W,1TW)								1,304		1,304	1,304
		M10 × 35(2W)								752	240	992	992
		M12 × 35(2W,1UN)				356		356	356				356
		M12 × 40(2W,1UN)				40		40	40				40
		M12 × 45					56	56	56				56
		M16 × 45(2W)								96	240	336	336
		M16 × 50(2W)								752	84	836	836
BN 計						396	56	452	452	2,904	1,203	4,107	4,559
STUD	SS400	Φ19 × 100	96		192			288	288				288
		Φ22 × 150	4,798					4,798	4,798				4,798
STUD 計			4,894		192			5,086	5,086				5,086
UB	SS400	M10(15C)								376	120	496	496
		M10(32C)								332	60	392	392
UB 計										708	180	888	888
AN	SS400	12 × 100				64	14	78	78				78
		16 × 125								104	150	254	254
AN 計						64	14	78	78	104	150	254	332
合　　計			4,894	6,044	4,896	460	70	16,364	16,364	3,716	1,533	5,249	21,613

工数算定要素集計表

集計要素				単位	本体			付属物		合計
					橋体	上部構造排水	下部構造排水			
本体及び本体付付属物	下記以外	大型材片	材片数	ヶ	95	－	－	－	－	95
			材片重量 ＊1	kg	159,922	－	－	－	－	159,922
		小型材片	材片数	ヶ	1,434	－	－	－	－	1,434
			材片重量 ＊2	kg	58,157	667	49	－	－	58,873
		部材数 ＊5		ヶ	45	－	－	－	－	45
	対傾構横構	加工鋼重 ＊3		kg	－	－	－	－	－	
		部材数	形鋼トラス構造 ＊6	ヶ	－	－	－	－	－	
			鋼板トラス構造 ＊7	ヶ	－	－	－	－	－	
		加工鋼重 ＊4		kg	－	－	－	－	－	
		部材数	形鋼構造 ＊8	ヶ	－	－	－	－	－	
			鋼板構造 ＊9	ヶ	－	－	－	－	－	
	加工鋼重		＊1+＊2+＊3+＊4 計		kg	218,079	667	49	－	－	218,795
			内570材相当鋼加工鋼重		kg	85,880	－	－	－	－	85,880
	部材数 ＊5+＊6+＊7+＊8+＊9				ヶ	45	－	－	－	－	45
	板継溶接延長				m	－	－	－	－	－	0
	大型材Ｔ継手溶接長				m	909	－	－	－	－	909
構造要素			平均支間長		mm	56,750	－	－	－	－	56,750
			主桁間隔		mm	4,600	－	－	－	－	4,600
			主桁高		mm	2,500	－	－	－	－	2,500

付属物要素集計表

項目	単位	数量	摘要
上部工検査路	kg	14,455	
下部工検査路	kg	4,801	
付属物計	kg	19,256	

メッキ重量集計表(検査路)　（単位：kg）

材質	形状	寸法	本体工			付属物			総計	規格
			上部構造排水	下部構造排水	本体計	上部構造検査路	下部構造検査路	本体計		
ＳＭ400	ＡＰＬ	16					281	281	281	HDZT77
		12				880	424	1,304	1,304	
		9				348	168	516	516	
SS400	FB	90×9				500	232	732	732	
		90×6				48	48	96	96	
	L	75×75×6				198	40	238	238	
		65×65×6				1,778	448	2,226	2,226	
		50×50×6				476	144	620	620	
	H	175×175×7.5					403	403	403	
	CH	150×75×6.5				4,908		4,908	4,908	
		100×50×5					1,188	1,188	1,188	
	RB	22Φ				104	16	120	120	
HDZT77重計						9,240	3,392	12,632	12,632	
SS400	ＰＬ	3.2				572	138	710	710	HDZT63
	CHPL	642×3.2				2,254		2,254	2,254	
		640×3.2					1,006	1,006	1,006	
		555×3.2								
HDZT63重計						2,826	1,144	3,970	3,970	
SS400	BN	M16				144	53	197	197	HDZT49
		M10				124	54	178	178	
	UB	M10(32C)				58	16	74	74	
		M10(15C)				44	16	60	60	
	AN	16×125				40	58	98	98	
STK400	PIPE	42.7×2.3				939	147	1,086	1,086	
		21.7×1.9				470	118	588	588	
HDZT49重計						1,819	462	2,281	2,281	
合計						13,885	4,998	18,883	18,883	

メッキ重量集計表　（単位：t）

規格	数量			摘要
	検査路	排水装置	計	
HDZT77	12.632		12.632	
HDZT77		0.606	0.606	
HDZT63	3.970		3.970	
HDZT49	2.281	0.084	2.365	
計	18.883	0.690	19.573	

塗装系別集計表

項目		単位	数量	摘要
工場塗装	ボルト外面	m2	37.63	
	コンクリート接触面	m2	270.73	
	添接部接触面	m2	274.67	
	ブラスト	m2	3,552.75	
	無機ジンクリッチ	m2	72.78	

注記
1.JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

(指定部分)

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	鋼材数量表(7)		
縮尺	—	図面番号	178 の 176
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

工事数量総括表(1)

数量総括表

工事区分･工種･種別･細別	規格	単位	数量			摘要
			【国交省】	【JR】	計	
鋼橋上部		式	1	1	1	
工場製作工		式	1		1	
桁製作工		式	1		1	
製作加工		t	404		404	
桁製作工(指定部分)		式		1	1	
製作加工		t		218.7	218.7	
検査路製作工	上部工検査路	式	1		1	
製作加工		t	31.8		31.8	
検査路製作工(指定部分)	上部工検査路	式		1	1	
製作加工		t		14.4	14.4	
検査路製作工	下部工検査路	式	1		1	
製作加工		t	3.9		3.9	
検査路製作工(指定部分)	下部工検査路	式		1	1	
製作加工		t		4.8	4.8	
ボルト・ナット工		式	1		1	
ボルト・ナット	高力ボルト、普通ボルト、スタッドジベル等	式	1		1	
ボルト・ナット工(指定部分)		式		1	1	
ボルト・ナット	高力ボルト、普通ボルト、スタッドジベル等	式		1	1	
鋳造費		式	1		1	
大型ゴム支承(1)	橋軸方向：可動 橋軸直角方向：固定 2287KN	個	6		6	
大型ゴム支承(2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個	3		3	
鋳造費(指定部分)		式		1	1	
大型ゴム支承(2)	橋軸方向：固定 橋軸直角方向：固定 6086KN	個		6	6	
工場塗装工		式	1		1	
一般部外面	C-5塗装	m2	120		120	
高力ボルト連結部外面	F-11塗装	m2	93		93	
コンクリート接触面	無機ジンクリッチ	m2	480		480	
添接部接触面	無機ジンクリッチ	m2	630		630	
ブラスト		m2	7140		7140	
無機ジンクリッチ		m2	95		95	
メッキ(1)	HDZT77(検査路)	t	23.1		23.1	
メッキ(2)	HDZT77(排水装置)	t	1.3		1.3	
メッキ(3)	HDZT63(検査路)	t	7.3		7.3	
メッキ(4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t	4.8		4.8	
工場塗装工(指定部分)		式		1	1	
高力ボルト連結部外面	F-11塗装	m2		37	37	
コンクリート接触面	無機ジンクリッチ	m2		270	270	
添接部接触面	無機ジンクリッチ	m2		270	270	
ブラスト		m2		3550	3550	
無機ジンクリッチ		m2		72	72	
メッキ(1)	HDZT77(検査路)	t		12.6	12.6	
メッキ(2)	HDZT77(排水装置)	t		0.6	0.6	
メッキ(3)	HDZT63(検査路)	t		3.9	3.9	
メッキ(4)	HDZT49(検査路･排水装置)	t		2.3	2.3	
工場製品輸送工		式	1		1	
輸送工		式	1		1	
輸送		t	487.1		487.1	
工場製品輸送工(指定部分)		式		1	1	
輸送工		式		1	1	
輸送		t		289.8	289.8	
鋼橋架設工		式	1		1	
地組工		式	1		1	
地組		式	1		1	
架設工(クレーン架設)		式	1		1	
ベント設備		式	1		1	
ベント基礎		式	1		1	
桁架設(1)	連続合成少数鈑桁	式	1		1	
桁架設(2)【夜間】	連続合成少数鈑桁	式	1		1	
アンカーボルト設置		本	326		326	

数量総括表

工事区分･工種･種別･細別	規格	単位	数量			摘要
			【国交省】	【JR】	計	
支承工		式	1		1	
大型ゴム支承設置	高面圧ゴム支承	個	9		9	
現場継手工		式	1		1	
本締めボルト		本	23060		23060	
床版工		式	1		1	
合成床版工		式	1		1	
床版架設(1)		m2	1651		1651	
床版架設(2)【夜間】		m2	374		374	
鉄筋	SD345 D16～25	式	1		1	
コンクリート	σck=30N/mm2	式	1		1	
床版工(指定部分)		式		1	1	
合成床版工		式		1	1	
合成床板材料費【JR工事支給】		m2		859	859	
橋梁付属物工		式	1		1	
伸縮装置工		式	1		1	
鋼･ゴム製伸縮装置(1)	二重止水装置付き伸縮装置	m	16.6		16.6	
鋼･ゴム製伸縮装置(2)	歩道用伸縮装置	m	6.9		6.9	
排水装置工		式	1		1	
排水設備(1)	φ102 φ202 橋面排水含む	式	1		1	
壁高欄コンクリート工		式	1		1	
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	123		123	
型枠		式	1		1	
鉄筋(1)	SD345 D13	t	26.18		26.18	
鉄筋(2)	SD345 D13 エポキシ樹脂塗装	t	0.37		0.37	
目地板	樹脂発泡体(30倍発泡)t=10	m2	0.3		0.3	
目地	Vカット	m	32		32	
巻立てコンクリート工		式	1		1	
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	44		44	
型枠		式	1		1	
鉄筋	SD345 D13	t	1.44		1.44	
歩車道境界コンクリート工		式	1		1	
歩車道境界コンクリート	σck=24N/mm2	m3	0.2		0.2	
照明柱受台コンクリート工		式	1		1	
コンクリート	σck=30N/mm2	m3	2		2	
型枠		式	1		1	
鉄筋	SD345 D13	t	0.24		0.24	
検査路工		式	1		1	
検査路階段(1)		箇所	1		1	
検査路階段(2)		箇所	1		1	
剥落防止工		式	1		1	
剥落防止	アラミドメッシュシート	m2	55		55	
銘板工		式	1		1	
橋名板		枚	1		1	
橋歴板		枚	1		1	
橋梁付属物工(指定部分)		式		1	1	
排水装置工		式		1	1	
排水設備(2)【JR工事支給】	φ102 φ202 橋面排水含む	式		1	1	
落下防止工		式		1	1	
落下防止柵材料費【JR工事支給】	H=1.890m	m		43	43	
落下防止網材料費【JR工事支給】	φ3.2×56	m		219	219	

注記
1.JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

(指定部分)

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	工事数量総括表(1)		
縮尺	一	図面番号	178 の 177
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

工事数量総括表(2)

数量総括表

工事区分･工種･種別･細別	規格	単位	数量 【国交省】	数量 【JR】	数量 計	摘要
道路照明設備工		式	1		1	
道路照明設備設置工		式	1		1	
道路照明灯設置	ベースプレート式　12m	基	3		3	
配管･配線工		式	1		1	
地中配管	FEP管 径 30mm	m	6		6	
屋内配管	合成樹脂可とう電線管 径 28mm	m	167		167	
屋外配管	金属製可とう電線管 径 30mm	m	1		1	
屋外配線	EM-CE3.5sq-3c	m	242		242	
プルボックス設置工		式	1		1	
プルボックス設置	溶融亜鉛メッキ 150×150×150	個	6		6	
道路照明設備工(指定部分)		式		1	1	
道路照明設備設置工		式		1	1	
道路照明灯材料費【JR工事支給】	ベースプレート式　12m	基		2	2	
配管･配線工		式		1	1	
屋内配管材料費【JR工事支給】	合成樹脂可とう電線管 径 28mm	m		62	62	
プルボックス設置工		式		1	1	
プルボックス材料費【JR工事支給】	溶融亜鉛メッキ 150×150×150	個		2	2	
鋼橋足場等設置工		式	1		1	
橋梁足場工		式	1		1	
架設足場(1)	少数1桁	式	1		1	
架設足場(2)【夜間】	少数1桁	式	1		1	
橋梁防護工		式	1		1	
板張防護		式	1		1	
昇降用設備工		式	1		1	
登り桟橋		式	1		1	
仮設工		式	1		1	
作業ﾔｰﾄﾞ整備工(1)		式	1		1	
H鋼杭(1)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本	32		32	
H鋼杭(2)	H300 H鋼長さ(杭長) 15.5m H鋼平均打込長 15.2m H型鋼平均引抜長 15.2m	本	16		16	
H鋼杭(3)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本	32		32	
H鋼杭(4)	H300 H鋼長さ(杭長) 19m H鋼平均打込長 18.7m H型鋼平均引抜長 18.7m	本	16		16	
覆工板･覆工板受桁(1)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	16		16	
覆工板･覆工板受桁(2)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	8		8	
覆工板･覆工板受桁(3)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	16		16	
覆工板･覆工板受桁(4)	1000×208×2000 設置･撤去	m2	8		8	
現場発生品運搬(1)	溝形鋼	t	3.96		3.96	
作業ﾔｰﾄﾞ整備工(2)		式	1		1	
H鋼杭(5)	H300 H鋼長さ(杭長) 17.5m H型鋼平均引抜長 17.2m	本	16		16	
H鋼杭(6)	H400 H鋼長さ(杭長) 11m H型鋼平均引抜長 10.7m	本	445		445	
覆工板･覆工板受桁(5)	1000×208×2000 撤去	m2	8		8	
覆工板･覆工板受桁(6)	1000×208×2000 撤去	m2	532		532	
現場発生品運搬(2)	溝形鋼	t	43.7		43.7	

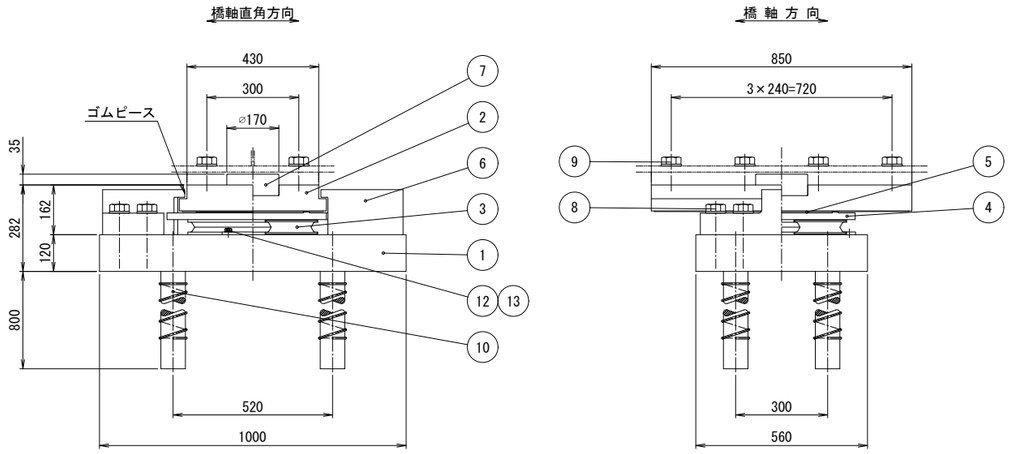
注記
1.JR施工範囲は、工場製作のみ対象とする。

(指定部分)

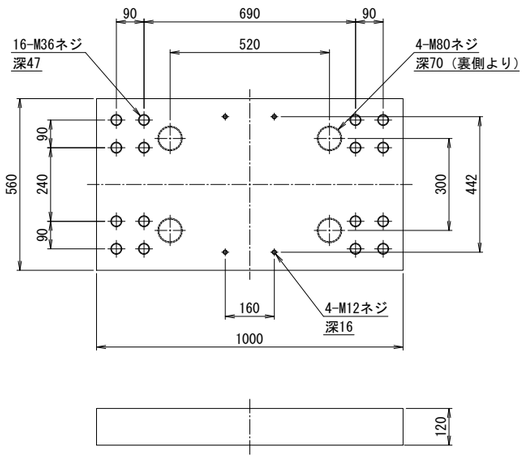
工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	工事数量総括表(2)		
縮尺	一	図面番号	178 の 178
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋支承詳細図(1)[参考図]

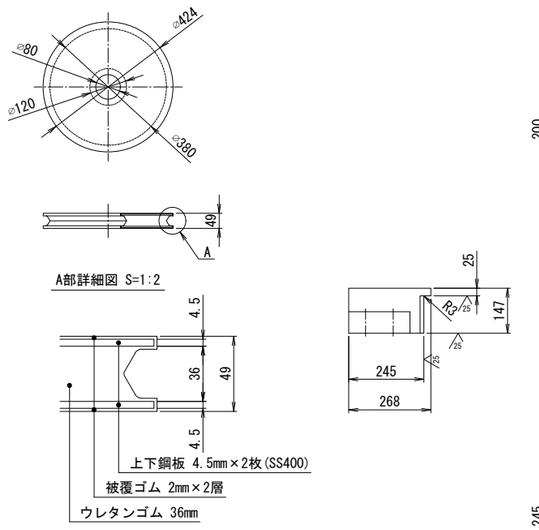
S=1:10



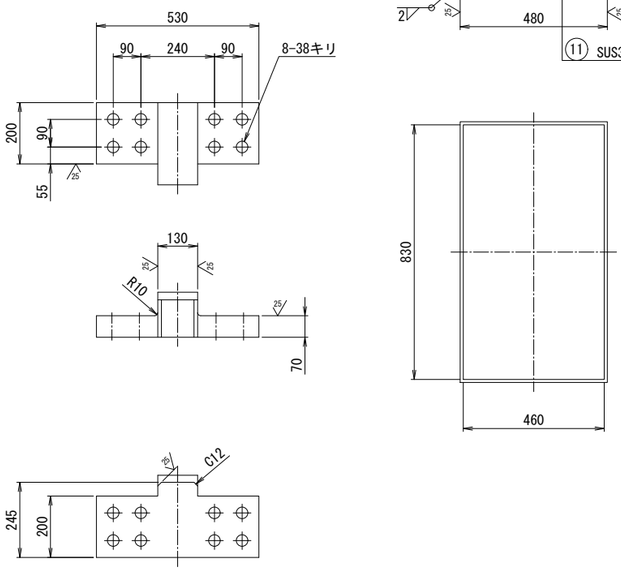
① SM490A



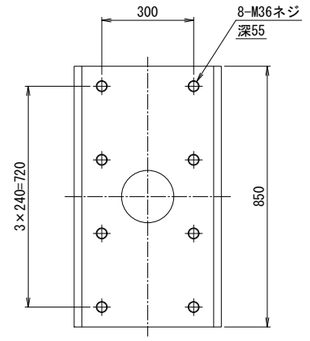
③ DRB

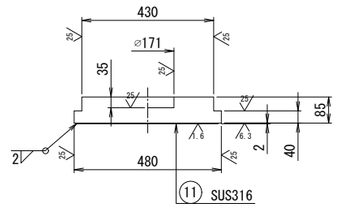


⑥ SM490A

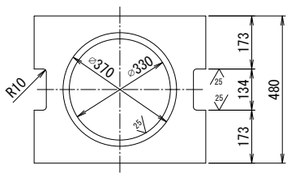


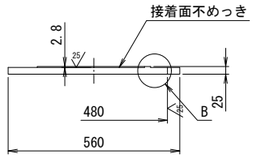
② SM490A





④ SM490A

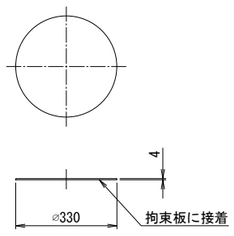




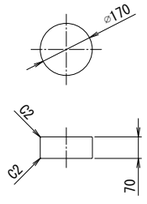
B部詳細図 S=1:2



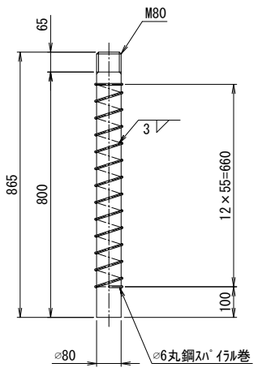
⑤ PTFE



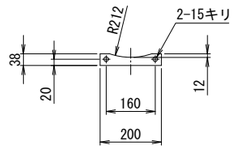
⑦ SM490A



⑩ SS400



⑫ SS400
38×200×9ｔ



⑧ 六角ボルト 中 M36×120 8.8
（平座金付き）

⑨ 六角ボルト 中 M36× 8.8
（平座金付き）

⑬ 六角ボルト 中 M12×25 4.8
（平座金付き）

設計条件

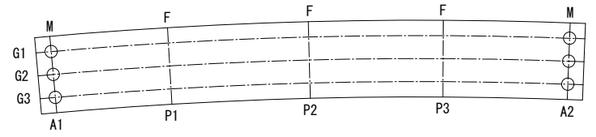
反力		
最大鉛直荷重（耐久性）	R	2287 kN
死荷重（永続支配）	Rd	1664 kN
橋軸方向水平力（変動支配）	Rh1	259 kN
橋軸直角方向水平力（L2時）	Rh2	1647 kN
上揚力（L2時）	V	500 kN
移動量		
設計移動量	e	± 200 mm
回転角		
設計回転角		1/150 rad
設計条件		
最大鉛直荷重（変動支配）	R	2584 kN
死荷重（特性値）	Rd	1585 kN
回転照査荷重	Rma×2	1937 kN
回転変位量	δr	1.267 mm
照査荷重	R1L	457 kN
照査荷重圧縮変位量	δcL	0.495 mm
摩擦係数		
設計摩擦係数	f	0.10
支承部支持条件		
橋軸方向： 可動	橋軸直角方向： 固定	
適用基準		
道路橋示方書・同解説(H29年11月)、道路橋支承便覧(H30年12月)		

材料表

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
①	下沓	SM490A	1	510.4	
②	上沓	SM490A	1	247.4	
3	高面圧ゴム支承	DRB	1	16.3	
④	拘束板	SM490A	1	45.2	
5	滑り板	PTFE	1	0.8	
⑥	サイドブロック	SM490A	2	152.6	
⑦	せん断キー	SM490A	1	12.5	
⑧	六角ボルト･座金	———	16	23.0	JIS B 1180 JIS B 1256
⑨	六角ボルト･座金	———	8	9.6	JIS B 1180 JIS B 1256
10	アンカーボルト	SS400	4	136.5	
11	ステンレス板	SUS316	1	6.1	460×2×830
⑫	ストッパー	SS400	2	1.1	
⑬	六角ボルト･座金	———	4	0.2	JIS B 1180 JIS B 1256
全重量		1161.7	(kg)		
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき	材料表部番の○印部品をめっきのこと。				
	付着量550g/m²以上、350g/m²以上(ﾎﾞﾙﾄ類)				

注１）必要に応じて吊り用のネジ穴を設けてもよい。
注２）部番9の六角ボルト・座金の重量は、参考重量とする。
注３）アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

配置図



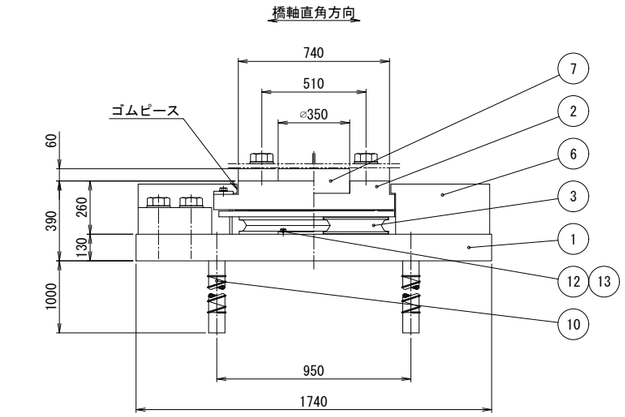
この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第１条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

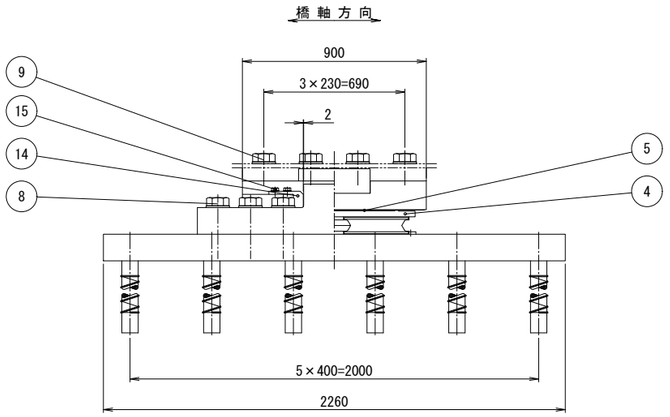
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

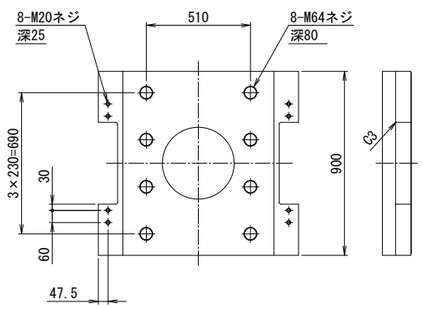
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋支承詳細図(1)[参考図]		
縮尺	S=1:10	図面番号	参の 1
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

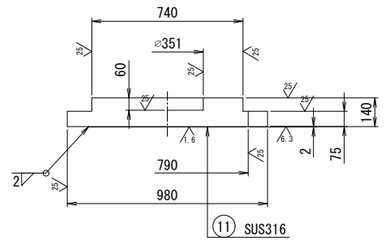
東田中高架橋支承詳細図(2)[参考図]　S=1:15



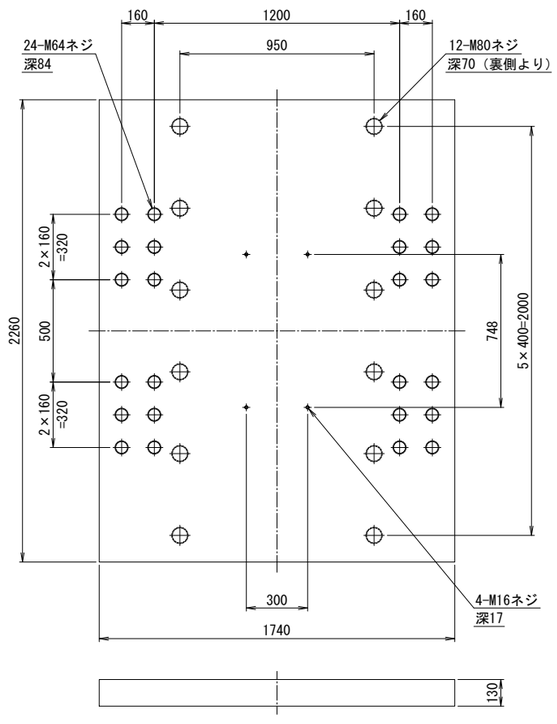


② ▽(25/ 6.3/) SM490A

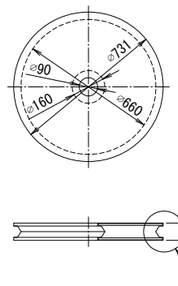




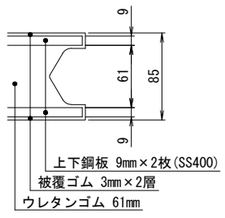
① ▽ SM490A



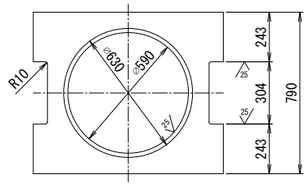
③ ▽ DRB

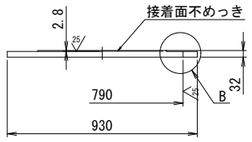


A部詳細図 S=1:3

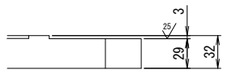


④ ▽(25/) SM490A

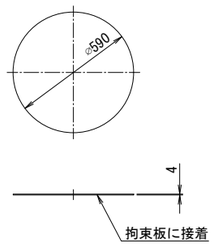




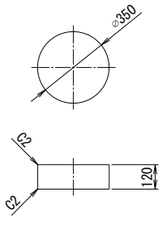
B部詳細図 S=1:3



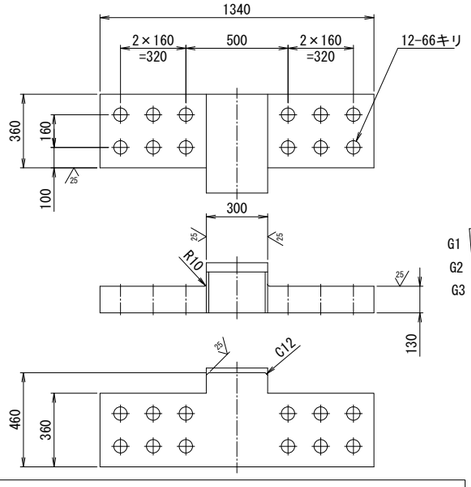
⑤ ▽ PTFE

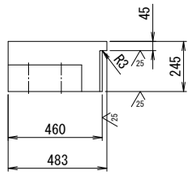


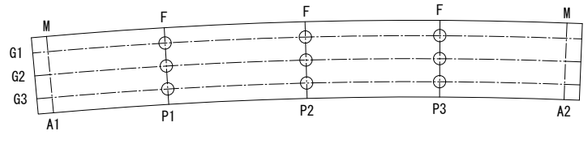
⑦ 25/ SM490A



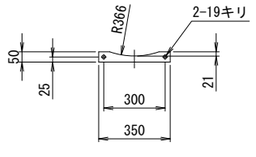
⑥ ▽(25/) SM490A





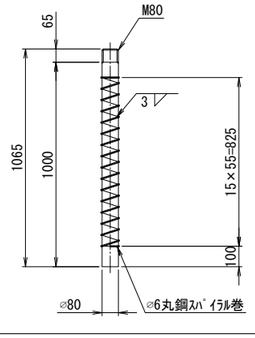


⑫ ▽ SS400
50×350×12 t

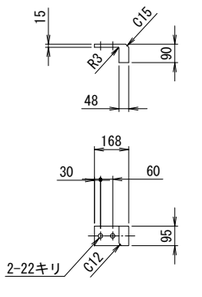


⑧	六角ボルト　中	M64×220	8.8	（平座金付き）
⑨	六角ボルト　中	M64×	8.8	（平座金付き）
⑬	六角ボルト　中	M16×30	4.8	（平座金付き）
⑮	六角ボルト　中	M20×35	4.8	（平座金付き）

⑩ ▽ SS400



⑭ 25/ SM490A



全4ヶの内2ヶを勝手違いで製作のこと。

設計条件

反力		
最大鉛直荷重（耐久性）	R	6086 kN
死荷重（永続支配）	Rd	5058 kN
橋軸方向水平力（L2時）	Rh1	4272 kN
橋軸直角方向水平力（L2時）	Rh2	5459 kN
上揚力（L2時）	V	3003 kN
移動量		
設計移動量	e	± 50 mm
回転角		
設計回転角		1/300 rad
設計条件		
最大鉛直荷重（変動支配）	R	6644 kN
死荷重（特性値）	Rd	4817 kN
回転照査荷重	Rma×2	4282 kN
回転変位量	δr	1.100 mm
支承部支持条件		
橋軸方向：固定	橋軸直角方向：固定	
適用基準		
道路橋示方書・同解説(H29年11月)、道路橋支承便覧(H30年12月)		

材料表

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
①	下沓	SM490A	1	3928.9	
②	上沓	SM490A	1	752.1	
3	高面圧ゴム支承	DRB	1	91.9	
④	拘束板	SM490A	1	158.9	
5	滑り板	PTFE	1	2.5	
⑥	サイドブロック	SM490A	2	1216.1	
⑦	せん断キー	SM490A	1	90.6	
⑧	六角ボルト･座金	———	24	192.2	JIS B 1180 JIS B 1256
⑨	六角ボルト･座金	———	8	48.2	JIS B 1180 JIS B 1256
10	アンカーボルト	SS400	12	504.3	
11	ステンレス板	SUS316	1	10.8	770×2×880
⑫	ストッパー	SS400	2	3.3	
⑬	六角ボルト･座金	———	4	0.4	JIS B 1180 JIS B 1256
⑭	固定ブロック	SM490A	4	17.9	
⑮	六角ボルト･座金	———	8	1.4	JIS B 1180 JIS B 1256
全重量				7019.5 (kg)	
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき	材料表部番の○印部品をめっきのこと。				
	付着量550g/m2以上、350g/m2以上（ボルト類）				

注１）必要に応じて吊り用のネジ穴を設けてもよい。
注２）部番9の六角ボルト・座金の重量は、参考重量とする。
注３）アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

支承重量数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
大型ゴム支承設置(1)	2287KN	基	6	
大型ゴム支承設置(2)	6086KN	基	9	

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

本図面は縮小図のため縮尺は表示と異なります

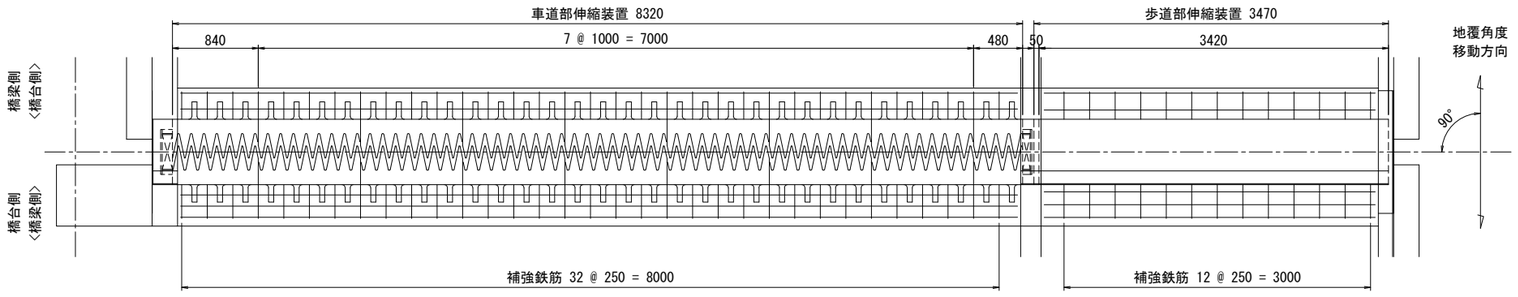
（参考図）

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋支承詳細図(2)[参考図]		
縮尺	S=1:15	図面番号	参の 2
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

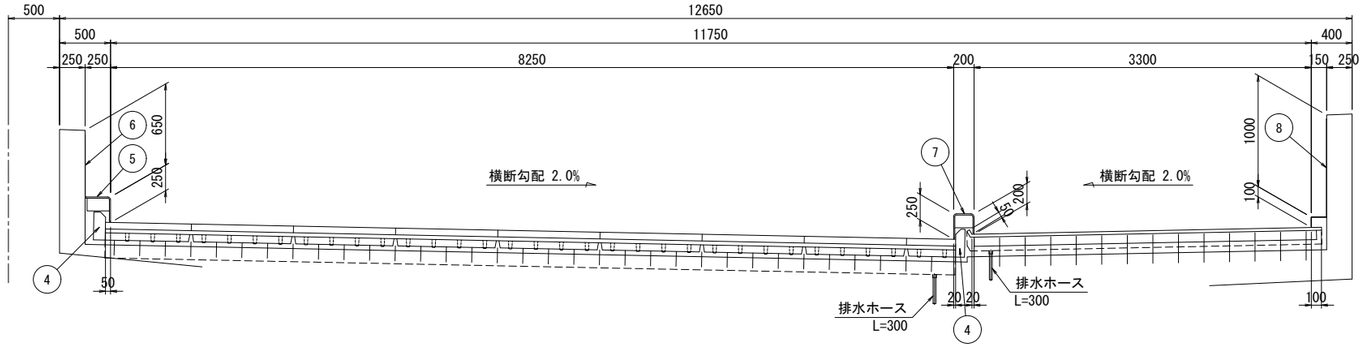
東田中高架橋伸縮装置詳細図[参考図]

A1, A2

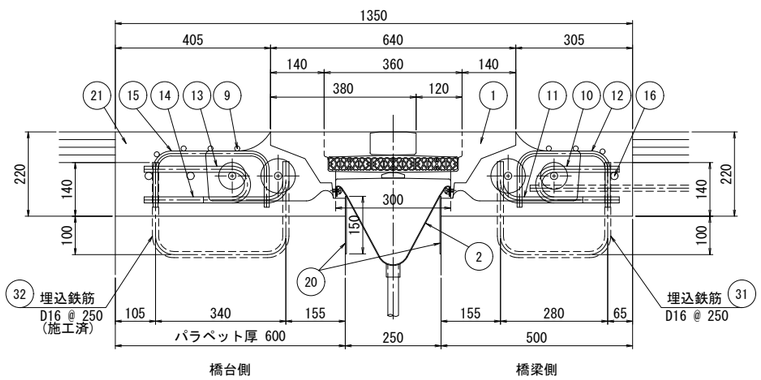
金物設置図 S=1:30



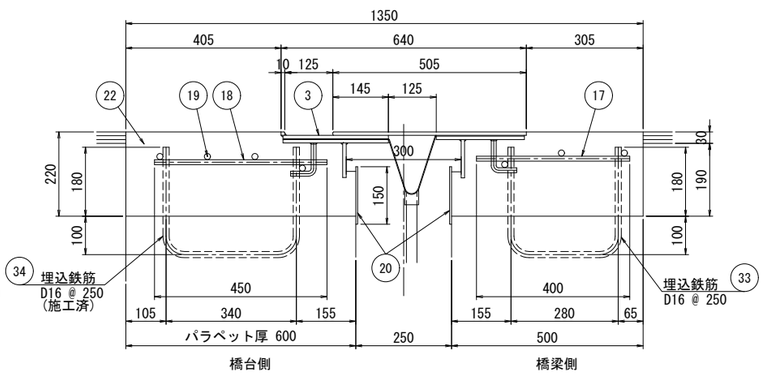
※上記図はＡ１部を示す



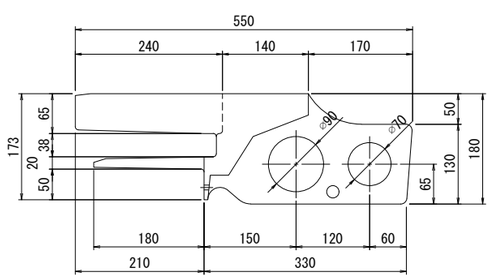
車道部 伸縮装置断面図 S=1:8



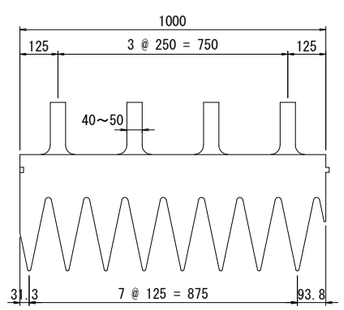
歩道部 伸縮装置断面図 S=1:8



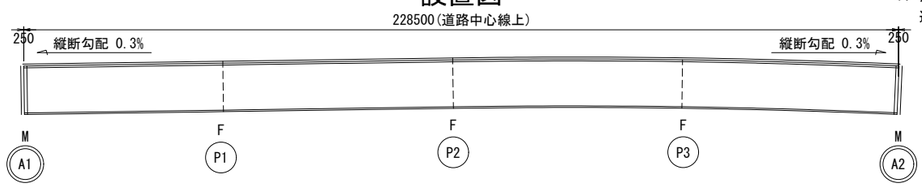
伸縮金物断面図 S=1:5



伸縮金物平面図 S=1:10



設置図



材料表

（１箇所当たり）×2式

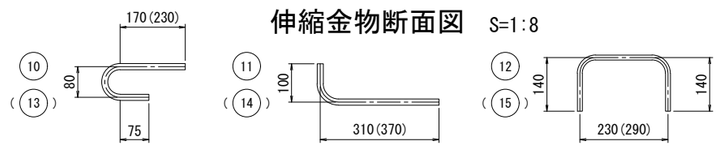
番号	名称	材質	単位	数量	記事
1	車道部伸縮装置	アルミ合金鋳物	m	8.320	KMA－23ONタイプ
2	二重止水装置		m	8.320	排水ホース:外径φ27.6、内径φ19
3	歩道部伸縮装置	SS材・その他		3.470	SP-230KMAタイプ
4	アップスタンド	アルミ合金	個	2	歩車道境界部：薄型仕様
5	車道部地覆カバー	SS400	組	1	t=6
6	車道部壁高欄カバー	SUS304	式	1	t=2（アンカー含む）
7	歩車道境界カバー	SS400	組	1	t=6
8	歩道部カバー	SUS304	式	1	t=2（アンカー含む）
9	用心鉄筋(メッキ処理)	SD345	kg	57.81	D13×8.3m×7本
１０	車道部補強鉄筋	SD345	kg	19.05	D16×370×33本
１１	車道部補強鉄筋	SD345	kg	21.11	D16×410×33本
１２	車道部補強鉄筋	SD345	kg	16.75	D13×510×33本
１３	車道部補強鉄筋	SD345	kg	22.14	D16×430×33本
１４	車道部補強鉄筋	SD345	kg	24.20	D16×470×33本
１５	車道部補強鉄筋	SD345	kg	18.72	D13×570×33本
１６	車道部補強鉄筋	SD345	kg	130.73	D19×8.3m×7本
１７	歩道部補強鉄筋	SD345	kg	8.11	D16×400×13本
１８	歩道部補強鉄筋	SD345	kg	9.13	D16×450×13本
１９	歩道部補強鉄筋	SD345	kg	36.04	D16×3.3m×7本
２０	遊間部型枠	鋼板等	m2	3.78	150×12.6m×2式
２１	車道部後打ちコンクリート	高強度コンクリート	m3	1.91	σck＝36N/mm2
２２	歩道部後打ちコンクリート	普通コンクリート	m3	0.76	σck＝24N/mm2

上部工において施工

３１	車道部埋込鉄筋	SD345	kg	39.12	D16×760×33本
３３	歩道部埋込鉄筋	SD345	kg	17.04	D16×840×13本

設計条件	
温度範囲	－10℃～＋40℃
温度変化伸縮量	69mm
常時伸縮量	104mm
地震時移動量	±30mm

伸縮金物断面図 S=1:8



注記

1．施工において図面相当品とする
2．伸縮装置の割付は変更することがある
3．遊間と平行に施工する通し筋を分割する場合
　重ね長さを考慮すること
4．排水ホースにはフレキシブルチューブ等を接続のうえ、
　適切に流末処理を行うこと

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第１条にいう設計図書ではない。
　したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋伸縮装置詳細図[参考図]		
縮尺	図示	図面番号	参の３
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋伸縮装置数量表[参考図]

鋼･ゴム製伸縮装置(1)数量表　　16.64m当り

名称	規格	単位	数量		計	備考
			A1	A2		
伸縮装置	KMA-230N	m	8.32	8.32	16.64	
アップスタンド	アルミ合金	組	1	1	2	
車道部地覆カバー	SS400	組	1	1	2	
車道部壁高欄カバー	SUS304	個	1	1	2	
伸縮装置設置	KMA-230Nタイプ本体設置、高強度Co打設(材工)･用心及び補強鉄筋(材工)･二重止水装置･アップスタンド･地覆カバー･壁高欄カバー･遊間部型枠取付含む	m	8.32	8.32	16.64	

鋼･ゴム製伸縮装置(2)数量表　　6.94m当り

名称	規格	単位	数量		計	備考
			A1	A2		
伸縮装置	SP-230KMA	m	3.47	3.47	6.94	
アップスタンド	アルミ合金	組	1	1	2	
歩車道境界カバー	SS400	組	1	1	2	
歩道部カバー	SUS304	個	1	1	2	
伸縮装置設置	SP-230KMAタイプ本体設置、Co打設(材工)･補強鉄筋(材工)･二重止水装置･アップスタンド･境界カバー･歩道部カバー･遊間部型枠取付含む	m	3.47	3.47	6.94	

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

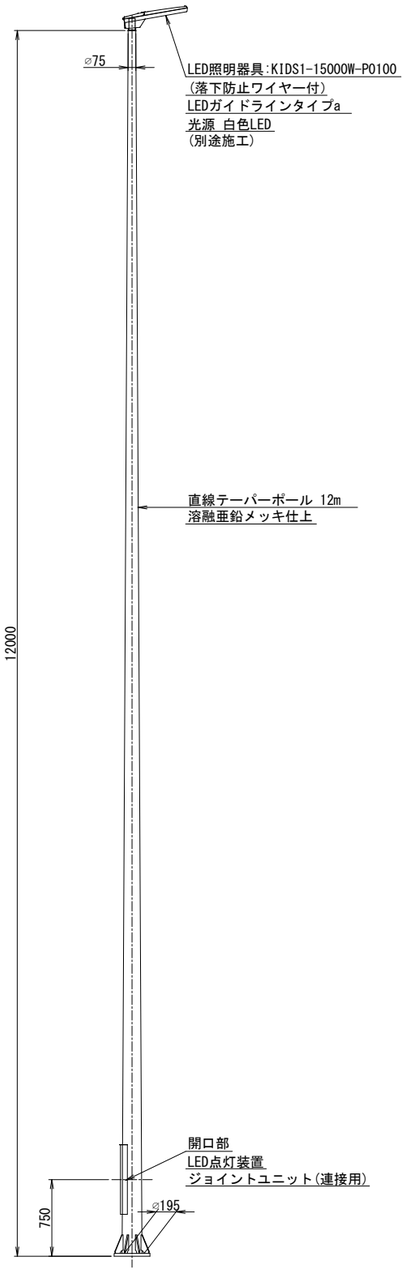
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

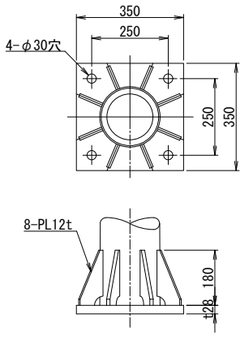
工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋伸縮装置数量表[参考図]		
縮尺	一	図面番号	参 の 4
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名			
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋照明設備図[参考図]

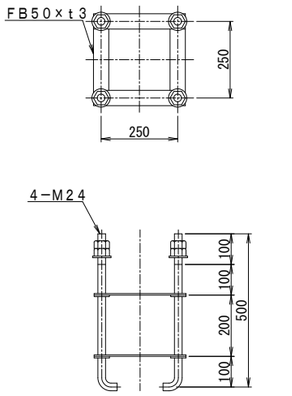
照明灯柱姿図 S=1:30



ベースプレート詳細図 S=1:10



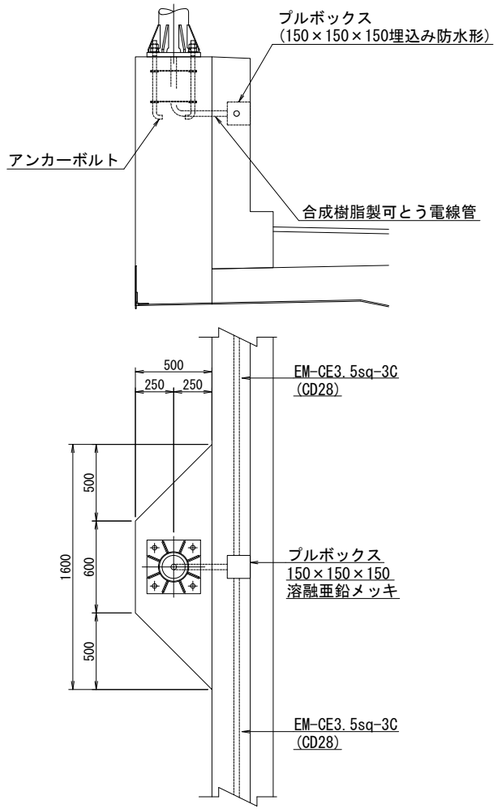
アンカーボルト図 S=1:10



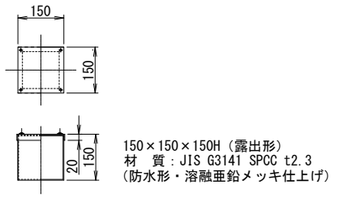
※ネジ部亜鉛メッキ

張出部配管図 S=1:20

[歩 道 側]

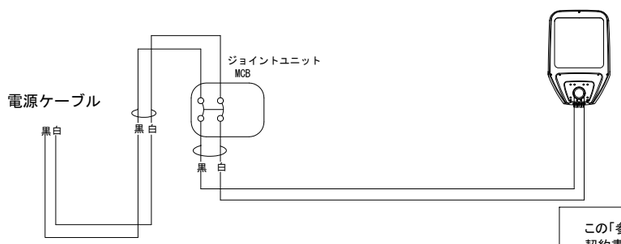


プルボックス図 S=1:10



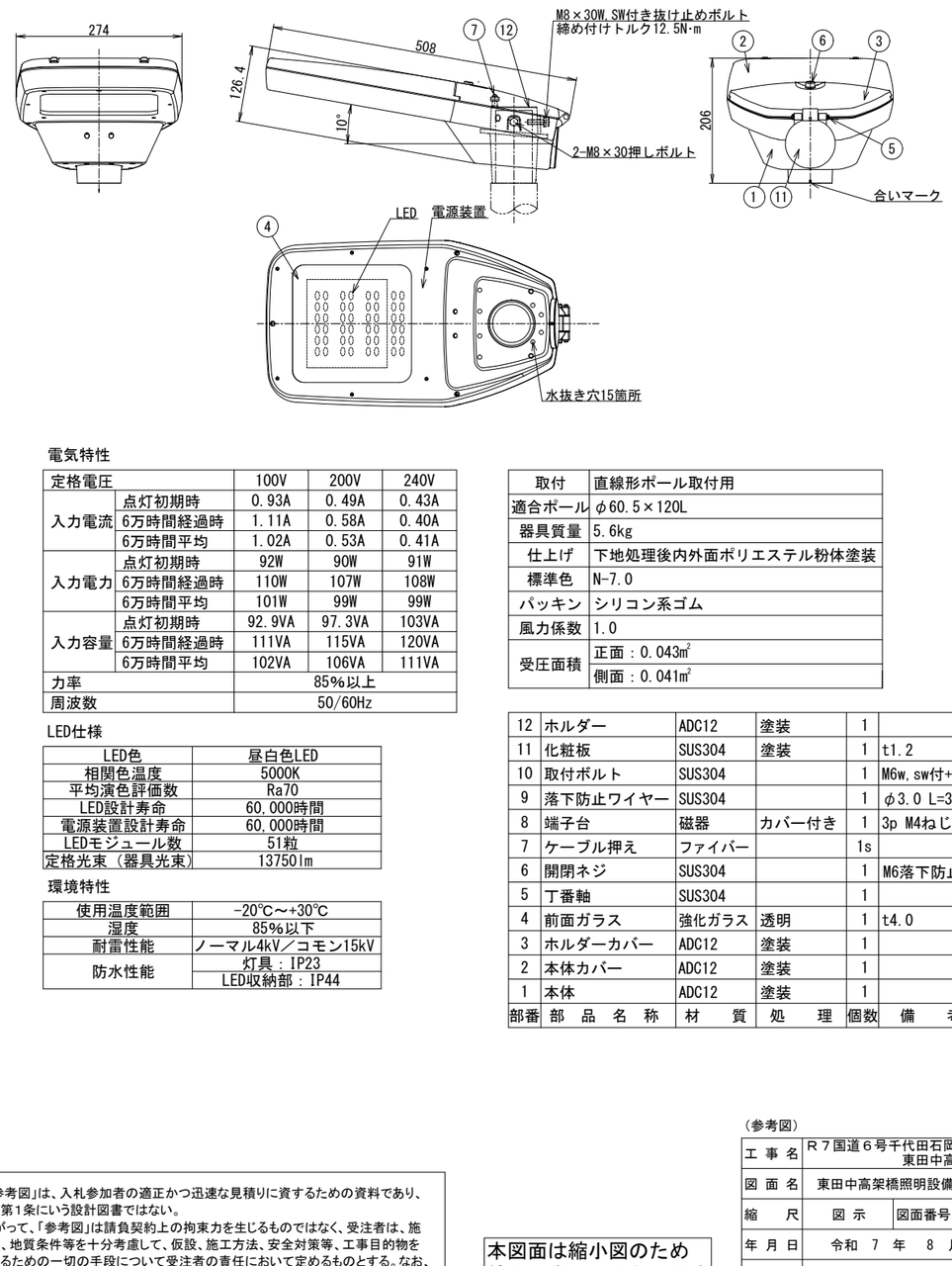
150×150×150H (露出形)
材 質 : JIS G3141 SPCC t2.3
(防水形・溶融亜鉛メッキ仕上げ)

照明灯結線図



照明器具図 S=1:5

KIDS1-15000W(別途施工)



電気特性

		100V	200V	240V
定格電圧				
入力電流	点灯初期時	0.93A	0.49A	0.43A
	6万時間経過時	1.11A	0.58A	0.40A
	6万時間平均	1.02A	0.53A	0.41A
入力電力	点灯初期時	92W	90W	91W
	6万時間経過時	110W	107W	108W
	6万時間平均	101W	99W	99W
入力容量	点灯初期時	92.9VA	97.3VA	103VA
	6万時間経過時	111VA	115VA	120VA
	6万時間平均	102VA	106VA	111VA
力率		85%以上		
周波数		50/60Hz		

LED仕様

LED色	昼白色LED
相関色温度	5000K
平均演色評価数	Ra70
LED設計寿命	60,000時間
電源装置設計寿命	60,000時間
LEDモジュール数	51粒
定格光束 (器具光束)	13750lm

環境特性

使用温度範囲	-20℃～+30℃
湿度	85%以下
耐雷性能	ノーマル4kV／コモン15kV
防水性能	灯具 : IP23
	LED収納部 : IP44

取付	直線形ポール取付用
適合ポール	φ60.5×120L
器具質量	5.6kg
仕上げ	下地処理後内外面ポリエステル粉体塗装
標準色	N-7.0
パッキン	シリコン系ゴム
風力係数	1.0
受圧面積	正面 : 0.043㎡
	側面 : 0.041㎡

部番	部品名称	材質	処理	個数	備考
12	ホルダー	ADC12	塗装	1	
11	化粧板	SUS304	塗装	1	t1.2
10	取付ボルト	SUS304		1	M6w,sw付+M8w
9	落下防止ワイヤー	SUS304		1	φ3.0 L=300mm
8	端子台	磁器	カバー付き	1	3p M4ねじ
7	ケーブル押え	ファイバー		1s	
6	開閉ネジ	SUS304		1	M6落下防止付
5	丁番軸	SUS304		1	
4	前面ガラス	強化ガラス	透明	1	t4.0
3	ホルダーカバー	ADC12	塗装	1	
2	本体カバー	ADC12	塗装	1	
1	本体	ADC12	塗装	1	

道路照明灯 材料表 (1基当たり)

名称	規格	数量	単位	備考
鋼管テーパーポール	IS12B-C	1	本	溶融亜鉛メッキ仕上
LED照明器具	KIDS1-15000W-P0100	1	台	(別途施工)
LED点灯装置		1	ケ	(別途施工)
ジョイントユニット	FMN68-15A	1	ケ	連接形
銘板		1	枚	(別途施工)
ポール内電線(器具線)	VCT2.0sq-3C	12	m	※1芯アース線

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

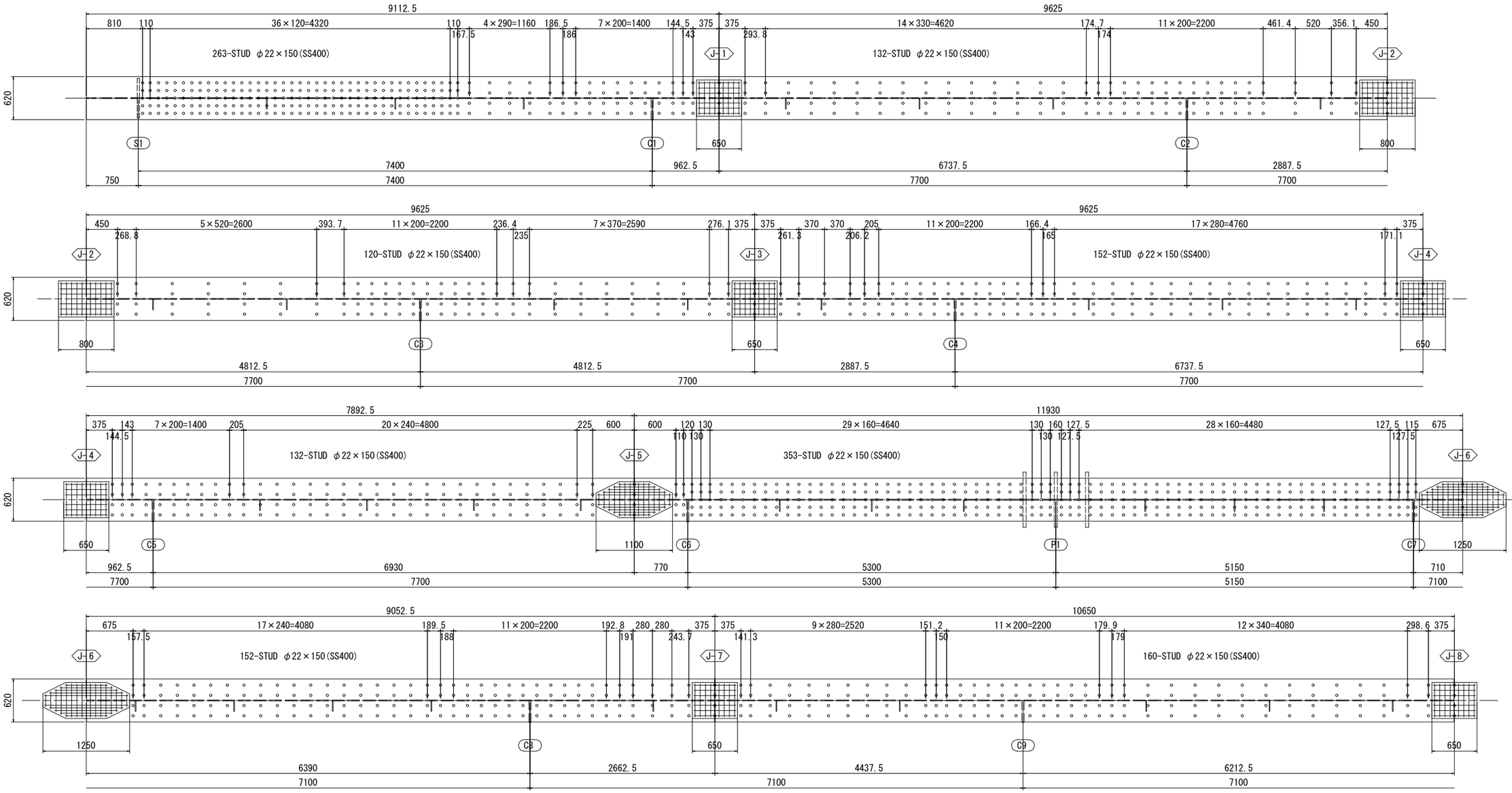
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

(参考図)

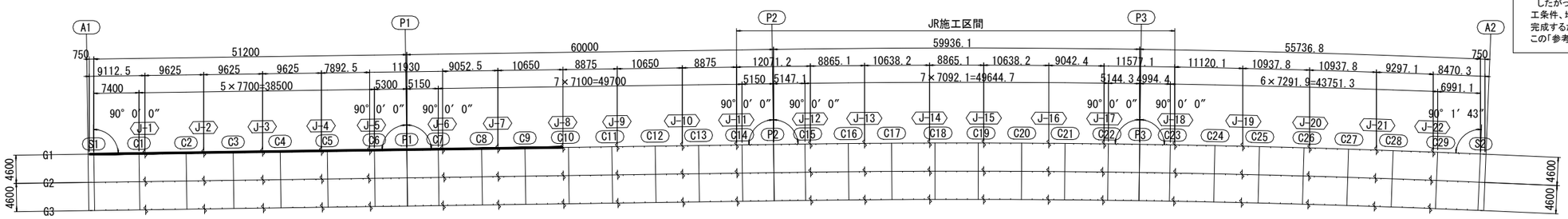
工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事
図面名	東田中高架橋照明設備図[参考図]
縮尺	図示
図面番号	参の5
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋スタッド配置図(1)[参考図]　S=1:30

G1(1/3)



配　置　図



この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

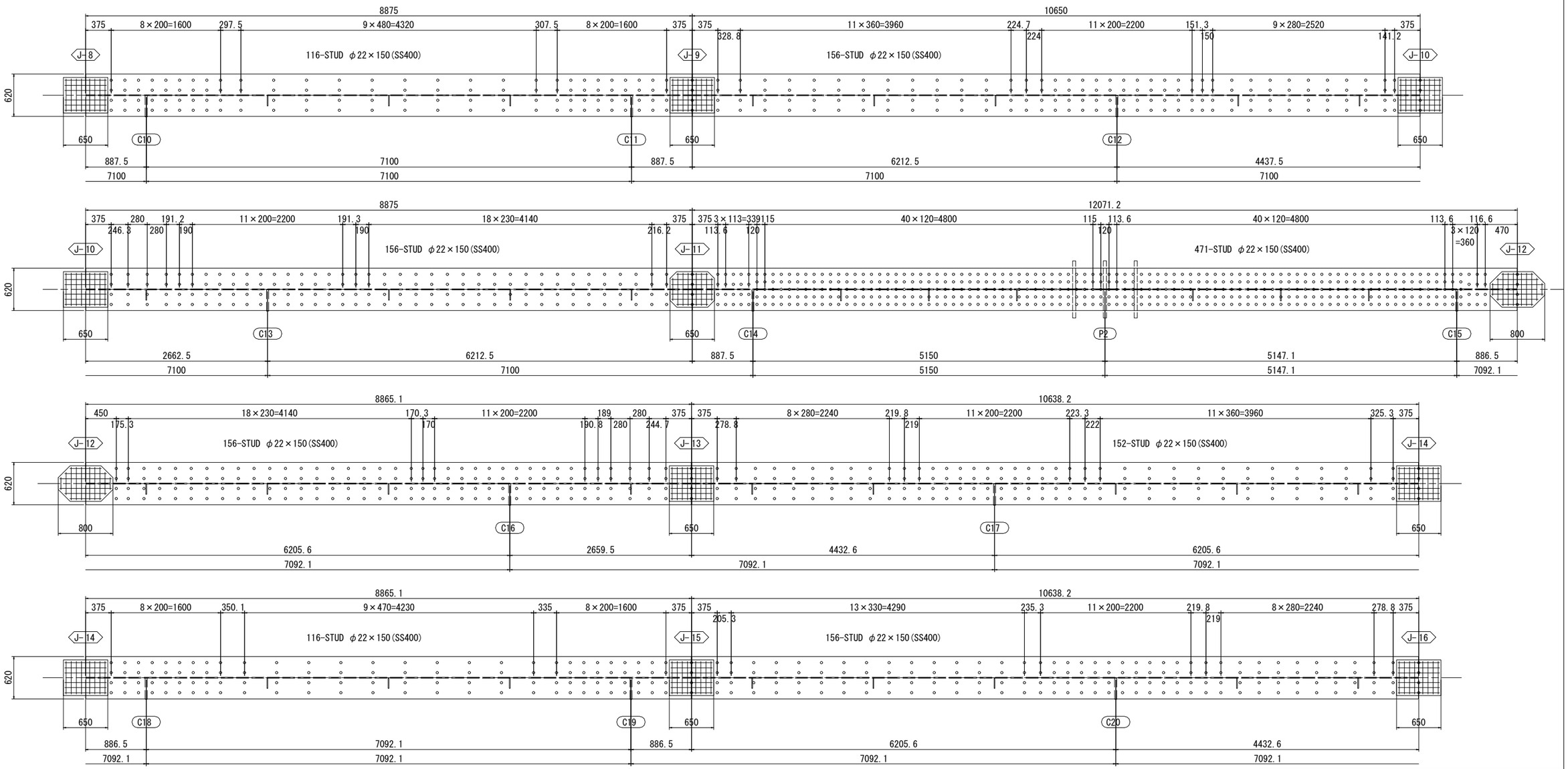
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

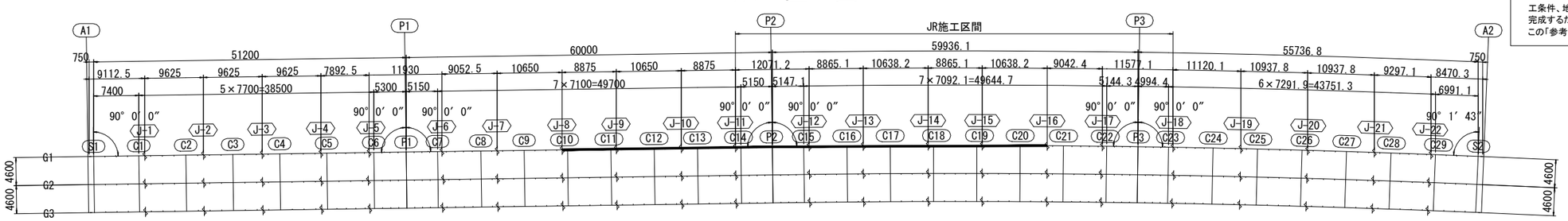
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(1)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の6
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋スタッド配置図(2)[参考図]　S=1:30

G1(2/3)



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

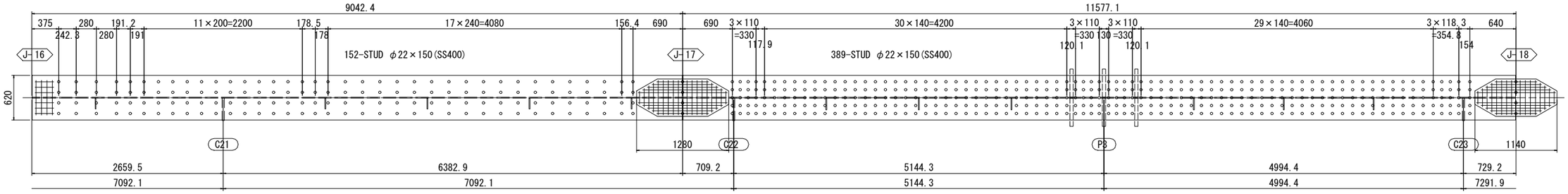
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

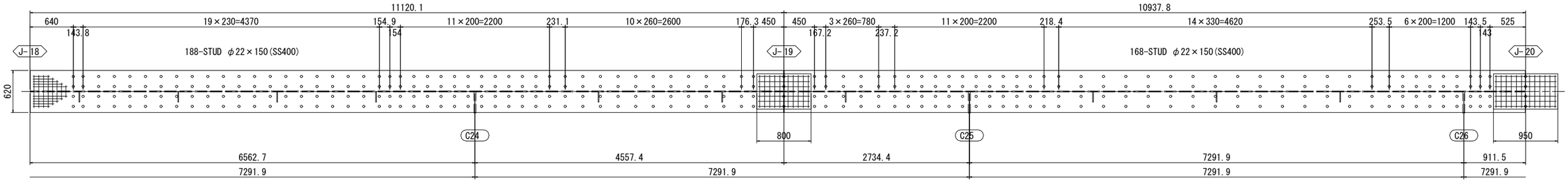
（参考図）

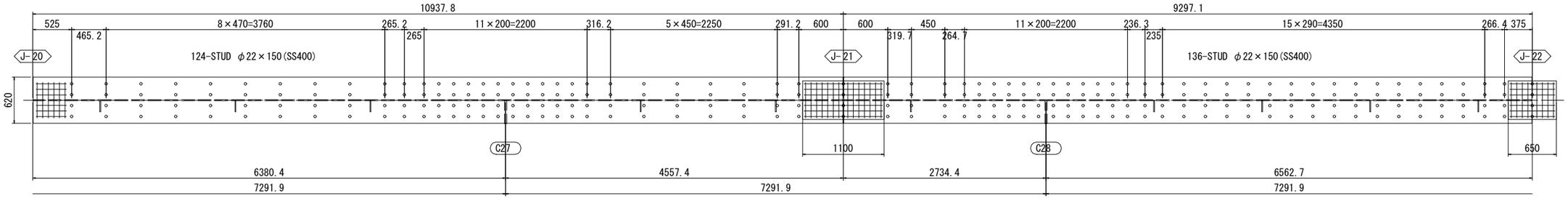
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(2)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の 7
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

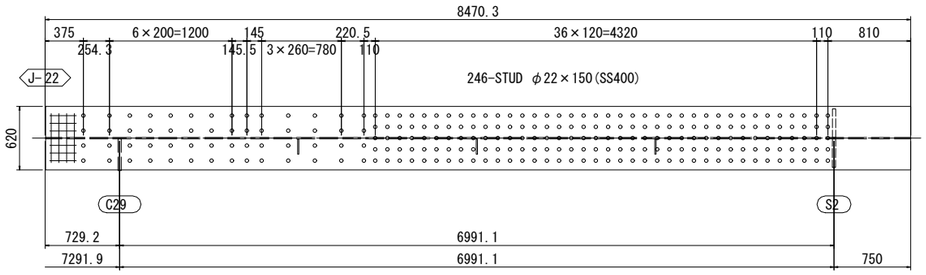
東田中高架橋スタッド配置図(3)[参考図]　S=1:30

G1(3/3)



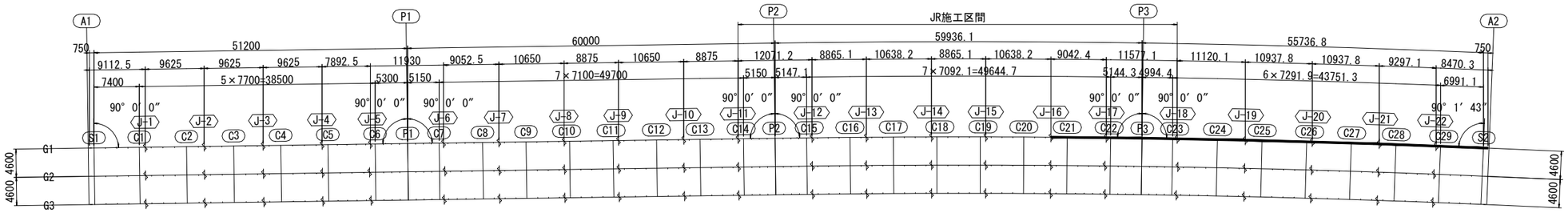






この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

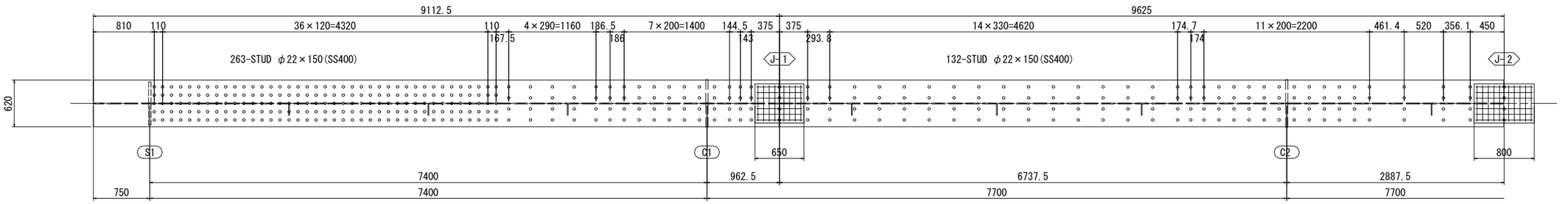
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

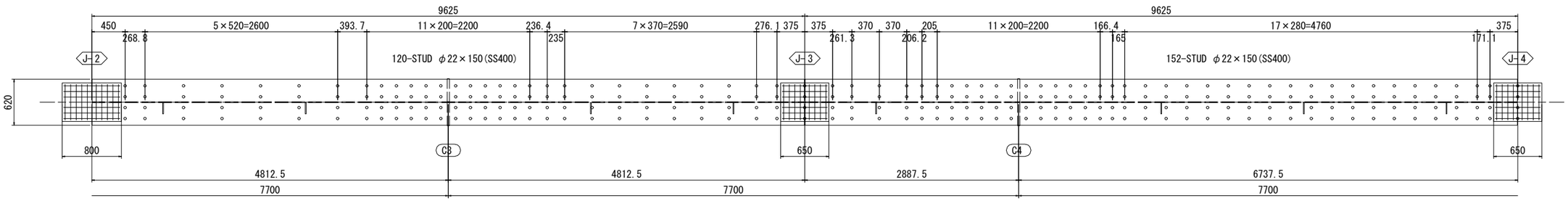
（参考図）

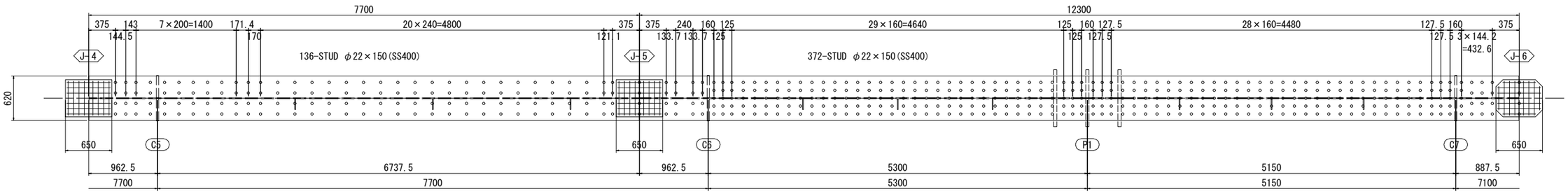
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(3)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の8
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

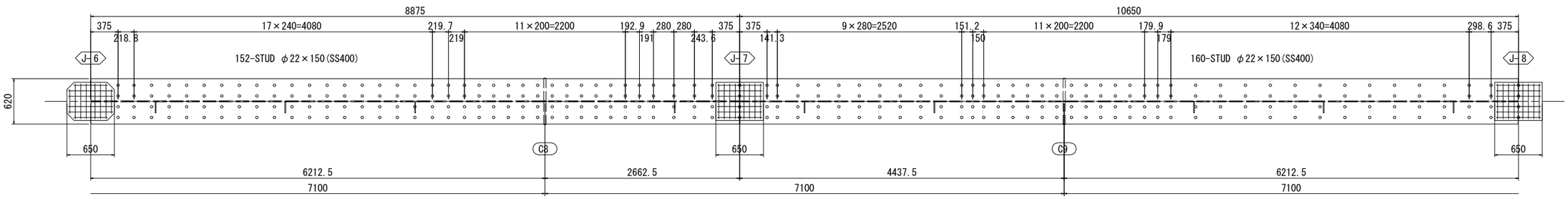
東田中高架橋スタッド配置図(4)[参考図]　S=1:30

G2(1/3)

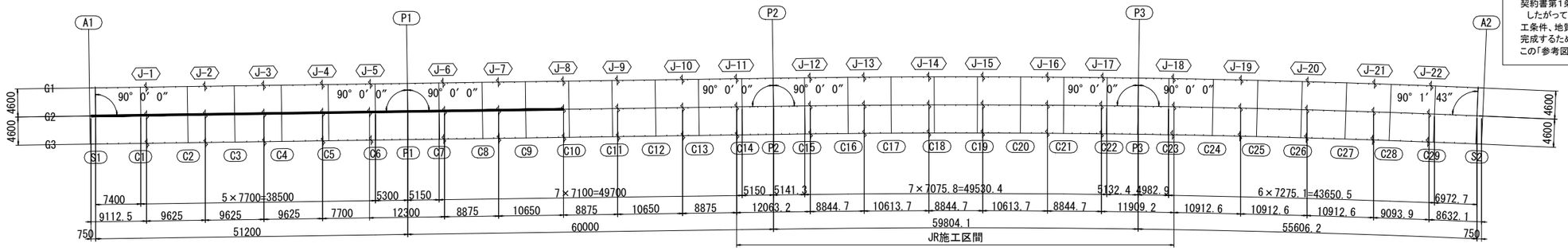








配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

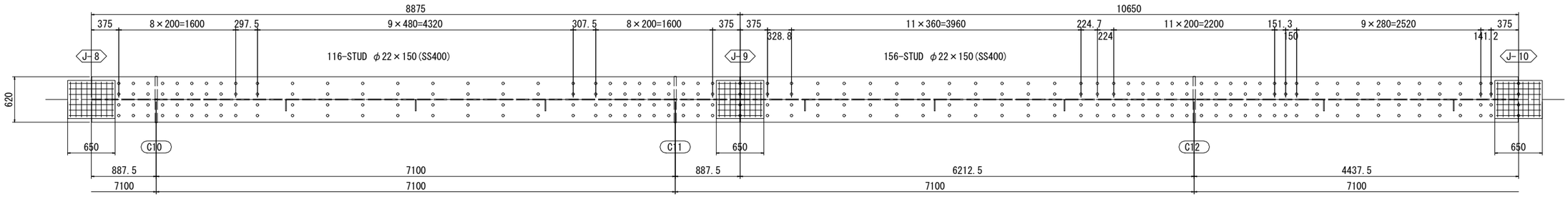
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

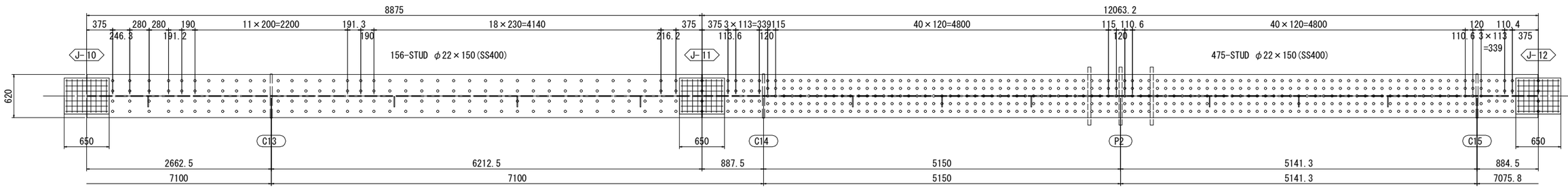
（参考図）

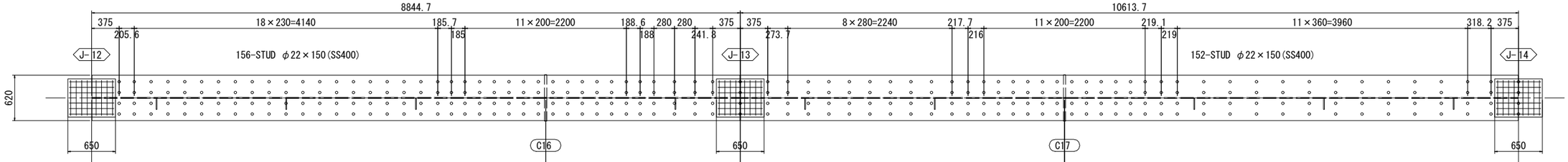
工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(4)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の9
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

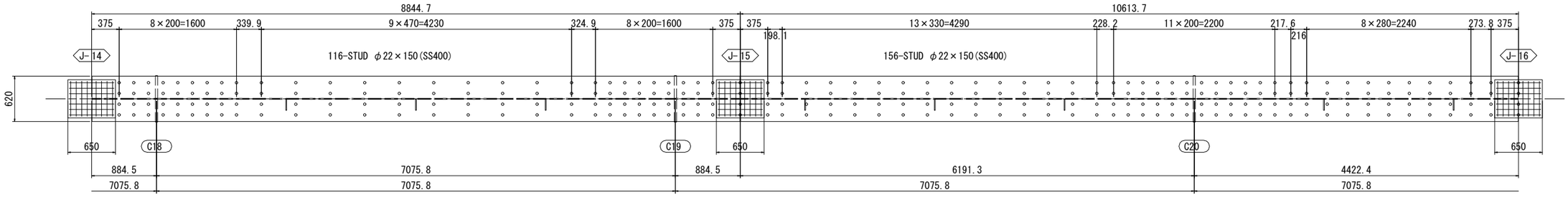
東田中高架橋スタッド配置図(5)[参考図]　S=1:30

G2(2/3)

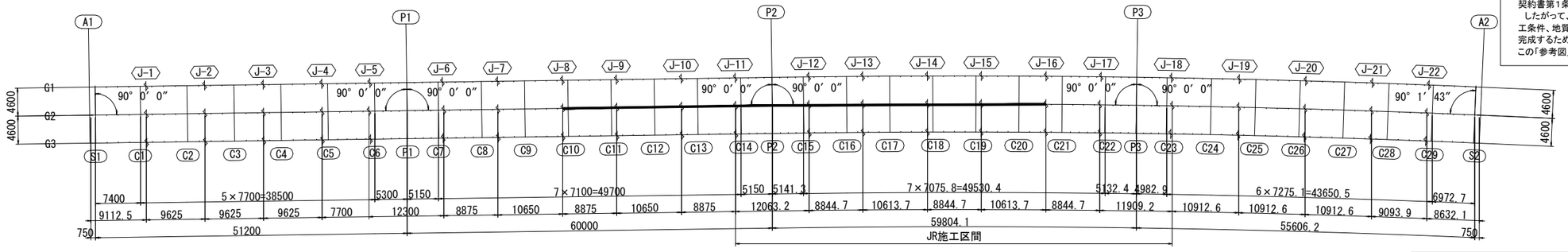








配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

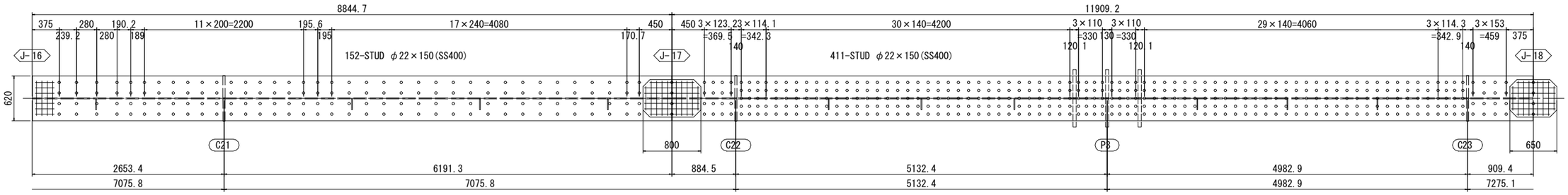
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

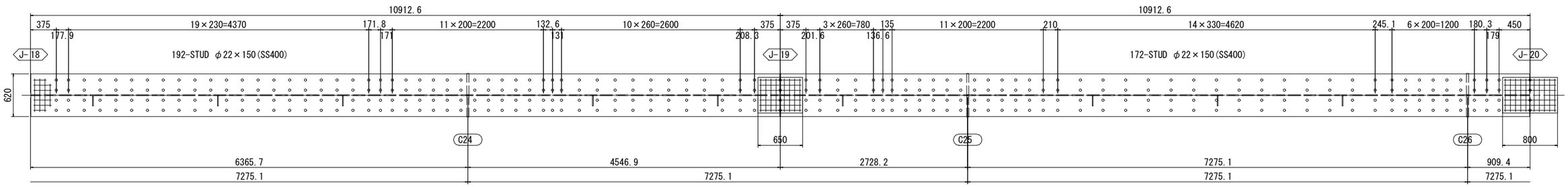
（参考図）

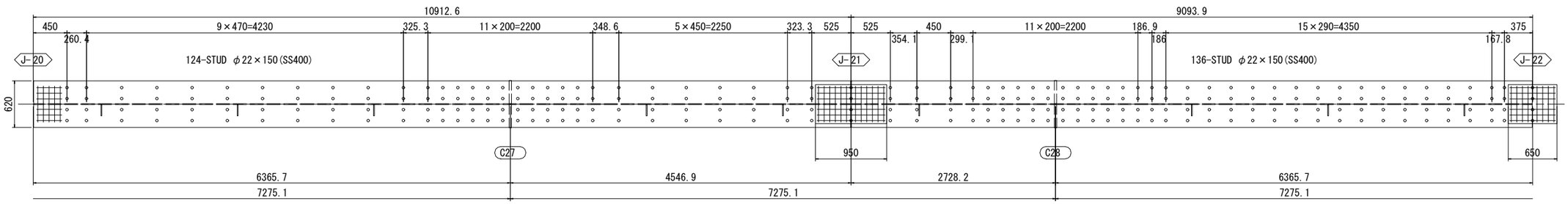
工事名	R7国道6号千代田石岡BP 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(5)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の10
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

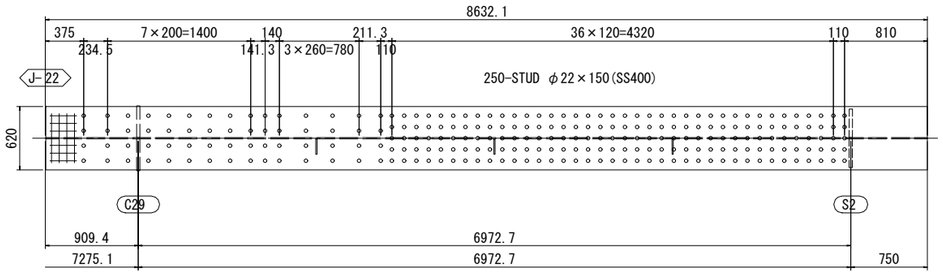
東田中高架橋スタッド配置図(6)[参考図]　S=1:30

G2(3/3)



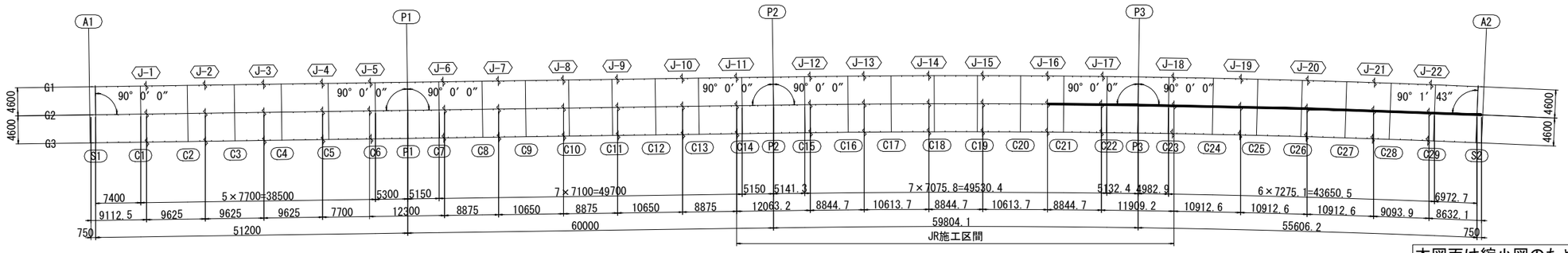






この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

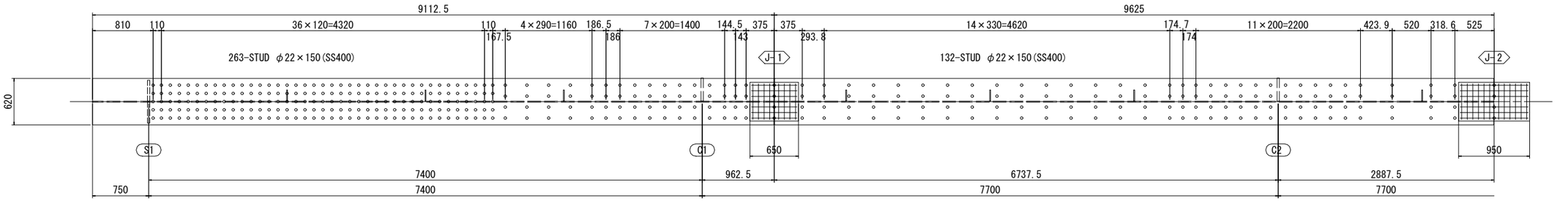
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

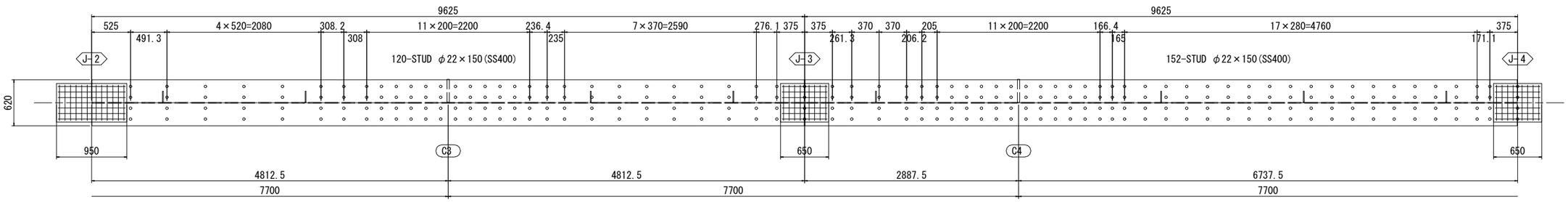
（参考図）

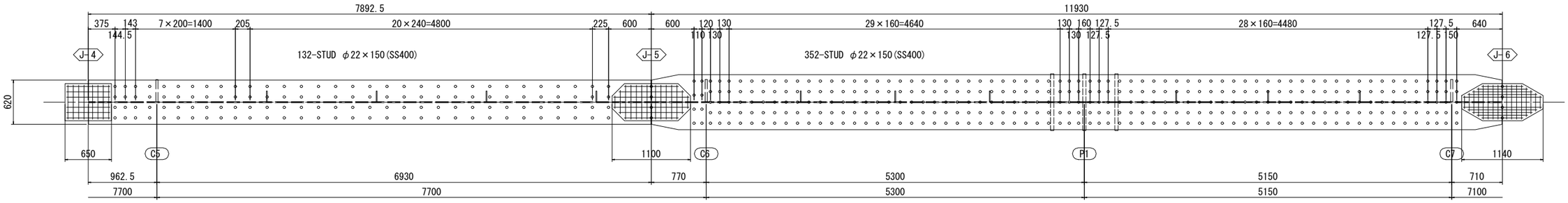
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(6)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の 11
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

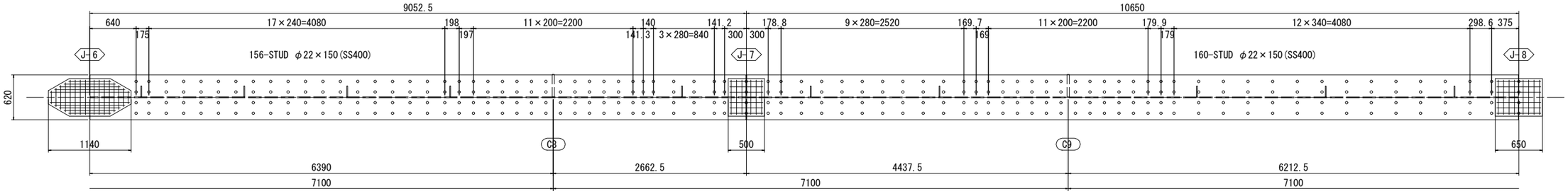
東田中高架橋スタッド配置図(7)[参考図]　S=1:30

G3(1/3)

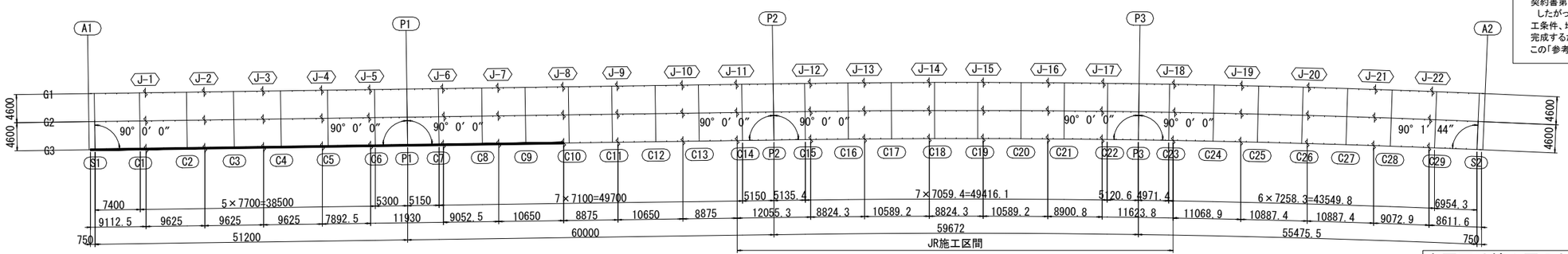








配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

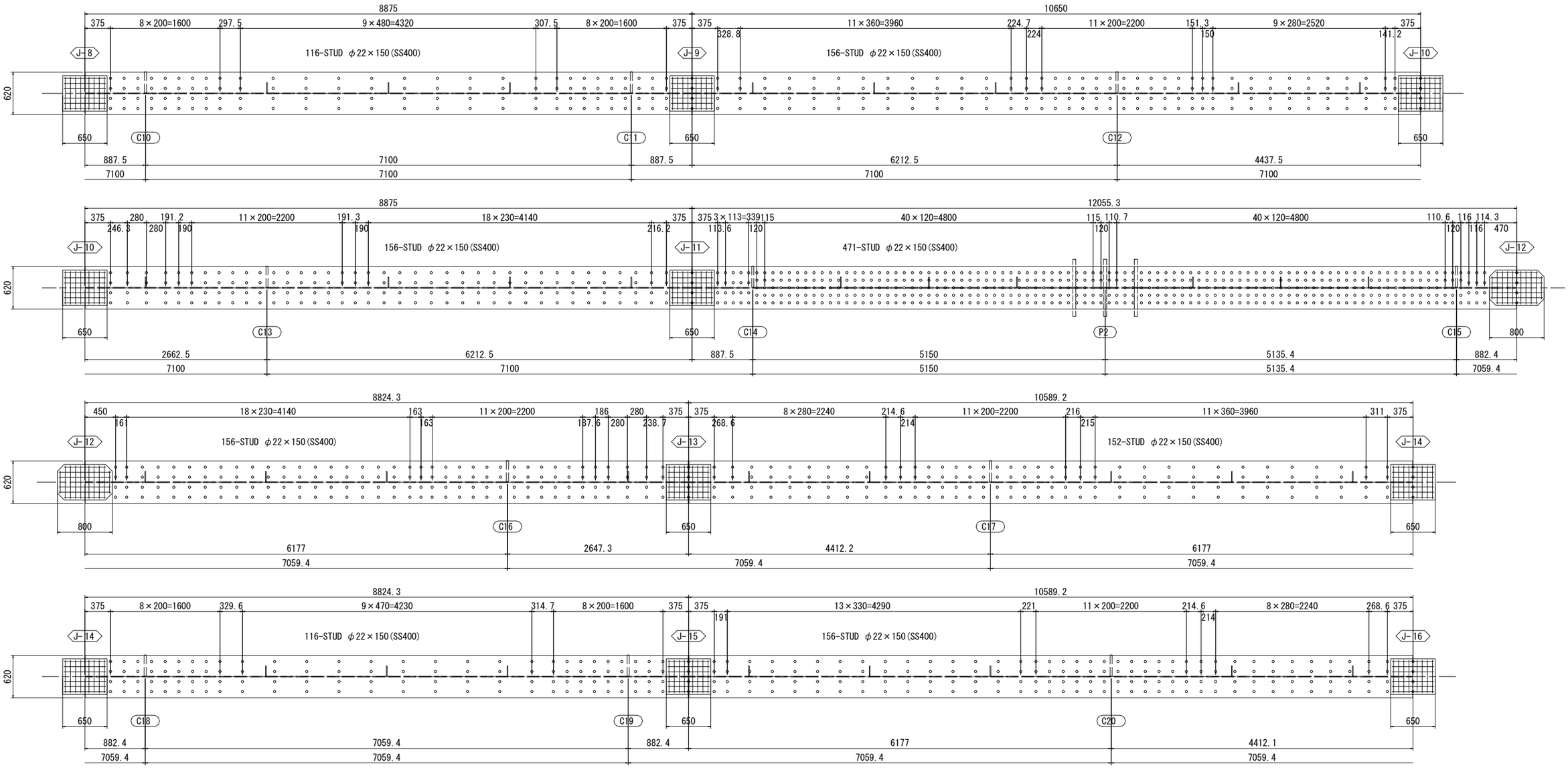
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

（参考図）

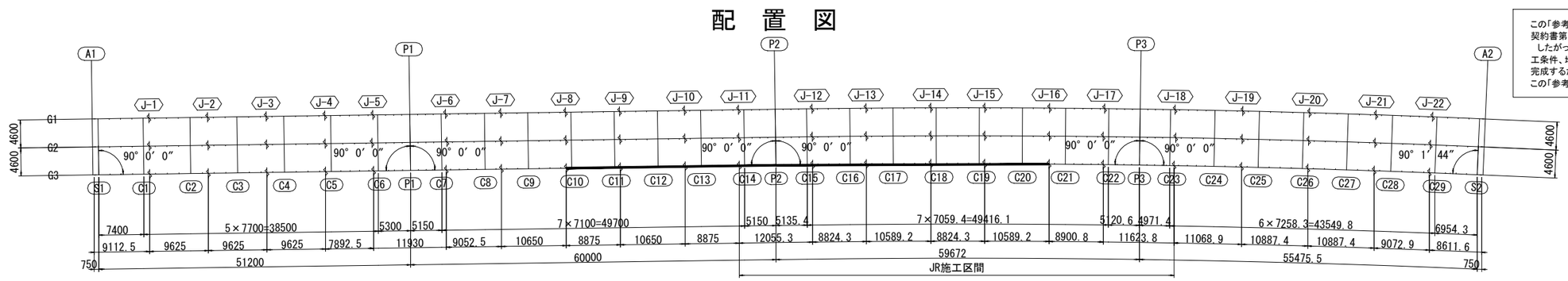
工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(7)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の 12
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋スタッド配置図(8)[参考図]　S=1:30

G3(2/3)



配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第１条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

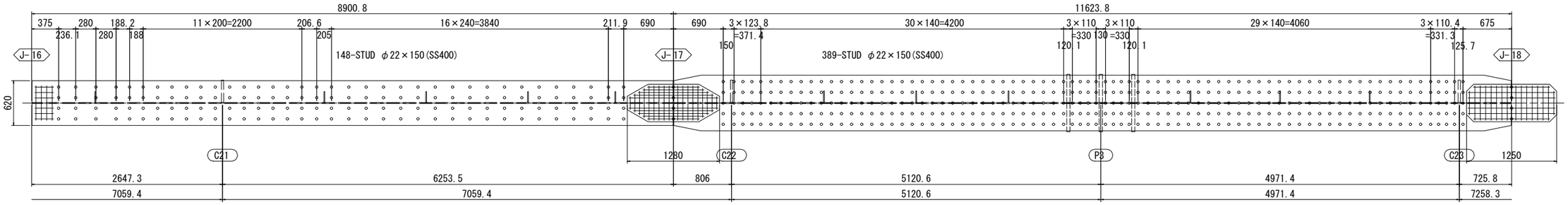
注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

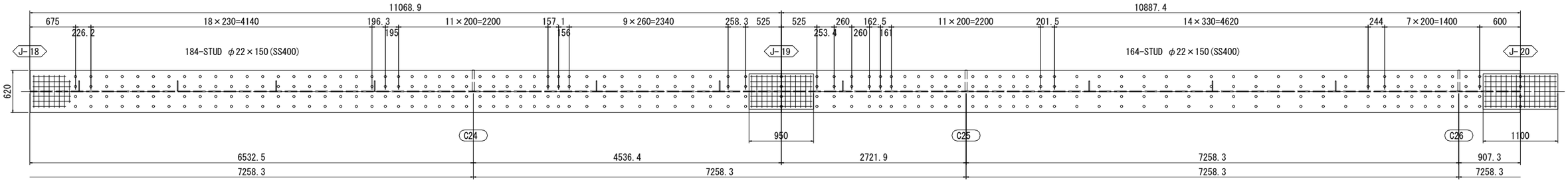
（参考図）

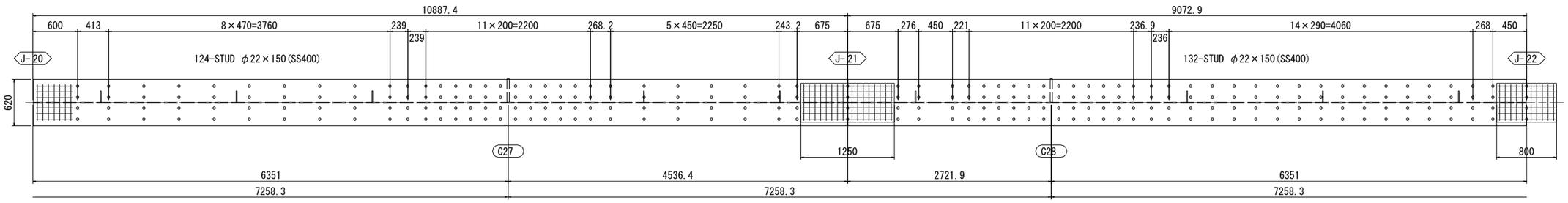
工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(8)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の13
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

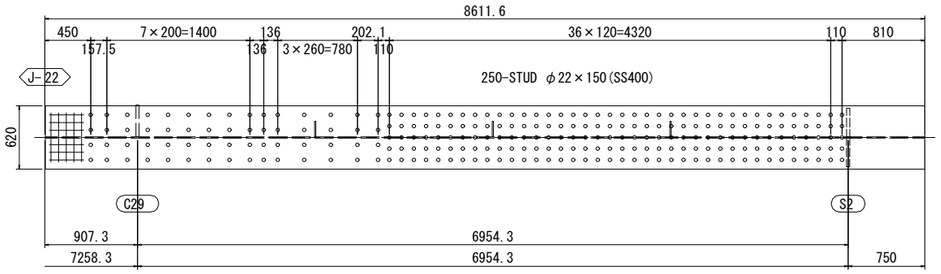
東田中高架橋スタッド配置図(9)[参考図]　S=1:30

G3(3/3)



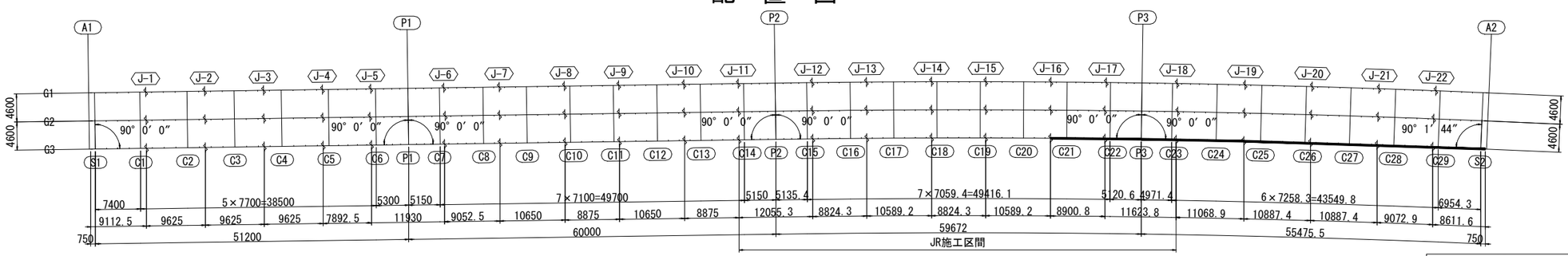






この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

配　置　図



本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

注記
1. 特記なき詳細は、「共通詳細図」参照のこと。
2. 合成床版との取り合いを考慮して適宜調整のこと。

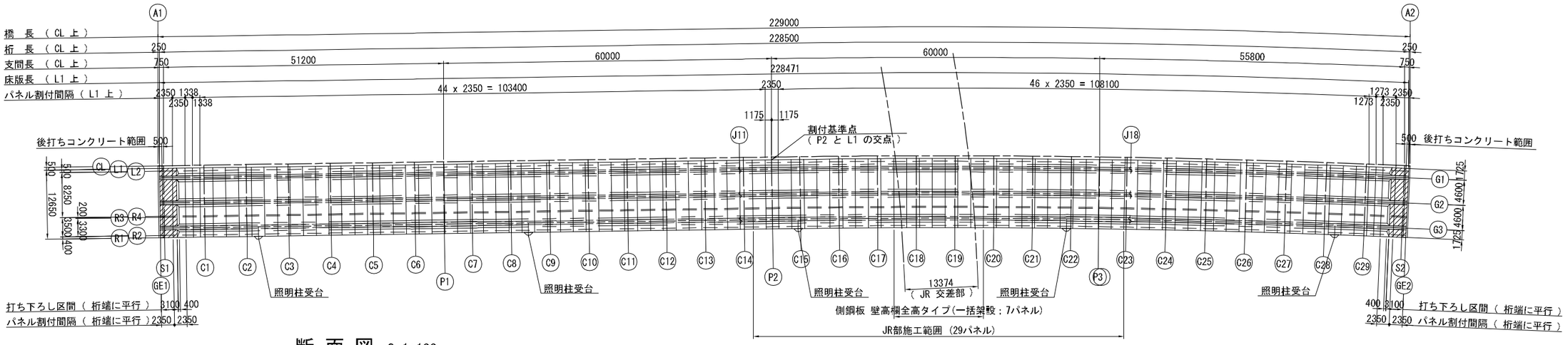
（参考図）

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋スタッド配置図(9)[参考図]		
縮尺	S=1:30	図面番号	参の14
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

東田中高架橋 合成床版割付図[参考図]

S=1:400

平 面 図

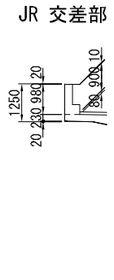


断 面 図 S=1:100

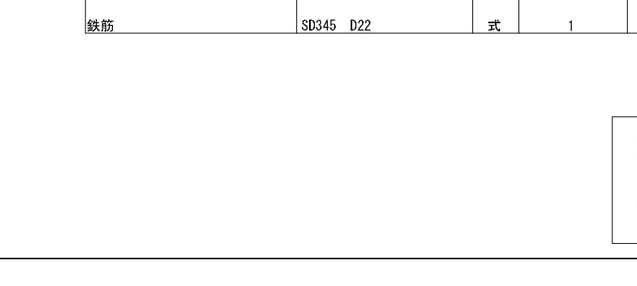
桁 端 部



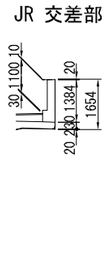
JR 交差部



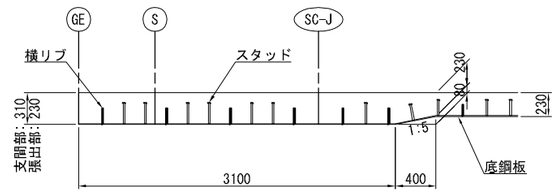
一 般 部



JR 交差部



桁端部打ち下ろし部側面図 S=1:30



非鋼材数量総括表

種 別				単 位	JR部 1パネル架設	JR部 一括架設	国交省部	数 量	備 考
床版部	1	橋面積		m2	652.1	207.4	2025.9	2885.6	
	2	コンクリート体積	床版部 （ 膨張材使用 ）	式		1	1	1	σck = 30 N/mm2
	3	パネル数		パネル	22	7	70	99	0.12t/m2(参考)
	4	シール材延長	主桁上シール材	m	309	98	961	1368	
			合成床版接合部シール材		247	79	776	1102	
壁高欄部	1	側鋼板延長	下記以外 L1 側 （ H = 0.270 m ）		52	-	160	212	床版厚タイプ
			下記以外 R1 側 （ H = 0.270 m ）		52	-	161	213	
			JR 交差部 L1 側 （ H = 1.250 m ）		-	16	-	16	壁高欄全高タイプ
			JR 交差部 R1 側 （ H = 1.654 m ）		-	16	-	16	
	2	シール材延長	合成床版と側鋼板取合部シール材		105	52	326	483	

注 ）
1. 基本パネル寸法は最大部材幅 2.350 m とする。
2. モニタリング孔は、縦断勾配及び横断勾配の低い方に 1 パネル当り 1 ヶ所設置する。
3. 主桁上フランジ付スタッドとの取り合いを考慮してパネル割付をする事。
4. 排水装置やその他橋面工との取り合いを考慮してパネル割付をする事。
5. 床版コンクリートの設計基準強度は σck = 30 N / mm2 とする。（ 膨張コンクリート ）
6. 斜線部は、打ち下ろし部を示す。
7. 側鋼板については、溶融亜鉛めっき仕様とする。
8. 桁端後打ちコンクリート部の伸縮用埋込み鉄筋は「伸縮装置群細図」を参照のこと。
9. 合成床版パネルの参考質量パネル質量は「橋梁架設工事の積算」より0.12t/m2とする。
   1)標準タイプ：3.57t/枚 （桁端部を除く一般部）
   2)側鋼板壁高欄天端タイプ：4.25t/枚（JR交差部）

合成床版(1)数量表

施工数量：A1～J11：1371.576m2 J18～J20：279.498m2 100m2当り

名称	規格	単位	数量 A1～J11	数量 J18～J20	摘要
合成床版	床版厚タイプ	m2	100.000	100.000	
主桁床版接合部シール材		m	47.431	47.421	
合成床版接合シール材		m	38.496	36.226	
接合部及び側鋼板接合シール材		m	16.084	16.064	

合成床版(2)数量表

施工数量：J20～A2：374.9m2 100m2当り

名称	規格	単位	数量 J20～A2	摘要
合成床版	床版厚タイプ	m2	100.000	
主桁床版接合部シール材		m	47.438	
合成床版接合シール材		m	36.01	
接合部及び側鋼板接合シール材		m	16.091	

コンクリート数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート	σck=30N/mm2	式	1	
養生		式	1	
養生マット		式	1	
コンクリート膨張剤		式	1	

鉄筋数量表

名称	規格	単位	数量	摘要
鉄筋	SD345 D22	式	1	

この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

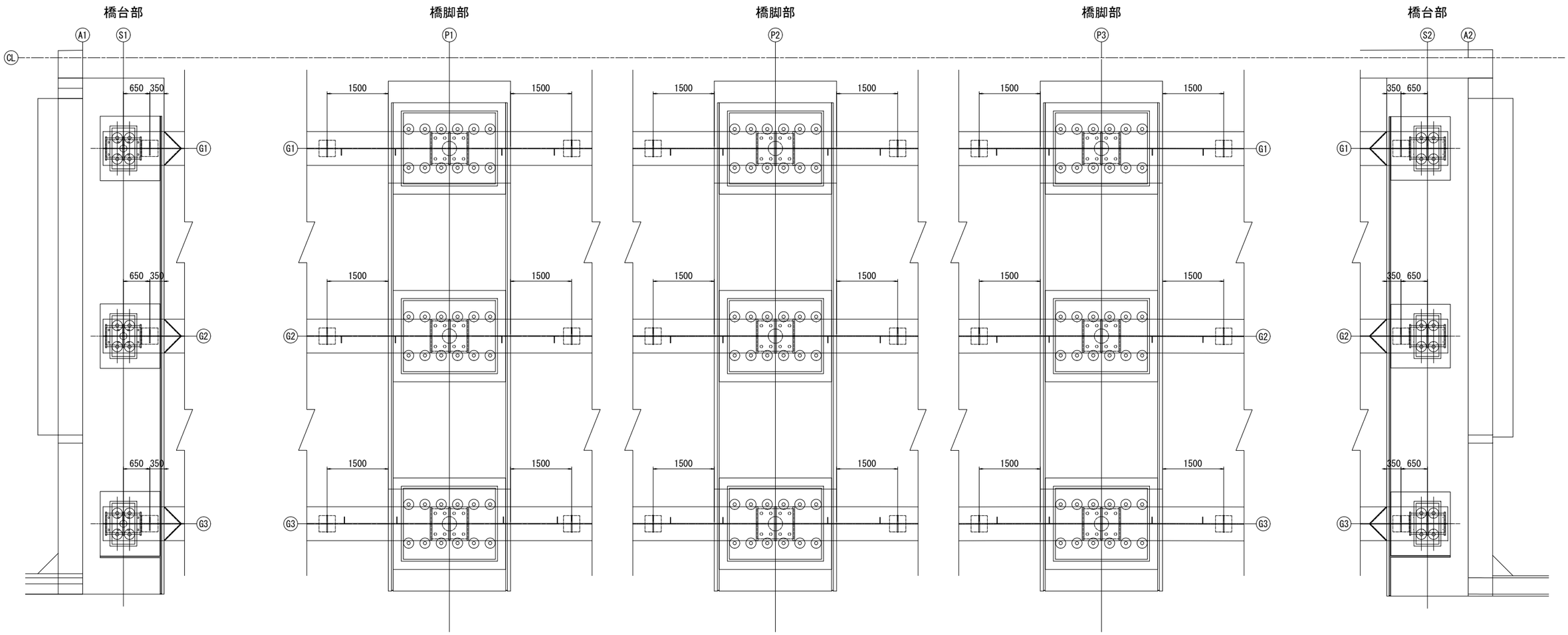
本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

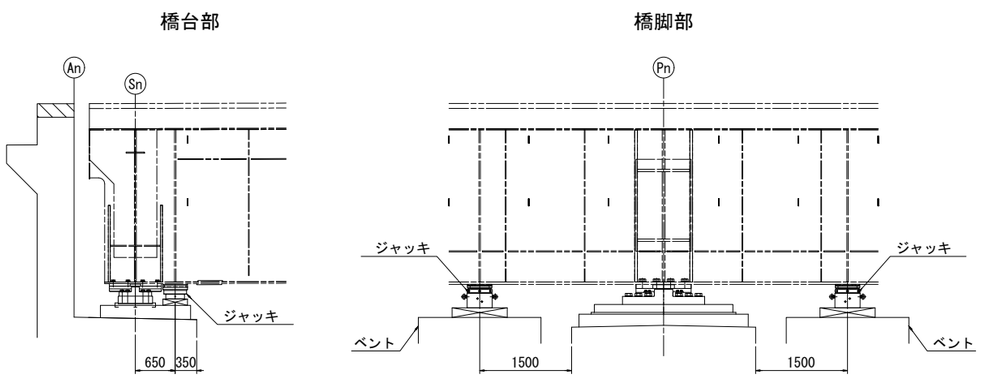
工 事 名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図 面 名	東田中高架橋 合成床版割付図[参考図]
縮 尺	図 示
図面番号	参 の 15
年 月 日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所

東田中高架橋ジャッキアップ計画図[参考図]

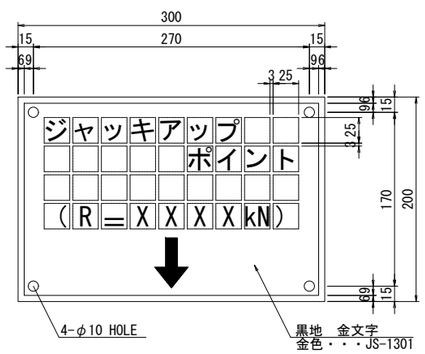
S=1:50

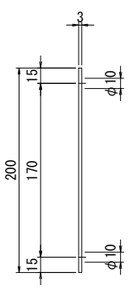


ジャッキ設置部概要図



ジャッキアップ指示プレート詳細図 S=1:3





(kN)

R	S1	P1	P2	P3	S2
G1	2400	3250	2950	3400	2600
G2	2400	3250	2950	3400	2600
G3	2400	3250	2950	3400	2600

※ 矢印の位置は任意とし、ジャッキアップ位置を示すこと。

・材質：JIS H 4000（A5052P）アルミニウム合金板
・色は、黒地金文字。縁6mmについても金色とする。
・表面は、透明の高耐候性フィルムにより被覆。

黒色　JS-1500
金色　JS-1301
透明　JS-1900

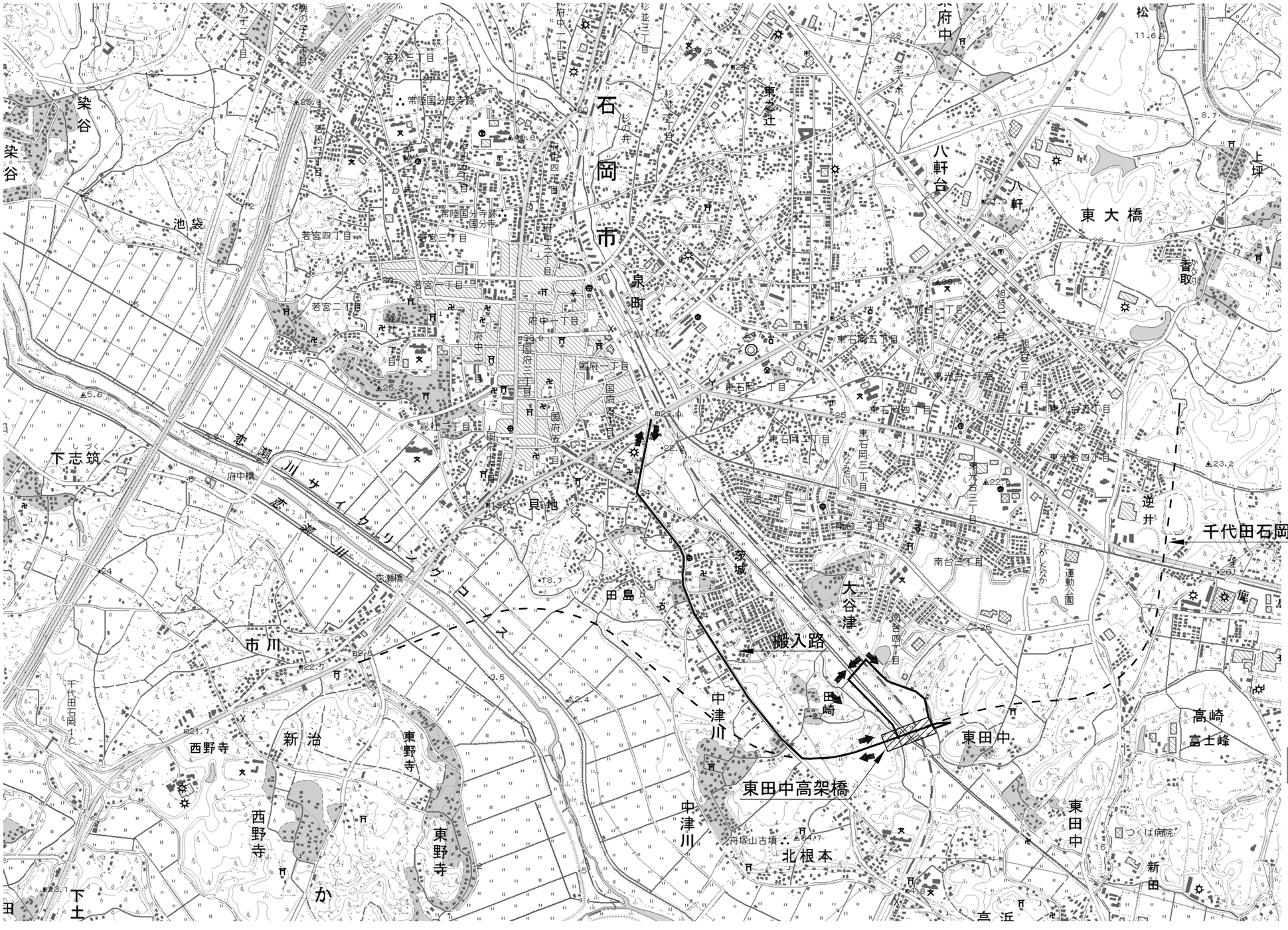
この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第１条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

本図面は縮小図のため
縮尺は表示と異なります

（参考図）

工事名	Ｒ７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事		
図面名	東田中高架橋ジャッキアップ計画図[参考図]		
縮尺	図示	図面番号	参の16
年月日	令和 7 年 8 月 日		
設計会社名	三井共同建設コンサルタント株式会社		
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所		

搬入路図[参考図]



この「参考図」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。
したがって、「参考図」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。なお、この「参考図」の有効期限は、この工事の入札日までとする。

（参考図）

工事名	R７国道６号千代田石岡ＢＰ 東田中高架橋上部工事
図面名	搬入路図[参考図]
縮尺	S=1:1000
図面番号	参 の 17
年月日	令和 7 年 8 月 日
設計会社名	
事務所名	国土交通省 常陸河川国道事務所